五十年誌



大阪バドミントン協会

大阪バドミントン協会旗



挨　拶

五十年誌
発刊によせて



大阪バドミントン協会
会長　三宅　祐司

私が前任の岸さんから会長を引き継いで、ちょうど５年を経過しました。
戦後まもない昭和22年に発足した大阪バドミントン協会が、大阪の地で初めて開催される「なみはや国体」の記念すべき年に、半世紀を経て五十年誌を発刊できますことは、この上もない喜びであり、諸先輩をはじめ関係各位に深甚なる敬意を表する次第です。

英国のポーフォート卿が普及に努め、1893年には英国バドミントン協会が設立されていたことを思いおこせば、日本の歴史は決して長いとは言えませんが、老若男女を問わず、生涯スポーツとして、コートに汗する選手の姿は、裾野の広いアマチュアスポーツとしての精神・友情・存在感を、高揚しているものと信じてやみません。

大阪は、４世紀から外国との交流が始まった国際的な都市であり、バドミントンの世界にあっても地球規模で飛躍できる名選手の育成が焦眉の急であろうと思います。
大阪の地には、栄えある伝統にはぐくまれた良き指導者、良き土壌が蓄積されており、西暦2000年のシドニーオリンピックに向けて、強化に努め、是非とも大阪から代表選手を送り出したいものだと念願いたしております。

現役選手の世代交代が続く中で、新しい歴史の一頁を飾るにふさわしい強い選手の育成には、素材（才能・技量・体力）だけでなく、恵まれた環境が非常に重要であり、大阪バドミントン協会といたしましても、今後は、開かれた協会、選手のための協会、愛好家のための協会、そして環境整備に特に力点を置いて運営したい所存であります。

来るべき２１世紀を視野に入れて、日本のバドミントンを更に普及・発展させる為には選手の指導・育成は勿論ではありますが、報道関係者の皆さんの倍旧のご支援ご協力をお願い申し上げる次第です。
かつて、1966、69、72年のユーバー杯で、３連勝するなど、日本の選手が活躍した時代に思いを馳せ「よみがえれ・日本のバドミントン」を合い言葉に関係各位の深いご理解と、温かいご声援を切にお願い申し上げます。
最後に、このたびの五十年誌発刊にあたりまして、編纂の労にあたられた皆様方に、心からなる謝意を表します。

祝　辞



刊行によせて

財団法人　日本バドミントン協会
会長　櫻内　義雄

大阪バドミントン協会が、この度創立５０周年を迎えられ、その記念事業の一環として記念誌を刊行されることになりましたことを心からお喜び申し上げます。

戦後、いちはやく競技の発展を見すえて協会を設立され、５０年の永きに亘り普及発展に努力され今日の立派な組織に盛り挙げられた会員の皆様と歴代役員各位に対しまして敬意を表する次第であります。

ご承知のとおり、大阪からは世界選手権大会やユーバー杯メンバーはじめ全英選手権獲得など、たくさんの名選手を輩出されました。

しかし、我が国バドミントン界は、現在大いに停滞しております。今こそ、地域をあげて有能な選手の発掘と育成が強く望まれている時であり、貴協会の発展は、我が国バドミントン界の発展を促すものと期待するところであります。

５０周年を節目として、さらなる組織の充実に努められ、日本バドミントン界のリーダー的存在として、益々発展されますことを衷心より祈念してお祝いの言葉といたします。

祝　辞



五十年誌の発刊に寄せて

近畿バドミントン協会
会長　藤田　庸右

この度、大阪バドミントン協会におかれましては設立５０周年を迎えられ、まことにおめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

５０年の永きにわたり、大阪府のバドミントンの発展に尽くしてきていただいた先輩の方々、現在の役員の方々に対し、衷心より敬意を表したいと存じます。

戦後の焼け跡が残るころから出発され、日本の復興期、成長期と共に貴バドミントン協会は足跡を刻まれたわけですが、この半世紀の間には並々ならぬ、ご苦労があったことと思います。その間、常に地域社会と密着した活動を続けられ、バドミントンの愛好者と確固な組織を作ってこられたからこそ今日の日を迎えられたのだと思います。また常に近畿のバドミントン界のみならず日本バドミントン界のリーダーとして、オリンピックをはじめ多くの大会に選手を輩出され、後に続く者たちに夢を与え続けてこれらました。このような貴協会の活躍は日本のバドミントンの歴史に多大な影響を与え続けられ、優れた功績を残されてこられましたことは、同じバドミントンの愛好者として敬意を表します。

今、生涯スポーツの重要性がいわれています。その一環として今後さらに、誰もが楽しめるバドミントンとして大きな期待がかかってくると考えます。なにとぞ、これからもこの５０年の経験を生かし、バドミントンに対する「熱き期待」にこたえるためにも、貴バドミントン協会のますますの発展をお祈り申し上げるとともに、関係者の方々にご活躍のほど期待いたしております。

簡単ではありますが、近畿のバドミントン協会を代表いたしまして、大阪バドミントン協会五十年誌発刊のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝　辞



五十年誌の発刊に寄せて

財団法人大阪体育協会
会長　大西　正文

このたび「大阪バドミントン協会五十年誌」が発刊のはこびとなり、大阪バドミントン協会の輝かしい５０年の歴史と諸先輩の偉業を綴る貴重な記録として、後世に残されることは誠に有意義なことであり、心からお喜び申し上げます。

顧みますと、戦後の荒廃の続くなかで、我が大阪体育協会の前身である大阪体育連盟の呼びかけに応じて、昭和２２年にいちはやく協会を設立されました。

以来、今日までの半世紀にわたり、バドミントン競技の普及・発展に努力され、第５回国民体育大会（昭和２５年）に正式競技となってからは、毎回多くの選手団を派遣し、常に優秀な成績をあげてこられました。

奈良国体（昭和５９年）に念願の総合優勝を遂げると、続けて４回の総合優勝を果たされ、また、国際競技会にも多くの選手を輩出されるなど、今や大阪体育協会でも有数の伝統ある団体として発展をみるに至っております。これも、今日の礎を築いてこられました歴代の会長様をはじめ、関係各位のスポーツに寄せる深いご理解と情熱の賜物と深く敬意を表する次第であります。

一口に５０年と申しましても、その間幾度かの変遷もあり、それらを乗り越え「なみはや国体」開催の記念の年に、今日に至るまでの府下のバドミントン競技の足跡が本誌に集録され、次代を担う若人に引き継がれることは誠に意義深いものがあり、日本のバドミントン界にとってもかけがえのない財産になるものと確信しております。

貴会におかれましては、本誌の発刊を機に、府民スポーツの振興とバドミントンの競技力向上を目指し、来たる２１世紀に向け、さらなる飛躍・発展を遂げられるよう祈念申し上げ、発刊に寄せるお祝のことばといたします。

祝　辞



大阪府教育委員会
教育長　服部　正敏

大阪バドミントン協会創立五十年誌の発刊を祝し、心からお喜び申し上げます。

貴協会は、大阪府内のバドミントン振興の中枢機関として、昭和２２年に創立されて以来、組織整備と競技力の向上に取り組まれ、国民体育大会では常に上位の成績を収められる一方、国際大会で活躍する優秀な選手を多数輩出されるなど、大阪はもとより、わが国のバドミントン界において屈指の団体として、大きな功績を挙げてこられました。

これもひとえに、歴代会長をはじめ、関係役員の皆様方の並々ならぬ御尽力の賜物であり、心から敬意と謝意を表する次第でございます。

さて、近年、スポーツの果たす役割や重要性が広く認識されつつあり、誰もが生涯を通じて、気軽にスポーツに親しみ、楽しむことによって健康でゆとりや潤いを実感することができる豊かな社会を築くことが、極めて重要な課題となっております。

こういう状況の中で、バドミントン競技は、幅広く年令や体力・技術に応じて楽しむことのできる競技として、小学生から家庭婦人をはじめ、多くの方々に親しまれております。

折しも、本年は「なみはや国体」・「ふれ愛ぴっく大阪」が本府において開催され、府民のスポーツに対する関心が一段と高まっておりますが、貴協会におかれましては、本府が目指す「生涯スポーツ社会」づくりの一翼を担っていただけるものと期待いたしております。

どうか、皆様方には、半世紀にわたる貴協会の歴史を礎とし、２１世紀に向けた新たな歩みを踏み出され、今後とも府民スポーツの普及振興に変わらぬ御支援をいただきますようお願いいたします。

貴協会のますますの御発展と関係の皆様方の御活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いのことばとさせていただきます。

祝　辞



大阪市教育委員会
教育委員長　小島　孝治

大阪バドミントン協会が創立５０周年を迎えられましたことを心からお喜び申しあげます。

大阪市と中国・上海市とのバドミントン交流会も今年で第１１回を開催することができました。これも協会役員の皆様方のたゆまぬ御熱意と御努力があればこそと、深く敬意を表する次第であります。

さて大阪市では、「スポーツパラダイス・大阪」の実現を目指し、長居陸上競技場をはじめ大阪ドーム、中央体育館等の国際レベルの施設を次々に完成させてまいりました。

また、アジア卓球選手権大会、東アジア選手権大会、ワールドカップサッカー等各種の国際競技大会の招致・開催に積極的に努めております。

さらには、「スポーツの感動、人間の賛歌、平和の喜びを分かち合う地球市民のオリンピック」を基本理念に、２００８年オリンピックを大阪に招致するため、多方面にわたる皆様のご支援のもと全力をあげて取り組んでまいりました。

先般、皆様のご支援のもと、おかげをもちまして国内候補都市に正式に選ばれました。今後、我が国を代表する開催候補都市として、世界に向けて、一層積極的に招致活動を展開してまいりますので、皆様方にも引き続きご支援を賜りますようお願い申しあげます。

創立５０周年を機に、大阪バドミントン協会が今後ますます発展されますよう、皆様方の御健勝、御多幸をお祈り申しあげましてお祝いのことばといたします。

祝　辞



上海市体育運動委員会

主任　金　永　昌

值此大阪羽毛球协会成立50周年之际，我谨代表上海市体育运动委员会致以热烈的祝贺！

上海与大阪是友好城市。上海与大阪的各项体育交往十分广泛与频繁。我记得作为上海市羽毛球队正式与大阪的羽毛球队的交流，是1979年由我带队的上海市羽毛球运动员（有世界冠军张爱玲、刘霞等人）随同上海市友好代表团访问大阪时开始进行的。以后就有了大阪羽毛球协会与上海市体育运动委员会和上海市羽毛球协会的正式交流。一年一度两个城市的羽毛球队的互访交流坚持进行了十多年。

十多年的互访交流，不但促进了上海大阪两个城市羽毛球水平的提高和发展，而且增进了中日两国人民以及大阪上海体育界之间的了解和友谊。我回忆这段历史，是为了让后人牢牢记住：为了建造这座大阪和上海羽毛球发展和友谊象征的大厦，成百上千的干部、教练员和运动员都为之付出汗水和心血。因此，我们要爱护它、珍惜它。

借此机会，我也要感谢大阪府、大阪市政府和人民的支持。感谢在这十几年的友好交往中，一直不遗余力给予关心、支持，使这条羽毛球友好的通道得以畅通的大阪羽毛球协会历任会长岸久雄先生、三宅佑司先生的贡献。

让后人铭记这段历史，在21世纪去继续开拓和前进吧！

祝愿大阪羽毛球协会不断发展！

上海市体育运动委员会

主任　金永昌

一九九七年五月二十日

金永昌

大阪バドミントン協会が設立五十周年を迎えるに当たり、私は上海市体育運動委員会の代表として心からお祝いの言葉を申し上げます。

上海と大阪は友好都市であり、上海と大阪の各種のスポーツ交流は非常に広範囲かつ頻繁に行われています。私は上海市のバドミントン・チームが正式に大阪のバドミントン・チームとの交流を行うようになったときのことを覚えております。それは、一九七九年に私が率いる上海市バドミントン・チーム（世界チャンピオンの張愛玲、劉霞を含むメンバー）が上海市友好代表団に随行し大阪を訪問したときに交流が始まりました。以後、大阪バドミントン協会と上海市体育運動委員会／上海市バドミントン協会の正式交流が続いており、年に一度の両都市のバドミントン・チームによる交流試合を行ない続けて十数年になります。

十数年の交流試合は、上海・大阪両都市のバドミントンのレベル向上と発展に寄与しただけでなく日中両国の人民と大阪・上海のスポーツ界の理解と友好を深めることにもなりました。私が回顧したこの歴史は、後世の人々の記憶にしっかりと残すために…まさに大阪と上海のバドミントンの発展と友好を象徴する摩天楼を築くために、多くの幹部、指導者、選手らが汗と心血を注いできたものです。私達はそれを敬愛し、尊重しなければなりません。

この機会をお借りし、私は大阪府、大阪市と市民の方々の支持に感謝致します。また十数年の友好交流において関心と支持の労を惜しまず、バドミントンと友好の道を大きく広げて下さった、大阪バドミントン協会の歴代会長である岸久雄先生と、三宅祐司先生の貢献に感謝の意を表します。

この歴史は後世に名を残し、二十一世紀に向け前進していくことでしょう。

大阪バドミントン協会の益々の発展をお祈りします。

上海市体育運動委員会
主任　金　永昌
一九九七年五月二十日

祝　辞



創立５０周年を迎えて

大阪バドミントン協会
副会長　青木　昭二

大阪バドミントン協会が創立されて、本年で満５０年になります。誠に目出度いことであり本協会に関係された方々に感謝しつつ喜びたいと思います。

大阪協会は日本バドミントン協会に加盟している、都道府県協会の中でも五指に入るほど古い協会と思います。昨年６月東京にて日本協会が創立５０周年記念式典を開催致しました。その席上来年は自分のところが、いや再来年が…という声を至る所で聞いたものでした。今や日本のバドミントンも半世紀の歴史を持つことになった訳です。

早いもので、それから１年が経ちました。いよいよ本会も記念行事を持つ年になった訳です。私は連日にわたって、古い資料と格闘しながら記念誌の原稿を作っていますので、そのことに触れながらご挨拶とさせて頂きます。

私が大阪協会の理事になったのは、協会の規約がやっと出来た昭和２５年４月でした。

その頃の協会は、大阪ＹＭＣＡの活動がそのまま協会といってよい状態でした。練習しながら技術の研究、シャワーを浴びてから部屋（更衣室と言った方が適当！）で原書をみながらルールの研究をしたものでした、そのリーダーは語学に堪能な川崎策實さんでした。

そのような時代であったから全国大会は当然ながら、交流大会でもルールについて原書の訳し方で度々東京・横浜を中心とする関東勢ともめた事を思い出します。その時においても、関東・関西のその道の先達は『このルールの精神は…』と言う点で合意し、日本のバドミントンを育てて来たような気がします。その言葉はそのまま『選手は須くフェアプレイであるべし』になると思います。

私はこのような素晴らしいバドミントンに半世紀近くも、関係できたことを幸せに思いながら記念誌の原稿作りに励んでおりました。

我が大阪協会は、かってはクルマの両輪の一方となりながら日本のバドミントンに関係してきたわけです。この輝かしい歴史も、最近は女子選手の活躍だけに見られる程度で少々寂しく感じます。

本年からは、本会から久しぶりに近畿協会の推薦で日本協会へ理事を送ることが出来ました。この機会に運営面にも日本協会に協力できたら、これに優る慶びはないと思っております。

祝　辞



「より一層
格の高い協会を目指して」

大阪バドミントン協会
副会長　野村　明雄

大阪バドミントン協会設立５０周年を関係各位とともに心から喜びあいたいと存じます。当協会が設立されたのは、戦後の焼け跡が未だ残る占領下の時代でありました。当時の我が国におけるバドミントンに対する認識は、「進駐軍の羽根つき」といわれる程度の位置付けでしかなかったと言われております。またシャトルコックなど用具や競技会場の確保も困難で、バドミントン普及への道のりは決して平坦ではありませんでした。しかしながら、諸先輩方のバドミントン振興への熱意は半世紀にわたって脈々と受け継がれ、幾多の経験を経て今日の隆盛を見るに至ったのであります。あくまでもボランタリーな活動を通じて、バドミントンの競技スポーツとしての地位を高めることに貢献され、今日までの当協会の発展を支えてこられた歴代会長、理事長をはじめ関係者の方々のご尽力に対して改めて敬意を表します。

５０周年という節目は私達にとりまして、こうした諸先輩のご功績を振り返るとともに、それらを礎に如何にして将来の飛躍に結びつけてゆくかを考える、まさに「故きを温ねて新しきを知る」ことのできる機会であります。折しも、大阪市が２００８年オリンピックの国内候補地に決定いたしました。最終的に開催地として選定されるためには厳しい世界競争に勝ち抜かなければなりませんが、関西は今後大阪オリンピックの実現に向けて、都市の実力と魅力の向上、いわゆる「都市格」を高めていくことによって、オリンピック開催にふさわしい街づくりを進めていくことが求められてまいります。大阪バドミントン協会も、このオリンピックの大阪開催を視野に入れ、「団体としての格」をより高めて、国内はもとより広く国際社会に通用する協会を目指していかなければならないと考えます。

かつて当協会の会長を務められた瑠東治氏は、常々「大阪協会の力量を高める」という言葉を話しておられました。大阪バドミントン協会が、日本バドミントン協会の要としての役割を果たすために、例えば国内・国外のオフィシャルな競技を進んで誘致し成功裡に開催しうるように、協会として組織の総力を結集しようという励ましでありました。またそのために、大阪バドミントン協会を構成する各バドミントン連盟が、協会に何かをしてくれることを期待するのではなく、協会のために何ができるのかを考えて活動していくことが重要であると訴えておられました。協会と連盟の緊密な協調・協同関係の確立というこの考え方こそ、まさに私達が目指す「団体としての格」の向上と、国際的にも通用する大阪バドミントン協会の実現のために、今、改めて求められているのではないでしょうか。

５０周年を契機に、私達は今一度瑠東元会長の教えを心に刻みつつ、当協会のより一層の発展のために、組織としての力量の向上に全力を傾注していこうではありませんか。

祝　辞



大阪協会創立５０周年を迎え

大阪バドミントン協会
副会長　尾﨑　弘

大阪バドミントン協会創立５０周年を迎え協会副会長の末席を穢がす者として大変嬉しく、且つご同慶の至りに存じます。

一口に５０年と言えば簡単でありますが、振り返りますと、当時は未だ終戦間もない頃でありまして、大阪は米軍の空襲により見渡す限りの焼け野原で、ＪＲの大阪駅構内や周辺の地下街には住む家はもちろん、着のみ着のままで焼け出され、加えて物凄いインフレに見舞われ食べるものもないまま行き倒れや餓死した人がアチコチに見られた頃でありますし、私自身軍隊から復員し職場復帰して間のない頃でありますから、そんな時に早くもバドミントンが普及し協会が発足して居たのかと感心しました。

私がバドミントンに関与させて頂いたのはそれから１０年経った昭和３２年５月に大阪実業団バドミントン連盟が誕生してからでありますので、とても大きな顔でものを言えません。然も大阪実業団連盟が結成され副会長に就かせて頂きましたが、シャトルもラケットも持ったことのない副会長ですから恥ずかしい限りであります。

省ますとその頃熊本で何かのバドミントン全国大会が開催され大阪の選手が出場するので顔を出すようにと言われ参加しましたが、、当時熊本で列車の特急発売枚数が確か一日僅か４０枚で、それを入手する為に関係者が大変苦労をされたことを思い出します。

そのバドミントンが今日目覚ましい充実発展を遂げ、然も大阪協会傘下に日本を代表するような優れた選手を多数擁して居りますことは喜ばしいことであります。

さて大阪協会にとりましてこの５０年は決して平坦なものとは思いませんし、多くの方々のご苦労の積み重ねの歴史であることはもちろんでありますが、この栄えある歴史を単に次に引き継ぐばかりでなく、更に発揚する節目とすることが肝要と思います。そしてバドミントンをより多くの人の興味と関心を呼び起こし、一人でも多くの愛好家を確保するようなことが出来ればと思うのでありまして、その為には何をどのように推進するかを検討し、取り組みたいと思いますが幸い今年は大阪で「なみはや国体」が開催される年でありますので、この大会で傘下の選手が十分に実力を発揮し立派な成績を収めるように努めることもその一つかと思って居ります。

本協会が５０周年を迎えたことに無上の喜びを憶えますと共に、一層の発展を期すべく、微力を尽したいと思いますので何かとよろしくお願い致します。

祝　辞



「知　命」

大阪バドミントン協会
副会長　宝来　敏夫

大阪バドミントン協会が設立５０周年を迎えることとなりました。

この間に、ずいぶん多くの方々からご指導やご支援をいただきました。協会の運営に携わるものの一人として、たいへんうれしく思いますとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。私自身も、協会のお手伝いをさせていただいて４０年になります。多くの先輩に恵まれ、たくさんの方々と一緒にバドミントンに関する仕事ができ、近畿地区をはじめ、全国各地の方々から、いろいろとお教えをいただいてきたことを思い出します。

この５０年の間に、大阪協会もずいぶん変わりました。

その原因のひとつには、人々のスポーツに対する考え方の変化があります。スポーツが勝つことだけでなく、楽しむものになってきました。また、一部の人々だけのものから、今や小学生から高齢者までを視野に入れる時代へと変わっています。

同時に、アマチュアイズムについての考え方の変遷もあります。プレイする人同士がお互いに仕事をして運営してきた協会から、集合体として仕事を分担しながら運営してきた協会へ、そして今では、企業としての協会（もちろんバドミントンのレベルアップを求めての）のあり方が探られる時代へと変わってきているようです。

人は、５０才のことを「知命」とよびます。論語の「五十にして天命を知る」によるのですが、大阪バドミントン協会もそうした時代を迎えたといってもよいのではないでしょうか。

５０年の間に、ずいぶんいろいろな「財産」を貯えてきました。有形のものもありますし、無形のものもたくさんあります。現在までに多くの人々が努力を重ねてきた結晶であります。この「財産」をよく知って欲しいと考えると同時に、過去の財産だけにとらわれることなく、今、協会が必要とすることをよく見極めて、「これからの財産」をぜひ、作っていって欲しいと願うのです。

ここ数年、「なみはや国体」にむかってバドミントンの強さを求める努力に素晴らしい成果をおさめてきたといってもいいようです。この成果を大切にしながら、２００８年のオリンピックのために、もう一度バドミントンのシェアーを広げていく努力も大切にしたいと思います。

５０周年を機会に、さらに多くの方々からのご指導、ご鞭撻がいただけますようお願いもうしあげます。

祝　辞



祝　詞

顧問　岸　　久雄

「五十年」と一言であっても、時は長く、また短いとも言える。将に時節流るるが如しである。有為転変の間に協会運営に努力して来られた方々は初代の石渡俊一会長をはじめ多数に及んでいる。今日在る協会の維持安定はその人達の誠意と奉仕の賜であり、更にはプレーに熱中し共に汗を流して来られた協会会員の皆様の存続とその総力の結実である。五十周年を皆様と心より喜びお祝いしたい。誠にご同慶の至である。

私が知る近年の大阪協会は波瀾万丈と言うべき時代で、傘下には実業団、家庭婦人をはじめ学校の各連盟は全国でも夫々に知名のチームが在籍している。その中で特筆すべきは世界でも冠たる旧姓植野恵美子、徳田敦子、高田幹子であり東海林文子、北田スミ子をはじめ優秀な選手が多数に輩出したのは大阪の誇りであった。今も尚その流れは続いている。そしてこれ等の選手達を育成された指導者の方達が苦節五十年の辛苦を努めて来られた功績も歴然としている。

次の十年、二十年、更には五十年に亙つてこの輝かしい歴史を続ける努力を協会の皆様が挙つてご努力賜わることを切に願うと共に、年少から高令までの多くのバドミントンの愛好者各連盟の会員プレーヤーのご活躍を期待し、更なる協会の充実隆盛を祈り、心よりこの五十年の節に祝詞を申し上げる次第です。

祝　辞



顧問　嶋　　久雄

この度は、大阪バドミントン協会が、創立５０周年を迎えられ、ここに記念誌を発刊されますことは、誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

貴協会の歴史は、そのまま日本のバドミントン界で、質量ともに着実な発展を遂げて来たと言えるでしょう。その一歩一歩の足跡を振り返ってみますと、必ずしも順調であったと申せません。協会の新旧役員はもとより、関係者一同の情熱と、温かいご協力、ご理解により、輝かしい今日の姿にまで、成長してまいった訳であります。

協会史編纂の意図は過去を懐かしむためでも無く、私たち一同の貴重な足跡の記録であり、心を新たにして今一度その軌跡を振り返り、輝かしい明日を築くための、礎石たらんとするものであります。歴史は過去のものではなく、常に未来に生かされてこそ輝きを放つものでありましょう。

最後に、協会史編纂は文字通り困難であったと信じます。協会には、無形文化財的石渡俊一氏、生き字引の青木昭二氏、その他、枚挙にいとまがない程、多くの新旧役員を初めとする関係者一同の、温かいご支援ご努力を得て、貴重な協会誌の完成をみるに至りました。誠に喜ばしく、編集委員諸氏の並々ならぬご尽力に対しても深甚なる敬意を表し、大阪バドミントン協会が、ますます発展されますようお祈り申し上げまして、祝辞とさせて頂きます。

祝　辞



５０周年に寄せて

顧問　出口　健次

大阪バドミントン協会創立５０周年に当たり、心からお祝い申し上げます。創立以来、協会の充実・発展に尽くてこられました歴代の会長・理事長をはじめ役員の方々、各連盟の皆様に改めてお礼申し上げます。

平成９年は、わが国最大スポーツイベント、国民体育大会「なみはや国体」「ふれ愛ぴっく大阪」が開催、さらに、２００８年のオリンピックの国内候補都市として「大阪市」に決定、また、冬期オリンピックが長野県を中心に開催、このような記念すべき時に記念式典と記念誌の編纂を計画されましたことは、誠に意義深いものがあります。

大阪バドミントン協会がこの５０年間に、大阪府下のバドミントンの中枢機関となり、これを総括してバドミントンの健全な普及振興を図り、併せて、府民の健康増進および体位向上とスポーツ精神の高揚を図るとともに相互の親睦に寄与されたことは言うまでもありません。

私の所属する大阪中学校体育連盟バドミントン部は昭和３０年に誕生し、その後、教育委員会・協会関係者の皆様のご指導のもと現在の連盟にいたっています。この機会に中学教育における「部活動」の果たす役割と課題について述べてみたい。

中学校における「部活動」は教育活動の一貫として、学級や学年を離れ、生徒達が自発的・自主的に活動を組織し行なうものです。そして、その活動が生徒の身体と心の発展や仲間づくり、教科を離れた教師との触れ合いの場として、生徒達の健全育成に大きな役割を果しています。「いじめ」「登校拒否」の問題が学校の緊急な課題になっている今日、ひとりひとりの生徒が、自己実現を目指し、楽しく、豊かで充実した学校生活を送るために必要なことは、まず、生徒相互や生徒と教師の間にすばらしい信頼関係、人間理解があることでしょう。「部活動」の果たす役割はここにあると考えます。

大阪バドミントン協会の一組織としての、大阪中学校体育連盟バドミントン部の果たす役割は、その母体である「部活動」によって教育が正常化され、２１世紀をはばたく青少年が希望に胸をふくらませて大きく躍進されることでしょう。

しかし、「部活動」にも課題がみられます。その一つは急速な生徒数の減少である。それにともなって若い指導者の不足と高齢化の悩みである。また、各学校では少ない生徒で既存のクラブ活動がやっていけない状況にもなっている。郊外でのスポーツや教育活動と学校教育のあり方は、これからの学校週５日制とも関連して直面している課題である。

終わりに、大阪バドミントン協会の益々の躍進と発展を心からお祈りいたしましてお祝いのことばといたします。

祝　辞



参与　島津　八郎

５０年の長い間、大阪バドミントン協会の組織維持、発展強化の為にご努力くださった歴代の会長、理事長、そして多くの理事の方々に畏敬の思いをこめてお礼申し上げます。私が五大都市大会、デンマーク、中国の選手を迎えての大会で、少しばかりお手伝いをしながら見た役員の方々のご苦労は大変なものでしたが、その後もいくつもの大きな大会を運営し、選手の育成にも力を注いだ協会の姿勢が、現在のような小学生から熟年までのバドミントン愛好者の大きな団体に成長させたのだと思います。

長い間、教職員連盟の下で行なわれていた小学生バドミントン大会も、協会主催の大会として運営され、大阪府小学生バドミントン連盟も発足、協会の傘下にあることは、今後の子供達の、また、指導者の大きな励みにもなると思います。私も府下の一隅で小学生の指導を時折しながら、この子たちが私のような年令までラケットを持ち続けてくれればと願いをこめています。

選手の育成といえば、昔（私がバドミントンを始めた頃、昭和２９年代）川口　清様とダブルスゲームで対戦し、試合後に聞いた批評の言葉は私の人生の指針になったと思っています。「島津さん、－〔さんづけで呼ばれたのもうれしかった〕－タブルスのゲームは一人でするものではないパートナーを生かす、パートナーが十分に動けるようにすれば自ら力を発揮できる。」というような意味の話をされました。社会生活、教員生活をしている中でパートナーを生かす、動いてもらうことの重要性をつくづくと感じ、生きていくことはダブルスゲームのようなものと思うようになり、バドミントンが、試合後の批評が私を育ててくれたと思っています。そして、私と同じような思いでバドミントンと関わっている人がおおぜいおられると思います。

このように、若い選手に対する指導がゲーム内容の指導だけではないものを教える姿勢は創立以来の大阪協会役員の方々が持ち続けられたバドミントンに対する姿勢であったようにも思います。バドミントンを愛するたくさんの人が集まり、しっかりした組織が５０年も発展し続けたのは、プレーヤーを人として育て、人の輪の拡大、強化に努力された結果であり、バドミントンを通して人格の形成にも尽くされたといえるのではないかと思います。連綿と引き継がれてきたプレーヤーを育てること、人を育てることが今後も引きつがれて、大阪バドミントン協会が益々発展していくことを願っています。

挨　拶

５０周年を迎えて



大阪バドミントン協会
理事長　四方　光市

昭和２２年に設立された大阪バドミントン協会は、今年５０周年を迎えるところとなり、記念誌の発刊はじめ、記念事業を盛大にとり行うことになりました。

この記念の節目の年に理事長に在職させて戴きますことは、この上ない光栄であり、感謝している次第です。

協会設立以来、多くの先輩各位の営々としたご努力の結果、歴史的にも、有能な選手の輩出や競技人口の増大など、いずれも現在では、国内有数のバドミントン王国となりました。

私は、石橋三彦理事長の退任された平成元年に、在職理事の中で一番の年長者ということでお鉢が廻ってきて以来、夢中で過ごしてまいりました。

その８年間を振り返るとき、岸久雄前会長、三宅祐司会長はじめ回りの多くの諸兄の支えによって沢山の感動を受けさせて頂きました。

毎年、主管する全国大会の開催や上海市との国際交流競技会などであり、特に今年大阪府下で開催されることになっている「なみはや国体」のリハーサル大会となった、第３９回全日本社会人バドミントン選手権大会は、国体の開催地の大東市実行委員会や関係各位の絶大なるご協力により、無事成功裡に大会を終えたときは、何故か感涙を禁じえませんでした。今年の本国体では、関係者の皆様と共に、一段と大きな感動を味わいたいと願っています。

また、平成６年に石渡俊一名誉会長が、日本バドミントン界に大きく貢献されたことにより、栄誉ある本田賞を受賞された。この表彰主文を作成させて頂いたことも大変な感激でした。

反面、着任以来、すべての大会の運営に心血をそそいでご協力を願った同僚の故御前龍雄氏との不慮の別れは、心から離れない悲しいできごとでした。

在任中に、組織の改革などの懸案事項の解決は成し得ておりませんが、５０年を節目として、残任期間は今一度奮闘いたす所存でありますので、関係各位の一層のご助力をお願い申し上げます。

目　次

協会旗

表紙題字　名誉会長　石渡俊一

五十年誌発刊によせて　大阪バドミントン協会会長　三宅祐司

祝　辞

(財)日本バドミントン協会会長　桜内義雄

近畿バドミントン協会会長　藤田庸右

(財)大阪体育協会会長　大西正文

大阪府教育委員会　教育長　服部正敏

大阪市教育委員会　委員長　小島孝治

上海市体育運動委員会　主任　金永昌

大阪バドミントン協会副会長　青木昭二

大阪バドミントン協会副会長　野村明雄

大阪バドミントン協会副会長　尾﨑弘

大阪バドミントン協会副会長　宝来敏夫

大阪バドミントン協会　顧問　岸久雄

大阪バドミントン協会　顧問　嶋久雄

大阪バドミントン協会　顧問　出口健次

大阪バドミントン協会　参与　島津八郎

挨　拶　大阪バドミントン協会理事長　四方光市

第1章　大阪バドミントン協会のあゆみ

写真に見る50年のあゆみ …… 25

歴代協会役員一覧　加盟会員一覧　賛助会員一覧 …… 53

大阪バドミントン協会の沿革 …… 61

歴代理事長による50年のあゆみ …… 67

試合結果による50年のあゆみ

☆大阪総合大会結果 …… 91

☆近畿総合大会結果 …… 97

☆国民体育大会結果 …… 107

☆国際試合結果 …… 125

☆過去の主管大会の開催について …… 135

第2章　協会を構成する8連盟のあゆみ

大阪府実業団バドミントン連盟 ……145
大阪教職員バドミントン連盟 ……171
大阪社会人バドミントン連盟 ……183
大阪府家庭婦人バドミントン連盟 ……201
大阪学生バドミントン連盟 ……233
大阪高等学校体育連盟バドミントン部 ……247
大阪中学校体育連盟バドミントン部 ……275
大阪府小学生バドミントン連盟 ……303

第3章　座談会

草　創　期 ……323
歴代理事長の思い出 ……329
協会の現状と将来の展望 ……334

第4章　バドミントンと私

バドミントンと私 ……343

第5章　新聞の切り抜き集

新聞切り抜き集に見る50年のあゆみ ……391

第6章　規　　約

規約・業務分担表・大会運営要領 ……417

第7章　資　　料

昭和25年制定規約 ……431
昭和35年会計報告 ……432
全日本総合バドミントン選手権大会結果 ……433
全日本社会人バドミントン選手権大会結果 ……434
バドミントン日本リーグ大会成績 ……435
全日本実業団バドミントン選手権大会結果 ……436
競技規則書解説 ……442

第8章　記念式典

記念式典・表彰者一覧 ……455

組　織　図
あ　と　が　き

［第１章］

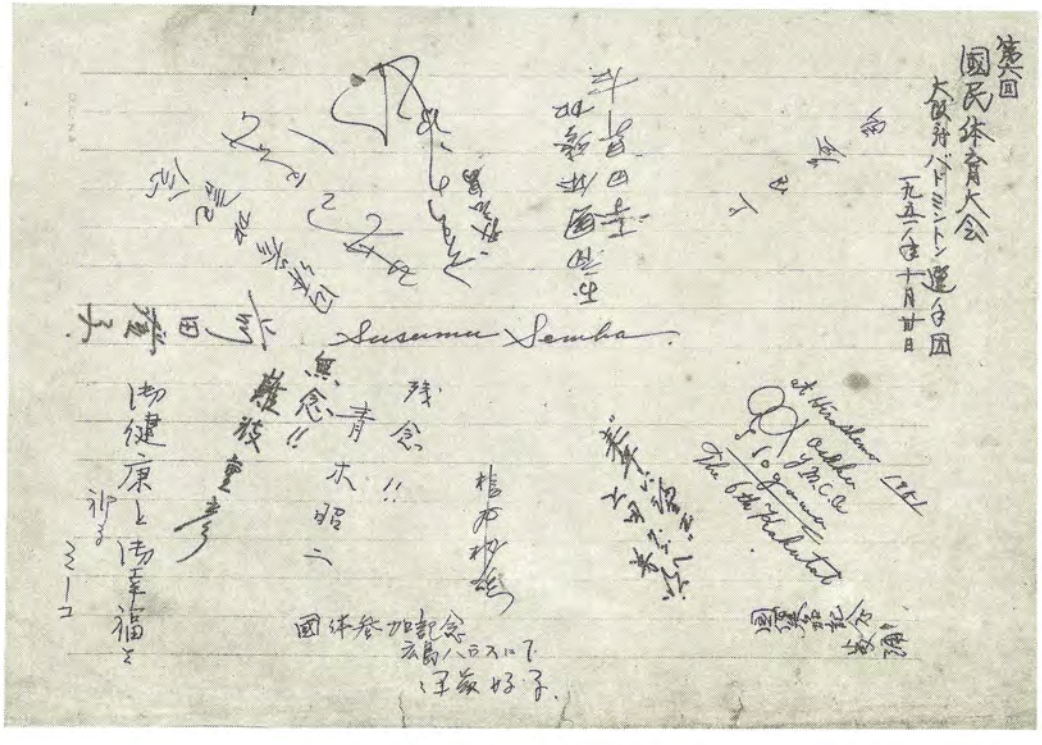
大阪バドミントン協会のあゆみ

写真に見る５０年のあゆみ

一九五〇年（昭和二十五）十月　国民体育大会（愛知）
バドミントン正式種目となる



一九五一年（昭和二十六）十月　国民体育大会（広島）





1952年（昭和27）10月　国民体育大会（宮城）

池田寛治（茨城）
松田良雄（茨城）
秋岡澄子監督（樟蔭東）
安東郁夫（茨城高）
伊藤好子（樟蔭東）
石突（生野）
松本（樟蔭東）
番浦（樟蔭東）
三牧（樟蔭東）
青木昭二（監督）

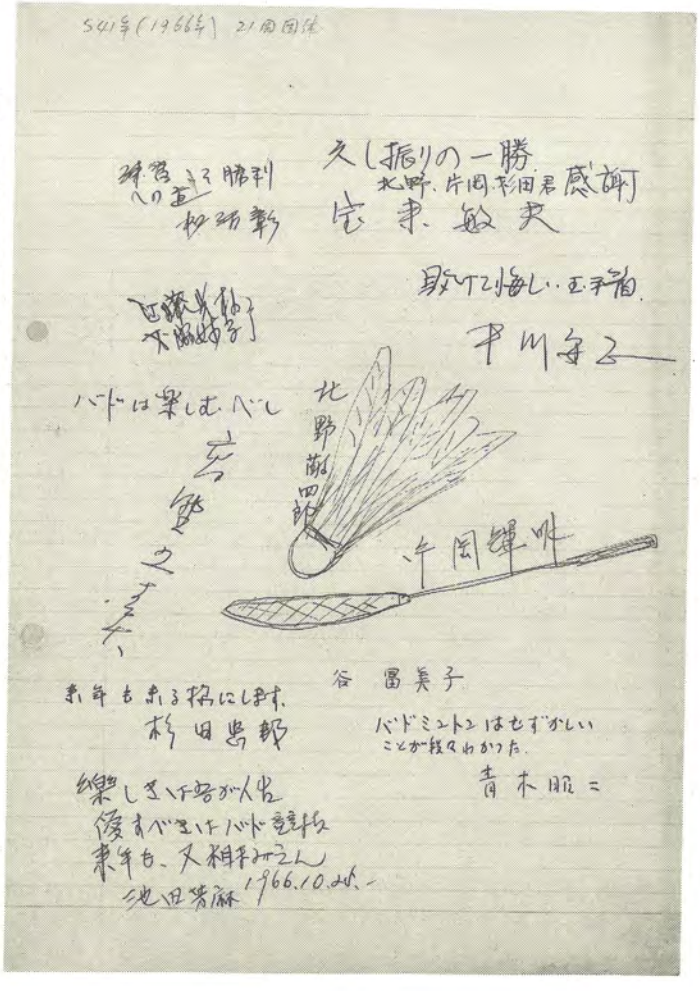


1953年（昭和28）10月　国民体育大会（香川）

三牧（樟蔭東）
番浦（樟蔭東）
松本（樟蔭東）
辻（樟蔭東）
秋岡（樟蔭東）



一九六二年（昭和三十七）十月　国民体育大会（岡山）

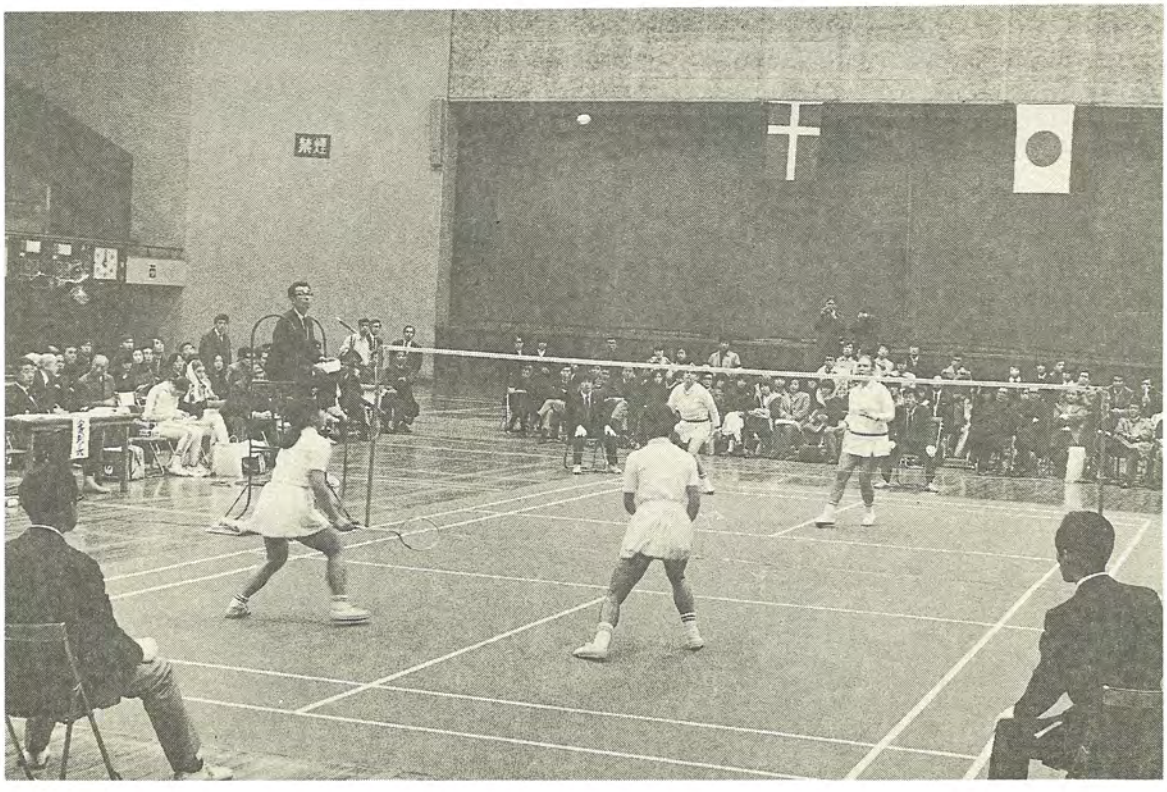


一九六六年（昭和四十一）十月　国民体育大会（大分）

1972年(昭和47)1月
第1回国際女子バドミントン競技大会
(日本対デンマーク)



S.47.1.28　第1回国際女子バドミントン競技大会（日本対デンマーク）大阪大会
於 大阪市中央体育館





一九七二年（昭和四十七）一月
第一回国際女子バドミントン大会



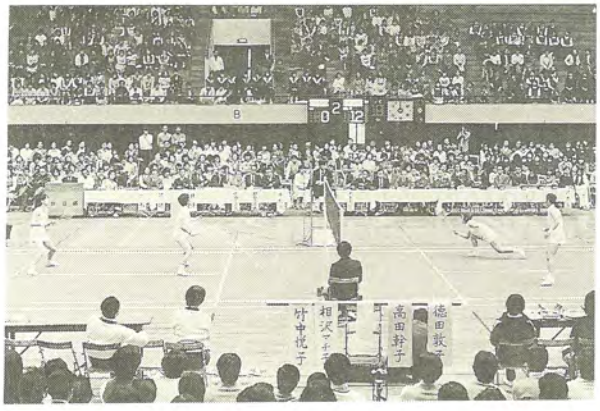
一九七三年（昭和四十八）九月　第一回日中大会





1975年(昭和50) 4 月　ユーバー杯壮行試合





	組合せ 全日本	全大阪
単1	池田　美加	西尾真理子
複1	相沢マチ子 竹中　悦子	徳田　敦子 高田　幹子
単2	山中　紀子	植野恵美子
単3	湯木　博恵	徳田　敦子
複2	湯木　博恵 池田　美加	西尾真理子 秋本八千美



第６回　国際バドミントン競技大阪大会
（全日本対ヨーロッパ選抜）



秋岡　平石　福森　藤浪　宝来　三木　嵯峨　三谷　竹原　伊勢田　林　杉田　南手　山崎

斉藤　石橋　島津　片岡　石川　奈良　西田　伊藤　水井　瀬戸　安井　鷲尾　遠藤　中島　藤宗　片谷　山村

植田　宮脇　青木　栂野尾　ガードナー　ロックウッド　フローマン　キールストロム　石渡　瑠東　小田切　小島　銭谷　飯野　土田　デルフス

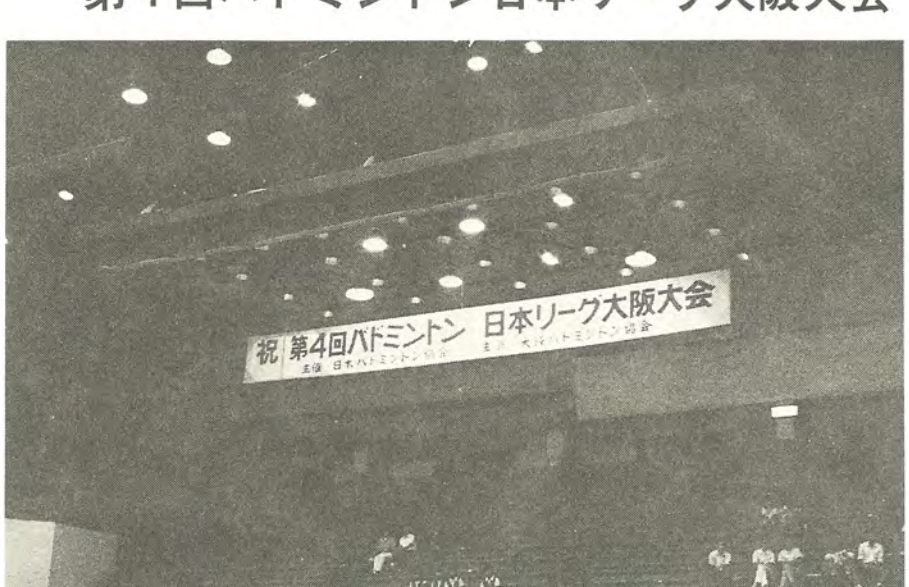
末兼　●　宮永　石川　植野　谷　徳田　秋本　ニールセン　ボルグストロム　栂野尾　プリ

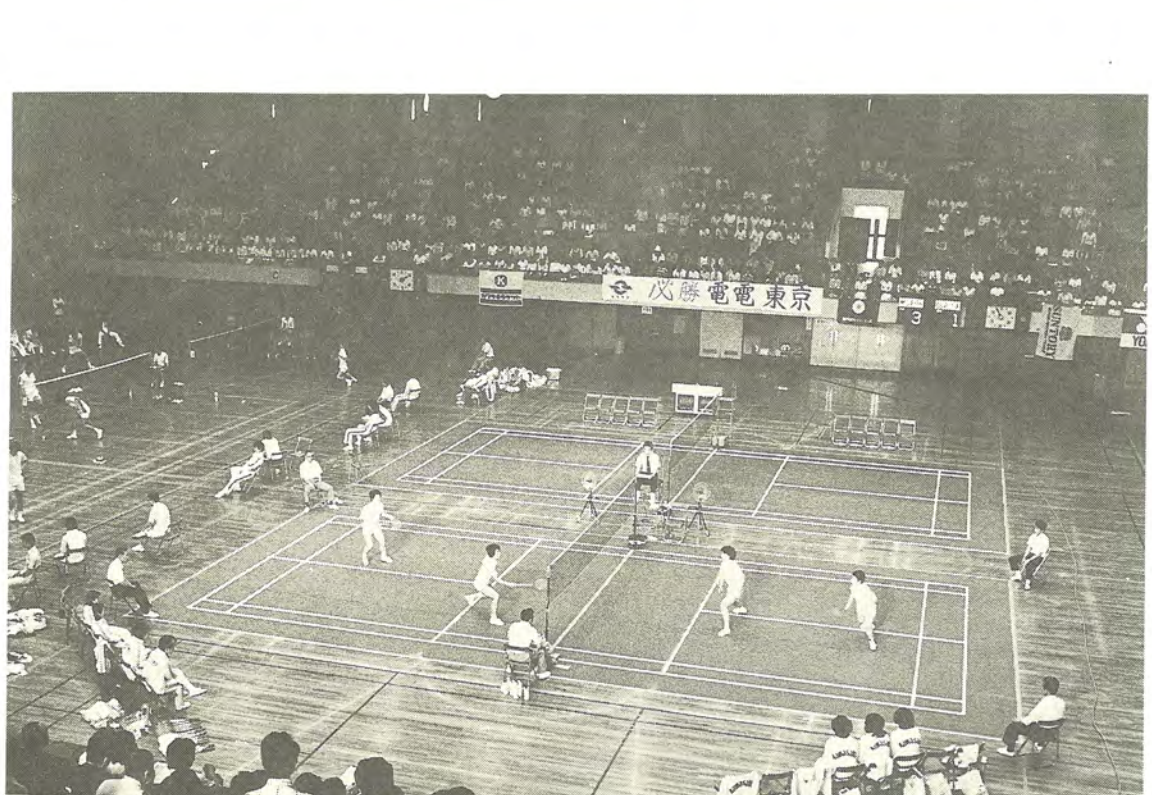


組合せ 全日本（男子）		ヨーロッパ選抜
複１	飯野　佳孝 土田　証雄	スベンド・プリ フレミング・デルフス
複２	遠藤　和男 鷲尾　正一	トーマス・キールトロム ベングト・フローマン
単１	銭谷　欽治	フレミング・デルフス
単２	小島　一平	スベンド・プリ

組合せ 全日本（女子）		ヨーロッパ選抜
単１	徳田　敦子	マーガレット・ロックウッド
単２	石川　好子	ピア・ニールセン
複１	栂野尾悦子 植野恵美子	マーガレット・ロックウッド ノラ・ガードナー
複２	谷　美津代 秋本　幸子	インゲ・ボルグストロム ピア・ニールセン
混合複	栂野尾悦子 栂野尾昌一	ノラ・ガードナー ベングト・フローマン

1982年(昭和57)
第4回バドミントン日本リーグ大阪大会






はは
翔たけ太





1985年(昭和60)
第7回バドミントン日本リーグ大阪大会





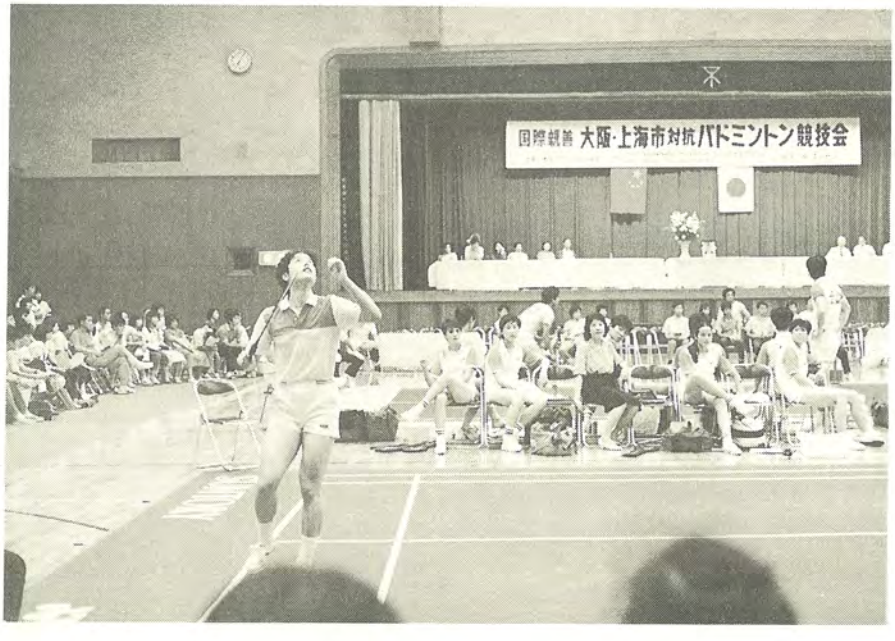
優勝したサントリーチーム



1986年(昭和61)8月
第1回　大阪 —— 上海　交流試合



（故瑠東会長の遺影での前での記念撮影）



1987年(昭和62)1月
ヨネックスカップ　ジャパンオープン

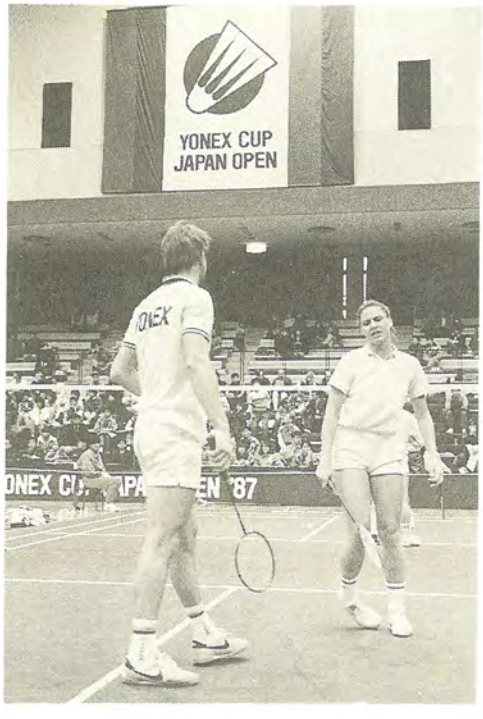


大阪バドミントン協会会長　　岸　　久雄



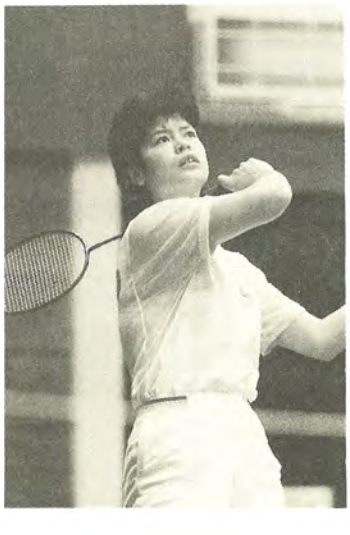
日本バドミントン協会会長　　桜内　義雄




YONEX CUP
JAPAN OPEN


YONEX CUP
JAPAN OPEN'87
$3,200
YONEX





1990年(平成２)　第４回　上海対大阪　親善交流試合



岸会長・通訳・金永昌氏



大阪選手団（於 無錫）

1997年(平成９)　第11回　大阪対上海　親善交流試合



上海選手団

1991年(平成３)４月
大阪府小学生バドミントン連盟



（於　追手門学院小学校）



（児童会員登録数　700余名）

1985年(昭和60)

石渡俊一先生の御功績を讃え感謝する会

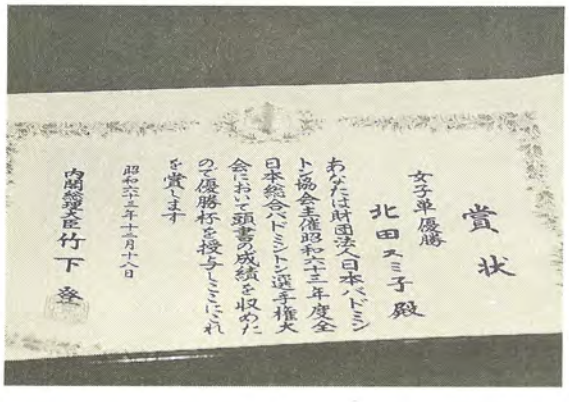


1988年(昭和63)

北田スミ子選手　全日本総合Ｖ８







賞状

女子単優勝

北田スミ子殿

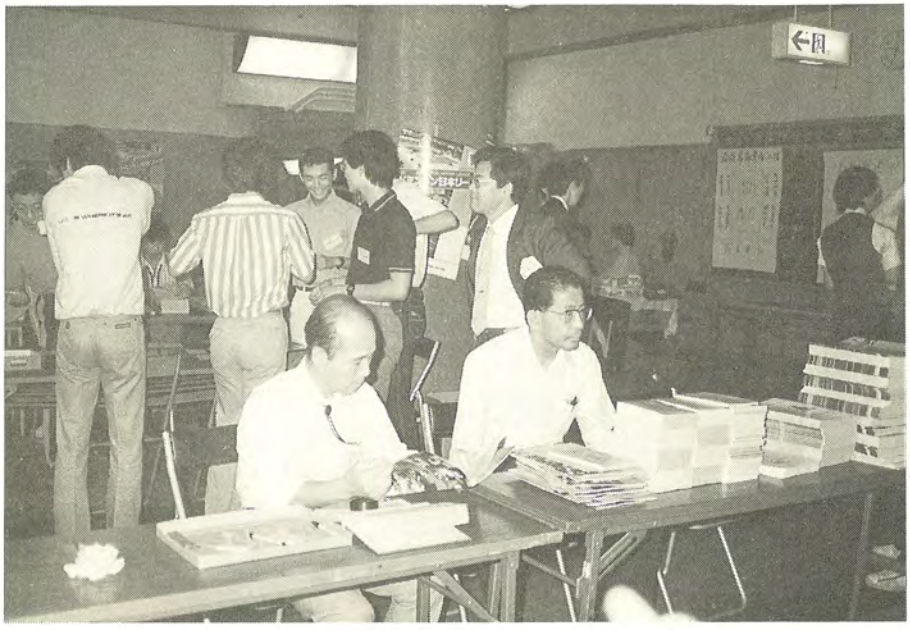
あなたは財団法人日本バドミントン協会主催昭和六十三年度全日本総合バドミントン選手権大会において頭書の成績を収めたので優勝杯を授与しここにこれを賞します

昭和六十三年十二月十八日

内閣総理大臣　竹下登

協会をささえた人達



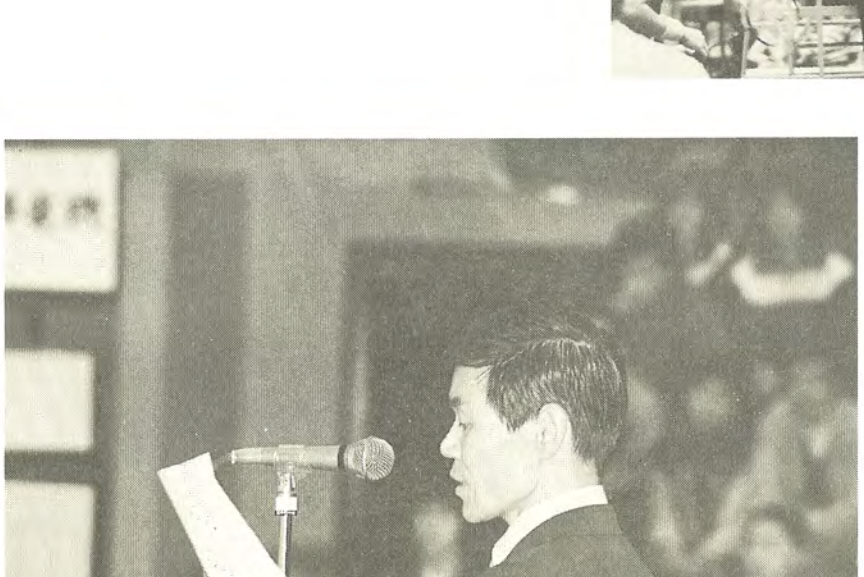


協会をささえた人達









協会をささえた人達









協会をささえた人達

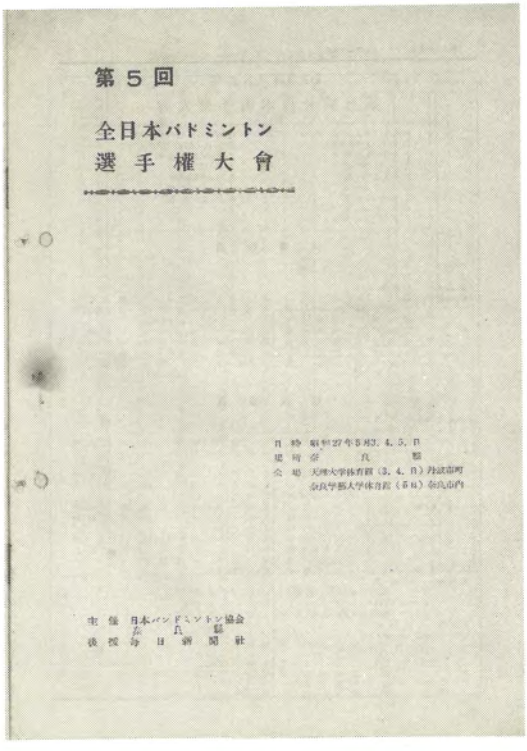


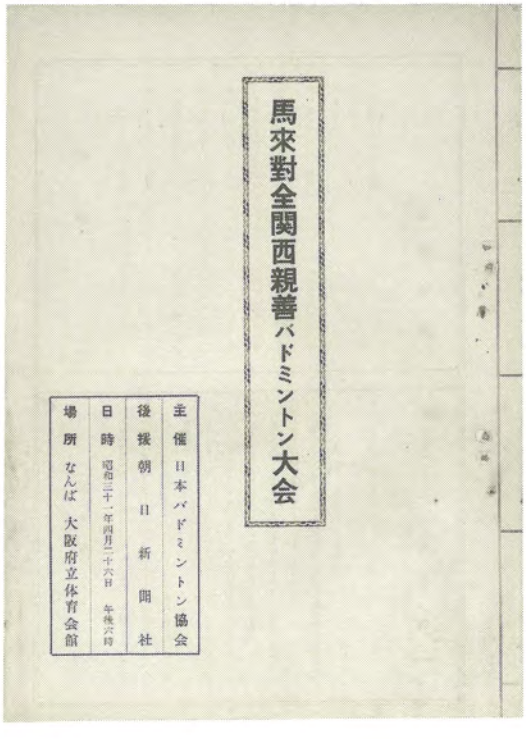


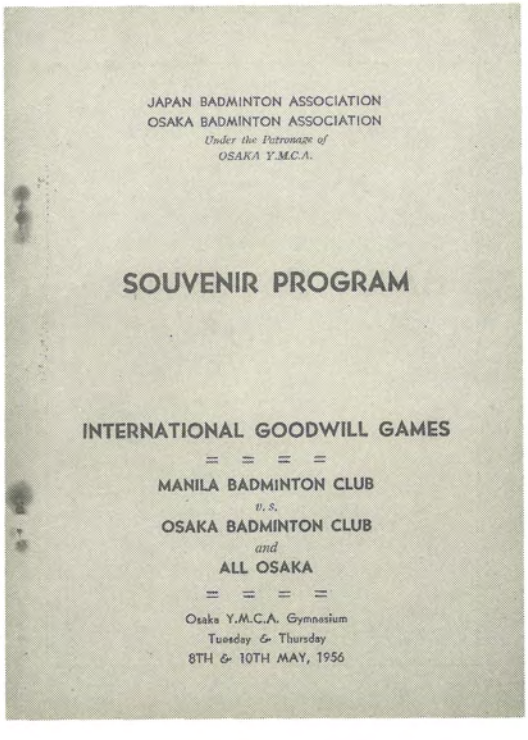


過去のプログラム

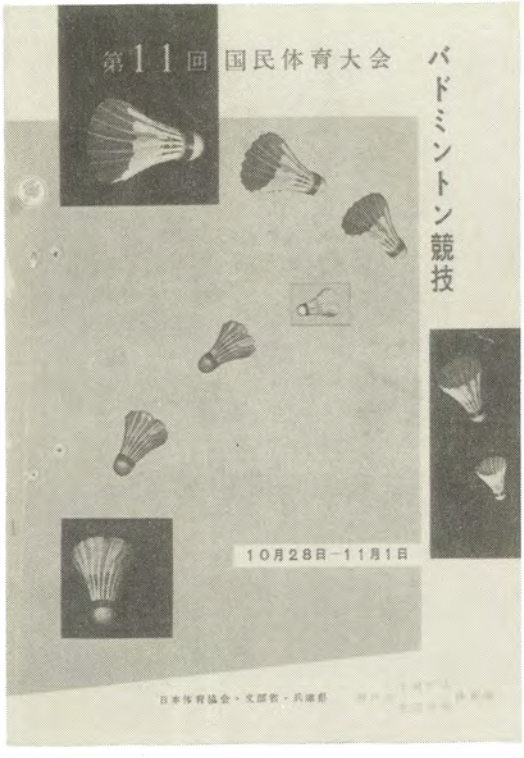

バドミントン競技
会期 10月 日 10月 31日
会場 広大東雲分校附小体育館
主催 日本体育協会・文部省
後援 広島縣・広島市


第5回
全日本バドミントン
選手権大會

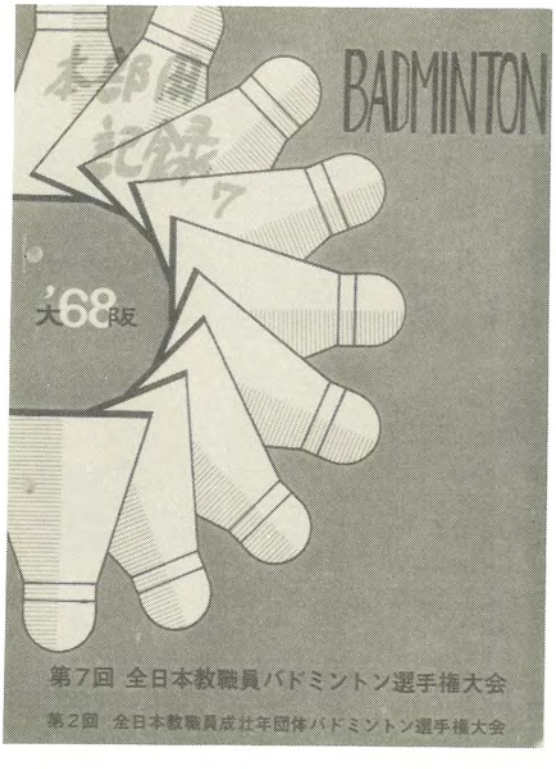

馬來對全関西親善バドミントン大会
主催 日本バドミントン協会
後援 朝日新聞社
日時 昭和三十一年四月二十六日 午後六時
場所 なんば 大阪府立体育会館

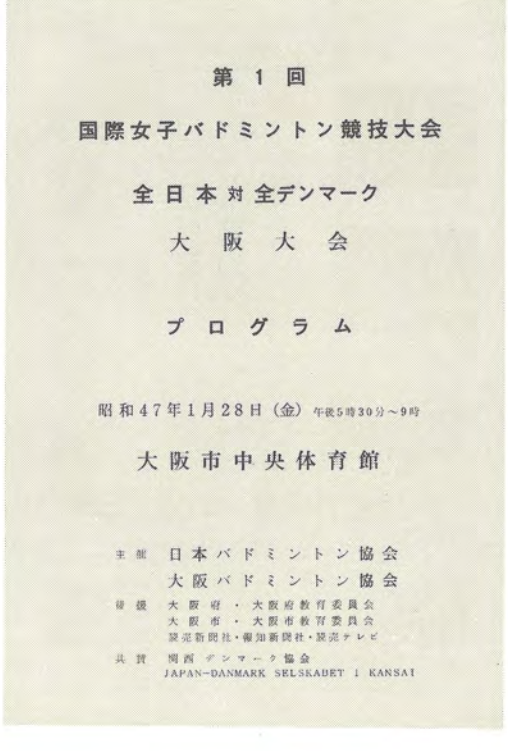

JAPAN BADMINTON ASSOCIATION
OSAKA BADMINTON ASSOCIATION
Under the Patronage of
OSAKA Y.M.C.A.
SOUVENIR PROGRAM
INTERNATIONAL GOODWILL GAMES
MANILA BADMINTON CLUB
v. s.
OSAKA BADMINTON CLUB
and
ALL OSAKA
Osaka Y.M.C.A. Gymnasium
Tuesday & Thursday
8TH & 10TH MAY, 1956

過去のプログラム

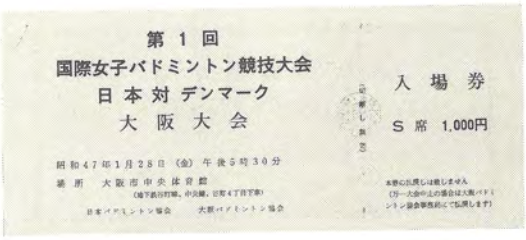

第11回 国民体育大会
バドミントン競技
10月28日－11月1日

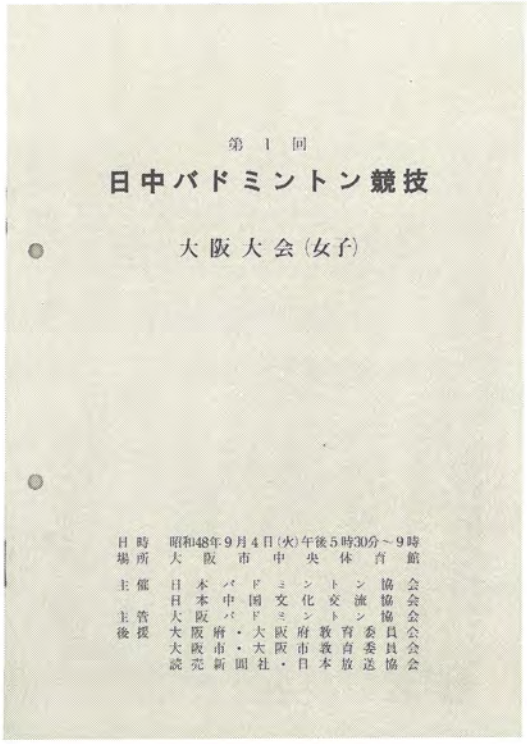

17
近畿総合バドミントン選手権大会
1966, 12, 4.
Osaka

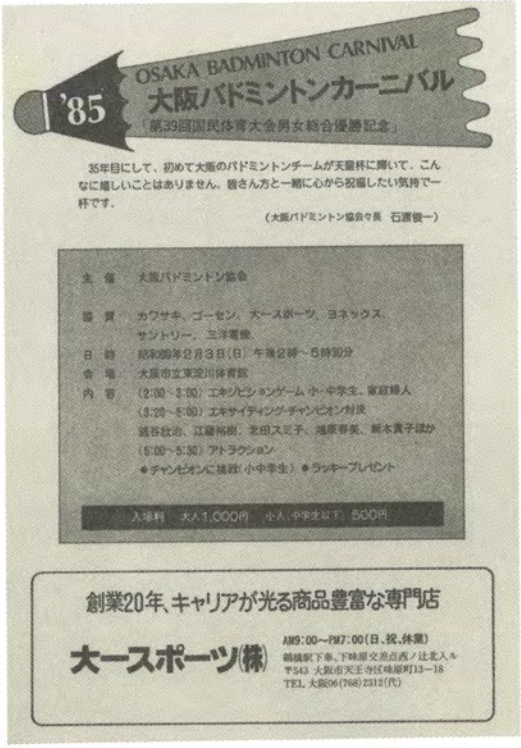

BADMINTON
'68
第7回 全日本教職員バドミントン選手権大会
第2回 全日本教職員成社年団体バドミントン選手権大会

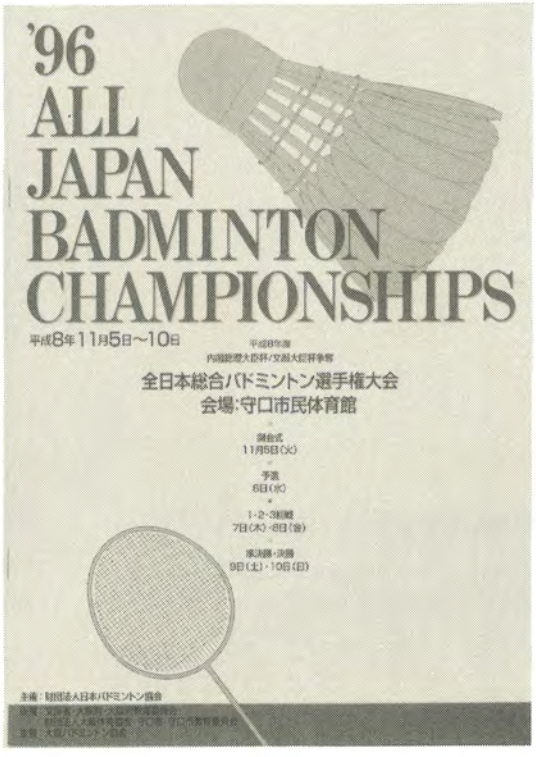

第 1 回
国際女子バドミントン競技大会
全日本対全デンマーク
大 阪 大 会
プ ロ グ ラ ム
昭和47年1月28日（金） 午後5時30分～9時
大阪市中央体育館
主催 日本バドミントン協会
大阪バドミントン協会
後援 大阪府・大阪府教育委員会
大阪市・大阪市教育委員会
読売新聞社・報知新聞社・読売テレビ
共賛 関西デンマーク協会
JAPAN-DANMARK SELSKABET I KANSAI

過去のプログラム


第１回
国際女子バドミントン競技大会
日本対デンマーク
大阪大会
入場券
S席 1,000円
昭和47年1月28日（金）午後5時30分
場所 大阪市中央体育館
日本バドミントン協会
大阪バドミントン協会

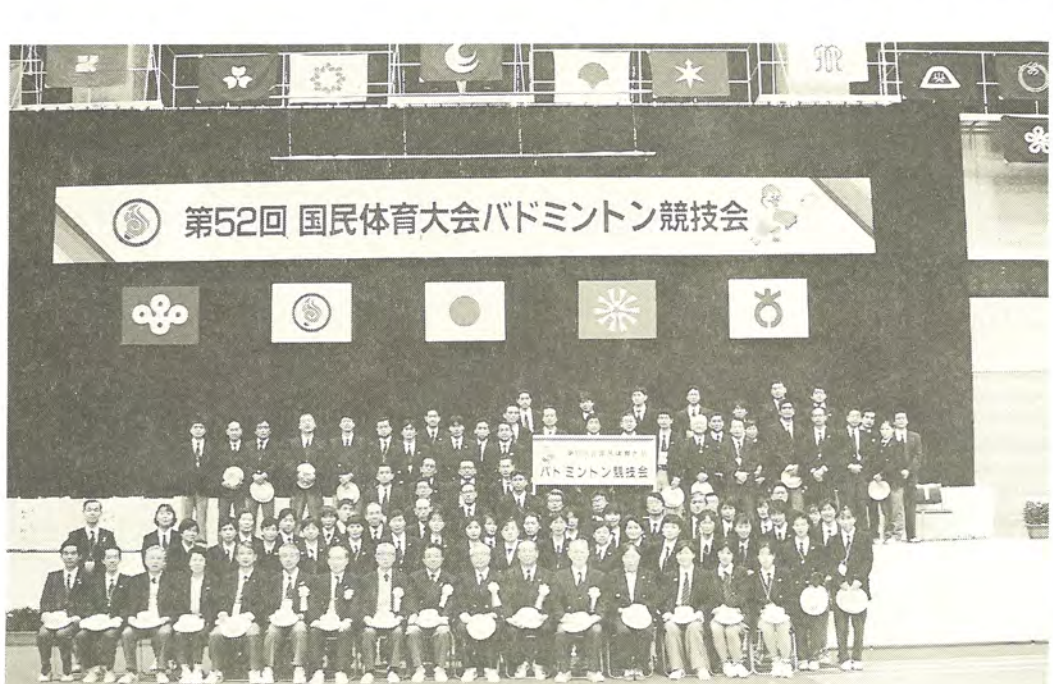

第１回
日中バドミントン競技
大阪大会（女子）
日時 昭和48年9月4日（火）午後5時30分～9時
場所 大阪市中央体育館
主催 日本バドミントン協会
日本中国文化交流協会
主管 大阪バドミントン協会
後援 大阪府・大阪府教育委員会
大阪市・大阪市教育委員会
読売新聞社・日本放送協会


'85
OSAKA BADMINTON CARNIVAL
大阪バドミントンカーニバル
（第39回国民体育大会男女総合優勝記念）
35年目にして、初めて大阪のバドミントンチームが天皇杯に輝いて、こんなに嬉しいことはありません。皆さん方と一緒に心から祝福したい気持で一杯です。
（大阪バドミントン協会々長 石渡俊一）
主催 大阪バドミントン協会
協賛 カワサキ、ゴーセン、大一スポーツ、ヨネックス、サントリー、三洋電機
日時 昭和60年2月3日（日）午後2時～5時30分
会場 大阪市立東淀川体育館
内容 (2:00～3:00) エキシビションゲーム 小・中学生、家庭婦人
(3:20～5:00) エキサイティング・チャンピオン対決
(5:00～5:30) アトラクション
●チャンピオンに挑戦（小中学生）●ラッキープレゼント
入場料 大人1,000円 小人（中学生以下）500円
創業20年、キャリアが光る商品豊富な専門店
大一スポーツ㈱
AM9:00～PM7:00（日、祝、休業）
鶴橋駅下車、下味原交差点西ノ辻北入ル
〒543 大阪市天王寺区味原町13－18
TEL 大阪06(768)2312(代)


'96
ALL
JAPAN
BADMINTON
CHAMPIONSHIPS
平成8年11月5日～10日
全日本総合バドミントン選手権大会
会場：守口市民体育館
開会式
11月5日(火)
予選
6日(水)
1・2・3回戦
7日(木)・8日(金)
準決勝・決勝
9日(土)・10日(日)
主催：財団法人日本バドミントン協会

1997年（平成９）
第52回国民体育大会（なみはや国体）

10月26日～29日　大東市民体育館



大会役員、競技役員・審判団　　（撮影　森　義和）



天皇杯



開始式



大阪選手団



表彰式



（舞台中央）　高円宮殿下ご夫妻



熱戦の会場



吹奏楽団とコーラス隊



体育館前のふれ愛広場でにぎわう大テント



マーチングバンド



連日超満員の観客席



胴上げ



体育館前に地元の山車

歴代協会役員一覧
加盟会員一覧
賛助会員一覧

●大阪バドミントン協会役員名簿●

年度 / 役職名	昭和26年	昭和36年	昭和41年	昭和42・43年	昭和44・45年	昭和46・47年
会長	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一
副会長			瑠東　治	瑠東　治	瑠東　治	瑠東　治
顧問	松葉徳三郎				乾　英三郎 丸山　賢三 嶋　久雄 清水　照彦 中村　広三 松葉徳三郎 村上平一郎	乾　英三郎 大森　繁 嶋　久雄 清水　照彦 中村　広三 松葉徳三郎 村上平一郎 芳本　利次
参与					川口　清 藤村　岩男 降井　欽一 川崎　策実	浅田　一雄 川口　清 川崎　策実 藤村　岩男 降井　欽一
理事長	川口　清	宮脇　正晴	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二	青木　昭二
副理事長				池田　芳麻 岸　研一 宝来　敏夫 川本　尚男	池田　芳麻 岸　研一 宝来　敏夫	池田　芳麻 岸　研一 宝来　敏夫 出口　健次
常務理事		池田　芳麻 溝渕　宏二 宝来　敏夫 青木　昭二 秋岡　澄子 川本　尚男 小野　善正 中田　昇 奈良慶治良	池田　芳麻 溝渕　宏二 宝来　敏夫 岸　研一 藤浪　輝吉 宮脇　正晴 (升本　和行) (沢田　英男)	溝渕　宏二 牧志　倫夫 加藤　吉正 近者　正善 石橋　三彦 平石　克子 島津　八郎 宮脇　正晴 (清水　英俊)	溝渕　宏二 近者　正善 清水　義雄 鈴木　忠範 石橋　三彦 平石　克子 島津　八郎 宮脇　正晴 (清水　英俊) (民谷　憲二)	溝渕　宏二 近者　正善 清水　義雄 鈴木　忠範 石橋　三彦 平石　克子 島津　八郎 宮脇　正晴 藤本　武 杉田　忠邦
理事	川崎　策實 岡　惇 藤村　岩男 中田　弘 青木　昭二 前田　澄子 藤井　孝彦 外川　善郎	藤村　岩男 藤浪　輝吉 伊藤　陽治 牧志　倫夫 船原　静江 松山　昌子 森　政勝 向井　行雄 杉山アツ子 岩村　敏男	矢田　直宏 牧志　倫夫 岸田　幸雄 堀口　元生 三木　昭 奈良慶治良 出口　健次 船原　静江 松山　昌子 佐藤　茂雄 石橋　三彦 前内　弘	北村　修一 矢田　直宏 大河内秀夫 藤浪　輝吉 秋岡　澄子 佐藤　茂雄 三木　昭 岸田　幸雄 奈良慶治良 出口　健次 前内　弘 (民谷　憲二)	北村　修一 矢田　直宏 大河内秀夫 藤浪　輝吉 秋岡　澄子 佐藤　茂雄 岸岡　輝明 三木　昭 奈良慶治良 川本　尚男 水井　良平 黒川　晃好	北村　修一 植田　勝美 大河内秀夫 藤浪　輝吉 秋岡　澄子 佐藤　茂雄 片岡　輝明 三木　昭 奈良慶治良 川本　尚男 水井　良平 小谷　宏忠 三谷　鎮哉 (清水　英俊) (民谷　憲二)
会計監査						

役職名＼年度	昭和48・49年	昭和50・51年	昭和52・53年	昭和54・55年	昭和56・57年	昭和58・59年
会長	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一
副会長	瑠東　治	瑠東　治	瑠東　治 青木　昭二	瑠東　治 青木　昭二	瑠東　治 青木　昭二	瑠東　治 青木　昭二
顧問	乾　英三郎 大森　繁 嶋　久雄 清水　照彦 中村　広三 松葉徳三郎 村上平一郎 岡川　正一	乾　英三郎 大森　繁 嶋　久雄 清水　照彦 松葉徳三郎 村上平一郎 並川喜代治	乾　英三郎 大森　繁 嶋　久雄 清水　照彦 松葉徳三郎 村上平一郎 北辻　要	相川　三郎 乾　英三郎 井上　博 植田　義明 大森　繁 嶋　久雄 清水　照彦 松葉徳三郎	清水　照彦 植田　義明 乾　英三郎 嶋　久雄 相川　三郎 今津　静夫	嶋　久雄 乾　英三郎 清水　照彦 植田　義明 相川　三郎 今津　静夫
参与	浅田　一雄 川口　清 藤村　岩男 降井　欽一 森田　三郎	浅田　一雄 川口　清 藤村　岩男 降井　欽一 森田　三郎	浅田　一雄 川口　清 藤村　岩男 降井　欽一 森田　三郎 高谷　芳明 多田　康明	浅田　一雄 川口　清 藤村　岩男 降井　欽一 森田　三郎 高谷　芳明	浅田　一雄 川口　清 藤村　岩男 森田　三郎 高谷　芳明	川口　清 藤村　岩男 森田　三郎 浅田　一雄
理事長	青木　昭二	青木　昭二	宝来　敏夫	宝来　敏夫	宝来　敏夫	池田　芳麻
副理事長	池田　芳麻 藤浪　輝吉 宝来　敏夫	池田　芳麻 藤浪　輝吉 宝来　敏夫	池田　芳麻 藤浪　輝吉 奈良慶治良	池田　芳麻 藤浪　輝吉 奈良慶治良	池田　芳麻 藤浪　輝吉 奈良慶治良	奈良慶治良 石橋　三彦
常務理事	植田　勝美 北村　修一 清水　義雄 片岡　輝明 石橋　三彦 平石　克子 島津　八郎 宮脇　正晴 藤本　武 杉田　忠邦 岸　研一 出口　健次	植田　勝美 林　辰夫 寺西　輝男 片山　照明 平石　克子 片岡　輝明 島津　八郎 宮脇　正晴 福森　勝治 杉田　忠邦 山村　計 北野敬四郎	石橋　三彦 大河内宏治 植田　勝美 伊勢田善昭 山村　計 宮脇　正晴 林　辰夫 片岡　輝明 水井　良平 嵯峨　健一 （世良　秀彦） （青柳　久雄）	石橋　三彦 大河内宏治 福森　勝治 植田　勝美 伊勢田善昭 品川　則之 村井　広美 宮脇　正晴 三木　昭 山田　良之 池田紗千子 片岡　輝明 出口　健次 嵯峨　健一 山崎　満彦 杉村　晋 （西角　健一）	石橋　三彦 大河内宏治 黒田　勝之 伊勢田善昭 村井　広美 宮脇　正晴 山田　良之 片岡　輝明 品川　則之 山崎　満彦 清水　義雄 和田　泰寛 四方　光市 村上　民夫 （井脇　民雄）	清水　義雄 大河内宏治 山崎　満彦 吉里　文雄 村井　広美 宮脇　正晴 山田　良之 片岡　輝明 四方　光市 佐貫　裕彦 御前　龍雄 和田　泰寛 月原　朗 山本　次生 （太田　昌孝）
理事	鈴木　忠範 山田　良之 大河内秀夫 中嶋　輝雄 秋岡　澄子 北野敬四郎 片岡　輝明 三木　昭 奈良慶治良 川本　尚男 水井　良平 三木　喬 三谷　鎮哉 嵯峨　健一 民谷　憲二 大谷　光弘 山村　計	鈴木　忠範 山田　良之 清水　義雄 中嶋　輝雄 秋岡　澄子 石橋　三彦 山崎　満彦 三木　昭 奈良慶治良 川本　尚男 水井　良平 出口　健次 三谷　鎮哉 嵯峨　健一 伊勢田善昭	山田　良之 秋岡　澄子 山崎　満彦 川本　尚男 南手　良裕 片山　照明 出口　健次 島津　八郎 平石　克子 藤宗　勉 竹原　茂 柴山　好宏 中嶋　輝雄 福森　勝治 清水　義雄 杉田　忠邦 森　義和 広瀬　隆一	秋岡　澄子 川本　尚男 南手　良裕 森　義和 御前　龍雄 平石　克子 中嶋　輝雄 杉田　忠邦 藤宗　勉 村上　民夫 上田　光代 柴田恵美子 月原　朗 水井　良平 山村　計 武村　俊平	植田　勝美 秋岡　澄子 牧志　倫夫 山村　計 嵯峨　健一 森　義和 中村　直克 福森　勝治 平石　克子 出口　健次 中嶋　輝雄 杉田　忠邦 藤宗　勉 上田　光代 柴田恵美子 水井　良平 武村　俊平 池田紗千子 佐貫　裕彦	宝来　敏夫 秋岡　澄子 品川　則之 山村　計 嵯峨　健一 森　義和 福森　勝治 平石　克子 伊勢田善昭 出口　健次 中嶋　輝雄 杉田　忠邦 村上　民夫 上田　光代 竹原　茂 岡上　充仁 高谷　芳明 池田紗千子 黒田　勝之 近藤　一生 広瀬　喜太 上辻　光子
会計監査	坂田　治夫 船原　静江	坂田　治夫 船原　静江	船原　静江 武村　修平	船原　静江 竹原　茂	船原　静江 竹原　茂	藤浪　輝吉 船原　静江

役職名＼年度	昭和60・61年	昭和62・63年	平成元・2年	平成3・4年	平成5・6年	平成7・8年
名誉会長	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一	石渡　俊一
会長	瑠東　治	岸　久雄	岸　久雄	岸　久雄	三宅　祐司	三宅　祐司
副会長	岸　久雄 青木　昭二 野村　明雄	青木　昭二 野村　明雄 植田　義明 宝来　敏夫	青木　昭二 野村　明雄 尾崎　弘 宝来　敏夫	青木　昭二 野村　明雄 尾崎　弘 宝来　敏夫	青木　昭二 野村　明雄 尾崎　弘 宝来　敏夫	青木　昭二 野村　明雄 尾崎　弘 宝来　敏夫
顧問	嶋　久雄 乾　英三郎 清水　照彦 植田　義明 相川　三郎 今津　静夫 西谷　一郎 宝来　敏夫	嶋　久雄 乾　英三郎 清水　照彦 西谷　一郎 黒石　久昭 吉田　孝司 塚本　逸章	嶋　久雄 乾　英三郎 清水　照彦 西谷　一郎 黒石　久昭 中井　喬 川本　尚男	嶋　久雄 乾　英三郎 清水　照彦 西谷　一郎 黒石　久昭 中井　喬 出口　健次	岸　久雄 嶋　久雄 清水　照彦 西谷　一郎 黒石　久昭 乾　英三郎 関　和夫 出口　健次 北野敬四郎	岸　久雄 嶋　久雄 清水　照彦 西谷　一郎 黒石　久昭 乾　英三郎 寺田　英夫 出口　健次 北野敬四郎
参与	川口　清 藤村　岩男 高谷　芳明 松王　清志 島津　八郎	藤村　岩男 高谷　芳明 松王　清志 島津　八郎	藤村　岩男 高谷　芳明 松王　清志 島津　八郎	藤村　岩男 高谷　芳明 松王　清志 島津　八郎	藤村　岩男 高谷　芳明 松王　清志 島津　八郎	藤村　岩男 高谷　芳明 松王　清志 島津　八郎 秋岡　澄子
理事長	石橋　三彦	石橋　三彦	四方　光市	四方　光市	四方　光市	四方　光市
副理事長	片岡　輝明 四方　光市 村井　広美	片岡　輝明 四方　光市 村井　広美 御前　龍雄 伊勢田善昭	岡上　充仁 月原　朗 森　義和	岡上　充仁 月原　朗 森　義和	岡上　充仁 月原　朗 森　義和	岡上　充仁 月原　朗 森　義和
常務理事	山崎　満彦 伊勢田善昭 藤倉　憲一 上田　光代 御前　龍雄 宮脇　正晴 山田　良之 牧志　倫夫 岡上　充仁 森　義和 広瀬　富太 和田　泰寛 古川　清博 川上　隆庸 出口　健次 月原　朗 山本　次生 （植野　昭夫）	山崎　満彦 岡上　充仁 藤倉　憲一 上田　光代 品川　則之 宮脇　正晴 山田　良之 月原　朗 山本　次生 森　義和 広瀬　富太 川上　隆庸 嵯峨　健一 池田紗千子 近藤　一生 宮林　幸三 村田　早苗	山崎　満彦 村井　広美 片岡　輝明 藤倉　憲一 御前　龍雄 川上　隆庸 清水　義雄 福森　勝治 古川　清博 池田紗千子 近藤　一生 佐貫　裕彦 夫　昌弘 村田　早苗 藤本　信之	片岡　輝明 村井　広美 御前　龍雄 藤倉　憲一 清水　義雄 川上　隆庸 福森　勝治 伊勢田善昭 佐貫　裕彦 上田　光代 松本　恭幸 蔵口　勇雄 宇治　収 青木　弘行 （松井　太）	片岡　輝明 村井　広美 御前　龍雄 藤倉　憲一 清水　義雄 川上　隆庸 福森　勝治 藤本　信之 佐貫　裕彦 上田　光代 増田　聡 蔵口　勇雄 矢橋　栄行 青木　弘行 田中　聡生 山本　次修 （柴田　修）	片岡　輝明 村井　広美 矢橋　良栄 藤倉　憲一 清水　義雄 川上　隆庸 福森　勝治 藤本　信之 太田　光代 上田　聡 増合　茂 河宇治　収 青木　行 田東条　聡 竹内　安彦 土居　洋雅 （坂田　信彦 学士）
理事	池田　芳麻 秋岡　澄子 品川　則之 山村　計 増田　聡 清水　義雄 福森　勝治 平石　克子 池田紗千子 水原　和子 中嶋　輝雄 杉田　忠邦 北出　隆 宮林　幸三 大河内秀夫 大石　正広 近藤　一生 今久留主洋	秋岡　澄子 清水　義雄 平石　克子 山村　計 増田　聡 出口　健次 福森　勝治 藤井　靖雄 夫　昌弘 水原　和子 杉田　忠邦 大河内秀夫 大石　忠広 広瀬　全宏 藤本　信之 今久留主洋	宮脇　正晴 杉田　忠邦 伊勢田善昭 上田　光代 山田　良之 広瀬　富太 水原　和子 藤井　靖雄 大石　正広 宮林　幸三 田上　敬子 北野　公男 蔵口　勇雄 小関　嗣郎 森　修康 松本　恭幸 植本　實 須田　豊	宮脇　正晴 杉田　忠邦 伊藤　憲二 水原　和子 大石　正広 池田紗千子 西野　幸子 河合　茂 加藤　吉正 藤本　信之 田上　敬子 古川　清博 近藤　一生 土居　毅 須田　豊 志尾　正和 増田　聡 井上　晶博 矢橋　良栄	宮脇　正晴 伊藤　憲二 河合　茂 水原　和子 山村　晏江 田上　敬子 西野　幸子 太田　義幸 松本　正恭 近藤　一尚 谷田　清博 古川　晶博 井上　毅豊 土居　信一 須田　安彦 仲尾 東条	宮脇　正晴 山本　次生 土居　毅 水原　和子 山村　晏江 田上　敬子 土肥　昌代 養父　一太 松本　恭幸 山本　卓也 谷田　尚嗣 古川　清博 小柳　和夫 蔵口　勇雄 岡森　祐一 仲尾　信彰 乾　修幸 森井　信子 田村　淳子 中尾　規男
会計監査	藤浪　輝吉 船原　静江	藤浪　輝吉 片山　修治	藤浪　輝吉 牧志　倫夫	藤浪　輝吉 牧志　倫夫	牧志　倫夫 黒川　晃好	牧志　倫夫 黒川　晃好

役職名＼年度	平成9・10年
名誉会長	石渡　俊一
会長	三宅　祐司
副会長	青木　昭二 野村　明雄 尾崎　弘 宝来　敏夫
顧問	岸　久雄 嶋　久雄 清水　照彦 西谷　一郎 中原　住雄 乾　英三郎 寺田　英夫 出口　健次 大河内秀夫
参与	藤村　岩男 高谷　芳明 松王　清志 島津　八郎 秋岡　澄子 石橋　三彦 宮脇　正晴
理事長	四方　光市
副理事長	岡上　充仁 月原　朗
常務理事	片岡　輝明 村井　広美 矢橋　良栄 山本　次生 清水　義雄 川上　隆庸 福森　勝治 藤本　信之 増田　聡 河合　茂 宇治　収 東条　安彦 田中　聡 乾　修彰 竹内　洋雅 養父　一太 和田　泰寛 蔵口　勇雄 水原　和子 森井　信幸
理事	土肥　昌代 田上　敬子 松本　恭幸 上田　光代 土居　毅 渡辺　浩文 山村　晏江 谷田　尚嗣 古川　清博 仲尾　信一 岡森　祐 田村　淳子 北野　公男 千葉　政勝 松井　峰生 西上　正一 広瀬　富太 藤岡　毅至 （西本　拓史） （高田　尚美）
会計監査	牧志　倫夫 黒川　晃好



岡上　四方　月原　森

野村　尾崎　三宅　青木　宝来

（備考）

（　　）付理事は1年任期の学生理事，ただし常務理事のみ記載。

●加　盟　会　員●

昭和３６年	大阪府実業団連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合・大阪学生連盟
昭和４１年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・個人３名
昭和４２年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・個人４名
昭和４４年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・個人９名
昭和４６年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・個人１０名
昭和４８年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・大阪社会人連盟
昭和５０年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・大阪社会人連盟
昭和５２年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・大阪社会人連盟
昭和５４年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟
昭和５６年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連合 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟
昭和５８年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟
昭和６０年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟
昭和６２年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟
平成 元 年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟
平成 3 年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟・大阪府小学生連盟
平成 5 年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟・大阪府小学生連盟
平成 7 年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟・大阪府小学生連盟
平成 9 年	大阪府実業団連盟・大阪教職員連盟・大阪高等学校体育連盟・大阪中学校体育連盟 大阪学生連盟・大阪社会人連盟・大阪府家庭婦人連盟・大阪府小学生連盟

●個人賛助会員●

石渡俊一	寺田英夫	斎藤良二	川本尚男
岸　久雄	出口健次	白井勇二	大黒賢時
三宅祐司	北野敬四郎	川口　弘	武村俊平
青木昭二	藤村岩男	島田哲三	福村　弘
野村明雄	高谷芳明	池上　茂	平方昌子
嶋　久雄	松王清志	佐藤茂雄	松井峰生
尾崎　弘	島津八郎	中嶋輝雄	三浦侑司
西谷一郎	相川三郎	秋岡澄子	牧志倫夫
宝来敏夫	堀本忠勝	石橋三彦	奈良慶治良
黒石久昭	竹内正次	藤浪輝吉	宮脇正晴

（団体については掲載を割愛させていただきます。）

大阪バドミントン協会の沿革

大阪バドミントン協会　沿革

昭和21年（1946）	11月	日本バドミントン協会（ＮＢＡ）創立　初代会長　白山源三郎
昭和22年（1947）	10月	大阪バドミントン協会設立（会長空席　初代理事長　石渡俊一）
昭和23年（1948）	5月	日本バドミントン協会　二代目会長　山田文雄就任
昭和24年（1949）	10月	第４回国体（東京）にてバドミントンをオープン競技として開催・一般男女単複に高校生のみ７名参加
昭和25年（1950）	1月	大阪ＹＭＣＡ体育館にて、ＮＢＡ主催・本協会主管で第１回東西対抗開催
	4月	初代会長　石渡俊一　二代目理事長　川口　清（事務局を大阪ＹＭＣＡ内に置く）
	10月	第５回国体（愛知）バドミントン競技正式種目となる。一般男子／一般女子／高校男子の３種目で試合形式は現在と同じ、１複２単の府県対抗（35府県参加）
昭和26年（1951）	1月	第１回関西選手権（第２回より西日本選手権に改称）（高松）に参加
	3月	第１回大阪選手権（会場難のため西宮市にて）開催
	4月	第１回近畿選手権（本協会主管・会場難のため西宮市にて）開催
昭和27年（1952）	2月	第１回全日本実業団選手権（東京）に男子の部／日産自動車大阪工場・朝日新聞社／女子の部／朝日新聞社が参加
	5月	第５回日本選手権（ＮＢＡ主催・本協会主管であったが、会場難のため天理市）開催・壮年（４０才以上）の部複で嶋／降井組優勝・本大会には第４回より参加している。
	8月	第３回全日本高校選手権（善通寺）に男子の部／三島野（現茨木）・西野田／女子の部／樟蔭東・扇町が参加（大阪府は第１回・第２回は参加せず）
昭和29年（1954）	11月	第３回世界選手権（トマス杯）予選（香港）に日本初参加、川口理事長監督として参加
昭和31年（1956）	4月	馬来（マラヤ）対全関西親善大会を大阪府立体育会館にて開催
	5月	マニラバドミントンクラブ対全大阪親善大会を大阪ＹＭＣＡ体育館にて開催
	10月	第11回国体（兵庫）一般男子の部で準優勝（上田・増木・武村）
	10月	日本バドミントン協会　三代目会長　本田弘敏就任
昭和33年（1958）	4月	会長　石渡俊一　三代目理事長　宮脇正晴（事務局を大阪市立大正東中学校内に置く）
	5月	第３回アジア競技大会（東京）バドミントン（オープン）優勝、大阪より松王清志・小松康博出場
	7月	五大都市体育大会にバドミントン競技設置・大阪市初参加（大阪市の行事であるが、本会が担当）
昭和34年（1959）	2月	協会規約第３章第５条（本会は　本会の趣旨に賛同するアマチュアバドミントン団体及び個人を以て会員とする）：団体を連盟とすると改正 当時の連盟は、大阪高体連バドミントン部・大阪中体連バドミントン部・大阪学生連盟・大阪府実業団連盟の４連盟であった

10月　本協会が日本協会より支部表彰を受賞

昭和35年（1960）10月　第11回全日本学生選手権を大阪市中央体育館にて開催（以後昭和38年・昭和42年・昭和45年•平成２年にも開催）

昭和37年（1962）４月　大阪教職員バドミントン連盟誕生（初代会長　乾　英三郎）

昭和40年（1965）10月　第20回国体（岐阜）高校女子（現少年女子）の部で優勝（近藤・才脇・池田）、以後大阪府チームは同種目17回の優勝

昭和41年（1966）５月　第４回世界女子選手権（ユーバ杯）に日本初参加で優勝

６月　第16回全日本実業団選手権を大阪市中央体育館にて開催（以後昭和52年・昭和59年にも開催）

９月　会長　石渡俊一　四代目理事長　青木昭二
（事務局を大阪府立茨木工高校内に置く）

昭和42年（1967）４月　会長　石渡俊一　副会長　瑠東　治　理事長　青木昭二（事務局は同上）

昭和43年（1968）８月　第７回全日本教職員選手権を大阪市中央体育館にて開催
第19回全国高校総体（広島）　東大阪高校女子団体の部初優勝、以後東大阪高１回、四條畷学園高13回、四天王寺高１回各優勝

昭和45年（1970）10月　第21回全日本大学選手権（大阪）東大阪短大、女子団体初優勝、以後東大阪短大１回、四條畷学園女短大５回優勝

昭和46年（1971）８月　第１回全国中学生バドミントン大会（現在の選抜）東京都にて開催、女子の部で大阪府チーム優勝

昭和47年（1972）１月　第１回国際大会（日本－デンマーク）大阪市中央体育館にて開催（現在のジャパンオープンの前身）

昭和48年（1973）４月　大阪社会人バドミントン連盟誕生（初代会長　嶋　久雄）

９月　第１回日中大会大阪市中央体育館にて開催

昭和50年（1975）４月　青木昭二理事長が日本協会の常務理事に就任（昭和５６年３月まで審判委員長等歴任）
第７回世界女子選手権（ユーバ杯）日本代表選手壮行試合を大阪市中央体育館にて開催

昭和51年（1976）６月　第26回全日本実業団選手権（藤沢市）の女子団体の部でサントリー初優勝（以後13回優勝。しかし、平成９年６月の第47回大会を最後に解散。同種目は第35回大会より三洋電機が６回優勝。）

９月　第５回日中大会（中国各地）秋本八代美（サントリー）・植野恵美子（四條畷女短大）参加

昭和52年（1977）３月　第67回全英選手権複に植野恵美子（四條畷女短大）／栂野尾悦子（ヨネックス）組優勝

４月　会長　石渡俊一　副会長　瑠東　治・青木昭二　五代目理事長　宝来敏夫
（事務局は教育大附属平野小学校内に置く）

５月　第１回世界選手権（スゥエーデン）複に植野恵美子（四條畷短大）／栂野尾悦子（ヨネックス）優勝　両選手を迎えて世界チャンピオン祝賀会（天王寺都ホテル）を開催

	10月	嶋　久雄顧問（社会人連盟会長）藍綬褒賞受賞される
	11月	第１回小学生教室（中央体育館）を開催
	12月	協会創立30周年記念祝賀会（大阪郵便貯金会館・130名参加）を挙行 （特別表彰者・秋岡澄子・乾英三郎・井上博・尾崎弘・岸研一・降井欽一）
昭和53年（1978）	3月	第68回全英選手権複に徳田敦子／高田幹子（サントリー）優勝
	6月	第６回日中大会大阪市中央体育館にて開催予定が突然、ＩＢＦ／ＡＢＣ問題で中止
昭和54年（1979）	4月	大阪府家庭婦人バドミントン連盟加盟（初代会長　嶋　　久雄）
	10月	第23回カナダオープン単に東海林文子（サントリー）優勝
	11月	第１回日本リーグ（女子の部）大阪市中央体育館にて開催サントリー優勝（以後10回優勝）　また、このリーグでは三洋電機が４回優勝している。
昭和55年（1980）	3月	片岡輝明（常務理事・四條畷学園高・短監督）関西スポーツ賞を受賞
昭和56年（1981）	2月	東京運動記者クラブ賞を受賞
	6月	第９回世界女子選手権（ユーバー杯）に日本が防衛に成功、徳田・高田・東海林・高峰（サントリー）北田（四條畷女短大）の大阪勢が活躍
	8月	第11回全国中学校選抜バドミントン大会（奈良）女子団体に四條畷学園中学校初優勝、以後４回優勝
	11月	日本バドミントン協会　四代目会長　櫻内義雄就任
	12月	大阪協会の旗ができる
昭和57年（1982）	1月	日英対抗親善競技会（大阪市立東淀川体育館）開催
昭和58年（1983）	4月	会長　石渡俊一　副会長　瑠東　治・青木昭二　六代目理事長　池田芳麻 （事務局は河内長野市上原町1106－11－２－７　池田芳麻方に置く）
昭和59年（1984）	1月	瑠東　治副会長大阪スポーツ賞（知事表彰）受賞祝賀会を挙行
	8月	第14回全国中学校選抜バドミントン大会（大阪市中央体育館）開催
	10月	第39回国体（奈良）初の総合（天皇杯）優勝（以後43・45・48・49回と５回優勝）
昭和60年（1985）	4月	名誉会長　石渡俊一　二代目会長　瑠東　治　副会長　青木昭二・植田義明・岸　久雄・野村明雄　七代目理事長　石橋三彦 （事務局は大阪府立高槻北高校内に置く）
昭和61年（1986）	7月	瑠東　治会長死去、岸　久雄副会長会長代行に就任
	8月	第１回上海対大阪親善交流大会大阪市立東淀川体育館にて開催（平成９年で11回目）
	9月	名誉会長　石渡俊一　三代目会長　岸　久雄　副会長　青木昭二・野村明雄・尾崎　弘・宝来敏夫　理事長　石橋三彦　　（事務局は同上）
昭和62年（1987）	1月	ジャパンオープン’97守口市にて開催
昭和63年（1988）	7月	第24回夏季オリンピック（ソウル市）に北田スミ子（三洋電機）出場、銅メダル獲得
	12月	昭和63年度全日本総合選手権（オールジャパン）守口市にて開催（平成４年・６年・８年開催）単で北田スミ子５連勝（通算８回）達成

平成元年（1989）4月　名誉会長　石渡俊一　会長　岸　久雄　副会長　青木昭二・野村明雄・尾崎　弘・宝来敏夫　八代目理事長　四方光市
（事務局は高槻市塚原6－21－2　岡上充仁気付に置く）

8月　第7回全日本家庭婦人大会（大阪府立体育会館）にて開催

平成3年（1991）4月　大阪府小学生バドミントン連盟誕生（初代会長　島津八郎）

平成4年（1992）7月　第25回夏季オリンピック（バルセロナ市）に水井妃佐子（四條畷女短大職員）出場

9月　名誉会長　石渡俊一　四代目会長　三宅祐司　副会長　青木昭二・野村明雄・尾崎　弘・宝来敏夫　理事長　四方光市　（事務局は同上）

平成6年（1984）12月　石渡俊一名誉会長が日本バドミントン協会最高栄誉賞の本田賞受賞

平成7年（1985）8月　第13回全日本家庭婦人大会（長崎）初優勝（以後14回・15回と3連勝中）

10月　平成7年度全日本シニア選手権大会を大阪府立体育会館にて開催

平成8年（1996）3月　青木昭二副会長大阪スポーツ賞（知事表彰）受賞、総会にて記念品贈呈

7月　第26回夏季オリンピック（アトランタ市）に宮村愛子／宮村亜貴子（サントリー）出場

9月　平成8年度全日本社会人選手権大会を大東市立市民総合体育館にて開催

平成9年（1997）4月　四方光市理事長が近畿地区より推薦を受け、㈶日本バドミントン協会理事に就任

10月　第52回国民体育大会バドミントン競技会を大東市立市民総合体育館にて開催

12月　**創立50周年記念式典挙行・記念誌発刊**

歴代理事長による

５０年のあゆみ

大阪のバドミントンの夜明け

二代目理事長　故川口　　清
（青木　昭二加筆）

昭和21年11月、東京に日本バドミントン協会（ＮＢＡ）が発足した。

全国的規模の唯一組織を目指し、その一環として近畿地方へは廣田兼敏氏を中心に大阪へ指向し、積極的に接してきた。この動向が、大阪協会設立への動きのひとつになったことは否定しがたい。

それでは昭和21年以前の大阪のバドミントンは、どんな状況であったのか、当時のことは記載したものから必要箇所を年代順に原文のまま引用すると。

1．大阪ＹＭＣＡバドミントンクラブは昭和８年（1933）に初めて結成された。「大阪ＹＭＣＡ発行、大阪ＹＭＣＡ史」

2．昭和13、14年ごろ、大阪市西区の大阪中央ＹＭＣＡでバドミントンが行われ・・。「毎日新聞、昭和52年11月29日付　朝刊」

3．昭和14年に筆者（廣田兼敏氏のこと）は、関西の大阪（大阪ＹＭＣＡは松葉体育主事）、ならびに神戸ＹＭＣＡ（石渡体育主事）に講習指導、（中略）東西のＹＭＣＡを通じ、一般に指導普及した。「バドミントン界79号」

4．昭和15年７月13日、於大阪ＹＭＣＡ、（中略）成績は横浜ＹＭＣＡのワンサイドゲームで、（中略）大阪をリードした、「バドミント界83号」

（註）バドミントン界はＮＢＡ機関誌であったが20年程前に廃刊された。

当時、大阪では、バドミントンも含めて室内スポーツを指向するとき、学生生徒を別にして、社会人の場合は、その体育館の確保が甚だ困難であった。ただ、土佐堀の青年会館の愛称で市民から親しまれていたＹＭＣＡの体育館が、すべての人たちの利用に応じていた唯一無二のものであった。

大阪におけるバドミントンの源流は、これらの事が重なり混じりあって、自らＹＭＣＡとその関係者に到達する。そこで、ＹＭＣＡ関係でバドミントンに親しんだ方々を挙げると。

フェンシング仲間では、福田氏（元日本フェンシング協会理事長）・辰馬・的場・川崎氏、ＹＭＣＡ職員では松葉・石渡氏で指導者の役割は川崎氏だったと思う。

用具は淀屋橋の美津濃か、レインクロファード（当時、神戸で斬新な各種輸入品を扱っていた店）あたりで求めたようだ。

指導者の川崎策実氏の回想には。

「私は徴兵検査を受けた昭和７年に、神戸外人クラブの体育室でポルトガル系の外人からバドミントンを教えてもらいました。これが私とバドミントンとの最初の出会いです。以後私は、ここでプレイを続けると同時に大阪ではＹＭＣＡでもやり出しました。

辰馬、的場、福田、松葉氏などとＹＭＣＡでラケットを握っていた昭和９年頃、神戸のナルト（東南アジア方面へバドミントン用具を輸出していた商社、本社は横浜市）へラケットを求めに行った帰りの阪急電車の中で、未知の乗客からバドミントンについて尋ねられた記憶があります。

思い返せば半世紀に近い年月の間、多くの同好の友人とこのスポーツを楽しみましたが、取り

分けて印象に残っているプレイヤーは、辰馬、八幡の両氏です。八幡氏は戦前派プレイヤーのうち最年少者で、昭和13年後半か翌14年に、川崎氏などからバドミントンの手解きを受けたものと思われる。以後軍役期間（昭和17年２月から同21年５月）を除いて、バドミントンを続けた。

昭和21年６月には同年４月に復員した川崎氏と協力し、バドミントンに興味をもつ青年たちを集め指導し始めたことは、大阪はもとより全国的にも高く評価されよう。

再び昭和初期以前に話を戻す。

大正中期に中距離走者として極東オリンピックの候補選手であった松葉徳三郎氏は、故八幡氏を斯界に導き入れた先輩でもあった。

同氏は、昭和７年７月12日、羅府オリンピック視察のために横浜から渡米した。在米中、宿舎のＹＭＣＡの体育館でバドミントンを試み、帰国後昭和13年５月に軍隊へ入るまで大阪ＹＭＣＡの職員として同所の体育館で続けられた。

石渡俊一氏は昭和２年８月、神戸港より体育の研究のため米国へ出発された。渡米中はバドミントンの経験は無く、昭和８年11月に帰国後、昭和11年に神戸ＹＭＣＡに就職し、神戸外人クラブに出入りするようになり、ここでバドミントンの本格的な技術をマスターされた。

少し話が横道に逸れるが、松葉氏は石渡氏の義弟にあたる、ともに戦後朝日新聞社に籍を置かれ（石渡氏－企画部、松葉氏－運動部）、戦後の高校野球の復活に尽力された。また両氏は名トレイナーとしても有名である。

そして昭和20年８月敗戦になる。

昭和21年６月には川崎氏は３年、八幡氏は５年ぶりにラケットを握る。そこへバドミントンの全く未経験の青年男女が次々に集い始め、やがて15人ほどのグループとなって両氏の指導を受けだした。以前は、一部の人のスポーツでは、とも思われていたバドミントンに僅か15人でも関心をもつ市民が、しかも社会人ばかりが期せずして集まったのは特色づけられる。

用具は、未だ市販されておらず、殊にシャトルの調達には苦労が多い。ある時は、川崎氏が米陸軍（占領軍）に交渉し、話がまとまると米軍のＳＳＯという兵士達への特別用務を担当する部門まで用具を貰いに行った。これらの物品は米軍が、その兵士の余暇活動に準備しているのだから大した品質でもあるまい、と軽く考えもしたが、包みを開くと米国の一流メーカーのラケットや水鳥製のシャトルである。

この年の秋、ＹＭＣＡは大阪府の後援を得て講習会を、人事院レクリェーション課長をつとめてた柳田亨氏と松葉徳三郎氏を講師として開いた。受講者は商社などから派遣された人たちであった。内容もデンマーク体操を主とし、新しいスポーツも紹介する計画であったので、多くの人には目新しいバドミントンを公開した。これが大阪で一般市民にバドミントンを問いかけた初回であろう。

同じ頃11月、第１回国民体育大会（秋季）が京阪神地区で開催された。

大阪協会の歴史を語るとき、ＮＢＡの創設との深い関わりを見逃すことができない。そこで、体協が発刊（昭45）した「日本スポーツ百年」の、関係箇所を原文のまま引用させていただく。

「・・・・同年（昭21）12月には遂に待望の日本バドミントン協会の設立に成功するといった進展ぶりであった。いまここで最初の協会役員を記しておく。

◆会長白山源三郎（横浜）

◆副会長白石謙作（東京）

◆常務理事清水太郎（東京）今村正雄（東京）宮沢宏之（東京）広田兼敏（横浜）
川崎策実（大阪）

◆兵藤昌彦（横浜）松葉徳三郎（大阪）池田鮮（東京）川口清（大阪）石渡俊一（神戸）
山本孝二（神戸）仲地幹雄（東京）八幡満胖（大阪）田中荘三郎（北海道）
◆顧問平沼亮三
◆賛助柳田亨」と記載されている。

この中に大阪協会より５名が関与している。

昭和21年６月末に川口氏が中国から帰国した頃は、前述のとおり、大阪では、ある程度さかんにバドミントンを行っていた。

大阪協会の事実上の設立者であり、日本協会の草創期にも大きく係わってこられた川口氏は、バドミントンとの出会いを次のように語っておられた。

「昭和22年５月頃、川崎氏はバドミントンの練習に励んでいた私に『大阪のバドミントンを育てるために、世話を・・・』と。この話に千鈞の重みを感じた私は、この日からこのスポーツに、のめり込んだ。

そのうえ、戦前から体操その他の指導を受けていた石渡、松葉両氏が、バドミントンの先達であることを知り、川崎氏を含めた３人から叱られつつ、その組織化の道を歩みだした。これが真実である。」

この年秋（昭和22年10月）に我が大阪バドミントン協会は設立された。設立当時の役員名簿は残念ながら残っていない（註)、石渡俊一・松葉徳三郎・川崎策実・川口清氏が中心であったと思う。

（註）石渡氏は95才のご高齢、他の３氏は他界されました。(1997・８現在)

昭和23年の秋、第３回秋季国体が福岡県で開催された。廣田兼敏氏（ＮＢＡ副会長）と兵藤昌彦氏は、福岡国体に出向し、そこへ参集した全国の関係者に、バドミントンを国体の参加種目にさすべく、鋭意活動し、エキジビジョンさえも行なった。

両氏は、バドミントンが翌年（昭和24年）の国体から参加できる見通しを持ち、帰京途次、大阪協会を訪問し、全日本や国体などの最新情報を話題に、石渡、松葉、川崎・川口氏などと懇談した。

大阪協会の当初の正式名称・代表者職名・代表者は、大阪府バドミントン協会・委員長・石渡俊一であった。(ここでは大阪府となっていた)

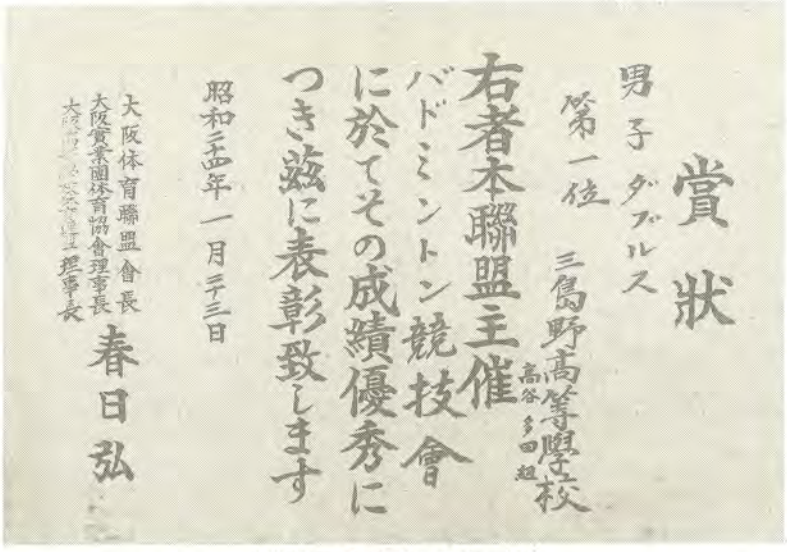
昭和23年も終り近くに、川口氏は、大阪府庁と大阪市庁のそれぞれの体育所管課へ、それぞれの用件に従って出向き、前記団体名や職名を記した書類を提出したが府庁は「当方が関係するスポーツ団体の代表職名には、委員長という職名が見当りませんので・・・」、市庁は「貴団体は大阪府バドミントン協会ですネ、こちらは大阪市ですから・・・」と、率直にいって玄関払いであった。無理もない。世間では、バドミントンを「進駐軍のハネツキ」程度の理解であったから。

その頃、大阪協会と連絡を取りながらバドミントンを行っていた学校は、茨木（註)、樟蔭東、高津の各高校であった。就中茨木は、生徒たちの自主的な活動からバドミントンを開始した。

（註）当時、三島野高校と称した。高谷氏は三島野高校併設中学３年の時からバドミントンを始めた。

当時は、バドミントン人口が少ないため総ての大会は協会が主管しており、高校の部・一般の部の区別だけで会場も同じであった。また、技術的には高校生の方が一般・大学生を上回っていた。

ここに当時を語るに相応しい一枚の貴重な賞状がある。


賞状
男子ダブルス
第一位　三島野高等學校
高谷・多田組
右者本聯盟主催
バドミントン競技會
に於てその成績優秀に
つき茲に表彰致します
昭和二十四年一月二十三日
大阪体育聯盟會長
大阪實業團体育協會理事長
大阪バドミントン協會理事長
春日弘

（賞状男子ダブルス第一位）

昭和24年１月23日の男子ダブルス第一位（三島野高校／高谷・多田組）の賞状には、大阪体育聯盟會長・大阪高等学校体育連盟理事長／春日弘と書いてある。

また年間を通じての大会は、大阪体育聯盟主催の春・秋の府民体育祭が中心であったから、この賞状の受賞は真冬であるので、協会単独主催の大会で賞状だけを大阪体育聯盟から受けているようだ。（聯・會を見ると歴史を感ずる）

早くからバドミントンを楽しみだした高校生たちは、高津高校の顧問の井上得三先生に働き掛け大阪高等学校体育連盟（中等学校体育連盟）にバドミントン部を誕生させた。

初代部長・前田　要（高津高校校長）
主任・井上得三（高津）　現専門委員長
委員・前田（現秋岡）澄子（樟蔭東）
佐川寿恵子（扇町）・船原静江（生野）

同年秋（昭和24年10月31日～11月２日）東京ＹＭＣＡ体育館にて、第四回国民体育大会・秋季大会／バドミントン・オープン競技が開催された。

大阪を代表して次の選手が参加したが全員高校生であった。

一般男子シングルスの部
高谷芳明（三島野高校・１年）
伊藤誠治（高津高校・３年）
一般男子ダブルスの部
高谷芳明／渡辺　治（三島野高校・１年）
一般女子シングルスの部
藤波育子（樟蔭東高校・３年）
井口ひな子（高津高校・２年）
一般女子ダブルスの部
太子和美／衣笠度子（三島野高校・１年）

この大会の一般男子シングルス部の組合せで、単・複に出場していた高谷芳明氏（君）はは高校１年生でありながら、第１シードになっていた。このことは日本協会が大阪協会を高く評価していた表れと思う。

しかし、試合の結果は全て１または２回戦で退いた。また各試合に勝ち進む選手の所属地には、北海道、東京、神奈川などが目立ち、東高西低の力関係を知らされた。

バドミントン人口が少ないため、当時の選手たちは、対戦相手を求めて他府県との交流試合を盛んにした。京阪神はもとより、岡山市までも遠征した記録がある。

前記高谷氏は、このようにしてバドミントンに没頭した。以後、昭和３３年の富山国体への参

加も含めて、バドミントンを冠する数多くの大会や競技会へ選手として出場し、その選手権や優勝など、枚挙にいとまがない立派な成績を獲得した。

高谷氏について、特記したいのは、彼の分析力と組織力である。

即ち、前述の通り高校のバドミントン部を結成し、昭和27年高校を卒業、同志社大学工学部へ進学するや直に入部した。28年には主将に着き、部内を統率しながら、関大や関学などの同志と連携し、関西学生バドミントン連盟の創設に大きく寄与した。

昭和29年、彼は同連盟の委員長を引き受けるとともに、関東学生バドミントン連盟と太い絆を結んだ。やがて彼は、斯界の全国的な指導者になった。現在も学生バドミントン界のＯＢとして強い影響力を保持している。

周知の通り、青木昭二氏は、高谷氏の高校時代の顧問（昭和25年４月より）であり恩師である。しかし、バドミントンに関して言えば、高谷氏は前記のように中学３年生（昭和23年）夏より始めているので、先輩（？）と言えよう。

高谷氏の追憶によれば、昭和23・24年のほぼ２年間は現在では考えられないことながら顧問会議に出席して、ルールや試合の運営について説明いをして活躍していたようだ。

上田益弘氏は阿倍野区の出身である。同氏は、昭和24年位夏頃からＹＭＣＡクラブでバドミントンを始めた。かれの練習は、走る事とスブリに重点を置いていた。そのスケジュールは、北畠の自宅から土佐堀のＹＭＣＡまでを走り、体育館に帰着するや直ちにスブリを一頻、そして次に練習の本番で、帰りも家まで走ることの繰り返しであった。

昭和27年位、上田氏は同志社大学へ進み、昭和29年位、初参加のトマス杯（男子世界選手権）の代表選手団の一員に選ばれ香港へ行く。更に、翌30年、第１回（昭和23年）以来、関東勢に制覇されていた日本選手権（単）の覇権を手中にした。日本選手権が箱根を西へ越えた魁である。現在、上田氏は千葉県で後進の指導に当たっている。

（註）上記トマス杯の選手団の監督は、当時大阪協会理事長で日本協会常務理事であった、川口　清氏である。

時代をさかのぼらせて－。

大阪協会は、大阪の競技スポーツ団体を統括する大阪体育連盟（現、財団法人大阪体育協会。以下体連）に加盟するため、石渡会長と松葉氏が当事者と交渉したが、事は簡単に進まなかった。

その理由に、在来の追羽根競技（註）とバドミントンとの質的な面で競合関係や、時の学校体育ではバドミントンを女子に望ましい種目としていた。

あれこれ絡合う条件を背景にする体連は、バドミントンが、男女共に親しめる興味深いスピーディな競技スポーツ、の理解が困難であった。と推及できそうだ。

しかし、昭和24年、大阪協会は予断と偏見の環境を乗り越え、体連への加盟目的を果した。また、この年から、バドミントンが国体の競技種目になった事も、体連加入に好影響を与えたと思う。

（註）ネットを中央に、約10人１チームが羽子板で羽根つき合う女子生徒対象の競技。（秋岡氏談）

大阪協会へ、実業団が加わったのは、前述の通り昭和24年位４月に大阪協会が現在の大阪体育協会に加盟した直後で、その第１号は朝日新聞社バドミントン部、そして、代表者は藤村岩男氏（現協会参与）であった。

朝日新聞社が加盟するまでの大阪協会の会員は、ＹＭＣＡと茨木、高津、樟蔭東の各高校のみであったので、朝日新聞社が我々の仲間に入ったことによって、協会が大きく前進したように思えた。

その頃の協会役員構成は、各加盟団体から１名以上の理事者を選出していた。従って藤村氏は直ちに理事職に着き活動した。同氏は、バドミントンの盛り上がりは協会組織の拡大強化にあり、拡大強化は会員の増加が先決であるとして、さる大手のスポーツ用具店を通じ、バドミントン用具を購入した実業団を把握し、それら企業の関係者に協会への加盟を呼びかけた。このあたり頗る巧みなセールスといえるのではあるまいか。

その結果は、嶋久雄氏（現協会顧問、社会人連盟名誉会長、家庭婦人連盟会長）が経営するセントラル通商はじめ、大日本製薬、吉富製薬、タイガー計算器などの実業団が加盟を始めた。なかでも嶋氏は、バドミントンに強く傾倒し、自宅の庭の一部に正式の寸法を持つバドミントンコートを作り、同好者を誘い練習と技術の研究に熱意を注いだ。

昭和25年１月21日、日本協会主催、大阪協会主管のもとに第１回東西対抗バドミントン大会が土佐堀のＹＭＣＡ体育館で開催された。

大阪協会は川崎策実氏、仙波漸氏、玉木太郎氏等を中心に、神戸の海辺実氏などを加えて西軍選手団を編成し、男子単複約10ゲーム対戦したが、圧倒的な先進性を占める東軍に一矢も報いず終始した。おまけに競技規則の解釈に異論が生じ、ゲーム中に西軍は不利な判定を受けた。この論争は同年秋の名古屋国体まで続き、結局日本協会は大阪協会の論を認めた逸話がある。

昭和25年４月、大阪協会は新進気鋭の青木昭二氏を理事として迎えた。

昭和25年位、第５回国体は愛知県で開催され、バドミントンは正式競技種目に昇格した。いうなれば、スポーツ界の市民権を得たようなもの。ところが、大阪では、必ずしもそうとは言いきれない状況もあった。

監督である青木昭二氏が申し込み用紙を作成し、大阪体育連盟事務局へ持参したところ、時の理事長岩野保健体育課長が、『財産難であるため新種目のバドミントンは国体参加を認めない』として押印を拒み、石渡会長（当時朝日新聞社勤務）の出馬でやっと参加できた、嫌な思い出もある。

その正式種目になったバドミントンは、一般男子・一般女子・高校男子の３種目で試合形式は、現在と全く同じ１複２単（監督１名・選手４名）であった。

因にこの国体の参加は35府県であった。この年、ＮＢＡに登録していた支部協会は28府県であったので未加盟の府県も参加していたわけ。

出場選手は高校男子は当然ながら、一般女子も全員が高校生であった。言うまでもなく一般男子は、ＹＭＣＡのメンバーが中心になった。

昭和26年10月の広島国体では、高校男子（高谷・多田・寺田）は４回戦まで進み、初のベスト８に入った。

昭和27年10月宮城国体からは、一般男子は府県代表・一般女子・高校男子・高校女子（新設）は地区予選を経ることになった。

それから数年経ち・・

昭和31年10月兵庫国体で、一般男子（上田・松木・武村）が決勝まで進み第２位に入賞した。

当時は会場（体育館）の確保がきわめて困難であった。このことについて、青木昭二理事（当時高体連主任でもあった）は凡百の手段と努力を尽し、北野や西野田工業などバドミントンに関係のなかった高校の体育館まで確保した。

また、いずれの体育館もバスケットボールやバレーボールのコートは描かれてあっても、バドミントンのそれは皆無であった。

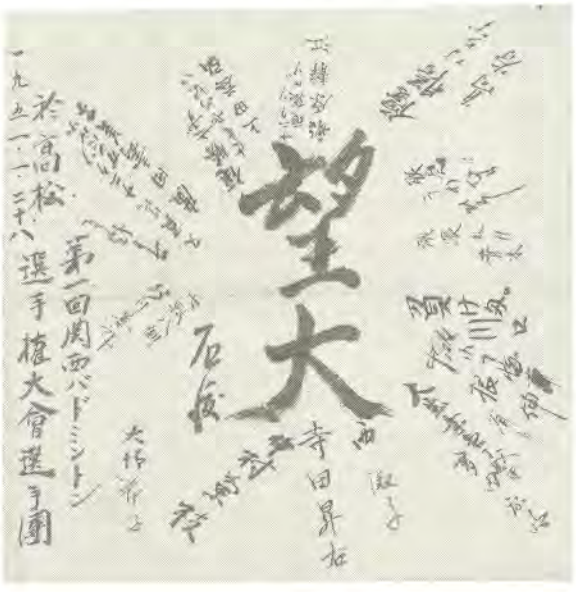
競技会当日は、役員が持参した巻尺と白墨で、役員も選手も共にに立ったりしゃがんだりして（こいつがしんどい）コートを描き、次はネットの支柱の代替に机や椅子を積み重ね、競技規則に

示す通りネットを張る（これがまたむずかしい）作業を毎度繰返した。

同じころ、嶋久雄氏（顧問）は、国際的にも有名な参考書であるベターバドミントンを全訳した、満足なルールブックすらもない時代に、嶋氏が翻訳したベターバドミントンは、恐らく貴重な参考書になったであろう。加えて数万字以上におよぶ労作であったのに、いろんな理由で印刷に至らなかったは残念に思う。

嶋氏を語るとともに同氏と組んで昭和27年位の全日本選手権で壮年（40才以上の部）複の選手権を手中にした、降井欽一氏についても触れておく。

同氏は、大正区にあった日産自動車大阪工場に勤務していた。同じ会社の横浜工場にはバドミントンのクラブがあったが、大阪工場にはなかったので、その創設を目指して40歳に近い身体のハンディを克服しつつ始めてラケットを握った。



彼は自分よりもはるかに若い指導者の言葉を謙虚に受入れ、忠実に守り真摯な練習に没頭した。そして昭和26年、第１回全日本実業団大会へ日産大阪工場チームを引率し参加した。また藤村氏も朝日新聞社チームを率いて出場している。

降井氏は昭和32年に横浜へ転勤したため、大阪工場のクラブは残念にも絶えてしまった。昭和40年位、彼は大阪へ再び戻り、地元熊取町で家庭婦人対象のバドミントンクラブのため尽瘁し、現在もこのクラブは存続している。更に彼は公認審判員資格を取り、これを一生の名誉と銘じ、日常生活へも公正であるべき審判員精神を敷衍する明治生まれの男であった。

第１回関西バドミントン選手権大会は、昭和26年１月28日に香川県高松市の高松市立体育館で開催された。大阪協会からは石渡会長以下１０数人が参加した。人員は僅少であるが、いずれの参加者も熟達したい、新しい技術を習得したいなどの気概をもっていた、と回顧できる。

最近になって私は、不図した機会に青木副会長から当時の寄せ書き（写真）を見せられ、３０年前の事々が走馬灯のように頭の中を走り、面はゆく思わず微苦笑を禁じ得なかった。

高松で開かれた第１回関西大会は、翌年の第２回から西日本大会と名称を改め、松江、京都、福山、善通寺、大分、岡山そして大阪（昭和33年）へと逐次、年ごとに場所を移して開催された。

一方、第３回まで京浜地区で開催されていた全日本選手権は、第４回（昭和26年）は金沢であった。大阪協会はこの大会に、船原静江氏（元会計監査）と大石淑子（ブラジル在住）を初めて派遣した。翌年の昭和27年春の第５回全日本は、大阪協会が主管して天理大学の体育館で開催した。話は前後するが、昭和26年３月に第１回大阪選手権を西宮体育館（西宮北口駅西南約0.4キロ、現在は住宅地）で開いた。いずれも大阪に適当な体育館がなかったためである。

前述の天理での日本選手権では、昭和24年位創設した関西大学バドミントン部の藤井、植木、西及び大塚など、その頃の学生諸氏が、労多くして報われることの少ない諸準備に、全く昼夜を分たず努力を惜しまなかった事と、嶋（現顧問）・降井組が壮年複の選手権を得たのを思い出す。関大の名が出たが、当時の大学バドミントン部や同好会が大阪協会へ加盟を希望してきたのは、昭和25年位暮れ頃に関大（仙波、青山）と大阪経大（浜崎）が最初であった。また別途、大阪大（柊）から指導者派遣要請があった。なお上記括弧内は学生代表者名。

昭和27年12月３日に大阪府立体育会館が完成（別館は昭和34年２月20日落成）した。この施設

は、当時はあらゆる室内スポーツが可能と喧伝されていたので、大阪協会は、暗夜に黎明を発見した思いで、大きな期待をいだいた。

建設計画段階で、建設協力を、多分大阪体育連盟が提唱したと思うが、大阪協会はこれに賛同し、関係諸団体に倣い、決して豊かでない中から寄付をした。

そして開館された。開館直後に見学にいくと、バレーやバスケットの線は鮮やかにひかれているのに、バドミントンコートは1面すらも描かれていなかった。その理由は「バドミントンコートの線が他競技の線といりまざり、それらのスポーツをするとき邪魔（ジャマ）になる」であった。それではどうしてバドミントンをするのか、の質問に、その都度線をひき、ネットは、壁から壁へ引き渡した4コートの分の綱へ、コートごとにネットをつり下げ、綱が弛む辺りへは支柱を立てる、とのこと。

まるで、長崎の「龍おどり」ではないか。

率直にいって、寄付金を醸出したことを悔やまれた。

しかし、唯一の公共体育館である。除外するわけにもいかぬ。後に全英・米選手権保持者が、突然来阪した時も使用した。

昭和29年3月に全英男子ダブルスの選手権を取り、続いて米国へ渡り4月に全米の同選手権を得たのは、シンガポールのオイ・ティク・ホクとオン・ポー・リムである。彼等は西回りで帰国途次日本へ寄った。

外人プレーヤーを迎えた経験のない大阪協会は、国際感覚の豊富な石渡会長と卓抜した英語力を持つ嶋顧問の指図に従って彼等を迎え、大阪府立体育会館で交歓試合、というよりむしろエキジビジョンマッチと言えそうな大会を開催した。

さて、大阪協会の事務局は、創設以来西区土佐堀のＹＭＣＡに置いていたが、昭和29年春に学芸大学と称していた大阪教育大学天王寺校の西にあるアベノ橋ＹＭＣＡへ移転した。そのころバドミントン部が結成されたばかりの同大学では、現在大阪協会や同教職員連盟の役員として活躍している宮脇・島津・北野・宝来の諸氏などが同部員として熱心に練習しておられた。

昭和30年前後は、各方面にバドミントンが一応周知され、その萌芽の時期であったと思われる。高校界では大阪女子商業が存在を示し初め、実業団でもＫＤＤの台頭が見られる。　昭和33年頃にＮＨＫ大阪はＴＶスポーツ教室にバドミントンを取上げ、大阪協会は関大ＯＢ松王清志氏等を派遣し、その放映に協力した。また同年、大阪で開催された五大都市大会にバドミントンの部が開設されたことを付記して、私の稿を終える。

昭和33年4月三代目宮脇正晴理事長誕生



小松康博（関大）
山口昭子（樟蔭東）
（　）
（　）
松王清志（関大）

バドミントンの歴史

協会活動の振り出しと思い出

（昭和３３年４月～４１年８月）

三代目理事長　宮脇　　正晴
（現大阪市バドミントン協会会長）

昭和３３年４月大阪バドミントン協会（青木現副会長を中心として）より「理事長」就任を要請された。川口理事長が転勤されて、理事長職を継続することが困難となり誰か新しい、替わりの人をという事であった。市立大正東中学校に勤務して４年目を迎える２５才の時であった。学校生活に少し慣れ始めた頃だし、理事長という大役なんてとってもと思ってたが、何はともあれ教頭に相談すると、若い時の経験だから引き受けたらという意向を聞いたので、就任をお引受けすることになった。

在職中の理事会などの会議は、石渡会長が朝日新聞社に転職されたり航空部の現参与の藤村氏が勤務されている関係で、会議室を随分と使用させて戴き役員の理事の方も若いという事もあって、常に多く出席されて随分と討議を重ねたものであった。

就任のすぐ７月中旬に、第９回五大都市体育大会（大阪、神戸、京都、名古屋、横浜の五市）が京都市の主管で開催されることになり、バドミントン種目が新しく加えられるので、選手の選考から選手団の派遣に携わり監督として選手団と同行することにもなり、以来五大都市体育大会とは今日まで関係が続いている。

此の年より２２年間、昭和５４年まで府協会が五大都市大会の開催や選手選考や派遣を行ってきた。初期の頃は横浜市の男・女が抜きんでて強かったが、大阪市開催と神戸市開催、昭和３５・３６年と昭和４０・４１年の回については大阪市の男子が優勝している。第１５回頃迄は、各総合開会式場迄市庁舎から炎天下で選手団が行進を行ったものである。京都市庁から円山公園、横浜市で中国人街を行進中爆竹の歓迎をうけて驚いた事など強い記憶として今でも残っている。其後炎天下の行進と交通事情などから市中行進は中止になっている。でも第１回の開催時から考えると１５年近く行われたものである。

５４年の第３０回開催を機に府バドミントン協会主管の五大都市大会を、大阪市にバドミントンの組織（協会）を設立してもらい、大阪市関係の大会、競技会は市の組織で主催、主管してもらったらという理事会の意向をうけて、府実業団連盟副会長（下）の池田芳麻氏と私とが市内在住勤務であることから、大阪市バドミントン協会が誕生した。以降５９年（３５回）６４年（４０回）平成６年（４５回）の３回の主管主催を行った。

昭和３３年の秋季国体が富山県開催され、初めて監督として参加し、総合開会式で降雨に出逢った。

翌年の東京国体では国立競技場の大きさに圧倒され、すり鉢の底を行進しているような感じだった。バドミントンは、成人男子、高校男子、教員男子の男ばかりの３種別が参加し、夫々２・３・４位に入賞して、総合成績天皇杯第３位という立派な成績を得た。その時技術面で一つ感じた事は、関東の男子選手が、ハイバックストロークを使っている点を始めてみて、こんな技術があるのだなあと思った。――今では大抵が普通に使用している技術だが当時は、習得に入り始めた時期であったと思う。今から３８年昔の事である。西は岡山・山口・熊本・佐賀での国体、東は東

京・新潟の国体の監督として夫々参加し、大阪は勿論全国の著名選手の移り変わりも目の辺りに見て来ました。

平成９年現在で、昭和２７年にラケットを握ってより４５年間、府・市バドミントン協会の運営等に携わって３９年間、色んなバドミントンに関わり合って来ました。もうラケットを使用しての活動やお役に立つ事は限界ですが、バドミントンの普及発展競技会の開催、指導者の養成という面ではまだまだお役に立てそうです。

現大阪教育大学の部創立（昭和２８年)、大阪教職員連盟の設立、赴任中学校（４校）でバドミントン部創立、そして最後に大阪市バドミントン協会の設立とクラブ等の組織設立にも関わり、バドミントン活動の多方面の経験した中で数多くの、協力・和が物事の遂行関係の基礎である事を体験しました。

府バドミントン協会が５０周年を迎えるに当たって活動の記録等をまとめて発表できるのも何かの機縁でしょう。色んな過去を振り返りつつ、明日を求め未来に期待してバドミントンとの関わり合いを続けていきたいと思っています。

バドミントンとの出会いと理事長時代の思い出

四代目理事長　青木　昭二
（昭和41年９月～昭和52年３月）

この記念誌には、草創期からの役員の一人として、協会沿革・座談会などに度々名前を書かせて頂きましたが、戦後急速に大衆化したバドミントンと私の出会いは、いささか個人的なようですが、大阪のバドミントンを説明するのに、役立つように思い、この機会に書かせて頂きます。

私は、戦後軟式庭球を楽しむ程度にやっておりました。昭和24年４月に府立三島野（(現在の茨木）高校に転勤したのが、この競技と縁が出来たきっかけです。ご存じのように、府立三島野高校はバドミントンをいち早く取り上げた高校の１つで、草創期の大阪協会を語るときには、忘れることの出来ない選手高谷芳明少年（現協会参与）を中心に極めて自主的にクラブ活動をしておりました。

私は、彼らの懇請により顧問を引き受けたのを機に、大阪のバドミントンのメッカである土佐堀のＹＭＣＡへ顔を出すようになり、川口清氏、川崎策實氏よりバドミントンを教えてもらうようになりました。そんな訳で大阪協会（当時は大阪府協会）の理事になったのは昭和２５年４月でした。

翌年の昭和26年４月より高体連主任（現在の専門委員長）にもなり、いよいよバドミントンにのめり込んでいったわけです。

名理事長川口清氏にはバドミントンの競技運営を始めとしてあらゆる事を教えて頂きました。その川口氏が突然に、昭和33年勤務の都合で理事長を辞任されることになり、大阪協会は後任探しに随分苦労しました。年令的に私が受けるべきであったのですが、私は体育専門である新進気鋭の宮脇先生を推薦し、ここに三代目宮脇正晴理事長が誕生しました。

それから８年を経過しました、私は新設の茨木工高で、若さ一杯の石橋先生（７代目理事長）とバドミントン・クラブの指導に当たっておりました。

昭和41年９月始め、どんな事情があったのか深く知りませんでしたが、宮脇理事長を始め皆さんの推薦を受けて理事長になりました。もともとバドミントン『大好き人間』でしたので、水を得た魚の如く猛進（？）しました。新設校に転勤したため２、３年間協会より離れていましたが、素晴らしい協力者（宮脇・池田・宝来・岸・藤浪・溝渕・佐藤・石橋・・・）各氏のお陰で、理事長就任よりどんどんと、新しいことが出来たと思っております。

最優先に取り上げたことは、協会の組織的な運営には規約・会員名簿・大会要項等を掲載した『大阪バドミントン協会要覧』の発行でした、たった20ページの薄いものでしたが１カ月位で発行出来たときは感激でした。唯一の広告を出して頂いた大一スポーツと牧志氏のお世話で大丸百貨店直営の大丸印刷に感謝致します。

次に考えたことは、常務理事会の定期的開催（毎月１回）でした。
勤務を終えた役員が、電電会館の食堂で軽食を執りながら協会の運営について語った事を思い出します。当時の役員は石渡会長が60才位で、それ以外は全員が30才代でした。

この年の私の日記によると、９月・国体近畿予選、10月・大分国体、12月・薫英高校にて近畿総合選手権、府立体育館別館にて全日本学生東西対抗、１月・日本協会総会、３月・大阪総合選手権、大阪協会総会などで、新理事長就任はあっという間に半年が過ぎました。

ここで、昭和61年７月病のため不帰の人になられた瑠東治副会長に少し触れさせて頂きます。

昭和42年４月の役員改選で、本会に大きく貢献された瑠東治副会長を迎えました。瑠東氏は教員生活だけの私に実業界の感覚を植えようとされたり、またボクシング競技出身のスポーツマンという事で、役員会の席上厳しい（精神的な）パンチを加えられたりしましたが、これらは総て私の協会運営に役立ったと感謝しております。

瑠東治副会長は商社出身の実業家（高島屋の包装紙－バラの包み紙の印刷会社の社長）で学生時代はボクシング選手、またゴルフでは名門茨木ＣＣ・鳴尾ＧＣのメンバーで各界に知人が多く、大阪協会が躍進する時期でもあったので指導力を存分に発揮されました。

石渡会長の大学の後輩のため、常に控えめながら適切な助言は遠慮無く言われたことを懐かしく思い出します。殆どの試合には会長と同行され、バドミントンのルールもご存じない方でしたが、バドミントン競技を盛んにする環境造りは抜群でした。

大阪学生連盟の再建に努力され、自ら会長になり陣頭指揮を摂り、沢田英男（関大）・民谷憲二（市立大）・清水英俊（関大）の名委員長を育てられた。

前記したように、協会役員は40才前後が中心であり活気に満ちており、大会終了後は反省を兼ね夕食をとることが普通でした。そして夜遅くまで麻雀を楽しんだものでした。

年末には役員大会と称して、昼間は石渡杯争奪バドミントン大会、夜は瑠東杯争奪麻雀大会で頑張ったものです。マイホーム主義とかクルマ社会と言われない時代の昔話です。

私は、昭和46年から日本協会理事、昭和50年から同常務理事になりました。その結果日本協会と直結したことになり、大阪協会は一躍名実ともに全国区の協会になりました。理事長が日本協会の執行部に席を置くことは、言葉を替えれば大阪協会が日本の代表的な協会と見られることでした。しかし、お陰で前段にも書きましたように、素晴らしき協力者によるバックアップにより、日本協会のために思う存分活躍できたことは本当に幸運でした。

一方、選手達の活躍も枚挙に暇がありませんが、東大阪高校・短大から四條畷学園高校・短大選手が全日本から世界選手権まで活躍し、昭和51年には今では、ごく普通の企業スポーツのサントリーチームの誕生でした。その選手を育てられた、佐藤茂雄（東大阪）・片岡輝明（四條畷学園）・山本次生（サントリー）の諸氏には唯々感謝のみです。

これらの大阪が生んだ選手のお陰で、数々の国際大会や有料大会が開催できました。

昭和47年１月の第１回国際大会（デンマーク対全日本）・昭和48年９月の第１回日中大会・昭和50年４月の世界女子選手権（ユーバ杯）日本代表選手壮行会・昭和52年２月の第６回国際大会（全ヨーロッパ対全日本）でした。

これらは大阪のバドミントン愛好者をどんなにか魅了したことか！また協会の特別会計を潤したことか！

昭和52年３月私は日本協会の役員に専心するため理事長を辞し、宝来敏夫理事長にバトンを渡しました。

理事長の記録 －昭和52年から－

五代目理事長　宝来　敏夫

昭和51年度までの理事長青木昭二氏は、数年前から日本バドミントン協会の常務理事の仕事を担当されるようになっていた。常務理事としての仕事の比重も増えてきたので、大阪協会の仕事をバトンタッチしてほしいということになった。幸い、大阪協会の理事会のご支援もあったので引き受けさせていただいた。

〔昭和52年度〕

協会の内外とも、おめでたいことやいくつかの新しい事業がスタートするなど活気のある年となった。

5月　第1回世界バドミントン選手権大会がスェーデンのマルメで開催され、女子ダブルスで植野恵美子選手（当時四條畷短大）が梅野尾悦子選手（ヨネックス）と組んで優勝。大阪協会主催で祝賀会を行った。

また、春の表彰で、嶋　久雄顧問（社会人連盟会長）が藍綬褒章をお受けになった。こうした形の栄誉は、協会でもあまり例がないので印象に残っている。

10月　第32回国体では、女子チームの大活躍で前年に引き続いて、皇后杯1位（天皇杯2位）を獲得した。しかし、男子の種目では、なかなか得点を得ることができなかった。

2月　この年度のサントリーチームの活躍も素晴らしく、全日本総合バドミントン団体戦で2連覇を記録するなど大阪のバドミントンファンに大きな刺激をあたえていた。3月には、全英大会で徳田敦子・高田幹子組が優勝。日本の女子チームが世界に君臨し、そのメンバーの多くが大阪の選手であった。

しかし、こうした選手強化については、四條畷学園やサントリーといった個々のチームの努力の結果であり、協会としての態勢はまだ整っていなかった。

そこで、昭和52年6月に「専門委員会規定」を設け、指導強化専門委員会をおくこととした。そして、11月には、指導者研修会と中・高校生強化合宿を実施するなど大阪のレベルアップをねらった行事をおこなった。また、もっと底辺への普及を目的とした「小学生教室（前半に実技講習会を後半にゲームを行うようにしたので教室と名付けた）」を教職員連盟の協力を得て実施した。

12月5日　大阪協会創立30周年の記念祝賀会を大阪郵便貯金会館で挙行した。石渡会長の力強い挨拶で始まり、日本協会・近畿協会をはじめ歴代の役員・選手さらにはマスコミ関係者など多くの来賓を迎えて盛会であった。

〔昭和53年度〕

大阪協会の登録者数は3,800名余りで、そのうち一般が1,000名余り、高校生が2,700名という状況であった。使用会場のスケジュール会議の時には、高体連の役員の方がずいぶん苦労されていた。

この年から、社会人連盟の中に家庭婦人部会を設けていただき、家庭婦人連盟の創設への前段階として組織化を目指した。

5月　第6回　日中バドミントン大会が中止となった。大阪でも数カ月前から積極的に準備を勧め、当時法円坂にあった大阪市中央体育館で開催すべく手筈を整えた。各連盟の努力もあって前

売り券の発売も順調であったが、5月になって中国から「日本協会の招待には応じられない」という連絡があり、日本協会でも臨時総会を開いて中止と決定した。

背景には国際レベルの組織の問題があったようだが、協会として急遽、新聞広告を出すなどして周知させると同時に、前売り券の払戻をした。

この出来事で、国際大会のむずかしさを経験したことになるが、それ以後の国際大会の開催にはあまり影響を及ぼさなかったのは救いである。

10月　第33回　国体では、昨年に引き続いて皇后杯1位、天皇杯2位。その他全日本総合や全日本実業団などでのサントリーの活躍がめざましく、大阪協会としても、サントリーの担当の方からマスコミの方々への対応の仕方をいろいろと教えていただいた。

四條畷学園の北田スミ子選手が高校生ばなれをしたプレイで台頭してきたのもこの年であった。

〔昭和54年度〕

4月　総会において、大阪府家庭婦人連盟の加盟が認められ、7番目の連盟として活動を始めた。嶋会長、村井理事長の態勢で精力的に事業を展開され、全国的にもリーダーとしての役割を務められ、現在の基礎を確立された。以後家庭婦人連盟には、仕事の分担のうえで助けられることが多かった。

なお、この総会で提案された大阪協会の一般予算は総額120万円（通常経費約60万円、強化費約40万円、指導関係費16万円等）で、現在とは隔世の感がある。事業が拡大し、各地との交流が活発になる中で、経費の確保にはずいぶん苦労した。

6月　村上平一郎顧問がご逝去。村上学園理事長として東大阪短大・高校の活動をとおして大阪協会がずいぶんお世話になった。

8月　この年の四條畷学園の活躍は素晴らしかった。全国大会で、高校が完全優勝、中学が男子優勝、10月の大学選手権でもダブルスで優勝、3月には片岡輝明氏が関西スポーツ賞を受賞されるなど学園の指導過程が高く評価された年であった。

〔昭和55年度〕

6月　関西の大学チームの雄　関西大学バドミントン部が創立30周年の記念式を挙行された。関西学生リーグでは常に王座を確保され、多くの日本代表選手が育つなど大阪協会の大きな柱として影響力が大であった。

10月　四條畷学園短大が全日本学生で初優勝、北田スミ子選手が個人戦と合わせて3冠王に、また、11月の全日本総合でもシングルスで優勝するなど大阪のバドミントンファンに大きな刺激を与えることになった。

〔昭和56年度〕

5月　この年の予算総額は約170万円、日本協会への登録会員数は約6,200名（一般1,900名、大学600名、高校3,700名）と記録されている。

第9回世界女子バドミントン選手権大会（ユーバー杯）が東京で開催され、日本が防衛に成功。徳田・高田・東海林・高峯（サントリー）北田（四條畷短大）の大阪勢が活躍した。

11月　日本協会の会長に、桜内義雄氏が就任。全日本総合で北田スミ子選手がシングルス2連覇。

12月　第3回日本リーグでは、サントリーが優勝3位には三洋電気、以後両チームは好敵手としてしのぎをけずることになる。両チームの対戦は、リーグの目玉として人気があった。

大阪協会の旗を作成した。デザインは、30周年の記念として作成したバッジをもとにしている。

1月　日本協会からの要請で、日英対抗親善競技会を実施。当時、日曜日の午後にスポーツ実況の時間をもっていた京都テレビに放映していただいた。担当の乾　肇氏は、バドミントンに常にご支援いただき、メジャースポーツを目指すバドミントン界のあり方について、いろいろと示唆

をもらった。

相変わらず財政的な基盤の弱い大阪協会にとって、後援態勢の組織化が話題となっていた。そのころは、連盟からの分担金と事業収入の他に、顧問の方々から寄付をいただいて活動をすすめていた。しかし、もっと広く協会の活動を理解していただくとともにご支援をお願いすることについてが、その内容であった。現在の賛助会員への発端でもあった。

〔昭和57年度〕

5月　大阪協会選抜チームが発足する。協会の特別会計からの支出のほかに、いろいろな苦労をして経費の確保に努力した。

日本バドミントン協会が、財団法人として認可された。

この年も多くの事業が計画されたが、私自身の勤務の都合で理事長としての仕事ができなくなってしまった。辞任をお願いしたが、任期途中であることを理由に認めてもらえなかった。そのため、池田芳麻氏をはじめ当時の副理事長や理事の方々にずいぶんご迷惑をかけることになった。

しかし、第4回日本リーグの開会を担当したり、国体で皇后杯を奪回したりなど、協会の活動はますます充実していった。

理事長として仕事をさせていただいて、十分なことができなかったという反省でいっぱいである。幸い、石渡会長、瑠東（故人）・青木両副会長のご指導と理事の方々の精力的なご協力のおかげで、いろいろな活動を実施することができた。また、実施の過程でいろいろな職業の方々と話す機会を得ることができ、バドミントンのみならず自分の生き方についても考えることの多かった期間でもあった。

改めて、お礼を申し上げたい。

雑　　感

七代目理事長　石橋　　三彦

大阪バドミントン協会50周年誌に協会の歴史を綴れとの依頼がありましたが、大阪協会の歴史そのもの青木先生がおられますので、個人的な思いを述べるにとどめます。

昭和63年12月20日、高槻北高校生４人、岡上氏、川上氏と全日本総合バドミントン選手権大会で借用した審判台、カウンター、コートマットを返すために京都府長岡京市の体育館へトラックで行くが、体育館ではほとんど運搬の手伝いができず、フロアーに座り込んでいた。

12月22日、ともかく２学期末の成績を担任に手渡し、その足で高槻赤十字病院の内科に飛び込む。若い医師に風邪だろうと診断されるが、内科部長に「午後の診断の後で診たろう」と言われる。心電図をホンの少し取ったところで「すぐ入院」ということになり、クリスマス、正月、さらに昭和から平成への時代を病院で過ごす。結局、平成元年は、７回の入退院を繰り返し７度のカテーテルを受け、おおよそ私のバドミントンにかける人生は終わりを告げざるを得なくなる。理事長も途中リタイアということで協会には随分と迷惑をかけ、申しわけなく思っています。

昭和60年４月に理事長就任以来、昭和60年12月、初めてテレビ中継（ＫＢＳ）の入った日本リーグ、そして、昭和62年新春早々のジャパンオープン、11月の日本リーグ、昭和63年４月の大阪上海交流会、11月の日本リーグ、最後の12月の全日本総合選手権大会、その間、ミニ国体、近畿総合選手権大会、大阪協会主催の各種大会等があり、それぞれに打合せ、準備、大会当日の運営、後始末とただ遮二無二走っていた気がします。余談ですが、日本リーグの入場券を大阪高等学校体育連盟バドミントン部で各学校に割り当てたところ、顧問の先生に正しく理解を得られなくて朝日新聞読者の声欄（S.60.11）で取り上げられたことがあります。当時存命だった母親に「あんさん新聞に載るような悪いことせんといておくれやす。」と言われ、説明するのが大変だったことも懐かしい思い出です。

思えば、理事長時代の四年間には、良き理解者、協力者としてサントリーの山本氏、現事務局の岡上氏、今は亡き御前氏、三洋の月原氏、バド大好きの星田さん達の献身的なバックアップ体制に支えられ、ともすればくじけそうな気持ちを元気付けられ、何かと大会成立へと導いていただいたものです。また、無茶な要望に快く応じて下さった大阪オフセットの西井さんにも感謝の気持ちで一杯です。

そして、決して忘れてはならないものは、在任期間中、すべての大会を裏方に徹してご助力を賜った大阪府家庭婦人連盟のお力添えです。的確な決断は素早くされる村井理事長を始め、いつもお喋りでは水をあけられていた池田さん、細やかな所まで気配りしていただいた上田さん、本当にありがとうございました。

さらには、瑠東会長様、岸会長様、野村副会長様には陰になり日向になって、引き立てていただきました。実業団連盟、教職員連盟、社会人連盟、高等学校体育連盟、中学校体育連盟のご支援・ご助力にあらためてお礼の言葉を述べたいと思います。

ところで、本当に心から楽しく、充実していたのは、昭和56年度より大阪協会の強化部で片岡氏、山本氏、月原氏、和田氏と一緒になって国体の天皇杯を何とか取ろうやないかと考え、その

目標に向け弱体化した成年・少年男子の強化をどうするかを課題としていた頃です。まず、強化するための資金作りからと、いろんな催しを忙しい中、企画したことです。

昭和58年、今は懐かしいカワサキの斎藤氏に無理を言ってTシャツを作ってもらい、売り歩いたのもこの頃です。昭和59年4月大阪バドミントン協会総合で強化部として初めて８０万円の予算が認められ、やっと強化部のやってきたことが認められたんだと喜んだものです。７月には七夕の集いを、さらに、奈良国体に向けて、大阪選抜チームの練習・合宿を６回実施、ついに昭和５９年１０月の奈良国体で念願の天皇杯を獲得したのです。昭和60年２月のバドミントンカーニバル等は労多くして得ることの少ない企画でした。しかし、それまで、ほとんど交流の無かった四条畷学園、近畿大学、サントリー、三洋を結びつけ、合同練習が出来るようにしたのは和田氏の功績です。バドミントンを心から愛している一人だと思います。京橋の鉄舟、大正の栄西、沖縄会館、どこも懐かしい場所です。京橋経由、大正経由、四条畷行きの白タクが何度あったことでしょうか。当時、瑠東会長が「無理しなはんなや。嫌なことははっきり断らなあかんで。」と常務理事会等の後の付き合いについてのアドバイスをいただいたものですが、私としては楽しくて仕方なかった頃でした。四条畷学園後援会の新木さんには言葉に尽くせぬご支援をいただきましたし、国体の民泊以来お世話になっている桐生の小倉夫妻、さらにはその友人の中島氏にも計り知れぬご支援をいただきました。バドミントンをやっていたからこそ、このようなすばらしい方々と巡り会えたのだと思います。良き思い出と様々な人の心を財産として与えてくれたバドミントンに感謝の気持ちで一杯です。

現協会を担って

八代目理事長　四方　光市

昭和６３年１２月末、大阪協会が初めて主管した全日本総合大会も盛会裡に終了して、ホッとする間もなく、石橋理事長が過労でリタイアされてしまった。

当時としては、強力なリーダーシップが求められた時期であり、石橋氏に充分な援護ができなかった自身を反省したが、後の祭りとなった。

理事長代行を経て、平成元年４月、自身の考えとは裏腹に、岸会長の要請を軽々に受けてしまったのが運の尽きとなり、以後、諸般の事情により、５期目まで勤めさせて頂くこととなってしまった。

その間、いろいろのご批判も多く、何度となく辞意を思い立ったのが、その都度、岡上氏や月原氏（現副理事長）と御前氏（故人）各位の励ましによって、臆面もなく勤めさせてもらっています。

理事長の不徳は、私を支えてくれる各位に大きな負担を押しつけることとなり、中でも、平成６年度（９月１４日)、僚友であった御前龍雄氏の不慮の死は、尤も悲しい出来事であり、誠に申し訳ない事と、ご冥福を祈るばかりです。

私は、協会の運営について、完全に遂行することは当然であるとして、万が一不備があっても担当を責めることはできないと思っています。それは、私達の役回りは、あくまでもボランティア活動の一環であり、唯も最初から不首備をしようと思っていないからです。故に、一つの行事を終えたとき、感情の大小はあっても、その成否に感動が受けられれば良いと思っています。

理事長就任以来、協会及びバドミントン界の発展を願い、別表の事業を開催して来ました。この様に毎年大きなイベントを続けたら、役員が疲弊してしまい国体までもたないというご批判を受けたが、これらのイベントは必要に迫られたもので、二つの理由からである。一つは、国体を控え、競技役員の養成が急務であり、則、各専門部の活性化と充実のためである。二つは、尤も大事なお金のためであった。

協会の一般会計を見るとき、傘下８連盟が分担している金額は、予算の２割に満たない金額であり、他は、補助金と事業収入で賄わなければならなかった訳である。

今後も協会組織の構成から、分担金比率を大巾に変更することは難しく、この様な財政状況を続けておれば、早晩、破産に至るのではないかと心配してます。

大阪協会の最大イベントである、上海市との友好親善バドミントン交流会について

昭和６０年の役員会（瑠東会長、青木、岸、植田副会長、石橋理事長）で、予て、岸副会長と上海市体育運動委員会の金永昌主任との間で話し合われていた、親善交流会を継続して行うということが決定された。

国際交流会として、翌６１年８月、上海市より選抜チームを大阪に迎え、第一回大阪・上海市友好親善都市バドミントン交流会が盛大に開催された。

平成元年（１９９０年）の第四回交流会は、色々な事情により次年度に延期されたものの、引き続いて、毎年交互に開催し、平成９年４月に１１回目を開催した。

大阪協会としては、ジュニア選手を中心に派遣することとして、強化育成のみならず、国際交流の経験という大きな収穫を得るところとなっています。

本事業は、毎年、好意的に賛助下さる法人及び個人賛助会員の皆様から賜る浄財で賄っています。

また、物心両面に亘るご後援戴いている、上海市体育運動委員会・上海市バドミントン協会・大阪市・大阪市教育委員会にも深く感謝申し上げ、今後も、継続して本事業が開催できますよう、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げる次第であります。

最後に、「なみはや国体」について

まず、悲願であった男女総合優勝が叶い、万感の喜びを健闘した選手諸君と後援の役員の諸兄と共に分かち合いたいと思います。

大阪府下で初めて開催される国体であり、平成５年に正式決定がなされ、我がバドミントン競技は、大東市で遂行されることとなった。早々に実行委員会が編成され、莫大な費用と多数の専門職員の緻密な計画のもとに完璧な運営がなされ、５日間がアッという間に済んでしまった感じがする。

実行委員会と協会役員との間に多少の軋轢はあったと思いますが、本国体に携わったすべての人達に大きな感動を与えてくれたものと感謝を申し上げます。

別　表

主管大会及び国際親善大会

1989年（平成元年）
- ◦第７回全日本家庭婦人バドミントン競技大会
  日時　８月７日～９日　　会場　大阪府立体育会館ほか
- ◦第４回上海市との交流競技会は諸般の都合により中止

1990年（平成２年）
- ◦第４回上海市交流競技会
  日時　４月２日～７日　　会場　上海市
- ◦第４１回全日本学生バドミントン選手権大会
  日時　１０月２９日～１１月３日　　会場　大阪府立体育会館
- ◦第１２回バドミントン日本リーグ　高槻大会
  日時　１１月４日　　会場　高槻市立総合スポーツセンター

1991年（平成３年）
- ◦第５回上海市交流競技会
  日時　４月３日～８日　　会場　大阪市
- ◦第１３回バドミントン日本リーグ　堺大会
  日時　１１月１０日　　会場　堺市立金岡公園体育館

1992年（平成４年）
- ◦第６回上海市交流競技会
  日時　３月３１日～４月６日　　会場　上海市
- ◦平成４年度全日本総合バドミントン選手権大会
  日時　１２月９日～１３日　　会場　守口市民体育館

1993年（平成５年）
- ◦第７回上海市交流競技会
  日時　４月２日～７日　　会場　大阪市
- ◦第１５回バドミントン日本リーグ　最終戦
  日時　１１月２８日～２９日　　会場　高槻市立総合スポーツセンター

1994年（平成６年）
- ◦第８回上海市交流競技会
  日時　４月２日～７日　　会場　上海市
- ◦平成６年度全日本総合バドミントン選手権大会
  日時　１２月６日～１０日　　会場　守口市民体育館

1995年（平成７年）　◦第９回上海市交流競技会
日時　４月５日～１０日　　会場　大阪市
◦第１２回全日本シニアバドミントン選手権大会
日時　１１月２８日～３１日　　会場　大阪府立体育会館
◦バドミントン日本リーグ '９５　最終戦
日時　１２月２日～３日　　会場　守口市民体育館

1996年（平成８年）　◦第１０回上海市交流競技会
日時　４月３日～８日　　会場　上海市
◦第３９回全日本社会人バドミントン選手権大会
兼第５２回国民体育大会リハーサル大会
日時　９月７日～１０日　　会場　大東市立市民体育館ほか
◦平成８年度全日本総合バドミントン選手権大会
日時１１月５日～１０日　　会場　守口市民体育館

1997年（平成９年）　◦第１１回上海市交流競技会
日時　４月１６日～２１日　　会場　大東市立市民体育館
◦第５２回国民体育大会
日時　１０月２５日～２９日　　会場　大東市立市民体育館
◦バドミントン日本リーグ '９７　最終戦
日時　１２月１３日～１４日　　会場　守口市民体育館

試合結果による

５０年のあゆみ

大阪総合大会結果

大阪総合バドミントン選手大会

栄光の記録

種目 / 年度	石渡楯		瑠東楯	
	一般男子単	一般男子複	一般女子単	一般女子複
昭和41年度（42．3）	加藤　彰（大日通運）	品川・木谷（電電大阪）	才脇妙子（丸紅飯田）	近藤・才脇（丸紅飯田）
42年度（43．3）	中川安正（電電大阪）	久保川・加藤（YMCA）	池田栄子（東大阪短大）	池田・篠山（東大阪短大）
43年度（44．3）	久保川正啓（YMCA）	酒井・吉川（FKC）	平山泰子（東大阪短大）	平山・篠山（東大阪短大）
44年度（45．3）	竹原　茂（電電大阪）	久保川・加藤（YMCA）	柴山きよ子（東大阪高校）	大場・高崎（東大阪高）
45年度（46．3）	和田泰寛（FKC）	三木・竹原（電電近畿）	高崎弘子（東大阪短大）	石崎・大場（東大阪短大）
46年度（47．3）	山口　勇（電電近畿）	山口・小野（電電近畿）	柴山きよ子（東大阪短大）	柴山・山崎（東大阪短大）
47年度（48．3）	鷲尾正一（スワロー化研）	遠藤・鷲尾（スワロー化研）	徳田敦子（四條畷学園高）	徳田・高田（四條畷学園高）
48年度（49．3）	丸山法男（スワロー化研）	鷲尾・水川（スワロー化研）	高田幹子（大一スポーツ）	仲西・気谷（スワロー化研）
49年度（50．3）	丸山法男（スワロー化研）	遠藤・鷲尾（スワロー化研）	徳田敦子（四條畷女短大）	秋本・徳田（四條畷学園）
50年度（51．3）	鷲尾正一（スワロー化研）	岩田勇・滝野（電電近畿）	徳田敦子（四條畷女短大）	落合・植野（四條畷女短大、高校）
51年度（52．3）	和田泰寛（中央ホーム）	遠藤・鷲尾（スワロー化研）	落合光子（四條畷女短大）	落合・佐藤（四條畷女短大）
52年度（53．3）	松口金彦（中央ホーム）	仲尾・井上（法政大）	東海林文子（サントリー）	谷　・秋本（サントリー）
53年度（54．3）	仲尾信一（四條畷教員）	仲尾・井上（オール四條畷）	東海林文子（サントリー）	東海林・横山（サントリー）
54年度（55．3）	松口金彦（中央ホーム）	和田・松口（中央ホーム）	東海林文子（サントリー）	平　・河村（三洋電機）
55年度（56．2）	宮崎克己（サントリー）	冨田・谷島（電電） 和田・松口（中央）	原口恵子（サントリー）	平　・河村（三洋電機）
56年度（57．2）	宮崎克己（サントリー）	冨田・吉兼（電電近畿）	葛西明子（サントリー）	岩見・西村（サントリー）
57年度（58．2）	森下一夫（サントリー）	和田・松口（中央ホーム）	岩見洋子（サントリー）	岩見・西村（サントリー）
58年度（59．2）	森下一夫（サントリー）	森下・和田（サントリー・中央）	鴻原春美（四條畷学園高）	西村・菊池（サントリー）
59年度（60．2）	森下一夫（サントリー）	守安・松重（電電近畿）	北本久美子（サントリー）	福田・平山（三洋電機）
60年度（60．5）	森下一夫（サントリー）	森下・谷田（サントリー・此花学院高）	鴻原春美（四條畷女子短大）	高峯・星（サントリー）
61年度（61．4）	江藤裕樹（近畿大学）	森下・谷田（サントリー・此花学院高教	小泉陽子（三洋電機）	小泉・田代（三洋電機）
62年度（62．5）	辻田泰昌（NTT関西）	冨田・辻田（NTT関西）	新木貴子（三洋電機）	鴻原・新木（三洋電機）
63年度（63．5）	江藤裕樹（近畿大学）	江藤・早戸（近畿大学）	利川貴子（四條畷女子短大）	南里・南里（四條畷女短大）
平成元年度（1．5）	辻田泰昌（NTT関西）	奥野・辻田（NTT関西）	岩田良子（四條畷女子短大）	利川・三ツ川（四條畷女短大）
2年度（2．5）	辻田泰昌（NTT関西）	早戸・辻田（NTT関西）	北浦道代（三洋電機）	北浦・秋元（三洋電機）
3年度（3．5）	辻田泰昌（NTT関西）	辻田・奥野（NTT関西）	北浦道代（三洋電機）	北浦・秋元（三洋電機）
4年度（4．5）	徐　彪（T・B・C・）	辻田・今井（NTT関西）	大田貴子（四天王寺高校）	西田・下川（四條畷女短大）
5年度（5．5）	辻田泰昌（NTT関西）	辻田・今井（NTT関西）	水井泰子（四條畷学園高校）	小池・磯崎（サントリー）
6年度（6．5）	常山兼二（松下電器）	辻田・今井（NTT関西）	中山智香子（三洋電機）	宮村・宮村（サントリー）
7年度（7．5）	姜　維（T・B・C・）	早戸・常山（NTT関西・松下電器）	中山智香子（三洋電機）	井田・中山（三洋電機）
8年度（8．5）	姜　維（T・B・C・）	渡辺・岸田（NTT関西）	中山智香子（三洋電機）	村上・貴田（三洋電機）
9年度（9．5）	植村昭彦（NTT関西）	岸田・平井（NTT関西）	山本静香（コスモ石油）	山田・村上（三洋電機）

種目 / 年度	青木楯	宮脇楯	嶋楯	浅田楯
	成年男子単	成年男子複	混合複	壮年男子単
昭和４１年度（４２．３）	北野 敬四郎（学大クラブ）	北野・宝来（学大クラブ）		
４２年度（４３．３）	北野 敬四郎（向丘大）	北野・宝来（学大クラブ）		
４３年度（４４．３）	北野 敬四郎（教員クラブ）	宮脇・山口（教員クラブ）		
４４年度（４５．３）	北野 敬四郎（教員クラブ）	溝渕・武村（ＫＤＤ）		
４５年度（４６．３）	武村 俊平（ＫＤＤ）	北野・宝来（教員クラブ）	三木・柿本（電電近畿）	
４６年度（４７．３）	武村 俊平（ＫＤＤ）	溝渕・武村（ＫＤＤ）	三木・柿本（電電近畿）	
４７年度（４８．３）	品川 則之（十條製紙）	本摩・北川（塩野義製薬）	水谷・柿本（電電近畿）	
４８年度（４９．３）	本山 一郎（追手門学院小教）	本摩・北川（塩野義製薬）	遠藤・貴田（スワロー化研）	
４９年度（５０．３）	竹端 捷次（ＫＤＤ）	杉田・伊勢田（四條畷・追手前）	遠藤・貴田（スワロー化研）	林 辰夫（スワロー化研）
５０年度（５１．３）	伊勢田 善昭（追手門小）	杉田・伊勢田（四條畷・追手前）	遠藤・野村（スワロー化研）	西谷 一郎（豊中クラブ）
５１年度（５２．３）	山路 栄三郎（ＹＭＣＡ）	杉田・伊勢田（四條畷・追手前）	遠藤・山口（スワロー化研）	片山 修治（電電近畿）
５２年度（５３．３）	竹原 茂（電電近畿）	杉田・伊勢田（四條畷・追手前）	佐野・田所（スワロー化研）	品川 則之（十條製紙）
５３年度（５４．３）	山路 栄三郎（ＹＭＣＡ）	杉田・伊勢田（四條畷・追手前）	北原・田渕（池田クラブ）	品川 則之（十條製紙）
５４年度（５５．３）	山路 栄三郎（ＹＭＣＡ）	西野・吉里（大阪ガス）	田中・俵（池田クラブ）	堤 博愛（北清水クラブ）
５５年度（５６．２）	山路 栄三郎（ＹＭＣＡ）	北原・三町（池田クラブ）	宮本・石川（北清水クラブ）	四方 光市（池田クラブ）
５６年度（５７．２）	北原 健二（池田クラブ）	北原・三町（池田クラブ）	宮本・石川（北清水クラブ）	堤 博愛（北清水クラブ）
５７年度（５８．２）	宇治 収（三洋電機）	宇治・篠原（三洋電機）	梅津・阿部（住金大阪）	堤 博愛（北清水クラブ）
５８年度（５９．２）	宇治 収（三洋電機）	北原・松村（池田クラブ）		西野 幸雄（大阪ガス）
５９年度（６０．２）	田中 博正（池田クラブ）	松浪・尾崎（ＳＢＣ）	廣瀬・廣瀬（北清水クラブ）	三坂 光弘（吹田クラブ）
６０年度（６０．５）	宇治 収（三洋電機）	梅本・角田（住金大阪・ゴーセン）		三坂 光弘（吹田クラブ）
６１年度（６１．４）	山口 博（中央ホーム）	山口・斉藤（中央ホーム・北清水クラブ）	和田・金井（大正トレーニング・鶴の子ＢＣ）	三坂 光弘（吹田クラブ）
６２年度（６２．５）	松重 恵三（ＮＴＴ大阪）	川前・三坪（大阪フェニックス・弥生クラブ）	井谷・松井（大阪フェニックス・フリー）	三坂 光弘（吹田クラブ）
６３年度（６３．５）	川前 明裕（大阪フェニックス）	川前・三坪（大阪フェニックス・弥生クラブ）	斉藤・宮崎（北清水クラブ・桜ヶ丘クラブ）	松浪 新治（ＳＢＣ）
平成元年度（１．５）	三坪 吉行（弥生クラブ）	川前・三坪（大阪フェニックス・弥生クラブ）	菊地・小玉（なかよしクラブ）	東 寿一（ミドリＢ．Ｃ）
２年度（２．５）	三坪 吉行（弥生クラブ）	喜多・幡野（飛羽会）	高田・和田（なかよしパワーズ・ＴＢＣ）	北出 隆（Ｙクラブ）
３年度（３．５）	三坪 吉行（弥生クラブ）	川前・三坪（大阪フェニックス・弥生クラブ）	河村・弓削（なかよしパワーズ）	北原 健二（池田クラブ）
４年度（４．５）	中角 好男（松下電器大阪）	川前・井谷（大阪フェニックス）	大田・谷田（四天王寺高校・此花学院高教）	北原 健二（池田クラブ）
５年度（５．５）	中角 好男（松下電器大阪）	川前・井谷（大阪フェニックス）	谷田・鬼池（此花学院高教員・四天王寺高校）	永澤 康弘（中央ホーム）
６年度（６．５）	中角 好男（松下電器大阪）	喜多・幡野（飛羽会）	喜多・冨田（三洋電機）	永澤 康弘（中央ホーム）
７年度（７．５）	三坪 吉幸（なかよしパワーズ）	川前・田中（大阪フェニックス）	蘇・下川（ＴＢＣ・コスモ石油）	橘 功章（泉北パード）
８年度（８．５）	楠本 直樹（三国クラブ）	川前・田中（大阪フェニックス）	喜多・太田（三洋電機）	幡野 幸夫（飛羽会）
９年度（９．５）	谷田 尚嗣（教職員連盟）	川前・田中（大阪フェニックス）	早戸・山田（ＮＴＴ関西・三洋電機）	中角 好男（松下電器大阪）

種目 / 年度	降井楯	宝来楯	池田楯	野村楯	岸楯	三宅楯
	壮年男子複	成年女子複	５０才男子複	５０才男子単	壮年女子複	実年女子複
４９年度（５０．３）	中島・高谷（川重大阪）					
５０年度（５１．３）	中島・高谷（川重大阪）					
５１年度（５２．３）	中島・高谷（川重大阪）					
５２年度（５３．３）	宝来・北野（大教附小）					
５３年度（５４．３）	品川・姫野（十條製紙・松下）					
５４年度（５５．３）	高谷・本摩（川重・シオノギ）					
５５年度（５６．２）	堤　・山川（北清水クラブ）					
５６年度（５７．３）	堤　・山川（北清水クラブ）					
５７年度（５８．２）	堤　・山川（北清水クラブ）	御前・広瀬（桜ヶ丘クラブ）	西村・嘉生（電電近畿・中之島クラブ）			
５８年度（５９．２）	堤　・山川（北清水クラブ）	池田・広瀬（桜ヶ丘クラブ）	片山・嘉生（電電近畿・中之島クラブ）			
５９年度（６０．２）	堤　・山川（北清水クラブ）	池田・広瀬（桜ヶ丘クラブ）	中島・高谷（川崎重工）			
６０年度（６０．５）	堤　・山川（北清水クラブ）					
６１年度（６１．４）	廣瀬・三坂（北清水クラブ・吹田クラブ）	飯山・大塚（大阪フレンドリークラブ）	片山・高谷（NTT大阪・川崎重工業）	高谷　明（川崎重工業）		
６２年度（６２．５）	松浪・榎谷（S.B.C・I.B.L）	飯山・大塚（大阪フレンドリークラブ）	片山・高谷（NTT大阪・川崎重工業）	姫野　欣也（松下中研）	原田・中井（清水クラブ）	
６３年度（６３．５）	松浪・榎谷（S.B.C・I.B.L）	飯山・大塚（大阪フレンドリークラブ）	片山・高谷（NTT大阪・川崎重工業）	高谷　明（川崎重工業）	原田・中井（清水クラブ）	
平成元年度（１．５）	松浪・榎谷（S.B.C・I.B.L）		片山・高谷（NTT大阪・川崎重工業）	高谷　明（川崎重工業）	原田・中井（清水クラブ）	
２年度（２．５）	松浪・榎谷（S.B.C・I.B.L）	勝見・寺部（吹田ミセス）	四方・堤（池田クラブ・北清水クラブ）	堤　博愛（北清水クラブ）		
３年度（３．５）	北出・北原（Yクラブ・池田クラブ）	松田・森元（東大阪ＭＢＣ）	四方・堤（池田クラブ・北清水クラブ）	四方　光市（池田クラブ）	山下・木原（東大阪ＭＢＣ）	
４年度（４．５）	楠戸・徳谷（コスモ石油）	石崎・西村（清水クラブ）	岡上・堤（北清水クラブ）	姫野　欣也（松　下　中）	廣瀬・木田（清水クラブ）	
５年度（５．５）	松村・北原（池田クラブ）	弓矢・西林（泉ヶ丘クラブ）	久保川・廣瀬（Yクラブ・北清水クラブ）	堤　博愛（北清水クラブ）	森元・松田（東大阪ＭＢＣ）	上辻・兼田（豊中シスターズ・清水クラブ）
６年度（６．５）	松浪・上田（SBC・FBC）	井上・宇川（フレンドリークラブ）	片岡・高田（池田クラブ・箕面クラブ）	西野　幸雄（大阪ガス）	廣瀬・木田（清水クラブ）	上辻・兼田（豊中シスターズ・清水クラブ）
７年度（７．５）	松浪・上田（SBC・FBC）	井上・宇川（フレンドリークラブ）	岡上・杉谷（北清水クラブ）	杉谷　義昭（北清水クラブ）	廣瀬・木田（清水クラブ）	糀　・兼田（高槻クラブ・清水クラブ）
８年度（８．５）	喜多・幡野（飛羽会）	松本・竹田（東大阪ＭＢＣ）	高田・片岡（箕面クラブ）	辻　芳雄（中之島クラブ）	廣瀬・木田（清水クラブ）	中井・兼田（清水クラブ）
９年度（９．５）	菅原・松口（中央ホーム）	松本・竹田（東大阪ＭＢＣ）	松浪・藤林（ＳＢＣ）	岡本　哲男（北清水クラブ）	森元・松田（東大阪ＭＢＣ）	中井・兼田（清水クラブ）

近畿総合大会結果

近畿総合バドミントン選手権大会

栄光の記録

年度	昭和44年度（於和歌山）		昭和45年度（於奈良）	
種別＼順位	1位	2位	1位	2位
一般男子・単	長谷川（京・立命館大）	和田（大・FK）	藤原（滋・祇王小教）	竹原（大・電電近畿）
一般男子・複	遠藤 大塚（大・スワロー化研）	酒井 吉岡（大・FK）	小林 阪本（大・関西大）	遠藤 和田（大・スワロー化研 FKC）
一般女子・単	池田（大・東大阪短）	篠山（大・東大阪短）	西尾（大・四条畷学園）	秋本（大・四条畷学園）
一般女子・複	池田 篠山（大・東大阪短）	永井 山下（京・三菱重工京都）	西尾 秋本（大・四条畷学園）	池田 篠山（兵・三菱電機伊丹）
成年男子・単	北野（大・教員）	粟（兵・古河電工）	武村（大・KDD）	溝淵（大・KDD）
成年男子・複	武村 溝淵（大・KDD）	北野 宝来（大・教員）	武村 溝淵（大・KDD）	神吉 服部（奈・鳥楓会 鶴舞小教）
壮年男子・単	谷口（京・舞商）	作原（兵・神戸地裁）	尾崎（兵・三菱電機神戸）	八木（兵・三菱重工神戸）
壮年男子・複	作原 尾崎（兵・神戸地裁 三菱電機神戸）	谷口 紀田（京・舞商）	尾崎 八木（兵・三菱電機神戸 三菱重工神戸）	池田 青木（大・電電近畿 茨木工高教）
混合・複	品川 柿本（大・電電近畿）	土井 笹尾（兵・神戸YMCA）	品川 柿本（大・電電近畿）	小嶋 永井（京・京都YMCA 三菱自工京都）

年度	昭和46年度（於京都）		昭和47年度（於大阪）	
種別＼順位	1位	2位	1位	2位
一般男子・単	山口（大・電々近畿）	植田（近大）	植田（奈・植田商店）	佐藤（和・新宮高校）
一般男子・複	植田 阪本（近大 関大）	山口 小野（大・電々近畿）	岩田 滝野（大・電々近畿）	遠藤 鷲尾（大・スワロー化研）
一般女子・単	柴山（東大阪短大）	高崎（東大阪短大）	徳田（大・四条畷学園）	高田（大・四条畷学園）
一般女子・複	柴山 石崎（東大阪短大）	高崎 大場（東大阪短大）	徳田 高田（大・四条畷学園高）	柿本 佐古（大・電々近畿）
成年男子・単	北野（大・向丘小）	粟（兵・古河電工）	土井（兵・神戸YMCA）	北野（大・向丘小）
成年男子・複	北野 宝来（大・向丘小 教大平小）	本山 妹尾（大・塩野義製薬）	土井 広瀬（兵・神戸YMCA）	戸沢 池部（京・三菱自工京都 舞鶴病院）
壮年男子・単	尾崎（兵・三菱電機神戸）	八木（兵・三菱重工神戸）	小林（兵・三菱電機神戸）	尾崎（兵・三菱電機神戸）
壮年男子・複	尾崎 八木（兵・三菱電機神戸 三菱重工神戸）	新宮 紀田（京・舞鶴クラブ）	吉田 小林（兵・大日三菱電尼崎）	大平 尾崎（兵・三菱電機神戸）
混合・複	木谷 佐古（大・電々近畿）	杉田 浪江（大・教員クラブ）	水川 秋本（大・スワロー 四条畷高）	植田 焼田（奈・植田商店 松下電産）

年度	昭和４８年度　（於兵庫）		昭和４９年度　（於京都）	
種別＼順位	1　位	2　位	1　位	2　位
一般男子・単	浅見　（大・スワロー化研）	竹原　（大・電々近畿）	丸山　（大・スワロー化研、奈・奈良クラブ） 植田	
一般男子・複	鷲尾 水川　（大・スワロー化研）	遠藤 浅見　（大・スワロー化研）	岩田 滝野　（大・電々近畿）	鷲尾　（大・スワロー化研）
一般女子・単	植野　（大・四条畷学園）	門間　（和・新宮商・教）	高田　（大・第一スポーツ）	植野　（大・四条畷学園）
一般女子・複	高崎 尼崎　（兵・三菱電機伊丹）	植野 秋本　（大・四条畷学園）	秋本 徳田　（大・四条畷学園）	乾 高田　（大・ゴーセン大一スポーツ）
成年男子・単	杉田　（大・四条畷高校）	広瀬　（兵・神戸ＹＭＣＡ）	杉田　（大・四条畷高教）	伊勢田　（大・追手門学園小教）
成年男子・複	土井 広瀬　（兵・神戸ＹＭＣＡ）	太田 金井　（兵・三菱電機伊丹）	伊勢田 杉田　（大・追手門小教、四条畷高教）	本摩 北川　（大・シオノギ製薬）
壮年男子・単	曽根　（京・舞鶴ク）	尾崎　（兵・三菱電機神戸）	八木　（兵・三菱重工神戸）	尾崎　（兵・三菱電機神戸）
壮年男子・複	久代 曽根　（京・舞鶴ク）	八木 郷原　（兵・三菱重工神戸）	西谷 林　（大・吹田クラブ、スワロー化研）	久代 曽根　（京・舞鶴ク）
混合・複	遠藤 目黒　（大・スワロー化研）	六津井 飯田　（大・中央ホーム）	和田 小出　（大・近大、樟蔭女大）	丸山 目黒　（大・スワロー化研）

年度	昭和５０年度　（於和歌山）		昭和５１年度　（於滋賀）	
種別＼順位	1　位	2　位	1　位	2　位
一般男子・単	和田　（大・中央ホーム）	西村　（京・京工大）	山本　（和・県和商高教）	和田　（大・中央ホーム）
一般男子・複	鷲尾 池田　（大・スワロー化研）	藤原 藤上　（滋・打山中教、比叡山高教）	山下 宮本　（大・電々近畿）	和田 菅原　（大・中央ホーム）
一般女子・単	植野　（大・四条畷学園）	高田　（大・四条畷学園短大）	服部　（滋・比叡山高教）	柴田　（滋・滋賀女子高）
一般女子・複	植野 石川　（大・四条畷学園）	辻 広瀬　（大・四条畷学園）	川添 四宮　（兵・武庫川女子大）	田所 山口　（大・スワロー化研）
成年男子・単	杉田　（大・四条畷高教）	福井　（京・三菱自工京都）	豚座　（兵・神戸ＹＭＣＡ）	脇坂　（京・京都市消防局）
成年男子・複	伊勢田 杉田　（大・追手門学院教、四条畷高教）	土井 広瀬　（兵・神戸ＹＭＣＡ）	伊勢田 杉田　（大・追手門学院教、四条畷高教）	戸沢 福井　（京・三菱自工京都）
壮年男子・単	八木　（兵・三菱重工神戸）	小林　（兵・三菱電機神戸）	八木　（兵・三菱重工神戸）	川本　（京・京都大学）
壮年男子・複	曽根 永野　（京・国立舞鶴病院、舞鶴クラブ）	紀田 橋本　（京・舞鶴クラブ、陸自関西補給）	梅枝 森田　（京・国立舞鶴病院）	片山 西村　（大・電々近畿）
混合・複	遠藤 山口　（大・スワロー化研）	井上 小出　（大・電々近畿、樟蔭女大）	遠藤 山口　（大・スワロー化研）	小嶋 山脇　（滋・愛知川土地改良区、堀内歯科）

年度	開催地	一般男子単		一般女子単	
		優勝	準優勝	優勝	準優勝
昭和52年	奈良	松口金彦 (大・中央ホーム)	和田泰寛 (大・中央ホーム)	横田悦代 (奈・一条高)	狭川恭子 (奈・藤忠)
昭和53年	大阪	宮崎克己 (大・サントリー)	穂谷真弘 (和・丸善石油下津)	北田スミ子 (大・四条畷学園高)	東海林文子 (大・サントリー)
昭和54年	京都	仲尾信一 (大・四条畷学校)	松口金彦 (大・中央ホーム)	東海林文子 (大・サントリー)	北田スミ子 (大・四条畷学校)
昭和55年	兵庫	宮崎克己 (大・サントリー)	松口金彦 (大・中央ホーム)	原口恵子 (大・サントリー)	西村美千代 (大・サントリー)
昭和56年	和歌山	西村龍夫 (滋・唐崎小教)	宮崎克己 (大・サントリー)	国奥美千代 (大・サントリー)	松田太嘉子 (大・四条畷学園高)
昭和57年	滋賀	北橋進 (滋・県立体)	松口金彦 (大・中央ホーム)	西村美千代 (大・サントリー)	冨田美千代 (大・三洋電機)
昭和58年	大阪	森下一夫 (大・サントリー)	西村金治 (滋・草津市教委)	鴻原春美 (大・四条畷学園高)	長尾うみ子 (奈・県教委)
昭和59年	京都	森下一夫 (大・サントリー)	江藤裕樹 (滋・比叡山高)	鴻原春美 (大・四条畷短大)	平山美恵子 (大・三洋電機)
昭和60年	兵庫	江藤裕樹 (大・近畿大)	西村金治 (滋・草津市教委)	鴻原春美 (大・四条畷短大)	平山美恵子 (大・三洋電機)
昭和61年	奈良	杉本吉男 (大・近畿大)	貴田昌史 (奈・フジチュー)	原田真理恵 (大・サントリー)	谷地春子 (大・サントリー)
昭和62年	和歌山	早戸敬雄 (大・近畿大)	谷田尚嗣 (大・此花学院高校)	新木貴子 (大・サントリー)	鴻原春美 (大・三洋電機)
昭和63年	滋賀	辻田泰昌 (大・NTT関西)	鈴木草麻生 (京・同志社大学)	岩田良子 (大・四条畷学園高)	田代美智世 (大・三洋電機)
平成元年	大阪	辻田泰昌 (大・NTT関西)	早戸敬雄 (大・近畿大)	秋川貴子 (大・四条畷短大)	鵜木千加子 (兵・神戸外大教員)
平成2年	京都	鈴木草麻生 (京・同志社大学)	植村昭彦 (京・同志社大学)	岩田良子 (大・四条畷学園高)	鵜木千加子 (兵・神戸外大教員)
平成3年	兵庫	植村昭彦 (京・同志社大学)	鈴木草麻生 (京・同志社大学)	北浦道代 (大・三洋電機)	秋元美佐緒 (大・三洋電機)
平成4年	奈良	大谷誠二 (大・NTT関西)	常山兼二 (大・松下電器大阪)	大田貴子 (大・四天王寺高)	秋川貴子 (大・三洋電機)
平成5年	和歌山	岸田明宏 (大・近畿大学)	谷内貴昭 (京・仏教大学)	大田貴子 (大・サントリー)	本田望 (大・サントリー)
平成6年	滋賀	片岡詔一郎 (大・近畿大学)	植村昭彦 (大・NTT関西)	山田裕美 (大・三洋電機)	鬼池めぐみ (大・四天王寺高)
平成7年	大阪	植村昭彦 (大・NTT関西)	片岡詔一郎 (大・近畿大学)	伊藤真弓 (大・コスモ石油)	市橋理恵 (大・四条畷学園高)
平成8年	京都	渡辺哲義 (大・NTT関西)	大谷誠二 (大・NTT関西)	葛野智子 (大・サントリー)	太田久美 (大・三洋電機)
平成9年	兵庫	永谷和也 (大・大阪学芸高)	渡辺哲義 (大・NTT関西)	安城美華 (大・四天王寺高)	渡辺未奈子 (京・天理大学)

年度	開催地	一般男子複		一般女子複	
		優勝	準優勝	優勝	準優勝
昭和52年	奈良	山本茂樹・米山正和（和・和商高校向陽高校）	和田泰寛・松口金彦（大・中央ホーム）	川添雅代・四宮郷子（大・武庫川女大）	横田悦代・佐藤幸代（奈・一条高）
昭和53年	大阪	仲尾信一・西村龍夫（大・四条畷学教寺内）	山本茂樹・米山正和（和・県教委）	北田スミ子・富田美千代（大・四条畷学園高）	東海林文子・横山ナルミ（大・サントリー）
昭和54年	京都	仲尾信一・井上健二（滋・四条畷学教県教委）	西堀　武・吉兼　保（大・近畿大）	北田スミ子・富田美千代（大・四条畷学園高）	平久美子・河村茂美（大・四条畷学園短大）
昭和55年	兵庫	藤上良信・西村龍夫（滋・比叡山高校粟津教）	西堀　武・吉兼　保（大・近畿大）	西村美千代・横山ナルミ（大・サントリー）	植西明子・磯野恵理子（大・サントリー）
昭和56年	和歌山	和田泰寛・松口金彦（大・中央ホーム）	宮崎克己・森下一夫（大・サントリー）	平久美子・河村茂美（大・三洋電機）	植田日出子・合田裕子（大・三洋電機）
昭和57年	滋賀	和田泰寛・松口金彦（大・中央ホーム）	宮崎克己・森下一夫（大・サントリー）	西村美千代・岩見洋子（大・サントリー）	植田日出子・合田裕子（大・三洋電機）
昭和58年	大阪	和田泰寛・松口金彦（大・中央ホーム）	北橋　進・西村金治（滋・新堂中高草津教委）	高峯和子・星　和枝（大・サントリー）	西村美千代・菊池洋子（大・サントリー）
昭和59年	京都	富田章夫・近藤雅明（大・電電近畿）	諸多博之・村尾　勉（大・ヨネックス）	鴻原春美・新木貴子（大・四条畷女短大）	小泉陽子・市川　綾（大・四条畷短大四条畷学園高）
昭和60年	兵庫	奥野　勉・菊池雄二（大・近畿大）	杉本吉男・江藤裕樹（大・近畿大）	北田スミ子・鴻原春美（大・三洋電機四条畷学園高）	河村茂美・清水尚美（大・三洋電機）
昭和61年	奈良	富田章夫・近藤雅明（大・NTT関西）	児嶋　智・佐々木朝幸（和・和歌山県教委）	新木貴子・今村　薫（大・四条畷女短大）	南里高子・南里泰子（大・四条畷学高）
昭和62年	和歌山	辻田泰昌・谷田尚嗣（大・NTT関西此花学院高校）	山本裕幸・村尾　勉（京・田辺高教員同志社女大職員）	鴻原春美・新木貴子（大・三洋電機）	谷池春子・広田時子（大・サントリー）
昭和63年	滋賀	山本裕幸・村尾　勉（京・NTT関西同志社女大職員）	早戸敬雄・稲村高志（大・近畿大）	南里高子・南里泰子（大・四条畷学園短大）	秋元美佐緒・北浦道代（大・三洋電機）
平成元年	大阪	山本裕幸・村尾　勉（京・NTT関西同志社女大職員）	早戸敬雄・稲村高志（大・近畿大）	岩田良子・水井妃佐子（大・四条畷短大四条畷学園高）	北浦道代・秋元美佐緒（大・三洋電機）
平成2年	京都	山本裕幸・村尾　勉（京・NTT関西同志社女大職員）	佐々木朝幸・児嶋　智（和・和歌山県教委）	南里高子・南里泰子（大・三洋電機）	谷池春子・磯崎照枝（大・サントリー）
平成3年	兵庫	辻田泰昌・奥野　勉（大・NTT関西）	山本裕幸・村尾　勉（京・田辺高教員同志社女大職員）	北浦道代・秋元美佐緒（大・三洋電機）	田代美智世・三ツ川貴子（大・三洋電機）
平成4年	奈良	今東　健・植村昭彦（大・NTT関西）	常山兼二・三村幸司（大・松下電器大阪）	冨田美保・田中佐妃子（大・三洋電機）	井上　香・鬼塚知美（兵・三菱電機）
平成5年	和歌山	大山宏司・岸田明宏（大・近畿大学）	早水栄治・村松　博（大・大阪ガスゴーセン）	宮村亜貴子・大田貴子（大・サントリー）	山田裕美・村上直美（大・三洋電機）
平成6年	滋賀	大山宏司・岸田明宏（大・近畿大学）	村山友二・鈴木草麻生（大・NTT関西）	田中佐妃子・村山直美（大・三洋電機）	鬼塚知美・森川和枝（兵・三菱電機）
平成7年	大阪	平野耕司・藤川雅章（京・井筒薬品クラブ）	早水栄治・村松　博（大・大阪ガスゴーセン）	鬼塚知美・武富いず美（兵・三菱電機）	鬼東加代・内田裕子（大・四条畷女短大）
平成8年	京都	村山友二・平井達也（大・NTT関西）	早水栄治・村松　博（大・大阪ガスゴーセン）	葛野智子・中山真理子（大・サントリー）	森川和枝・内田裕子（兵・三菱電機）
平成9年	兵庫	渡辺哲義・川口馨士（大・NTT関西）	平野耕司・藤川雅司（京・井筒薬品翔英高校教員）	橿原有理・渡辺未奈子（奈・近畿大学）	芳村真梨子・辻亜希子（大・コスモ石油）

年度	開催地	30才以上男子単（注1）		40才以上男子単（注1）	
		優勝	準優勝	優勝	準優勝
昭和52年	奈良	竹原 茂 （大・電電近畿）	北村 伸 （京・市消防局）	八木 隆 （兵・三菱電機神戸）	金田容九 （京・舞鶴クラブ）
昭和53年	大阪	藤原健二 （滋・打出中教）	臼井規久夫 （京・海自衛隊）	粟守 （兵・古河金属工業）	品川則之 （大・十条製紙）
昭和54年	京都	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）	豚座一利 （兵・神戸ＹＭＣＡ）	粟守 （兵・古河金属工業）	川本末夫 （京・京大職員）
昭和55年	兵庫	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）	森田幸男 （兵・大日日本電線）	四方光市 （大・池田クラブ）	粟守 （兵・古河金属工業）
昭和56年	和歌山	藤原健二 （滋・打出中教）	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）	粟守 （兵・古河電工）	四方光市 （大・池田クラブ）
昭和57年	滋賀	藤上良啓 （滋・比叡山高教）	豚座一利 （兵・風見鶏クラブ）	友金耕一 （兵・神鋼尼崎）	粟守 （兵・古河電工）
昭和58年	大阪	川村桂司 （和・住金和歌山）	宇治収 （大・三洋電機）	小島伸治 （京・ＹＭＣＡ）	友金利一 （兵・神戸製鋼尼崎）
昭和59年	京都	高原哲岳 （京・松風）	田中博正 （大・池田クラブ）	平野一郎 （兵・垂水クラブ）	三坂光弘 （大・吹田クラブ）
昭和60年	兵庫	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）	田中博正 （大・池田クラブ）	平野一郎 （兵・垂水クラブ）	三坂光弘 （大・吹田クラブ）
昭和61年	奈良	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）	田中博正 （大・池田クラブ）	藤上良英 （滋・篠原小教）	友金利一 （兵・神戸製鋼尼崎）
昭和62年	和歌山	山口博 （大・中央ホーム）	田中博正 （大・池田クラブ）	山路栄三郎 （兵・神戸ＹＭＣＡ）	中川友三 （兵・川崎重工播州）
昭和63年	滋賀	山口博 （大・中央ホーム）	藤原章訓 （兵・姫路クラブ）	藤原健二 （滋・皇子山中教）	山路栄三郎 （兵・神戸ＹＭＣＡ）
平成元年	大阪	山口博 （大・中央ホーム）	田中博正 （大・池田クラブ）	藤原健二 （滋・皇子山中教）	和田泰寛 （大・ＴＢＣ）
平成2年	京都	山口博 （大・中央ホーム）	高安博正 （大・乙訓クラブ）	藤原健二 （滋・皇子山中教）	平野一郎 （兵・垂水クラブ）
平成3年	兵庫	嘉生寛 （京・郡山中教員）	川口敏夫 （大・乙訓クラブ）	藤原健二 （滋・皇子山中教）	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）
平成4年	奈良	中角好男 （大・松下電器大阪）	嘉生寛 （奈・郡山中教）	高木謙一 （京・乙訓クラブ）	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）
平成5年	和歌山	嘉生寛 （京・郡山中教員）	片岡正之 （兵・新日鉄化学）	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）	東寿一 （大・ミドリＢＣ）
平成6年	滋賀	小田隆司 （滋・膳所高教）	三坪吉幸 （大・平野中教）	藤原健二 （滋・県教委）	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）
平成7年	大阪	太田智一郎 （京・松下電子部品）	木村孝 （京・ワンダークラブ）	川口敏夫 （京・東洋電波ファントム）	塩飽初 （兵・新日鉄広畑）
平成8年	京都	木村孝 （京・ワンダークラブ）	乳井重雄 （和・ＳＢＣ）	川口敏夫 （京・東洋電波ファントム）	幡野幸夫 （大・飛羽会）
平成9年	兵庫	谷田尚嗣 （大・此花学院高）	長谷浩道 （大・松下電子部品）	川口敏夫 （京・東洋電波ファントム）	幡野幸夫 （大・飛翔会）

年度	開催地	３０才以上男子複（注１）		４０才以上男子複（注１）	
		優勝	準優勝	優勝	準優勝
昭和５２年	奈良	土井弥一・豚座一利 （兵・神戸ＹＭＣＡ）	入江吉信・小島伸治 （京・京屋　野村染工）	北野敬四郎・宝来敏夫 （大・大仙西小教 教大附小教）	曽根達郎・永野　博 （京・舞鶴クラブ）
昭和５３年	大阪	土井弥一・豚座一利 （兵・神戸ＹＭＣＡ）	藤原健二・久保田良昌 （滋・打出中教 木之本小教）	北野敬四郎・宝来敏夫 （大・大仙西小教 教大附小教）	中嶋伸市・高谷芳明 （大・川崎重工）
昭和５４年	京都	塩飽　初・豚座一利 （兵・新日鉄広畑 神戸ＹＭＣＡ）	高木金次・永井　博 （京・京都機械 堀場製作所）	宝来敏夫・北野敬四郎 （大・教大附小教 大仙西小教）	佐々木繁夫・松本俊夫 （兵・三菱重工神戸）
昭和５５年	兵庫	塩飽　初・豚座一利 （兵・新日鉄広畑 神戸ＹＭＣＡ）	森田幸男・今井則明 （兵・大日本電線）	品川則之・姫野欣也 （大・十条製紙 松下中央研）	本摩恒利・高谷芳明 （大・シオノギ製薬 川重大阪）
昭和５６年	和歌山	藤原健二・国門　学 （滋・打出中教 彦根西中教）	塩飽　初・豚座一利 （兵・姫路クラブ 神戸ＹＭＣＡ）	広瀬隆一・岡上充仁 （大・北清水クラブ）	堤　博愛・山川弘志 （大・北清水クラブ）
昭和５７年	滋賀	藤上良英・藤上良信 （滋・祇王小教 比叡山高校）	塩飽　初・豚座一利 （兵・姫路クラブ 風見池クラブ）	石原道男・浜田俊信 （兵・姫路クラブ）	友金利一・渡辺博氏 （兵・神鋼尼崎）
昭和５８年	大阪	北原健二・平松重吉 （大・池田クラブ）	前田憲宏・三矢博司 （京・ＹＭＣＡ 桂クラブ）	石原道男・浜田俊信 （兵・姫路クラブ）	友金利一・渡辺博氏 （兵・神鋼尼崎）
昭和５９年	京都	塩飽　初・平松重吉 （兵・新日鉄広畑）	川村桂司・田村昭男 （和・住金和歌山 住金化工）	中川文雄・藤上良英 （滋・長浜クラブ 米原小教）	石原道男・浜田俊信 （兵・姫路クラブ）
昭和６０年	兵庫	塩飽　初・平松重吉 （兵・新日鉄広畑）	高原信幸・安房田光男 （兵・神戸市役所）	三坂光弘・広瀬隆一 （大・吹田クラブ 北清水クラブ）	石原道男・浜田俊信 （兵・姫路クラブ）
昭和６１年	奈良	山口　博・斉藤敏行 （大・中央ホーム 北清水クラブ）	松村博之・田中博正 （大・池田クラブ）	小島伸治・福井達雄 （京・ＹＭＣＡ 三菱自工京都）	北村　伸・瀬野俊策 （京・京都市消防局 海自衛隊）
昭和６２年	和歌山	山口　博・斉藤敏行 （大・中央ホーム 北清水クラブ）	松重恵三・宮本宏和 （大・ＮＴＴ大阪）	富田健一・藤上良英 （大・日本IBM野洲 北野小教員）	小島伸治・筒井重雄 （京・ＹＭＣＡ 三菱自工京都）
昭和６３年	滋賀	斉藤敏行・山口　博 （大・北清水クラブ 中央ホーム）	川前明裕・三坪吉幸 （大・大阪フェニックス 弥生クラブ）	藤原健二・国門　学 （滋・皇子山中教 滋大教専）	豚座一利・中村邦宏 （兵・ウイングス 三菱電機）
平成元年	大阪	川前明裕・三坪吉幸 （大・大阪フェニックス）	小国俊之・川口俊夫 （京・長岡クラブ 乙訓クラブ）	小島伸治・桜井　誠 （京・ＹＭＣＡ）	藤原健二・国門　学 （滋・皇子山中教 彦根南中教）
平成２年	京都	山本秀樹・近藤修弘 （京・Ｂ・ＷＡＹクラブ）	小国俊之・川口俊夫 （京・長岡クラブ 乙訓クラブ）	藤原健二・藤上良信 （滋・皇子山中教 比叡山高教）	河村弘次・高木謙一 （京・乙訓クラブ）
平成３年	兵庫	嘉生　寛・貴田昌史 （奈・郡山中教 天理クラブ）	山本秀樹・近藤修弘 （京・Ｂ・ＷＡＹクラブ）	藤原健二・藤上良英 （滋・皇子山中教 野洲町教委）	塩飽　初・豚座一利 （兵・新日鉄広畑 ウイングス）
平成４年	奈良	川前明裕・井谷隆夫 （大・大阪フェニックス）	嘉生　寛・貴田昌史 （和・郡山中教 天理クラブ）	藤上良英・藤原健二 （滋・治田小教　県教委）	高木謙一・河村広次 （京・乙訓クラブ）
平成５年	和歌山	片岡正之・平　昌一 （兵・新日鉄化学 新明和宝塚）	野生　計・中前昌幸 （和・勝浦クラブ 貴志川クラブ）	藤原健二・藤上良英 （滋・県教委　治田小教）	豚座一利・塩飽　初 （兵・ウイングス 新日鉄広畑）
平成６年	滋賀	川口敏夫・近藤修弘 （京・東洋電波 ＢＷＡＹクラブ）	西　浩司・児嶋　習 （和・教職員）	中村一弘・田村昭男 （和・東燃　ＪＡＰＡＮ）	藤原健二・藤上良英 （滋・県教委 治田小教員）
平成７年	大阪	川前明裕・田中一寛 （大・大阪フェニックス）	貴田昌史・吉川芳郎 （奈・天理クラブ）	松見恒司・足立靖治 （京・舞鶴クラブ）	木村一弘・田村昭男 （和・東燃 貴志川クラブ）
平成８年	京都	太田智一郎・佐々木正司 （京・松下電子部品 三菱自工京都）	西　浩司・児嶋　智 （和・教職員）	川口敏夫・高安博正 （京・東洋電波ファントム 乙訓クラブ）	喜多広幸・幡野幸夫 （大・飛羽会）
平成９年	兵庫	川前明裕・田中一寛 （大・大阪フェニックス）	佐々木正司・杉本吉男 （京・三菱自工京都 Ｂ・ＷＡＹ）	菅原弘貴・松口金彦 （大・中央ホーム）	幡野幸夫・喜多広幸 （大・飛翔会）

昭和５８年以降項目の名称を変更した。
成年男子－３０才以上男子、壮年男子－４０才以上男子。

年　度	開催地	混　　合		３０才以上女子複	４０才以上女子複
		優　　勝	準 優 勝	優　　勝	優　　勝
昭和５２年	奈　良	鷲尾正一・田所了子 （大・スワロー化研）	竹原　茂・餌取貴美子 （大・電電近畿）		
昭和５３年	大　阪	藤上良英・服部直子 （滋・野洲西小教 比叡山高教）	永井　博・永井祥美 （京・堀場製作所 ドリプンクラブ）		
昭和５４年	京　都	浅利久勝・浅利きみこ （奈・サンデースポーツ）	永井　博・永井祥美 （京・堀場製作所 桂クラブ）		
昭和５５年	兵　庫	宮本永実・石川好子 （大・北清水クラブ）	北原健二・北原美恵子 （大・池田クラブ）		
昭和５６年	和歌山	西堀　武・西村美千代 （滋・滋賀銀行 県体協）	宮本永実・石川好子 （大・弥生クラブ）		
昭和５７年	滋　賀	平松重吉・翼　園代 （兵・新日鉄広畑 住金尼崎）	藤上良英・宮地玉英 （滋・祇王小教　自営）	（１９８３（Ｓ５８）年度に新設された）	
昭和５８年	大　阪	竹端英夫・菊池洋子 （大・近畿大 サントリー）	高木謙一・永井祥美 （京・乙訓クラブ 桂クラブ）	池田沙千子・御前美智子 （大・桜ヶ丘クラブ）	村井広美・金谷節子 （大・東大阪ＭＢＣ 桜ヶ丘クラブ）
昭和５９年	京　都	高瀬和弘・頼　真弓 （兵・関学クラブ）	吉岡伸浩・土庵清子 （奈・正強高職員 西華クラブ）	福本房子・大門与史子 （奈・春円クラブ）	坂口明子・広瀬園子 （大・桜ヶ丘クラブ）
昭和６０年	兵　庫	高瀬和弘・頼　真弓 （兵・関学クラブ）	竹端英夫・中井幸恵 （滋・大津市役所 東レ滋賀）	工藤順子・阪口ひろ美 （兵・西宮クラブ）	宮崎恵美子・片谷節子 （大・八尾クラブ）
昭和６１年	奈　良	清水尚美・武野　忠 （大・三洋電機 ＮＴＴ関西）	谷地春子・和田泰寛 （大・サントリー ㈱永西）	福本房子・大門与史子 （奈・春円クラブ）	北尾典子・土庵清子 （奈・春円クラブ 西華クラブ）
昭和６２年	和歌山	辻田泰昌・谷地春子 （大・ＮＴＴ関西 三洋電機）	武野　忠・清水尚美 （大・ＮＴＴ関西 サントリー）	福本房子・大門与史子 （奈・春円クラブ）	藤本悦子・小田令子 （和・アイクラブ）
昭和６３年	滋　賀	村山友二・今村　薫 （大・ＮＴＴ関西 三洋電機）	早水栄次・金井和恵 （大・大阪ガス サントリー）	廣瀬園子・大屋政子 （大・清水クラブ）	原田ヒロ子・中井芳子 （大・清水クラブ）
平成元年	大　阪	山本裕幸・西村美千代 （京・田辺高校 サントリー）	北橋　進・池田芳恵 （滋・北大津高校 東レ滋賀）	飯山シズエ・森元恵子 （大・フレンドリク 東大阪ク）	前田昌子・藤田敏子 （滋・湖南レディース）
平成２年	京　都	喜多　努・利川貴子 （大・三洋電機）	山本裕幸・西村美千代 （京・田辺高校 Ｂ・ＷＡＹクラブ）	小国久美・永井祥美 （京・長岡京クラブ 桂クラブ）	宿里和江・木田美智子 （兵・西宮クラブ）
平成３年	兵　庫	弓削義雄・河村茂美 （大・なかよしパワーズ）	村尾　勉・北川恵美子 （京・同志社女大教 安祥寺中教）	前田昌子・桑野弥生 （滋・ブルーレイク）	岸世紀子・山下佳子 （兵・宝塚クラブ）
平成４年	奈　良	谷田尚嗣・大田貴子 （大・此花学院教 四天王寺高）	奥野　勉・足達和泉 （大・三洋電機 ＮＴＴ関西）	板谷悦代・児玉幸代 （奈・西華クラブ）	廣瀬園子・木田美智子 （大・清水クラブ）
平成５年	和歌山	谷田尚嗣・鬼池めぐみ （大・此花学院教 四天王寺高）	宮本芙士夫・出石美紀子 （大・弥生クラブ ＩＬＬＣ）	弓矢美紀子・西林知子 （大・泉ヶ丘クラブ）	廣瀬園子・木田美智子 （大・清水クラブ）
平成６年	滋　賀	早戸敬雄・冨田美保 （大・ＮＴＴ関西 三洋電機）	貴田昌史・小椋左恵子 （奈・天理クラブ ゴーセン）	西村美千代・前田昌子 （滋・ブルーレイク）	廣瀬園子・木田美智子 （大・清水クラブ）
平成７年	大　阪	貴田昌史・小椋左恵子 （京・天理クラブ ゴーセン）	杉本吉男・嶋田有希子 （京・Ｂ・ＷＡＹクラブ 精華南中学教員）	松井明子・福田恵理 （大・北清水クラブ）	廣瀬園子・木田美智子 （大・清水クラブ）
平成８年	京　都	平井達也・貴田　泉 （大・ＮＴＴ関西 三洋電機）	早戸敬仁・川口桐香 （大・ＮＴＴ関西 三洋電機）	西山美千代・勝山直子 （滋・ブルーレイク）	廣瀬園子・木田美智子 （大・清水クラブ）
平成９年	兵　庫	貴田昌史・小椋左恵子 （奈・ＡＣＴ ゴーセン）	矢野辰幸・白井洋子 （兵・新明和エンジニアリング 武庫Ｂ．Ｃ）	松本美和・竹田由美子 （大・東大阪ＭＢＣ）	廣瀬園子・木田美智子 （大・清水クラブ）

年度	開催地	５０才以上男子単		５０才以上男子複	
		優勝	準優勝	優勝	準優勝
昭和５８年	大阪	片山修治 (大・電電近畿)	永野博 (京・舞鶴クラブ)	嘉生正一・片山修治 (大・中之島クラブ 電電近畿)	宮脇正晴・藤木隆寛 (大・本庄中 大阪学院大)
昭和５９年	京都	安沢良夫 (滋・たちばなクラブ)	片山修治 (大・電電近畿)	中島伸市・高谷明 (大・川崎重工大阪)	嘉生正一・片山修治 (大・中之島クラブ)
昭和６０年	兵庫	片山修治 (大・NTT大阪)	高谷明 (大・川崎重工)	高谷明・片山修治 (大・川崎重工 NTT大阪)	久保茂美・田中五夫 (兵・姫路クラブ)
昭和６１年	奈良	高谷明 (大・川崎重工)	安沢良夫 (滋・たちばなクラブ)	高谷明・片山修治 (大・川崎重工 NTT大阪)	宮脇正晴・藤本隆寛 (大・大阪教職員)
昭和６２年	和歌山	佐々木繁夫 (兵・三菱重工神戸)	姫野欣也 (大・松下中研)	品川則野・姫野欣也 (大・十条製紙 松下中研)	高谷明・片山修治 (大・川崎重工 NTT関西)
昭和６３年	滋賀	佐々木繁夫 (兵・三菱重工神戸)	姫野欣也 (大・松下中研)	片山修治・高谷明 (大・NTT大阪 川崎重工)	品川則野・姫野欣也 (大・十条製紙 松下中研)
平成元年	大阪	高谷明 (大・川崎重工)	安沢良夫 (滋・自営)	片山修治・高谷明 (大・NTT大阪 川崎重工)	西谷一郎・山岸二郎 (大・豊中クラブ 大浜クラブ)
平成２年	京都	橋詰幸雄 (兵・垂水クラブ)	堤博愛 (大・北清水クラブ)	岸本晃一・樑木順雄 (京・桂クラブ)	佐々木繁夫・橋詰幸雄 (兵・三菱重工神戸 垂水クラブ)
平成３年	兵庫	四方光市 (大・池田クラブ)	岡上充仁 (大・北清水クラブ)	木摩恒利・姫野欣也 (大・塩野義製薬 松下中研)	中西久昌・梅田昌蔵 (兵・むささび会 垂水クラブ)
平成４年	奈良	中川友三 (兵・川崎重工播州)	中川文雄 (滋・長浜クラブ)	岡上充仁・堤博愛 (大・北清水クラブ)	本摩恒利・姫野欣也 (大・シオノギ 松下中研)
平成５年	和歌山	友金利一 (兵・神鋼神戸)	中川友三 (兵・川重播州)	片岡昭勝・高田克己 (大・池田クラブ 箕面クラブ)	岡上充仁・堤博愛 (大・北清水クラブ)
平成６年	滋賀	友金利一 (兵・神鋼神戸)	西野幸雄 (大・大阪ガス)	岡上充仁・杉谷義明 (大・北清水クラブ)	宝来明正・橋詰幸雄 (兵・神鋼パンテック 垂水クラブ)
平成７年	大阪	平野一郎 (兵・垂水クラブ)	中川友三 (兵・川重播州)	友金利一・田中至 (兵・神鋼神戸)	岡上充仁・杉谷義明 (大・北清水クラブ)
平成８年	京都	平野一郎 (兵・垂水クラブ)	宝来明正 (兵・神鋼パンテック)	友金利一・田中至 (兵・神戸製鋼)	岡上充仁・杉谷義明 (大・北清水クラブ)
平成９年	兵庫	山路栄三郎 (兵・神戸YMCA)	豚座一利 (兵・むささび会)	井田吉昭・東田和弘 (奈・七一会 奈良クラブ)	友金利一・田中至 (兵・神鋼神戸)

国民体育大会結果

国民体育大会

国体には1950（昭25）第５回大会に初参加以来昨年の51回大会まで不出場の年は一度も無く、バドミントンの先進府県の先陣を走ってきた。

記録資料には1970年（昭45）第25回岩手国体以来しか掲載していないがこれ以前の詳細が手元に無い為、先輩指導者や選手の方々にはくれぐれもお許し願いたい。

プログラムの過去の戦績表により３位以内入賞に限ると、昭和31年一般男子２位・33年同３位・34年同３位、教員男子２位・38年教員男子３位と専ら男子チームが好成績を残していたが、昭和40年第20回岐阜国体で布施女子高（現東大阪高）が高校女子種目別で初優勝した。以後四條畷学園高や四天王寺高の台頭もあって同種目別の１８回優勝を筆頭に全種別が優勝経験を持つバドミントン王国に成長した。とりわけ本府が不得意種別として来た少年男子が此花学院高を中心に初優勝した1990年（平２）福岡国体では全種別が３位入賞を果たし、抜群の高得点で３回目の天皇杯を獲得し他府県の度肝を抜く痛快さであった。（資料参照）

ここまで大阪協会の競技力が成長した背景には企業チームのバドミントン競技への参画を忘れることができない。これまでも電電近畿（現ＮＴＴ）や国際電電（ＫＤＤ）スワロー化研がチームを抱え活躍していたがそれはあくまで仕事の余暇での活動の域を出ず、いわゆる本格的な企業チームでは無かった。が、1976年（昭51）に発足したサントリー女子チームの登場が内外に与えた影響は計り知れない。チームを結成するやいきなり実業団日本一になりマスコミを賑わして華々しくデビューしてきた。大阪協会もその統轄団体としての取り組みにかかり、直後にスタートした日本リーグの開催事業や国体選手強化には互いに協力し合う姿勢で進んできた。当時ではサントリースポーツセンターにしか無いバドミントン専用のコートや合宿所をフルに活用させてもらい協会の財政的支援もあってスタートしたばかりの強化部が先頭に立ち、国体総合優勝を目指す体制が整ってきた。それまでは少年女子チームのみが孤軍奮闘を重ねていたがここに来てやっと天皇杯の影が見え始め1984年（昭59）第39回奈良国体で初めて悲願の男女総合優勝を達成するに到った。

以後大阪府チームは５回の総合優勝を成し遂げ、熊本県の７回神奈川県の６回に続き新潟県と並んで３番目のバド王国の名を残すまでになった。その原動力になったサントリーが本年６月をもってチームを解散してしまったのは大変残念である。

サントリーの後を追って1980年（昭55）発足した三洋電機女子チームと日本リーグで活躍中の古豪ＮＴＴ関西男子チームに期待するところが大きい。

さて、本年は第52回大阪“なみはや”国体が地元で開催される。伝統の力を発揮して６回目の総合優勝を達成すべく大阪協会一丸となって努力を続けなければならない。会員各位の一層のご支援ご協力をお願いする次第である。

1997. ６記　文責　強化部長　片岡輝明

国民体育大会　大阪府チーム　戦績

1997現在

《バドミントン競技》

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	天皇杯	皇后杯
1997 大阪	② 35	① 40	① 40	③ 30	1 145	1
1996 広島	0	0	⑤ 12.5	③ 30	5 42.5	6
1995 福島	③ 30	② 35	0	0	4 65.0	5
1994 愛知	② 35	⑤ 12.5	0	① 40	1 87.5	1
1993 香川	② 35	① 40	0	① 40	1 115.0	1
1992 山形	① 40	⑤ 12.5	0	① 40	2 92.5	2
1991 石川	② 35	④ 25	⑤ 12.5	⑤ 12.5	2 85.0	4
1990 福岡	② 35	③ 30	① 40	② 35	1 140.0	1
1989 北海道	0	② 35	0	② 35	3 70.0	2
1988 京都	0	② 35	0	① 40	1 75.0	1
1987 沖縄	⑤ 12.5	0	0	② 35	5 47.5	3
1986 山梨	② 35	⑤ 12.5	0	⑤ 12.5	5 60.0	4
1985 鳥取	⑤ 12.5	② 35	0	⑤ 12.5	3 60.0	2
1984 奈良	⑤ 12.5	① 40	0	① 40	1 92.5	1
1983 群馬	0	⑤ 12.5	0	① 40	2 52.5	1
1982 島根	0	② 35	0	① 40	2 75.0	1
1981 滋賀	⑤ 12.5	③ 30	0	⑤ 12.5	2 55.0	2
1980 栃木	⑤ 12.5	⑤ 12.5	0	② 35	3 55.0	1

	一般男・教男	一般女子	高校男子	高校女子	↓【旧採点】	
1979 宮崎	⑤12.5 0	② 35	0	① 40	2	1
1978 長野	0 ⑤12.5	① 40	0	③ 30	2	1
1977 青森	0 0	② 35	0	① 40	2	1
1976 佐賀	0 0	③ 30	0	① 40	3	1
1975 三重	0 0	0	0	① 40	5	1
1974 茨城	0 0	0	0	③ 30	5	2
1973 千葉	0 0	0	0	① 40	5	1
1972 鹿児島	0 0	0	0	① 40	5	1
1971 和歌山	⑤12.5 0	0	0	① 40	4	1
1970 岩手	⑤12.5 0	0	0	① 40	4	1

① ② ③は種別順位　1 2 3 は総合順位　1 2 3 は獲得点数

↓ 不明　1980　栃木大会より種別呼称変更。

1988　京都大会より採点方法が変更された。

1987以前の大会は新得点に換算したもの。

① 40　② 35　③ 30　④ 25　ベスト8　12.5　以下等外0

国民体育大会バドミントン競技

過去の栄冠

◎第４回　昭和２４年　東京都　東京ＹＭＣＡ（個人戦オープン）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子単	東京　広田敏秀	北海道　佐藤保	東京　藤井光男
一般男子複	東京　広田敏秀・藤井光男	神奈川　岡淳一・相場万吉	北海道　佐藤保・村上三郎
一般女子単	神奈川　吉田とよ子	愛知　吉沢千里	神奈川　遠藤文子
一般女子複	神奈川　吉田とよ子・遠藤文子	神奈川　小林歌子・中村たき	愛知　吉沢千里・後藤範子

◎第５回　昭和２５年　愛知県　栄小学校、白鷗鴎小学校、東桜小学校（総合優勝　神奈川県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	東京　広田敏秀・藤井光男・小山田康久	神奈川　岡淳一・相馬万直・大松本武道	北海道　佐藤保・村上三郎・葛西林英俊・若林守
一般女子	神奈川　吉田とよ子・遠藤文子・小荒川とみ子	愛知　水谷鈴子・堀江田綾子・保田照子・伊与田照子	北海道　伊藤絹代・安藤信栄子・佐賀岡京子・片岡京子
高校男子	北海道　石田裕二・神山周一・大塚健夫・島中卓	愛知　石川光男・渡辺成雄・大竹健司・野口勇	神奈川　岡道明・村松弘喬・江藤井昂実一

◎第６回　昭和２６年　広島県　広大東雲分校、同大附属小学校（総合優勝　愛知県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	東京　広田敏秀・岡道明・山田康久	岐阜　玉越忠治・大竹健司・下野和彦	愛知　藤井光男・渡辺成雄・蟹和男
一般女子	愛知　堀江綾子・保田久子・伊与田照子	石川　登悦子・貝原まさえ・高田八重子	北海道　伊藤絹代・片岡京子・栗原澄子
高校男子	愛知　服部安治・野口勇・立松健市	石川　東正直・西貞夫・諸江秀一	岐阜　後藤裕八郎・林金太郎・田中正則

◎第７回　昭和２７年　宮城県　東北大学体育館（総合優勝　神奈川）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川　広田敏秀・岡道明・藤井昂一・吉原秀雄	北海道　石田裕二・神山周一・葛西英俊・野坂豊三郎	東京　井宮章実・小崎敏・山佐藤茂朗
一般女子	石川　貝原まさえ・登悦子・高田八重子・米倉衣絵	東京　田中知江子・田中谷成子・生之瀬教子・小野寺京子	愛知　堀江綾子・保田久子・伊与田照子・水野美根子
高校男子	東京　望月文雄・倉田一彦・力石潔・鈴木隆治	神奈川　新倉和男・関根英司・内藤弾明・伏島光則	石川　諸江秀一・井上本晴三・山本圭稔・上田稔
高校女子	兵庫　山瀬廷子・西尾貞子・小笠原美津子・関一子	山形　佐藤照子・五十嵐弘子・斎藤久美子・佐藤明	神奈川　人川良子・竜野美代子・藤田光子・中島緑

◎第８回　昭和２８年　香川県　善通寺体育館（総合優勝　神奈川県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川 広田敏秀 佐治豊 川崎順久 杉田博	東京 藤井光男 諸江川秀一郎 相原十一 萩原誠	岐阜 竹岡健司 大松羽竜三 丹林哲昭 金太郎
一般女子	神奈川 遠藤文子 小林川歌子 荒野智子	北海道 岡元弘子 梅津貴久江 阿部悦子 荒井重子	石川 貝原まさえ 登悦子 島谷須磨子 町駒ヤス子
高校男子	北海道 片石兼敏 加藤正竜則 長谷川桁男 井桁啓充	石川 江尻桂三 辻直幸而 半田外男 岡崎健一	神奈川 越川啓夫 花岡牧彦 折井利彦 内藤弘明
高校女子	宮城 西堀富美子 谷津京子 佐藤範子 松本幸子	香川 大西誉子 秋山武久子 真鍋	神奈川 大川良子 藤田光子 竜野美代子 波多野澄子

◎第９回　昭和２９年　北海道　札幌市（総合優勝　愛知県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	岐阜 玉越忠治 大竹健司 松岡竜三	愛知 野口勇 服部与治 稲熊貞夫	富山 清水正一 釣谷友 荒木亥久男
一般女子	宮城 西堀富美子 佐藤範子 谷津京子	石川 登悦子 貝原マサエ 渋谷信	愛知 保田久子 伊与田照子 堀江綾子
高校男子	愛知 豊場健正 御友昭 伊藤雅昭	石川 西村嘉信 尻桂三 島谷昇	愛知 宮沢健一 伊豆内宏 渡辺潔
高校女子	福島 武田信子 伊藤桂子 尾形享子	岡山 大森嘉美子 友野文子 三宅基子	愛知 大沢範子 大室久美子 大竹泰子

◎第１０回　昭和３０年　神奈川県　神奈川体育館、鶴見女高体育館（総合優勝　神奈川県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川 広田敏秀 杉田博 岡道明	岐阜 大竹健司 松岡竜三 酒井弘	富山 釣谷友一 荒木亥久男 高木満
一般女子	福島 武田信子 伊藤桂子	神奈川 荒川とみ子 小林歌子 大川良子	北海道 梅津貴久江 阿部悦子 下山重子
高校男子	東京 永井栄一 北島克英 小野岡順一	石川 北方匡 関功 米谷外喜彦	山形 生田仁紀 板垣隆房 羽角至
高校女子	岡山 友野文子 権田節子 三宅基子	宮城 佐々木功子 三浦節子 管井静子	香川 永田豊子 藤田紙代 藤村怜子

◎第１１回　昭和３１年　兵庫県　神戸ＹＭＣＡ、生田中学（総合優勝　岡山県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川 杉田博 佐藤芳明 佐藤昌久	大阪 上田益弘 増木節男 武村俊平	岡山 毛利清志 前田俊一 石原利道
一般女子	宮城 西堀富美子 小野寺静江 佐藤範子	岡山 友野文子 権田節子 光本政子	兵庫 西尾貞子 加藤洋子 金森奎子
高校男子	神奈川 小宮好雄 中村智 斎藤裕之	北海道 四ツ柳邦夫 小田桐正徳 岩本竜一	山形 板垣隆房 山岸重考 水勝志
高校女子	香川 横井キヌエ 井上桂子 山下衣子	岡山 小林桂子 戸田寿子 根岸絢	宮城 三浦節 三沼倉英子 三浦与志子

◎第１２回　昭和３２年　静岡県　富士市体育館、富士高講堂（総合優勝　神奈川県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川　佐藤芳朗／杉田博／新倉和男	東京　望月文雄／力石潔／鈴木俊三	北海道　島中良夫／星野嘉隆／神山修爾
一般女子	香川　横井キヌエ／井上桂子／山下衣子	岡山　権田節子／本政子／光林歌子／小林桂子	神奈川　大川良子／小林歌子／石川英子
高校男子	神奈川　小宮好雄／中村智／鈴木敏勝	石川　酒井明夫／村田和男／堀知章	島根　平野隆／森脇英祐／富田豊
高校女子	香川　田島外茂子／山下久子／宮下ツヤ子	静岡　掛橋良子／西村弘子／佐野禎子	石川　有田順子／長田悠喜子／松田富美子

◎第１３回　昭和３３年　富山県　高岡女高体育館、南星中体育館（総合優勝　東京都）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	東京　片石兼敏／越川啓／花岡牧夫	神奈川　杉田博／佐藤芳朗／佐藤昌久	大阪　高谷芳弘／上田益弘／松王清志
一般女子	香川　横井キヌエ／山下久子／田島外茂子	神奈川　小林歌子／大川良子／二見文子	岡山　権田節子／光本政子／小林桂子
高校男子	山形　金森義弘／板垣善憲／小林賢	東京　鈴木幸春／宮永武司／貝戸肇	奈良　森晃一／榎高嗣／中川安正
高校女子	香川　藤本文子／有木とみ子／福本和子	富山　高島洋子／中島玲子／栂野尾桂子	石川　山崎紀久子／川節子／竹多光子

◎第１４回　昭和３４年　東京都　足立区体育館（総合優勝　神奈川県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川　佐藤芳朗／佐藤昌久／関口潔	石川　新田正治／酒井治夫／村田和夫	大阪　松王清志／小松康博／小松貢
一般女子	神奈川　大川良子／二見文子／椎野みや子	香川　横井キヌエ／山下久子／宮川ツヤ子	富山　大坪あい子／高島洋子／中島玲子
教員男子	神奈川　杉田博／山本剛／石原義治	大阪　佐藤茂雄／宝来敏夫／北野敬四郎	東京　平田登志郎／市川和司／柳田直規
高校男子	宮城　渡部紘一／堀江斐保／甲昭雄	北海道　竜竹康彦／梅中木将聡	神奈川　山本洋彦／岡崎恵／小坂拓充
高校女子	香川　蔵本文子／有本とみ子／福本和子	静岡　伊沢利子／志村セツ子／石原待子	富山　栂野尾桂子／橘美智子／酒井美智子

◎第１５回　昭和３５年　熊本県　菊池市体育館（総合優勝　富山県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	東京　永井栄一／北島克英／貝戸肇	神奈川　佐藤芳朗／遠藤啓治／砥石勤	富山　荒木亥男／扇沢幸雄／大野三徳
一般女子	富山　高島洋子／中島玲子／栂野尾桂子	秋田　脇坂チエ子／木村政子／横山満子	静岡　野津江／伊村志子／志沢利子／村セツ子
教員男子	石川　北方匡／河原山晴夫／茂藤寛	神奈川　杉田博／山本剛／石原義治	秋田　宮越竜三／脇坂安隆／鈴木裕司
高校男子	神奈川　岡崎恵／小坂拓充／長谷川敏彦	山形　佐出藤勝彦／高橋沢勇清一	新潟　阿部原孚／笠藤洋淳祐／伊洋祐
高校女子	富山　橘美智子／酒井美智子／平田敦子	香川　横井文子／林信子／森久子	秋田　高橋奉子／石沢七子／長崎文子

◎第１６回　昭和３６年　秋田県　象潟町中学校体育館（総合優勝　秋田県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	東京 片永星 石井野 兼栄忠 敏一男	神奈川 佐岡遠 藤崎藤 芳恵啓 朗三治	山形 板出北 垣沢村 隆勇 房男任
一般女子	富山 栂橋酒 野尾井 桂美美 子智智 子子子	秋田 木横高 村山橋 政満奉 子子子	香川 宮福横 川井井 ツ知文 ヤ子子 子子子
教員男子	石川 北河江 方原尻 匡晴圭 山山 夫	神奈川 杉岡秋 田田山 博郎彦 敬三捷	秋田 脇鈴高 坂木橋 安裕弘 隆司喜
高校男子	新潟 大安星 竹沢野 紘武義 一司昭	北海道 中松松 村浦本 富潔治 光直	山梨 平秋早 田山川 真 勲男博
高校女子	山形 佐小矢 藤原口 弘詔淳 子子子	静岡 高天影 木野山 紀博昭 子江子	秋田 伊横大 藤山門 美綾モ 津子モ 子子子

◎第１７回　昭和３７年　岡山県　岡山県立倉敷青陵高校体育館（総合優勝　東京都、富山県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	東京 星富井 野田門 忠 男豊雄 鎮	神奈川 遠鈴岡 藤木崎 啓敏恵 治勝三	愛知 北小長 島宮川 克好陽 英雄一 谷
一般女子	香川 福横森 本井 知文久 子子子	富山 橘酒栂 井野尾 美美桂 智智子 子子子	秋田 木横高 村山橋 政満奉 子子子
教員男子	石川 北河江 方原尻 匡晴圭 山山 夫	神奈川 杉秋岡 田山田 博彦郎 捷敬三	秋田 脇鈴真 坂木崎 安裕俊 隆司光
高校男子	新潟 本荒阿 田川野 務治善 男紀	東京 西須関 野田 征一孝 夫一誠	青森 奥長三 谷谷上 国 昭義 勇明
高校女子	富山 橘室河 妙崎村 子光和 子子子	秋田 大大間 塚門瀬 トサ幸 シヨ子 子	岡山 高重七 塚放村 淳百泰 子枝子

◎第１８回　昭和３８年　山口県　下関市体育館（総合優勝　新潟県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	愛知 小板稲 宮垣熊 好善整 雄憲隆	東京 井宮堺 門永 鎮武栄 雄司一	島根 星富山 野田崎 忠 男豊春 茂
一般女子	秋田 横高長 山橋崎 満奉文 子子子	香川 田横森 島井 外文久 茂子子 子	富山 栂酒室 桂美光 尾智 子子子
教員男子	石川 北河江 方原尻 匡晴圭 山山 夫	神奈川 杉岡秋 田田山 博郎彦 敬三捷	大阪 大北片 古野岡 吉敬輝 弘四明 世 郎
高校男子	新潟 星裏樋 野田口 義光一 夫男春	東京 関中古 一村屋 誠安正 和	北海道 福林久 島保田 智和 徳守男
高校女子	栃木 前松小 沢本出 和昭千 子子代 子子子	新潟 後茂竹 藤沢内 和純泰 子子子	北海道 高高村 森田田 幸裕泰 子子子

◎第１９回　昭和３９年　新潟県　県立三条高等学校体育館（総合優勝　新潟県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	愛知 小板岩 宮垣后 好善隆 雄憲昭	東京 永宮堺 井永 栄武栄 一司一	石川 新村沢 田田田 正和 治男力
一般女子	香川 横田森 井島 文外茂久 子子子	秋田 横高長 山橋崎 満奉文 子子子	岐阜 高天岩 木野后 紀博螢 子江子
教員男子	新潟 渡永佐 部井藤 紘 俊 一司夫	石川 北河江 方原尻 匡晴圭 山山 夫	神奈川 杉岡秋 田田山 博郎彦 敬三捷
高校男子	新潟 鈴神片 木田山 正和 造夫殺	奈良 森橋真 芳本壁 夫修一 年	富山 立盛高 野野林 正博弘 昭之則
高校女子	栃木 植大武 木島田 タカ初 子ヨ枝	新潟 竹石高 内本野 泰恵八 子美重 子	秋田 佐中加 木川谷 フ美ユ ミ枝ミ 子子子

◎第２０回　昭和４０年　岐阜県　富田学園体育館（総合優勝　岐阜県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	愛知　宮垣好雄憲彦 小板長川谷善敏	東京　堺宮田永上栄武十一司六	香川　東山牟条口田義立昭朗顕
一般女子	岐阜　高天高木野田紀博康子江子	香川　横森加井藤文久和子子子	新潟　後石竹藤崎内和妙泰子子子
教員男子	石川　河北村原山方西晴夫匡一	北海道　杉笹中田森島茂弘良剛志	岡山　毛三柳利宅本清尭志勝敏
高校男子	富山　栂寺中尾野前坪昌信邦一之雄	岐阜　堀杉尾幸山関矩修則智	奈良　真河滝壁村野俊憲公才一一
高校女子	大阪　近才池藤脇田光妙栄枝子子	岐阜　高稲川橋葉本葉良代子子	栃木　上石吉野崎田明喜サ美代ト子子

◎第２１回　昭和４１年　大分県　日田林工高体育館（総合優勝　新潟県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	愛知　小板安宮垣沢好善武雄憲司	山梨　岡秋三崎山上恵真三男勇	大分　宮田春永中武武大俊司也一
一般女子	岐阜　高天高木野田紀博康子江子	新潟　後石加藤崎藤昭妙子子操	秋田　横高加山橋谷満奉ユ子子子ミ
教員男子	北海道　杉安上田達山茂惟功良彦夫	石川　河北原山方晴栄夫匡一	岡山　三毛柳宅利本清尭勝志敏
高校男子	新潟　本高奥間橋田順良次宣作	宮城　我市寒妻川工一一郎清利	香川　西小辻崎田和健忠一弘庸
高校女子	山形　小遠伊山藤藤茂幹子登シ子子子ゲ	新潟　本日高間下坂恵悦美子薫	岡山　湯浦佐木口藤博恵民江子子

◎第２２回　昭和４２年　埼玉県　越ヶ谷市立体育館（総合優勝　香川県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	愛知　板安小垣沢林善武一憲司宏	神奈川　小山遠島本藤平一洋彦治啓	東京　堺田本上橋栄十平一六八
一般女子	香川　有横山木井本とみ文真子子江	新潟　五後加十嵐藤藤明和美子操	岐阜　高天虫木野賀紀博雅子江子
教員男子	富山　清正松水木山芳史信隆郎之	北海道　杉安上田達山茂惟功良彦夫	宮城　加渡菊茂部地和紘夫一功
高校男子	富山　米松谷田島口実保寛	奈良　滝小葛野林輪公正博一昭一	宮城　門山木間田戸幹哲純夫夫一
高校女子	新潟　相金高沢子坂マチ子知薫	香川　小竹山片森下恵子経清子美	栃木　田枝印仲波美津代加和枝子子

◎第２３回　昭和４３年　福井県　福井県立勝山合同体育館（総合優勝　岐阜県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	山梨　岡秋田崎山中恵真三男登	神奈川　小吉渡島良辺平一悠直一人	東京　堺西関野栄一一一征誠
一般女子	岐阜　高天安木野藤紀博久子江子美	東京　高水田橋野仲とも夜美子子津江	新潟　五後小十嵐藤林明和邦美子子
教員男子	熊本　南工芦藤原直勇健治参身	石川　北村原方西匡栄一一	岡山　毛三柳利宅本清尭志勝敏
高校男子	富山　二草布上島目敏正博治茂	山形　遠田伊藤所藤好光政男男臣	岐阜　岩後足田藤立路守昇宏男
高校女子	大阪　平柴高山山崎泰よ弘子子子き	香川　宮福赤武本沢泰幸ひろ子子子	新潟　堀竹大川中竹栄礼由美子子里子

◎第２４回　昭和４４年　長崎県　諫早市体育館、県立諫早高校体育館（総合優勝　新潟県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	山梨 窪田恵三男 秋山真応 野田秀	神奈川 小島一平人二 渡辺直 坂本聖	東京 堺野栄一征 西一誠 関
一般女子	岐阜 高木紀子 天野博江 高橋千代美	東京 高橋とも子 田仲美津子 水野小夜子	京都 永井おり子 山かお枝 岡崎繁子
教員男子	熊本 西田寿明 工藤勇参 芦原健身	岡山 毛利清志 三宅勝 柳本堯敏	石川 北原方匡 村西栄一
高校男子	新潟 本間享 小泉司 九原正敏	群馬 内田通夫 桐生台次郎 渡辺稔	奈良 管原弘貴 岡田昇久 山本繁幸
高校女子	大阪 柴山よ子 高崎き子 大場弘美	岐阜 及川恵子 脇和子 紅谷島子	栃木 望月しずか 石崎茂子 阿久津まさ子

◎第２５回　昭和４５年　岩手県　釜石製鉄所健康保険組合体育館（総合優勝　岩手県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	山梨 窪田恵三男 秋山真応 野田秀	東京 池田信孝一 梅野尾昌二 鈴木健	神奈川 小島一平人二 渡辺直 坂本聖
一般女子	新潟 竹中悦子 相沢マチ子 後藤和子	岐阜 高木紀子 天野博江 桑原富士子	栃木 松本昭子 石崎喜代子 望月しずか
教員男子	岩手 佐々木彦士 佐々木邦彦 永沢和彦	石川 北原方匡 一 松本栄忠之	熊本 西田寿明 工藤勇参 芦原健身
高校男子	奈良 巽康司 竹内真 西川繁美	石川 銭谷欽治 竹村勇治 青山信吾	岩手 高橋信夫壮 佐藤吉雄 佐
高校女子	大阪 西尾真理子 秋本八代美 秋本幸子	栃木 小林敏枝 藤井幸子 池田静江	香川 川東秀美 森所清美子 田静

◎第２６回　昭和４６年　和歌山県　湯浅中学校・耐久高校体育館（総合優勝　新潟県）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川 渡辺直人平 小島一秀樹 宮川	山梨 窪田恵三男 秋山真一雄 岩下	岐阜 森芳夫 河田義治 安藤
一般女子	新潟 鈴木明美子 後藤和恵子 本間恵美子	神奈川 杉田良子子 味藜とも子 秋山陽子	北海道 田村静子 高野千子子 今川喜佐子
教員男子	滋賀 久保田良昌二 藤原健信 藤上良	和歌山 森中隆 中西詳味伸 佐藤光	熊本 本郷節生治 南直参 工藤勇
高校男子	新潟 土田征雄裕 鈴木直行 佐野	和歌山 山本茂樹 倉内徹成 岡忠	奈良 西川繁美弘 佐野基夫 中井
高校女子	大阪 西尾真理子 秋本八代美子 秋本幸	福島 千葉陽子 宮内すみ子江 木村瑞	岡山 林平寿美子 三田喜久江 宅一美

◎第２７回　昭和４７年　太陽国体　鹿児島県　南高校体育館（総合優勝　東京都）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川 小島一平人 渡辺直樹 宮川秀	東京 鈴木健二孝 池田信一 梅野尾昌	山梨 窪田恵三男 秋山真雄 岩下一
一般女子	東京 湯木博江 竹中悦子 石崎茂子	愛知 橋本香代 池田静江 富居康子	香川 小片恵子 小西千代美 森清
教員男子	和歌山 森中隆 中門西詳味夫 間幹	栃木 別井晃 斉藤佶昇 森田	石川 北方匡 原栄 長谷川進
高校男子	奈良 中井基夫 南田義正弘 辻敏	石川 原敏夫 山下敏行男 谷島助	岐阜 古西悟 角田勝一 後藤純
高校女子	大阪 秋本幸子 高田幹子 徳田敦子	山形 矢口洋子 本間浩子 今田真知子	千葉 山平田子 尚千代 美野清美 瀬

◎第２８回　昭和４８年　若潮国体　千葉県立茂原高校体育館（総合優勝　東京都）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	神奈川 小宮笹 島川井 平樹行 一秀教	東京 関栂野尾 誠一孝 池田信 昌	愛知 本松谷 間島口 順保寛 次
一般女子	東京 湯相竹 木沢中 博マチ悦 江子子	香川 森川長 東尾弥 清秀生 美美	岐阜 天広日比野 野沢野 博功悦 江子子
教員男子	滋賀 藤藤藤 上上原 良良健 英信二	石川 原長和 谷川田 栄 一進修	山形 永高斉 井山藤 昌和 司三夫
高校男子	富山 西梶上 村川 正博治 美之雄	福島 寺矢五 田部十嵐 繁光之 芳弘	奈良 池松坪 田重内 文恵利 昭三夫
高校女子	大阪 徳高植 田田野 敦幹恵 子子美子	千葉 山平瀬 田野野 尚美清 子千代美	山形 堀清福 田水原 正礼友 子子子

◎第２９回　昭和４９年　水と緑のまごころ国体　茨城県石岡小学校体育館　石岡二高体育館（総合優勝　東京都）

種別＼順位	一位	二位	三位
一般男子	東京 池栂今 田尾井 信昌茂 孝一満	神奈川 小宮笠 島川井 一秀教 平樹行	愛知 松本谷 島間口 順 保次寛
一般女子	東京 石今柴 崎田山 茂真きよ 子子子	香川 田山川 所口東 静豊秀 子子美	北海道 田高藤 村野島 静美百 子千子子
教員男子	和歌山 門武森 間藤 幹隆 夫志隆	石川 原長高 谷川来 栄 一進夫 秀	茨城 佐関大 藤本川 利昌健 昭和太郎
高校男子	山形 米中加 山島藤 孝俊信 二彦之	奈良 塚小村 本倉田 良久信 一和博	福井 長諏中 谷川村 川和村 博芳幸 幸博平
高校女子	新潟 関大佐 根塚藤 和ソ由 子エ喜子	香川 牛片渡 田山辺 真弓英 美子子 千幸子	大阪 植石北 野田村 恵好寿 美子弥子 子

◎第３０回　昭和５０年　たくましくあすをひらこう　みえ国体　三重県立松阪高校体育館（総合優勝　石川県）

種別＼順位		一位	二位	三位
成年男子	一般	神奈川 小宮笠 島川井 平樹行 一秀教	東京 池栂銭 田尾谷 信昌欽 孝一治	富山 河今米 村泉沢 博 之勉和 男
成年男子	教員	石川 原長和 谷川田 栄 一進修	群馬 今関桐 井 勇俊台 司夫次郎 生	宮城 渡木白 部戸岩 紘純良 一一治
成年女子		東京 湯池柴 木田山 博美みよ 江加子	香川 川田山 東所口 秀静豊 美子子	岡山 石三藤 田田原 雅明敦 子美子
少年男子		奈良 吉富田 岡田島 伸章裕 浩夫司	石川 宮酒井 森井本 庄直宏 吉人志	宮城 橘沼穴 川沢戸 光 孝隆夫 隆
少年女子		大阪 植北石 野村川 恵美寿 子子子 好	三重 谷口野 槇野 元いく知 美子花	香川 前渋金 川谷崎 加代茂美 子子保

◎第３１回　昭和５１年　若楠国体　佐賀県立牛津高校体育館　牛津町立牛津中学体育館（総合優勝　石川県）

種別＼順位		一位	二位	三位
成年男子	一般	神奈川 小宮笠 島川井 平樹行 一秀教	富山 今牧米 泉野沢 勉男 光和男	石川 相米堂 川谷内 進隆均 正
成年男子	教員	石川 原長和 谷川田 栄 一進修	群馬 関今桐 井生 俊勇台 夫司次郎	和歌山 門武山 間藤本 幹隆茂 夫志樹
成年女子		東京 湯石今 木崎田 博茂真 江子子	香川 石田牛 原所田 英静真 子子美	大阪 西谷秋 尾本 真理美幸 子津子子
少年男子		石川 重森坂 山田本 成昌 生均嗣	滋賀 北西西 橋山堀 博 進司武	香川 平上木 野原田 勝敬 彦明二
少年女子		大阪 石平河 川村 好久美 子子茂 美	新潟 青藤佐 木井藤 恵良友 子子子	東京 徳松永 永枝野 順睦ふみ 子子子

◎第３２回　昭和５２年　あすなろ国体　青森県浪岡町民体育館（総合優勝　青森県）

種別＼順位		一位	二位	三位
成年男子	一般	埼玉 尾崎幹雄 飯野佳雄 土田証雄	東京 池田信孝 梅野尾昌一 銭谷欽治	神奈川 小島平 井一行 笠辻教弘
成年男子	教員	石川 原川栄一 長谷進 舛田吉光	群馬 今井勇司 栗原恒夫 桐生台次郎	和歌山 門間幹夫 山本茂樹 米正和
成年女子		東京 湯木博江 池田美加 池田茂子	大阪 西尾真理子 谷津美代 秋本幸子	香川 石原英子 田所静子 牛田真由美
少年男子		滋賀 西山博司 矢部忠司 山田和樹	栃木 角田光永 久郷俊明 関根忠	青森 丹藤勇一 楠美誠悦 島内俊二
少年女子		大阪 平村久子 河口美子 原恵子	高知 浜田由理 田村圭香 寺田史枝	青森 葛西明子 山下々代 柳沼奈瑞

◎第３３回　昭和５３年　やまびこ国体　長野県塩尻市立体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位		一位	二位	三位
成年男子	一般	千葉 田所光男 大場和博 西村龍夫	新潟 棒鈴木勇 鈴木法裕 丸山法男	石川 相川正進 米堂谷内隆 堂内均
成年男子	教員	石川 長谷川進 舛田吉 和田光修	群馬 今井勇司 栗原恒夫 岩崎盛和	熊本 工藤勇参 稲津中悟 田芳文
成年女子		大阪 谷津美代 秋本幸子 東海林文子	福岡 桶本百合子 丸山口富江 山峰子	栃木 沼能山久子 日山野裕子 日向藤枝
少年男子		熊本 本石藤俊憲 権藤浩二 井上哲章	山形 桜井雅人 十嵐正弘 須貝英徳	滋賀 保科正浩 横田悟司 川嶋栄司
少年女子		新潟 月岡広美 中沢一枝 斉藤優子	栃木 上野加代子 高田康子 海賀里美	大阪 合川裕子 原口恵子 北田スミ子

◎第３４回　昭和５４年　日本のふるさと宮崎国体　宮崎県西都市民体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位		一位	二位	三位
成年男子	一般	千葉 田所光男 大場和博 織本富之	神奈川 小島一平 高橋敏清 管明	北海道 遠藤好男 木村敏敏 九原正
成年男子	教員	石川 長谷川進 和田修 舛田吉光	群馬 今井勇司 栗原恒夫 鏑木智博	滋賀 藤原健二 藤藤良信 脇坂重之
成年女子		栃木 日山裕子 日向野藤枝 大嶌和代	大阪 東海林文子 葛西明子 原口恵子	香川 平井佐代子 山田高子 前川加代子
少年男子		熊本 権藤浩二 村上英介 井上哲章	香川 岡野佳治 小西田佳太 竹田佳史	栃木 馬場良浩 小野口正志 大島正志
少年女子		大阪 北田スミ子 植田出子 富田美千代	新潟 藤井直子 遠藤栄り子 富岡栄子	熊本 川添安代 高峯和子 陣内貴美子

◎第３５回　昭和５５年　栃の葉国体　栃木県真岡市総合体育館（総合優勝　富山県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	富山 今泉勉 米正隆 二上敏博	石川 長谷川進 舛田吉光 堂谷内均	神奈川 小島一平 池田隆治 管敏明
成年女子	東京 端洋護 渡辺多喜子 高岸陽子	滋賀 谷津美代 若村弥生 阪口典子	愛知 小松澄子 渡辺喜美 柳田智佳子
少年男子	滋賀 山本裕幸 竹端英二 松浦進	栃木 大島正志 大堀円 戸村正樹	熊本 井上哲章 伊東幸男 福田和幸
少年女子	熊本 髙峰和子 陳内貴美子 森山弘美	大阪 松田傘代 新木千織 尾崎升美	新潟 野上満子 山内美子 山田登美子

◎第３６回　昭和５６年　びわこ国体　滋賀県大津市皇子が丘公園体育館（総合優勝　滋賀県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	富山　今泉　勉 米　正隆 林　加永	青森　佐藤光伸 須藤茂 村元英美	群馬　今井勇司 秋庭克行 鏑木智博
成年女子	東京　湯木博恵 高岸陽子美 月岡広	滋賀　谷美津代 西村美千代 磯野恵理子	大阪　河村茂美 平久美子 葛西明子
少年男子	滋賀　松浦進二 片岡泰 辻田泰昌	山梨　松野修二 宮健次 宮康二	石川　羽田義仁 村松博 宮本照啓
少年女子	熊本　陳内貴美子 高峯尚子 森山弘美	香川　山内佳子 佃貴子 永井明美	新潟　山内美子 石崎咲知子 本田佳代子

◎第３７回　昭和５７年　くにびき国体　島根県大東町立体育館（総合優勝　滋賀県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	群馬　今井勇司 鏑木智博 秋庭克行	富山　今泉勉 米沢和男 米正隆	北海道　遠藤好男 米山孝二 千葉昌弘
成年女子	岡山　河本小織 高田幹子 小寺裕美	大阪　河村茂美 平久美子 国奥美智子	静岡　山本美津子 川島直子 原田純子
少年男子	滋賀　西川勉 辻田泰昌 杉本吉男	石川　山尾克則 岡島浩一治 羽田憲治	埼玉　長内征美幸 新井利誠一郎 大割
少年女子	大阪　松田太嘉子 石井香澄 鴻原春美	熊本　森山弘美 高峯尚子 青木きよみ	栃木　三沢真奈美 岡崎仁子 小貫早苗

◎第３８回　昭和５８年　あかぎ国体　群馬県桐生市民体育館（総合優勝　群馬県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	群馬　今井勇司 栗原恒夫 鏑木智博	新潟　鈴木裕 山下圭一 飯塚芳英	静岡　後藤和之孝 飯野佳 井出裕雄
成年女子	岡山　河本小織 高田幹子 中原裕美	静岡　川島直子 白松千加子 原田純子	東京　枝美代子 月岡広美 高峯尚子
少年男子	熊本　川本英明 林謙一 三次英昭	兵庫　佐藤浩 松本泰典 村山喜洋	奈良　見市昌弘 小野満哲 村山友二
少年女子	大阪　鴻原春美 新木貴子 宮崎正美	熊本　上村美香 平井真由美 青木きよみ	新潟　原田真理恵 本田みどり 川野名智美

◎第３９回　昭和５９年　わかくさ国体　奈良県田原本町中央体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	熊本　工士恭司 江藤正治二 権藤浩	群馬　今井勇司 栗原恒夫 鏑木智博	奈良　辻敏弘 中井基夫 吉岡伸浩
成年女子	大阪　葛西明子 星和枝 平山美恵子	石川　伊東ひとみ 小野順子 小路和代	東京　枝美代子 森山弘美 三田知佳子
少年男子	滋賀　江藤裕樹 中川健 中川康	富山　平井保光 中嶋正男 室田繁行	埼玉　松元功一 生井沢勝美 石橋隆
少年女子	大阪　新木貴子 今村薫 山田陽子	新潟　若井郁子 小池由扶子 青戸香織	青森　徳光由美子 谷地春子 西田美和子

◎第４０回　昭和６０年　わかとり国体　鳥取県立由良育英高体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	熊本 工士 恭司 工権 藤浩二 堺 圭一	群馬 今井 勇司 栗原 恒夫 竹内 康夫	愛知 坂本 宏志 古賀 勝志 坂井 外喜男
成年女子	新潟 月岡 広美 野上 満子 山内 美子	大阪 高峯 和子 星 和枝 平山 美恵子	山形 東海林 文子 佐藤 栄美子 田口 真由美
少年男子	埼玉 生井沢 勝美 菊地 修 石橋 隆	石川 気谷 篤人 山本 明彦 中川 守	熊本 浜北 和彦 中村 徳裕 小本 義久
少年女子	熊本 田島 志乃 田代 美智世 松尾 知美	新潟 小池 由扶子 青戸 香織 捧 匡子	青森 横手 智江美 平間 由紀 乳井 智秋

◎第４１回　昭和６１年　かいじ国体　山梨県勝沼町民体育館（総合優勝　山梨県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	山梨 山本 裕幸 松野 修二 宮 健次	大阪 森下 一夫 谷田 尚嗣 保科 正浩	熊本 工士 恭司 工権 藤浩二 堺 圭一
成年女子	新潟 月岡 広美 野上 満子 山内 美子	富山 今川 真理子 大谷 鶴美 大田向 和子	山梨 高田 幹子 野口 英代 清藤 和
少年男子	熊本 久住 猛 畑野 宏幸 本山 秀昭	山梨 内田 高史 興石 努 岩佐 延寿	富山 吉田 直樹 越田 芳成 城木 夢高
少年女子	福岡 田村 富士美 田島 由美 間庭 由美	熊本 松尾 知美 毛利 千秋 渡辺 喜美子	埼玉 秋元 美佐緒 太田 悦子 清水 由紀子

◎第４２回　昭和６２年　海邦国体　糸満市西崎総合体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	岐阜 蘭 和真 木内 広史 横尾 宣幸	群馬 栗原 恒夫 竹内 康夫 片桐 哲也	熊本 工士 恭司 工権 藤浩二 堺 圭一
成年女子	富山 今川 真理子 大谷 鶴美 伏喜 由美子	愛知 宮本 美津子 大屋 幸恵 松本 清美	石川 彼島 佳子 小路 和子 水本 幸子
少年男子	滋賀 鈴木 草麻生 平井 肇 小河原 崇	熊本 本山 秀昭 高村 誠也 廣 龍宗美	埼玉 関根 英勝 石井 隆 鈴木 秀二
少年女子	熊本 中原 敬子 甲斐 美和子 宮村 愛子	大阪 南里 高子 岩田 良子 水井 妃佐子	新潟 捧 匡子 高橋 朱美 加賀 ゆかり

◎第４３回　昭和６３年　京都国体　長岡京市西山公園体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	神奈川 長谷川 博幸 石場 隆雄 細谷 昇	京都 村尾 勉 山本 裕幸 杉本 吉男	群馬 鏑木 智博 竹内 康夫 片桐 哲也
成年女子	富山 今川 真理子 大谷 鶴美 伏喜 由美子	大阪 今村 薫 田代 美智世 磯崎 照枝	愛知 大屋 幸恵 丑田 明子 佐々 恵理
少年男子	埼玉 大谷 知昌 内村 剛 須賀 隆弘	北海道 工藤 忠和 藤本 謙治 村井 秀樹	滋賀 平井 肇 小河原 崇 中橋 一晃
少年女子	大阪 岩田 良子 水井 妃佐子 新木 美志子	熊本 中原 敬子 甲斐 美和子 宮村 愛子	宮城 立花 久枝子 矢野 直亜古 伏見 亜古

◎第４４回　平成１年　はまなす国体　日本工学院北海道専門学校体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	神奈川　長谷川博幸 石場隆雄 細谷昇	北海道　伊藤雅弘 山尾克則 角谷淳一	京都　村尾勉 山本裕幸 杉本吉男
成年女子	群馬　野口英代 中島真美子 藤岡美智子	大阪　今村薫 奥山保子 秋元美佐緒	東京　都木弘美 毛利千秋 星野実智代
少年男子	北海道　佐藤嘉伸 郷路一郎 古川英樹	埼玉　片山卓哉 久保田雄三 関根靖則	熊本　田上厚志 本田和裕 霜上和宏
少年女子	熊本　宮村愛子 松田治子 阪本雅子	大阪　水井妃佐子 利川三貴 坂田美佐	佐賀　庄島由美子 寺尾美紀 篠原久子

◎第４５回　平成２年　とびうめ国体　筑紫野市農業者トレーニングセンター（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	三重　福田実 中川健 常山兼二	大阪　辻田泰昌 奥野勉 早戸敬雄	福岡　荒木秀文 中村正巳 石井正行
成年女子	福岡　清水尚美 田村富士美 田頭美奈子	静岡　金丸陽子 横手智江美 山田美紀	大阪　今村薫 奥山保子 三ツ川貴子
少年男子	大阪　岸田明宏 上瀧賢二 片岡詔市郎	熊本　本田和裕 岡部英朗 前田尚文	埼玉　関根靖則 高橋真 増田直樹
少年女子	埼玉　井田貴子 青木由美子 浜崎忍	大阪　松田洋子 杉田暢子 大田貴子	佐賀　寺尾美紀 篠原久子 鬼塚知美

◎第４６回　平成３年　石川国体　美川町総合スポーツセンター（総合優勝　石川県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	三重　川健 中常山兼二 山内一志	大阪　辻田泰昌 奥野勉 早戸敬雄	石川　毛利達彦 羽田義仁 崎田健一
成年女子	東京　田児よし子 都木弘美 立花久枝	神奈川　青戸香織 森真由美 加賀ゆかり	石川　小泉陽子 上浜陽子 中尾仁美
少年男子	千葉　太田慎二 石橋秀法二 佐藤裕二	埼玉　増田直樹 高橋真 加賀谷洋	石川　青木康 竹鼻拓也 石本明男
少年女子	宮城　橋本淳子 山田浩美 貴田泉	群馬　高野八重 丹野恭子 田部井美奈	石川　津田藍子 安田香奈 丸山実喜子

◎第４７回　平成４年　べにばな国体　新庄市体育館（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	大阪　辻田泰昌 今井彰宏 鈴木草麻生	山形　西山博司 渡辺清一志 寺島剛志	北海道　角谷淳一 工藤忠和 古川英樹
成年女子	富山　大堀麻紀 佐々木忍 野々村美春	熊本　林美希 田畑美香 上田純子	東京　田児よし子 岡山登紀子 立花久枝
少年男子	群馬　高橋幸治之 横山秀貴 坂入秀	茨城　成島瑞穂 樋渡順也 矢部正博	熊本　片岡直茂 花田政文 野田亮介
少年女子	大阪　大田貴子 水井泰子 川口桐香	埼玉　小室恭子 伊藤さおり 浅井康代	熊本　宮村亜貴子 村上直美 伊藤真弓

◎第４８回　平成５年　東四国国体　坂出市立体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	東京　高橋英治 峯岸康史 須賀隆弘	大阪　谷田尚嗣 植村昭彦 常山兼二	三重　中川健 磯部昌弘 吉田義利
成年女子	大阪　西田美由紀 村上直美 大田貴子	熊本　林美希 田畑美香 上田純子	香川　中尾仁美 川本光佐子 磯崎照枝
少年男子	茨城　渡順也 矢部正博 大橋雅道	千葉　田中肇一 池田哲徳 小倉伸彦	北海道　井野嘉久 一宮孝一 馬木智一
少年女子	大阪　水井泰子 川口桐香 鬼池めぐみ	北海道　増茂孝枝 中山智香子 田村裕美	富山　山田潤子 進藤範子子 山田青子

◎第４９回　平成６年　わかしゃち国体　大府市民体育館（総合優勝　大阪府）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	東京　須賀隆弘 片山卓哉 久保田雄三	大阪　辻田泰昌 今井彰宏 植村昭彦	富山　気谷篤人 岩淵公一 本山秀昭
成年女子	東京　松尾知美 道上彰子 阪本雅子	富山　佐々木忍 渡辺真由美 高野八重	新潟　竹野景子 遠藤みゆき 亀田幸恵
少年男子	滋賀　酒井将之 諏訪良人 松本徹	北海道　一宮孝一 馬木智一 今西隆浩	石川　津田光一郎 奥森正志 舛田圭太
少年女子	大阪　福島由佳 鬼池めぐみ 市橋美紀	福岡　長谷部裕子 吉富明子 吉武由加里	群馬　中麻依子 岡田真紀 亀山貴代

◎第５０回　平成７年　ふくしま国体　白河市中央体育館（総合優勝　福島県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	福島　柳谷辰哉 大堀均 平野泰宏	富山　気谷篤人 本山秀昭 本田和裕	大阪　常山兼二 渡辺哲義 岸田明宏
成年女子	福島　捧匡子 大堀麻紀 寺尾美紀	大阪　中山智香子 増茂孝枝 田中美保	富山　佐々木忍 松田治子 高野八重
少年男子	滋賀　松本徹 向裕樹 森本兼行	福島　渡部訓生 沈逸文 竹俣洋平	石川　徳坂涉 栄代正男 舛田圭太
少年女子	石川　中島珠美 片糸由希子 堀哲子	富山　山田青子 石橋陽子 加藤真知子	福岡　吉冨明子 大石瞳 稗田華子

◎第５１回　平成８年　ひろしま国体三原リージョンプラザ（総合優勝　熊本県）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	富山　今井彰宏 谷内貴昭 本田和裕	熊本　霜上和宏 花田政文 福田茂	北海道　村井秀樹 佐藤嘉伸 水澤直哉
成年女子	富山　河口奈緒美 明石由美 市橋理恵	新潟　竹野景子 斎藤かおり 住矢直美	広島　福井奈美 吉川愛 渡辺夕子
少年男子	石川　舛田圭太 車浩明 酒井忠相	埼玉　小吹公彦 中西洋介 長嶺宙	熊本　大木忠司 二瓶伸介良
少年女子	埼玉　井川里美 岩脇史 李荔	熊本　杉浦美幸 永峰弘子子 橋本純子	大阪　吉岡知香 鄭有璇華 安城美

◎第５２回　平成９年　なみはや国体　大東市民体育館（総合優勝　）

種別＼順位	一位	二位	三位
成年男子	東京 町田文彦 須賀隆弘 久保田雄三	大阪 常山兼二 植村昭彦 岸田明宏	福岡 清水文武 〓居秀行 五十嵐一智
成年女子	大阪 井田貴子 中山智香子 増茂孝枝	奈良 水井妃佐子 水井泰子 渡辺未奈子	富山 高野八重 河口奈緒美 市橋美紀
少年男子	大阪 仲尾修一 永谷和也 福川和也	熊本 二瓶良 大束真也 中村寿史	石川 車浩明 酒井忠相 茶谷徳靖
少年女子	福岡 森かおり 中内景子 三好奈緒	石川 田井美幸 舛田恵理 田村恵	大阪 福永麻美 安城美華 速水永子

国際試合結果

国際大会で活躍した選手達

大阪における国際大会は古くは１９６０年代に韓国との親善競技会などがありその後もデンマークや中国との交流など数々記憶しているがこの項は別途記載されているのでここでは本協会に所属した選手の海外での活躍を述べることにする。

バドミントン競技は現在でこそオリンピック種目にも加入する程発展しているが１９７０年代のシャトラーの夢はアジア大会・トーマス杯・ユーバー杯・全英オープンetcであった。１９７０（昭４５）当時四條畷学園高２年生の西尾真理子が第６回バンコックアジア大会に日本代表に選出され、団体優勝のメンバーとして金メダルを持ち帰ったのを皮切りに次々と活躍し始めた。

１９７７（昭５２）竹中悦子（ヨネックス）とのコンビで第１回世界選手権（スゥエーデン）と同年の全英オープンで優勝した植野恵美子（四條畷学園女短大)、翌年１９７８（昭５３）全英オープン複優勝を遂げた徳田敦子・高田幹子（サントリー）など世界で活躍する女子選手が続出した。また徳田・植野の両選手は１９７８（昭５３）第８回ユーバー杯（ニュージランド）で日本チームの中心選手として活躍、インドネシアが保持していたタイトルを見事奪回する快挙を成した。

１９８０年代に入り中国・韓国の目覚ましい台頭により日本選手は男女とも振るわなくなり、１９８８（昭６３）ソウル五輪公開競技で北田スミ子（三洋電機）がデンマークのＫ．ラーセンを破り銅メダルを獲得したのを最後にナショナルメンバーはもちろんのこと大阪協会の選手もおよそメダルからは遠のいてしまった。

１９９２バルセロナ、１９９６アトランタ五輪へも水井妃佐子（四條畷学園職員)、宮村愛子・亜貴子姉妹（サントリー）が出場したが世界の壁にはね返されている。

大阪のみならずあれ程華々しくテレビ・新聞に喧伝されたバドミントン競技はどこへ行ってしまったのか。嘗ての栄光を知る者のひとりとして寂しい限りの１９９０年代を終えようとしている。

（選手の所属はいずれも当時）

1997．6記　文責　強化部長　片 岡 輝 明

大阪　ＶＳ　上海親善大会のあゆみ

1	１９８６．８．１９	東淀川体育館	２－９　男（１－４）・女（１－４）・混（０－１） 谷田　森下　江藤　杉本　近藤　奥野 北田　平山　西村　原田　岡田　小泉　高峯　新木た
2	１９８７．８．４ 青木．宮脇．冨田	黄浦体育館	０－１１　男（０－５）・女（０－５）・混（０－１） 谷田　早水　奥野　早戸　浜松　村山 山本　秋元　広田　星野　田代　新木た
3	１９８８．４．３	東淀川体育館	４－６　男（１－４）・女（３－２） 谷田　辻田　江藤　早戸　伊藤　白浜 水井ひ　北本　岩田　谷地　広田　小泉　新木た
	１９８９	中　止	
4	１９９０．４．４ 岸．森．片岡	黄浦体育館	０－１０　男（０－５）・女（０－５） 三村　吉森　岸田　片岡　斎藤　有田 松田よ　信田　水井や　礒山　橋本　杉田
5	１９９１．４．３	東淀川体育館	５－５　男（２－３）・女（３－２） 辻田　村山　上滝　早戸　片岡　大山　岸田 北浦　金井　水井ひ　田代　小池　広田　三ツ川
6	１９９２．４．３ 青木．月原．片岡	静安体育館	０－１０　男（０－５）・女（０－５） 織田　上滝　岸田　岸田け　斎藤　有田 磯崎　松田は　信田　水井や　川口　市橋み
7	１９９３．４．５	阿倍野体育館	４－７　男（１－４）・女（３－２）・混（０－１） 辻田　今井　岸田　大山　植村　上滝　鈴木 北浦　金井　小池　広田　宮村　松田は　水井や　田中さ
8	１９９４．４ 尾崎．月原．西上	青浦体育館	１－９　男（０－５）・女（１－４） 奥井　今西　浅田　土屋　永谷　仲尾 鬼池　葛野　鬼頭　市橋り　福島　薦田
9	１９９５．４．８	東淀川体育館	４－７　男（２－３）・女（２－３）・混（０－１） 片岡　渡辺　植村　岸田　大山　本田　沼尻　早戸 中山　山田　市橋り　薦田　芳村　村上　貴田　磯崎
10	１９９６．４．６ 四方．宇治．仲尾	同済大学体育館	２－８　男（１－４）・女（１－４） 宇治　甲林　仲尾　永谷　福川　松下 吉岡　尾後　山田　谷嶋　安城　速水
11	１９９７．４．１９	大東市民体育館	３－８　男（０－５）・女（３－２）・混（０－１） 橋本　渡辺　植村　岸田　平井　常山　川口　早戸 田中　山本　井田　増茂　中山　村上　山田　貴田

第１回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９８６．８．９　於東淀川体育館

男

大阪　1　：　4　上海

単１	谷田　尚嗣	0	【 8：15	9：15】	2	徐	彪
単２	森下　一夫	0	【11：15	6：15】	2	沙	海平
単３	江藤　裕樹	2	【15： 8	18：17】	0	謝	緑林
複１	杉本　吉男 江藤　裕樹	1	【15：13	10：15　5：15】	2	金　晨 蘇　雄
複２	近藤　雅明 奥野　勉	0	【 9：15	9：15】	2	王　朋仁 鄭　智君

女

大阪　1　：　4　上海

単１	北田スミ子	2	【11： 7	11： 5】	0	鄧	思安
単２	平山美恵子	0	【 8：11	6：11】	2	高	美鳳
単３	新木　貴子	0	【 9：11	9：11】	2	史	方静
複１	西村美千代 原田真理恵	0	【 6：15	6：15】	2	高　美鳳 顧　若嵐
複２	岡田　由美 小泉　陽子	0	【 6：15	8：15】	2	蒋　暁依 史　方静

混合

	谷田　尚嗣 高峯　和子	0	【10：15	3：15】	2	金　晨 程　演

第２回上海・大阪親善競技会

１８８７．８．４　於上海黄浦体育館

大阪　0　：　11　上海

単１	山本　智美	0	【 3：11	4：11】	2	陳	穎
単２	新木　貴子	0	【 7：11	8：11】	2	呉	培
単３	秋元美佐緒	0	【 3：11	8：11】	2	盛	聞青
複１	新木　貴子 広田　時子	0	【 5：15	1：15】	2	高　美鳳 顧　若嵐
複２	星野由美子 田代美智世	1	【12：15	15：11　9：15】	2	史　方静 盛　聞青
混合複	谷田　尚嗣 広田　時子	0	【 1：15	6：15】	2	蘇　雄 高　美鳳
単１	早水　栄治	0	【 6：15	1：15】	2	徐	彪
単２	奥野　勉	0	【 7：15	16：18】	2	謝	緑林
単３	浜松　栄次	0	【 9：15	2：15】	2	沙	海平
複１	谷田　尚嗣 奥野　勉	0	【13：15	11：15】	2	王　朋仁 金　晨
複２	村上　友二 早戸　敬雄	0	【 3：15	11・15】	2	蘇　雄 鄭　智君

第３回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９８８．４．３　於東淀川体育館

男

大阪　１　：　４　上海

単１	辻田　泰昌		0	【１１：　５　０：１５】	2	沙　海平	
単２	江藤　裕樹		0	【　９：１５　２：１５】	2	徐　彪	
単３	早戸　敬雄		0	【　７：１５　９：１５】	2	郭　勁松	
複１	辻田　泰昌 谷田　尚嗣	2	【１５：１０　９：１５　１５：１１】		1	蘇　雄 邱　崢嵘	
複２	伊藤　義夫 白浜　智海		0	【　３：１５　２：１５】	2	許　武 姚　偉	

女

大阪　３　：　２　上海

単１	水井妃佐子		0	【　７：１１　０：１１】	2	陳　穎	
単２	北本久美子		2	【１１：　０　１１：　１】	0	朱　恩雯	
単３	岩　田良子	2	【１０：１２　１２：１１　１２：１１】		1	盛　聞青	
複１	谷地　春子 広田　時子		0	【　４：１５　１７：１８】	2	高　美鳳 陳　穎	
複２	小泉　陽子 新木　貴子		2	【１５：　５　１５：１１】	0	呉　培 盛　聞青	

第４回大阪・上海親善バドミントン交流大会

１９９０．４．４　於上海黄浦体育館

男

大阪　０　：　５　上海

単１	三村　幸司 〔大阪桐蔭高３〕		0	【　８：１５　２：１５】	2	陶　暁強〔1973〕	
単２	岸田　明宏 〔此花学院高３〕		0	【　５：１５　６：１５】	2	沈　逸峰〔1973〕	
単３	片岡詔市郎 〔此花学院高２〕	1	【１７：１５　１１：１５　１０：１５】		2	揚　智君〔1973〕	
複１	三村　幸司 吉森　文彦 〔大阪桐蔭高３・３〕		0	【　１：１５　３：１５】	2	郭　勁松〔1968〕 邱　崢嵘〔1969〕	
複２	斎藤　　俊 有田　浩史 〔大阪桐蔭高１・１〕		0	【　９：１５　１３：１５】	2	姜　准宾〔1973〕 沈　逸峰〔1973〕	

女

大阪　０　：　５　上海

単１	水井　泰子 〔四條畷学園中３〕	1	【　５：１１　１１：　７　　６：１１】		2	彭　煥春〔1975〕	
単２	松田　洋子 〔四條畷学園高２〕		0	【　４：１１　１：１１】	2	姜　雯〔1973〕	
単３	信田　富貴 〔四條畷学園高１〕		0	【　２：１１　２：１１】	2	呂　冰〔1973〕	
複１	礒山　享子 橋本　　香 〔四條畷学園高３・２〕		0	【　７：１５　７：１５】	2	蔡　卿〔1974〕 徐　欣〔1973〕	
複２	松田　洋子 杉田　暢子 〔四條畷学園高２・２〕		0	【　５：１５　１０：１５】	2	呂　冰〔1973〕 王　蔚瑾〔1973〕	

1973＝高校２年に該当する

第５回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９９１．４．３　於東淀川体育館

男

大阪　２　：　３　上海

単１	片岡詔市郎	１	【５：１５　１５：８　５：１５】	２	邱　峥嵘
単２	上滝　賢司	２	【１５：１０　１５：７】	０	王　俊
単３	辻田　泰昌	２	【１５：８　１８：１５】	２	郭　勁松
複１	村山　友二 早戸　敬雄	１	【１５：１０　３：１５　１２：１５】	２	郭　勁松 邱　峥嵘
複２	大山　宏司 岸田　明宏	０	【１２：１５　１０：１５】	２	王　俊 姚　偉

女

大阪　３　：　２　上海

単１	北浦　道代	２	【１１：９　３：１１　１１：６】	１	厳　利群
単２	金井　和恵	２	【１１：３　１１：６】	０	呂　冰
単３	水井妃佐子	０	【３：１１　１０：１２】	２	陳　穎
複１	田代美智代 三ツ川貴子	０	【５：１５　１３：１８】	２	陳　穎 盛　聞青
複２	広田　時子 小池由扶子	２	【１５：６　１５：９】	０	高　美鳳 厳　利群

第６回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９９２．４．３　於上海静安体育館

男

大阪　０　：　５　上海

単１	岸田　明宏	０	【２：１５　５：１５】	２	葛　成
単２	上滝　賢司	０	【１２：１５　１：１５】	２	沈　逸峰
単３	岸田　健作	０	【４：１５　５：１５】	２	姜　准宾
複１	岸田　明宏 織田　浩幸	０	【３：１５　７：１５】	２	郭　勁松 邱　峥嵘
複２	有田　浩史 斎藤　俊	０	【８：１５　７：１５】	２	葛　成 陶　暁強

女

大阪　０　：　５　上海

単１	水井　泰子	１	【１２：９　９：１１　３：１１】	２	姜　雯
単２	信田　富貴	０	【２：１１　５：１１】	２	呂　冰
単３	市橋　美紀	０	【７：１１　１１：１２】	２	毛　如瑾
複１	磯崎　京美 松田　治子	１	【１２：１５　１５：１１　４：１５】	２	陳　穎 盛　聞青
複２	水井　泰子 川口　桐香	１	【１５：１０　７：１５　３：１５】	２	厳　利群 呂　冰

第７回大阪・上海市友好親善バドミントン競技会

１９９３．４．５　於：阿倍野体育館

男

大阪　１　：　４　上海

単１	植村　昭彦	0	【 6：15	7：15】	2	姜　准宾
単２	上滝　賢二	0	【 8：15	10：15】	2	沈　逸峰
複１	辻田／今井	2	【15： 9	9：15 15： 8】	1	姜　准宾／陶　暁強
複２	大山／岸田	0	【12：15	10：15】	2	郭　勁松／邱　崢嵘
複３	鈴木草麻生	1	【12：15	15： 9 6：15】	2	陶　暁強

女

大阪　３　：　２　上海

単１	水井　泰子	0	【 8：11	4：11】	2	王　晨
単２	北浦　道代	0	【 2：11	5：11】	2	呂　冰
複１	小池／廣田	2	【15： 3	15： 7】	0	呉　佩／姜　雯
複２	宮村／松田	2	【15： 9	15：17 15： 4】	1	盛　聞青／呂　冰
単３	金井　和恵	2	【12： 9	11： 9】	0	姜　雯

混合複

	辻田／田中	0	【 9：15	13：15】	2	盛　聞青／邱　崢嵘

第８回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９９４．４．４　於青浦体育館

男

大阪　０　：　５　上海

単１	奥井　則昭	0	【 1：15	3：15】	2	張　偉
単２	仲尾　修一	0	【 1：15	2：15】	2	陳　偉
単３	土屋　貴孝	0	【 4：15	2：15】	2	沈　逸文
複１	今西　正至 浅田　和浩	0	【 7：15	2：15】	2	張　偉 楊　冰
複２	奥井　則昭 永谷　和也	0	【 5：15	2：15】	2	陳　偉 沈　逸文

女

大阪　１　：　４　上海

単１	鬼池めぐみ	0	【 7：11	4：11】	2	許　韵
単２	葛野　智子	0	【 6：11	8：11】	2	邵　宇鳳
単３	市橋　理恵	1	【11： 7	2：11 7：11】	2	呉　蓓
複１	鬼池めぐみ 鬼頭　加代	2	【16：18	15： 7 15：12】	1	彭　煥春 陶　暁嵐
複２	福島　由佳 薦田　朋美	0	【 5：15	4：15】	2	王　晨 邵　宇鳳

第９回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９９５．４．８　於東淀川体育館

男

大阪　2　：　3　上海

単１	片岡詔一郎		2 【15：10 15：4】 0		鄭 璐	
単２	渡辺 哲義	2	【10：15 15：13 15：8】	1	陳 偉	
単３	植村 昭彦		0 【7：15 5：15】 2		楊 冰	
複１	岸田 明宏 大山 宏司		0 【5：15 11：15】 2		張 尉 楊 冰	
複２	本田 暁暢 沼尻 裕昭		0 【7：15 7：15】 2		陳 偉 鄭 璐	

女

大阪　2　：　3　上海

単１	中山智香子		0 【2：11 1：11】 2		邵 宇鳳	
単２	山田 裕美		0 【6：11 4：11】 2		陳 李佳	
単３	市橋 理恵		0 【7：11 8：11】 2		呉 蓓	
複１	薦田 朋美 芳村真梨子	2	【15：13 8：15 15：9】	1	邵 宇鳳 陶 暁嵐	
複２	村上 直美 貴田 泉		2 【15：11 17：16】 0		陳 穎 呉 蓓	

混合

大阪　0　：　1　上海

複	早戸 敬雄 磯崎 京美		0 【3：15 12：15】 2		張 尉 陳 穎	

第１０回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９９６．４．６　於同済大学体育館

男

大阪　1　：　4　上海

単１	松下 文雄	1	【15：9 9：15 3：15】	2	茅 泓	
単２	仲尾 修一	2	【18：14 12：15 15：11】	1	張 勤栄	
単３	宇治 克樹	1	【14：17 15：12 7：15】	2	薛 方浩	
複１	宇治 克樹 甲林 成紀		0 【13：15 13：18】 2		薛 方浩 鄭 慧俊	
複２	永谷 和也 福川 和也		0 【7：15 10：15】 2		張 勤栄 茅 泓	

女

大阪　1　：　4　上海

単１	安城 美華		0 【3：11 2：11】 2		李 嬢	
単２	速水 永子		0 【9：11 4：11】 2		周 冰清	
単３	山田さやか		0 【3：11 4：11】 2		張 璐	
複１	山田さやか 安城 美華	2	【18：13 10：15 15：9】	1	彭 煥春 謝 穎雅	
複２	尾後 静香 谷嶋ゆき子		0 【8：15 8：15】 2		李 嬢 梁 盧冰	

第１１回大阪・上海友好都市親善バドミントン競技会

１９９７．４．１９　於大東市民体育館

男

大阪　0　：　5　上海

単１	橋本　敏信		0	【 7：15	12：15】	2	王　偉	
単２	渡辺　哲義		0	【10：15	8：15】	2	楊　冰	
単３	植村　昭彦		0	【 6：15	7：15】	2	陳　偉	
複１	岸田　明宏 平井　達也		0	【10：15	13：18】	2	王　偉 陳　偉	
複２	常山　兼二 川口　馨士	1	【15：18	15：3	7：15】	2	楊　冰 茅　泓	

女

大阪　3　：　2　上海

単１	田中　美保		0	【 3：11	7：11】	2	陳　李佳	
単２	山本　静香		2	【11：7	11：4】	2	呉　蓓	
単３	井田　貴子	1	【11：7	6：11	7：11】	2	邵　宇鳳	
複１	増茂　孝枝 中山智香子	2	【 3：15	15：11	15：11】	1	陳　穎 呉　蓓	
複２	村上　直美 山田　裕美		2	【15：12	15：6】	0	陶　暁嵐 邵　宇鳳	

混合

大阪　0　：　1　上海

複	早戸　敬雄 貴田　泉		0	【 3：15	12：15】	2	王　偉 陳　穎	

過去の主管大会の開催について

大阪バドミントン協会主催・主管有料大会

第１回国際女子バドミントン競技会（日本対デンマーク）

主　　催　日本バドミントン協会・大阪バドミントン協会

後　　援　大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・読売新聞社・報知新聞社
読売テレビ

共　　賛　関西デンマーク協会

日　　時　昭和４７年（１９７２年）１月２８日（金）午後５時３０分～午後９時

会　　場　大阪市中央体育館（中央区法円坂）

入 場 料　特別席　１，０００円　　A席　５００円　　B席　３００円

入場人数　２，０６６名

宿泊ホテル　大阪グランドホテル（中ノ島）

選 手 団　全日本　監督　佐藤茂雄（大阪協会常務理事・東大阪短期大学監督）

選手　中山紀子（日本女子体育短大卒・弘文堂）
柴山きよ子（東大阪短期大学２年）２０才
高崎　弘子（東大阪短期大学２年）２０才
石崎　茂子（東大阪短期大学２年）２０才
秋本八代美（四条畷学園高校３年）１８才

デンマーク

選手　リーン　コーペン（MISS LENE KOPPEN）１８才
アン　ベルクント（MISS ANNE BERGLUND）１８才
ウラ　ストランド（MRS. ULLA STRAND）
カーリン　ジョーゲンセン（MRS. KARIN JORGENSEN）

試合結果

全日本		デンマーク			
柴山きよ子	12－11	コーペン	柴山きよ子	15－ 5	ストランド
	12－11		高崎　弘子	15－ 5	ジョーゲンセン
中山　紀子	11－ 3	ベルクント	中山　紀子	15－ 7	ベルクント
	11－ 3		石崎　茂子	15－ 7	コーペン
秋本八代美	11－ 5	ストランド			
	11－ 5				

全日本　5　(3－0)　0　デンマーク
(2－0)

参　　考　１月３０日（東京大会）　　２月２日（横浜大会）

第１回日中バドミントン競技大阪大会（女子）

主　　催　日本バドミントン協会・日本中国文化交流協会
主　　管　大阪バドミントン協会
後　　援　大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・読売新聞社・日本放送協会
日　　時　昭和４８年（１９７３年）９月４日（火）午後５時３０分～午後９時
会　　場　大阪市中央体育館（中央区法円坂）
入 場 料　S席　２，０００円　　A席　１，０００円　　B席　５００円
入場人員　２，５００名
宿泊ホテル　ホテルプラザ（大淀区）
選 手 団　日本　監督　伊藤　基記（日本協会常務理事・熊本女子大監督）
　　選手　湯木　博江（河崎ラケット工業㈱）
　　竹中　悦子（㈱ヨネヤマラケット）
　　相沢マチ子（㈱ヨネヤマラケット）
　　石崎　茂子（日本電信電話公社）
　　西尾真理子（日本体育大学２年）
　　秋本八代美（日本体育大学２年）
　　徳田　敦子（四条畷学園高校３年）
　　高田　幹子（四条畷学園高校３年）

試合結果

	中国			日本
複１	陳玉娘 梁秋霞	2	13－17 15－ 8 15－ 3	1	相沢マチ子 竹中悦子
単１	劉暁征	2	11－ 3 11－12 11－ 7	1	石崎茂子
複２	林有雅 丘玉芳	2	9－15 15－12 15－ 3	1	徳田敦子 高田幹子
単２	陳玉娘		11－ 8		湯木博江
複３	鄭恵明 許慧玲		15－ 8		西尾真理子 秋本八代美

※（単２・複３の試合は時間切れのため１ゲームで終わった）

中国　5（3 複 0／2 単 0）0　日本

第７回世界女子バドミントン選手権大会（ユーバー杯）
日本代表壮行試合

主　　催　　大阪バドミントン協会
日　　時　　昭和５０年（１９７５年）４月２７日（日）御前１２時００分～
会　　場　　大阪中央体育館（中央区法円坂）
入 場 料　　A席　８００円　　B席　５００円
入場人員　　２，５００名
試合結果

全日本			全大阪
池田　美加	12－10		竹中　悦子
	12－10		相沢マチ子
中山　紀子	11－ 2		植野恵美子
	11－ 8		湯木　博江
			池田　美加
湯木　博江	5－11		徳田　敦子
	11－ 5		
	11－ 4		

15－ 8	徳田　敦子			
15－ 6	高田　幹子			
		9－15	西尾真理子	
		15－12	秋本八代美	

全日本　4　（ 1－D－1 / 3－S－0 ）　1　全大阪

第６回国際バドミントン競技（全日本対ヨーロッパ選抜）大阪大会

主　　催　　日本バドミントン協会・大阪バドミントン協会
日　　時　　昭和５２年（１９７７年）２月１２日（日）午後２時００分～
会　　場　　大阪中央体育館（中央区法円坂）
入 場 料　　A席　１，０００円　　B席　７００円
入場人員　　３，０００名

第１回バドミントン「日本リーグ」最終戦　大阪シリーズ

主　　催　　日本バドミントン協会
主　　管　　大阪バドミントン協会
日　　時　　昭和５５年1月１３日（日）　１３：００～
会　　場　　大阪府立体育館
入場者数　　１，８００名
入 場 料　　A席　１，８００円　　B席　１，０００円
試合結果　　（男子）電々東京　　２－１　河崎ラケット
　　（女子）サントリー　２－１　河崎ラケット
この後、大阪で毎年開催を原則とする

日英対抗バドミントン親善競技大会

主　　催　　大阪バドミントン協会
日　　時　　昭和５７年1月１２日（火）　１７：００～
会　　場　　大阪市立東淀川体育館
入場者数　　８００名
入 場 料　　一般　１，０００円　　高校生以下５００円
試合結果　　日本　３－６　英国

ジャパンオープン ’８７（賞金総額　１，５００万円）

主　　催　　日本バドミントン協会
主　　管　　大阪バドミントン協会
日　　時　　昭和６２年1月２１日（火）～２５日（日）
会　　場　　守口市民体育館
入場者数　　名
入 場 料　　A席　　円　　B席　　円

昭和６３年度　全日本総合バドミントン選手権大会

主　　催　　日本バドミントン協会
主　　管　　大阪バドミントン協会
日　　時　　昭和６３年１２月１３日（火）～１８日（日）
会　　場　　守口市民体育館

入場者数　　名

入 場 料　A席　1，５００円　　B席　1，０００円　　小中学生　７００円

女子単　優勝　北田スミ子（三洋電機）

混合複　優勝　谷田　尚詞（此花学院教員）

廣田　時子（サントリー）

女子複　準優勝　谷地　春子（サントリー）

廣田　時子（サントリー）

この後、平成２・４・６・８年、大阪で開催

［第 2 章］

協会を構成する 8 連盟のあゆみ

大阪府実業団
バドミントン連盟

◆ 祝辞 ◆

ご祝辞



大阪府実業団バドミントン連盟
会長 尾﨑　弘

大阪バドミントン協会創立５０周年記念を迎えるに当り、この記念すべき節目に際し大阪協会副会長の席を穢がさせて頂いて居ますことを光栄に存じますと共に、傘下の大阪実業団バドミントン連盟会長として、今日の意義ある日を迎えるに当り心から祝意を表します。

昭和２８年、私がたまたま大阪の或る管理機関に赴任した頃、その職場の職員が焼けビルと焼けビルとの間の瓦礫の間を縫って地ならしをし、それまでに見たことのない羽根つきのようなもので楽しみを見つけたのが、私とバドミントンとの出合いでありました。その頃はずぶの素人の私の目にも子供の羽根つき位にしか写りませんでしたし、その後、大阪実業団バドミントン連盟が創設され、当時日本体育協会の大御所、春日弘さんが初代の会長に就任され、その下で私が副会長をやらせて頂きましたが、その頃でも技倆は余り高度なものとは云えず、私でもお相手出来る程度にしか目に写りませんでした。況や今日のような心技体ともに伸長、充実を遂げるなどの予測は難しいことでした。

さて吾が大阪実業団バドミントン連盟の事実上の創立者であり、２代目の理事長から今日副会長を、そして大阪バドミントン協会の理事長も歴任された池田芳麻さんが、当時テニスとバドミントンの両方で活躍して居られました。その頃、大阪市内でまともにバドミントンの出来る施設はＹＭＣＡと電々公社の中之島体育館くらいしかありませんでした。選手もテニスからの転向組やテニスとバドミントンの両刀使いがその主力を形成して居り、池田さんもその一人でした。そして今日のバドミントンの隆盛がありますのは、ひと重に初代の春日会長を初め、池田さん達、創成時の先駆者のお陰であると信じ、関係の方々に改めて衷心から敬意とお礼を申し上げたいと思います。

然し今はサッカーブームの影響を受けて我が国のスポーツ愛好家がそれに惹かれバドミントンを初めその他の各スポーツが影響を受けて居りますが、然し家庭婦人連盟などその逆風をものともせず、然も大阪や全国の牽引者となって衰退どころか、ますます大活躍を続けて居られますことは私達大いに見習い、この時期を乗り越えなければならないと思います。そしてその為には教職員連盟を初め、小学生、中学生、高校生の各連盟を先頭に新人の発掘に努力し、また家庭婦人連盟を初め、私達実業団連盟、社会人連盟が協力して、バドミントン愛好家の誘致，導入に努め、斯業発展の一貫を担うと共に、バドミントンがますます発展する原動力となっていきたいと思います。

そしてバドミントンが広く愛され、ますます発展することを祈念致しますと共に、大阪バドミントン協会創立５０周年に於ける大阪実業団バドミントン連盟会長としてのご祝詞を申し上げさせて頂きます。

◆ 祝辞 ◆



あいさつ

大阪府実業団バドミントン連盟
理事長 清水　義雄

昭和２２年１０月に設立して以来５０年の歳月を経て、ここに創立５０周年を迎える事は誠に意義深いことであります。

生い立ちの頃のことは分かる術も有りませんが、終戦直後のあの混乱期に大阪バドミントン協会を創ろうと活動された幾多の方々が居られたことは驚きであり、諸先輩に改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

現在８連盟、約９，０００名のＮＢＡ登録会員を有する全国でも１～２位の組織規模を誇る協会に成長いたしました。しかし、一方組織が大きく成ったがための組織運営の難しさに直面している昨今ではないかとも思います。

先日も５０周年記念誌に掲載するための座談会が開催されました。座談会のテーマは「協会の現状と将来の展望」ということでいろいろな意見が有りましたが、まとめると１つは組織運営のあり方、もう１つは選手強化の方法に議論が集中した様に記憶しております。組織運営についての私の提案に、司会者の青木副会長が「個人商店から株式会社への転身ですね」とまとめられた。まさに的を得た言葉で、これ以上の説明は必要ないと思いますが、今後は現有する９つの専門部を機能的に活用して、協会運営の効率化と組織の充実を計っていかなければならないと考えます。

５０周年という記念すべき節目に協会役員の一員として参画出来たことは非常に幸運な事であり、また責任の重大性を意識せざるを得ない気持ちです。この５０周年を決起に全員が一致協力して、今後ますますの飛躍につなげて行かなければならないと思います。

私の所属する大阪府実業団バドミントン連盟も、来年３月には満４０才を迎えることになります。実業団連盟の設立に際しては、大阪バドミントン協会の絶大なるご指導とご協力をいただいたと聞いております。今後とも大阪バドミントン協会が大阪府下のバドミントンの中枢機関として、また傘下８連盟の統括機関としてますますの発展と充実をされるよう念願致しております。

大阪府実業団バドミントン連盟沿革



大阪府実業団バドミントン連盟は、昭和３３年３月３１日に「大阪バドミントン協会の傘下団体として、実業団及び社会人バドミントンの健全なる普及発達を図り、併せてその体位の向上に寄与する」を目的として加盟１１団体をもって設立された。会員は「本連盟の趣旨に賛同するアマチュアバドミントン実業団及び社会人」を以って組織された。

初代の役員は会長　春日　弘氏（大阪金属工業)、副会長　尾﨑　弘氏（電電)、宮崎平氏（大阪スポーツ工業)、理事長　尾上忠史氏（国際電電）が就任された。

昭和３６年７月６日、日本実業団バドミントン連盟が結成されると同時に加盟し、続いて昭和４０年２月１４日の兵庫県での第１３回近畿実業団大会時に近畿実業団バドミントン連盟が設立されこれに加盟した。この大会で電電大阪は「男子の部」で初優勝し、これ以降第２２回大会まで１０連覇し、又第２４回大会から第３２回大会までに２度目の９連覇を含めて今日までに通算２３回の優勝を遂げるなど輝かしい戦績を残した。

昭和４１年６月には大阪府実業団連盟として初めて第１６回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管した。後に第２７回全日本実業団大会（昭和５２年６月）の団体戦（個人戦は京都府で実施）及び第３４回全日本実業団大会（昭和５９年６月）を主管した。

昭和４４年に入ると従来の春・秋季リーグ戦を前期・後期リーグ戦に改め、これに会長杯リーグ戦と個人選手権大会を加え、現在の年間行事体制が確立された。

昭和４８年にはクラブチーム（１１チーム）が独立され、大阪社会人連盟としての第一歩を踏み出された為、当連盟は実業団チームのみの組織となった。昭和５８年には連盟結成２５周年記念行事として「シンボルマーク」が決まり、念願の「連盟旗」が出来た。

昭和６１年１月には連盟機関誌「大実連」を発刊、以降１７号（平成２年１月）まで満４年間にわたり３ヶ月毎に発行していたが、現在は都合により休刊中である。昭和６３年１月２４日には連盟結成３０周年記念行事として「喜びの集い」を住友金属工業社員クラブで開催し「連盟結成３０周年記念誌」を発行した。この年、北田スミ子選手（三洋電機）がソウルオリンピック（リハーサル大会）に出場し、見事銅メダルを獲得された。また、平成８年７月には第２６回オリンピック（アトランタ）に宮村愛子・宮村亜貴子姉妹及び小池由扶子コーチ（以上サントリー）が出場し活躍したことは記憶に新しいところである。

平成５年会長に尾﨑　弘氏、副会長に池田芳麻氏、理事長に清水義雄氏が就任され、次いで平成７年副会長に伊藤憲二氏と品川則之氏を加え現在に至っている。

大阪府実業団バドミントン連盟のあゆみ

〈連盟の発足〉

大阪府実業団バドミントン連盟は昭和３３年３月３１日の発足とされている。池田副会長の所有する最も古い連盟規約の制定日が同日付けとなっている事がその証である。このあたりの歴史については私たち大実連に所属する者にとっては大変興味のあることである。連盟誕生までの経緯については、連盟機関誌『大実連』に掲載されている「大実連のあゆみ」（池田副会長が執筆された）より引用させていただくことにする。「連盟創立が昭和３３年で私がバドミントンを始めたのが同２９年、そして堂島クラブ代表者として私が協会及び実連に関係し始めたのが同３３年５月ということは、昭和３３年以前より連盟組織結成に向けて努力された方々が居られたことを意味している。そのとおりで、昭和３４年４月発行の昭和３３年度大阪協会会計決算報告書によると、協会加盟組織としては一般、大学、高校とあり、実連は社会人と同じく一般に扱われていた。

府民体育祭プログラムによれば、社会人クラブ的な存在は学大クラブ、松江商業ＯＢクラブの２チームでそれ以外の２５チームはすべて現在の実連チームとして認められるチームばかりで、その指導的な位置に国際電電、大阪高裁チームがあって、それらが連盟結成の世話役活動を推進されていたと記憶している。その活動の中心的な人々として国際電電の尾上忠史氏、溝渕宏二氏、大阪高裁の井上仁朗氏らが居られる。（中略）このお三人の方とそれに大阪協会の明見正晴氏（現宮脇正晴）は、大実連にとり重要な方であると考えている。

昭和３３年３月連盟が結成され、それまで大阪協会主催大会に一般チームとしてしか参加していなかった実業団チームが、大阪府実業団バドミントン連盟として一つの社会的地位を確立し、その最初の主催大会として行ったのが昭和３３年７月１９日～２０日の２日間、当時はまだ新設舘だった近畿電電体育館での第１回大阪府実業団バドミントン個人選手権大会である。今でもこの大会のことは忘れられない思い出が沢山にある。……」

このような背景をもって堂島クラブ（ＮＴＴ関西）大阪金属工業（ダイキン大阪）、国際電電（ＫＤＤ）、藤沢薬品工業、大阪高等裁判所、専売公社茨木工場、タッタ電線、大阪スポーツ工業（ゴーセン）、大阪電気、日本コンベアー、三菱商事の加盟１１団体をもって大阪府実業団バドミントン連盟が設立された。

その後、新たに加盟された事業所もいくつかあった様で、結局昭和３３年度の連盟組織状況はずばりの資料が無いため正確には把握出来ないが、各種大会のプログラムに記載されている出場者名簿等をもとにまとめると、事業所数１９、チーム数３８（男子２８、女子１０）、登録会員数約１４０名（男子約１１０名、女子約３０名）程度の規模であったと考えられる。

また、この年の連盟役員は第１回大阪府実業団バドミントン個人選手権大会（７月１９～２０日開催）のプログラムに次の通り記載されている。

昭和３３年度大阪府実業団バドミントン連盟
役　員　名　簿

会　長	春日　弘	大阪金属工業
副会長	尾﨑　弘	日本電信電話公社
	宮崎　平	大阪スポーツ工業
理事長	尾上　忠史	国際電信電話
常務理事	明見　正晴	大阪学芸大学ＯＢ
	井上　仁朗	司法クラブ
	松崎　秀志	藤沢薬品工業
	矢田　幹人	松江商業高校ＯＢ
	遍々古　一	日綿実業
	矢野　幸男	三菱商事
	牧志　倫夫	日本電信電話公社
	池田　芳麻	堂島クラブ
会計理事	井上　仁朗	司法クラブ
	溝淵　宏二	国際電信電話

（順序不同）

〈創立期における活動〉

引続き連盟機関誌『大実連』よりの引用と青木大阪協会副会長から頂いた当時の資料を基に、連盟結成直後の臨時総会の模様を述べることにする。当時の資料として昭和３４年２月頃開催されたと考えられる「大阪府実業団バドミントン連盟　第１回臨時総会　議案経過報告書」によると

経　過　報　告　書

1．会議報告

4月　（於　楽　亭）　総会を行う
今年度事業計画及び前川口理事長の辞任問題等

〃　（於朝日新聞社）　第一回臨時総会を行う
役員改選、規約改正、連盟費等の問題

5月　（於　ＫＤＤ）　第一回理事会
講習会、合同練習、協会納金の件　他

〃　（於　ＫＤＤ）　第二回理事会
大会報告、スケジュール、その他

〃　（於　ＫＤＤ）　第三回理事会
近畿選手権報告、社会人選手権大会（個人）について

6月　（於　ＫＤＤ）　第四回理事会
社会人選手権大会（個人）、五大都市対抗

10月　（於　ＫＤＤ）　第五回理事会
中間会計報告、個人選手権報告、個人加盟等

12月　（於堂島電話局）　第六回理事会
秋季大会等について

1月　（於堂島電話局）　第七回理事会
秋季大会中止に伴う次期大会開催について

6月　（於　ＫＤＤ）　第一回常任理事会
個人選手権抽選及び運営

10月　（於　ＫＤＤ）　第二回常任理事会
今後の運営について

2月　（於堂島地区電話局）　第三回常任理事会
来年度計画、会計報告等

3月　（於（空白））　第二回臨時総会
来年度計画（予定）

2．大会報告（実業団関係）

行　事　名	実　施　日	会　　場
第１２回府民体育祭	5月　4日	南桜塚小学校
第２回春季実業団大会	5月２５日	西野田工業高校
近畿選手権大阪予選	5月２５日	西野田工業高校
五大都市対抗予選	6月　8日	樟蔭東高校
第１回大阪実業団個人選手権	7月５～６日	電電体育館
国体予選（女子のみ）	8月　　日	アベノ体育館
国体予選（男子のみ）	9月　　日	茨木高校
春季大会	1月２５日	電電体育館

3．大会報告（協会関係）

行　事　名	実　施　日	会　　場
第８回近畿選手権大会	6月１４～１５日	和歌山県
第９回五大都市対抗	7月１３～１５日	京都市
全日本実業団選手権大会	7月２４～２６日	北海道
第７回近畿実業団選手権大会	１２月　8日	電電体育館
西日本選手権大会	1月３～５日	松山市
全日本選手権大会	8月　　日	東京都

4．大会成績一覧表（昭和３３年度）

(1) 第１２回大阪府民体育祭バドミントン一般の部（Ｓ３３／５／４，於　南桜塚小学校）

	1　位	2　位	3　位
男子１部	K　D　D	堂島クラブ	松商ＯＢ
男子２部	大阪電気	三菱商事	大阪金属
男子３部	田中機械	大阪高裁	日本生命
女子	堂島クラブ	学大ＯＢク	市外電話

(2) 第１回大阪府実業団バドミントン個人選手権大会（Ｓ３３／７／１９～２０，於　近畿電電体育館）

		1　位	2　位	3　位
男子	単	松　王（大阪スポーツ）	上　田（綿久製綿）	佐　藤（オール大阪）
	複	松　王・仲尾（大阪ス）	中西・島屋（学大ＯＢ）	高谷・神田（大阪電気）
女子	単	臼　杵（オール大阪）	伊　藤（堂島クラブ）	山　路（大阪金属）
	複	島田・平井（学大ＯＢ）	伊藤・鈴木（堂島ク）	小松・青山（市外電話）
混合	複	松王・福本（大阪ス）	明見・松山（学・オール）	大黒・船原（オール大阪）

(3) 春日会長杯　電電杯トーナメント大会〔前期〕

	1　位	2　位	3　位
男子１部	大阪電気	学大ＯＢクラブ	松商ＯＢ・堂島クラブ
男子２部	田中機械	市外電話	西野田ＯＢ・松商ＯＢ
男子３部			
女子	オールス大阪	学大ＯＢクラブ	市外電話・大阪金属

(4) 春日会長杯　電電杯トーナメント大会〔後期〕

	1　位	2　位	3　位
男子１部	大阪スポーツ	松商ＯＢ	
男子２部	田中機械	大阪高裁	西野田工高ＯＢ
男子３部	専売茨木		
女子１部	堂島クラブ	学大ＯＢクラブ	大阪スポーツ
女子２部	大阪金属	専売茨木	

提　出　議　案

(1) 第一号議案　規約改正について

規約改正案が現行案を上部に、改正案が下部に対比して掲載されている。主な改正案は、

① 事務所設置場所をそれまでのＫＤＤ内からＫＤＤビル近くの喫茶店マキにする
② 会員は大阪府下に在住、在勤者とする
③ 会員の義務の明示
④ 会費、加盟費、臨時会費の制度化
⑤ 予備費支出は議決機関の要承認
⑥ 加盟各団体代表１名の理事選出
⑦ 会計監査の新設
⑧ 役員の業務専念義務の明示
⑨ 総会の位置づけと構成人員並びに開催時期と回数、審議事項の明示
⑩ 会議成立、議決条件
⑪ 規約、活動方針の決定は無記名投票制
⑫ 常任理事制の採用

(2) 第二号議案　連盟費の改正

第二号議案では連盟費の改正案が出されている。それによると

新規加盟費が６００円→１，０００円、
連盟費が１，５００円→２，０００円、又個人加盟費を新設１，０００円を徴収する方針

(3) 第三号議案　収支予算案

第三号議案として昭和３４年度収支予算案が出されている。それによると総収入は拾万円である。

(4) 第四号議案　連盟事務所の設置

他スポーツ連盟は事務所を固定化し年度毎の世話役のみ輪番制を行っている。当連盟としてもこの点に類して連盟事務所を固定化し世話役担当者及び該当団体に必要以上の迷惑を避けるべく努力を要する。この意図で左記案について一考願いたい。

事務所（案）　東区備後町１丁目
喫茶店“マキ”代表者
ＴＥＬ．２３－９１０１

（この案は時期尚早として否決された様です）

(5)　第五号議案　スケジュール

(a) ① 春季大会（トーナメント団体戦）
② 第４回春日会長杯　４月１９日
③ 府民体育祭（府関係団体トーナメント戦）５月３～５日
④ 個人選手権大会（個人　男女単、複、混合）
⑤ 連盟杯　６月２７～２８日
⑥ リーグ戦（各ブロック別リーグ戦）７月下旬
⑦ 石渡杯

(b) ① 五大都市対抗予選
② 団体予選
③ 全日本・近畿・西日本予選
④ 近畿実業団予選会
⑤ 全日本実業団予選会

(c) その他　ＰＲ大会及びその他の大会

(6) 第六号議案　活動方針

① 国体、五大都市対抗について
② 合同練習（細目は別途規定する）
③ 対外試合（他府県）について
④ 講習会について
⑤ ＰＲ作戦

(7) 第七号議案　大会運営

(a) 直接実業団の主催するもの
① 春日会長杯及び電電杯トーナメント大会
② 連盟杯個人選手権大会
③ 石渡杯リーグ戦大会

(8) 第八号議案　役員改選

① 会　長　　１名
② 副会長　　若干名
③ 専務理事　２名（実業団、協会）
④ 常任理事　６名
⑤ 会計理事　１名
⑥ 会計監査　１名

以上連盟誕生直後の動きについて詳しく記載して来ましたが、昭和３３年度だけで総会２回、理事会７回そして常任理事会３回と毎月のように会議が開かれ、大会の開催・連盟の運営等の諸問題について議論し、今日の基礎が築かれました。

次に連盟のあゆむ過程での節目となる記念行事について簡単にまとめてみました。

〈１５周年記念行事〉

連盟創立後まもなく４０周年を迎える大阪実連でありますが、過去に3回の記念行事を行いました。

まず最初は１５周年であります。創立が昭和３３年であることから、昭和４８年度が記念年にあたりますが、実際には昭和４９年８月～１０月の「会長杯争奪団体リーグ戦大会」を連盟結成１５周年記念大会と位置づけて、ささやかながらも会員全員で祝福致しました。あまり派手な行事は行わず、大会プログラムの末尾に「連盟のあゆみ」として１５年の歴史をまとめ、掲載致しました。

昭和４９年度　会長杯争奪団体リーグ戦大会（兼連盟結成１５周年記念大会）

大　会　結　果

	1　位	2　位	3　位
男子１部	電電近畿(A)	スワロー化研	阪急電鉄
男子２部	住友生命	KDD(A)	川崎重工　松下無線
男子３部	十条板紙	日立桜島	大和銀行
男子４部	三洋電機	日本生命	電電近畿(A)　松下TV
男子５部	三洋電機本社	ロート製薬(A)	全日空(A)
男子６部	日商岩井	ロート製薬(B)	全日空(B)　参天製薬
女子１部	スワロー化研	電電近畿(A)	大和銀行
女子２部	日商岩井	三洋カラーTV	電電近畿(B)　ロート製薬(A)

昭和４９年度会長杯争奪団体リーグ戦大会（兼連盟結成１５周年記念大会）は８月４日～１０月２０日までの３日間、中央体育館と府立体育館別館で実施されました。

昭和４９年度は、加盟事業所が４７事業所で大会には男子が１～６部で４０チーム、女子が１～２部で１１チームが参加致しました。

この会長杯争奪団体リーグ戦大会（記念大会）の結果をご紹介しておきました。

〈２５周年記念行事〉

第２回目は２５周年であります。昭和５８年度は加盟事業所が７３事業所、チーム数１４９と最大規模の組織となりました。昭和５８年度の会長杯団体リーグ戦を「連盟創立２５周年記念大会」と位置づけて、記念セレモニーは昭和５８年１２月１８日の大会初日、松下枚方スポーツセンターで開会式に実施致しました。

バトンガールとチヤガールに先導されて男子は１部～１０部迄の９４チーム、女子が１部～３部迄の２２チームがプラカードを持って入場行進を行いました。

行進中は当時唯一の女性理事である西村央子嬢が各チームの成績及びチーム名を名調子で紹介し、雰囲気を盛り上げて呉れました。

平野新二氏（電電近畿）の選手宣誓のあと、年次表彰として阪急電鉄、松下電工、住友金属大阪、松下電子部品が功労賞を、清水照彦、尾﨑　弘、池田芳麻の諸氏が特別功労賞を受賞されました。

選手退場後に行われたチヤガールによる余興は、選手・役員より大喝采を受けました。

また、大会期間中は各会場に「２５年のあゆみ」をパネルにまとめ掲示すると共に、池田理事長（当時）所有の各種大会の記念品（参加賞）やプログラム、初期の頃の服装やラケット、バドミントン関連の雑誌等の展示物をテーブルにところ狭しと並べ大会参加選手達に紹介致しました。

連盟結成以来２５年になる大阪実業団連盟にも、未だ連盟の象徴とも言うべき「連盟旗」が有りませんでした。そこでこの期に「連盟旗」をつくり、わが大阪実連の顔にしようと言うことで、昭和５８年７月全会員にシンボルマークを公募し、応募総数２６点を理事会で慎重審議し、１１月にやっと念願の「シンボルマーク」と「連盟旗」が出来上がりました。

昭和５８年度は、加盟事業所も７３事業所で過去の最多記録をマークし、実り多き、思い出深い１年でありました。この記念すべき昭和５８年度の登録

事業所の全チームを紹介したいと思い、この１年間の各大会（前期大会、後期大会及び会長杯大会）の成績をまとめ、部別ランキング表として記載致しました。

昭和５８年度　部別ランキング表（男子１～６部）

ランク	１　部	２　部	３　部	４　部	５　部	６　部
1	電電近畿 (A)	電電近畿 (B)	阪和興業	住友商事	松下録音機	ＯＦＫ (A)
2	松下ラジオ	丸善石油 (A)	三洋住道 (B)	阪急電鉄 (B)	松下無線 (A)	ヤンマー (A)
3	ヨネックス	阪急電鉄 (A)	大日本製薬 (A)	参天製薬 (A)	大阪ガス (C)	水道局 (A)
4	住友金属大阪	松下電子工業	ダイキン淀川 (A)	丸紅	川重大阪 (B)	松下テレビ (A)
5	カワサキラケット	興亜石油 (B)	日立桜島 (B)	全日空 (B)	塩野香料 (A)	田辺製薬 (A)
6	大阪ガス (A)	住友生命	シオノギ (A)	川重大阪 (A)	藤沢薬品 (A)	松下電子工業 (A)
7	興亜石油 (A)	日立桜島 (A)	松下中研 (A)	ロート製薬 (A)	タッタ電線	三和銀行
8	三洋住道 (A)	大阪ガス (B)	松下ステレオ	ＫＤＤ	三洋住道 (C)	松下電工 (B)
9	ゴーセン	国鉄吹田 (A)	大阪市役所 (A)	シャープ	大日本製薬 (B)	日本生命
10		全日空 (A)		阪急百貨店 (A)	共英製鉄	三友会
11		松下電工 (A)			大阪市役所 (B)	

昭和５８年度　部別ランキング表（男子７～１０部）

ランク	７　部	８　部	９　部	１０　部			
1	松下電子部品 (B)	大阪市立大学	シオノギ (B)	1	和泉市役所 (A)	13	藤沢薬品 (B)
2	大阪税関	ダイキン淀川 (B)	小松製作所	2	丸善石油 (B)	14	ヤンマー( )(C)大和ハ
3	松下テレビ (B)	全日空 (C)	日鉄建材 (A)	3	電電阪南	15	ウス (B)
4	日本ペイント (A)	南区役所 (A)	塩野香料 (B)	4	国鉄吹田 (B)	16	ライオン
5	松下中研 (B)	水道局 (B)	田辺製薬 (B)	5	理研ビタミン	17	大阪造船所 (B)
6	日立桜島 (C)	宇部興産	ＯＦＫ (B)	6	大和銀行	18	参天製薬 (B)
7	ヤンマー (B)	門真市役所	日本ペイント (B)	7	光洋精工	19	阪急電鉄 (C)
8	旭区役所	大阪市役所 (C)	松下無線 (B)	8	松下電子部品 (C)	20	大阪番案
9	松下冷機 (A)	ロート製薬 (B)	日本設計	9	松下テレビ (C)	21	日鉄建材 (B)
10	大阪造船所 (A)	大和ハウス (A)	阪急百貨店 (B)	10	松下ビデオ	22	松下冷機 (B)
11	住友特殊金属	ナカ工業	全日空 (D)	11	南区役所 (B)	23	三菱ガス
12			中山製鋼所	12	和泉市役所 (B)	24	ダイハツ

昭和５８年度　部別ランキング表（女子１～３部）

	１　部	２　部			３　部			
1	サントリー	1	大和銀行	9	松下テレビ	1	ＫＤＤ	9	大日本製薬
2	三洋電機	2	三和銀行	10	塩野義製薬	2	全日空	10	ヤンマー (B)
3	住友金属大阪	3	三洋住道	11	阪急百貨店	3	藤沢薬品 (B)	11	ライオン
4		4	ヤンマー (A)	12	松下電工	4	田辺製薬	12	川重大阪
5		5	藤沢薬品 (A)			5	日本ペイント	13	大阪番案
6		6	大阪市役所			6	住友生命	14	日本生命
7		7	日立桜島			7	住友商事	15	参天製薬
8		8	ロート製薬			8	阪急電鉄	16	塩野香料

〈３０周年記念行事〉

次は昭和６２年度に開催の３０周年行事です。組織も大きくなり、加盟６５事業所、１３６チーム、約１，０００名の登録メンバーをもつ盛況です。

年度初めの定期総会で記念行事の実施が審議・決定され、昭和６２年８月４日の理事会に於いて「連盟結成３０周年行事準備委員会」が正式に発足致しました。委員長　河合　茂（田辺製薬）副委員長　伊藤憲二（大和銀行）、河野治道（ロート製薬）、委員に牧志倫夫、小柳和男、仲田康英、藤井靖雄、前川智恵美の諸氏が選出されました。

委員会では活発な意見交換が行われた後、行事計画が浮き彫りにされ、昭和６３年１～３月開催予定の会長杯団体リーグ戦を記念大会として行うこと、期間中に一大セレモニーとして親睦試合と懇親パーティーを開催し、３０周年を決起に今後ますますの飛躍につなぐこと、そして記念誌(小冊子)を発行すること等を決定致しました。

その後準備委員会メンバーに常務理事も加わり準備を進め、いよいよセレモニーの当日、昭和６３年１月２４日を迎えました。

１月２４日（日）は午前９時３０分より住友金属工業株式会社製鋼所体育館に於いて、連盟結成３０周年親善大会を開催し、４４事業所１０６名、また社会人連盟より小泉良樹氏と四方光市氏そして斉藤敏行氏（学研）の特別参加を頂き、和やかな雰囲気の中で、それぞれ思い思いのバドミントンを楽しんで頂きました。

引き続き午後２時３０分からは、同製鋼所内社員クラブにおいて懇親パーティ（喜びの集い）を開催、大阪協会、近畿各府県協会及び各府県連盟をはじめ、関係各位の多数のご来駕を賜り、盛大にとり行わしていただきました。

岸　久雄大阪協会会長及び嶋家庭婦人連盟会長にご祝辞をいただいた後、永年大阪実連にご協力、ご援助頂いた株式会社ゴーセン及び大一スポーツ株式会社の両社に感謝状を贈呈させて頂きました。

又、２５年以上加盟し連盟発展に寄与した事業所として、ＮＴＴ関西総支社、国際電電、ダイキン工業淀川製作所、住友生命、大日本製薬、日立造船桜島工場、大阪市南区役所、松下電器産業オーディオビデオ本部、塩野義製薬の９事業所及び清水照彦名誉会長、尾﨑　弘副会長、池田芳麻副会長兼理事長（役職は当時）の３名が特別功労賞を受けられました。

この日の思い出は「３０周年記念行事あれこれ」としてスナップで振りかえることに致します。出来れば親善大会に出場された方々の参加者名簿を掲載しようと思ったのですが、残念ながら紙面の都合で省略させていただきます。

なお、昭和６２年度会長杯団体リーグ戦大会（兼連盟結成３０周年記念大会）は１月３０日～３月２０日までの６日間に府立体育会館、東淀川体育館、中央体育館の３会場で、男子は１～１２部の８８チーム、女子は１～３部の１９チームの計１０７チームの参加があり熱戦が展開されました。大会の戦績を下記にご紹介いたします。

昭和６２年度　会長杯団体リーグ戦大会（兼連盟結成３０周年記念大会）

大　会　戦　績

	1　位	2　位	3　位	
男子１部	ＮＴＴ関西	ＮＴＴ大阪	松下大阪	住金大阪
男子２部	ヨネックス	ゴーセン	松下電子部品(A)	
男子３部	三洋住道(B)	全日空(A)	ダイキン淀川(A)	藤沢薬品(A)
男子４部	大阪市役所(A)	泉佐野市役所(A)	ＯＦＫ(A)	
男子５部	ロート製薬(A)	大阪市水道局	大阪市役所(B)	ＳＣＳ
男子６部	興亜石油(B)	塩野義製薬(B)	小松製作所	
男子７部	光洋精工(A)	藤沢薬品(B)	ヤンマー	旭区役所
男子８部	コスモ石油(B)	理研ビタミン	区役所(A)	
男子９部	塩野義製薬(C)	阪急電鉄(C)	和泉市役所(B)	松下ＷＲＬ(B)
男子10部	松下テレビ	松下電子部品(C)	ロート製薬(B)	
男子11部	大日精化工業	シャープ(A)	オーツタイヤ	光洋精工(B)
男子12部	大阪市交通局	大日本製薬(C)	シャープ(B)	
女子１部	サントリー	三洋電機	大和銀行	
女子２部	松下電子部品	光洋精工	大阪ガス	
女子３部	住友生命	ＫＤＤ	大日本製薬	

３０周年記念行事あれこれ



親善試合会場



親善試合開会式



親善試合風景



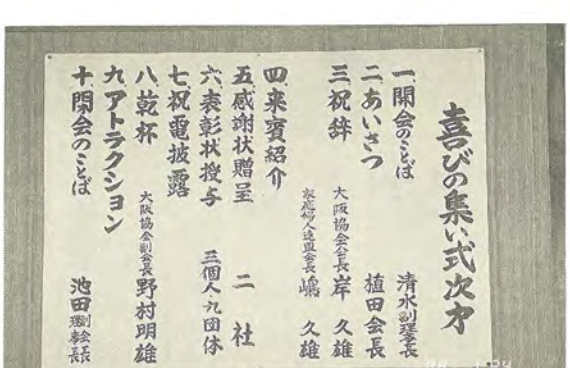
式典会場（社員クラブ）



ようこそ、お待ちしておりました



ゲストルームでのひととき



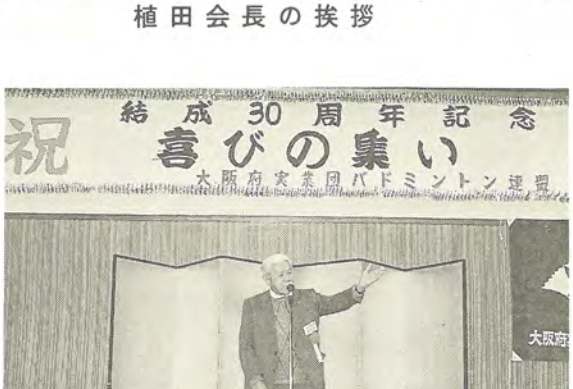
喜びの集い　式次第



植田会長の挨拶



岸大阪協会会長のご祝辞



嶋家婦連会長のご祝辞



感謝状を手に上田氏(ゴーセン)と島田氏(大一スポーツ)



特別功労賞受賞の9事業所代表



特別功労賞受賞の池田氏と清水氏



野村大阪協会副会長の音頭で乾杯



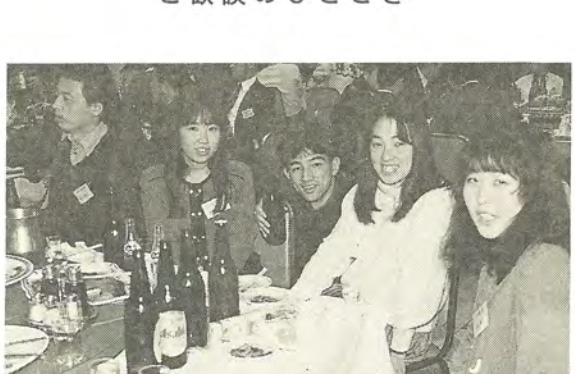
お食事の時間でーす！



ご歓談のひととき



アトラクションも有りました



少し（？）飲んで、沢山食べました



昭和６２年～６３年度大阪実連役員一同

連盟の発足当時の模様、そしてその後の連盟のあゆむ中で、それぞれの節目で行われた記念行事について比較的詳しく記述してきました。この他にも昭和４１年に第１６回全日本実業団大会を初めて主管した時の思い出、そしてその後の第２７回大会（昭和５１年）及び第３４回大会（昭和５９年）を主管した時の楽しさ苦しさ、昭和６１年１月に連盟機関誌「大実連」創刊号を発刊する迄のエピソード、昭和６３年９月の北田スミ子選手（三洋電機）のソウルオリンピックでの銅メダル獲得、平成になって第４０回全日本実業団大会（平成４年、神戸市）での「男子の部」ＮＴＴ関西の準優勝及び「女子の部」サントリーの優勝、平成８年の宮村愛子・亜貴子姉妹及び小池由扶子コーチ（いずれもサントリー）のアトランタオリンピック出場等々数多くの話題は有るのですが、全てを記載すると与えられた紙面をオーバーします。従って、これらを含め略年表形式で連盟の変遷をたどることに致します。

大阪府実業団連盟　略年表

年　度	各　種　大　会　と　主　な　出　来　事
昭和 33年度	・加盟１１団体をもって大阪府実業団バドミントン連盟が設立される（３／31） ・設立当時の初代役員 会　長　春日　弘（大阪金属工業㈱）　　副会長　宮崎　平（大阪スポーツ工業） 副会長　尾崎　弘（日本電信電話公社）　　理事長　尾上忠史（国際電信電話㈱） ・団体選手権大会〔トーナメント〕（アベノＹＭＣＡ，５／25）　　Ｍ１～Ｍ３　25チーム，Ｌ３チーム ・第１回個人選手権大会〔トーナメント〕（電電体育館，７／19～20） ＭＳ　46人，ＭＤ　32組，ＬＳ　15人，ＬＤ　12組，ＭＩＸ　12組 ・第２代目理事長に池田芳麻氏（堂島クラブ）が就任される（同年７月） ・第７回近畿実業団大会〔大阪協会主管〕（電電体育館，12／７）大阪スポーツ（女子）２位
34年度	・大阪社会人選抜対大阪学生選抜対抗（アベノ体育館，６／28）男子５複９単，女子２複３単 ・団体選手権大会〔トーナメント〕（港体育館，６／28）　　Ｍ１～Ｍ３　19チーム，Ｌ１～２　３チーム ・個人選手権大会〔リーグ戦〕（港体育館，９／24） ＭＳ　２１人，ＭＤ　10組，ＬＳ　４人，ＬＤ　３組，30Ｓ　３人，30Ｄ　３組 ・団体選手権大会〔リーグ戦〕（港体育館，35／２／21）　　Ｍ１～Ｍ３　12チーム，Ｌ　６チーム
35年度	・団体選手権大会〔トーナメント〕（電電体育館，12／４）　　Ｍ１～Ｍ３　15チーム，Ｌ　７チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（港体育館，７／19～20） １ＭＳ　７人，１ＭＤ　４組，２ＭＳ　44人，２ＭＤ　24組，ＬＳ　６人，ＬＤ　４組， 30Ｓ　12人，　30Ｄ　４組
36年度	・団体選手権大会〔トーナメント〕（電電体育館，６／４）　　Ｍ１～Ｍ３　19チーム，Ｌ　10チーム ・日本実業団バドミントン連盟が結成され大阪実連も加盟する（７月６日） ・第１回団体リーグ戦大会（府立別館，37／１／14，２／４）　　Ｍ１～Ｍ３　20チーム，Ｌ　６チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，３／４） １ＭＳ　８人，１ＭＤ　５組，２ＭＳ　30人，２ＭＤ　16組，ＬＳ　６人，ＬＤ　５組， 30Ｓ　８人，30Ｄ　４組
37年度	・団体選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，４／22，５／13）　　Ｍ１～Ｍ３　23チーム，Ｌ　７チーム ・副会長　宮崎　平氏（大阪スポーツ工業）が辞任され、副会長は尾崎　弘氏１名となる ・第２代目会長に高井大次郎氏（日本電信電話公社）が就任される

年　度	各　種　大　会　と　主　な　出　来　事
37年度	・個人選手権大会〔トーナメント〕(府立別館，12／9，12／23) 1ＭＳ　12人，1ＭＤ　6組，2ＭＳ　44人，2ＭＤ　31組，ＬＳ　9人，ＬＤ　5組，ＭＩＸ　4組 ・団体リーグ戦大会（府立別館，38／1／6，1／13)　Ｍ1～Ｍ3　20チーム，Ｌ　3チーム ・初めてバドミントン講習会を実施する（府立別館，38／2／12)　参加者は男女合せて40名
38年度	・団体リーグ戦大会（府立別館，6／2，7／7）　Ｍ1～Ｍ3　24チーム，Ｌ　7チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕(府立別館，9／10）ＭＳ　40人，ＭＤ　26組，ＬＳ　8人，ＬＤ4組 ・団体トーナメント戦大会（府立別館，12／15）　Ｍ1～Ｍ3　26チーム，Ｌ　2チーム ・第1回会長杯争奪戦大会〔トーナメント〕(府立別館，39／2／22）Ｍ　10チーム，Ｌ　5チーム
39年度	・団体リーグ戦大会（府立別館，7／5，8／3，8／9）　Ｍ1～Ｍ3　31チーム，Ｌ　5チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕(府立別館，9／13) ＭＳ　58人，ＭＤ　31組，ＬＳ　15人，ＬＤ　9組，30Ｓ　3人，30Ｄ　4組 ・団体選手権大会〔トーナメント〕(府立別館，40／1／17)　Ｍ1～Ｍ3　26チーム，Ｌ　2チーム ・会長杯争奪戦大会〔トーナメント〕(府立別館，40／2／7，2／28)　Ｍ　18チーム，Ｌ　7チーム ・近畿実業団バドミントン連盟が結成され加盟する（2月14日，第13回近実大会時） ・団体選手権大会〔リーグ戦〕(港体育館，35／2／21)　Ｍ1～Ｍ3　12チーム，Ｌ　6チーム
40年度	・第3代目会長に沖田幸佑氏（日本電信電話公社）が就任される ・団体選手権大会〔トーナメント〕(府立別館，7／4，7／18)　Ｍ1～Ｍ3　15チーム，Ｌ　4チーム ・団体リーグ戦大会（府立別館，8／8，8／22)　Ｍ1～Ｍ4　17チーム，Ｌ　4チーム ・会長杯争奪戦大会〔トーナメント〕(府立別館，12／12，41／1／9）　Ｍ　32チーム ・第14回近畿実業団大会（41／1／19～20）を主管 男子の部で電電大阪が2連覇，以後第22回大会（昭和48年）迄10連覇を達成 男子の部で国際電電も準優勝，女子の部で電電大阪が準優勝と大健闘 ・個人選手権大会〔トーナメント〕(府立別館，41／2／27)　ＭＳ　39人，ＭＤ　22組， ＬＳ　10人，ＬＤ　5組，30Ｓ　3人，30Ｄ　2組
41年度	・第4代目会長に横井元治氏（日本電信電話公社）が就任される ・第1回春季リーグ戦大会（電電体育館，4／17，4／19)　Ｍ1～Ｍ4　26チーム，Ｌ　2チーム ・第16回全日本実業団バドミントン選手権大会（中央体育館，6／25～29）を主管する 男子団体61チーム，女子団体20チームの参加があり，男子団体で電電近畿が3位に入賞 ・会長杯争奪戦大会〔トーナメント〕(府立別館，7／10，7／24)　Ｍ　20チーム，Ｌ　4チーム ・会長杯争奪戦大会〔トーナメント〕(府立別館，7／10，7／24)　Ｌ　4チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕(府立別館，8／7）ＭＳ　24人，ＭＤ　9組，ＬＳ　10人，ＬＤ　4組 ・第1回秋季リーグ戦大会（府立別館，8／14，10／30，11／6）Ｍ1～Ｍ4　16チーム，Ｌ　3チーム
42年度	・春季リーグ戦大会（府立別館，6／25，7／2，7／30）Ｍ1～Ｍ5　40チーム，Ｌ1～Ｌ2　10チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕(アベノ体育館，8／13，8／25) 国体予選会を兼ねて実施する　ＭＳ　26人，ＭＤ　14組，ＬＳ　9人，ＬＤ　5組，ＭＩＸ　4組 ・男子3，4，5部・女子2部大会〔トーナメント〕(府立別館，9／24)　Ｍ3～Ｍ5　22チーム ・秋季リーグ戦大会（府立別館，43／2／25，3／3，4／2）Ｍ1～Ｍ5　44チーム，Ｌ1～Ｌ2　3チーム

年度	各種大会と主な出来事
43年度	・春季リーグ戦大会（府立別館他，4／14，4／29，6／2）M1～M5　35チーム，L1～L2　9チーム ・男子3，4，5部・女子2部大会〔リーグ戦〕（府立別館，7／7，8／4）　M　2チーム，L　9チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，9／1，9／8）　1MS　21人，1MD　13組 1LS　11人，1LD　7組，2MS　32人，2MD　20組，2LS　6人，2LD　3組，30S　4人，30D　4組 ・秋季リーグ戦大会（府立別館，9／23，10／6，11／3）　M1～M5　40チーム，L1～L2　8チーム ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，44／1／12～3／2）　M1～M3　27チーム，L1～L2　6チーム ・紅白対抗戦大会（府立別館，44／1／15）　参加者を2つに分け対戦MD14チーム，LD　4チーム
44年度	・前期リーグ戦大会（府立別館，4／13，4／20，5／5）　M1～M5　44チーム，L1～L2　9チーム ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，8／3～9／23）　M1～M5　36チーム，L1～L2　7チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，45／1／18，1／25） 1MS　22人，1MD　12組，2MS　60人，2MD　34組，LS　24人，LD　15組 ・後期リーグ戦大会（府立別館，2／11，2／15，3／1）　M1～M5　40チーム，L1～2　10チーム ・春・秋期リーグ戦を前・後期リーグ戦に改名し、現在の年間行事が確立された
45年度	・第5代目会長に清水照彦氏（清水医院）が就任される ・前期リーグ戦大会（府立別館，4／13，4／20，5／5）　M1～M5　36チーム，L1～2　12チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，アベノ体育館，7／19，7／23，8／30） 1MS　36人，1MD　12組，2MS　62人，2MD　26組，LS　22人，LD　9組， 30S　5人，30D　3組，MIX　6組 ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，9／15，9／23，10／4）　M1～M5　41チーム，L1～2　10チーム ・後期リーグ戦大会（府立別館，46／1／14～2／28）　M1～M5　39チーム，L　8チーム
46年度	・前期リーグ戦大会（府立別館，4／11～7／11）　M1～M5　39チーム，L1～2　13チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，8／1，8／8） 1MS　24人，1MD　13組，2MS　35人，2MD　20組，1LS　10人，1LD　5組， 2LS　6人，2LD　4組，30D　3組，MIX　7組 ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，9／5～10／31）　M1～M5　34チーム，L1～2　12チーム ・第1回関西学生対実業団対抗（阪急電鉄体育館，10／3）男子の部のみ実施　3複6単対抗 ・第20回近畿実業団大会（11／20～21）を主管 男子の部で電電近畿が8連覇，女子の部でも電電近畿が準優勝しアベック入賞 ・バドミントン講習会（府立別館，12／12）　参加者は男女合わせて27名 ・後期リーグ戦大会（府立別館他，47／1／14～3／4）　M1～M5　46チーム，L　11チーム
47年度	・前期リーグ戦大会（府立別館他，4／16～6／25）　M1～M5　46チーム，L1～2　14チーム ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，7／16～10／1）　M1～M5　41チーム，L1～2　7チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，11／5，11／19） 1MS　26人，1MD　12組，2MS　52人，2MD　27組，LS　22人，LD　12組，30S　16人， 30D　9組，MIX　5組 ・第2回関西学生対実業団対抗（阪急電鉄体育館，12／27）　男子3複6単，女子2複3単 ・後期リーグ戦大会（府立別館，48／1／14～3／4）　M1～M5　52チーム，　L　5チーム

年度	各種大会と主な出来事
48年度	・大阪府社会人バドミントン連盟が結成され、クラブチーム11チームが移籍 ・前期リーグ戦大会（府立別館，4／15～7／8）　M1～M5 45チーム，L1～2 13チーム ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，9／2～10／21）　M1～M5 34チーム，L2 5チーム ・バドミントン講習会（府立別館，12／9）　参加者は男女合わせて5名 ・第3回関西学生対実業団対抗（府立別館，12／9）　男子3複6単，女子2複3単で対抗 ・後期リーグ戦大会（府立別館，49／1／13～3／3）　M1～M5 53チーム，　L2 5チーム
49年度	・前期リーグ戦大会（府立別館他，4／7～6／2）　M1～M6 50チーム，L1～2 12チーム ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館他，8／4～10／20）　M1～M6 40チーム，L1～2 11チーム 会長杯リーグ戦大会を連盟結成15周年記念大会と位置づけて実施 ・表彰規定に基づく表彰を初めて行う　電電近畿，KDD，ダイキン淀川が功労賞を受賞 ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，11／10～50／1／19） 1MS，2MS，30S，LS……29人，1MD，2MD，30D，LD……40組 ・後期リーグ戦大会（府立別館，50／2／2～3／1）　M1～M6 53チーム，L1～2 12チーム
50年度	・前期リーグ戦大会（府立別館他，4／6～5／5）　M1～M6 51チーム，L1～2 29チーム ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，6／1～8／24）　M1～M6 49チーム，L1～2 7チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，9／7～10／10） 1MS，2MS，30S，LS……90人，1MD，2MD，30D，LD，MIX……40組 ・第4回関西学生対実業団対抗（府立別館，11／2）　男子3複6単，女子2複3単で対抗 ・後期リーグ戦大会（府立別館他，51／1／11～2／29）　M1～M6 68チーム，L1～2 15チーム
51年度	・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館他，4／4～4／11） 1MS，2MS，30S，LS……69人，1MD，2MD，30D，LD，MIX……57組 ・前期リーグ戦大会（中央体育館他，4／25～8／8）　M1～M7 77チーム，L1～3 22チーム ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，9／12～9／12）　M1～M7 60チーム，L1～3 13チーム ・表彰規定に基づいて日本生命，大日本製薬，日立造船桜島工場，南区役所，松下ラジオ（現松下電器大阪）が功労賞を受賞 ・第25回近畿実業団大会（11／20～21）を主管，男子の部で電電近畿が2連覇，女子の部でスワロー化研が初優勝，電電近畿はこれ以後第32回大会迄に2度目の9連覇達成 ・後期リーグ戦大会（府立別館他，52／1／9～2／27）M1～M7 76チーム，L1～3 14チーム
52年度	・前期リーグ戦大会（府立別館他，4／31～5／15）　M1～M7 79チーム，L1～3 21チーム ・第27回全日本実業団バドミントン大会（中央体育館他，6／17～22）を主管 男子団体99チーム，女子団体51チームが参加（団体戦は大阪府，個人戦は京都府で開催、女子団体でサントリーが2連覇，サントリーは前年度（第26回大会）に初参加，初優勝して以後第30回大会迄に5連覇達成又第45回大会迄に通算14回の優勝，3回の準優勝を獲得 ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，7／17～8／28） 1MS，2MS，30S，40S，LS……84人，1MD，2MD，30D，40D，LD，MIX……63組 ・会長杯争奪リーグ戦大会（府立別館，9／15～10／30）M1～M7 61チーム，L1～3 18チーム ・表彰規定に基づいて住友生命，丸紅飯田，塩野義製薬が功労賞を受賞 ・後期リーグ戦大会（府立別館他，53／1／16～3／19）M1～M7 85チーム，L1～3 15チーム

年　度	各　種　大　会　と　主　な　出　来　事
53年度	・前期リーグ戦大会（府立別館他，４／21～６／11）　Ｍ１～Ｍ８　76チーム，Ｌ１～Ｌ３　12チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館，７／９～８／20） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，４０Ｓ，ＬＳ……135人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……96組 ・後期リーグ戦大会（府立別館他，９／23～11／19）　Ｍ１～Ｍ８　75チーム，Ｌ１～Ｌ３　12チーム ・会長杯リーグ戦大会（府立別館他，54／１／14～２／25）　Ｍ１～Ｍ８　64チーム，Ｌ１～Ｌ３　12チーム
54年度	・前期リーグ戦大会（府立別館他，４／22～６／17）　Ｍ１～Ｍ９　70チーム，Ｌ１～Ｌ３　16チーム ・個人選手権大会〔トーナメント〕（府立別館他，７／１～９／23） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……99人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……86組 ・後期リーグ戦大会（府立別館他，10／10～12／16）　Ｍ１～Ｍ９　69チーム，Ｌ１～Ｌ３　15チーム ・会長杯リーグ戦大会（府立別館他，55／１／27～３／９）　Ｍ１～Ｍ９　69チーム，Ｌ１～Ｌ３　15チーム
55年度	・第６代目会長に植田義明氏（日本電通）が就任し，清水照彦氏は名誉会長に就任される ・前期リーグ戦大会（府立別館他，４／27～７／20）　Ｍ１～Ｍ９　75チーム，Ｌ１～Ｌ３　16チーム ・個人選手権大会（臨海ＳＣ，中央体育館，７／20～８／10） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……113人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……89組 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，８／17～９／23）　Ｍ１～Ｍ９　66チーム，Ｌ１～Ｌ３　７チーム ・第１回団体トーナメント戦大会（臨海ＳＣ他，10／５～11／３）　男子28チーム，女子11チーム ・会長杯リーグ戦大会（府立別館他，56／１／18～３／１）　Ｍ１～Ｍ９　58チーム，Ｌ１～Ｌ３　14チーム
56年度	・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／19～６／14）　Ｍ１～Ｍ９　77チーム，Ｌ１～Ｌ３　17チーム ・個人選手権大会（川崎重工体育館，住友金属体育館，７／12～８／２） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……128人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……82組 ・第２回団体トーナメント戦大会（臨海ＳＣ他，８／30～９／23）　男子25チーム，女子６チーム ・後期リーグ戦大会（府立別館他，10／11～11／29）　Ｍ１～Ｍ９　76チーム，Ｌ１～Ｌ３　15チーム ・第30回近畿実業団大会（11／７～８）を主管，電電近畿とサントリーがアベック優勝 ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，57／１／10～３／21）　Ｍ１～Ｍ９　65チーム，Ｌ１～Ｌ３　12チーム ・表彰規定に基づいて大阪ガス，三洋電機テレビ（現三洋電機大東），日立造船築港工場，松下電子工業，三井物産が功労賞を受賞
57年度	・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／４～６／27）　Ｍ１～Ｍ10　90チーム，Ｌ１～Ｌ３　22チーム ・個人選手権大会（臨海ＳＣ，松下枚方ＳＣ，７／11～８／15） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……71人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……68組 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，９／23～11／23）　Ｍ１～Ｍ10　85チーム，Ｌ１～Ｌ３　20チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，12／５～58／３／６）　Ｍ１～Ｍ10　76チーム，Ｌ１～Ｌ３　17チーム ・表彰規定に基づいて汽車会社（川崎重工大阪），塩野香料，宇部興産，松下無線研究所（現松下電器技術門真），松下テレビが功労賞を受賞
58年度	・前期リーグ戦大会（中央体育館他，４／24～７／31）Ｍ１～Ｍ10　108チーム，Ｌ１～Ｌ３　29チーム ・後期リーグ戦大会（中央体育館他，８／28～11／３）Ｍ１～Ｍ10　101チーム，Ｌ１～Ｌ３　25チーム ・個人選手権大会（臨海ＳＣ，東淀川体育館，12／４～12／11） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……79人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……61組

年　度	各　種　大　会　と　主　な　出　来　事
58年度	・会長杯リーグ戦大会（松下枚方ＳＣ，東淀川体育館他，12／18～59／２／12）　Ｍ１～M10　94チーム 会長杯リーグ戦大会を連盟結成２５周年記念大会と位置づけて実施　Ｌ１～Ｌ３　22チーム 大会初日（12月18日，松下枚方スポーツセンター）の開会式において記念セレモニーを実施，また大会期間中は各会場に「25年のあゆみ」をパネルにまとめ掲示した 念願の「シンボルマーク」と「連盟旗」が出来上がる ・表彰規定に基づいて阪急電鉄，松下電工，住友金属大阪，松下電子部品が功労賞を受賞　又，清水照彦氏、尾﨑　弘氏，池田芳麻氏が特別功労賞を受賞
59年度	・前期リーグ戦大会（府立別館他，４／29～６／24）　Ｍ１～M11　86チーム，Ｌ１～Ｌ３　21チーム ・第34回全日本実業団バドミントン大会（中央体育館他，６／13～17）を主管 男子団体116チーム，女子団体66チームの参加あり　男子団体で電電近畿が第５位，女子団体でサントリーが２度目の３連覇を達成，三洋電機も第３位に入賞する ・個人選手権大会（臨海ＳＣ，東淀川体育館，７／15～８／５） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……95人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……97組 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，８／19～10／７）　Ｍ１～M11　96チーム，Ｌ１～３　30チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，60／１／６～３／３）　Ｍ１～M11　91チーム，Ｌ１～３　18チーム
60年度	・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／７～６／16）　Ｍ１～M11　95チーム，Ｌ１～３　25チーム ・第35回全日本実業団選手権大会（６月19日～23日，藤沢市）　女子の部で三洋電機が初優勝サントリーも準優勝，三洋電機はこれ以後第38回大会（昭和63年）まで４連覇を達成 ・個人選手権大会（臨海ＳＣ，電電体育館，７／14～８／11） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……76人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……80組 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，９／９～10／20）　Ｍ１～M11　93チーム，Ｌ１～３　23チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，12／８～61／１／26）　Ｍ１～M11　91チーム，Ｌ１～３　20チーム ・表彰規定に基づいてロート製薬が功労賞を受賞 ・連盟機関誌「大実連」創刊号を発刊，以後17号（平成２年１月）迄３ヶ月毎に発行
61年度	・大阪総合選手権大会（予選会）（臨海ＳＣ，４／５）　一般男子（単）36名，（複）17組 ・全日本実業団大会（予選会）（臨海ＳＣ，４／12）　男子15チーム，女子15チーム ・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，５／18～７／19）　Ｍ１～M12　99チーム，Ｌ１～３　23チーム ・個人選手権大会（臨海ＳＣ，東淀川体育館，８／17～９／13） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，ＬＳ……58人，１ＭＤ，３ＭＤ，ＬＤ，ＭＩＸ……28組 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，10／19～11／16）　Ｍ１～M12　92チーム，Ｌ１～３　21チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，12／６～62／３／14）　Ｍ１～M12　88チーム，Ｌ１～３　15チーム ・表彰規定に基づいて大阪市役所，興亜石油，参天製薬，大阪造船所が功労賞を受賞
62年度	・第３代目副会長（兼理事長）に池田芳麻氏（ＮＴＴ関西）が就任される ・個人選手権大会兼大阪総合大会予選会（臨海ＳＣ，東淀川体育館，４／５～４／18） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，50Ｓ，ＬＳ……84人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，50Ｄ，ＬＤ，ＭＩＸ……64組 ・前期リーグ戦大会（中央体育館他，４／11～６／27）　Ｍ１～M12　95チーム，Ｌ１～３　20チーム ・後期リーグ戦大会（中央体育館他，10／19～11／16）　Ｍ１～M12　92チーム，Ｌ１～３　21チーム

年度	各種大会と主な出来事
62年度	・連盟結成30周年記念行事として「喜びの集い」（１月24日於住友金属工業㈱社員クラブ）と記念親善バドミントン大会（同社体育館）を開催し，併せて「記念誌」を発行する。 ㈱ゴーセン及び大一スポーツ㈱の両社に感謝状を贈呈　25年以上の永年加盟事業所としてＮＴＴ関西，国際電電，ダイキン淀川，住友生命，大日本製薬，日立桜島，南区役所，松下電器大阪，塩野義製薬及び清水照彦，尾崎　弘，池田芳麻の諸氏が特別功労賞を受賞 ・会長杯リーグ戦大会（府立別館他，63／１／30～３／20）　Ｍ１～M12　88チーム，Ｌ１～３　19チーム ・表彰規定に基づいてタッタ電線，関西石油（現コスモ石油），全日空が功労賞を受賞
63年度	・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／23～６／25）　Ｍ１～M12　85チーム，Ｌ１～３　11チーム ・個人選手権大会兼大阪総合大会予選会（東淀川体育館，府立別館，８／６～８／28） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，40Ｓ……27人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，50Ｄ，ＭＩＸ……33組 ・個人選手権大会を「北田選手オリンピック出場記念大会」として開催し，８月６日　東淀川体育館での開会式に於いて，会員共々盛大なる激励会を催した ・北田スミ子選手（三洋電機）ソウルオリンピック（リハーサル大会）で銅メダルを獲得 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，９／10～10／２）　Ｍ１～M12　85チーム，Ｌ１～３　16チーム ・第37回近畿実業団大会（10／29～30）を主管　男子の部でＮＴＴ関西が優勝 ・会長杯リーグ戦大会（府立別館他，１／１／14～３／４）　Ｍ１～M12　78チーム，Ｌ１～３　15チーム
64年度（平成元年度）	・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／８～６／11）　Ｍ１～M12　90チーム，Ｌ１～３　15チーム ・個人選手権大会兼大阪総合大会予選会（東淀川体育館，府立別館，６／25～８／６） １ＭＳ，２ＭＳ，３ＭＳ，30Ｓ，40Ｓ，50Ｓ，１ＬＳ，２ＬＳ……75人，１ＭＤ，２ＭＤ，３ＭＤ，30Ｄ，40Ｄ，50Ｄ，２ＬＤ，ＭＩＸ……58組 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，９／10～12／９）　Ｍ１～M12　76チーム，Ｌ１～３　12チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，２／２／10～３／18）　Ｍ１～M12　79チーム，Ｌ１～３　14チーム ・表彰規定に基づいて藤沢薬品，阪和興業が功労賞を受賞
平成２年度	・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／７～５／12）　Ｍ１～M12　83チーム，Ｌ１～３　18チーム ・第40回全日本実業団選手権大会（６月13日～17日，神戸市） 男子の部でＮＴＴ関西が準優勝，女子の部でサントリーが優勝し初めて男女同時入賞を果す ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，９／８～10／６）　Ｍ１～M12　76チーム，Ｌ１～３　12チーム ・個人戦ペア大会（府立別館，東淀川体育館，11／４，12／８）　混合複は家婦連よりも参加願う 男子複Ａ　14組，男子複Ｂ　６組，女子複　７組，混合複　30組 ・会長杯リーグ戦大会(府立別館他，３／１／12～３／３）　Ｍ１～M12　80チーム，Ｌ１～３　14チーム ・表彰規定に基づいてシャープ，大和銀行，サントリーが功労賞を受賞
３年度	・個人選手権大会兼大阪総合大会予選会(臨海ＳＣ，４／６）　１ＭＳ　32人，１ＭＤ　16組，ＬＳ　24人，ＬＤ　12組，ＭＩＸ　３組，30Ｓ　13人，30Ｄ　９組，40Ｓ　６人，40Ｄ　４組，50Ｓ　２人，50Ｄ　５組 ・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／13～７／６）　Ｍ１～M11　83チーム，Ｌ１～３　18チーム ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ，９／14～10／26）　Ｍ１～M11　78チーム，Ｌ１～３　15チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ，11／２～４／１／25）Ｍ１～M11　71チーム，Ｌ１～３　14チーム ・個人戦ペア大会（臨海ＳＣ，４／２／22）混合複のみとし家婦連よりも参加願う カットゾーン，スマッシュゾーン，ヘアピンゾーン，クリアゾーン，ドライブゾーンの５ゾーンに分け，バドミントンを楽しむ大会を試行した（男子46名，女子44名の参加） ・表彰規定に基づいてヤンマー，阪急百貨店，松下中央研究所が功労賞を受賞

年度	各種大会と主な出来事
4年度	・個人選手権大会兼大阪総合大会予選会（臨海ＳＣ，4／11）　１ＭＳ　55人，１ＭＤ　35組，ＬＳ　26人，ＬＤ　11組，ＭＩＸ　9組，30Ｓ　14人，30Ｄ　9組，40Ｓ　6人，40Ｄ　6組，50Ｄ　2組 ・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，4／25～7／12）　Ｍ1～M11　78チーム，Ｌ1～3　17チーム ・第42回全日本実業団選手権大会（6月17日～21日，広島市）　男子の部でＮＴＴ関西が準優勝，女子の部でサントリーも準優勝し2度目の男女同時入賞を果たす ・個人戦ペア大会（臨海ＳＣ，6／20）　混合複のみとし家婦連よりも参加願う Ａ～Ｃゾーンの3ゾーンに分け，楽しめる大会を実施　（男子25名，女子11名の参加） ・全日本シニア選手権大会等に伴う第2次予選会（東淀川体育館，7／4） ＭＤ　20組，ＬＤ　20組，30Ｄ　5組，40Ｄ　4組，50Ｄ　2組，ＭＩＸ　5組，30Ｓ　15人，40Ｓ　3人，50Ｓ　4人 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ，9／5～11／7）　Ｍ1～M11　82チーム，Ｌ1～3　20チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，5／1／23～2／27）Ｍ1～M11　81チーム，Ｌ1～3　18チーム ・表彰規定に基づいて大阪税関が功労賞を受賞 ・第40回近畿実業団記念大会（2月22日～23日，田原本中央体育館） 男子の部でＮＴＴ関西が22回目の優勝，女子の部でサントリーが4回目の優勝，三洋電機が準優勝，植田義明，清水義雄，御前龍雄の諸氏が特別功労賞を受賞
5年度	・清水照彦（清水医院）名誉会長は顧問に，植田義明（上新電機）会長は名誉会長に就任 ・第7代目会長に尾﨑　弘氏が就任し，池田芳麻氏（東大阪短大）は副会長に専任となり，第3代目理事長に清水義雄氏（高圧ガス保安協会）が就任 ・大阪総合大会予選会（臨海ＳＣ，4／10）　男子のみ単　43名，複　23組の参加 本年度より個人戦選手権大会，ペア大会等の個人戦を一時中断し予選会に限定して実施 ・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ，5／22～7／10）　Ｍ1～M11　87チーム，Ｌ1～3　22チーム ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，9／11～10／23）　Ｍ1～M11　79チーム，Ｌ1～3　20チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，6／1／22～2／26）　Ｍ1～M11　80チーム，Ｌ1～3　21チーム ・表彰規定に基づいてゴーセンが功労賞を受賞
6年度	・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，4／9～7／2）　Ｍ1～M11　86チーム，Ｌ1～3　28チーム ・大阪総合大会予選会（臨海ＳＣ，4／16）　男子のみ単　31名，複　20組の参加 ・第3種Ａ級公認審判員資格審査会（日立桜島，7／31）　14事業所から35名の参加，全員合格 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，9／3～10／29）　Ｍ1～M11　81チーム，Ｌ1～3　24チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，7／1／14～3／11）　Ｍ1～M11　63チーム，Ｌ1～3　16チーム 1月17日の兵庫県南部地震のため，1／21予定のＭ１１とＬ２の試合は2／25に延期した ・第43回近畿実業団大会（2月25日～26日，東淀川体育館）を主管予定なるも震災の為中止 ・平成6年度連盟表彰　特別功労賞　故御前龍雄氏 功労賞（団体の部）オーツタイヤ，（個人の部）牧志倫夫氏，山田良之氏，藤井靖雄氏
7年度	・大阪総合大会予選会（臨海ＳＣ，4／15）　男子のみ単　25名，複　19組の参加 ・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，4／22～7／1）　Ｍ1～M11　83チーム，Ｌ1～3　21チーム ・第3種Ａ級公認審判員資格審査会（日立桜島，7／30）　15事業所から21名の参加，全員合格 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，9／9～11／11）　Ｍ1～M11　84チーム，Ｌ1～3　22チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，8／1／13～3／2）　Ｍ1～M11　79チーム，Ｌ1～3　22チーム ・平成7年度連盟表彰 功労賞（団体の部）　三洋電機，大阪市水道局，住友商事，田辺製薬

年度	各種大会と主な出来事
8年度	・個人選手権大会兼大阪総合大会選考会（臨海ＳＣ，４／６，４／13） 各種目とも予選リーグと決勝トーナメントを併用する新しい方式で個人戦大会を復活 〔単〕男子Ａ級　28名，男子Ｂ級　３名，男子Ｃ級　６名，男子Ｄ級　０名，30ＭＳ　10名，40ＭＳ　11名，50ＭＳ　５名，女子Ａ級　12名，女子Ｂ級　０名 〔複〕男子Ａ級　14組，男子Ｂ級　０組，男子Ｃ級　８組，男子Ｄ級　４組，30ＭＤ　10組，40ＭＤ　７組，50ＭＤ　５組，女子Ａ級　４組，女子Ｂ級　５組 ・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／20～６／29）　Ｍ１～M11　87チーム，Ｌ１～３　26チーム ・宮村姉妹（サントリー）のアトランタオリンピック出場を祝って，大会５日目（６月２日府立体育会館第２フロア）の開会式において，会員共々盛大なる激励会を開催した このオリンピックには，小池由扶子嬢（サントリー）も日本チームのコーチとして出場 ・第３種Ａ級公認審判員資格審査会（日立桜島，７／28）12事業所から25名の参加，全員合格 ・後期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，９／14～11／２）　Ｍ１～M11　69チーム，Ｌ１～３　17チーム ・会長杯リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，９／１／18～３／８）　Ｍ１～M11　77チーム，Ｌ１～３　17チーム ・平成８年度連盟表彰 功労賞（団体の部）大阪市立大学，ＯＦＫ，ＪＲ西日本，日本ペイント （個人の部）清水義雄氏，月原　朗氏，加藤吉正氏，品川則之氏，北野公男氏 技能賞（団体の部）三洋電機女子チーム（第46回全実大会及び '96日本リーグで優勝） （個人の部）早水栄治・村松　博組（第13回全日本シニア大会の30ＭＤで優勝） 井田貴子嬢（第39回全日本社会人と平成８年度全日本総合ＬＳで優勝） 宮村愛子・宮村亜貴子組（第39回全日本社会人大会のＬＤで優勝）
9年度	・個人選手権大会兼大阪総合大会選考会（臨海ＳＣ，４／５，４／12） 各種目とも昨年と同様予選リーグと決勝トーナメントを併用する 〔単〕男子Ａ級　19名，男子Ｂ級　４名，男子Ｃ級　５名，男子Ｄ級　０名，30ＭＳ　14名，40ＭＳ　12名，50ＭＳ　４名，女子Ａ級　８名，女子Ｂ級　３名 〔複〕男子Ａ級　11組，男子Ｂ級　６組，男子Ｃ級　６組，男子Ｄ級　４組，30ＭＤ　11組，40ＭＤ　15組，50ＭＤ　11組，女子Ａ級　７組，女子Ｂ級　５組 ・前期リーグ戦大会（臨海ＳＣ他，４／19～６／21）　Ｍ１～M11　82チーム，Ｌ１～３　15チーム ・第３種Ａ級公認審判員資格審査会（三洋電機，５／18）　５事業所から８名の参加，全員合格 〔以上実施すみ行事についてのみ記載した〕

〈平成９年度　活動の現状〉

平成９年度の組織状況は団体加盟登録５７事業所、個人加盟登録者８名、個人登録７８９名（男子６４５名，女子１４４名）、登録チーム数は男子が１部～１１部で９１チーム、女子は１部～３部で２４チームとなっています。

年次大会は、団体戦として前期リーグ戦、後期リーグ戦及び会長杯リーグ戦の３回、個人戦は個人選手権大会（兼大阪総合大会選考会）を年度初めに実施しています。その他の行事としては、公認審判員審査会、バドミントン講習会等が実施又は計画されています。

また、連盟表彰としては表彰規定により、定期総会時（総会は殆ど全事業所が出席する）に団体及び個人を対象として表彰を行っています。

当連盟の悩みは、ここ数年登録事業所及び登録会員が減少傾向にあることです。本年度は抜本的な会員勧誘活動を推進しようと計画中です。

平成１０年３月には、当連盟も４０周年を迎えます。この４０周年の記念行事は細やかに止め、来るべき５０周年を目標にチャージして行きたいと考えています。

〔文責：清水義雄〕

平成９年度大阪府実業団バドミントン連盟

加盟事業所一覧表

	事業所名	チーム	代表者	連絡者	電話（勤）	電話（自）
1	江崎グリコ㈱	グリコ	竹内　誠一	竹内　誠一	06－477－8455	078－707－1338
2	日本電信電話㈱	ＮＴＴ関西	廣木　正倫	松井　峰生	06－446－7541	06－866－0095
3	NTT－TE関西東支店	ＮＴＴ大阪	竹内　真	竹内　真	06－765－4309	0723－34－0095
4	大阪ガス	大阪ガス	吉里　文雄	園部　一彦	0729－66－5321	0722－38－0597
5	中央区役所	中央区役所	中尾　誠	中尾　誠	06－264－8500	06－678－9351
6	大阪市役所	大阪市役所	川崎　武司	川崎　武司	06－208－8122	06－730－2410
7	大阪市水道局	（同左）	吉田　浩	吉田　浩	06－908－0571	06－783－0796
8	大阪市交通局	（同左）	朝田　康久	朝田　康久	06－681－9262	0729－53－3541
9	市交通局森之宮	市交森之宮	松井　秀敏	松井　秀敏	06－967－1011	07457－7－9678
10	大阪市立大学	（同左）	上田　睦久	上田　睦久	06－605－2151	06－586－2120
11	大阪税関	大阪税関	道崎　明美	大野　幸男	06－576－3068	0722－61－9010
12	大阪府警察同好会	ＯＦＫ	伊藤　昇	伊藤　昇	0720－91－0421	0742－44－4538
13	大阪市職員	ＯＣＴ	小柳　和男	小柳　和男	06－583－7301	0724－52－4068
14	大阪拘置所	ＯＫＢ	黒川　修一	黒川　修一	06－921－0371	06－923－6929
15	河内長野市役所	（同左）	上田　浩史	上田　浩史	0721－53－1111	07472－5－4551
16	高圧ガス保安協会	ＫＨＫ	清水　義雄	清水　義雄	06－312－4051	0726－96－4933
17	興亜石油	興亜石油	吾郷　裕志	岩垣　雅典	0722－68－3610	0722－71－7695
18	コスモ石油	コスモ石油	田村　寛	奥尾　佳行	0722－45－8552	0722－66－2061
19	光洋精工	光洋精工	安達　謙	安達　謙	0729－77－9357	07457－8－2279
20	ゴーセン	ゴーセン	高島　豊	山田　智嗣	06－942－5871	0721－56－2446
21	コマツ	小松製作所	市井　哲彦	岩本由紀子	0720－40－6272	0720－56－0433
22	鴻池組	鴻池組	曽我部忠雄	曽我部忠雄	0726－74－0001	0726－89－0040
23	参天製薬	参天製薬	山元　幸代	山元　幸代	06－321－7046	06－862－1008
24	サントリー	サントリー	山本　次生	山本　次生	06－346－1157	0727－23－5543
25	三洋電機	三洋電機	銭谷　欽治	銭谷　欽治	0720－70－6121	07437－8－8916
26	三洋電機大東	（同左）	角南　行治	角南　行治	0720－70－6204	06－726－3517
27	塩野義製薬	シオノギ	本摩　恒利	長井　正彦	06－458－5861	0795－65－9182
28	塩野香料	塩野香料	山田　良之	山田　良之	06－391－0626	0727－62－1815
29	シャープ	シャープ	金山　在勇	金山　在勇	06－796－1017	06－481－9168
30	西日本旅客鉄道㈱	ＪＲ西日本	高垣　政志	高垣　政志	06－383－5677	06－751－2676
31	住友商事	住友商事	八島　充拓	中田　恵子	06－220－6773	0727－38－0174
32	住友生命	住友生命	真忠　謙二	原村　佳美	06－223－9543	0722－34－2123
33	住友化学工業	住友化学	福島　雅之	黒田　慶子	0797－74－2029	0798－66－0588
34	住化分析センター	（同左）	木須　直子	木須　直子	06－466－5243	06－460－5723
35	タッタ電線	タッタ電線	杉村　善晴	井手　兼造	06－721－3321	0595－65－4877

	事業所名	チーム	代表者	連絡者	電話（勤）	電話（自）
36	田辺製薬	田辺製薬	河合　茂	当田ひとみ	06－300－2657	06－301－6969
37	ダイキン工業大阪	ダイキン大阪	今井　寛	今井　寛	06－349－5313	0726－53－1148
38	ダイキン工業堺	ダイキン堺	福徳　工	福徳　工	0722－54－5560	0722－99－5807
39	大日本製薬	大日本製薬	木村一二三	木村一二三	06－454－8158	9724－31－9833
40	大和銀行	大和銀行	桂　芳樹	大野　真弓	0726－25－1551	06－317－3350
41	大日精化工業	大日精化	中島　昭好	浦川　哲	06－720－2000	0720－77－7678
42	高松建設	TaKaMaTsu	樽本　裕二	山田　妹子	06－307－8107	0726－81－1978
43	ダイトーケミックス	ﾀﾞｲﾄｰｹﾐｯｸｽ	村瀬　千弘	熊崎　敦	06－911－1271	0729－75－1407
44	日本触媒	日本触媒	谷川　法幸	谷川　法幸	06－317－2235	0727－27－2506
45	日本ペイント	日本ペイント	森　浩彦	森　浩彦	0720－27－1111	0726－37－1257
46	阪急電鉄	阪急電鉄	小野　俊雄	土谷　友香	06－873－2008	0727－66－4732
47	阪急百貨店	阪急百貨店	岸本　佳和	岸本　佳和	06－367－3203	0727－94－5406
48	阪和興業	阪和興業	唐川　吾郎	唐川　吾郎	06－206－3147	0727－38－5515
49	日立造船桜島工場	日立桜島	西岡　正雄	西岡　正雄	06－465－3165	06－553－2439
50	藤沢薬品工業	藤沢薬品	岡本　司	岡本　司	06－390－1108	0727－59－0678
51	松下電器産業	松下大阪	山川　正一	山川　正一	0726－82－7921	0726－87－3953
52	松下電器研究本部	松下中研	三谷　力	三谷　力	06－900－9628	078－913－7270
53	松下電子部品	（同左）	見市　幸司	見市　幸司	06－906－3194	06－534－5917
54	松下電器技術門真	松下ＷＲＬ	安藤　敏晃	安藤　敏晃	06－900－9613	06－994－9789
55	松下電子工業	（同左）	仲田　康英	仲田　康英	0726－82－7899	0774－20－3812
56	松下電工	松下電工	大井戸敏宏	大井戸敏宏	06－908－6764	06－878－0306
57	ヤンマー	ヤンマー	堀　俊一	堀　俊一	06－376－6276	075－642－0014

個人加盟者一覧表

	氏名	電話（勤）	電話（自）		氏名	電話（勤）	電話（自）
1	池田　芳麻	06－782－2884	0721－53－6653	5	中沢　登	06－466－6114	0723－36－8795
2	加藤　吉正	06－441－9160	06－383－5003	6	藤井　靖雄	06－268－7320	0722－93－4895
3	品川　則之	06－271－3614	06－934－4125	7	牧志　倫夫	06－949－2626	0720－78－7817
4	高谷　明		07437－3－5331	8	宮脇　正晴	06－793－7924	06－621－1824

大阪教職員
バドミントン連盟

◆ 祝辞 ◆



大阪協会と教職員

大阪教職員バドミントン連盟
会長　宝来　敏夫

大阪バドミントン協会の創立５０周年、おめでとうございます。

大阪におけるバドミントンは、わが国の中でも草分けのひとつとして、早くから楽しまれていたと聞いています。現在も競技人口が多く、競技のレベルが高いのも、こうした長年にわたる多くの人々の努力の結果だと思います。

さて、大阪協会が、他の府県協会と大きく異なっているのは、協会を組織している団体が職能別（と言ってもよいのでしょうか）であるということです。

実業団、社会人、家庭婦人、小・中・高・大の学生連盟と教職員連盟の８つの団体が構成メンバーとなっています。この８つの団体の中で、教職員の組織だけがなぜひとつの団体として加盟しているのでしょう。

もちろん、上部団体として日本教職員連盟があり、日本バドミントン協会の一員として加盟しているからでありますが、スポーツ団体の中での教職員の役割の重要さを表していると考えられるのではないでしょうか。

即ち、協会は、バドミントンを楽しんだり、技を競い合ったりする人の集まりです。この目的をよりよく達成し、より広く普及させていくには、教職員が、職責と経験をふまえて貢献することが大切であり、これこそが教職員の存在意義だと考えます。

教職員連盟は、自分自身がバドミントンを楽しむということよりも、学校、家庭、社会を通じた中で、バドミントンをどのように考え、人々にどのように実践してもらうかを目的とする組織でありたいと考えるのです。

わが国のスポーツは、学校体育が中心となって発展してきました。しかし、現在の人々のスポーツに対する考えの変遷や、２１世紀への教育改革の中では、スポーツはいつまでも学校体育の範疇ではありません。現に、多くの分野で、社会体育の中での発展がみられています。

今、わたしたちバドミントンを体験してきた教職員は、自分がプレイを楽しむだけでなく、教職員として学んできたスポーツに対するノウハウを生かして、この競技の発展に寄与すべきであります。

やがて、「教職員連盟」は、教職員の構成員に社会団体の指導者を加えた「指導者連盟」とでも呼ばれる組織に発展させる必要があるのではないかと考えています。こうなりますと、大阪協会の中の組織体のひとつとしての性格が薄れてくるかも知れませんが、大阪のバドミントンが人々にとって、もっと楽しめるものとなり、もっとレベルが向上していくものと確信しています。

大阪バドミントン協会のさらなる発展のために、本連盟がなくてはならない存在であり続けるよう努力したいと考えます。

◆ 祝辞 ◆



ごあいさつ

大阪教職員バドミントン連盟
理事長　養父　一太

大阪バドミントン協会が、創立５０周年を迎えられましたこと心からお祝い申しあげます。

本連盟といたしましても、半世紀にわたる協会活動の中で、宮脇正晴先生が３代理事長として、また、宝来敏夫先生が５代理事長として、大阪バドミントン協会発展のため寄与させていただいたことをつけ加えさせていただきます。

わが大阪教職員バドミントン連盟も昭和３７年（１９６２年）以来、バドミントンを通じて、会員相互の親睦はもとより、教育指導者として児童・生徒の育成に努力しバドミントンの発展に貢献することを目的として３０有余年あまり活動してまいりましたが、大阪バドミントン協会とともに歩んできたと申し上げても過言ではありません。

平成９年度より６代目理事長として小生が役職を引き継ぎ、この５０周年という意義ある年を迎えることができ大変光栄に思っております。

しかし、わが教職員連盟も昭和３７年の創設以来、活動を発展・進化さすべく頑張っておりますが、現状においては問題もかかえております。

近年、児童数の減少により、その結果、新人教員が採用されない慢性的状況がありますそれにつれ、現会員の高齢化も除々に進み、わが連盟の活動を進める上においても深刻な問題となりつつあります。

さらに登録に関しても教職員でありながら社会人連盟に登録する会員もかなりおり、会員が流出し減少傾向を示しているなど、将来的には連盟活動の存続にまでおよぶ可能性をひめた問題をかかえております。

しかし、社会においては生涯スポーツの重要性がさけばれています。その中で、スポーツとの出合いとなる学校現場で、わが連盟の果たす役割はとりわけ重要であると認識しております。

そこで、その役割を果たすためにも問題解決に努め、連盟活動の改革を進め、大阪バドミントン協会の発展に微力ながら貢献できればと思う所存でおります。そして、ひいてはバドミントン競技の発展につながればと考えております。

今後とも各方面からのご指導の程よろしくお願いいたします。

沿　革

国民体育大会に教員男子の部が新設されたのを契機に参加チームの間で、全日本の教員を組織した連盟を作ろうという声が上がった。
そのためには、各府県で同志に呼びかける必要が生じた。大阪では大阪学芸大学を中心とした近畿の教育系大学の卒業生および高体連・中体連の先生方のご協力を得て、組織作りが進んだ。

１９５９（S34）年	10月	第14回国民体育大会（東京）教員男子２位
１９６２（S37）年	４月	大阪教職員バドミントン連盟発足
		初代会長　乾　英三郎　　初代理事長　宝来敏夫
	８月	第１回全日本教職員大会（東京）大阪より13名参加
１９６３（S38）年	２月	第１回大阪教職員大会を勝山中学で開催
１９６７（S42）年	２月	第１回近畿教職員大会（個人）を大阪市立阿倍野体育館で開催
	６月	第１回近畿教職員大会（団体）
１９６８（S43）年	８月	全日本教職員大会を大阪市中央体育館で開催
	10月	第23回国民体育大会（福井）
		北野敬四郎10回出場の表彰
１９７５（S50）年	８月	第14回全日本教職員大会（栃木）成壮年団体優勝
１９７６（S51）年	８月	第15回全日本教職員大会（東京）成壮年団体優勝
１９７７（S52）年	４月	大河内秀夫が２代目理事長に就任
	12月	第１回大阪府小学生バドミントン教室を大阪市立千島体育館で開催
		＊この小学生教室は、のちに小学生大会となった。
１９７８（S53）年	８月	第17回全日本教職員大会（宮城）成壮年団体優勝
１９８５（S60）年	４月	名誉会長　乾英三郎　２代目会長　宝来敏夫
		伊勢田善昭　３代目理事長に就任
１９８９（H１）年	４月	森　義和　４代目理事長に就任
１９９０（H２）年	４月	大阪府小学生バドミントン連盟設立
１９９１（H３）年	２月	30周年記念事業実行委員会発足
	４月	名誉会長　乾英三郎　勲五等瑞宝章受彰
	８月	30周年記念式典開催・記念誌発行
１９９３（H５）年	４月	藤倉憲一　５代目理事長に就任
１９９７（H９）年	４月	養父一太　６代目理事長に就任

全日本教職員バドミントン選手権大会上位入賞者

回	年	開催地	（M…男子　L…女子　S…シングル　D…ダブルス　ＭＩＸ…混合　30 ～60…年齢別）
1	62	東京	大世古吉弘（ＭＳ２位）
2	63	桐生	大世古吉弘・片岡輝明（ＭＤ２位）　大世古吉弘（ＭＳ２位）
3	64	伊勢	酒井明夫（ＭＳ３位）　浅田一雄（５０ＭＳ２位）
4	65	日田	浅田一雄（５０ＭＳ３位・５０ＭＤ２位）　男子団体３位
5	66	札幌	井上昌子・谷富美子（ＬＤ３位）　浅田一雄（５０ＭＳ３位・５０ＭＤ３位） 女子団体２位
6	67	高岡	北野敬四郎（３０ＭＳ２位）　片岡輝明・古木喜代子（ＭＩＸ３位）
7	68	大阪	谷富美子・古木喜代子（ＬＤ３位）　青木昭二・斉藤良二（４０ＭＤ３位） 浅田一雄（５０ＭＳ２位）　宝来敏夫・北野敬四郎（３０ＭＤ３位） 浅田一雄・川口正治（５０ＭＤ２位）　女子団体３位　成壮年団体２位
8	69	上尾	宝来敏夫・北野敬四郎（３０ＭＤ３位）　高岡輝明・横田春代（ＭＩＸ３位） 北野敬四郎（３０ＭＳ３位）　斉藤良二・坂田治夫（４０ＭＤ３位）　成壮年団体２位
9	70	岐阜	北野敬四郎（３０ＭＳ３位）　青木昭二・斉藤良二（４０ＭＤ３位） 坂田治夫・浅田一雄（５０ＭＤ２位）
10	71	岡山	青木昭二・斉藤良二（４０ＭＤ３位）　宝来敏夫・北野敬四郎（３０ＭＤ３位） 北野敬四郎（３０ＭＳ２位）　坂田治夫（５０ＭＳ１位）　浅田一雄（５０ＭＳ２位） 坂田治夫・浅田一雄（５０ＭＤ１位）
11	72	秋田	宝来敏夫・北野敬四郎（３０ＭＤ２位）　宮脇正晴・島津八郎（４０ＭＤ３位） 成壮年団体３位
12	73	大津	宝来敏夫・北野敬四郎（３０ＭＤ３位）
13	74	熊本	杉田忠邦（３０ＭＤ３位）　成壮年団体３位
14	75	小山	伊勢田善昭（３０ＭＳＤ１位）　成壮年団体１位
15	76	東京	成壮年団体１位
16	77	下関	斎藤良二・竹内正次（５０ＭＤ１位）　宝来敏夫・北野敬四郎（４０ＭＤ２位） 斎藤良二（５０ＭＳ３位）　成壮年団体２位
17	78	仙台	仲尾信一・北村寿弥子（ＭＩＸ１位）　宝来敏夫・北野敬四郎（４０ＭＤ２位） 北村寿弥子（ＬＳ２位）　成壮年団体１位
18	79	北九州	北村寿弥子・前川美智子（ＬＤ３位）　仲尾信一・北村寿弥子（ＭＩＸ２位） 宝来敏夫・北野敬四郎（４０ＭＤ３位）　女子団体３位　成壮年団体２位
19	80	金沢	仲尾信一・北村寿弥子（ＭＩＸ１位）　北村寿弥子・前川美智子（ＬＤ３位） 斎藤良二・竹内正次（５０ＭＤ１位）　宝来敏夫・北野敬四郎（４０ＭＤ３位） 仲尾信一（ＭＳ３位）　斎藤良二（５０ＭＳ２位）　成壮年団体３位　女子団体３位
20	81	郡山	斎藤良二・竹内正次（５０ＭＤ３位）
21	82	嬉野	宝来敏夫・北野敬四郎（４０ＭＤ３位）　伊勢田善昭・森義和（３０ＭＤ３位） 斎藤良二・竹内正次（５０ＭＤ３位）　女子団体３位
22	83	沼津	女子団体３位
23	84	弘前	宝来敏夫・北野敬四郎（４０ＭＤ３位）　成壮年団体２位
24	85	福井	新木千織・錦木啓子（ＬＤ３位）　女子団体３位　成壮年団体３位
25	86	広島	仲尾信一・谷田尚嗣（ＭＤ３位）　北野敬四郎・伊勢田善昭（４０ＭＤ３位） 新木千織（ＬＳ３位）　成壮年団体３位
26	87	苫小牧	新木千織（ＬＳ３位）　谷田尚嗣・新木千織（ＭＩＸ３位）　斎藤良二（６０ＭＳ３位） 成壮年団体３位
27	88	奈良	三坪吉幸（３０ＭＳ２位）　斎藤良二・竹内正次（６０ＭＤ３位）　成壮年団体３位
28	89	坂出	三坪吉幸・川上隆庸（３０ＭＤ３位）　斎藤良二（６０ＭＤ２位）　女子団体３位
29	90	盛岡	斎藤良二（６０ＭＤ２位）
30	91	豊橋	谷田尚嗣（ＭＳ２位）　藤木隆寛（６０ＭＳ２位）　斎藤良二（６０ＭＤ２位）
31	92	熊本	谷田尚嗣（ＭＳ２位）　藤木隆寛（６０ＭＤ１位）
32	93	神奈川	谷田尚嗣（ＭＳ２位）
33	94	石川	込め谷啓子・西明希子（ＬＤ３位）

●● 近畿教職員バドミントン選手権大会優勝者（1）●●

回	年	男子A級単	男子B級単	一般男子複	一般女子単	一般女子複
1	1967 S42	北野 敬四郎(大)		北野 敬四郎 宝来 敏夫(大)		
2	1968 S43	伊勢田 善昭(大)	石橋 三彦(大)	北野 敬四郎 宝来 敏夫(大)	井上 昌子(大)	
3	1969 S44	杉田 忠邦(大)	服部 明(奈)	伊勢田 善昭 杉田 忠邦(大)	永原 敦子(大)	庄司 澄子 石田 祥子(大)
4	1970 S45	酒井 明夫(大)	森川 芳武(奈)	酒井 明夫 吉岡 淳(大)	横田 春代(大)	横田 春代 庄司 澄子(大)
5	1971 S46	藤原 健二(滋)	寺田 寿(滋)	酒井 明夫 吉岡 淳(大)	横田 春代(大)	横田 春代 東堤 範子(大)
6	1972 S47	中西 詳味(和)		伊勢田 善昭 杉田 忠邦(大)	横田 春代(大)	禿 富美恵 原田 朝子(滋)
7	1973 S48	森 隆(和)		中西 詳味 門間 幹夫(和)	泊 カスミ(大)	禿 富美恵 原田 朝子(滋)
8	1974 S49	門間 幹夫(和)		藤原 健二 藤上 良信(滋)	門間 千恵子(和)	泊 カスミ 東堤 範子(大)
9	1975 S50	藤原 健夫(滋)		藤原 健二 藤上 良信(滋)	泊 カスミ(大)	中島 富美子 東堤 範子(大)
10	1976 S51	門間 幹夫(和)		藤原 健二 藤上 良信(滋)	村崎 敦美(和)	服部 直子 田中 澄子(滋)
11	1977 S52	山本 茂樹(和)		藤原 健二 藤上 良信(滋)	服部 直子(滋)	谷 美智子 長谷川 (兵)
12	1978 S53	米山 正和(和)		山本 茂樹 米山 正和(和)	服部 直子(滋)	神前 洋子 滝 洋子(滋)
13	1979 S54	藤上 良信(滋)		山本 茂樹 米山 正和(和)	滝 洋子(滋)	神前 洋子 服部 直子(滋)
14	1980 S55	藤上 良信(滋)		藤上 良信 西村 金治(滋)	服部 直子(滋)	神前 洋子 滝 洋子(滋)
15	1981 S56	西村 龍夫(滋)		山本 茂樹 米山 正和(和)	滝 洋子(滋)	神前 洋子 滝 洋子(滋)
16	1982 S57	西村 龍夫(滋)		西村 金治 北橋 進(滋)	谷 美津代(滋)	谷 美津代 青木 恵子(滋)
17	1983 S58	西村 龍夫(滋)		西村 金治 北橋 進(滋)	梁田 理丘(大)	梁田 理丘 田中 朋子(大)
18	1984 S59	西村 龍夫(滋)		仲三 尾坪 信吉 一幸(大)	青木 恵子(滋)	青木 恵子 桂田 依子(滋)
19	1985 S60	西村 金治(滋)		仲三 尾坪 信吉 一幸(大)	新木 千織(大)	梁田 理丘 新木 千織(大)
20	1986 S61	谷田 尚嗣(大)		仲三 尾坪 信吉 一幸(大)	新木 千織(大)	新木 千織 錦木 啓子(大)
21	1987 S62	谷田 尚嗣(大)		三村 橋尾 利彦 勉(京)	新木 千織(大)	新木 千織 錦木 啓子(大)
22	1988 S63	山本 裕幸(京)		山村 本尾 裕幸 勉(京)	新木 千織(大)	新木 千織 錦木 啓子(大)
23	1989 H1	谷田 尚嗣(大)		谷三 田坪 尚吉 嗣幸(大)	鈴木 啓子(大)	中三 嶋坪 富美子 智子(大)
24	1990 H2	杉本 吉男(京)		村山 尾本 勉裕 幸(京)	川上 善子(京)	川北 上側 善令 子(京) 子(奈)
25	1991 H3	西村 金治(滋)		西西 村村 金龍 治 夫(滋)	西 明希子(大)	西錦 明木 希啓 子(大)
26	1992 H4	谷田 尚嗣(大)		谷武 田田 尚文 嗣則(大)	西 明希子(大)	竹西 村 知 明希子(大)
27	1993 H5	谷田 尚嗣(大)		小高 田嶋 知敬 則 治(滋)	西 明希子(大)	鈴西 木 啓 明希子(大)
28	1994 H6	西村 龍夫(滋)		平千 田田 篤宏 司 之(奈)	西 明希子(大)	西米 明希子 谷 啓子(大)
29	1995 H7	阪神大震災の為、中止				
30	1996 H8	武野 宗睦(和)		平千 岡田 篤宏 司 之(奈)	松浦 薫(滋)	
31	1997 H9	谷田 尚嗣(大)		平疋 岡田 篤博 司 之(奈)		

●● 近畿教職員バドミントン選手権大会優勝者（２）●●

回	年	３０代男子単	３０代男子複	４０代男子単	４０代男子複
1	1967 S42			吉持節夫(兵)	
2	1968 S43			青木昭二(大)	
3	1969 S44			青木昭二(大)	
4	1970 S45			青木昭二(大)	長谷川嘉三郎 吉持節夫(兵)
5	1971 S46			青木昭二(大)	青木昭二 斉藤良二(大)
6	1972 S47	北野敬四郎(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)	青木昭二(大)	長谷川嘉三郎 吉持節夫(兵)
7	1973 S48	北野敬四郎(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)	宮脇正晴(大)	宮脇正晴 島津八郎(大)
8	1974 S49	北野敬四郎(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)	宮脇正晴(大)	宮脇正晴 島津八郎(大)
9	1975 S50	伊勢田善昭(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)	宮脇正晴(大)	宮脇正晴 島津八郎(大)
10	1976 S51	伊勢田善昭(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)	高山道喜(兵)	宮脇正晴 島津八郎(大)
11	1977 S52	伊勢田善昭(大)	伊勢田善昭 杉田忠邦(大)	高山道喜(兵)	宮脇正晴 島津八郎(大)
12	1978 S53	伊勢田善昭(大)	伊勢田善昭 杉田忠邦(大)	北野敬四郎(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)
13	1979 S54	伊勢田善昭(大)	伊勢田善昭 杉田忠邦(大)	出叶健次(大)	水井良平 出口健次(大)
14	1980 S55	藤上良英(滋)	久保田良昌 藤上良英(滋)	中西義弘(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)
15	1981 S56	森隆(滋)	藤上良英 国門学(滋)	寺田寿(滋)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)
16	1982 S57	藤原健二(滋)	藤上良英 国門学(滋)	寺田寿(滋)	奈良慶治良 中西義弘(大)
17	1983 S58	藤上良英(滋)	伊勢田善昭 森義和(大)	寺田寿(滋)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)
18	1984 S59	藤上良英(滋)	伊勢田善昭 森義和(大)	中西義弘(大)	奈良慶治良 中西義弘(大)
19	1985 S60	藤原健二(滋)	藤原健二 国門学(滋)	北野敬四郎(大)	北野敬四郎 宝来敏夫(大)
20	1986 S61	脇坂重之(滋)	松永正雄 松原孝範(京)	藤上良英(滋)	大河内秀夫 伊勢田善昭(大)
21	1987 S62	松原孝範(京)	森義和 須田豊(大)	藤上良英(滋)	伊勢田善昭 黒石久昭(大)
22	1988 S63	三坪吉幸(大)	三坪吉幸 当山哲司(大)	藤原健二(滋)	藤原健二 国門学(滋)
23	1989 H1	黒木幸敏(兵)	松原孝範 駒中博一(京)	西村千城(大)	伊勢田善昭 西村千城(大)
24	1990 H2	三坪吉幸(大)	三坪吉幸 当山哲司(大)	藤原健二(滋)	藤原健二 国門学(滋)
25	1991 H3	三坪吉幸(大)	北原良次 三坪吉幸(大)	藤原健二(滋)	藤上良二 藤原健二(滋)
26	1992 H4	三坪吉幸(大)	三坪吉幸 当山哲司(大)	伊勢田善昭(大)	伊勢田善昭 森義和(大)
27	1993 H5	藤田佳弘(京)	当山徹司 養父一太(大)	藤原健二(滋)	藤原健二 国門学(滋)
28	1994 H6	三坪吉幸(大)	三坪吉幸 青木弘行(大)	藤原健二(滋)	藤原健二 国門学(滋)
29	1995 H7				
30	1996 H8	小田隆司(滋)	養父一太 当山哲司(大)	武藤隆志(和)	北村健 澄川良雄(兵)
31	1997 H9	当山哲司(大)	北村仲之 下野晃(京)	松原孝範(京)	松永正雄 松原孝範(京)

●● 近畿教職員バドミントン選手権大会優勝者（３） ●●

団体戦結果

回	年	５０代男子単	５０代男子複	団体の部		男子	女子
1	1967 S42			開催地 奈　良	優　勝 準優勝	滋　賀 大　阪B	大　阪 兵　庫
2	1968 S43			開催地 滋　賀	優　勝 準優勝	滋　賀 兵　庫	
3	1969 S44			開催地 兵　庫	優　勝 準優勝	滋　賀 大　阪A	奈　良 大　阪
4	1970 S45			開催地 奈　良	優　勝 準優勝	滋　賀 大　阪A	大阪A 大阪B
5	1971 S46			開催地 滋　賀	優　勝 準優勝	和歌山 滋　賀A	和歌山 滋　賀
6	1972 S47			開催地 和歌山	優　勝 準優勝	和歌山 滋　賀	和歌山 大阪A
7	1973 S48			開催地 滋　賀	優　勝 準優勝	滋　賀A 和歌山	和歌山 滋　賀
8	1974 S49			開催地 兵　庫	優　勝 準優勝	和歌山 滋　賀A	大　阪 京　都
9	1975 S50			開催地 京　都	優　勝 準優勝	滋　賀A 和歌山	和歌山 京　都
10	1976 S51			開催地 和歌山	優　勝 準優勝	和歌山A 滋　賀A	和歌山 滋　賀
11	1977 S52			開催地 奈　良	優　勝 準優勝	和歌山 滋　賀A	
12	1978 S53			開催地 兵　庫	優　勝 準優勝	和歌山 滋　賀A	兵　庫 大　阪
13	1979 S54			開催地 京　都	優　勝 準優勝	滋　賀A 京　都	滋　賀 大　阪
14	1980 S55	斉　藤　良　二（大）	斉　藤　良　二 竹　内　正　次（大）	開催地 和歌山	優　勝 準優勝	滋　賀 和歌山A	滋　賀 和歌山
15	1981 S56	斉　藤　良　二（大）	斉　藤　良　二 竹　内　正　次（大）	開催地 滋　賀	優　勝 準優勝	滋　賀A 大　阪A	滋賀A 滋賀B
16	1982 S57	斉　藤　良　二（大）	斉　藤　良　二 竹　内　正　次（大）	開催地 奈　良	優　勝 準優勝	滋　賀 奈　良	
17	1983 S58	島　津　八　郎（大）	宮　脇　正　晴 島　津　八　郎（大）	開催地 兵　庫	優　勝 準優勝	滋　賀 大　阪A	大阪A 大阪B
18	1984 S59	藤　木　隆　寛（大）	宮　脇　正　晴 藤　木　隆　寛（大）	開催地 京　都	優　勝 準優勝	滋　賀 奈　良	
19	1985 S60	藤　木　隆　寛（大）	宮　脇　正　晴 藤　木　隆　寛（大）	開催地 和歌山	優　勝 準優勝	滋　賀A 和歌山A	
20	1986 S61	高　山　道　喜（兵）	宮　脇　正　晴 藤　木　隆　寛（大）	開催地 滋　賀	優　勝 準優勝	滋　賀A 京　都A	滋　賀 京　都
21	1987 S62	藤　木　隆　寛（大）	宮　脇　正　晴 藤　木　隆　寛（大）	開催地 奈　良	優　勝 準優勝	京　都A 滋　賀	
22	1988 S63	藤　木　隆　寛（大）	北　野　敬四郎 宝　来　敏　夫（大）	開催地 兵　庫	優　勝 準優勝	滋　賀 大　阪A	奈　良 大　阪
23	1989 H１	高　山　道　喜（兵）	高　山　道　喜（兵）	開催地 京　都	優　勝 準優勝	京　都A 兵　庫	京　都 大　阪
24	1990 H２	高　山　道　喜（兵）	北　野　敬四郎 宝　来　敏　夫（大）	開催地 和歌山	優　勝 準優勝	滋　賀 京　都	京　都 大　阪
25	1991 H３	高　山　道　喜（兵）	加　藤　紘　一 高　山　道　喜（兵）	開催地	優　勝 準優勝	兵　庫 滋賀B	京　都 大　阪
26	1992 H４	高　山　道　喜（兵）	高　山　道　喜 加　藤　紘　一（兵）	開催地	優　勝 準優勝		
27	1993 H５	加　藤　紘　一（兵）	高　山　道　喜 加　藤　紘　一（兵）	開催地	優　勝 準優勝		
28	1994 H６	加　藤　紘　一（兵）	高　山　道　喜 加　藤　紘　一（兵）	開催地	優　勝 準優勝		
29	1995 H７						
30	1996 H８	西　村　　勝（兵）	西　村　　勝 加　藤　紘　一（兵）	開催地	優　勝 準優勝		
31	1997 H９	西　村　　勝（兵）	西　村　　勝 高　山　道　喜（兵）	開催地	優　勝 準優勝		

●●● 大阪教職員バドミントン選手権大会結果 ●●●

回	年度		シングルス	ダブルス
1	1985	優勝	谷田　尚嗣（此花学院高）	谷田　尚嗣（此花学院高）・土居　　毅（野崎高）
	（S60）	2位		
	薫英	3位		
	高校	3位		
2	1986	優勝	谷田　尚嗣（此花学院高）	当山　哲司（岸和田養）・青木　弘行（大阪産大高）
	（S61）	2位	三坪　吉幸（平野中）	三坪　吉幸（平野中）・西上　正一（瓜破西小）
	泉尾工	3位	川西　　満	谷田　尚嗣（此花学院）・岡森　　祐（追手門学院小）
	業高校	3位	養父　一太（長橋小）	
3	1987	優勝	谷田　尚嗣（此花学院高）	谷田　尚嗣（此花学院高）・土居　　毅（野崎高）
	（S62）	2位	三坪　吉幸（平野中）	三坪　吉幸（平野中）・大江　将史（新船場高）
	四條畷	3位	岡野　　剛（追手門学院高）	当山　哲司（岸和田養護）・岡森　　祐（追手門学院）
	学園	3位	西上　正一（瓜破西小）	森　　義和（追手門学院小）・徳富　信明（住之江高）
4	1988	優勝	谷田　尚嗣（此花学院高）	青木　弘行（大阪桐蔭高）・蔵口　勇雄（成器高）
	（S63）	2位	三坪　吉幸（平野中）	三坪　吉幸（平野中）　四牟田修三（川辺小）
	大阪桐蔭	3位	青木　弘行（大阪桐蔭高）	川上　隆庸（樟蔭東高）・藤倉　憲一（附属天王寺）
	高校	3位	川上　隆庸（樟蔭東高）	宮本　忠之（大阪国際大）・岡森　　祐（追手門学院）
5	1989	優勝	青木　弘行（大阪桐蔭高）	青木　弘行（大阪桐蔭高）・津田　克彦（追手門学）
	（H1）	2位	土居　　毅（野崎高）	蔵口　勇雄（成器高）・山口　　衛（交野2中）
	四條畷	3位	蔵口　勇雄（成器高）	養父　一太（長橋小）・小野　憲一（電通高）
	学園	3位	大江　将史（摂陵高）	大江　将史（摂陵高）・水井　良平（交野2中）
6	1990	優勝	青木　弘行（大阪桐蔭高）	三坪　吉幸（平野中）・山口　　衛（交野1中）
	（H2）	2位	三坪　吉幸（平野中）	蔵口　勇雄（成器高）・広田　盛起（交野養護）
	四條畷	3位	土居　　毅（野崎高）	森　　義和（追手門学院小）・宝来　敏夫（鯰江小）
	学園	3位	蔵口　勇雄（成器高）	青木　弘行（大阪桐蔭高）・竹下　　貴（追手門学院）
7	1991	優勝	宮本　忠之（大阪国際大学）	蔵口　勇雄（大阪学芸高）・広田盛起（交野養護）
	（H3）	2位	北川　唯雄（矢田北小）	須田　　豊（近大附中）・山口　　衛（交野一中）
	大阪学芸	3位	須田　　豊（近大附中）	藤倉　憲一（附属天王寺小）・北川唯雄（矢田北小）
	高校	3位		森　　義和（追手門学院小）・水井　良平（守口八雲中）
8	1992	優勝		
	（H4）	2位		
		3位		
		3位		

回	年度		シングルス	ダブルス
9	1993 （H５）	優勝		
		2位		
		3位		
		3位		
10	1994 （H６）	優勝		
		2位		
		3位		
		3位		
11	1995 （H７）	優勝		
		2位		
		3位		
		3位		
12	1996 （H８） 大阪中央 体育館	優勝	北原　良次（東淀川工業高）	森　　義和（追手門学院小）・池本　勝利（西小）
		2位	山下　正善（平野北中）	山下　正善（平野北中）・久保　裕志（木津中）
		3位	北川　唯雄（南住吉小）	北原　良次（東淀工業高）・北川　唯雄（南住吉小）
		3位	森　　義和（追手門学院小）	北川　律子（東田辺小）・藤木　隆寛（大阪短期大学）

大阪社会人バドミントン連盟

◆ 祝辞 ◆



祝　辞

大阪社会人バドミントン連盟
会長　西谷　一郎

昭和２２年１０月設立以来年号も平成９年の今日幾多の星霜を経て５０周年を迎えられた事まことにおめでたく心よりお祝い申し上げます。この間歴代会長様を始め関係役員皆様方の協会運営に対する並々ならぬご努力ご理解に加えバドミントンへのなににも優るひたむきな情熱が大きな支えになった事を今更述べる迄もないものと私は確信致しております。これらのことを永い歴史の軌跡の一ページに記されるならば只今よりバドミントンに係わられる方々への貴重な指針になるのではなかろうかと信じ茲に改めて提言致す次第でございます。

本年は又国民体育大会「なみはや国体」が当地に於いて開催される事が決まりいやが上にも機運の盛り上がりを見せて居ります。我らが大阪バドミントンの力と姿勢を全国各地の愛好者に知って頂く絶好の機会です。役員の方はもとより関係諸団体、選手団全員の結集を図り成功裡に大会運営の達成が果たされる事を念じ微力乍ら協力を惜しまぬ所存でございます。スポーツにも色々の種目がございますが私がこの素晴らしいバドミントンに出会い社会人連盟に所属して早や３０年になろうとしています。健康維持、技術の向上、勝敗に対し全力投入は勿論望む所ですがそれにもまして社会人としての自覚に立ち協調、融和を大切にルールを守り爽やかさの中にファイト溢れるゲームを期待し訴えてまいりました。

その意味で「なみはや国体」は最高の舞台といえます。激しいファイトを内に秘め爽やかなコートマナーで全国のバドミントンファンを魅了し大阪の存在を改めてアピール出来ますならば協会史の後世のページを飾ることでしょう。

協会傘下の諸連盟を束ね府下バドミントン愛好者の総本山的な立場上指導的役割も重く常に世人の注目する所であり関係諸団体との交流、折衝等殊に本年は「なみはや国体」の開催地としてミスを許されぬ行事を控え役員皆様方のご労苦に深く感謝致しております。長く険しかった５０年の道のりを越えられた今、次代の行手には新しい海路が拓けております、協会役員の皆様方、傘下諸連盟は申すまでもなく府民一体となり健康、友好を求め生涯スポーツとして全力を尽くしてまいりましょう。

終わりに貴協会のさらなる飛躍と発展を祈念申し上げお祝いのことばと致します。

大阪社会人バドミントン連盟の沿革

昭和４８年	大阪社会人バドミントン連盟　設立	
	同時に大阪協会へ加盟する。	
	初代　会　長	嶋　　久雄　氏
	初代　理事長	民谷　憲二　氏
昭和５１年	二代　理事長	嵯峨　健一　氏
昭和５６年	三代　理事長	四方　光市　氏
昭和６０年	二代　会長	西谷　一郎　氏
平成 元 年	四代　理事長	福森　勝治　氏

昔、昭和４６年～４７年頃社会人バドミントンが無く、試合をする機会がなかったので、昭和４７年に暫定発足で大阪協会へ加盟、当時実業団連盟のご好意により、実連の試合等に参加させていただいておりました。その後、実連ではないチーム（社会人チーム）が徐々に増えてきたので、大阪協会では社会人連盟を結成してはどうかという考え方も出てきてその結果、昭和４８年３月嶋会長を中心として社会人連盟の発足となりました。

社会人連盟の発足を家庭にたとえるなら

生みの父は大阪協会（青木昭二氏）　生みの母は実業団連盟（池田芳麻氏）

育ての父は嶋　久雄氏　育ての母は民谷憲二氏といえるでしょう。

昭和５３年に	京阪兵大会　開催
昭和５７年に	創立１０周年記念誌発行
平成　４　年	創立２０周年記念大会を開催
	団体トーナメント戦（大阪府立体育会館）
平成　６　年	長年かかつて和歌山県及び奈良県も加わって近畿社会人連盟設立
	同時に大阪社会人連盟も加盟する

連　盟　主　催　行　事

1．大阪社会人選手権大会
2．大阪社会人団体戦
　　前期リーグ戦
　　後期リーグ戦
3．大阪社会人個人戦大会
4．その他、必要なる行事

団体リーグ戦

栄光の記録（男子の部）

年度	回数	1　部	2　部	3　部	4　部	5　部
S.48	1	YMCA				
S.49	2	中央ホーム（A）	中央ホーム（B）	吹田クラブ（B）		
S.50	3	中央ホーム（A）				
S.51	4	中央ホーム（A）	池田クラブ（A）	池田クラブ（B）	池田クラブ（C）	
	5	中央ホーム（A）	YMCA（B）	杉本クラブ（A）	府庁クラブ	北清水クラブ
S.52	6	中央ホーム（A）	中央ホーム（B）	府庁クラブ	北清水クラブ（A）	北清水クラブ（B）
	7	中央ホーム（A）	勝山クラブ	北清水クラブ（A）	北清水クラブ（B）	飛羽会（B）
S.53	8	中央ホーム（A）	待兼クラブ	交野クラブ（A）	西野田クラブ	羽斗会
	9	中央ホーム（B）	北清水クラブ（A）	北清水クラブ（B）	若草クラブ	オール四條畷
S.54	10	中央ホーム（B）	池田クラブ（A）	オール四條畷	SBC	待兼クラブ（B）
	11	中央ホーム（B）	オール四條畷	SBC	待兼用クラブ（B）	羽斗会（B）
S.55	12	中央ホーム（B）	SBC	中央ホーム（A）	羽斗会（B）	羽斗会（A）
	13	中央ホーム（B）	吹田クラブ（A）	羽斗会（B）	羽斗会（A）	北清水クラブ（C）
S.56	14	中央ホーム（B）	羽斗会（A）	飛羽会（A）	北清水クラブ（C）	豊中クラブ（A）
	15	中央ホーム（B）	飛羽会（A）	北清水クラブ（C）	大浜クラブ（A）	OWBC
S.57	16	中央ホーム（B）	羽斗会（A）	大浜クラブ（A）	OWBC	KGクラブ
	17	中央ホーム（B）	飛羽会（A）	OWBC	府庁クラブ（A）	弥生クラブ（B）
S.58	18	中央ホーム（B）	OWBC	北清水クラブ（C）	SOB（A）	中之島クラブ（A）
	19	中央ホーム（B）	大浜クラブ（A）	北清水クラブ（C）	杉本クラブ	西クラブ（A）
S.59	20	中央ホーム（B）	北清水クラブ（A）	中央ホーム（A）	西クラブ（A）	友鳩サークル（A）
	21	中央ホーム（B）	SBC（A）	池田クラブ（B）	友鳩サークル（A）	相生クラブ（A）
S.60	22	中央ホーム（A）	中央ホーム（B）	FBC（A）	中之島クラブ（A）	羽斗会（B）
	23	中央ホーム（A）	交野クラブ（A）	待兼クラブ（A）	吹田クラブ（B）	大阪フェニックス（A）
S.61	24	中央ホーム（A）	吹田クラブ（A）	友鳩サークル（A）	大阪フェニックス（A）	泉北バード
	25	池田クラブ（A）	交野クラブ（A）	大阪フェニックス（A）	和光クラブ（A）	東大阪FKC（A）
S.62	26	中央ホーム（A）	大阪フェニックス（A）	西野田クラブ	東大阪FKC（A）	至誠会
	27	中央ホーム（A）	北清水クラブ（B）	東大阪FKC（A）	SOB（A）	童心クラブ（A）
S.63	28	池田クラブ（A）	東大阪FKC（A）	Yクラブ（A）	泉北バード	三国クラブ
	29	大阪フェニックス（A）	友鳩サークル（A）	SOB（A）	三国クラブ	なかよしパワーズ
H.1	30	中央ホーム（A）	SOB（A）	泉北バード	なかよしパワーズ	童心クラブ（A）
	31	大阪フェニックス（A）	西野田クラブ	なかよしパワーズ	童心クラブ（A）	弥生クラブ（B）
H.2	32	池田クラブ（A）	SBC	三国クラブ	至誠会（B）	友鳩サークル（B）
	33	中央ホーム（A）	弥生クラブ（A）	吹田クラブ（A）	友鳩サークル（B）	SOB（B）
H.3	34	弥生クラブ（A）	東大阪FKC（A）	池田クラブ（B）	大浜クラブ（A）	勝山OB会（A）
	35	中央ホーム（A）	三国クラブ	童心クラブ（A）	SOB（B）	豊中クラブ（A）
H.4	36	大阪フェニックス（A）	中央ホーム（B）	吹田クラブ（A）	和光クラブ（A）	羽斗会
	37	池田クラブ（A）	なかよしパワーズ	童心クラブ（A）	Yクラブ（A）	ギースクラブ（B）
H.5	38	池田クラブ（A）	SOB（A）	池田クラブ（B）	勝山OB会（A）	大阪フェニックス（B）
	39	池田クラブ（A）	泉北バード	吹田クラブ（A）	大阪フェニックス（B）	枚方殿一（A）
H.6	40	池田クラブ（A）	吹田クラブ（A）	交野クラブ（A）	友鳩サークル（B）	北清水クラブ（A）
	41	中央ホーム（A）	東大阪FKC（A）	大阪フェニックス（B）	枚方殿一（A）	飛羽会（B）
H.7	42	大阪フェニックス（A）	大阪フェニックス（B）	三国クラブ（A）	KOB	守口ホーム
	43	中央ホーム（A）	童心クラブ（A）	友鳩サークル（A）	待兼クラブ（A）	ウングスBD（A）
H.8	44	大阪フェニックス（A）	飛羽会（A）	Yクラブ（A）	北清水クラブ（A）	コンドル（A）
	45	中央ホーム（A）	なかよしパワーズ	交野クラブ（A）	コンドル（A）	守口ホーム

団体リーグ戦

年度	回数	6　部	7　部	8　部	9　部	10　部
S.48	1					
S.49	2					
S.50	3					
S.51	4					
	5					
S.52	6					
	7					
S.53	8					
	9					
S.54	10					
	11					
S.55	12					
	13	枚方クラブ				
S.56	14	ウインテックス大阪				
	15	生野クラブ（A）	東大阪ＦＫＣ			
S.57	16	西クラブ	ヤンタンバード	弥生クラブ（C）		
	17	相生クラブ（A）	友鳩サークル（A）	北清水クラブ（D）	天六ファイターズ	
S.58	18	友鳩サークル（A）	北清水クラブ（D）	天六ファイターズ	城東クラブ	大阪フェニックス
	19	東大阪ＦＫＣ（A）	天六ファイターズ	大浜クラブ（B）	大阪フェニックス	ギースクラブ
S.59	20	羽斗会（B）	クラブX	大阪フェニックス	東大阪ＦＫＣ（B）	友鳩サークル（B）
	21	北清水クラブ（D）	大阪フェニックス（A）	飛羽会（B）	ギースクラブ	岬クラブ
S.60	22	大阪フェニックス（A）	ＳＯＢ（B）	ギースクラブ	岬クラブ	市岡クラブ（A）
	23	ヤンタンバード	飛羽会（B）	西クラブ（B）	アベノシャトルズ	童心クラブ
S.61	24	クラブX	東大阪ＦＫＣ（B）	城東クラブ	童心クラブ（A）	ミドリＢＣ
	25	東大阪ＦＫＣ（B）	三国クラブ	童心クラブ（A）	ミドリＢＣ	大阪フェニックス（B）
S.62	26	三国クラブ	童心クラブ（A）	なかよしパワーズ	友鳩サークル（B）	肥後橋ＢＣ（A）
	27	東大阪ＦＫＣ（B）	なかよしパワーズ	ミドリＢＣ	大阪フェニックス（B）	中央ホーム（C）
S.63	28	なかよしパワーズ	交野クラブ（B）	友鳩サークル（B）	ＩＢＣ	友鳩サークル（C）
	29	交野クラブ（B）	友鳩サークル（B）	大阪フェニックス（B）	友鳩サークル（C）	ＴＢＣ（A）
H.1	30	友鳩サークル（B）	ミドリＢＣ	ＩＢＣ	ＴＢＣ（A）	童心クラブ（B）
	31	ギースクラブ（B）	ギースクラブ（A）	ＴＢＣ（A）	中央ホーム（C）	鶴山台北クラブ
H.2	32	ＳＯＢ（B）	勝山城東クラブ	どうぶつ村	鶴山台北クラブ	北斗七星
	33	勝山城東クラブ	大阪フェニックス（B）	鶴山台北クラブ	童心クラブ（B）	友鳩サークル（D）
H.3	34	飛羽会（B）	ＴＢＣ	童心クラブ（B）	北斗七星	ウイングス（B）
	35	大阪フェニックス（B）	鶴山台北クラブ	中央ホーム（C）	枚方殿一クラブ	なにわイーグルス
H.4	36	勝山クラブ	西クラブ（B）	枚方殿一（A）	ナカヨシパワーズ（B）	守口ホーム
	37	西クラブ（B）	枚方殿一（A）	ウイングスBD（A）	守口ホーム	シャトルホーム
H.5	38	枚方殿一（A）	ウイングスBD（A）	守口ホーム	シャトルホーム	コンドル（A）
	39	ウイングスBD（A）	守口ホーム	ミドリＢＣ	コンドル（A）	ＳＲＢＣ（A）
H.6	40	守口ホーム	中央ホーム（C）	シャトルホーム	ＳＲＢＣ（A）	北摂クラブ
	41	中央ホーム（C）	シャトルホーム	コンドル（A）	北摂クラブ	箕面クラブ（A）
H.7	42	シャトルホーム	コンドル（A）	北摂クラブ	ＡＴＭ（A）	鶴の子ＢＣ
	43	コンドル（A）	北摂クラブ	ＳＲＢＣ（A）	箕面クラブ（A）	畷シャトルズ（B）
H.8	44	北摂クラブ	ＳＲＢＣ（A）	箕面クラブ（A）	吹田クラブ（B）	友鳩サークル（E）
	45	ＳＲＢＣ（A）	箕面クラブ（A）	ＡＴＭ（A）	畷シャトルズ（B）	オール四條畷

団体リーグ戦

年度	回数	１１　部	１２　部	１３　部	１４　部	１５　部
S.48	1					
S.49	2					
S.50	3					
S.51	4					
	5					
S.52	6					
	7					
S.53	8					
	9					
S.54	10					
	11					
S.55	12					
	13					
S.56	14					
	15					
S.57	16					
	17					
S.58	18					
	19	鶴の子ＢＣ				
S.59	20	岬クラブ	市岡クラブ（A）			
	21	市岡クラブ（A）	ＩＢＬ			
S.60	22	大阪フェニックス（B）	ＭＢＳ			
	23	東大阪ＦＫＣ（C）	肥後橋ＢＣ（A）			
S.61	24	肥後橋ＢＣ（A）	豊中ホーム（B）	Ｙクラブ（C）		
	25	ＭＢＳ	ベアーズ	鶴山台北クラブ		
S.62	26	友鳩サークル（C）	鶴山台北クラブ	ＴＢＣ		
	27	鶴山台北クラブ	ＴＢＣ（A）	北斗七星		
S.63	28	ＴＢＣ（A）	童心クラブ（B）	ＩＬＬＣ	畷シャトルズ（B）	
	29	童心クラブ（B）	なにわイーグルス	高石クラブ	いくのクラブ	
H.1	30	畷シャトルズ（A）	北斗七星	ＴＭＣ	上新田愛好（B）	
	31	北斗七星	友鳩サークル（D）	畷シャトルズ（B）	ぽてとんず	
H.2	32	友鳩サークル（D）	畷シャトルズ（B）	関西クラブ	守口ホーム	
	33	なにわイーグルス	関西クラブ（A）	守口ホーム	シャトルホーム	
H.3	34	関西クラブ	守口ホーム	シャトルホーム	コンドル（A）	
	35	守口ホーム	シャトルホーム	コンドル（A）	ＳＲＢＣ	
H.4	36	シャトルホーム	コンドル（A）	ＳＲＢＣ	レッドキング	
	37	コンドル（A）	ＳＲＢＣ	箕面クラブ（A）	枚方殿―クラ（B）	
H.5	38	ＳＲＢＣ（A）	レッドシャトル	レッドキング	オール四條畷	
	39	ＳＯＢ（C）	箕面クラブ（A）	オール四條畷	大阪フェニックス（C）	
H.6	40	箕面クラブ（A）	オール四條畷	友鳩サークル（E）	大阪フェニックス（D）	
	41	畷シャトルズ（B）	友鳩サークル（E）	枚方殿―クラ（B）	なでしこ（A）	
H.7	42	レッドシャトル	上新田愛好（A）	大阪フェニックス（D）	コンドル（B）	
	43	友鳩サークル（E）	大阪フェニックス（D）	コンドル（B）	天王クラブ（B）	
H.8	44	オール四條畷	枚方殿―クラ（B）	なでしこ（A）	ＳＯＢ（D）	
	45	大阪フェニックス（D）	ベアーズ	天王クラブ（B）	中之島クラブ（B）	

大阪社会人選手権大会

	M S 50			
	優勝	準優勝	3位	3位
1973年 第1回				
1974年 第2回				
1975年 第3回				
1976年 第4回				
1977年 第5回				
1978年 第6回				
1979年 第7回				
1980年 第8回				
1981年 第9回				
1982年 第10回				
1983年 第11回				
1984年 第12回				
1985年 第13回				
1986年 第14回				
1987年 第15回				
1988年 第16回	小野 孝一 SBT	山岸 二郎 大浜クラブ	古賀 隆 Yクラブ	
1989年 第17回				
1990年 第18回				
1991年 第19回	四方 光市 池田クラブ	堤 博愛 北清水クラブ	小泉 良樹 豊中クラブ	小野 孝一 SBT
1992年 第20回	堤 博愛 北清水クラブ	四方 光市 池田クラブ	岡上 充仁 北清水クラブ	
1993年 第21回	堤 博愛 北清水クラブ	岡上 充仁 北清水クラブ	小泉 良樹 豊中クラブ	広瀬 隆一 北清水クラブ
1994年 第22回	住谷 弘法 豊中クラブ	杉谷 義明 北清水クラブ	福崎 隆夫 Yクラブ	辻 芳雄 中之島クラブ
1995年 第23回	辻 芳雄 中之島クラブ	杉谷 義明 北清水クラブ	福崎 隆夫 Yクラブ	岡上 充仁 北清水クラブ
1996年 第24回	竹下 幸男 北清水クラブ	岡上 充仁 北清水クラブ	岡 国臣 大浜クラブ	小草 興司 コンドル

大阪社会人選手権大会

	M D 1				M D 2			
	優勝	準優勝	3位	3位	優勝	準優勝	3位	3位
1973年 第1回	六津井・足立 中央ホーム	久保川・加藤 YMCA	北出・民谷 白山・ニッカ					
1974年 第2回	岩元・三宅 勝山クラブ	前野・角田 中央ホーム	衣川・吉田 ABC					
1975年 第3回	和田・前野 中央ホーム	六津井・角田 中央ホーム	島岡・角 待兼クラブ					
1976年 第4回	和田・菅原 中央ホーム	六津井・永澤 中央ホーム	前野・角田 中央ホーム					
1977年 第5回	和田・松口 中央ホーム	前野・松重 中央ホーム	南手・北出 YMCA		六津井・瀬良 中央ホーム	福森・吉田 ABC	伊藤・中村 北清水クラブ	
1978年 第6回	永澤・和田 中央ホーム	小場・古西 中央ホーム	松重・前野 中央ホーム		福森・吉田 ABC	佐竹・片山 北清水クラブ	奥・中角 交野クラブ	
1979年 第7回	和田・松口 中央ホーム	永澤・前野 中央ホーム	北原・高橋 池田クラブ		幡野・井上 枚方OBクラブ	奥・中角 交野クラブ	古川・山村 中央ホーム	
1980年 第8回	和田・田島 中央ホーム	永澤・前野 中央ホーム	衣川・池田 ABC	福森・吉田 ABC	松田・高橋 ABC	古川・山村 中央ホーム	奥・中角 交野クラブ	宮西・渋谷 弥生クラブ
1981年 第9回	和田・松口 中央ホーム	田島・古川 中央ホーム	宮本・松井 弥生クラブ	田中・上三垣 池田クラブ	津田・斎藤 吹田クラブ	津田・広瀬 ヤンタンバード	和佐・阿河 SOB	宮崎・三宅 中之島クラブ
1982年 第10回	和田・松口 中央ホーム	田中・上三垣 池田クラブ	山崎・八木 OWBC	宮本・松浦 弥生クラブ	新井・高橋 池田クラブ	山本・中村 大浜クラブ	西村・西村 大浜クラブ	渋谷・柴山 弥生クラブ
1983年 第11回	和田・松口 中央ホーム	川島・田島 中央ホーム	山口・古川 中央ホーム	角田・山崎 OWBC	西村・伊藤 北清水クラブ	白川・当山 大浜クラブ	矢田・太田 相生クラブ	諏訪・栗原 北清水クラブ
1984年 第12回	和田・松口 中央ホーム	角田・山崎 OWBC	川前・野生 フェニックス	川島・田島 中央ホーム	佐野・岸本 SBC	中尾・中嶋 東大阪FKC	山本・世良 三国クラブ	下地・中村 北清水クラブ
1985年 第13回	山口・菅原 中央ホーム	川島・仁田 中央ホーム	川前・野生 フェニックス	古川・井上 中央ホーム	新野・松村 中之島・池田	渡辺・宮崎 中之島クラブ	堀・伊藤 勝山クラブ	早崎・西野 西野田クラブ
1986年 第14回	山口・田島 中央ホーム	宮本・三坪 弥生クラブ	田中・井谷 フェニックス	仁田・河内 中央ホーム	森・岡田 西クラブ	中・植野 フェニックス	川瀬・宮武 泉北バード	森田・坂中 SBC
1987年 第15回	和田・斎藤 TBC	川前・井谷 フェニックス	安藤・植野 フェニックス	上地・青沼 池田クラブ	宮本・林 FKC・交野	橋・脇田 泉北バード	正木・水野 西クラブ	名倉・塩谷 フェニックス
1988年 第16回	川前・井谷 フェニックス	山口・斎藤 中央ホーム	宮本・三坪 弥生クラブ	常山・守安 中央ホーム	西上・福島 なかよしパワ	河内・橋本 中央ホーム	金城・荒木 TBC	上村・朝田 大浜クラブ
1989年 第17回	宮本・海道 弥生クラブ	田中・松浦 フェニックス	川前・井谷 フェニックス	山口・菅原 中央ホーム	谷口・浦 友鳩サークル	平野・藤木 北清水クラブ	新尼崎・稲本 羽斗会	東條・澤 北清水クラブ
1990年 第18回	宮本・海道 弥生クラブ	若松・上地 池田クラブ	和田・谷田 TBC	川前・井谷 フェニックス	高橋・伊藤 北斗七星	奥野・米野 友鳩サークル	日野・松本 童心クラブ	神谷・山口 童心クラブ
1991年 第19回	宮本・海道 弥生クラブ	松口・守安 中央ホーム	安藤・植野 フェニックス	田中・松浦 フェニックス	森川・藤田 友鳩・三国	木場・飯森 鴨谷・泉北	斎藤・宇都宮 中央・三国	大久保・薩西 ATM
1992年 第20回	和田・除 TBC	若松・石川 池田クラブ	小山・岡田 コンドル	松口・守安 中央ホーム	山本・仁宮 シャトルホーム	中村・山本 フェニックス	大川・木之下 ギースクラブ	大江・村瀬 FBC
1993年 第21回	若松・石川 池田クラブ	宮本・海道 弥生クラブ	上地・田中 池田クラブ	山口・菅原 中央ホーム	森・亀岡 守口・豊中	南口・葉碓 童心クラブ	中野・真島 守口ホーム	百田・渡辺 西野田・豊中
1994年 第22回	松口・守安 中央ホーム	川前・田中 フェニックス	上地・山根 池田クラブ	若松・石川 池田クラブ	武田・坂井 東大阪FKC	岩津・宮竹 ATM	竹下・岡崎 北清水クラブ	上杉・田頭 西クラブ
1995年 第23回	川前・田中 フェニックス	宮本・海道 SOB・中央	上地・島倉 池田・三国	福島・弓削 なかよしパワ	岡崎・大畑 北清水クラブ	伊藤・池内 SBC	井上・大江 東大阪FKC	謙・吉川 童心クラブ
1996年 第24回	和田・蘇 TBC	辻田・北辻 童心・フェニックス	川前・田中 フェニックス	宮本・山岸 SOB・大浜	谷山・合田 ATM	大木・湯 八尾SOS	福谷・吉田 フェニックス	宮崎・大見 中之島クラブ

大阪社会人選手権大会

	M D 30				M D 40			
	優 勝	準優勝	3 位	3 位	優 勝	準優勝	3 位	3 位
1973年 第1回								
1974年 第2回	四方・吉岡 池田クラブ	中村・真木 待兼クラブ						
1975年 第3回	オープン戦							
1976年 第4回	三坂・鷲原 吹田・待兼	四方・吉岡 池田クラブ	広瀬・竹下 北清水クラブ					
1977年 第5回	広瀬・堤 北清水クラブ	山路・国方 YMCA	三坂・鷲原 吹田・待兼					
1978年 第6回	山路・国方 YMCA	広瀬・堤 北清水クラブ	山村・千葉 中央ホーム					
1979年 第7回	北出・南手 YMCA	山路・葛輪 YMCA	山崎・三原 若草					
1980年 第8回	加藤・小田 KGクラブ	山路・嵯峨 YMCA	北出・南手 YMCA	高原・吉岡 池田クラブ				
1981年 第9回	北原・三町 池田クラブ	加藤・小田 KGクラブ	北出・南手 YMCA	竹下・岡本 北清水クラブ	広瀬・岡上 北清水クラブ	嘉生・小泉 中之島・豊中		
1982年 第10回	北原・三町 池田クラブ	加藤・小田 KGクラブ	深田・大竹 水島クラブ	北出・南手 YMCA	広瀬・岡上 北清水クラブ	吉岡・佐藤 池田クラブ	西谷・四方 豊中・池田	黒川・堤 枚方・北清水
1983年 第11回	北原・三町 池田クラブ	高橋・松村 池田クラブ	竹下・岡本 北清水クラブ	加藤・小田 KGクラブ	広瀬・岡上 北清水クラブ	小泉・四方 豊中・池田	西谷・木村 豊中・水島	須崎・片岡 池田クラブ
1984年 第12回	北原・松村 池田クラブ	高橋・新井 池田クラブ	山村・永澤 中央ホーム	東・中村 ミドリBC	広瀬・岡上 北清水クラブ	堤・山川 北清水クラブ	釜本・角野 ミドリBC	吉岡・片岡 池田クラブ
1985年 第13回	田中・松村 池田クラブ	山村・永澤 中央ホーム	木下・小田 北清水・KGク	日野・道中 鶴山台北クラブ	竹下・岡上 北清水クラブ	堤・山川 北清水クラブ	高村・花田 ギースクラブ	須崎・片岡 池田クラブ
1986年 第14回	田中・松村 池田クラブ	松波・尾崎 SBC	高橋・江崎 池田クラブ	太田・新田 相生・童心	広瀬・三坂 北清水・吹田	吉岡・四方 池田クラブ	堤・山川 北清水クラブ	竹下・岡上 北清水クラブ
1987年 第15回	田中・松村 池田クラブ	中尾・瀬良 東大阪FKC	小田・尾崎 KGクラブ	松村・新野 池田・中之島	藤林・松浪 IBL・SBC	小泉・中川 豊中・NSK	吉岡・四方 池田クラブ	竹下・岡上 北清水クラブ
1988年 第16回	喜多・幡野 飛羽会	中尾・瀬良 東大阪FKC	永澤・松口 中央ホーム	北出・福森 Yクラブ・ABC	藤林・松浪 IBL・SBC	四方・吉野 池田クラブ	竹下・岡上 北清水クラブ	千葉・山村 中央ホーム
1989年 第17回	松口・田島 中央ホーム	喜多・幡野 飛羽会	中尾・瀬良 東大阪FKC	田中・松村 池田クラブ	藤林・松浪 IBL・SBC	北出・嵯峨 Yクラブ	広瀬・岡上 北清水クラブ	小泉・住谷 豊中クラブ
1990年 第18回	永澤・松口 中央ホーム	中尾・瀬良 東大阪FKC	喜多・幡野 飛羽会	角田・田中 池田クラブ	藤林・松浪 IBL・SBC	北出・嵯峨 Yクラブ	片岡・高原 池田クラブ	小泉・住谷 豊中クラブ
1991年 第19回	松村・田中 池田クラブ	喜多・幡野 飛羽会	永澤・古川 中央ホーム	尾崎・岸本 SBC	北出・北原 Yクラブ・池田	藤林・松浪 IBL・SBC	辻・古川 中之島クラブ	高村・佐藤 ギースクラブ
1992年 第20回	喜多・幡野 飛羽会	松村・田中 池田クラブ	尾崎・岸本 SBC	森田・佐野 SBC	北出・北原 Yクラブ・池田	竹下・岡本 北清水クラブ	高木・東 ミドリBC	藤林・松浪 IBL・SBC
1993年 第21回	喜多・幡野 飛羽会	石崎・島袋 北清水クラブ	橋本・井上 中央ホーム	山口・香西 童心・SOB	北原・松村 池田クラブ	藤林・松浪 IBL・SBC	高木・東 ミドリBC	千葉・永澤 中央ホーム
1994年 第22回	喜多・幡野 飛羽会	石崎・島袋 北清水クラブ	森田・岸本 SBC	山口・香西 童心・SOB	六津井・永澤 中央ホーム	瀬良・中尾 東大阪FKC	島田・北出 Yクラブ	佐藤・森 ギースクラブ
1995年 第23回	大毛・斎藤 吹田クラブ	香西・楠本 SOB・三国	森田・岸本 SBC	井上・橋本 中央ホーム	松浪・上田 SBC・FBC	島田・北出 Yクラブ	千葉・永瀬 中央ホーム	松尾・中尾 東大阪FKC
1996年 第24回	香西・楠本 SOB・三国	黒田・松本 童心クラブ	安藤・植野 フェニックス	田中・野牧 飛羽会・SOB	喜多・幡野 飛羽会	宮本・柳 ILLC・SOB	宇都宮・大竹 豊中クラブ	瀬良・中尾 東大阪FKC

大阪社会人選手権大会

	M D 50			
	優 勝	準優勝	3 位	3 位
1973年 第1回				
1974年 第2回				
1975年 第3回				
1976年 第4回				
1977年 第5回				
1978年 第6回				
1979年 第7回				
1980年 第8回				
1981年 第9回				
1982年 第10回				
1983年 第11回				
1984年 第12回				
1985年 第13回				
1986年 第14回				
1987年 第15回	西谷・堤 豊中・MBS	黒川・仙波 枚方クラブ	林・坪田 北清水クラブ	
1988年 第16回	西谷・堤 豊中・MBS	山岸・古賀 大浜・Yクラブ	黒川・仙波 枚方クラブ	
1989年 第17回	山岸・古賀 大浜・Yクラブ	吉野・松本 池田・豊中	黒川・仙波 枚方クラブ	西谷・堤 豊中・MBS
1990年 第18回				
1991年 第19回				
1992年 第20回	堤・岡上 北清水クラブ	松田・久保川 SOB・Yクラブ	四方・吉野 池田クラブ	小泉・住谷 豊中クラブ
1993年 第21回	久保川・広瀬 Yクラブ・北清水	高田・片岡 箕面・池田	四方・吉野 池田クラブ	堤・岡上 北清水クラブ
1994年 第22回	高田・片岡 箕面・池田	久保川・広瀬 Yクラブ・北清水	堤・山川 北清水クラブ	岡上・杉谷 北清水クラブ
1995年 第23回	久保川・広瀬 Yクラブ・北清水	高田・片岡 箕面・池田	松田・岸 SOB・豊中	岡上・杉谷 北清水クラブ
1996年 第24回	高田・片岡 箕面・池田	久保川・広瀬 Yクラブ・北清水	岡上・杉谷 北清水クラブ	四方・吉野 池田クラブ

大阪社会人選手権大会

	LS1				LS2			
	優勝	準優勝	3位	3位	優勝	準優勝	3位	3位
1973年 第1回	江草 敦子 FKC	大原 裕子 池田クラブ	玉井 豊子 弥生クラブ					
1974年 第2回	池田紗千子 SKK	福永久弐子 双葉クラブ	熊谷 敬子 双葉クラブ					
1975年 第3回	池田紗千子 SKK	仲村 則子 YMCA	広瀬 園子 SKK					
1976年 第4回	池田紗千子 SKK	御前美智子 SKK	小林 陽子 SKK					
1977年 第5回	福永久弐子 双葉クラブ	広瀬 園子 SKK	田淵美恵子 池田クラブ		鷲尾 紘子 スノーラッコ	藤野 和枝 ABC	永井千嘉子 YMCA	
1978年 第6回	池田紗千子 SKK	広瀬 園子 SKK	田淵美恵子 池田クラブ		田村真由美 北清水クラブ	中村 幸子 ABC	永井千嘉子 YMCA	
1979年 第7回	小出 静香 ABC	井内 淑子 勝山和光クラブ	中村 俊子 YMCA		小川真由美 若草クラブ	横田 好子 北清水クラブ	宇佐美政子 吹田クラブ	
1980年 第8回	小川真由美 若草クラブ	田中 久世 池田クラブ	笹川 満子 中央ホーム	槙 由紀子 中央ホーム	山崎ヤス子 ABC	三好 菊美 ABC	田村 園枝 若草クラブ	井上 桂子 豊中ホーム
1981年 第9回					山中 知子 北清水クラブ	石崎有紀子 北清水クラ	大山一二美 北清水クラブ	岩井 淑恵 豊中ホーム
1982年 第10回					金井 智恵 鶴の子BC	藤田 陽子 西クラブ	足立 裕美 池田クラブ	中尾 幸子 大浜クラブ
1983年 第11回	阿部 正子 OWBC	金井 智恵 鶴の子BC	坂本 知子 池田クラブ	小川真由美 三国クラブ	下桝友起子 鶴の子BC	石野 正美 クラブX	橘 展子 大浜クラブ	谷岡富佐子 ATM
1984年 第12回	金井 智恵 鶴の子BC	石野 正美 クラブX	馬服久美子 飛羽会		山中 尚子 北清水クラブ	秋山 とよ SBC	当山 陽子 葺の葉クラブ	村上 純子 クラブX
1985年 第13回	井口 利江 中央ホーム	馬服久美子 飛羽会			三浦 敦子 ILLC	中村 泉 ILLC	佐藤真由美 土曜クラブ	平井有里子 飛羽会
1986年 第14回	井口 利江 中央ホーム	西林 知子 北清水クラブ	鈴木 芳美 北清水クラブ	久保 美之 中央ホーム	大三谷道子 KOABC	阪井 晶子 なにわイーグル	松岡 薫 大浜クラブ	池野真紀子 KOABC
1987年 第15回	朝倉 三恵 北清水クラブ	田中 敦子 北清水クラブ	豊倉 弘子 中央ホーム	久保 美之 中央ホーム	宮本 栄子 ATM	宮本 康子 葦の葉クラブ	松井 裕子 童心クラブ	楠田 京子 つぶぞろい
1988年 第16回	朝倉 三恵 北清水クラブ	豊倉 弘子 中央ホーム	宮本 栄子 ATM	弓矢美妃子 SBT	中村真由美 大浜クラブ	竹浦 寛恵 吹田クラブ	妙中 啓子 なにわイーグル	松岡 薫 大浜クラブ
1989年 第17回	田中 恵子 HANEクラブ	西 明希子 フェニックス	中村真由美 大浜クラブ	坂本 知子 池田クラブ	奈良 玉恵 大浜クラブ	和田 真紀 大浜クラブ	仁木 良江 チェリーズ	三好 忍 大浜クラブ
1990年 第18回	陳 綺 TBC	朝倉 三恵 北清水クラブ	西 明希子 フェニックス	宮本 栄子 ATM	岩城佐恵理 吹田クラブ	中園 由紀 SBT	吉国 潤子 コンドル	木下 佳織 吹田クラブ
1991年 第19回	西 明希子 フェニックス	石田 知子 なかよしパワ	池野真紀子 クラブX	坂本 知子 池田クラブ	田茂井己喜 フリー	森川 圭美 友鳩サークル	森脇 順子 豊中ホーム	森山 昌子 友鳩サークル
1992年 第20回	陳 綺 TBC	高田 幹子 TBC	西 明希子 フェニックス	岡崎 陽子 フェニックス	谷川 泰子 コンドル	小草 雪子 コンドル	須山千寿子 サザン	西 由香里 TBC
1993年 第21回	西 明希子 フェニックス	保田真由美 大浜クラブ	佐野 良久 サザン	神谷美由紀 HANEクラブ	池田 智子 泉陽花翔会	田嶋 澄子 泉陽花翔会	西畑真利子 泉陽花翔会	十二貴美子 ATM
1994年 第22回	西 明希子 フェニックス	佐野 良久 サザン	永田 緑 フェニックス	福島 知子 なかよしパワ	重信 美和 大浜クラブ	濱田 美穂 大浜クラブ	岡崎 亜希 守口ホーム	山口 敬子 ATM
1995年 第23回	杉田 暢子 ATM	上地友佳子 池田クラブ	重信 美和 大浜クラブ	福島 知子 なかよしパワ	和仁奈津子 枚方殿一クラブ	松下奈緒子 SOB	大木 一枝 チェリーズ	黒田 直子 西クラブ
1996年 第24回	利川 貴子 なかよしパワ	杉田 暢子 ATM	上地友佳子 池田クラブ	利川 三貴 なかよしパワ	坂田 美佐 北清水クラブ	閏井 邦子 なでしこ	伊与木美保 ATM	根来 素子 ATM

大阪社会人選手権大会

	L　S　30			
	優　勝	準優勝	3　位	3　位
1973年 第1回				
1974年 第2回				
1975年 第3回				
1976年 第4回				
1977年 第5回				
1978年 第6回				
1979年 第7回				
1980年 第8回				
1981年 第9回				
1982年 第10回				
1983年 第11回				
1984年 第12回				
1985年 第13回				
1986年 第14回				
1987年 第15回				
1988年 第16回				
1989年 第17回				
1990年 第18回				
1991年 第19回	小野　和子 ＳＢＴ	中園　由紀 ＳＢＴ	松岡　　薫 大浜クラブ	
1992年 第20回				
1993年 第21回				
1994年 第22回	吉国　潤子 コンドル	山口　純子 童心クラブ	小西　俊子 Ｙクラブ	
1995年 第23回	真本　朱実 枚方殿ークラブ	清川ちづる ＭＡＩＣＣ	小西　俊子 Ｙクラブ	有本　格子 ＭＡＩＣＣ
1996年 第24回	真本　朱実 枚方殿ークラブ	山下恵美子 和光クラブ	山本　和江 Ｙクラブ	広内　秀子 ＳＢＴ

大阪社会人選手権大会

	MIX1				MIX2			
	優勝	準優勝	3位	3位	優勝	準優勝	3位	3位
1973年 第1回	北出・仲村 白山・YMCA	尾谷・稲谷 ニッカ・YMCA	福森・大川 ABC・双葉					
1974年 第2回	前野・青木 中央ホーム	北出・仲村 YMCA	鷲原・石津 待兼クラブ					
1975年 第3回	北出・仲村 YMCA	民谷・民谷 YMCA	嵯峨・内海 YMCA					
1976年 第4回	和田・玉井 中央・弥生	菅原・加藤 中央・加藤	松重・石飛 中央ホーム					
1977年 第5回	松口・大場 中央ホーム	北原・坂口 池田クラブ	松重・石飛 中央ホーム					
1978年 第6回	北原・田淵 池田クラブ	千葉・熊山 中央ホーム	永澤・永澤 中央ホーム					
1979年 第7回	北原・田淵 池田クラブ	田中・俵 池田クラブ	前野・前野 中央ホーム					
1980年 第8回	宮本・石川 北清水クラブ	山村・田村 中央ホーム	池田・池田 ABC	辻埜・本田 貯金クラブ				
1981年 第9回	宮本・石川 弥生クラブ	山村・安田 中央ホーム	松本・崎田 SOB					
1982年 第10回	和田・槙 中央ホーム	角田・阿部 OWBC	西村・大山 北清水クラブ	伊藤・関口 北清水クラブ				
1983年 第11回	角田・阿部 OWBC	和田・槙 中央ホーム	西村・西村 北清水クラブ	松浦・石川 弥生クラブ				
1984年 第12回	角田・阿部 OWBC	田島・槙 中央ホーム	伊藤・石崎 北清水クラブ	田中・坂本 池田クラブ				
1985年 第13回	伊藤・石崎 北清水クラブ	仁田・町田 中央ホーム	新井・足立 池田クラブ	井上・井上 飛羽会				
1986年 第14回	和田・丸山 TBC	斎藤・西林 北清水クラブ	仁田・井口 中央ホーム	伊藤・石崎 北清水クラブ				
1987年 第15回	田中・足立 池田クラブ	新井・吉野 池田クラブ	松村・坂本 池田クラブ	山口・松井 童心クラブ				
1988年 第16回	仁田・河村 中央ホーム	宮本・林田 弥生・ILLC	斎藤・錦木 北清水クラブ	田中・坂本 池田クラブ				
1989年 第17回	田中・西 フェニックス	松浦・豊倉 フェニックス・中央	田中・坂本 池田クラブ	安藤・松本 フェニックス				
1990年 第18回	和田・陳 TBC	弓削・河村 なかよしパワ	田中・西 フェニックス	田中・坂本 池田クラブ				
1991年 第19回	弓削・河村 なかよしパワ	田中・西 フェニックス	福島・池野 なパワ・X	松口・朝倉 中央・北清水				
1992年 第20回	若松・田中 池田クラブ	田中・西 フェニックス	除・陳 TBC	和田・高田 TBC				
1993年 第21回	松口・坂本 中央・池田	上地・上地 池田クラブ	田中・平井 飛羽会・ILLC	宮本・出石 弥生・ILLC				
1994年 第22回	上地・上地 池田クラブ	田中・西 フェニックス	保田・保田 泉北・大浜	若松・田中 池田クラブ				
1995年 第23回	田中・西 フェニックス	辻本・重松 フェニックス	保田・保田 泉北・大浜	上地・上地 池田クラブ				
1996年 第24回	宮木・萩原 SOB・ILLC	上地・上地 池田クラブ	西垣・岡田 SOB	有田・西 FKC・フェニックス	橋本・橋本 中央ホーム	馬場・氏家 牧方殿一クラブ	林・岡村 関西クラブ	樋本・真島 フリー・関西

大阪社会人選手権大会

	LD1				LD2			
	優勝	準優勝	3位	3位	優勝	準優勝	3位	3位
1973年 第1回	飯田・坂口 中央ホーム	松本・大川 双葉クラブ	稲谷・仲村 YMCA					
1974年 第2回	竹村・熊谷 双葉クラブ	岡村・福永 双葉クラブ	仲村・内海 YMCA					
1975年 第3回	池田・広瀬 SKK	福永・松本 双葉クラブ	仲村・内海 YMCA					
1976年 第4回	池田・御前 SKK	広瀬・小林 SKK	藤野・田中 ABC					
1977年 第5回	坂口・田淵 池田クラブ	平井・加藤 吹田クラブ	福永・新谷 双葉クラブ		大場・石飛 中央ホーム	鷲尾・安村 スノーラッ		
1978年 第6回	池田・広瀬 桜ケ丘クラブ	木村・加藤 吹田クラブ	田淵・俵 池田クラブ		高原・野田 池田クラブ	森上・西川 池田クラブ	田村・松村 中央ホーム	
1979年 第7回	田淵・俵 池田クラブ	田村・松田 中央ホーム	井内・加藤 勝山・樟蔭東		小川・田村 若草クラブ	小出・山本 ABC	宇佐美・田村 吹田・北清水	
1980年 第8回	石川・寺坂 北清水・若草	小川・田村 若草クラブ	松田・田村 中央ホーム	笹川・槙 中央ホーム	小出・山崎 ABC	小野・加納 SBC	熊山・田村 中央ホーム	野村・三好 豊中ホーム
1981年 第9回	石川・橋本 弥生クラブ	田中・北原 池田クラブ	井内・山下 和光クラブ	加藤・木村 吹田クラブ	山中・石崎 北清水クラブ	大山・若林 北清水クラ	山本・三好 ABC	井戸・黒川 中央ホーム
1982年 第10回	田中・北原 池田クラブ	大山・石崎 北清水クラブ	三好・陳 ABC	高橋・足立 池田クラブ	増田・氏家 東大阪FKC	山下・田中 和光クラブ	井上・田淵 和光クラブ	本田・佐多 東大阪FKC
1983年 第11回	小川・木原 三国クラブ	石崎・西村 北清水クラブ	坂本・足立 池田クラブ	田村・吉野 三国クラブ	下桝・金井 鶴の子BC	内田・村上 小路クラブ	石野・村上 クラブX	小武内・田村 ATM
1984年 第12回	石崎・西村 北清水クラブ	喜多・井上 飛羽会	村上・石野 クラブX	阿部・池尻 OWBC	山中・朝倉 北清水クラブ	高橋・原田 羽根クラブ	山野・石川 羽根・ATM	秋山・溝端 SBC
1985年 第13回	高田・祐谷 フリー	石崎・錦木 北清水クラブ	槙田・町田 中央ホーム	喜多・馬服 飛羽会	三浦・中村 ILLC	門田・藤沢 枚方クラブ	前川・前川 ウィングス	佐藤・佐藤 土曜クラブ
1986年 第14回	三浦・林田 ILLC	高橋・足立 池田クラブ	石崎・錦木 北清水クラブ	田中・朝倉 北清水クラブ	田村・黒岩 杉本クラブ	溝端・増田 SBT・どうぶつ	寺島・金山 中央ホーム	今村・山口 ATM
1987年 第15回	松本・小見山 羽根クラブ	井出・田村 三国クラブ	長崎・藤沢 枚方クラブ	足立・坂田 池田クラブ	藤村・川崎 なにわ・友鳩	宮本・今村 ATM	内田・小池 小路クラブ	大沢・田端 西クラブ
1988年 第16回	三浦・林田 ILLC	増田・菊地 どうぶつ・フリー	松本・小見山 羽根クラブ	大浴・池野 クラブX	中村・居谷 大浜クラブ	中元・梁川 ATM	俣野・坂東 大浜クラブ	阪井・高山 なにわイーグルス
1989年 第17回	松本・田中 HANEクラブ	坂本・田中 池田クラブ	宮本・中野 ATM	朝倉・錦木 北清水クラブ	豊倉・谷田 中央ホーム	三宅・前山 あすかクラブ	松本・西本 フェニックス	辻・藤田 中央ホーム
1990年 第18回	西・谷 フェニックス	増田・池野 クラブX	坂本・田中 池田クラブ	松岡・中村 大浜クラブ	津村・石田 なかよしパワ	安田・福原 関西クラブ	阪井・松井 なにわ・中央	小野・中園 SBT
1991年 第19回	西・岡崎 フェニックス	中野・宮本 ATM	坂本・田中 池田クラブ	朝倉・錦木 北清水クラブ	森川・佐藤 友鳩・豊中	仲井・吉田 チェリーズ	森山・原田 友鳩サークル	林・小草 コンドル
1992年 第20回	西・岡崎 フェニックス	坂本・平井 池田・ILLC	西・陳 TBC	朝倉・錦木 北清水クラブ	古東・和田 SOB	伊丹・竹村 FBC	谷川・岸本 コンドル	須山・大竹 サザン
1993年 第21回	坂本・平井 池田・ILLC	松本・宮本 HANE・ATM	植野・白川 中央ホーム	出石・萩原 ILLC	小林・松岡 ATM	武知・前中 ATM	東地・河内 中央ホーム	松井・岸本 和光クラブ
1994年 第22回	坂本・平井 池田・ILLC	田中・上地 池田クラブ	佐野・藤田 サザン・豊中	平岡・和田 SOB	石山・真本 枚方殿一クラブ	重信・濱田 大浜クラブ	生田・和仁 枚方殿一クラブ	藤木・大西 枚方殿一クラブ
1995年 第23回	松井・福田 北清水クラブ	宮本・杉田 ATM	鍋良・福島 なかよしパワ	田中・上地 池田クラブ	瀬藤・池田 フェニックス	張・佐海 小路クラブ	吉村・永谷 Yクラブ	有本・宮風 MAICCA
1996年 第24回	利川・南星 なかよしパワ	神谷・保田 HANE・大浜	西・辻木 フェニックス	横井・杉田 ATM	坂田・松井 北清水クラブ	市川・跡治 ラ・センティア	松浦・谷口 枚方殿一クラブ	福元・田村 HANEクラブ

大阪社会人選手権大会

	L D 30				L D 40			
	優 勝	準優勝	3 位	3 位	優 勝	準優勝	3 位	3 位
1973年 第1回								
1974年 第2回								
1975年 第3回								
1976年 第4回								
1977年 第5回								
1978年 第6回								
1979年 第7回								
1980年 第8回								
1981年 第9回								
1982年 第10回								
1983年 第11回	小野・田村 SBC	堀・柴山 あすかクラブ	吉野・喜多 大浜クラブ					
1984年 第12回	小野・田村 SBC	松波・荒川 SBC	柴山・桑原 あすかクラブ	堀・妹尾 あすかクラブ				
1985年 第13回								
1986年 第14回	松波・荒川 SBC	三宅・堀 あすかクラブ	喜多・山崎 大浜クラブ					
1987年 第15回	前山・堀 あすかクラブ	三宅・上辻 あすかクラブ	俣野・喜多 大浜クラブ	奥田・福原 大浜クラブ				
1988年 第16回	喜多・井上 飛羽会	田村・藤村 ATM・なにわ	仁木・山下 チェリーズ					
1989年 第17回								
1990年 第18回								
1991年 第19回	小野・中園 SBT	喜多・井上 飛羽会	吉国・中野 コンドル					
1992年 第20回	喜多・井上 飛羽会	小野・中園 SBT	吉国・中野 コンドル	上辻・山田 HANE・三国				
1993年 第21回	斎藤・山田 中央・三国	喜多・井上 飛羽会	小野・中園 SBT	富士川・岩城 ウイングス・友鳩				
1994年 第22回	斎藤・松井 中央ホーム	富士川・岩城 ウイングス・友鳩	居上・田村 AMT		宮崎・原田 中之島クラブ	小野・中園 SBT	松井・笹尾 なでしこ	
1995年 第23回	永野・吉国 コンドル	松井・林 コンドル	上辻・田村 HANE・ATM		宮崎・原田 中之島クラブ	片谷・松井 中之島クラブ	若松・俣野 大浜クラブ	
1996年 第24回	真本・里口 枚方殿一クラブ	喜多・井上 飛羽会	植野・榎本 中央・なかよし	宮風・原口 中之島クラブ	宮崎・原口 中之島クラブ	小野・広内 SBT	小島・仲里 SBT	

大阪府家庭婦人
バドミントン連盟

◆ 祝辞 ◆



祝　辞

大阪府家庭婦人バドミントン連盟
会　長　嶋　　久雄

戦後、廃墟と虚脱のなかから、わが国が、復興の途につこうとしている、昭和２２年、先覚者のご努力によって、日本バドミントン協会に加盟し、石渡氏を初代会長として、活動拠点を大阪ＹＭＣＡ体育部を中心として、創立されました。

爾来、実業団、教職員、社会人、家婦連、小中高大学体育連盟等の、技術向上、合わせて、府民の健康増進等を目的として、さまざまな事業を展開しつつ、国体を始め、色々な国際親善試合に至るまで、今日まで営々と、弛まず、貴重な歴史を刻まれ、めでたく５０周年の式典を迎えられますことは、誠に慶賀に耐えない喜びであります。

私自身、この協会の一員として、更に、役員として、当初より幅広い活動の一翼を担って参りました。２０世紀もあと僅かな今日、ある意味で戦後５０年の、激しかった歴史を振り返る時、スポーツを通して得た、友人知己の清々しい友情に、心から感謝を捧げます。

最後に、貴協会の一層の発展と躍進を祈って、大阪府家庭婦人バドミントン連盟会長としてお祝いの言葉と致します。

◆ 祝辞 ◆



あいさつ

大阪府家庭婦人バドミントン連盟
理事長　村井　広美

大阪バドミントン協会創立５０周年を、心よりお慶び申し上げます。協会傘下の一団体として日々活動をさせていただいております家婦連にとりましても、その母体であります大阪協会が、早５０年、半世紀という輝かしい年月を迎えますことは、この上ない喜びであり、また誇りであります。

昭和２２年という戦後間もない混迷の時期に、バドミントンというスポーツを愛好し、志を同じくする団体により協会が設立されましたことを思うとき、その歴史の重さは、言葉では言い尽くせない感動を覚えます。

時が経ち昭和５０年に、私共の連盟はやっと産声を上げました。理想は高くエネルギッシュな団体でありましたが、組織の運営にはまだまだ未熟で、進むべき方向とその方法を模索しておりました。その相談に乗っていただいたのが、当時大阪バドミントン協会の理事長としてご尽力されておりました青木昭二氏であり、直接親身になって指針を与え、連盟の規約作成等のご指導をいただいたのが、永年大阪府実業団連盟の理事長を努められておりました池田芳麻氏であります。このような種々の経緯のもと、大阪協会加盟団体として承認認可を申請するもすぐには認められず、昭和５４年になってやっと、大阪府家庭婦人バドミントン連盟として大阪バドミントン協会の正式認可を受けることができました。そして今日に至るまで、大阪協会庇護のもと成長を目指して参りました。

ところで現在の協会は、全日本級の大きな大会の運営をこなす一方で、各団体同士の横の繋がりが乏しくなっているのではないかと懸念されます。それは、団体の性質上やむを得ないとすませてしまうことの出来ない問題と考えます。それぞれの団体がそれぞれの特質を生かし、持ちつ持たれつ、担った役割を果たして行く、そしてその力を全体として有意義に総合して行けるなら、５０年という礎の上にさらに強固な協会の未来が広がるに違いありません。本来の目的である技術の向上と、底辺を広げ、あるいはジュニアを育成するという面は、決して相反するものではない筈と考えます。

微力ながら家庭婦人連盟も、できる範囲の協力を惜しむものではありません。登録人数も１，３００名を越えました。平日に行動できる利点もあります。また年間大会に加え、国際親善大会も第３回を迎えようとしています。これら大会の運営等を通じて、内部的にも充実した団体として発展して行くことが、ひいては協会への貢献に繋がると信じ努力をして参る所存です。そして大阪協会が、私達の大阪バドミントン協会が、益々立派な団体として成長発展し、大阪のみならず日本の、さらに世界のバドミントンの向上に役立って行けるよう、心から願い、期待を致します。

あ ゆ み（沿革）

昭和49年７月　第１回大阪府家庭婦人バドミントン親睦会開催（現個人戦）
　主催　東大阪市バドミントン協会
　主催　東大阪ミセスバドミントンクラブ
この大会が家婦連誕生のきっかけとなる。
10月　第１回関西家庭婦人招待親善バドミントン大会
　（現西日本バドミントン大会）
　主催　東大阪市
　主管　東大阪市バドミントン協会
昭和50年４月　任意団体大阪府家庭婦人バドミントン連盟結成
　初代会長　村上平一郎　　理事長　黒田勝之
　登録13団体　112名
７月　第２回大阪府家庭婦人バドミントン大会（現個人戦）
合同練習会開催
全日本家庭婦人バドミントン大会選手派遣（任意大会）
昭和51年　第４回全日本家庭婦人バドミントン大会（任意大会）主管の準備委員会設置
大阪バドミントン協会加盟団体の承認認可の働きは実らず、大阪社会人バドミントン連盟への加盟を勧められる。
昭和52年３月　第１回団体リーグ戦開催
11月　第４回全日本家庭婦人バドミントン大会主管（任意大会）
昭和53年３月　地域に依るブロック制を採用、４ブロックに分割
　（北摂、北河内、中河内、泉南泉北）
第１回ブロック対抗戦開催
４月　大阪社会人バドミントン連盟家庭婦人部会発足
大阪バドミントン協会傘下となる。　会長　嶋　久雄　　委員長　村井広美
昭和54年４月　大阪府家庭婦人バドミントン連盟として、大阪バドミントン協会正式認可
　二代会長　嶋　久雄　　理事長　村井広美
昭和55年10月　第７回関西家庭婦人バドミントン大会開催、これより連盟主催で行う。
　（現西日本大会）第６回までは東大阪市主催
昭和56年４月　４ブロックから６ブロックに再編する。
　（豊能、三島、北河内、中河内、泉南泉北、市内）
昭和58年３月　大阪府実業団バドミントン連盟との役員親善大会開始
４月　６ブロックから７ブロックに再編する。
　（豊能、三島、北河内、中河内、泉南泉北、市内、南河内）
10月　第10回西日本家庭婦人バドミントン大会開催
　（関西家庭婦人バドミントン大会を改称）
創立10周年記念大会および記念祝賀会　於　大阪共済会館
平成元年８月　第７回全日本家庭婦人バドミントン競技大会主管
　（都道府県・クラブ対抗）
　☆参加数　36都道府県より　67チーム　545名

平成３年９月	◎登録者数　1,000名突破
平成４年３月	「連盟だより」第１号発刊
平成４年４月	創立20周年記念実行委員会発足
平成５年10月	連盟創立20周年記念
	第20回西日本家庭婦人バドミントン大会・記念祝賀会開催　於　府立体育会館
平成６年４月	西日本家庭婦人バドミントン大会を日本家庭婦人バドミントン連盟に移管
10月	第21回西日本家庭婦人バドミントン大会を主管
平成７年８月	第13回全日本家庭婦人バドミントン競技大会都道府県対抗戦　初優勝
10月	国際親善婦人バドミントン大会　’95・記念祝賀会開催　於　府立体育会館
平成８年７月	第14回全日本家庭婦人バドミントン競技大会都道府県対抗戦　連覇
10月	国際親善婦人バドミントン大会　’96開催　於　府立体育会館
平成９年７月	第15回全日本家庭婦人バドミントン競技大会都道府県対抗戦　三連覇
10月	国際親善婦人バドミントン大会 ’97開催　於　府立体育会館

連盟主催　年間事業

大阪府家庭婦人バドミントン連盟

	事　業　名	種　目
4月	総会	
5月	全日本家庭婦人バドミントン競技大会 （クラブ対抗）大阪府予選会	クラブ対抗戦
5月～6月	前期団体リーグ戦	1～20部　団体戦
7月	全日本家庭婦人バドミントン競技大会 結団式	都道府県対抗 クラブ対抗
8月	第3種A級公認審判員資格検定会	
9月	個人戦	A. B. C. D ランク別 ダブルス個人戦
10月	国際親善婦人バドミントン大会	団体戦
11月～12月	後期団体リーグ戦	1～20部　団体戦
3月	ブロック対抗戦	ブロック対抗戦

栄光の過程

大阪府家庭婦人バドミントン大会　個人戦

回数	年月日	会場	登録人数 参加人数	ランク	1位	2位	3位
第1回	49.7.16 (火)	東大阪女子 高等学校 体育館	末登制 60名	A	(高嶺) 江原・池田	(M.B.C) 村井・野崎	(M.B.C) 岩上・溜
				B	(東大阪M.B.C) 林田・真田	(M.B.C) 青野・岸本	(高嶺) 中村・岡本
				C	(高嶺) 瀬野・青木	(M.B.C) 今井・室井	(高嶺) 三宅・妹尾
第2回	50.7.13 (日)	東大阪市立 中央体育館	141名 92名	A	(高嶺) 江原・池田	(M.B.C) 村井・岩上	(桜ケ丘) 大原・坂口
				B	(豊中) 宮本・田子島	(M.B.C) 小笠原・北田	(M.B.C) 西野・青野
				C	(豊中) 渡井・木村	(M.B.C) 合田・佐々木	(門真) 上田・渥美
				D	(M.B.C) 大谷・高塚	(M.B.C) 春木・堀内	(守口) 中田・宮崎
第3回	51.6.7 (月)	松下電器 枚方体育館	191名 136名	A	(桜ケ丘) 池田・御前	(M.B.C) 村井・岩上	(豊中) 上辻・田子島屋
				B	(守口) 宮崎・久保	(吹田) 阿波・寺田	(金剛) 森田・白山
				C	(枚方・M.B.C) 酒巻・青野	(守口) 小池・岸	(高嶺) 福留・青木
				D	(寝屋川) 黒田・利岡	(寝屋川) 左近・谷	(守口) 山本・瀬川
第4回	52.6.14 (火)	大阪市立 東淀川体育館	322名 162名	A	(桜ケ丘) 小林・廣瀬	(桜ケ丘) 池田・御前	(桜ケ丘) 坂口・今泉
				B	(富田林) 石井・森田	(吹田) 中谷・服部	(吹田) 木村・長沢
				C	(守口) 木村・山本	(門真) 鈴木・小柳	(高嶺) 青木・中村
				D	(池田) 須崎・木本	(池田) 田中・畑中	(守口) 牧野・玉田
第5回	53.6.5 (月) 53.6.9 (金)	大阪市立 東淀川体育館	406名 202名	A	(桜ケ丘) 池田・御前	(M.B.C) 村井・諏訪	(吹田ミセス) 木村・加藤
				B	(池田五月) 山崎・須崎	(M.B.C) 西野・青野	(寝屋川) 高橋・日下
				C	(寝屋川) 浜口・西川	(熊取) 興膳・桂	(守口) 岸本・文野
				D	(守口) 瀬川・林	(門真) 上田・野間	(守口) 森・飯田
第6回	54.9.12 (水) 54.9.14 (金)	大阪市 中央体育館	410名 266名	A	(桜ケ丘) 池田・御前	(東大阪M.B.C) 村井・諏訪	(東大阪M.B.C) 西野・児玉
				B	(桜ケ丘) 堂尾・柴田	(豊中シスターズ) 杉原・杉山	(寝屋川) 高橋・柳井
				C	(泉佐野ポピーズ) 畑中・多田	(高嶺) 田中・藤田	(高嶺) 原・青木
				D	(泉ケ丘) 飯端・花輪	(熊取) 木村・角	(K.S.W) 西・猪
第7回	55.9.12 (金) 55.9.18 (木) 55.9.26 (金)	大阪市立 東淀川体育館	538名 298名	A	(東大阪M.B.C) 村井・諏訪	(清水) 大屋・原田	(桜ケ丘) 堂尾・金谷
				B	(寝屋川) 柳井・利岡	(羽曳野) 石崎・辻本	(泉ケ丘・泉佐野ポピーズ) 木下・畑中
				C	(泉ケ丘) 永浜・飯端	(羽曳野) 桑原・堀	(茨木) 相沢・森
				初	(摂津) 今井・新谷	(TOKIWA) 松波・内藤	(神津) 畑中・山本

回数	年月日	会場	登録人数 参加人数	ランク	1位	2位	3位
第8回	56.9.14 (月) 56.9.22 (火) 56.9.25 (金)	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館	655名 338名	A	(桜ケ丘) 坂口・池田	(東大阪M.B.C) 村井・西野	(清水) 原田・正木
				B	(枚方シャトルズ) 安田・山上	(門真) 上田・山中	(泉ケ丘) (高嶺) 永浜・飯端 原・高松
				C1	(茨木市) 森・市川	(吹田ミセス) 松本・結城	(摂津) (桜ケ丘) 菅原・林 山村・井上
				C2	(羽曳野たちばな) 小林・嘉藤	(泉佐野) 蔵所・奥野	(桜ケ丘) (羽曳野レインボー) 田戸・松浦 北村・宮内
				初	(泉ケ丘) 有木・杉山	(高嶺) 川上・内海	(大阪フレンドリー) (吹田ミセス) 足立・木下 魚谷・大同
第9回	57.9.1 (水) 57.9.3 (金) 57.9.28 (火)	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館	759名 386名	A	(桜ケ丘) 池田・廣瀬	(清水) 原田・正木	(桜ケ丘) 堂尾・金谷
				B	(大阪フレンドリー) 飯山・渡辺	(柏原ミドルズ) 愛葉・藤本	(八尾) (桜ケ丘) 高野・金本 村田・田戸
				C1	(清水) 黒田・中浜	(八尾) 原田・宮崎	(富田林) (桜ケ丘) 杉本・高畠 新野・中本
				C2	(柏原ミドルズ) 井藤・船附	(熊取) 角・金津	(吹田ミセス) (神津) 高崎・三浦 田中・長田
				初1	(豊中シスターズ) 阿部・武市	(羽曳野たちばな) 村上・上松	(新千里) (神津) 宮本・筒井 浜田・森本
				初2	(紫陽) 小野沢・山本	(鶴山台) 中村・寺本	(摂津) (富田林) 八木・下川 塚原・山中
第10回	58.9.2 (金) 58.9.12 (月) 58.10.3 (月) 58.10.4 (火)	大阪市立 東淀川体育館 大阪府立 体育会館別館	817名 392名	A	(桜ケ丘) 池田・廣瀬	(東大阪M.B.C) 村井・西野	(大阪フレンドリー) 飯山・渡辺
				B	(交野) 橋本・西澤	(高嶺) 妹尾・藤田	(東大阪M.B.C) (柏原ミドルズ) 村上・早稲田 福島・山谷
				C1	(泉ケ丘) 歌野・板野	(八尾) 片谷・木田	(羽曳野レインボー) (守口東部) 桑野・岡 池山・吉村
				C2	(河内長野) 藤田・北田	(鶴山台) 岸本・水田	(柏原ミドルズ) (茨木) 辻野・国宝 綿瀬・沢田
				C3	(泉ケ丘) 柴原・神保	(泉ケ丘) 有木・若松	(門真) (高嶺) 渥美・藤田 内海・伊川
				初	(登) 池田・大西	(鶴山台) 大屋・阿部	(東大阪M.B.C) (富田林) 山田・井元 南・松本
第11回	59.8.31 (金) 59.9.5 (水) 59.9.11 (火) 59.9.14 (金) 59.9.21 (金)	大阪市立 東淀川体育館 大阪市 中央体育館	845名 396名	A	(桜ケ丘) 池田・廣瀬	(東大阪M.B.C) 村井・西野	(清水) 大屋・中井
				B	(桜ケ丘) 飯田・上中	(豊中シスターズ) 出来・比良	(枚方シャトルズ) (大阪フレンドリー) 藤森・和田 水原・中村
				C1	(東大阪M.B.C) 森元・中島	(交野) 日笠・渡辺	(大阪フレンドリー) (神津) 小畑・山辺 梅木・森本
				C2	(東大阪M.B.C) 宇陀・向井	(大阪フレンドリー) 木村・奥坂	(豊中シスターズ) (寝屋川) 藤井・武市 西川・中川
				C3	(登) 山中・池田	(桜ケ丘) 中川・橘	(富田林) (弥生) 石川・桑田 房野・古賀
				初	(高嶺) 津名・藤井	(河内長野) 西川・湊谷	(ささゆり) (泉北レディース) 鍋本・荒木 大井・中廣
第12回	60.9.2 (月) 60.9.3 (火) 60.9.17 (火) 60.9.19 (木) 60.9.20 (金)	大阪市立 東淀川体育館 大阪市 中央体育館	812名 374名	A	(桜ケ丘) 御前・池田	(枚方シャトルズ) 大西・和田	(桜ケ丘) 坂口・上中
				B	(清水) 山本・中浜	(泉ケ丘) 香月・花木	(柏原ミドルズ) (八尾) 井藤・西 宮崎・原田
				C1	(熊取) 本多・土肥	(東大阪M.B.C) 井元・山田	(池田) (鶴山台) 妹尾・尾上 土井原・阿部
				C2	(茨木) 稲葉・北川	(枚方フライデー) 清水・平井	(池田) (吹田ミセス) 田嶋・古永 大同・浦瀬
				C3	(八尾) 羽田・松井	(鶴山台) 大阪・奥田	(高嶺) (茨木) 山田・藤井 池浦・前田
				初	(高嶺) 高木・加納	(柏原ミドルズ) 後藤・西村	(柏原) (東大阪F.K.C) 小川・柏原 上野・西村

回数	年月日	会場	登録人数 参加人数	ランク	1位	2位	3位
第13回	61.9.12（金） 61.9.16（火） 61.9.18（木） 61.9.24（水） 61.9.26（金）	大阪市立 東淀川体育館	847名 388名	A	（大阪フレンドリー） 飯山・大塚	（桜ケ丘） 御前・北原	（清水） 廣瀬・西村
				B	（枚方シャトルズ） 尾崎・小川	（泉北レディース・弥生） 戸村・古賀	（吹田ミセス） 前田・松本
							（摂津） 渡辺・脇田
				C1	（高槻） 菅野・徳永	（豊中シスターズ・ときわ台） 石田・原	（鶴山台） 寺本・松下
							（柏原ミドルズ） 中山・春木
				C2	（弥生） 松川・斉藤	（つくも） 古市・滝田	（交野） 花田・橋本
							（河内長野） 田原・正木
				C3	（河内長野） 西川・大矢	（池田） 松平・牛久	（枚方フライデー） 岡部・江本
							（茨木） 三毛・冨田
				初	（如月） 山下・松田	（高槻） 吉良・武田	（鶴山台） 牧・松月
							（如月） 藤田・三田
第14回	62.9.7（月） 62.9.10（木） 62.9.14（月） 62.9.22（火） 62.9.28（月）	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館	901名 462名	A	（フレンドリー） 飯山・大塚	（清水） 廣瀬・西村	（東大阪M.B.C） 西野・森元
				B	（寝屋川） 佐藤・中川	（高槻） 藤井・徳永	（高槻） 内海・池田
							（フレンドリー） 山辺・前川
				C1	（摂津） 八木・古川	（泉ケ丘） 小林・高木	（豊中シスターズ） 山本・野村
							（羽曳野たちばな） 田中由・田中
				C2	（泉北レディース） 川越・中廣	（河内長野） 藤森・日笠	（東大阪F.K.C） 山口・上野
							（新家） 葛西・村上
				C3	（富田林） 南・渡辺	（泉北レディース） 筒井・井口	（吹田ミセス） 和田・勝見
							（高槻） 高木・宮里
				初	（弥生） 広渡・橋本	（桜ケ丘） 中村・山本	（四條畷） 光井・宮田
							（枚方シャトルズ） 百瀬・河北
第15回	63.8.30（火） 63.9.9（金） 63.9.13（火） 63.9.22（木） 63.10.6（木）	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館	931名 460名	A	（フレンドリー） 飯山・大塚	（東大阪M.B.C） 西野・森元	（桜ケ丘） 堂尾・上中
				B	（吹田ミセス） 沢田・勝見	（高槻） 山田・菅野	（茨木） 森隆・安達
							（フレンドリー） 山本・尾田
				C1	（清水） 早坂・松本	（鶴山台） 牧・松月	（東大阪M.B.C） 本橋・福田
							（如月） 岡田・多田
				C2	（枚方シャトルズ） 山岡・武藤	（枚方フライデー） 河井・馬越	（高槻） 吉良・武田
							（如月） 山路・山添
				C3	（フレンドリー） 田中・宇川	（寝屋川） 久川・山本	（八尾） 若松・藤崎
							（柏原ミドルズ） 田中・西森
				初	（つくも） 世古・藤原	（東大阪B.B.C） 椿本・堀本	（泉ケ丘） 白尾・川端
							（松原） 吉田・木内
第16回	元.6.14（水） 元.6.16（金） 元.6.23（金） 元.6.27（火） 元.7.3（月）	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館 守口市民 体育館	959名 456名	A	（フレンドリー） 飯山・大塚	（清水） 廣瀬・西村	（フレンドリー） 山本・井上
				B1	（門真） 松岡・鷲見	（フレンドリー） 田中・平石	（茨木） 田所・高橋
							（鶴山台） 寺本・松下
				B2	（豊中シスターズ） 山崎・西村	（枚方フライデー） 平井・馬越	（河内長野） 正木・田原
							（清水） 兼田・大木
				C1	（吹田ミセス） 土屋・寺部	（みはら） 和田・北田	（八尾） 大亀・薦田
							（弥生） 合田・森島
				C2	（泉ケ丘） 服部・前田	（東大阪B.B.C） 八重尾・甲田	（せっつ） 寺坂・松政
							（狭山） 村上・西木
				C3	（フレンドリー） 本田・中山	（せっつ・島本AOC） 増田・宮崎	（ときわ台） 片上・明石
							（せっつ） 宮本・郡司
				初	（わかば） 河本・松下	（萩） 奥田・森	（四條畷） 宮谷・田沢
							（わかば） 萩原・藤井

回数	年月日	会場	登録人数 参加人数	ランク	1位	2位	3位
第17回	2.9.14 (火) 2.9.13 (木) 2.9.25 (火) 2.9.29 (土) 2.10.16 (火) 2.10.20 (土)	大阪市立 東淀川体育館 守口市民 体育館	992名 492名	A	(清水) 廣嶺・西村	(フレンドリー) 山本・井上	(吹田ミセス) 沢田・勝見
				B1	(桜ケ丘) 西田・常井	(たちばな) 田中・田中	(神津) (泉ケ丘) 梅木・森本 歌野・高木
				B2	(吹田ミセス) 寺部・土屋	(熊取) 桂・金津	(フレンドリー) (河内長野) 宇川・轟 藤森・西川
				C1	(清水) 西岡・木下	(桜ケ丘) 江上・中村	(吹田ミセス) (平野) 川本・川崎 鎌谷・吉村
				C2	(清水) 太田・山岸	(吹田ミセス) 長澤・田頭	(泉ケ丘) (寝屋川) 大北・斉藤 今岡・崎山
				C3	(狭山) 末森・橋田	(泉ケ丘) 広海・宮村	(ひまわり) (吹田ミセス) 大川・土岐 小牟田・馬淵
				初	(鶴山台) 梅野・中塚	(八尾) 佐々木・鶴田	(寝屋川) (四条畷) 高橋・柏尾 高巣・小西
第18回	3.9.5 (木) 3.9.10 (火) 3.9.20 (金) 3.9.25 (水) 3.9.30 (月)	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館 守口市民 体育館	1,009名 544名	A	(清水) 木田・石崎	(清水) 廣瀬・西村	(フレンドリー) 山本・井上
				B1	(茨木) 池浦・石田	(東大阪M.B.C) 久保田・川嶋	(清水) (泉ケ丘) 松本・諫山 広海・宮村
				B2	(弥生) 斎藤・松川	(寝屋川) 山本・吉川	(清水) (茨木) 木下・西岡 岩西・神田
				C1	(泉ケ丘) 新見・松本	(池田) 福田・田中	(清水) (たちばな) 土肥・井上 井田・冨田
				C2	(吹田ミセス) 菅・鈴木	(フレンドリー) 植田・置田	(つくも) (レインボー) 深田・住谷 本田・平井
				C3	(たちばな) 松内・足立	(茨木) 山科・早田	(寝屋川) (弥生) 新田・川内田 森田・成尾
				初	(しらさぎ) 中谷・奥中	(東大阪M.B.C) 宮田・小吉	(寝屋川) (枚方フライデー) 原・山田 山脇・清水
第19回	4.9.2 (水) 4.9.7 (月) 4.9.16 (水) 4.9.25 (金) 4.9.29 (火)	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館 守口市民 体育館	1,097名 612名	A	(泉ケ丘) 弓矢・西林	(清水) 廣瀬・西村	(東大阪M.B.C) 森元・松田
				B1	(豊中シスターズ) 梶谷・広瀬	(富田林・河内長野) 渡辺・大矢	(たちばな) (池田) 井田・足立 福田・田中
				B2	(清水) 兼田・井上	(フレンドリー) 坂本・本田	(桜ケ丘) (茨木) 宮崎・金原 綿瀬・北川
				C1	(泉ケ丘) 斉藤・桜井	(グリーン) 林・木村	(清水) (門真) 清水・松居 安川・清水
				C2	(やよい会) 音峰・垣田	(わかば) 尾崎・河本	(高嶺) (叡仙台) 日野・岡本 中村・高橋
				C3	(せっつ) 金原・藤本	(泉ケ丘) 末広・浦田	(如月) (松原) 三田・小田 木内・佐々木
				初	(泉ケ丘) 中井・須賀	(たちばな) 柯・金子	(ポピンズ) (ポピンズ) 長谷川・堀 久保・佐々木
第20回	5.8.31 (火) 5.9.2 (木) 5.9.9 (木) 5.9.14 (火) 5.10.5 (火)	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館	1,050名 650名	A	(泉ケ丘) 弓矢・西林	(清水) 矢野・木田	(桜ケ丘) 宗雪・梅原
				B1	(わかば) 中谷・尾崎	(せっつ) 藤本・金原	(やよい会) (茨木) 内田・角藤 田中・砂川
				B2	(泉ケ丘) 松本・新見	(みはら) 北田・小森	(高嶺) (フレンドリー) 古川・武田 中山・山本
				C1	(高嶺) 中村・清水	(茨木) 神田・永田	(河内長野) (枚方シャトルズ) 岸田・新開 藤恵・酒井
				C2	(やよい会) 神原・古賀	(弥生) 川上・橋本	(たちばな) (四条畷) 服部・山川 村上・宮田
				C3	(高嶺) 糀・亀田	(八尾) 佐々木・鶴田	(やよい会) (茨木) 尾形・百野 向本・長福
				D1	(高嶺) 中島・富田	(豊中シスターズ) 宮原・大野	(桜ケ丘) (つくも) 青山・林 小野坂・前原
				D2	(いちご) 内田・大西	(いちご) 白井・保代	(ひまわり) (守口東部) 豊嶋・鈴鹿 橋本・岡田

回数	年月日	会場	登録人数 参加人数	ランク	1位	2位	3位
第21回	6.9.1 (木) 6.9.6 (火) 6.9.12 (月) 6.9.26 (月) 6.9.28 (水)	大阪市 中央体育館 大阪市立 東淀川体育館	1,203名 626名	A	(東大阪M.B.C) 松田・松本	(桜ケ丘) 北原・田中	(清水) 木田・矢野
				B1	(高槻) 糀・清水	(やよい会) 神原・古賀	(東大阪B.B.C) 甲田・枡本 (泉ケ丘) 小林・井口
				B2	(高槻) 中村・森永	(茨木) 永田・神田	(グリーン) 林・森川 (松原) 木内・元井
				C1	(せっつ) 高橋・尾方	(池田) 田中・福井	(桜ケ丘) 青山・林 (豊中シスターズ) 山路・竹本
				C2	(鶴山台) 大原・榎本	(狭山) 谷内・芝本	(やよい会) 三原・山川 (寝屋川) 柏尾・原
				C3	(四条畷) 北井・高巣	(東大阪M.B.C) 宮田・鈴木	(河内長野) 奥・谷 (やよい会) 佐藤・中井
				D1	(守口東部) 平井・伊関	(四條畷) 宮本・山谷	(スイトピー) 林田・安福 (豊中ファミリー) 松井・臼井
				D2	(交野) 古木・松下	(門真) 千葉・樋浦	(東大阪B.B.C) 安部・辻 (弥生) 奥村・金児
第22回	7.9.1 (金) 7.9.6 (水) 7.9.12 (火) 7.9.21 (木) 7.9.26 (火)	大阪市立 東淀川体育館 東大阪市立 総合体育館	1,214名 692名	A	(門真) 小原・植田	(桜ケ丘) 北原・梅原	(東大阪M.B.C) 森元・松田
				B1	(高槻) 糀・亀田	(松原) 橋本・松井	(吹田ミセス) 小牟田・上西 (清水) 兼田・松宮
				B2	(せっつ) 高橋・尾方	(せっつ) 寺坂・増田	(泉ケ丘) 島田・桜井 (やよい会) 音峰・垣田
				C1	(泉ケ丘) 原田-岩垣	(熊取) 片岡・篠崎	(しらさぎ) 津田・竹森 (吹田ミセス) 後藤・土井
				C2	(富田林) 藤田・西永	(熊取) 堀尾・重永	(スイトピー) 林田・安福 (たちばな) 藤井・川端
				C3	(守口東部) 伊関・平井	(四條畷) 古賀・横山	(高槻) 原・渡辺 (吹田ミセス) 西野・原田
				D1	(茨木) 飯田・藤本	(鴨谷) 塚本・津賀	(寝屋川) 山田・宮腰 (東大阪B.B.C) 森本・古田
				D2	(キャロット) 中尾・高橋	(鴨谷) 山北・林口	(吹田ミセス) 江村・山内 (池田) 坊ケ内・松村
第23回	8.9.2 (月) 8.9.6 (金) 8.9.11 (水) 8.9.20 (金) 8.9.24 (火)	大阪市立 東淀川体育館 東大阪市立 総合体育館	1,292名 680名	A	(東大阪M.B.C) 松本・竹田	(桜ケ丘) 北原・梅木	(門真) 小原・植田
				B1	(吹田ミセス) 北間・吉田	(交野) 荒木・松下	(高槻) 小田・岡本 (東大阪M.B.C) 宮田・鈴木
				B2	(東大阪M.B.C) 米倉・槙村	(桜ケ丘) 青山・林	(四條畷) 林・杉野 (寝屋川) 福島・柏尾
				C1	(八尾) 桐原・石原	(はびきの) 新熊・新熊	(鶴山台) 近藤・阪口 (塚本) 三木・北野
				C2	(八尾) 花岡・小野	(高槻) 中嶋・大原	(弥生) 松井・金児 (守日東部) 嶋・山田
				C3	(みはら) 和田・川本	(八尾) 音野・三本	(キャロット) 加當・竹本 (門真) 樋浦・神原
				D1	(清水) 森崎・是澤	(WIN) 赤松・吉川	(島本AOC) 須田・高木 (寝屋川) 片岡・白川
				D2	(寝屋川) 池田・高野	(熊取) 西川・勝田	(八尾) 石丸・下田代 (WIN) 堀江・神野

団体リーグ戦

大阪府家庭婦人バドミントン大会

年月日	部	1位	2位	3位
52. 3. 2	1	桜ケ丘	東大阪M. B. C	守口
	2	岸和田バド友の会	寝屋川	清水
52. 9. 6	1	桜ケ丘	門真	東大阪M. B. C (A)
	2	池田五月	豊中 (A)	東大阪M. B. C (B)
53. 9. 18 21 29	1	東大阪M. B. C (A)	桜ケ丘 (A)	ボンレス
	2	いづみ	清水 (A)	池田五月 (A)
	3	寝屋川	桜ケ丘 (B)	吹田ミセス
	4	泉ケ丘	鶴山台	池田五月 (B)
54年度前期 54. 6. 4 16 28	1	桜ケ丘 (A)	東大阪M. B. C (A)	門真 (A)
	2	桜ケ丘 (B)	池田五月	寝屋川
	3	泉ケ丘 (A)	門真 (B)	高嶺 (B)
	4	桜ケ丘 (C)	泉ケ丘 (B)	熊取
54年度後期 54. 11. 12 28 12. 3	1	桜ケ丘 (A)	東大阪M. B. C (A)	東大阪M. B. C (B)
	2	高嶺 (A)	泉ケ丘 (A)	守口 (A)
	3	高嶺 (B)	守口 (B)	門真 (B)
	4	泉佐野ポピーズ	泉ケ丘 (B)	熊取
	5	藤井寺	茨木長月会	B. B. C(ブルーバード)
55年度前期 55. 6. 5 13 24	1	東大阪M. B. C (A)	桜ケ丘 (A)	吹田ミセス (A)
	2	寝屋川	泉ケ丘 (A)	清水 (A)
	3	桜ケ丘 (C)	泉ケ丘 (B)	泉佐野ポピーズ
	4	吹田ミセス	神津 (A)	茨木
	5	八尾	柏原 (A)	香里 (A)
	6	和泉 (B)	富田林 (C)	磐手
55年度後期 55. 11. 4 7 18	1	桜ケ丘 (A)	東大阪M. B. C (A)	高嶺
	2	泉ケ丘 (A)	桜ケ丘 (B)	清水 (A)
	3	富田林 (A)	泉佐野ポピーズ (A)	門真 (B)
	4	八尾	B. B. C	茨木
	5	K. S. W	神津 (A)	香里 (A)
	6	磐手 (A)	摂津	河内長野 (A)
	7	羽曳野 (B)	泉佐野ポピーズ (B)	河内長野 (B)
56年度前期 56. 6. 5 12 16	1	桜ケ丘 (A)	東大阪M. B. C (A)	高嶺 (A)
	2	清水 (A)	池田五月	泉ケ丘 (A)
	3	泉佐野	吹田ミセス (B)	八尾
	4	茨木	東大阪B. B. C (A)	熊取
	5	枚方シャトルズ (A)	守口東部 (A)	柏原ミドルズ
	6	磐手 (B)	守口東部 (B)	羽曳野たちばな
	7	大阪フレンドリー	吹田ミセス (C)	高嶺 (B)
56年度後期 56. 11. 9 10 24	1	桜ケ丘 (A)	東大阪M. B. C (A)	清水 (A)
	2	池田五月	泉ケ丘 (A)	桜ケ丘 (B)
	3	八尾	茨木 (A)	摂津 (A)
	4	熊取	枚方シャトルズ (A)	東大阪B. B. C (A)
	5	柏原ミドルズ	磐手	羽曳野レインボー
	6	羽曳野たちばな (A)	吹田ミセス (C)	大阪フレンドリー (A)
	7	豊中シスターズ (B)	交野	羽曳野たちばな (B)
57年度前期 57. 6. 3 7 22 28	1	桜ケ丘 (A)	東大阪M. B. C (A)	清水 (A)
	2	茨木 (A)	桜ケ丘 (B)	泉ケ丘 (A)
	3	熊取 (A)	枚方シャトルズ (A)	吹田ミセス (B)
	4	柏原ミドルズ (A)	神津	鶴山台
	5	大阪フレンドリー (A)	河内長野 (A)	羽曳野たちばな (A)
	6	豊中シスターズ (B)	茨木 (B)	交野 (A)
	7	豊中シスターズ (C)	枚方シャトルズ (C)	新丁里 (A)
	8	弥生	紫陽	河内長野 (B)

年月日	部	1位	2位	3位
57年度後期 57. 11. 5 9 25 12. 1	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	東大阪M.B.C(A)
	2	桜ケ丘(B)	八尾(A)	泉ケ丘(A)
	3	枚方シャトルズ(A)	柏原ミドルズ(A)	清水(B)
	4	大阪フレンドリー(A)	神津	登
	5	羽曳野たちばな(A)	豊中シスターズ(B)	河内長野(A)
	6	交野(A)	高嶺(B)	茨木(B)
	7	弥生	大阪フレンドリー(B)	泉南
	8	鶴山台(B)	河内長野(B)	紫陽(A)
	9	高嶺(C)	T.K	八尾(C)
58年度前期 58. 6. 3 8 22 28	1	桜ケ丘(A)	東大阪M.B.C(A)	門真(A)
	2	枚方シャトルズ(A)	泉ケ丘(A)	吹田ミセス(A)
	3	大阪フレンドリー(A)	柏原ミドルズ(A)	東大阪M.B.C(B)
	4	羽曳野たちばな(A)	神津	泉ケ丘(B)
	5	豊中シスターズ(B)	交野(A)	羽曳野レインボー
	6	弥生	枚方シャトルズ(B)	茨木(B)
	7	柏原ミドルズ(B)	八尾(B)	鶴山台(B)
	8	交野(B)	ささゆり(B)	T.K
	9	岸和田	清水(C)	I.L.S(A)
	10	泉北レディース	堺	東大阪B.B.C(B)
58年度後期 58. 11. 22 28 29 12. 6	1	桜ケ丘(A)	東大阪M.B.C(A)	清水(A)
	2	泉ケ丘(A)	寝屋川(A)	豊中シスターズ(A)
	3	羽曳野たちばな(A)	柏原ミドルズ(A)	熊取(A)
	4	豊中シスターズ(B)	神津	鶴山台(A)
	5	交野(A)	弥生	羽曳野レインボー
	6	茨木(B)	柏原ミドルズ(B)	枚方シャトルズ(B)
	7	鶴山台(B)	河内長野;(B)	八尾(B)
	8	T.K	高嶺(C)	寝屋川(B)
	9	泉北レディース	清水(C)	枚方シャトルズ(D)
	10	泉佐野(B)	ときわ台	摂津(C)
59年度前期 59. 5. 1 17 6. 25 7. 2 3 4	1	桜ケ丘(A)	東大阪M.B.C(A)	清水(A)
	2	大阪フレンドリー(A)	茨木(A)	豊中シスターズ(A)
	3	八尾(A)	柏原ミドルズ(A)	熊取(A)
	4	神津(A)	交野(A)	鶴山台(A)
	5	茨木(B)	弥生	河内長野(A)
	6	鶴山台(B)	枚方シャトルズ(B)	豊中シスターズ(C)
	7	ささゆり(A)	八尾(B)	大阪フレンドリー(B)
	8	泉北レディース	高嶺(C)	熊取(B)
	9	I.L.S	ときわ台	清水(C)
	10	土居	ささゆり(C)	神津(B)
	11	池田	大阪フレンドリー(C)	東大阪F.K.C
59年度後期 59. 10. 23 11. 1 5 15 21 26	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	東大阪M.B.C(A)
	2	豊中シスターズ(A)	大阪フレンドリー(A)	八尾(A)
	3	柏原ミドルズ(A)	豊中シスターズ(B)	神津(A)
	4	交野(A)	清水(B)	桜ケ丘(C)
	5	羽曳野レインボー	弥生	鶴山台(B)
	6	ささゆり(A)	枚方シャトルズ(B)	豊中シスターズ(C)
	7	泉北レディース(A)	八尾(B)	枚方シャトルズ(C)
	8	高嶺(C)	新千里	I.L.S
	9	富田林(B)	清水(C)	枚方シャトルズ(D)
	10	池田	神津(B)	大阪フレンドリー(C)
	11	枚方フライデー	堺	茨木(C)

年月日	部	1位	2位	3位
60年度前期 60. 5. 14 17 22 6. 3 18 26	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	東大阪M.B.C(A)
	2	柏原ミドルズ(A)	八尾(A)	大阪フレンドリー(A)
	3	熊取(A)	東大阪M.B.C(B)	吹田ミセス(B)
	4	清水(B)	鶴山台	茨木(B)
	5	弥生	枚方シャトルズ(B)	河内長野(A)
	6	泉北レディース(A)	八尾(B)	柏原ミドルズ(B)
	7	大阪フレンドリー(B)	新千里	高嶺(C)
	8	清水(C)	枚方シャトルズ(D)	交野(B)
	9	ときわ台(A)	池田	土居
	10	枚方フライデー	東大阪F.K.C	堺
	11	交野(C)	平野	羽曳野たちばな(C)
60年度後期 60. 10. 4 25 11. 15 26 29 12. 4	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	門真(A)
	2	大阪フレンドリー(A)	豊中シスターズ(A)	高嶺(A)
	3	吹田ミセス(B)	豊中シスターズ(B)	交野(A)
	4	清水(B)	茨木(B)	弥生
	5	泉北レディース(A)	東大阪M.B.C(C)	河内長野(A)
	6	八尾(B)	吹田ミセス(C)	大阪フレンドリー(B)
	7	高嶺(C)	清水(C)	T.K
	8	ときわ台(A)	寝屋川(B)	枚方シャトルズ(D)
	9	枚方フライデー	池田	土居
	10	堺	東大阪F.K.C	平野
	11	羽曳野たちばな(A)	神津(C)	羽曳野レインボー(B)
61年度前期 61. 5. 7 12 14 6. 3 12	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	大阪フレンドリー(A)
	2	吹田ミセス(A)	豊中シスターズ(A)	高嶺(A)
	3	清水(B)	豊中シスターズ(B)	神津(A)
	4	寝屋川(A)	弥生	泉北レディース(A)
	5	河内長野(A)	枚方シャトルズ(B)	高嶺(B)
	6	柏原ミドルズ(B)	大阪フレンドリー(B)	高嶺(C)
	7	ときわ台(A)	T.K	清水(C)
	8	枚方フライデー(A)	寝屋川(B)	熊取(B)
	9	東大阪F.K.C	平野(A)	池田
	10	つくも	如月(A)	羽曳野たちばな(C)
	11	如月(B)	枚方フライデー(B)	柏原ミドルズ(C)
61年度後期 61. 10. 21 24 11. 14 21 26 12. 1	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	枚方シャトルズ(A)
	2	泉ケ丘(A)	豊中シスターズ(A)	高嶺(A)
	3	寝屋川(A)	豊中シスターズ(B)	摂津(A)
	4	河内長野	弥生	泉北レディース
	5	柏原ミドルズ(B)	高嶺(B)	枚方シャトルズ(B)
	6	大阪フレンドリー(B)	東大阪M.B.C(C)	ときわ台(A)
	7	枚方フライデー(A)	摂津(B)	清水(C)
	8	榎屋川(B)	東大阪F.K.C	富田林(B)
	9	池田	平野(A)	つくも
	10	如月(A)	羽曳野たちばな(C)	枚方フライデー(B)
	11	鶴山台(B)	寝屋川(C)	塚本

年月日	部	1位	2位	3位
62年度前期 62. 5. 6 12 15 6. 16 22 29	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	フレンドリー(A)
	2	高嶺(A)	熊取(A)	羽曳野たちばな(A)
	3	河内長野	豊中シスターズ(B)	清水(B)
	4	鶴山台(A)	弥生(A)	泉北レディース(A)
	5	高嶺(B)	フレンドリー(B)	枚方シャトルズ(B)
	6	枚方フライデー(A)	ときわ台(A)	羽曳野たちばな(B)
	7	清水(C)	寝屋川(B)	吹田ミセス(C)
	8	富田林(B)	交野(B)	池田
	9	つくも	如月(A)	神津(B)
	10	鶴山台(B)	寝屋川(C)	如月(B)
	11	フレンドリー(C)	塚本	平野(B)
	12	新家	弥生(B)	I. S. B
62年度後期 62. 10. 26 11. 9 18 30 12. 3 7	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	門真(A)
	2	茨木(A)	寝屋川(A)	河内長野
	3	豊中シスターズ(A)	神津(A)	清水(B)
	4	弥生(A)	富田林(A)	摂津(A)
	5	フレンドリー(B)	高嶺(B)	泉ケ丘(B)
	6	ときわ台(A)	吹清水(C)	高嶺(C)
	7	寝屋川(B)	摂津(B)	泉南
	8	つくも	池田	東大阪F. K. C
	9	鶴山台(B)	神津(B)	如月(A)
	10	寝屋川(C)	枚方フライデー(B)	如月(B)
	11	新家	平野(B)	みはら
	12	泉ケ丘(C)	弥生(B)	I. S. B
63年度前期 63. 5. 13 17 27 30 6. 2 7	1	桜ケ丘(A)	門真(A)	清水(A)
	2	泉ケ丘(A)	豊中シスターズ(A)	茨木(A)
	3	交野(A)	鶴山台(A)	桜ケ丘(B)
	4	フレンドリー(B)	富田林(A)	茨木(B)
	5	高嶺(B)	泉ケ丘(B)	ときわ台(A)
	6	八尾(B)	寝屋川(B)	清水(C)
	7	つくも	せっつ(B)	富田林(B)
	8	鶴山台(B)	平野(A)	神津(B)
	9	枚方フライデー(B)	如月(B)	萩
	10	新家	フレンドリー(C)	グリーン(A)
	11	泉ケ丘(C)	弥生(B)	I. S. B(A)
	12	泉北レディース(B)	やよい会(A)	四条畷
63年度後期 63. 10. 27 11. 2 8 18 24 29	1	桜ケ丘(A)	清水(A)	東大阪M. B. C(A)
	2	茨木(A)	吹田ミセス(A)	交野(A)
	3	フレンドリー(B)	鶴山台(A)	弥生(A)
	4	茨木(B)	神津(A)	せっつ(A)
	5	ときわ台(A)	枚方フライデー(A)	泉ケ丘(B)
	6	つくも	寝屋川(B)	清水(C)
	7	せっつ(B)	鶴山台(B)	富田林(B)
	8	如月(A)	枚方フライデー(B)	池田
	9	新家	如月(B)	萩
	10	泉ケ丘(C)	フレンドリー(C)	グリーン(A)
	11	弥生(B)	泉北レディース(B)	I. S. B(A)
	12	四条畷(A)	やよい会(A)	やよい会(B)
	13	河内長野(B)	貝塚	たちばな

年月日	部	1位	2位	3位
平成元年度前期 1．4．20	1	桜ケ丘（A）	清水（A）	枚方シャトルズ（A）
	2	吹田ミセス（A）	茨木（A）	交野（A）
	3	河内長野（A）	鶴山台（A）	桜ケ丘（B）
	4	せっつ（A）	富田林（A）	神津（A）
24	5	枚方フライデー（A）	つくも（A）	東大阪B．B．C
28	6	清水（C）	せっつ（B）	寝屋川（B）
5．8	7	鶴山台（B）	如月（A）	たちばな（B）
18	8	平野（A）	池田	神津（B）
23	9	泉ケ丘（C）	フレンドリー（C）	寝屋川（C）
29	10	泉北レディース（B）	I．S．B（A）	ときわ台（B）
	11	四条畷（A）	やよい会（A）	やよい会（B）
	12	河内長野（B）	せっつ（C）	貝塚
	13	茨木（C）	つくも（B）	清水（D）
平成元年度後期 1．9．25	1	桜ケ丘（A）	フレンドリー（A）	清水（A）
	2	交野（A）	泉ケ丘（A）	茨木（A）
	3	清水（B）	茨木（B）	桜ケ丘（B）
	4	神津（A）	枚方フライデー（A）	熊取（A）
10．9	5	泉ケ丘（B）	八尾（B）	吹田ミセス（B）
18	6	桜ケ丘（C）	豊中シスターズ（C）	枚方シャトルズ（B）
30	7	吹田ミセス（C）	たちばな（B）	如月（A）
11．6	8	池田	泉ケ丘（C）	枚方フライデー（B）
14	9	フレンドリー（C）	泉北レディース（B）	萩（A）
24	10	弥生（B）	I．S．B（A）	四条畷（A）
	11	河内長野（B）	やよい会（A）	やよい会（B）
	12	茨木（C）	熊取（C）	島本AOC
	13	狭山（A）	清水（D）	つくも（B）
	14	鴨谷	四条畷（C）	狭山（B）
平成2年度前期 2．4．20	1	桜ケ丘（A）	門真（A）	清水（A）
	2	泉ケ丘（A）	高槻（A）	茨木（A）
	3	桜ケ丘（B）	たちばな（A）	神津（A）
	4	枚方フライデー（A）	鶴山台（A）	ときわ台（A）
25	5	泉北レディース（A）	つくも（A）	東大阪M．B．C（B）
27	6	清水（C）	枚方シャトルズ（B）	吹田ミセス（C）
5．2	7	池田	如月（A）	門真（B）
11	8	泉ケ丘（C）	交野（B）	フレンドリー（C）
14	9	萩（A）	泉北レディース（B）	如月（B）
30	10	みはら	I．S．B（A）	四条畷（A）
6．1	11	茨木（C）	やよい会（A）	やよい会（B）
11	12	狭山	わかば（A）	せっつ（C）
	13	清水（D）	つくも（B）	鴨谷
	14	ひまわり	八尾レディース	ポピンズ
平成2年度後期 2．11．6	1	桜ケ丘（A）	吹田ミセス（A）	東大阪M．B．C（A）
	2	清水（B）	茨木（A）	交野（A）
	3	神津（A）	桜ケ丘（B）	たちばな（A）
	4	寝屋川（A）	鶴山台（A）	泉北レディース（A）
9	5	清水（C）	つくも（A）	吹田ミセス（B）
16	6	池田	吹田ミセス（C）	枚方シャトルズ（B）
20	7	如月（A）	泉ケ丘（C）	平野（A）
27	8	神津（B）	熊取（B）	高槻（C）
29	9	弥生（B）	泉北レディース（B）	萩（A）
12．1	10	四条畷（A）	河内長野（B）	茨木（C）
5	11	狭山	やよい会（A）	塚本
	12	清水（D）	わかば（A）	せっつ（C）
	13	つくも（B）	鴨谷	ひまわり
	14	藤井寺	ポピンズ	四条畷（C）

年月日	部	1位	2位	3位
平成3年度前期 3．5．2 13 16 17 23 24 6．11 14	1	桜ケ丘（A）	東大阪M．B．C（A）	フレンドリー（A）
	2	泉ケ丘（A）	交野（A）	河内長野（A）
	3	桜ケ丘（B）	八尾（A）	弥生（A）
	4	寝屋川（A）	鶴山台（A）	清水（C）
	5	泉ケ丘（B）	池田	桜ケ丘（C）
	6	寝屋川（B）	如月（A）	吹田ミセス（C）
	7	たちばな（B）	平野（A）	泉ケ丘（C）
	8	弥生（B）	枚方シャトルズ（C）	フレンドリー（C）
	9	河内長野（B）	みはら（A）	四条畷（A）
	10	茨木（C）	狭山	やよい会（A）
	11	わかば（A）	やよい会（B）	清水（D）
	12	ひまわり	鴨谷	せっつ（C）
	13	四条畷（B）	松原（B）	吹田ミセス（D）
	14	しらさぎ	やよい会（C）	東大阪B．B．C（B）
平成3年度後期 3．10．31 11．6 13 20 22 27 28 12．3 6	1	清水（A）	東大阪M．B．C（A）	桜ケ丘（A）
	2	河内長野（A）	高嶺（A）	神津（A）
	3	桜ケ丘（B）	八尾（A）	たちばな（A）
	4	鶴山台（A）	ときわ台（A）	清水（C）
	5	東大阪B．B．C	池田	高嶺（B）
	6	たちばな（B）	吹田ミセス（C）	せっつ（B）
	7	泉ケ丘（C）	弥生（B）	平野（A）
	8	フレンドリー（C）	熊取（B）	枚方フライデー（B）
	9	茨木（C）	みはら	四条畷（A）
	10	狭山	わかば（A）	やよい会（A）
	11	清水（D）	ときわ台（B）	やよい会（B）
	12	松原（A）	島本AOC	鴨谷
	13	松原（B）	しらさぎ	藤井寺
	14	萩（B）	東大阪M．B．C（D）	枚方フライデー（C）
平成4年度前期 4．5．7 12 20 25 28 29 6．4 10 18	1	桜ケ丘（A）	清水（A）	門真（A）
	2	吹田ミセス（A）	フレンドリー（A）	神津（A）
	3	交野（A）	茨木（B）	八尾（A）
	4	せっつ（A）	ときわ台	泉ケ丘（B）
	5	池田	東大阪M．B．C（B）	吹田ミセス（B）
	6	泉ケ丘（C）	寝屋川（B）	せっつ（B）
	7	フレンドリー（C）	東大阪M．B．C（C）	平野（A）
	8	茨木（C）	河内長野（B）	熊取（B）
	9	四条畷（A）	みはら	八尾（C）
	10	やよい会（A）	わかば（A）	清水（D）
	11	ひまわり	島本AOC	やよい会（B）
	12	しらさぎ（A）	松原（B）	鴨谷
	13	東大阪M．B．C（D）	ポピンズ（A）	四条畷（C）
	14	やよい会（C）	如月（C）	やよい会（D）
	15	南吹田マミーズ	キャロット	しらさぎ（B）

年月日	部	1位	2位	3位
平成4年度後期 4．11．4 9 12 17 19 24 30 12．8	1	泉ケ丘（A）	清水（A）	桜ケ丘（A）
	2	神津（A）	枚方シャトルズ（A）	フレンドリー（B）
	3	せっつ（A）	たちばな（A）	茨木（B）
	4	泉ケ丘（B）	清水（C）	富田林（A）
	5	高嶺（B）	吹田ミセス（B）	東大阪M．B．C（B）
	6	フレンドリー（C）	せっつ（B）	寝屋川（B）
	7	平野（A）	茨木（C）	門真（B）
	8	四条畷（A）	河内長野（B）	熊取（B）
	9	やよい会（A）	みはら	如月（B）
	10	わかば（A）	守口東部（A）	清水（D）
	11	やよい会（B）	しらさぎ（A）	島本AOC
	12	松原（B）	四条畷（B）	鴨谷
	13	ポピンズ（A）	吹田ミセス（D）	八尾レディース
	14	南吹田マミーズ	如月（C）	枚方フライデー（C）
	15	しらさぎ（B）	ふじ	キャロット
平成5年度前期 5．5．11 19 28 6．2 10 16 18 23 29	1	清水（A）	東大阪M．B．C（A）	桜ケ丘（A）
	2	フレンドリー（B）	桜ケ丘（B）	高嶺（A）
	3	枚方フライデー（A）	交野（A）	たちばな（A）
	4	寝屋川（A）	熊取（A）	池田
	5	高嶺（B）	東大阪M．B．C（B）	フレンドリー（C）
	6	つくも	せっつ（B）	如月（A）
	7	茨木（C）	四条畷（A）	豊中シスターズ（B）
	8	やよい会（A）	河内長野（B）	神津（B）
	9	わかば（A）	狭山	みはら
	10	やよい会（B）	グリーン（A）	守口東部（A）
	11	松原（A）	しらさぎ（A）	四条畷（B）
	12	ポピンズ（A）	吹田ミセス（D）	貝塚
	13	四条畷（C）	南吹田マミーズ（A）	やよい会（C）
	14	しらさぎ（B）	ふじ	やよい会（D）
	15	キャロット	河内長野（C）	ポピンズ（B）
	16	桜ケ丘（D）	フレンドリー（D）	高嶺（D）
平成5年度後期 5．11．4 9 11 12 16 19 24 26 12．7	1	清水（A）	東大阪M．B．C（A）	桜ケ丘（A）
	2	吹田ミセス（A）	桜ケ丘（B）	高嶺（A）
	3	豊中シスターズ（A）	たちばな（A）	交野（A）
	4	高嶺（B）	池田（A）	富田林（A）
	5	フレンドリー（C）	桜ケ丘（C）	たちばな（B）
	6	茨木（C）	如月（A）	寝屋川（B）
	7	やよい会（A）	四条畷（A）	豊中シスターズ（B）
	8	わかば（A）	河内長野（B）	吹田ミセス（C）
	9	狭山（A）	やよい会（B）	みはら
	10	ひまわり	グリーン（A）	松原（A）
	11	しらさぎ（A）	ポピンズ（A）	島本AOC
	12	鴨谷（A）	せっつ（C）	吹田ミセス（D）
	13	しらさぎ（B）	南吹田マミーズ（A）	八尾レディース（A）
	14	キャロット	やよい会（D）	わかば（B）
	15	桜ケ丘（D）	河内長野（C）	神津（D）
	16	いちご	高嶺（D）	鴨谷（B）
	17	池田（B）	守口東部（C）	八尾レディース（B）

年月日	部	1位	2位	3位
平成6年度前期 6．5．12 19 23 26 6．2 8 13 14 21	1	東大阪M．B．C（A）	清水（A）	桜ケ丘（A）
	2	高嶺（A）	枚方シャトルズ（A）	フレンドリー（B）
	3	泉ケ丘（B）	交野（A）	たちばな（A）
	4	池田（A）	フレンドリー（C）	熊取（A）
	5	東大阪M．B．C（B）	吹田ミセス（B）	桜ケ丘（C）
	6	やよい会（A）	せっつ（B）	如月（A）
	7	四条畷（A）	わかば（A）	枚方シャトルズ（B）
	8	狭山（A）	高嶺（C）	河内長野（B）
	9	やよい会（B）	みはら	ひまわり
	10	グリーン（A）	しらさぎ（A）	松原（A）
	11	ポピンズ（A）	鴨谷（A）	島本AOC
	12	せっつ（C）	四条畷（C）	しらさぎ（B）
	13	南吹田マミーズ（A）	熊取（C）	八尾レディース（A）
	14	桜ケ丘（D）	やよい会（D）	枚方フライデー（D）
	15	いちご	河内長野（C）	ポピンズ（B）
	16	池田（B）	高嶺（D）	鶴山台（C）
	17	狭山（B）	池田（C）	スイトピー
平成6年度後期 6．11．2 8 11 15 17 25 12．2 6 8	1	清水（A）	門真（A）	東大阪M．B．C（A）
	2	清水（B）	桜ケ丘（B）	フレンドリー（B）
	3	たちばな（A）	せっつ（A）	豊中シスターズ（A）
	4	高嶺（B）	八尾（A）	茨木（B）
	5	やよい会（A）	桜ケ丘（C）	東大阪M．B．C（B）
	6	豊中ファミリー	平野（A）	四条畷（A）
	7	狭山（A）	わかば（A）	枚方シャトルズ（B）
	8	やよい会（B）	河内長野（B）	吹田ミセス（C）
	9	みはら	グリーン（A）	たちばな（C）
	10	松原（A）	ポピンズ（A）	守口東部（A）
	11	四条畷（B）	鴨谷（A）	島本AOC
	12	南吹田マミーズ（A）	しらさぎ（B）	貝塚
	13	八尾レディース（A）	桜ケ丘（D）	東大阪M．B．C（D）
	14	いちご	東大阪B．B．C（B）	門真（C）
	15	池田（B）	河内長野（C）	ポピンズ（B）
	16	狭山（B）	高嶺（D）	鶴山台（C）
	17	岸和田	スイトピー	八尾レディース（B）
平成7年度前期 7．5．11 16 19 24 31 6．1 7 8 14	1	門真（A）	桜ケ丘（A）	清水（A）
	2	桜ケ丘（B）	吹田ミセス（A）	茨木（A）
	3	せっつ（A）	交野（A）	豊中シスターズ（A）
	4	やよい会（A）	茨木（B）	鶴山台（A）
	5	桜ケ丘（C）	茨木（C）	東大阪M．B．C（B）
	6	四条畷（A）	狭山（A）	如月（A）
	7	わかば（A）	鶴山台（B）	やよい会（B）
	8	高嶺（C）	河内長野（B）	みはら
	9	松原	グリーン（A）	枚方フライデー（B）
	10	しらさぎ（A）	守口東部（A）	ポピンズ（A）
	11	塚本（A）	マミーズ（A）	せっつ（C）
	12	しらさぎ（B）	吹田ミセス（D）	貝塚
	13	桜ケ丘（D）	いちご	キャロット
	14	東大阪B．B．C（B）	池田（B）	ふじ
	15	河内長野（C）	ポピンズ（B）	グリーン（B）
	16	岸和田	鴨谷（B）	高嶺（D）
	17	スイトピー（A）	はびきの	池田（C）
	18	しらさぎ（C）	八尾（C）	富田林（C）

年月日	部	1位	2位	3位
平成7年度後期	1	桜ケ丘(A)	フレンドリー(A)	門真(A)
7．10．23	2	河内長野(A)	せっつ(A)	茨木(A)
27	3	交野(A)	高嶺(B)	やよい会(A)
31	4	弥生(A)	八尾(A)	富田林(A)
11．2	5	東大阪M．B．C(B)	桜ケ丘(C)	四条畷(A)
15	6	せっつ(B)	如月(A)	八尾(B)
16	7	高嶺(C)	やよい会(B)	わかば(A)
22	8	松原	みはら	河内長野(B)
28	9	グリーン(A)	しらさぎ(A)	交野(B)
29	10	守口東部(A)	四条畷(B)	ポピンズ(A)
12．1	11	しらさぎ(B)	マミーズ(A)	鴨谷(A)
	12	吹田ミセス(D)	八尾レディース(A)	桜ケ丘(D)
	13	東大阪B．B．C(B)	キャロット	いちご
	14	池田(B)	わかば(B)	やよい会(D)
	15	岸和田	狭山(B)	ポピンズ(B)
	16	高嶺(D)	鴨谷(B)	スイトピー(A)
	17	しらさぎ(C)	はびきの	八尾レディース(B)
	18	八尾(C)	ミルキーズ	富田林(C)
平成8年度前期	1	東大阪M．B．C(A)	神津(A)	門真(A)
8．5．13	2	清水(B)	せっつ(A)	枚方シャトルズ(A)
16	3	やよい会(A)	フレンドリー(B)	豊中シスターズ(A)
22	4	東大阪M．B．C(B)	富田林(A)	熊取(A)
24	5	四条畷(A)	茨木(C)	清水(C)
27	6	如月(A)	東大阪B．B．C(A)	八尾(B)
6．17	7	東大阪M．B．C(C)	やよい会(B)	松原
20	8	門真(B)	グリーン(A)	みはら
26	9	しらさぎ(A)	守口東部(A)	吹田ミセス(C)
28	10	しらさぎ(B)	四条畷(B)	塚本(A)
	11	鴨谷(A)	吹田ミセス(D)	せっつ(C)
	12	八尾レディース(A)	寝屋川(C)	東大阪B．B．C(B)
	13	池田(B)	やよい会(C)	キャロット(A)
	14	岸和田	やよい会(D)	河内長野(C)
	15	高嶺(D)	狭山(B)	平野(C)
	16	しらさぎ(C)	WIN(A)	フレンドリー(D)
	17	はびきの	河内長野(D)	八尾(C)
	18	ミルキーズ(A)	富田林(C)	清水(E)
	19	スウィング	泉北レディース	U．F．C
平成8年度後期	1	東大阪M．B．C(A)	門真(A)	清水(A)
8．10．30	2	吹田ミセス(A)	交野(A)	枚方シャトルズ(A)
11．5	3	フレンドリー(B)	たちばな(A)	東大阪M．B．C(B)
8	4	四条畷(A)	富田林(A)	八尾(A)
11	5	桜ケ丘(C)	吹田ミセス(B)	清水(C)
13	6	如月(A)	八尾(B)	東大阪B．B．C(A)
20	7	松原	門真(B)	わかば(A)
22	8	グリーン(A)	しらさぎ(A)	豊中シスターズ(B)
25	9	交野(B)	吹田ミセス(C)	守口東部(A)
27	10	塚本(A)	ポピンズ(A)	鴨谷(A)
	11	八尾レディース(A)	吹田ミセス(D)	マミーズ(A)
	12	池田(B)	寝屋川(C)	貝塚
	13	キャロット(A)	岸和田	やよい会(C)
	14	高嶺(D)	河内長野(C)	東大阪M．B．C(D)
	15	しらさぎ(C)	狭山(B)	萩(B)
	16	はびきの(A)	WIN(A)	鴨谷(B)
	17	八尾(C)	八尾レディース(B)	ミルキーズ(A)
	18	スウィング	豊中ファミリー(B)	WIN(B)
	19	U．F．C(A)	泉北レディース	U．F．C(B)

国際親善婦人バドミントン大会

	ゾーン	優勝	2位	3位
'95 10月5・6 大阪府立体育会館 クボタ体育館 155チーム 1122名	A	(上海・大阪) コマツサークル 胡、陳、願 松井、西村、北本 内田	(東京) 東京A 渡辺、西野、土田 佐藤、谷垣、松本 中沢、岡戸	(大阪) さくらんぼ 林、宮崎、小原 松岡、植田、植野 山口
	B	(広島) 広島スウィング 井下、松原、武田 佐々木、沖田 森川、伊達	(京都) 宇治クラブA 石丸、中山、太田 濱田、中田、田島 藤野、長谷川	(大阪) 泉ケ丘クラブ 山口、小林、服部 高木、津村、島田 井口、松本
	C1	(三重) 四日市クラブ 岡田、岩井、秋山 水野、森川、乾 広、浜口	(愛知) インターバル 野中、安藤、億田 奥野、鈴木、田村 土田、梁川	(埼玉) 所沢クラブ 小島、松原、前田 渡辺、小達、田中 吉光、武藤
	C2	(東京) 府中クラブ 高坂、田倉、阿部 森真、吉海、木原	(愛媛) 双葉 長井、須山、秦由 伊藤、白石、松永 阿賀田、本田	台北市B 李淑美、江秀霞 陳秀恵、呂月娟 呉麗華、楊継美
	D	(東京) 東京B 隅本、長谷川、中川 肥田木、遠田、栗山 田中、佐々木	(大阪) なみはやチーム 兼田、金谷、中井 山本、糀、西野 児玉	(千葉) ちばジョイフリー 塚本、升田、山田 長浜、轟、藤本
'96 10月1・2・3 大阪府立体育会館 148チーム 1102名	A	(中国・日本) コマツサークル 胡、陳、鵜木 松井、北本、西村 高橋、武田	(東京) 東京A 上田、土田、太田 椿、遠江、工藤 弓削、范	(大阪) さくらんぼ 林、宮崎、植野 山口、小原、植田 保田、神谷
	B	(大阪) 清水A 石崎、廣瀬、西村 井上、木下、木田 早坂、土屋	(京都) 宇治クラブA 中山、石丸、濱田 和田、中田、田島 福井、長谷川	(三重) 四日市クラブ 森川、岡田、岩井 深沢、秋山、乾 広、浜口
	C	(東京) 若草会 松村、岡戸、米口 矢代、大平、鴨田 栗山	(台湾) TAIPEI 李、簡、楊瑞 洪、楊継、門 江、易	(愛媛) 双葉 長井、秦、伊藤 白石、松永、本田 阿賀田、須山
	D	(千葉) 千葉 小野田、鈴木 田中、塚本、安彦 嶋田、須藤	(東京) 東京B 田中、服部、遠田 森本、織田、小守 三住、佐々木	(北海道) 北海道シニア 浅井、関、谷頭 佐々木、東山 石橋

西日本家庭婦人バドミントン大会

回数	年月日	会場	参加チーム数	部	1位	2位	3位	
第1回	49.10.20（日）	東大阪市立東体育館	54チーム		御前美智子 岩上和子 （東大阪M.B.C）	村井広美 野崎陽子 （東大阪M.B.C）	江原美智子 池田紗千子 （高嶺クラブ）	福島照子 佐藤美也子 （西宮ファミリー）
第2回	50.10.19（日）	東大阪市立東体育館	48チーム		福島照子 池田博江 （西宮ファミリー）	村井広美 岩上和子 （東大阪M,B.C）	池田紗千子 廣瀬園子 （桜ケ丘クラブ）	江原美智子 園田成子 （夙川クラブ）
第3回	51.10.31（日）	東大阪市立東体育館	62チーム		池田紗千子 御前美智子 （桜ヶ丘クラブ）	小林陽子 廣瀬園子 （守口．桜ヶ丘）	土庵清子 小山初江 （西華クラブ）	村井広美 岩上和子 （東大阪M.B.C）
第4回	52.11.3（木）	東大阪市立中央体育館	80チーム		北尾典子 山口祥子 （春円クラブ）	村井広美 諏訪照美 （東大阪M.B.C）	池田博江 服部正子 （西宮ファミリー）	下川民江 大西泰子 （東大阪M.B.C）
第5回	53.8.20（日）	東大阪市立中央体育館	50チーム		北尾典子 山口祥子 （春円クラブ）	村井広美 諏訪照美 （東大阪M.B.C）	池田博江 福島照子 （西宮クラブ）	浅利きよ子 立岡喜美子 （春円クラブ）
第6回	54.10.28（日）	東大阪市立中央体育館	68チーム	1部	宿里和江 澄川稔子 （西宮クラブ）	南野るみこ 松尾由利子 （西宮クラブ）	池田博江 福鳥照子 （西官クラブ）	山口祥子 北尾典子 （春円クラブ）
				2部A	黒石澄子 的場幸枝 （川西市）	江尻弘美 国方敬子 （武庫川）	田中邦子 平尾久美子 （武庫川）	
				2部B	渡辺富子 溜美代子 （東大阪M.B.C）	阿部靖子 山田光代 （春円クラブ）	服部正子 吉岡恭子 （西宮クラブ）	
				2部C	東原光代 増子綾子 （姫路クラブ）	小間靖子 工藤順子 （西宮クラブ）	北田さくこ 合田咲子 （東大阪M.B.C）	
第7回	55.10.26（日）	東大阪市立中央体育館	98チーム	1部	山口祥子 北尾典子 （春円クラブ）	村井広美 諏訪照美 （東大阪M.B.C）	堂尾佐千子 金谷節子 （桜ヶ丘クラブ）	服部正子 宿里和江 （西宮クラブ）
				2部A	中島佐代子 小山ミヤ子 （門真クラブ）	住野節江 天野千鶴 （敦賀バードクラブ）	青野千鶴 岸本登志子 （東大阪M.B.C）	
				2部B	工藤順子 金津豊子 （西宮クラブ）	西野幸子 小笠原弘子 （東大阪M.B.C）	居場勝子 石井春美 （西華クラブ）	
				2部C	江原美智子 山本こう子 （リトルズ）	東原光代 増子綾子 （姫路クラブ）	阿部靖子 岡崎広子 （春円クラブ）	
第8回	56.10.22（日）	大阪市中央体育館	171チーム	1部	宿里和江 服部正子 （西宮クラブ）	池田紗千子 廣瀬園子 （桜ヶ丘クラブ）	岸世紀子 小田照美 （宝塚クラブ）	土庵清子 森田洋子 （西華クラブ）
				2部A	金津豊子 阪口ひろ美 （西宮クラブ）	北岡幸子 築山喜久子 （京都レインボー）	安田美代 山上和子 （枚方シャトルズ）	
				2部B	井端晴美 丸マユミ （雅楽多クラブ）	浅野美和子 田中勝子 （西宮クラブ）	藤本恵子 藤原美子 （伊丹クラブ）	
				2部C	柳井敏子 利岡輝子 （寝屋川クラブ）	小牟礼百合子 石田時子 （桜ヶ丘クラブ）	高松美奈子 原照美 （高嶺クラブ）	
				2部D	石井春美 居場勝子 （西華クラブ）	藤本勝美 大場治代 （姫路クラブ）	日下玲子 岡田淑子 （寝屋川クラブ）	
				2部E	中川晴美 牧野君代 （芦屋クラブ）	東原光代 米沢美智子 （姫路クラブ）	小間靖子 須藤オサ子 （西宮クラブ）	

回数	年月日	会場	参加チーム数	部	1位	2位	3位	
第9回	57.10.21（木）	大阪市中央体育館	180チーム	1部	池田 紗千子 宮崎 真理子 （桜ヶ丘クラブ）	北尾 典子 山口 祥子 （春円クラブ）	宿里 和江 服部 正子 （西宮クラブ）	土庵 清子 森田 洋子 （西華クラブ）
				2部A	飯山 シズエ 渡辺 暁子 （大阪フレンドリー）	愛葉 治子 藤本 和美 （柏原ミドルズ）	山中 トヨ子 中鳥 佐代子 （門真クラブ）	
				2部B	黒石 澄子 的場 幸枝 （川西クラブ）	田添 瑠美子 坂本 尚子 （錦ケ丘・コスモス）	田中 邦子 野里 佳子 （武庫川クラブ）	
				2部C	辻本 節子 畑中 徳江 （たちばな・泉佐野）	西川 公子 藤本 恵子 （伊丹クラブ）	北岡 洋子 居場 勝子 （西華クラブ）	
				2部D	東原 光代 浜田 栄子 （姫路クラブ）	三宅 道子 妹尾 弘美 （高嶺クラブ）	上辻 光子 田子島屋恵美子 （豊中シスターズ）	
				2部E	江原 美智子 上田 光代 （リトルズ・門真）	小間 靖子 吉岡 恭子 （西宮クラブ）	中川 晴美 牧野 君代 （芦屋クラブ）	
第10回	58.10.21（金）	大阪市中央体育館	184チーム	1部	御前 美智子 池田 紗千子 （桜ヶ丘クラブ）	小田 照美 入口 秀子 （宝塚クラブ）	宿里 和江 服部 正子 （西宮クラブ）	福本 房子 大門 与史子 （春円クラブ）
				2部A	森岡 艶子 阿部 恵里子 （つくしクラブ）	山際 喜久子 林 佳知子 （五十鈴クラブ）	藤田 みどり 市川 いその （広島エコ）	
				2部B	稲岡 佑子 村上 多恵 （雅楽多クラブ）	加藤 美代子 田村 登志子 （川西クラブ）	藤本 恵子 里藤 良子 （伊丹クラブ）	
				2部C	上田 勝子 高森 洋子 （熊本コスモス）	石川 恵子 高木 美恵子 （広島エコー）	中西 俊子 西川 公子 （伊丹クラブ）	
				2部D	松岡 美佐子 藤田 二三 （ドリブン）	妹尾 弘美 藤田 かつ子 （高嶺クラブ）	上辻 光子 田子島屋恵美子 （豊中シスターズ）	
				2部E	江原 美智子 宮本 和代 （長崎平和）	高野 美代子 阿部 靖子 （春円クラブ）	中川 晴美 牧野 君代 （芦屋クラブ）	
第11回	59.10.19（金）	大阪市中央体育館	188チーム	1部	入口 秀子 中鳥 弘子 （緑ヶ丘クラブ）	池田 紗千子 宮崎 真理子 （桜ヶ丘クラブ）	服部 正子 宿里 和江 （西宮クラブ）	福本 房子 大門 与史子 （春円クラブ）
				2部A	森岡 艶子 駒谷 一恵 （つくしクラブ）	立岡 喜美子 田宮 佐知子 （春円クラブ）	比良 由美子 出来 敏子 （豊中シスタズ）	
				2部B	道先 宏子 前川 仁美 （緑ヶ丘クラブ）	藤本 恵子 里藤 良子 （伊丹クラブ）	国方 敬子 田中 邦子 （武庫川クラブ）	
				2部C	藤田 咲美 増子 綾子 （姫路クラブ）	的場 幸枝 加藤 美代子 （川西クラブ）	石川 恵子 江並 鈴江 （広島エコー）	
				2部D	荻野 康子 松岡 美佐子 （ドリブン）	市原 照美 佐々木 桂子 （プレイヤーズクラブ）	北村 洋子 西垣 良子 （緑ヶ丘クラブ）	
				2部E	渡辺 富子 井上 三知 （西宮クラブ）	吉田 信子 赤松 ヒデ子 （福岡A．Aクラブ）	大久保 悦子 山崎 桂子 （豊中シスター-ズ）	
第12回	60.10.18（金）	大阪市中央体育館	198チーム	1部	宮崎 真理子 池田 紗千子 （桜ヶ丘クラブ）	中鳥 弘子 入口 秀子 （緑ヶ丘クラブ）	児玉 洋子 藤田 みどり （広島エコー）	御前 美智子 北原 美恵子 （桜ヶ丘クラブ）
				2部A	鳥中 泰子 岡野 美久児 （長岡京クラブ）	黒石 澄子 山田 美津子 （川西クラブ）	村上 多恵 星田 幸子 （神戸レディース）	

回数	年月日	会場	参加チーム数	部	1位	2位	3位	
第12回	60.10.18（金）	大阪市中央体育館	198チーム	2部B	岡田詔子 岩井道子 （四日市クラブ）	藤山和子 嶋本留美 （島根クラブ）	藤田咲美 太田垣瞳 （姫路クラブ）	
				2部C	西垣良子 北村洋子 （緑ヶ丘クラブ）	南浦百合子 山田光代 （春円クラブ）	官武範子 高橋ツヤ子 （善通寺クラブ）	
				2部D	江原美智子 本田綾子 （長崎平和）	東原光代 小林多美子 （姫路クラブ）	井上三知 渡辺富子 （西宮クラブ）	
第13回	61.10.17（金）	大阪市中央体育館	178チム	1部	宮崎真理子 北原美恵子 （桜ヶ丘クラブ）	大塚シゲ子 飯山シズエ （大阪フレンドリー）	宿里和江 阪口ひろ美 （西宮クラブ）	御前美智子 池田紗千子 （桜ヶ丘クラブ）
				2部A	真鍋陽子 藤原竹子 （岡山チェリッシュ）	富樫容子 東和美 （春円クラブ）	田中邦子 柳畑由美子 （武庫川クラブ）	
				2部B	工藤順子 松永真知子 （西宮クラブ）	木原秀子 西野そのえ （広島エコー）	上川恵子 野村篤子 （神戸レディース）	
				2部C	丸マユミ 井端晴美 （神戸レディース）	南浦百合子 高野美代子 （春円クラブ）	高野久美子 宮崎恵美子 （八尾クラブ）	
				2部D	井上三知 渡辺富子 （西宮クラブ）	中川晴美 牧野君代 （芦屋クラブ）	山根泰子 桂よしみ （プーナ・熊取）	
第14回	62.10.16（金）	大阪市中央体育館	162チーム	1部	川前了子 土庵清子 （西華クラブ）	官崎真理子 北原美恵子 （桜ヶ丘クラブ）	児玉洋子 藤田みどり （広島エコー）	宿里和江 阪口ひろ美 （西宮クラブ）
				2部A	小嶋恵美子 亀山真樹 （水鳥クラブ）	西ゑみこ 田上典子 （柏原ミドルズ）	尾崎紀代美 小田恭子 （枚方シャトルズ）	
				2部B	山中トヨ子 宇治澄 （門真クラブ）	山田文江 菅野光代 （高嶺クラブ）	佐藤美恵子 中川博子 （寝屋川クラブ）	
				2部C	藤原三和 市川いその （グックス・広島エコー）	原照美 高松美奈子 （高嶺クラブ）	若狭伸子 東富美子 （清水クラブ）	
				2部D	宮武範子 高橋ツヤ子 （善通寺クラブ）	上辻光子 山崎桂子 （豊中シスターズ）	小笠原弘子 石崎靖子 （東大阪M.B.C）	
第15回	63.10.19（水） 10.20（木）	大阪市中央体育館	232チーム	1部	桶谷千鶴子 片糸康子 （額バード・あすなろ）	官崎真理子 北原美恵子 （桜ヶ丘クラブ）	川前了子 土庵清子 （西華クラブ）	池田紗千子 堂尾佐千子 （桜ヶ丘クラブ）
				2部A	木下敏子 山口美津江 （泉ヶ丘クラブ）	天羽克江 藤山美生 （阿南クラブ）	桑原順子 廣中雅子 （広島エコー）	
				2部B	大島美代子 木原秀子 （東大阪M.B.C）	佐藤美恵子 中川博子 （寝屋川クラブ）	浅山美穂 池田泰子 （たけのこ）	
				2部C	長谷川さつよ 松田淑子 （豊田）	森鄧澄子 安達千鶴子 （茨木クラブ）	北尾典子 富樫容子 （春円クラブ）	
				2冊D	辻本節子 花木宗子 （たちばな・泉ヶ丘）	梅田ふみ子 井上利子 （宝塚クラブ）	山崎桂子 山本容子 （豊中シスターズ）	
				2部E	上辻光子 桂よしみ （豊中シスターズ・熊取）	井上三知 小間靖子 （西宮クラブ）	勝山裕子 山口和子 （西華クラブ）	
第16回				1部	宮崎真理子 佐伯智子 （桜ヶ丘・東大阪M.B.C）	宿里和江 澄川稔子 （西宮クラブ）	桶谷千鶴子 片糸康子 （額バード・あすなろ）	川前了子 土庵清子 （西華クラブ）

回数	年月日	会場	参加チーム数	部	1位	2位	3位	
第16回	平成1.10.13（金）	大阪府立体育会館 久保田鉄工㈱体育館	304チム	2部A	赤沢五月 平田明美 （ちろりん村）	山本富美子 井上みどり （フレンドリー）	西村孝子 広妙子 （四日市クラブ）	
				2部B	小橋和子 上田真知子 （紫陽花）	出口幹子 浅川厚子 （霞クラブ）	黒石礼子 田中三枝子 （つくしクラブ）	
				2部C	野中恵美子 億田幸子 （インターバル）	浦川礼子 高橋睦子 （豊橋トレセン）	服部正子 木田美智子 （西宮クラブ）	
				2部D	兼田公子 山本美恵 （清水クラブ）	小西昭子 佐藤ミヨ子 （西宮クラブ）	山本しず子 西節子 （岡崎クラブ）	
				2部E	魚住栄子 田中登美子 （豊田クラブ）	松岡美佐子 梶谷美智子 （ドリブン）	今井信子 岸上富子 （ミセス丸亀）	
第17回	平成2.10.12（金）	大阪府立体育会館	315チーム	1部	佐伯智子 林美津代 （東大阪M.B.C・門真）	桶谷千鶴子 小野和子 （額バード）	川前了子 土庵清子 （西華クラブ）	宿里和江 澄川稔子 （西宮クラブ）
				2部A	北野恵美子 中村祐子 （額バード）	脇田敏子 吉崎美津子 （湖南レディース）	山本三枝子 米沢真純 （やまと・オーロン）	
				2部B	木田美智子 砂田須磨子 （西宮クラブ）	南村益代 吉田明美 （つくしクラブ）	浅川厚子 出口幹子 （霞クラブ）	
				2部C	山際喜久子 岡田詔子 （五十鈴・四日市）	石田信子 須山好恵 （紫陽花）	木原秀子 山下淑子 （東大阪M.B.C）	
				2部D	小西昭子 宇野康子 （西宮クラブ）	市川いその 辻本節子 （広島エコー・たちばな）	山本三美 戸村茂子 （京都レインボー・長岡京）	
				2部E	山崎桂子 上辻光子 （豊中シスターズ）	高野久美子 山村晏江 （八尾・桜ヶ丘）	近藤岱子 牧野君代 （芦屋婦人）	
第18回	平成3.10.25（金）	大阪府立体育会館 ㈱クボタ体育館	340チーム	1部	林美津代 宮崎真理子 （門真・桜ヶ丘）	笹井恵理子 本郷寿美 （ブルーレイク）	桶谷千鶴子 小野和子 （額バード）	藤上佐千子 宇山昌子 （湖南レディース）
				2部A	浜口輝美 広妙子 （四日市クラブ）	石崎有紀子 矢野房代 （清水クラブ）	勝見尋子 寺部由美子 （吹田ミセス）	
				2部B	出口幹子 浅川厚子 （霞クラブ）	森川和代 西村孝子 （四日市クラブ）	田村早苗 成田久子 （インターバル）	
				2部C	前田小夜子 田畑和美 （ファースト）	片山一美 小山真澄美 （あすなろ・新神田）	南浦百合子 冨樫容子 （春円クラブ）	
				2部D	井上利子 乃美喜代子 （宝塚クラブ）	山上和子 西澤郁子 （交野クラブ）	小田令子 藤本悦子 （アイクラブ）	
				2部E	高橋さよ子 高橋よね子 （ソアークラブ）	大脇なおみ 山本しず子 （インターバル）	小間靖子 井上三知 （西宮クラブ）	
第19回	平成4.10.30（金）	大阪府立体育会館 ㈱クボタ体育館	330チム	1部	桶谷千鶴子 中村裕子 （額バード）	川前了子 土庵清子 （西華クラブ）	前田昌子 桑野弥生 （ブルーレイク）	飯山シズエ 宇山昌子 （湖南レディース）
				2部A	土屋記巳子 沢田典子 （吹田ミセス）	磯永由美 平田明美 （水井B.C）	梅木深雪 常行悦子 （神津クラブ）	
				2部B	田村早苗 成田久子 （インターバル）	浦川礼子 中野育子 （豊橋トレセン）	長尾恭子 村沢多恵子 （豊田クラブ）	

回数	年月日	会場	参加チーム数	部	1位	2位	3位	
第19回	平成4.10.30（金）	大阪府立体育会館 ㈱クボタ体育館	330チーム	2部C	森藤 久美子 民谷 千寿子 （ソアークラブ）	山際 喜久子 近藤 智美 （五十鈴クラブ）	竹原 芳子 阪本 由美子 （名翔）	
				2部D	松村 和美 三井 房子 （防府）	山崎 桂子 若狭 伸子 （ももち・長丘）	北村 教子 市原 照美 （プレイヤーズ）	
				2部E	北尾 典子 南浦 百合子 （春円クラブ）	池田 博江 工藤 順子 （西宮クラブ）	諫元 脩子 辻本 節子 （黒崎・たちばな）	
第20回	平成5.10.14（木） 10.15（金）	大阪府立体育会館 ㈱クボタ体育館	354チーム	1部	山口 真由美 北原 美恵子 （河内長野・桜ヶ丘）	林 美津代 宮崎 真理子 （門真・桜ヶ丘）	井下 由紀子 武田 裕美 （広島スウィング）	小国 久美 勝間 恵 （雄飛）
				2部A	石崎 有紀子 末岡 則子 （清水・尼崎ABC）	矢野 房代 松浦 三恵 （清水クラブ）	脇田 敏子 吉崎 美智子 （湖南レディス）	
				2部B	地神 京子 藤山 美生 （姫路クラブ）	岡田 裕子 赤沢 五月 （ちろりん村）	浦川 礼子 中野 育子 （豊橋トレセン）	
				2部C	薮内 栄子 木田 美智子 （難波・清水）	南浦 百合子 山本 邦子 （春円クラブ）	岩井 道子 水野 文代 （四日市クラブ）	
				2部D	室田 光枝 佐藤 美恵子 （浦和あすなろ）	市川 いその 児玉 洋子 （広島エコー・東大阪M.B.C）	森川 ミヨ子 沖田 和美 （広島スウィング）	
				2部E	大神田 みね子 大平 ヒサ （練馬）	本田 綾子 山崎 桂子 （長崎平和）	山下 淑子 江原 美智子 （東大阪M.B.C・長崎平和）	

ブロック対抗戦

大阪府家庭婦人バドミントン大会

回数	度	年月日	1　　位	2　　位	3　　位
1	52	53．3．6	北　摂ブロック	中河内ブロック	北河内ブロック
2	53	54．2．26	北　摂ブロック	中河内ブロック	北河内ブロック
3	54	55．2．27	中河内ブロック	泉南泉北ブロック	北　摂ブロック
4	55	56．3．9	北　摂ブロック	中河内ブロック	北河内ブロック
5	56	57．3．9	豊　能ブロック	三　島ブロック	中河内ブロック
6	57	58．3．7	三　島ブロック	豊　能ブロック	泉南泉北ブロック
7	58	59．3．6	豊　能ブロック	中河内ブロック	三　島ブロック
8	59	60．3．8	豊　能ブロック	三　島ブロック	泉南泉北ブロック
9	60	61．3．5	三　島ブロック	豊　能ブロック	泉南泉北ブロック
10	61	62．3．3	三　島ブロック	中河内ブロック	豊　能ブロック
11	62	63．3．2	豊　能ブロック	北河内ブロック	泉南泉北ブロック
12	63	元．2．28	三　島ブロック	豊　能ブロック	中河内ブロック
13	元	2．3．2	三　島ブロック	豊　能ブロック	北河内ブロック
14	2	3．3．1	三　島ブロック	豊　能ブロック	市　内ブロック 中河内ブロック
15	3	4．3．2	三　島ブロック	北河内ブロック	豊　能ブロック
16	4	5．3．1	三　島ブロック	豊　能ブロック	北河内ブロック
17	5	6．2．25	豊　能ブロック	三　島ブロック	北河内ブロック
18	6	7．2．27	三　島ブロック	豊　能ブロック	市　内ブロック
19	7	8．2．26	三　島ブロック	市　内ブロック	北河内ブロック
20	8	9．3．3	三　島ブロック	市　内ブロック	北河内ブロック

全日本家庭婦人バドミントン競技大会

回	年度	開催地	都道府県対抗	クラブ対抗
1	S58	東京都	優勝　東京都Aチーム	
			準優勝　神奈川県チーム	
			3位　千葉県チーム・兵庫県チーム	
			5位　東京都Bチーム・北海道チーム	
2	S59	東京都	優勝　東京都Aチーム	優勝　札幌パールクラブ　(北海道)
			準優勝　東京都Bチーム	準優勝　清水クラブ　(大阪)
			3位　兵庫県チーム	3位　千歳ママさんクラブ　(北海道)
			3位　千葉県チーム	3位　敦賀バードクラブ　(福井)
3	S60	東京都	優勝　東京都Aチーム	優勝　札幌パールクラブ　(北海道)
			準優勝　栃木県チーム	準優勝　旭川クラブ　(北海道)
			3位　北海道チーム	3位　調布エレガンス　(東京)
			3位　愛知県チーム	3位　熊本コスモスクラブ　(熊本)
4	S61	東京都	優勝　東京都Aチーム	優勝　ダックスクラブ　(東京)
			準優勝　神奈川県チーム	準優勝　草加市バドクラブ　(埼玉)
			3位　大阪府チーム	3位　流山クラブ　(千葉)
			3位　埼玉県チーム	3位　所沢クラブ　(埼玉)
5	S62	京都府	優勝　東京都チーム	優勝　コスモスクラブ　(熊本)
			準優勝　埼玉県チーム	準優勝　習志野クラブ　(千葉)
			3位　千葉県チーム	3位　上牧クラブ　(奈良)
			3位　兵庫県チーム	3位　高嶺クラブ　(大阪)
6	S63	東京都	優勝　東京都Aチーム	優勝　流山クラブ　(千葉)
			準優勝　北海道チーム	準優勝　日野レインボー　(東京)
			3位　千葉県チーム	3位　名古屋クラブ　(愛知)
			3位　奈良県チーム	3位　浦和あすなろクラブ　(埼玉)
7	H1	大阪府	優勝　東京都チーム	優勝　水曜会　(福岡)
			準優勝　北海道チーム	準優勝　所沢クラブ　(埼玉)
			3位　埼玉県チーム	3位　岡崎クラブ　(愛知)
			3位　神奈川県チーム	3位　市川クラブ　(千葉)
8	H2	石川県	優勝　東京都チーム	優勝　双葉クラブ　(愛媛)
			準優勝　大阪府チーム	準優勝　滝川シャトルズ　(北海道)
			3位　北海道チーム	3位　札幌パールクラブ　(北海道)
			3位　山口県チーム	3位　習志野クラブ　(千葉)
9	H3	東京都	優勝　東京都Aチーム	優勝　市川クラブ　(千葉)
			準優勝　愛知県チーム	準優勝　所沢クラブ　(埼玉)
			3位　神奈川県チーム	3位　浦和あすなろクラブ　(埼玉)
			3位　奈良県チーム	3位　ホワイト　(山口)

回	年度	開催地	都道府県対抗	クラブ対抗
10	H 4	北海道	優　勝　東京都チーム	優　勝　岡崎フェニックス　（愛　知）
			準優勝　神奈川県チーム	準優勝　旭川シャトル　（北海道）
			3　位　千葉県チーム	3　位　清水クラブ　（大　阪）
			3　位　北海道Ａチーム	3　位　豊田クラブ　（愛　知）
11	H 5	東京都	優　勝　東京都Ａチーム	優　勝　札幌パールクラブ　（北海道）
			準優勝　大阪府チーム	準優勝　浦和あすなろクラブ　（埼　玉）
			3　位　愛知県チーム	3　位　ミラクル　（山　口）
			3　位　神奈川県チーム	3　位　宝塚クラブ　（兵　庫）
12	H 6	愛知県	優　勝　東京都チーム	優　勝　双　葉　（愛　媛）
			準優勝　愛知県Ａチーム	準優勝　下松ホワイト　（山　口）
			3　位　奈良県チーム	3　位　札幌ウイング　（北海道）
			3　位　兵庫県チーム	3　位　飛鳥クラブ　（千　葉）
13	H 7	長崎県	優　勝　大阪府チーム	優　勝　浦和あすなろ　（埼　玉）
			準優勝　東京都チーム	準優勝　Ａ　Ａ　（福　岡）
			3　位　千葉県チーム	3　位　ラブリーズ　（茨　城）
			3　位　北海道チーム	3　位　札幌シーガル　（北海道）
14	H 8	島根県	優　勝　大阪府チーム	優　勝　西条バードクラブ　（愛　媛）
			準優勝　千葉県チーム	準優勝　函館ＢＬＣ　（北海道）
			3　位　神奈川チーム	3　位　フレンド'84　（東　京）
			3　位　東京都チーム	3　位　清水クラブ　（大　阪）

近畿家庭婦人バドミントン大会

回	年度	開催地	優勝	準優勝	3位
1	S53	兵庫	姫路クラブ	西宮クラブ	桜ヶ丘クラブ
			（兵庫）	（兵庫）	（大阪）
2	S54	京都	東大阪M．B．C	桜ヶ丘クラブ	西宮クラプ
			（大阪）	（大阪）	（兵庫）
3	S55	大阪	春円クラブ	西宮クラブ	東大阪M．B．C
			（奈良）	（兵庫）	（大阪）
4	S56	奈良	春円クラブ	桜ヶ丘クラブ	東大阪M．B．C
			（奈良）	（大阪）	（大阪）
5	S57	和歌山	桜ヶ丘クラブ	春円クラブ	西宮クラブ
			（大阪）	（奈良）	（兵庫）
6	S58	滋賀	西宮クラブ	緑ヶ丘クラブ	桜ヶ丘クラブ
			（兵庫）	（兵庫）	（大阪）
7	S59	兵庫	桜ヶ丘クラブ	春円クラブ	西宮クラブ
			（大阪）	（奈良）	（兵庫）
8	S60	京都	桜ヶ丘クラブ	春円クラブ	清水クラブ
			（大阪）	（奈良）	（大阪）
9	S61	大阪	桜ヶ丘クラブ	清水クラブ	西宮クラブ
			（大阪）	（大阪）	（兵庫）
10	S62	奈良	西宮クラブ	春円クラブ	桜ヶ丘クラブ
			（兵庫）	（奈良）	（大阪）
11	S63	和歌山	桜ヶ丘クラブ	西宮クラブ	春円クラブ
			（大阪）	（兵庫）	（奈良）
12	H1	滋賀	湖南レディース	フレンドリー	桜ヶ丘クラブ
			（滋賀）	（大阪）	（大阪）
13	H2	兵庫	湖南レディース	ブルーレイク	春円クラブ
			（滋賀）	（滋賀）	（奈良）
14	H3	京都	清水クラブ	ブルーレイク	雄飛
			（大阪）	（滋賀）	（京都）
15	H4	大阪	湖南レディース	春円クラブ	西華クラブ
			（滋賀）	（奈良）	（奈良）
16	H5	奈良	春円クラブ	西華クラブ	雄飛
			（奈良）	（奈良）	（京都）
17	H6	和歌山	阪神大震災のため中止		
18	H7	滋賀	雄飛	湖南レディース	東大阪M．B．C
			（京都）	（滋賀）	（大阪）
19	H8	兵庫	ブルーレイク	東大阪M．B．C	湖南レディース
			（滋賀）	（大阪）	（滋賀）

大阪学生バドミントン連盟

◆ 祝辞 ◆



祝　辞

大阪学生バドミントン連盟
会　長　中原　住雄

大阪バドミントン協会が設立以来５０年を数えるにあたり、記念誌を作成される旨をうかがいました。戦後まもない１９４７年（昭和２２年）から５０年にわたり、大阪府下のバドミントンの中枢機関として、関係する各種団体をうまく統括され、バドミントンの健全なる普及振興などを目指して次々と発展させ活動して来られた大阪バドミントン協会の関係諸氏に、心からお祝いを申し上げると共に、深く敬意を表したいと思います。

バドミントンが日本に紹介された時期は定かではありませんが、戦後から活発になったのは確かだと思います。ニュースを遡ると、この種目は１９４９年（昭和２４年）国民体育大会に初めて採用され、１９５２年（昭和２７年）国際バドミントン連盟（ＩＢＦ）に加盟、１９６６年以降からはユーバー杯・全英選手権制覇、１９９６年（平成８年）アトランタオリンピックで正式種目に採用と、大きな話題がありました。それと共に、マスメディアを通じてバドミントンに関わらない一般の人も、この競技への関心が着実に高まるようになってまいりました。協会設立当時のことを考えてみれば日本バドミントン協会が１９４６年（昭和２１年）に設立、その翌年に大阪バドミントン協会が設立されたのですから、貴協会の存在とその役割は非常に大きなものであったと思われます。貴協会傘下団体の一つである大阪学生バドミントン連盟が設立された当時は僅か五大学くらいにすぎなかったと聞いておりますので、上記のことに携わってこられた協会の関係諸氏の努力は大変なものだったと推察致しております。

さて、バドミントンは子どもから大人まで手軽に楽しめるものとして、誰もが一度は経験のあるスポーツ、あるいは遊びの代表的なものであります。古来、日本には室町時代中期から羽根突きという、羽子板で羽根を突き返す正月の遊びがあったとされています。現在ではムクロジの種に鳥の羽根をつけたものが売られているそうです。年配諸氏の中には、この羽根突きで遊ばれた方も多いと思います。このような日本古来の羽根突きと似ていることが、誰もが一度はバドミントンをしたことがあるということにつながると思われます。ただ一般の人が用いる愛称は「バトミントン」が多いと思います。関係者は、この一文字の「ト」に濁点のある無しが気になるところではないでしょうか。正式な競技名称「バドミントン」も競技の普及振興と共に広めてゆきたいものと考えております。

本年の秋には大阪で「なみはや」国体が開催され、さらには２００８年大阪へのオリンピック誘致と大阪バドミントン協会が関わる重要な行事が待ち構えております。日本のバドミントン界にのみならず、スポーツ界全体における大阪バドミントン協会の役割に益々の期待をいたしますと共に、活動のご発展を祈るものであります。

◆ 祝辞 ◆



祝　辞

大阪学生バドミントン連盟
委員長　森井　信幸

大阪バドミントン協会５０周年おめでとうございます。５０年前というと１９４７年（昭和２２年）に遡るわけですが、私は現在大学４回生の２１歳ですので、その歴史と伝統の厚みはひしひしと感じてきます。また、その５０年もの間には多くの方々の大阪バドミントン協会の関係諸氏の、絶え間ない不断の努力があったと思います。その方々には深く敬意を表したいと思います。

私は大阪バドミントン協会の仕事に就かしてもらいまして２年ほど経ちますが、それを通してバドミントンに対する大阪全体の熱意・パワーを感じます。特に私は神戸から大阪の大学に通学していますのでそれを感じます。もちろん兵庫県のバドミントンに対する意識も決して大阪府に負けず劣らず絶大なものがありますが、やはり多くの人口、全日本総合や社会人リーグ戦を必ず大阪で行うということから、大阪バドミントン界は日本のバドミントン界の主要のひとつといえます。

大阪バドミントン協会傘下団体のひとつであります我が大阪学生バドミントン連盟は、現在全２７大学が加盟しています。加盟大学数は毎年変動はないのですが、加盟人数が、学生の減少につれて、減ってきていることは否めません。従って我が連盟でも、高校・中学校などでのバドミントン経験者はもちろん、初心者の興味をひくように工夫して活動していかなければならないようになってきていると思います。ひとりでも多くの人にバドミントンの楽しさが分かってもらえるよう心掛けなければなりません。

最後になりましたが今年の秋には「なみはや」国体が行われますが、これを機にますます大阪のバドミントン界が発展していけばとても喜ばしいことであります。また２００８年の大阪でのオリンピックと、大阪のバドミントン界は大きな夢があります。これからも益々の大阪のパワーで大阪バドミントン協会のご発展を望んでいます。

大阪学生バドミントン連盟主催行事

① 第１回総会
　　２月上旬　　於　東淀川勤労者センター
② 大阪学生バドミントン選手権大会
　　４月上旬～下旬にかけて　　於　大阪府立臨海スポーツセンター
　　大阪市立東淀川体育館
③ 第２回総会
　　９月下旬　　於　東淀川勤労者センター
④ 大阪学生バドミントン新人選大会
　　１２月上旬～中旬にかけて　　於　大阪府立臨海スポーツセンター
　　大阪市立東淀川体育館
⑤ 年度末総会
　　翌年２月上旬　　於　東淀川勤労者センター

他、必要に応じて審判講習会を行ない、日本リーグ、全日本総合などの審判も行なっています。

大阪学生選手権　過去の戦績

男　子

年度	順位	団体	男子単（A）	男子複（A）	男子単（B）	男子複（B）
平成元年度	1	近大A	早戸（近大）	早戸・稲村（近大）	松井（阪大）	保田・仁熊（府大）
	2	経大A	大谷（近大）	森山・藤原（経大）	吉野（摂南）	尾崎・河野（関大）
	3	体大	稲村（近大）	大谷・甲林（近大）	山中（桃山）	森　・藤山（追大）
平成2年度	1	近大A	大谷（近大）	藤原・今村（経大）	大内（阪大）	山田・武田（府大）
	2	経大A	稲村（近大）	稲村・甲林（近大）	武田（追大）	潮井・藤川（阪大）
	3	近大	白浜（近大）	荒木・武田（近大）	藤川（阪大）	堀田・大西（大教）
平成3年度	1	近大A	稲村（近大）	荒木・武田（近大）	岡崎（大産）	西村・伊藤（大産）
	2	近大B	三宅（体大）	今井・伊藤（経大）	長屋（大教）	友永・小西（阪大）
	3	経大A	上本（近大）	稲村・白浜（近大）	細谷（大教）	西田・岸本（市大）

女　子

年度	順位	団　体	女　子　単	女　　子　　複
平成元年度	1	四條畷	利　川（四条畷）	南里(高)・南里(泰)（四条畷）
	2	体　大	南里(高)（四条畷）	利　川・三ッ川（四条畷）
	3	大谷女	南里(泰)（四条畷）	岩　田・新　木（四条畷）
平成2年度	1	四条畷	岩　田（四条畷）	新　木・畑　山（四条畷）
	2	体　大	松　浦（体大）	坂　田・利　川（四条畷）
	3	大教A	新　木（四条畷）	松　浦・安　田（体　大）
平成3年度	1	四条畷	畑　山（四条畷）	坂　田・畑　山（四条畷）
	2	体　大	坂　田（四条畷）	西　田・下　川（四条畷）
	3	阪大A	西　田（四条畷）	利　川・水　王（四条畷）

大阪学生選手権　過去の戦績

男　子

年度	順位	団体	男子単（A）	男子複（A）	男子単（B）	男子複（B）
平成4年度	1	近大A	岸田（近大）	大山・岸田（近大）	黒田（摂南）	岸本・日浦（市大）
	2	経大A	上瀧（近大）	武田・金山（近大）	小橋（摂南）	真鍋・向井（桃山）
	3	体　大	片岡（近大）	織田・藤井（経大）	笹井（市大）	新治・武内（奈産）
平成5年度	1	近大A	岸田（近大）	大山・岸田（近大）	喜田（桃山）	落合・富樫（阪大）
	2	経大A	片岡（近大）	織田・藤井（経大）	向井（桃山）	向井・喜田（桃山）
	3	近大B	五十嵐（近大）	上瀧・沼尻（近大）	村上（摂南）	白川・柏木（大院）
平成6年度	1	近大A	片岡（近大）	上瀧・本田（近大）	生島（大院）	松浦・大辻（大院）
	2	近大B	野田（近大）	藤井・佐野（経大）	井上（奈産）	斎藤・喜田（桃山）
	3	経　大	奥村（近大）	野田・沖野（近大）	柏木（大院）	川口・寺田（市大）

女　子

年度	順位	団　体	女　子　単	女　　子　　複
平成4年度	1	四条畷	西　田（四条畷）	西　田・下　川（四条畷）
	2	体　大	下　川（四条畷）	松　田・野　中（四条畷）
	3	阪大A	杉　田（四条畷）	森　・岩　永（体　大）
平成5年度	1	四条畷	野　中（四条畷）	野　中・杉　田（四条畷）
	2	体　大	杉　田（四条畷）	森　・岩　永（体　大）
	3	関　大	信　田（四条畷）	信　田・本　坊（四条畷）
平成6年度	1	四条畷	信　田（四条畷）	信　田・本　坊（四条畷）
	2	体　大	本　坊（四条畷）	森　・岩　永（体　大）
	3	関　大	吉　村（関　大）	吉　村・矢　野（関　大）

大阪学生選手権　過去の戦績

男　子

年度	順位	団体	男子単（A）	男子複（A）	男子単（B）	男子複（B）
平成7年度	1	近大A	片岡（近大）	佐藤・鈴木（近大）	平田（経法）	冨永・田中（大産）
	2	経大A	野田（近大）	本田・沼尻（近大）	鈴江（摂南）	三好・大道（大産）
	3	近大B	藤井（経大）	森　・薄（近大）	佐藤（阪大）	吉松・佐藤（阪大）
平成8年度	1	近大A	福井（近大）	野田・沖野（近大）	松本（阪大）	山下・本田（阪南）
	2	近大B	薄　（近大）	鈴木㈱・森（近大）	壇上（阪大）	宮田・加藤（阪南）
	3	経大A	福川（近大）	平野・東山（経大）	土肥（奈産）	北分・瀧沢（大工）
平成9年度	1	近大A	福井（近大）	薄・長谷川（近大）	大藤（大院）	広瀬・　堀　（市大）
	2	近大B	薄　（近大）	福井・木谷（近大）	森井（大院）	大石・河畑（大院）
	3	大院A	石川（近大）	福川・石川（近大）	遠藤（市大）	大藤・山口（大院）

女　子

年度	順位	団　体	女　子　単	女　　子　　複
平成7年度	1	四条畷	川　口（四条畷）	川　口・吉　富（四条畷）
	2	関外A	内　田（四条畷）	内　田・鬼　頭（四条畷）
	3	体　大	吉　富（四条畷）	鈴　木・三　村（関　外）
平成8年度	1	四条畷	鬼　頭（四条畷）	赤　澤・加　藤（四条畷）
	2	関外A	澤　田（四条畷）	住　田・澤　田（四条畷）
	3	体　大	大　石（四条畷）	鬼　頭・近　藤（四条畷）
平成9年度	1	四条畷	加　藤（四条畷）	大　石・尾　後（四条畷）
	2	体　大	尾　後（四条畷）	岡　田・中　垣（関　外）
	3	関　外	赤　澤（四条畷）	木　村・益　田（体　大）

大阪学生バドミントン新人戦結果

年度	順位	男子単（A）	男　子　複	女子単（A）	女　子　複
平成6年度	1	佐野　　淳（経大）	野田•沖野（近大）	岡田　えみ（関外）	矢野・土庵（関大）
	2	林　　祐介（経大）	鈴木• 森　（近大）	山野　深雪（関外）	鈴木・山野（関外）
	3	御前　和也（近大）	平野・東山（経大）	小谷　有加（関外）	三村・岡田（関外）
平成7年度	1	土屋　貴孝（近大）	薄・長谷川（近大）	八田乃理子（大院）	山野・岡田（関外）
	2	福川　祥生（近大）	小澤・福川（近大）	梶原　英子（関大）	八田・野村（大院）
	3	新垣　　学（経大）	佐野・新垣（経大）	木村　典子（体大）	宮原・小谷（関外）
平成8年度	1	石川　　澄（近大）	小澤・福井（近大）	内藤　元子（関外）	奥村・内藤（関大）
	2	福井　剛士（近大）	吉森・武井（大院）	井戸　里美（体大）	八田・谷増（大院）
	3	武井　宣幸（大院）	河村・木谷（近大）	藤田　希美（体大）	井戸・藤田（体大）

関西学生リーグ戦の成績

（大阪の大学は　で表しています）

［男子１部］

昭和26年	①関　大	②大　谷	③同　大	④京　大	⑤関　学	⑥立　命
昭和27年	①同　大	②関　学	③関　大	④立　命	⑤大　谷	⑥京　大
昭和28年	①同　大	②関　学	③関　大	④立　命	⑤京　薬	⑥大　谷
昭和29年春	①関　大	②同　大	③立　命	④関　学	⑤京　薬	⑥京　大
〃　秋	①同　大	②立　命	③関　大	④関　学	⑤神　商	⑥京　薬
昭和30年春	①関　大	②同　大	③立　命	④関　学	⑤神　商	⑥大　経
〃　秋	①関　大	②同　大	③神　商	④立　命	⑤関　学	⑥大　経
昭和31年春	①関　大	②同　大	③立　命	④神　商	⑤関　学	⑥大　経
〃　秋	①関　大	②同　大	③立　命	④神　商	⑤大　経	⑥関　学
昭和32年春	①関　大	②同　大	③立　命	④神　商	⑤関　学	⑥大　経
〃　秋	①関　大	②同　大	③立　命	④神　商	⑤関　学	⑥大　経
昭和33年春	①立　命	②関　大	③神　商	④神　大	⑤関　学	⑥同　大
〃　秋	①立　命	②関　大	③同　大	④関　学	⑤神　大	⑥神　商
昭和34年春	①同　大	②関　大	③立　命	④関　学	⑤神　大	⑥大　経
〃　秋	①関　大	②立　命	③同　大	④関　学	⑤神　商	⑥神　大
昭和35年春	①関　大	②同　大	③立　命	④関　学	⑤神　商	⑥神　大
〃　秋	①関　大	②関　学	③立　命	④同　大	⑤神　大	⑥神　商
昭和36年春	①関　大	②同　大	③関　学	④立　命	⑤神　大	⑥甲　南
〃　秋	①関　大	②同　大	③関　学	④立　命	⑤甲　南	⑥神　大
昭和37年春	①関　大	②関　学	③同　大	④甲　南	⑤神　大	⑥立　命
〃　秋	①関　大	②関　学	③同　大	④神　大	⑤甲　南	⑥立　命
昭和38年春	①関　学	②同　大	③甲　南	④関　大	⑤神　大	⑥神　商
〃　秋	①同　大	②関　学	③甲　南	④関　大	⑤神　商	⑥神　大
昭和39年春	①同　大	②関　学	③関　大	④神　大	⑤甲　南	⑥神　商
〃　秋	①同　大	②関　学	③関　大	④甲　南	⑤神　大	⑥立　命
昭和40年春	①関　大	②関　学	③同　大	④甲　南	⑤大　経	⑥神　大
〃　秋	①同　大	②関　大	③関　学	④甲　南	⑤大　経	⑥市　大
昭和41年春	①関　大	②関　学	③立　命	④甲　南	⑤同　大	⑥大　経
〃　秋	①関　大	②同　大	③関　学	④近　大	⑤甲　南	⑥立　命
昭和42年春	①関　大	②同　大	③近　大	④関　学	⑤立　命	⑥甲　南
〃　秋	①関　大	②近　大	③同　大	④関　学	⑤立　命	⑥神　大
昭和43年春	①関　大	②近　大	③同　大	④関　学	⑤立　命	⑥甲　南
〃　秋	①関　大	②近　大	③同　大	④神　大	⑤関　学	⑥立　命
昭和44年春	①近　大	②関　大	③同　大	④神　大	⑤関　学	⑥立　命
〃　秋	①近　大	②関　大	③同　大	④神　大	⑤関　学	⑥甲　南
昭和45年春	①近　大	②関　学	③関　大	④同　大	⑤阪　大	⑥神　大
〃　秋	①近　大	②関　学	③関　大	④同　大	⑤阪　大	⑥竜　大

昭和46年春	①近　大	②関　大	③関　学	④阪　大	⑤立　命	⑥同　大	
〃　秋	①近　大	②関　大	③関　学	④同　大	⑤立　命	⑥阪　大	
昭和47年春	①近　大	②同　大	③阪　大	④関　学	⑤立　命	⑥関　大	
〃　秋	①近　大	②立　命	③阪　大	④京　工	⑤同　大	⑥関　学	
昭和48年春	①近　大	②立　命	③大　経	④同　大	⑤阪　大	⑥京　工	
〃　秋	①近　大	②関　学	③立　命	④大　経	⑤同　大	⑥阪　大	
昭和49年春	①近　大	②大　経	③京　産	④立　命	⑤同　大	⑥関　学	
〃　秋	①近　大	②大　経	③関　大	④京　産	⑤立　命	⑥同　大	
昭和50年春	①近　大	②大　経	③立　命	④関　大	⑤同　大	⑥京　産	
〃　秋	①近　大	②大　経	③京　大	④関　大	⑤立　命	⑥同　大	
昭和51年春	①近　大	②大　経	③立　命	④関　大	⑤同　大	⑥京　大	
〃　秋	①近　大	②大　経	③立　命	④京　大	⑤同　大	⑥関　大	
昭和52年春	①近　大	②立　命	③京　大	④大　経	⑤同　大	⑥京　産	
〃　秋	①近　大	②大　経	③立　命	④京　大	⑤同　大	⑥関　学	
昭和53年春	①近　大	②大　経	③同　大	④立　命	⑤京　大	⑥関　学	
〃　秋	①近　大	②大　経	③同　大	④京　産	⑤立　命	⑥京　大	
昭和54年春	①近　大	②大　経	③同　大	④京　産	⑤立　命	⑥神　大	
〃　秋	①近　大	②大　経	③京　産	④竜　大	⑤大　経	⑥同　大	
昭和55年春	①近　大	②京　産	③大　経	④同　大	⑤竜　大	⑥関　大	
〃　秋	①近　大	②京　産	③大　経	④同　大	⑤竜　大	⑥甲　南	
昭和56年春	①近　大	②同　大	③大　経	④京　産	⑤関　大	⑥竜　大	
〃　秋	①近　大	②同　大	③京　産	④大　経	⑤関　大	⑥天　理	
昭和57年春	①近　大	②京　産	③天　理	④大　経	⑤同　大	⑥関　大	
〃　秋	①近　大	②京　産	③同　大	④大　経	⑤天　理	⑥甲　南	
昭和58年春	①近　大	②京　産	③同　大	④天　理	⑤大　経	⑥甲　南	
〃　秋	①近　大	②京　産	③同　大	④大　体	⑤天　理	⑥関　大	（バド・マガ賞）
昭和59年春	①近　大	②京　産	③大　体	④天　理	⑤大　経	⑥同　大	水　崎（大体）
〃　秋	①近　大	②京　産	③天　理	④大　体	⑤甲　南	⑥大　経	中　村（天理）
昭和60年春	①近　大	②大　体	③京　産	④竜　大	⑤大　経	⑥天　理	小　田㈱（大体）
〃　秋	①近　大	②京　産	③大　体	④同　大	⑤竜　大	⑥甲　南	奥　野（近大）
昭和61年春	①近　大	②同　大	③京　産	④大　体	⑤立　命	⑥大　教	早　戸（近大）
〃　秋	①近　大	②同　大	③京　産	④竜　大	⑤大　体	⑥甲　南	杉　本（近大）
昭和62年春	①近　大	②同　大	③京　産	④竜　大	⑤大　体	⑥関　大	村　山（近大）
〃　秋	①同　大	②京　産	③近　大	④竜　大	⑤天　理	⑥大　経	岡　（同大）
昭和63年春	①近　大	②同　大	③竜　大	④京　産	⑤大　体	⑥天　理	江　藤（近大）
〃　秋	①近　大	②同　大	③京　産	④大　経	⑤竜　大	⑥関　大	浜　松（近大）
平成元年春	①同　大	②近　大	③大　経	④京　産	⑤天　理	⑥竜　大	三　角（同大）
〃　秋	①同　大	②近　大	③大　経	④京　産	⑤天　理	⑥竜　大	鈴　木（同大）
平成 2年春	①同　大	②近　大	③大　経	④竜　大	⑤京　産	⑥天　理	植　村（同大）
〃　秋	①近　大	②同　大	③大　経	④龍　大	⑤京　産	⑥天　理	稲　村（近大）
平成 3年春	①近　大	②同　大	③龍　大	④大　経	⑤天　理	⑥京　産	岸　田（近大）
〃　秋	①同　大	②近　大	③龍　大	④大　経	⑤立　命	⑥天　理	平　野（同大）

平成 4年春	①同　大	②近　大	③立　命	④龍　大	⑤大　経	⑥天　理	秋　草（同大）
〃　秋	①近　大	②同　大	③立　命	④京　産	⑤龍　大	⑥大　経	本　田（近大）
平成 5年春	①同　大	②近　大	③立　命	④大　経	⑤龍　大	⑥京　産	平　井（京産）
〃　秋	①立　命	②同　大	③近　大	④京　産	⑤大　経	⑥龍　大	杉　田（立命）
平成 6年春	①近　大	②同　大	③立　命	④京　産	⑤龍　大	⑥大　経	斎　藤（同大）
〃　秋	①近　大	②京　産	③龍　大	④同　大	⑤大　経	⑥立　命	野　田（近大）
平成 7年春	①近　大	②京　産	③同　大	④龍　大	⑤大　経	⑥天　理	青　木（同大）
〃　秋	①京　産	②近　大	③立　命	④龍　大	⑤同　大	⑥大　経	副　島（京産）
平成 8年春	①近　大	②京　産	③立　命	④龍　大	⑤大　経	⑥同　大	薄　（近大）
〃　秋	①近　大	②立　命	③龍　大	④京　産	⑤天　理	⑥大　経	福　井（近大）
平成 9年春	①近　大	②立　命	③京　産	④天　理	⑤龍　大	⑥大　経	佐　野（大経）

［女子１部］

昭和33年秋	①京　女	②同　女	③樟　蔭	④滋　教	⑤神女学	⑥和　大
昭和34年春	①京　女	②大　府	③同　女	④神女学	⑤滋　教	⑥和　大
〃　秋	①京　女	②同　女	③神女学	④大　府	⑤和　大	⑥滋　教
昭和35年春	①樟　蔭	②京　女	③神女学	④同　女	⑤和　大	⑥滋　教
〃　秋	①京　女	②樟　蔭	③神女学	④甲　南	⑤同　女	⑥関　学
昭和36年春	①京　女	②樟　蔭	③神女学	④同　女	⑤関　学	⑥山　手
〃　秋	①樟　蔭	②京　女	③神女学	④関　学	⑤山　手	⑥神　大
昭和37年春	①樟　蔭	②京　女	③山　手	④神女学	⑤関　学	⑥神　大
〃　秋	①樟　蔭	②京　女	③関　学	④山　手	⑤神女学	⑥松　陰
昭和38年春	①樟　蔭	②京　女	③関　学	④山　手	⑤神女学	⑥武庫川
〃　秋	①樟　蔭	②京　女	③関　学	④武庫川	⑤神女学	⑥大　院
昭和39年春	①京　女	②樟　蔭	③大　院	④神女学	⑤関　学	⑥武庫川
〃　秋	①京　女	②樟　蔭	③武庫川	④大　院	⑤関　学	⑥神女学
昭和40年春	①京　女	②樟　蔭	③関　学	④武庫川	⑤大　院	⑥神女学
〃　秋	①京　女	②樟　蔭	③武庫川	④関　学	⑤大　院	⑥松　陰
昭和41年春	①京　女	②樟　蔭	③武庫川	④関　学	⑤大　院	⑥松　陰
〃　秋	①京　女	②樟　蔭	③関　学	④武庫川	⑤松　陰	⑥大　院
昭和42年春	①武庫川	②樟　蔭	③関　学	④京　女	⑤大　教	⑥松　陰
〃　秋	①樟　蔭	②武庫川	③関　学	④大　教	⑤京　女	⑥京　教
昭和43年春	①大　教	②樟　蔭	③武庫川	④京　教	⑤京　女	⑥関　学
〃　秋	①樟　蔭	②大　教	③武庫川	④関　学	⑤京　女	⑥京　女
昭和44年春	①武庫川	②樟　蔭	③市　大	④大　教	⑤関　学	⑥京　教
〃　秋	①東大阪	②武庫川	③樟　蔭	④市　大	⑤大　教	⑥関　学
昭和45年春	①東大阪	②武庫川	③大　教	④樟　蔭	⑤松　陰	⑥市　大
〃　秋	①東大阪	②武庫川	③樟　蔭	④大　教	⑤奈　教	⑥松　陰
昭和46年春	①東大阪	②大　教	③樟　蔭	④神　大	⑤武庫川	⑥奈　教
〃　秋	①東大阪	②樟　蔭	③親　和	④大　教	⑤武庫川	⑥神　大
昭和47年春	①樟　蔭	②親　和	③武庫川	④大　教	⑤松　陰	⑥東大阪

〃 秋	①樟　蔭	②親　和	③大　体	④武庫川	⑤京　女	⑥東大阪	
昭和48年春	①樟　蔭	②武庫川	③大　体	④京　女	⑤親　和	⑥大　教	
〃 秋	①樟　蔭	②武庫川	③大　体	④京　女	⑤滋　教	⑥甲　南	
昭和49年春	①武庫川	②樟　蔭	③大　体	④神　大	⑤京　女	⑥山　手	
〃 秋	①武庫川	②樟　蔭	③京　女	④大　体	⑤神　大	⑥大　教	
昭和50年春	①武庫川	②樟　蔭	③大　体	④京　女	⑤京　教	⑥神　大	
〃 秋	①武庫川	②樟　蔭	③大　体	④神　大	⑤京　教	⑥京　女	
昭和51年春	①武庫川	②樟　蔭	③神　大	④大　体	⑤大　教	⑥京　教	
〃 秋	①樟　蔭	②武庫川	③大　体	④大　教	⑤神　大	⑥松　陰	
昭和52年春	①武庫川	②樟　蔭	③大　体	④神　大	⑤大　教	⑥京　大	
〃 秋	①四条畷	②樟　蔭	③大　体	④神　大	⑤大　教	⑥京　大	
昭和53年春	①四条畷	②武庫川	③樟　蔭	④大　体	⑤神　大	⑥京　教	
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③大　教	④樟　蔭	⑤大　体	⑥神　大	
昭和54年春	①四条畷	②武庫川	③大　教	④大　体	⑤樟　蔭	⑥神　大	
〃 秋	①四条畷	②天　理	③武庫川	④大　体	⑤大　教	⑥仏　大	
昭和55年春	①四条畷	②武庫川	③天　理	④大　体	⑤大　教	⑥甲　南	
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③大　体	④天　理	⑤大　教	⑥竜　大	
昭和56年春	①四条畷	②天　理	③竜　大	④武庫川	⑤大　体	⑥大　教	
〃 秋	①四条畷	②天　理	③竜　大	④武庫川	⑤大　体	⑥大　教	
昭和57年春	①四条畷	②武庫川	③大　体	④竜　大	⑤天　理	⑥甲南女	
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③竜　大	④大　体	⑤甲南女	⑥仏　大	
昭和58年春	①四条畷	②竜　大	③武庫川	④大　体	⑤天　理	⑥京　教	
〃 秋	①四条畷	②竜　大	③武庫川	④大　体	⑤天　理	⑥京　教	（バド・マガ賞）
昭和59年春	①四条畷	②天　理	③竜　大	④武庫川	⑤大　体	⑥京　教	尾　崎（天　理）
〃 秋	①四条畷	②天　理	③大　体	④竜　大	⑤武庫川	⑥京　教	押　切（四条畷）
昭和60年春	①四条畷	②天　理	③大　体	④竜　大	⑤武庫川	⑥京　教	鴻　原（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②竜　大	③天　理	④大　体	⑤武庫川	⑥甲　南	平　井（竜　大）
昭和61年春	①四条畷	②竜　大	③武庫川	④天　理	⑤大　体	⑥京　大	新　木（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②竜　大	③天　理	④大　体	⑤武庫川	⑥立　命	柴　村（竜　大）
昭和62年春	①四条畷	②竜　大	③天　理	④武庫川	⑤大　体	⑥大　教	今　村（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②竜　大	③天　理	④武庫川	⑤大　体	⑥関　外	北　浦（四条畷）
昭和63年春	①四条畷	②竜　大	③武庫川	④天　理	⑤大　体	⑥関　外	利　川（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②竜　大	③大　体	④武庫川	⑤天　理	⑥関　外	堀　尾（竜　大）
平成元年春	①四条畷	②武庫川	③大　体	④竜　大	⑤天　理	⑥大　教	南里﨑（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③天　理	④大　体	⑤立　命	⑥竜　大	三ッ川（四条畷）
平成 2年春	①四条畷	②武庫川	③竜　大	④天　理	⑤立　命	⑥大　体	岩　田（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③龍　大	④天　理	⑤立　命	⑥神女短	新　木（四条畷）
平成 3年春	①四条畷	②武庫川	③龍　大	④立　命	⑤天　理	⑥関　外	坂　田（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③龍　大	④立　命	⑤天　理	⑥関　外	畑　山（四条畷）
平成 4年春	①武庫川	②四条畷	③天　理	④竜　大	⑤立　命	⑥関　外	安　原（武庫川）
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③立　命	④天　理	⑤龍　大	⑥大　体	西　田（四条畷）
平成 5年春	①武庫川	②四条畷	③天　理	④龍　大	⑤立　命	⑥大　体	下　村（武庫川）

〃 秋	①四条畷	②武庫川	③天　理	④龍　大	⑤立　命	⑥大　体	杉　田（四条畷）
平成 6年春	①四条畷	②武庫川	③龍　大	④立　命	⑤天　理	⑥神　院	川　口（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③天　理	④龍　大	⑤神　院	⑥立　命	内　田（四条畷）
平成 7年春	①四条畷	②武庫川	③天　理	④龍　大	⑤関　外	⑥大　体	吉　冨（四条畷）
〃 秋	①四条畷	②武庫川	③天　理	④龍　大	⑤神　院	⑥立　命	鬼　頭（四条畷）
平成 8年春	①武庫川	②四条畷	③天　理	④龍　大	⑤立　命	⑥神　院	的　場（武庫川）
〃 秋	①天　理	②四条畷	③武庫川	④立　命	⑤龍　大	⑥神　院	渡　辺（天　理）
平成 9年春	①天　理	②四条畷	③立　命	④龍　大	⑤神　院	⑥武庫川	壇　原（天　理）

大阪高等学校体育連盟
バドミントン部

◆ 祝辞 ◆



新たな発展へ

大阪高等学校体育連盟バドミントン部
部長 寺田　英夫

大阪バドミントン協会が創立５０周年を迎えるにあたり、傘下の一員である大阪高等学校体育連盟バドミントン部を代表して、心からお慶びを申し上げます。

５０年の歴史のなかで、本協会は、全国屈指の強力な組織を確立され、全国的にも世界的にも優秀な選手を輩出させるとともに、バドミントンを人びとの中に広く普及させる面でも輝かしい実績をあげて来られました。これらの事業に関わって来られた先輩諸氏並びに指導者・関係者の皆様に深甚な敬意を表し、感謝いたします。わが高体連バドミントン部も、本協会のご援助と関係者のご尽力により、各種全国大会で通算数十回の優勝を果たすなど、一定の役割を果たしてきたことを共に喜びたいと思います。

２１世紀を目前にした今日の課題の一つは、人びとの健康増進と青少年の健全育成であります。スポーツ振興や健康教育についての、国の指針が示されようとしています。伝えられる内容の一部には、学校の部活動の勝利至上主義の改善、生涯スポーツのための指針、競技スポーツの振興策などが含まれるとのことです。

学校教育におけるバドミントンも、新たな発展のために多角的な視点から点検と整理が求められています。具体的には、体育教科の授業種目としての拡充、課外活動のバドミントンクラブ及び部活動の育成、高体連加盟校の増加、組織の強化と指導者の育成、生徒の課外活動と社会体育・社会教育との連携等で、これらについて一定の前進も見られます。

また、ファミリースポーツ・生涯スポーツとしての観点から、バドミントンの普及、すなわち、すそ野の拡大に、関係者は配慮していきたいものです。

私事ながら、私が２０歳代に高校バドミントン部の顧問になって以来３０余年になりますが、かつて高校生であったかれらとのきずなは、私の喜びであり宝物です。中には５０歳代に達した教え子たちもいますが、かれらは高校のバドミントン部以来心身ともに健康でたくましく活躍しており、かれらにとってもバドミントンは生きる支えであり宝物です。

バドミントンは多くの人びとが楽しめて、体力・知力・技術力・精神力を要求される魅力的で優れたスポーツだと改めて思います。

縁あって、高体連の仕事に関わる者として、その責務の重大さを痛感いたします。実は大阪高体連バドミントン部も新たな発展をめざして、本年度から二年間にわたる５０周年事業を計画しております。私自身はもとより微力でありますが、先生方ともども組織をあげて本協会の中で本連盟としての役割を果たしていく所存です。皆様の本連盟へのご指導ご協力を改めてお願い申し上げます。

本協会と本連盟の５０周年を機に、新たな発展へ、私たちみんなが精一杯力を尽くすことを誓って、祝辞とご挨拶といたします。

◆ 祝辞 ◆



５０周年によせて

大阪高等学校体育連盟バドミントン部
専門委員長　藤本　信之

大阪バドミントン協会が創立５０周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。私達のバドミントン協会が記念すべき５０周年を迎え、着実に発展を遂げていることは、所属団体の一員として誠に喜ばしく思います。

近年、大阪におけるバドミントンの活動も活発になりました。かつて高体連の公式戦で活躍した選手達が、大阪のいたるところでバドミントンを続けている様子を見るにつけ、大変うれしく思います。

私自身すでに顧問として指導を続け、今年で２０年になります。この間、バドミントンを教えた生徒も３００人を数えていますが、大学でバドミントンを続ける者、近隣にある社会人クラブに所属する者、市民体育館でバドミントンに汗する者、就職した会社のバドミントン部で活躍する者、結婚・出産の後再びラケットを握った者など、生涯できるスポーツとしてバドミントンが大阪で発展している様子を目の当たりにしています。

小学生の組織から大人の組織まで８つの連盟をまとめている大阪バドミントン協会の日々の活動が今日の大阪におけるバドミントンの隆盛の源となっているのではないでしょうか。大阪でバドミントンをしている８０００人におよぶ愛好家が、今日の日本のバドミントンを支えているのではないでしょうか。

５０周年におよぶ歴史のなかで、大阪のいや日本のバドミントンの先駆的な役割を果たされた１９５０年代の方々、大阪でのバドミントンの普及に奔走された１９６０年代の方々芽生えたバドミントンを確実に成長させてこられた１９７０年代の方々、そして大所帯になった大阪バドミントン界を忙しく切り盛りされてこられた１９８０年代の方々の、バドミントンによせる熱い思いを私達１９９０年代の者が引き継いでいく必要があると痛感しています。

今回５０周年の節目に当たり記念誌を発行されることで、温故知新の良き機会だと私は思います。明日を支える若い力を育成している高体連も、過去の学び、ともに大阪バドミントン協会の未来像を語り合おうではありませんか。

大阪高体連バドミントン部の沿革について

前専門委員長　山崎　満彦

昭和22年秋に大阪バドミントン協会が誕生したが、当時は同好の者が大阪ＹＭＣＡの体育館に集まり、バドミントンを楽しんでいたがその数は極めて少なかった。

それとは別に、戦後まもなく女子高校などで、開催された「追い羽根大会」などもバドミントンの誕生に関係があったと思う。

昭和23年春頃よりバドミントンの普及のために、前期のＹＭＣＡ関係者によってたびたび講習会に、男子では三島野（現茨木）・高津、女子では前期２校のほかに樟蔭東・扇町の生徒の顔が見られた。従ってこれらの学校は殆ど同時にバドミントン部が出来たと思える。やがて高津高校の井上得三氏が中心になって高体連（中体連）に働きかけバドミントン部が誕生した。当時の役員は、部長に前田要氏（高津高校校長）・主任に井上得三氏（高津高校）で、委員には前田〔現秋岡〕澄子氏（樟蔭東高）・佐川寿恵子（扇町高）・船原静江（生野）の名前も残っている。（三島野高は顧問の代わりに、主将の高谷芳明君が会議に出席していたようだ。）

当時は、バドミントン人口が少ないため、総ての大会は協会が主管しており、高校の部・一般の部の区別だけで、会場も同じであったようだ。ま、技術的には高校生の方が一般・大学生を上回っていた。第４回国体（東京）には、大阪を代表して次の選手が参加しているが全員が高校生であった。

一般男子　単　高谷（三島野１年）　伊藤（高津３年）　複　高谷・渡辺（三島野１年）

一般女子　単　藤波（樟蔭東３年）　井口（高津２年）　複　太子・衣笠（三島野１年）

高谷選手がよく語る「裸足で試合をしたら注意を受けた…」はこの大会である。この国体が契機になって他府県との交流も一層盛んになり、岡山県まで夜行で往復して試合をしたことも記録に残っている。

昭和25年秋の国体（愛知）よりバドミントンが正式種目になったが、種目はまだ一般男子・一般女子・高校男子の３種目であった。大阪代表は、高校男子の部は当然であるが、一般女子の部も全員が高校生であった。

昭和26年４月、前年より協会理事であった青木昭二氏（三島野高）が主任（現在の専門委員長）に就任、12年間にわたって後の発展の基礎固めをされた。この年の９月、大阪高校総合体育大会に、大阪府教育委員会より、立派な優勝旗を頂いた。やっと他の種目並みになった事を喜んだが、男子の部だけのため、男子の部の優勝旗に男子の部・三島野高校、女子の部樟蔭東高と並べて書いたことを思い出す。（女子の部の優勝旗を受けたのは昭和27年度であった。）

第６回国体（広島県）より選手が３名になり、高校男子の部が初めて４回戦まで進みベスト８に入った。メンバーは高谷・多田（三島野）寺田（生野）であった。

また、現在も毎年８月に開催されている、全日本高等学校選手権大会（現在の全国高等学校総合体育大会）には、第１回（昭和25年・横浜市）第２回（昭和26年・札幌市）とも、大阪府からは参加していない。第１回は高体連よりの連絡不足で、第２回は北海道という遠隔地の上、津軽海峡に戦争の影響で機雷が浮遊しており、不安という事で参加しなかったようだ。

昭和２７年８月、第３回全日本高等学校選手権大会（香川県善通寺市）に大阪府より初めて参加した。当時は、団体戦のみで各府県上位２校が参加出来た。男子の部三島野高、西野田工高・女子の部樟蔭東高、扇町高が参加した。因に、大阪府予選参加校数は男子６校女子７校であった。

当時の大阪高体連バドミントン部の年間行事は５月上旬の府民体育祭・６月の全国大会予選・９月の大阪高校総合大会・11月の高校選手権・２月の新人戦であったが、参加校が少ないのでどの試合も２、３日で終了していた。また、国体・全国大会以外に、近畿高校総合（団体・９月）近畿選手権（個人・11月）西日本大会（個人・１月）があったが、現在残っているのは近畿選手権だけである。

昭和36年ようやく加盟校数は、男子14校、女子23校、定時制６校に増えた。昭和３８年より岸研一氏（佐野工）が専門委員長を引き継がれた。昭和４０年近藤〔布施女（現東大阪）〕が単で、ついで昭和４３年東大阪が団体で初の全国制覇を果たした。さらに、昭和４５年から四條畷学園の第１期黄金時代を迎えるのである。団体では昭和４６年から３連覇、昭和５０年からの５連覇と敵なしの感があった。中でも、後に日本代表選手として国際舞台で活躍した秋本姉妹、徳田、植野、北田などによる昭和４５～５４年の単の１０連覇が光っている。昭和４３年全加盟校が６０校を越え、事務処理上、学校番号制を採用、次いで昭和４５年より、要項・記録等をまとめた『ＢＩＲＤ』を毎年発行することになったが、当時としては画期的なものであった。昭和４９年より藤浪輝吉氏（西野田工）、次いで、昭和５２年より石橋三彦氏（茨木工・高槻北）が専門委員長に就任、生徒の急増期で府立高校が次々と新設され、加盟校数は昭和６０年ピークに達し、全日制だけで男子１３０校女子１７０校となった。登録者数も４千名近くとなり、名実ともに大組織に発展した。昭和６１年より山崎満彦氏（山本）が専門委員長を引き継いだ。女子は四條畷学園が水井姉妹を擁して第２期黄金時代を築いていたが、一方、男子も平成２年に岸田（此花学院）が単で初の全国制覇を果たし、翌年片岡（此花学院）が続いて実力的に全国レベルに達した。しかし、残念ながら団体では未だ優勝はなく、今後の課題といえる。平成５年より藤本信之氏（千里）が専門委員長に就任、コンピューター化に努め、今や登録だけでなく組合せもパソコンで出来るようになった。しかし、生徒の急減期を迎えて大幅に登録者数が減少し、今春の全国高校総体大阪府予選会団体では、男子２８校、女子１００校までに落ち込んだ。財政上の問題、さらにバドミントンの人気低迷等問題はあるが、幾多の国際級の選手を生み出してきた伝統の火をたやさぬよう、役員一同努力を惜しまぬ覚悟である。今後とも大阪協会のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

大阪高体連バドミントン部主催行事について

大阪府立大正高校　広瀬　冨太

現在、年間３つの大会を運営しております。

まず、春の春季競技大会。夏のインターハイへ向けての予選会です。夏の大会につづいて多く、今年度５１回目です。団体・個人戦と行ってきましたが、'９２年度よりＩ部Ⅱ部制を導入、インターハイ予選が主であるものの、多くの学校への表彰の機会が設けられるよう配慮しております。インターハイ予選の方ですが、今では常勝校が決まっているわけでもなく、団体戦での試合の進行は、時間や会場など、メンタルな要素も大きく影響するため非常に気を使います。

夏の大会。＜大阪高校総合体育大会＞という大阪高体連すべての種目が主催して行われる大会です。今年度で５２回目。最も古くから行われている大会です。種目は団体戦・個人戦とありますが、団体戦を行わず、個人戦のみで行っていた時代もありました。１・２年生はこの大会の結果によって秋の近畿大会への出場権が得られます。上位校の激しい戦いが蒸し暑い体育館の中で繰り広げられます。１９７４年まではＩ部Ⅱ部制で行われていましたが、いったん１つに統一されています。さらに'９２年度からは、主に３年生がエントリーする大会（大阪総体）をＡの部に、１・２年生の近畿大会をめざす大会をＢの部に、１・２年生の近畿大会につながらない大会（大阪総体）をＣの部にと３つにわれ、より近い実力のプレイヤーが対戦することにより白熱した試合が行われています。試合の進行は大変です。全部で１４の試合を短期間（数日）に行うのですから、役員は休めません。

冬の大会は大阪高体連バドミントン部独自の大会です。何かの大会の予選ではありません。この１年間の練習の成果を大いに発揮してもらう、今年度締めくくりの大会です。個人戦のみで行っております。なかなか体育館の確保が難しく、毎年エントリー数が問題になっています。

エントリー数について少し言及すると、最近では生徒減によって男子の団体戦のエントリー数が大幅に減少しています。女子との差が著しいです。男子部の活性化が問題になっております。

この３つの大会以外に３月の全国選抜・団体の部の大阪府予選を秋に行っています。定時制・通信制の大会も春に行われます。そして約６年ごとに近畿大会・全国選抜の近畿予選・定時制通信制の近畿大会の試合運営がまわってきます。その際には大阪バドミントン協会の審判部をはじめ、各関係機関からのお手伝いをいただいております。

大阪高等学校春季競技大会

兼全国高等学校総合体育大会大阪府予選会（４・５・６月）　学校対抗の部

回数	年度	順位	男子		女子	
5	1951	1				
6	1952	1	三島野(現・茨木)		樟蔭東	
7	1953	1	三島野		樟蔭東	
8	1954	1	三島野		樟蔭東	
9	1955	1	茨木		大阪女子商業(現・大阪女子)	
10	1956	1	茨木		樟蔭東	
11	1957	1	茨木		樟蔭東	
12	1958	1	茨木		樟蔭東	
13	1959	1	茨木		樟蔭東	
14	1960	1	茨木		梅花	
15	1961	1	茨木		樟蔭東	
16	1962	1	茨木		茨木	
17	1963	1	茨木		布施女子(現・東大阪)	
18	1964	1	泉尾		布施女子	
19	1965	1	近大附属		布施女子	
20	1966	1	高津		布施女子	
21	1967	1	佐野工		東大阪	
22	1968	1	茨木		東大阪	
23	1969	1	茨木		東大阪	
24	1970	1	茨木工	(市橋・酒井・長沢・寺腰・瀬・市原)	四條畷学園	(佐古・西尾・秋本(八)・秋本(幸))
		2	佐野工	(辻本・山口・中村・植田・谷川・北口・上田)	樟蔭東	(水島・村瀬・福元・竹村・村田)
		3	生野	(田村・三田・浜本・佐久間・宮崎・上捨石)	池田	(山田・渡辺・標本・毛利)
		3	布施工	(塩見・蔭山・吉野・古松・野中・瀬良・西尾)	大阪女子商	(郡山・村田・杉田・多田・島袋)
25	1971	1	茨木	(朝倉・太田・大島・梶原)	四條畷学園	(西尾・秋本(八)・秋本(幸)・徳田・高田)
		2	佐野工	(上田・植田・谷川・北口)	堺商	(山本・水田・中村・和田・下元)
		3	布施工	(瀬良・高池・西尾・村上)	薫英	(佐竹・金谷・山本・高田)
26	1972	1	市岡	(井上・平井・高橋・西原・浅田・大前・前川)	四條畷学園	(秋本・徳田・高田・諸橋・桑田・堀川・山下)
		2	茨木	(西尾・丸山・加藤・磯部・田辺・富士・朝倉)	大谷	(田嶋・辻井・角谷・古垣・多田・船井・富士川)
		3	港	(萩原・仲尾・小山(俊)・小山(和)・三原・井上・荒井)	薫英	(山下・福田・平井・八本・井手・井上・三前)
27	1973	1	茨木工	(西谷・出田・長沢・小野田・八馬・田谷・田中)	四條畷学園	(徳田・高田・秋本・北村・植野・長田・嶋)
		2	枚方	(井上・幡野・横萩・一ノ瀬・古川・山本・川本)	精華女子	(竹村・岡村・竹本・浅島・池田・六郷・寺園)
		3	西商	(松田・岡山・森・山崎・永山・山本)	大谷	(森中・竹本・日野・伊藤・北村・春風)
28	1974	1	布施工	(金(昌)・佐々木・松井・河本・田口・金(治))	四條畷学園	(北村・植野・石川・嶋・前川)
		2	茨木	(秋元・服部・森崎・薮内・池田)	大谷	(河野・森中・北村・伊藤・竹本)
		3	枚方	(浜田・広田・一ノ瀬・古川・駒牧・後藤・西村)	枚方	(山下・岡本・窪地・青山・堺・田中)

回数	年度	順位	男子		女子	
29	1975	1	大和川	(大片・田中・中川・西口・増山・養父・萩原)	四條畷学園	(植野・北村・石川・金沢・前川・河村・平)
		2	高津	(中村・清水・久呉・南・才野本・広川・本多)	市岡商	(山下・本下・杉島・平山・森川・あべ松・馬場)
		3	茨木工	(下野・山本・本ノ平・武村・増田・宮本・中村)	箕面	(米田・俵・大塚・服部・岩田・杉村・古沢)
30	1976	1	枚方	(西村・福井・奥村・市場・小池・長山・谷口)	四條畷学園	(石川・前川・金沢・河村・平・原口・末兼)
		2	花園	(柴山・平山・川地・桑名・松並・田代・西林)	市岡商	(あべ松・馬場・東・古家・張間・中岡・乾)
		3	西野田工	(長谷川・生田・川端・片淵・西野・上枝・三村)	薫英	(犬伏・高田・多田・永尾・竹本・町田・久米)
31	1977	1	交野	(矢寺・奥村・西尾・林・山埜・向井・奥野)	四條畷学園	(平・河村・原口・末兼・合川・北田・植田)
		2	西野田工	(三村・百田・西野・上枝・石川・佐々本)	薫英	(竹本・永尾・久米・町田・下村・宮本・石原)
		3	泉尾	(石川・辻本・山城・田畑・福田・川上)	汎愛	(井内・村上・秋山・小林・岩本・前原・山本)
32	1978	1	交野	(向井・林・山埜・奥野・谷辻・有園・川島)	四條畷学園	(合川・原口・北田・植田・冨田・松田・大関)
		2	枚方	(長山・営仲・幸田・澤邊・大崎・塩尻)	薫英	(町田・久米・下村・横田・富満・小橋・山之内)
		3	和泉	(井下・服部・笠谷・高倉)	市岡商	(平井・乾・南・山県・山下)
33	1979	1	柏原	(井谷・松窪・仁田・出野・河内・老田)	四條畷学園	(北田・植田・冨田・松田・尾崎・新木)
		2	泉尾	(西井・上杉・森・工藤・河上・嘉地)	大阪女子商	(田村・西谷・奈良・川満・安田・久保)
		3	港	(川本・有村・浦田・寺田・大前・新垣)	淀之水	(佐藤・佐々本・金沢・辻・藤井・山田)
34	1980	1	柏原	(仁田・河内・出野・老田・田部・安藤)	四條畷学園	(松田(全)・尾崎・若林・新木・松田(太)・押切)
		2	港	(大前・新垣・岡・西村・松原・杉山)	大阪女子商	(久保・川満・安田・磯部・陳・増田)
		3	茨木工	(早水・米良・斉藤・桂・馬場・片岡)	交野	(吉岡・下村・安田・佐藤・田村・井原)
35	1981	1	柏原	(安藤・田部・吉田・中西・山口・南埜)	四條畷学園	(新木・久世・松田・押切・石井・鴻原)
		2	茨木工	(片岡・中竹・桂・馬場・鈴本・福元)	東大阪	(今川・三ヶ尻・大谷・横井・徳屋・長谷川)
		3	今宮	(西村・萩原・中谷・狐井・小久保・吉野)	三島	(鶴川・河村・古川・林田・倉薗・田中)
36	1982	1	柏原	(中西・山口・南埜・勝川・増田・古久保)	四條畷学園	(押切・松田・石井・吹原・鴻原・荒井)
		2	茨木工	(福元・松本・村上・砂田・三川・堀田)	大阪女子商	(陳・増田・佐野・上田・阪田・尾崎)
		3	大和川	(横井・松田・川地・岡本・水本・高井)	汎愛	(小西・脇坂・山本・井内・阿部・谷川)
37	1983	1	柏原	(山口・勝川・南埜・古久保・古木・増田)	四條畷学園	(宮崎・鴻原・新本・山田・市川・今村)
		2	交野	(竹内・森・小手川・赤尾・北口・谷辻)	東大阪	(横井・上野・長谷川・大谷・坂本・三宅)
		3	枚方	(清家・北田・小林・岩尾・常山・大井)	大阪女子商	(上田・上山・阪田・尾崎・坂田・竹山)
38	1984	1	柏原	(古本・古久保・遠矢・見市・大石橋・広田)	四條畷学園	(新木・市川・山田・和泉・今村・片岡)
		2	茨木工	(福元・長谷・中瀬・原田・佐藤・原)	大阪女子商	(阪田・上山・上田・尾崎・芝原・竹山)
		3	枚方	(小林・岩尾・常山・中井・南・大湾)	和泉	(岩橋・松井・山本・高橋・南口・阪尾)
39	1985	1	柏原	(広田・見市・山崎・見市・松本・上田)	四條畷学園	(今村・片岡・利川・北川・南里・三ツ川)
		2	関西大倉	(水田・田中・船戸・水上・佐藤・越智)	守口東	(油谷・田中・西内・芝田・清水・福中)
		3	枚方	(常山・中井・樋口・南・大湾・中田)	薫英	(岡村・河中・前中・秋野・大村・藤本)
40	1986	1	柏原	(常山・松本・藤原・植田・藤井・高橋)	四條畷学園	(利川・南里(高)・北川・南里(泰)・三ツ川・岩田)
		2	枚方	(南・大湾・青本・仲田・山下・小野川)	薫英	(大村・春本・丸山・藤本・豊留・山盛)
		3	春日丘	(中尾・大井・本村・小掠・橘・河村)	八尾東	(西・織屋・貴島・浅田・松安・米沢)
41	1987	1	柏原	(藤井・高橋・竹中・伊藤・荒本・陣内・見市)	四條畷学園	(北川・利川・三ツ川・南里(高)・南里(泰)・岩田・水井)
		2	富田林	(森田・亀山・閏村・杉山・蔦・渡邊・中西)	八尾	(永田・隈・伊藤・谷迫・石川)
		3	守口東	(大野・甲斐・大阪・北川・東・松岡)	薫英	(丸山・藤本・豊留・有井・山盛・和田・池田)

回数	年度	順位	男子		女子	
42	1988	1	柏原	（荒本・伊藤・陣内・中西・青山・見市・仲田）	四條畷学園	（新木・岩田・希有・坂田・利川・畑山・水井）
		2	茨木工	（命苫・阿多利・中村・三澤・坂ノ上・小山・國信）	梅花	（西尾・角田・高谷・出口・大西・堂尾・日中）
		3	此花学院	（宮脇・上野・芝滝・武功・白浜・緒方・岸田）	信愛女学院	（多田・西尾・石崎・松本・今井・中野・竹田）
43	1989	1	柏原	（仲田・見市・佐藤・本村・中川・藤井・山崎）	四條畷学園	（坂田・水井・利川・畑山・礒山・松田・杉田）
		2	此花学院	（一ノ瀬・緒方・入江・岸田・片岡・秋吉・増田）	梅花	（高谷・出口・堂尾・大西・平田・中山・鹿野）
		3	枚方	（瀧・高坂・米田・小林・倉本・林・森）	薫英	（山本・伊与本・添田・植田・増田・尾崎・北村）
44	1990	1	此花学院	（岸田・上瀧・片岡・秋吉・増田・村上・川口）	四條畷学園	（礒山づ齢か松田・杉田・渡・橋本・信田）
		2	柏原	（中川・藤井・大川原・酒井・妻屋・山崎・西）	東大阪	（中島・寺尾(陽)・寺尾(幸)・池渕・浅田・角元）
		3	大阪桐蔭	（市井・吉森・佐野・野村・有田・斉藤・岸田）	信愛女学院	（砂原・高野・安田・橋本・山名・高橋・徳岡）
45	1991	1	柏原	（藤井・山崎・酒井・大川原・吉岡・西・妻屋）	四條畷学園	（松田・杉田・渡・信田・本坊・水井・川口）
		2	此花学院	（秋吉・片岡・増田・森・柳・川口・御前）	信愛女学院	（本村・橋本・沖・徳岡・山名・高田・高橋）
		3	大阪桐蔭	（青山・高野・野村・林田・有田・岸田・斉藤）	浪花女子	（海老原・越智・上村・岡崎・西田・横山・長谷）
46	1992	1	大阪桐蔭	（斉藤・有田・岸田・喜田・田中・恵美・北川）	四條畷学園	（信田・喜多・本坊・水井・川口・藤井・市橋）
		2	柏原	（仲田・推屋・森永・児玉・鳴瀬・宮田・村田）	四天王寺	（大田・高尾・鬼池・葛野・福島・梶原）
		3	此花学院	（柳・川口・外山・山崎・上野・御前・浜田）	梅花	（日野・野間本・津田・福岡・江上・織田・乾）
		3	茨木	（井原・山本・藤村・小濱・西谷・馬渡）	信愛女学院	（高田・山名(ナ)・小川・徳岡・高橋・平田・山名(マ)）
47	1993	1	此花学院	（外山・上野・山崎・御前・濱田・菊池・磯部）	四條畷学園	（水井・川口・渕側・藤井・市橋(美)・鬼頭・市橋(理)）
		2	大阪桐蔭	（恵美・北川・田中・藤田・奥井・川原・菅原）	四天王寺	（薦田・高尾・鬼池・葛野・福島・梶原・芳村）
		3	柏原	（児玉・村田・鳴瀬・中村・武井・今西・浅田）	信愛女学院	（新原・山名・田村・松井・林・平田・清水）
		3	近大附属	（榎本・土井・湊・岩田・大畑・多根井・八重澤）	成蹊女子	（田中・米山・萩原・寺本・森・米沢・根村）
48	1994	1	成器(現大阪学芸)	（土屋・木谷・福井・横井・川上・御前・福川）	四天王寺	（福島・鬼池，葛野・梶原・高尾・薦田・芳村）
		2	此花学院	（磯部・福井・山本・丸野・狩集・宮田・小倉）	四條畷学園	（市橋(美)・鬼頭・足高・市橋(理)・水上・渾田・吉岡）
		3	大阪桐蔭	（奥井・菅原・川原・矢野・角尾・才原・島影）	信愛女学院	（林・平田・清水・山名・大原・元本・兵藤）
		3	近大附属	（八重澤・岩田・岡村・大畑・佐藤・荒川・国本）	成蹊女子	（森・吉村・由上・勝田・藤田・長谷川）
49	1995	1	成器	（木谷・福井・御前・永谷・福川・松下・横井）	四天王寺	（薦田・芳村・鄭・中村・田村・山日・福永）
		2	此花学院	（丸野・狩集・福井・山本・宮田・仲尾・本村）	四條畷学園	（市橋・澤田・水上・吉岡・尾後・谷嶋・小畑）
		3	柏原	（松重・片桐・森岡・奥本・井上・瀬川・恵良）	成蹊女子	（長谷川・藤田・西谷・南・根村・奥・岡本）
		3	大阪桐蔭	（島影・角尾・再原・宇治・甲林）	信愛女学院	（井上・岡田・大原・田邊・対馬・元本・奥村）

回数	年度	順位	男子		女子	
50	1996	1	大阪学芸	（御前・永谷・福川・松下・佐々本・谷元・松尾）	四條畷学園	（吉岡・尾後・谷嶋・小畑・速水・坂口・上田）
		2	柏原	（米村・大石・原田・恵良・奥本・今西・井原）	四天王寺	（鄭・山田・福永・安城・菅原・田村・田島）
		3	交野	（平田・三田・福田・波多野・大月・小谷）	信愛女学院	（元本(久)・江川・大江・常行・梶原・椋井・元本(千)）
		3	此花学院	（木村・藤本・増井・仲尾・奥原・堀）	近大附属	（柳本・川辺・畑・多根井・三澤・遠矢・小原）

大阪高等学校春季競技大会

兼全国高等学校総合体育大会大阪府予選会（4・5・6月）　個人の部

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
24	1970	1	酒井　（茨木工）	秋本(ハ)　（暾　学）	木島・萩原　（　港　）	秋本(ハ)・西尾　（暾　学）
		2	瀬良　（布施工）	西尾　（暾　学）	辻本・山口　（佐野工）	佐古・秋本(幸)　（暾　学）
		3	木島　（　港　）	秋本(幸)　（暾　学）	酒井・瀬　（茨木工）	水島・村瀬　（樟蔭東）
25	1971	1	瀬良　（布施工）	西尾　（暾　学）	上田・植田　（佐野工）	西尾・秋本(ハ)　（暾　学）
		2	仲尾　（　港　）	秋本(ハ)　（暾　学）	朝倉・太田　（茨　木）	秋本(幸)・徳田　（暾　学）
		3	井上　（市　岡）	秋本(幸)　（暾　学）	衣川・稲城　（泉　尾）	田嶋・角谷　（大　谷）
26	1972	1	井上　（市　岡）	秋本　（暾　学）	萩原・仲尾　（　港　）	秋本・徳田　（暾　学）
		2	仲尾　（　港　）	徳田　（暾　学）	井上・平井　（市　岡）	高田・諸橋　（暾　学）
		3	衣川　（泉　尾）	高田　（暾　学）	衣川・池田　（泉　尾）	田嶋・角谷　（大　谷）
27	1973	1	井上　（市　岡）	徳田　（暾　学）	井上・平井　（市　岡）	徳田・高田　（暾　学）
		2	仲尾　（　港　）	植野　（暾　学）	西谷・長沢　（茨木工）	秋本・北村　（暾　学）
		3	西谷　（茨木工）	高田　（暾　学）	出田・文宇　（茨木工）	竹村・岡村　（精華女）
28	1974	1	川上　（花　園）	北村　（暾　学）	一ノ瀬・古川　（枚　方）	上野・石川　（暾　学）
		2	一ノ瀬　（枚　方）	植野　（暾　学）	佐々木・松井　（布施工）	山下・窪地　（枚　方）
		3	田中　（茨木工）	石川　（暾　学）	川端・田中　（茨木工）	松本・岩本　（工　芸）
29	1975	1	清水　（高　津）	植野　（暾　学）	西口・大片　（大和川）	植野・石川　（暾　学）
		2	中村　（高　津）	北村　（暾　学）	柴山・平山　（花　園）	河村・平　（暾　学）
		3	西村　（枚　方）	石川　（暾　学）	平石・上枝　（西　工）	堺・亀井　（枚　方）
30	1976	1	宮本　（茨木工）	石川　（暾　学）	生田・長谷川　（西　工）	石川・平　（暾　学）
		2	西村　（枚　方）	河村　（暾　学）	西村・福井　（枚　方）	河村・前川　（暾　学）
		3	奥村　（枚　方）	平　（暾　学）	宮本・中村　（茨木工）	原口・末兼　（暾　学）
31	1977	1	本多　（高　津）	河村　（暾　学）	山田・森　（藤井寺）	河村・平　（暾　学）
		2	山田　（藤井寺）	原口　（暾　学）	上枝・西野　（西　工）	末兼・北田　（暾　学）
		3	丹羽　（市立）	平　（暾　学）	西尾・奥村　（交　野）	合川・植田　（暾　学）
32	1978	1	瀧川　（大和川）	北田　（暾　学）	向井・奥野　（交　野）	合川・北田　（暾　学）
		2	阿部　（茨　木）	原口　（暾　学）	林・山埜　（交　野）	松田・大関　（暾　学）
		3	長山　（枚　方）	合川　（暾　学）	長山・當仲　（枚　方）	植田・冨田　（暾　学）
33	1979	1	井谷　（柏　原）	北田　（暾　学）	井谷・出野　（柏　原）	北田・冨田　（暾　学）
		2	當仲　（枚　方）	尾崎　（暾　学）	永井・大川　（汎　愛）	植田・松田　（暾　学）
		3	谷田　（清水谷）	植田　（暾　学）	當仲・幸田　（枚　方）	尾崎・新木　（暾　学）
34	1980	1	谷田　（清水谷）	尾崎　（暾　学）	仁日・河内　（柏　原）	松田(全)・新木　（暾　学）
		2	仁田　（柏　原）	松田(全)　（暾　学）	早水・米良　（茨木工）	松田(太)・押切　（暾　学）
		3	早水　（茨木工）	松田(太)　（暾　学）	千々松・前川　（大和川）	尾崎・久世　（暾　学）
35	1981	1	北田　（近大附）	松田　（暾　学）	安藤・田部　（柏　原）	新木・松田　（暾　学）
		2	安藤　（柏　原）	新木　（暾　学）	奥野・園部　（枚　方）	久世・押切　（暾　学）
		3	田部　（柏　原）	久正　（暾　学）	大橋・青木　（勝　山）	鴻原・荒井　（暾　学）
36	1982	1	上杉　（　港　）	鴻原　（暾　学）	中西・山口　（柏　原）	松田・押切　（暾　学）
		2	岩本　（八　尾）	松田　（暾　学）	上杉・黒田　（　港　）	鴻原・荒井　（暾　学）
		3	山口　（柏　原）	石井　（暾　学）	南埜・小久保　（柏　原）	吹原・高井　（暾　学）
37	1983	1	岩本　（八　尾）	新木　（暾　学）	山口・小久保　（柏　原）	鴻原・新木　（暾　学）
		2	山口　（柏　原）	鴻原　（暾　学）	南埜・勝川　（柏　原）	宮崎・山田　（暾　学）
		3	中嶋　（長　野）	山田　（暾　学）	古木・見市　（柏　原）	和泉・市川　（暾　学）
38	1984	1	小久保　（柏　原）	新木　（暾　学）	古木・見市　（柏　原）	新木・今村　（暾　学）
		2	見市　（柏　原）	今村　（暾　学）	遠矢・広田　（柏　原）	山田・市川　（暾　学）
		3	古木　（柏　原）	山田　（暾　学）	古久保・大石橋　（柏　原）	和泉・片岡　（暾　学）
39	1985	1	見市　（柏　原）	今村　（暾　学）	見市・常山　（柏　原）	今村・片岡　（暾　学）
		2	常山　（柏　原）	片岡　（暾　学）	広田・山崎　（暾　学）	利川・北川　（暾　学）
		3	常山　（枚　方）	利川　（暾　学）	植田・藤原　（柏　原）	三ツ川・南里　（暾　学）
40	1986	1	常山　（柏　原）	利川　（暾　学）	常山・松本　（柏　原）	南里(高)・南里(泰)　（暾　学）
		2	藤原　（柏　原）	南里(高)　（暾　学）	藤原・植田　（柏　原）	利川・岩田　（暾　学）
		3	松本　（柏　原）	岩田　（暾　学）	荒井・白浜　（此花学）	北川・三ツ川　（暾　学）

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
41	1987	1	白浜 (此花学)	南里(高) (曖 学)	高橋・武中 (柏 原)	南里(高)・南里(泰) (曖 学)
		2	藤井 (柏 原)	岩田 (曖 学)	藤井・伊藤 (柏 原)	北川・三ツ川 (曖 学)
		3	荒井 (此花学)	水井 (曖 学)	荒井・白浜 (此花学)	岩田・新木 (曖 学)
42	1988	1	伊藤 (柏 原)	岩田 (曖 学)	荒木・陣内 (柏 原)	新木・岩田 (曖 学)
		2	白浜 (此花学)	水井 (曖 学)	伊藤・見市 (柏 原)	水井・坂田 (曖 学)
		3	陣内 (柏 原)	新木 (曖 学)	三村・吉森 (桐 蔭)	磯山・橋本 (曖 学)
43	1989	1	岸田 (此花学)	水井 (曖 学)	岸田・緒方 (此花学)	水井・坂田 (曖 学)
		2	仲田 (柏 原)	坂田 (曖 学)	見市・仲田 (柏 原)	利川・畑山 (曖 学)
		3	佐藤 (柏 原)	利川 (曖 学)	三村・吉森 (桐 蔭)	磯山・橋本 (曖 学)
44	1990	1	岸田 (此花学)	松田 (曖 学)	藤井・山崎 (柏 原)	松田・杉田 (曖 学)
		2	上瀧 (此花学)	杉田 (曖 学)	岸田・上瀧 (此花学)	安留・吉沢 (八尾東)
		3	片岡 (此花学)	安留 (八尾東)	西・大川原 (柏 原)	橋本・信田 (曖 学)
45	1991	1	片岡 (此花学)	太田 (四天王)	有田・斉藤 (桐 蔭)	水井・松田 (曖 学)
		2	秋吉 (此花学)	水井 (曖 学)	藤井・山崎 (柏 原)	渡・杉田 (曖 学)
		3	酒井 (柏 原)	松田 (曖 学)	野村・林田 (桐 蔭)	信田・川口 (曖 学)
46	1992	1	斉藤 (桐 蔭)	水井 (曖 学)	中田・椎屋 (柏 原)	信田・川口 (曖 学)
		2	中田 (柏 原)	太田 (四天王)	有田・斉藤 (桐 蔭)	水井・市橋 (曖 学)
		3	岸田 (桐 蔭)	川口 (曖 学)	川口・御前 (此花学)	太田・鬼池 (四天王)
	(Ⅱ部)	1	中野 (香里丘)	磯辺 (池田北)	中川・長谷川 (電通大)	尾崎・森山 (高槻南)
		2	井藤 (高 津)	塗野 (信 愛)	河井・田中 (枚方津)	磯辺・武田 (池田北)
		3	山本 (守口東)	岸本 (門 真)	辻田・吉村 (近大附)	木下・武島 (千 里)
		3	前中尾 (守口東)	西村 (春日丘)	前中尾・宮本 (守口東)	安藤・伊藤 (山 田)
47	1993	1	外山 (此花学)	水井 (曖 学)	外山・上野 (此花学)	水井・川口 (曖 学)
		2	藤田 (桐 蔭)	川口 (曖 学)	恵美・北川 (桐 蔭)	市橋(美)・鬼頭 (曖 学)
		3	恵美 (桐 蔭)	葛野 (四天王)	藤田・奥井 (桐 蔭)	藤井・渕側 (曖 学)
	(Ⅱ部)	1	伊藤 (枚 方)	田村 (信 愛)	中野・木村 (香里丘)	土井池・多田 (宣 真)
		2	亀井 (電通大)	板垣 (摂 津)	片桐・森岡 (柏 原)	高野・丸山 (八尾東)
		3	玉井 (高 津)	板垣 (布 施)	平井・先川 (柏 原)	首藤・馬場 (西 商)
		3	若村 (高槻北)	伊東 (吹田東)	前田・土井 (関 倉)	森 ・吉村 (成 蹊)
48	1994	1	奥井 (桐 蔭)	鬼池 (四天王)	武井・川森 (柏 原)	市橋・鬼頭 (曖 学)
		2	木村 (四条畷)	葛野 (四天王)	浅田・今西 (柏 原)	福島・薦田 (四天王)
		3	木谷 (成 器)	市橋(美) (曖 学)	福井・木谷 (成 器)	鬼池・葛野 (四天王)
	(Ⅱ部)	1	紀太 (豊 中)	前田 (女子商)	田主・平田 (交 野)	林 ・山名 (信 愛)
		2	菊池 (柏原東)	南 (成 蹊)	佐藤・荒川 (近大附)	山野・ 辻 (関女短)
		3	大石 (久米田)	中塚 (春日丘)	望月・小原 (香里丘)	美濃部・伊達 (箕 面)
		3	岡田 (八尾東)	林 (信 愛)	遠藤・橋本 (茨 木)	安枝・永原 (港)
49	1995	1	木谷 (成 器)	市橋 (曖 学)	永谷・福川 (成 器)	薦田・芳村 (四天王)
		2	福井 (成 器)	芳村 (四天王)	木谷・福井 (成 器)	深田・水上 (曖 学)
		3	仲尾 (此花学)	薦田 (四天王)	丸野・狩集 (此花学)	吉岡・尾後 (曖 学)
	(Ⅱ部)	1	刑部 (枚方津)	黒沢 (八尾東)	西越・三好 (北 野)	岡田・大原 (信 愛)
		2	堀 (枚方津)	竹中 (箕面自)	松本・蒐場 (東豊中)	加藤・松倉 (薫 英)
		3	後藤田 (桜 塚)	米澤 (柴 島)	小野・杉野 (枚方西)	友谷・宝正 (摂 津)
		3	岸川 (枚方西)	坂辺 (吹 田)	岸川・伊藤 (枚方西)	岩田・稲荷 (三 島)
50	1996	1	仲尾 (此花学)	鄭 (四天王)	永谷・福川 (学 芸)	吉岡・尾後 (曖 学)
		2	宇治 (桐 蔭)	吉岡 (曖 学)	宇治・甲林 (桐 蔭)	安城・山田 (四天王)
		3	福川 (学 芸)	速水 (曖 学)	御前・松下 (学 芸)	元木(久)・元木(千) (信 愛)
	(Ⅱ部)	1	青木 (高槻南)	中村 (四天王)	植田・高田 (関 倉)	河村・磐木 (泉 陽)
		2	寒川 (守口東)	馬場 (北千里)	森本・田中 (関 倉)	岡本・大脇 (成 蹊)
		3	森本 (関 倉)	品野 (阿武野)	深田・溝田 (香里丘)	馬場・植松 (北千里)
		3	中村 (八尾東)	金田 (浪花女)	松倉・三原 (八尾東)	宮本・中山 (八尾南)

大阪高等学校総合体育大会（８月）　団体の部

回数	年度	順位	男子			女子		
33	1978	1	茨木工	2:柏原	3:清水谷	四條畷学園	2:枚方	3:淀之水
34	1979	1	柏原	2:茨木工	3:汎愛	四條畷学園	2:大阪女子商	3:野崎
35	1980	1	柏原	2:茨木工	3:清水谷	四條畷学園	2:大阪女子商	3:野崎
36	1981	1	柏原	2:勝山	3:茨木工・大和川	四條畷学園	2:大阪女子商	3:東大阪
37	1982	1	柏原	2:交野	3:茨木工・藤井寺工	四條畷学園	2:大阪女子商	3:東大阪
38	1983	1	柏原	2:枚方	3:茨木工	四條畷学園	2:東大阪	3:大阪女子商
39	1984	1	柏原	2:茨木工	3:近大附属	四條畷学園	2:大阪女子商	3:樟蔭東
40	1985	1	柏原	2:枚方	3:近大附属	四條畷学園	2:守口東	3:薫英
41	1986	1	柏原	2:茨木工	3:西野田工	四條畷学園	2:守口東	3:成蹊女子
42	1987	1	柏原	2:枚方	3:茨木工	四修畷学園	2:摂津	3:薫英
43	1988	1	柏原	（荒木・伊藤・見市・仲田・木村・藤森・中川）		四條畷学園	（新本・希有・坂田・利川・畑山・玉村・磯山）	
		2	此花学院	（白浜・岸田・緒方・福井・一ノ瀬・入佐・由谷）		梅花	（西尾・角田・高谷・出口・大西・堂尾・岡野）	
		3	茨木工	（命苫・阿多利・中村・三澤・坂ノ上・小山・國信）		八尾東	（安留・隈・平山・勝山・小川・立花・伊藤）	
44	1989	1	柏原	（仲田・見市・藤森・佐藤・中川・藤井・妻屋）		四條畷学園	（畑山・磯山・松田・杉田・渡・橋本・池端）	
		2	此花学院	（緒方・岸田・片岡・秋吉・増田・村上・西川）		八尾東	（隈・平山・安留・安田・伊藤・土屋・吉沢）	
		3	大阪桐蔭	（市井・吉森・三村・佐野・林田・野村・高野）		薫英	（伊与木・棺田・添田・山本・増田・深田・北村）	
45	1990	1	此花学院	（岸田・上瀧・片岡・秋吉・増田・柳・川口）		四條畷学園	（池端・松田・杉田・渡・橋本・信田・本坊）	
		2	柏原	（藤井・大川原・酒井・妻屋・西・吉岡・山崎）		浪花女子	（片岡・大竹・海老原・上村・岡崎・西日・横山）	
		3	大阪桐蔭	（青山・高野・野村・林田・有田・岸田・斉藤）		東大阪	（中嶋・寺尾(幸)・寺尾(陽)・池渕・浅田・角元・垣内）	
46	1991	1	柏原	（藤井・山崎・酒井・西・妻屋・大川原・吉岡）		四條畷学園	（信田・本坊・喜多・水井・川口・淵側・中嶋）	
		2	此花学院	（柳・川口・御前・濱田・外山・上野・山崎）		泉陽	（河村・西川・前・田嶋・清家・池田・小川）	
		3	大阪桐蔭	（斉藤・有田・岸田・喜田・田中・冨永・北川）		信愛女学院	（木村・橋本・高田・山名・高橋・徳岡・田村）	
		3	枚方	（栗山・森・福岡・亀井・亀岡・奥(亮)・奥(大)）		浪花女子	（海老原・越智・上村・岡崎・西田・横山・長谷）	
47	1992	1	此花学院	（磯辺・菊池・外山・山崎・上野・御前・濱田）		四條畷学園	（信田・鬼頭・本坊・水井・川口・藤井・市橋）	
		2	柏原	（中村・昇・武井・児玉・鳴瀬・宮田・村田）		信愛女学院	（高田・山名・田村・徳岡・高橋・平田・清水）	
		3	大阪桐蔭	（藤田・奥井・菅原・川原・田中・恵美・北川）		四天王寺	（太田・高尾・鬼頭・葛野・福島・梶原）	
		3	枚方	（奥・亀岡・河井・伊藤・西川）		泉陽	（池田・小川・西畑・富士永・宮田・永井・樋川）	
48	1993	1	柏原	（昇・川森・中市・片桐・武井・今西・浅田）		四天王寺	（薦田・高尾・鬼池・葛野・福島・梶原・芳村）	
		2	成器	（川上・土屋・横井・竹下・吉川・本谷・福井）		八尾東	（丸山・瀬籐・池田・地主・高野・酒井・市岡）	
		3	香里丘	（中野・川嶋・木村・西・深草・望月・岩木）		浪花女子	（山本・松田・西田・仲尾・辻中・長谷）	
		3	大阪桐蔭	（矢野・角尾・才原・島影・奥井・川原・菅原）		成蹊女子	（田中・米山・吉村・寺本・森・米澤・根村）	
49	1994	1	成器	（土屋・木谷・福井・横井・川上・御前・福川）		四天王寺	（福島・鬼池・葛野・梶原・高尾・薦日・芳村）	
		2	柏原	（森岡・中市・崎川・長谷川・昇・片桐・松重）		四條畷学園	（市橋(美)・鬼頭・尾後・市橋(理)・水上・澤田・吉岡）	
		3	大阪桐蔭	（奥井・宇治・甲林・矢野・角尾・才原・島影）		梅花	（大古・大塚・高田・下ノ村・井上・土志田・津田）	
		3	八尾東	（高林・岡田・辻田・和田・中村・川越）		信愛女学院	（林・平田・清水・山名・大原・元本・兵藤）	
50	1995	1	成器	（佐々木・永谷・福井・福川・御前・松下・木谷）		四條畷学園	（谷嶋・澤田・水上・尾後・吉岡・市橋・小畑）	
		2	大阪桐蔭	（島影・甲林・境・宇治・角尾・才原）		四天王寺	（中村・芳村・福永・鄭・田村・山田・薦田）	
		3	此花学院	（中井・木村・増井・藤本・平岡・奥原・仲尾）		信愛女学院	（江川・奥村・岡田・元木・太田・井上・大江）	
		3	柏原	（米村・原田・今西・井原・恵良・瀬川・奥本）		梅花	（井上・津田・下ノ村・宗野・大島・土志田・松本）	
51	1996	1	大阪学芸	（御前・永谷・福川・佐々木・松下・谷元・松尾）		四條畷学園	（吉岡・尾後・谷嶋・小畑・速水・坂口・上田）	
		2	柏原	（広内・井原・今西・石野・恵良・瀬川・池村）		四天王寺	（鄭・福永・山田・安城・菅原・木村・田島）	
		3	電通大	（岡澤・栗岡・菅野・松本・梅村）		信愛女学院	（元木(久)・江川・常行・大江・梶原・元木(千)・椋井）	
		3	此花学院	（増井・藤本・木村・仲尾・小林・堀・松本）		梅花	（下ノ村・松本・山田・大島・宗野・山本・辻）	

大阪高等学校総合体育大会（８月）　個人の部

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
25	1970	1	酒井　（茨木工）	西尾　（曖　学）	辻本・山口　（佐野工）	秋本(八)・西尾　（曖　学）
		2	瀬良　（布施工）	秋本(八)　（曖　学）	酒井・瀬　（茨木工）	佐古・秋本(幸)　（曖　学）
		3	中村　（佐野工）	秋本(幸)　（曖　学）		水島・村瀬　（樟蔭東）
	（２部）	1	衣川　（泉　尾）	松本　（工　芸）	衣川・稲城　（泉　尾）	大川・玉井　（市岡商）
		2	佐久間　（生　野）	大川　（市岡商）	石下・大島　（茨　木）	中村・和田　（堺　商）
		3	萩原　（　港　）	和田　（茨　木）		
26	1971	1	衣川　（泉　尾）	秋本(八)　（曖　学）	市原・上田　（茨木工）	西尾・秋本(八)　（曖　学）
		2	井上　（市　岡）	西尾　（曖　学）	上田・植田　（佐野工）	秋本(幸)・徳田　（曖　学）
		3	仲尾　（　港　）	秋本(幸)　（曖　学）	谷川・北口　（佐野工）	高田・諸橋　（曖　学）
	（２部）	1	高池　（布施工）	諸橋　（曖　学）	萩原・仲尾　（　港　）	山下・平井　（薫　英）
		2	西尾　（茨　木）	高田　（曖　学）	森・井上　（市　岡）	玉井・加藤　（市岡商）
		3	龍田　（生　野）	玉井　（市岡商）	衣川・池田　（泉　尾）	田嶋・角谷　（大　谷）
27	1972	1	仲尾　（　港　）	秋本　（曖　学）	井上・平井　（市　岡）	秋本・徳田　（曖　学）
		2	井上　（市　岡）	徳田　（曖　学）	出口・西俣　（茨木工）	高田・諸橋　（曖　学）
		3	出口　（茨木工）	高田　（曖　学）	出口・松崎　（佐野工）	井手・平井　（薫　英）
	（２部）	1	外海　（清水谷）	熊谷　（女子商）	長沢・西谷　（茨木工）	熊谷・田中　（女子商）
		2	松田　（西　商）	仲西　（近大附）	富士・中村　（茨　本）	井上・三前　（薫　英）
		3	植山　（啓光学）	竹村　（精華女）	高池・金　（布施工）	中川・大島　（布　施）
28	1973	1	仲尾　（　港　）	徳田　（曖　学）	井上・平井　（市　岡）	徳田・高田　（曖　学）
		2	井上　（市　岡）	高田　（曖　学）	西谷・長沢　（茨木工）	竹村・岡村　（精華女）
		3	外海　（清水谷）	植野　（曖　学）	福本・鈴木　（工　芸）	熊谷・鈴本　（女子商）
	（２部）	1	川上　（花　園）	北村　（曖　学）	片淵・平石　（西　工）	秋本・植野　（曖　学）
		2	一ノ瀬　（枚　方）	大島　（布　施）	佐々木・松井　（布施工）	北村・民田　（曖　学）
		3	片淵　（西　工）	竹本　（大　谷）	衣笠・坂梨　（桜　塚）	竹本・森中　（大　谷）
29	1974	1	田中　（茨木工）	植野　（曖　学）	金・佐々木　（布施工）	植野・石川　（曖　学）
		2	松井　（布施工）	北村　（曖　学）	川端・田中　（茨　木）	松本・岩本　（工　芸）
		3	佐々木　（布施工）	石川　（曖　学）	片淵・寺尾　（西　工）	木村・平田　（薫　英）
	（２部）	1	大片　（大和川）	あべ松　（市岡商）	西口・大片　（大和川）	北村・金沢　（曖　学）
		2	中村　（高　津）	酒井　（枚　方）	平石・生田　（西　工）	杉島・あべ松　（市岡商）
		3	山田　（生　野）	山口　（花　園）	中村・清水　（高　津）	上島・大西　（女子商）
30	1975	1	清水　（高　津）	植野　（曖　学）	柴山・平山　（花　園）	植野・石川　（曖　学）
		2	西村　（枚　方）	北村　（曖　学）	平石・上枝　（西　工）	平・河村　（曖　学）
		3	上枝　（西　工）	馬場　（市岡商）	生田・長谷川　（西　工）	あべ松・馬場　（市岡商）
31	1976	1	宮本　（茨木工）	石川　（曖　学）	生田・長谷川　（西　工）	河村・平　（曖　学）
		2	奥村　（枚　方）	河村　（曖　学）	西村・福井　（枚　方）	原口・末兼　（曖　学）
		3	伊藤　（茨本工）	馬場　（市岡商）	宮本・中村　（茨木工）	馬場・乾　（市岡商）
32	1977	1	百田　（西　工）	久米　（薫　英）	山田・井脇　（藤井寺）	平・河村　（曖　学）
		2	上枝　（西　工）	町田　（薫　英）	西野・上枝　（西　工）	末兼・北田　（曖　学）
		3	西野　（西　工）	井内　（汎　愛）	三村・百田　（西　工）	合川・植田　（曖　学）
33	1978	1	谷田　（清水谷）	北田　（曖　学）	倉園・蔵本　（茨木工）	北田・冨田　（曖　学）
		2	蔵本　（茨木工）	原口　（曖　学）	田中・塩谷　（柏　原）	大関・松田　（曖　学）
		3	當中　（枚　方）	合川　（曖　学）	石川・佐々木　（西　工）	若林・尾崎　（曖　学）
34	1979	1	谷田　（清水谷）	北田　（曖　学）	仁田・河内　（柏　原）	北田・冨田　（曖　学）
		2	永井　（汎　愛）	松田　（曖　学）	西井・上杉　（泉　尾）	松田・新木　（曖　学）
		3	早水　（茨木工）	新木　（曖　学）	宮里・奥野　（枚　方）	川満・安田　（女子商）
35	1980	1	谷田　（清水谷）	松田(全)　（曖　学）	早水・米良　（茨木工）	松田(全)・尾崎　（曖　学）
		2	早水　（茨木工）	松田(太)　（曖　学）	谷田・由解　（清水谷）	新木・松田(太)　（曖　学）
		3	北田　（近大附）	新木　（曖　学）	河内・老田　（柏　原）	吹原・石井　（曖　学）
36	1981	1	北田　（近大附）	松田　（曖　学）	安藤・吉田　（柏　原）	新木・久世　（曖　学）
		2	田部　（柏　原）	押切　（曖　学）	桂・馬場　（茨木工）	松田・押切　（曖　学）
		3	青木　（勝　山）	鴻原　（曖　学）	西川・井上　（大産大）	鴻原・荒井　（曖　学）
37	1982	1	神谷　（藤　工）	鴻原　（曖　学）	山口・勝川　（柏　原）	鴻原・新木　（曖　学）
		2	中嶋　（長　野）	石井　（曖　学）	竹内・谷辻　（交　野）	松田・押切　（曖　学）
		3	古久保　（柏　原）	新木　（曖　学）	南埜・古久保　（柏　原）	宮崎・山田　（曖　学）
38	1983	1	中嶋　（長　野）	大谷　（東大阪）	谷辻・森　（交　野）	大谷・横井　（東大阪）
		2	谷辻　（交　野）	長谷川　（成　蹊）	中嶋・菅野　（長　野）	吉田・溝端　（大　谷）
		3	阿部　（茨木工）	横井　（東大阪）	阿部・堀田　（茨木工）	朝倉・入谷　（薫　英）
39	1984	1	長谷　（茨木工）	中村　（樟蔭東）	長谷・中瀬　（茨木工）	阪田・上山　（女子商）
		2	小林　（啓光学）	井上　（薫　英）	小林・岡崎　（啓光学）	植田・尾崎　（女子商）
		3	服部　（八尾南）	内谷　（成　蹊）	松井・増田　（近大附）	井上・石垣　（薫　英）

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
40	1985	1	佐藤 (茨木工)	坂本 (東淀川)	佐藤・原 (茨木工)	長沢・宮本 (樟蔭東)
		2	常山 (枚 方)	長沢 (樟蔭東)	常山・中井 (枚 方)	河中・秋野 (薫 英)
		3	原 (茨木工)	黒岡 (成 蹊)	山本・兼子 (近大附)	山田・平内 (樟 蔭)
41	1986	1	吉田 (千 里)	大村 (薫 英)	名本・矢野 (箕面学)	春木・大村 (薫 英)
		2	矢野 (箕面学)	春木 (薫 英)	福井・米田 (茨木工)	田中・井出 (守口東)
		3	福井 (茨木工)	白川 (成 蹊)	尹 ・林 (布施工)	油谷・西内 (守口東)
42	1987	1	大野 (守口東)	中澤 (高槻南)	大野・甲斐 (守口東)	内山・熊野 (信 愛)
		2	甲斐 (守口東)	福塚 (守口東)	高島(和)・高島(昭) (茨木工)	前田・木下 (東淀川)
		3	高島(昭) (茨木工)	垣内 (四天王)	村上・河野 (四條北)	永田・隈 (八 尾)
43	1988	1	小野川 (枚 方)	多田 (信 愛)	命苫・阿多利 (茨木工)	多田・石橋 (信 愛)
		2	阿多利 (茨木工)	西尾 (信 愛)	中村・三澤 (茨本工)	西尾・松本 (信 愛)
		3	三澤 (茨木工)	石崎 (信 愛)	間口・角野 (近大附)	西尾・角田 (梅 花)
44	1989	1	山岸 (鳳)	山本 (薫 英)	見市・藤森 (柏 原)	高谷・出口 (梅 花)
		2	伊藤 (西 工)	高谷 (梅 花)	伊藤・田中 (西 工)	張 ・岡本 (成 蹊)
		3	小山 (茨木工)	隈 (八尾東)	田頭・原 (港)	隈 ・平山 (八尾東)
45	1990	1	上村 (八 尾)	安留 (八尾東)	岸田・増田 (此花学)	寺尾(陽)・寺尾(幸) (東大阪)
		2	福井 (茨木工)	片岡 (浪花女)	金子・向井 (高 石)	左海・安岐 (成 蹊)
		3	山本 (守口北)	左海 (成 蹊)	山本・内川 (守口北)	河中・北村 (薫 英)
46	1991	1	北辻 (近大附)	鍋良 (西 商)	森 ・栗山 (枚方)	木村・橋本 (信 愛)
		2	栗山 (枚 方)	橋本 (信 愛)	北辻・柏谷 (近大附)	橋本・根津 (梅 花)
		3	森 (枚 方)	森 (成 蹊)	竹川・武吉 (堺市商)	田嶋・池田 (泉 陽)
		4	平 (電通大)	市川 (成 蹊)	横田・遠矢 (西 工)	跡治・石田 (成 蹊)
47	1992	1	高原 (茨木西)	高橋 (信 愛)	中川・土屋 (電通大)	高田・高橋 (信 愛)
		2	土屋 (電通大)	徳岡 (信 愛)	辻田・吉村 (近大附)	山名・徳岡 (信 愛)
		3	西尾 (千 里)	山名 (信 愛)	亀岡・奥 (枚 方)	池田・小川 (泉 陽)
		4	井原 (茨 木)	野間本 (梅 花)	山本・高樋 (池田北)	野間本・日野 (梅 花)
	(Cの部)	1	原田 (茨木西)	浮田 (千 里)	山本・森下 (守口東)	石田・千原 (刀根山)
		2	森下 (守口東)	中村 (千 里)	川嶋・西 (香里丘)	武藤・林 (北千里)
		3	熊手 (西 工)	中川 (茨木西)	三宅・土田 (枚方津)	松本・蔵西 (守口東)
		3	木村 (香里丘)	瀬藤 (八尾東)	熊手・岡下 (西 工)	道端・高野 (泉 北)
48	1993	1	濱田 (此花学)	米澤 (成 蹊)	榎本・多根井 (近大附)	米澤・根村 (成 蹊)
		2	宮田 (柏 原)	根村 (成 蹊)	才原・田中 (桐 蔭)	松井・田村 (信 愛)
		3	高繁 (八尾東)	松井 (信 愛)	春名・高繁 (八尾東)	長谷・辻中 (浪花女)
		4	榎本 (近大附)	長谷 (浪花女)	山本・森下 (守口東)	田中・米山 (成 蹊)
	(Cの部)	1	原口 (摂 津)	佐野 (北千里)	中尾・山内 (八尾南)	土志田・津田 (梅 花)
		2	田主 (交 野)	土志田 (梅 花)	原口・山本 (摂 津)	北薗・八軒 (高槻南)
		3	信田 (柏原東)	山住 (茨 木)	片平・裏山 (山 本)	原田・松川 (交 野)
		3	土井 (関 倉)	山野 (関女短)	小野・伊藤 (枚方西)	佐野・柴田 (北千里)
49	1994	1	原田 (茨木西)	平田 (信 愛)	土屋・福川 (成 器)	清水・山名 (信 愛)
		2	小池 (枚方西)	大塚 (梅 花)	矢野・甲林 (桐 蔭)	大古・大塚 (梅 花)
		3	矢野 (桐 蔭)	高田 (梅 花)	川原・菅原 (桐 蔭)	西尾・祝 (東大阪)
		4	土屋 (成 器)	西尾 (東大阪)	長谷川・崎川 (柏 原)	森 ・吉村 (成 蹊)
	(Cの部)	1	横井 (成 器)	今村 (門 真)	高城・菅田 (近大附)	柳本・川辺 (近大附)
		2	西越 (北 野)	川股 (千 里)	前中尾・岸本 (守口東)	高西・中村 (門 真)
		3	小野 (枚方西)	林 (宣 真)	原 ・三田 (交 野)	中塚・徳田 (春日丘)
		3	恵美須 (香里丘)	西岡 (茨木西)	後藤田・芹田 (桜 塚)	辻・石田原 (関女短)
50	1995	1	角尾 (桐 蔭)	田中 (宣 真)	角尾・才原 (桐 蔭)	田中・薮田 (宣 真)
		2	島影 (桐 蔭)	土志田 (梅 花)	山中・原口 (摂 津)	長谷川・藤田 (成 蹊)
		3	山中 (摂 津)	大原 (信 愛)	西川・刑部 (枚方津)	井上・津田 (梅 花)
		4	才原 (桐 蔭)	薮田 (宣 真)	島影・境 (桐 蔭)	岡田・大原 (信 愛)
	(Cの部)	1	川越 (八尾東)	友谷 (摂 津)	皿谷・南 (四条畷)	白鞘・坂辺 (吹 田)
		2	中川 (枚方津)	須原 (茨 木)	川越・中村 (八尾東)	西岡・村田 (茨木西)
		3	中平 (上 官)	河村 (泉 陽)	澤田・小野 (香里丘)	雑賀・南薗 (阿武野)
		3	植田 (関 倉)	外園 (境 東)	波多野・西蔭 (交 野)	品野・前野 (阿武野)
51	1996	1	御前 (学 芸)	元木(久) (信 愛)	福山・堀 (枚方津)	本澤・増田 (門 真)
		2	木村 (此花学)	南 (成 蹊)	岡澤・菅野 (電通大)	高西・中村 (門 真)
		3	中尾 (摂 津)	松倉 (薫 英)	中尾・亀山 (摂 津)	友谷・宝正 (摂 津)
		4	福山 (枚方津)	林 (宣 真)	平田・三田 (交 野)	白鞘・坂辺 (吹 田)
	(Cの部)	1	池田 (北 野)	山本 (梅 花)	祐仙・山下 (上 宮)	藤本・東 (大 冠)
		2	山下 (上 宮)	本林 (浪花女)	池田・矢野 (北 野)	西田・横手 (阪 南)
		3	広山 (高槻南)	瀬沢 (浪花女)	三輪・吉原 (高 槻)	山本・辻 (梅 花)
		3	町田 (高 槻)	長友 (門 真)	西本・広山 (高槻南)	森本・奥田 (島 本)

近畿高等学校バドミントン選手権大会大阪府予選会（８月）

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
1	1983	1	古木　（柏　原）	今村　（曖　学）	古木・遠矢　（柏　原）	新木・今村　（曖　学）
		2	常山　（枚　方）	市川　（曖　学）	森・林　（高　槻）	山田・市川　（曖　学）
		3	見市　（柏　原）	和泉　（曖　学）	古久保・見市　（柏　原）	和泉・片岡　（曖　学）
2	1984	1	常山　（枚　方）	片岡　（曖　学）	見市・常山　（柏　原）	今村・片岡　（曖　学）
		2	常山　（柏　原）	長田　（曖　学）	広田・山崎　（柏　原）	春木・大村　（薫　英）
		3	佐藤　（茨本工）	長沢　（樟蔭東）	原・佐藤　（茨木工）	河中・平沢　（薫　英）
3	1985	1	松本　（柏　原）	南里　（曖　学）	常山・松本　（柏　原）	春木・大村　（薫　英）
		2	藤原　（柏　原）	北川　（曖　学）	杉本・拵　（八　尾）	油谷・西内　（守口東）
		3	藤井　（柏　原）	坂口　（摂　津）	藤井・高橋　（柏　原）	南里・田中　（曖　学）
4	1986	1	荒井　（此花学）	南里(泰)　（曖　学）	藤井・荒木　（柏　原）	坂口・河村　（摂　津）
		2	白浜　（此花学）	北川　（曖　学）	辻本・間口　（近大附）	中澤・松政　（高槻南）
		3	仲田　（枚　方）	新木　（曖　学）	高橋・陣内　（柏　原）	藤本・丸山　（薫　英）
5	1987	1	荒木　（柏　原）	水井　（曖　学）	荒木・陣内　（柏　原）	岩田・新木　（曖　学）
		2	白浜　（此花学）	岩田　（曖　学）	伊藤・見市　（柏　原）	水井・坂田　（曖　学）
		3	伊藤　（柏　原）	新木　（曖　学）	白浜・緒方　（此花学）	利川・希有　（曖　学）
6	1988	1	見市　（柏　原）	坂田　（曖　学）	見市・仲田　（柏　原）	利川・畑山　（曖　学）
		2	仲田　（柏　原）	玉村　（曖　学）	岸田・緒方　（此花学）	玉村・磯山　（曖　学）
		3	緒方　（此花学）	利川　（曖　学）	三村・佐野　（桐　蔭）	隈・安留　（八尾東）
7	1989	1	岸田　（此花学）	松田　（曖　学）	岸田・緒方　（此花学）	松田・池端　（曖　学）
		2	片岡　（此花学）	片岡　（浪花女）	三村・吉森　（桐　蔭）	磯山・橋本　（曖　学）
		3	中川　（柏　原）	橋本　（曖　学）	佐野・林田　（桐　蔭）	渡・杉田　（曖　学）
8	1990	1	片岡　（此花学）	信田　（曖　学）	藤井・山崎　（柏　原）	松田・杉田　（曖　学）
		2	林田　（桐　蔭）	池端　（曖　学）	大川原・吉岡　（柏　原）	池端・信田　（曖　学）
		3	岸田　（桐　蔭）	徳岡　（信　愛）	斉藤・有田　（桐　蔭）	橋本・渡　（曖　学）
9	1991	1	岸田　（桐　蔭）	太田　（四天王）	有田・斉藤　（桐　蔭）	信田・川口　（曖　学）
		2	斉藤　（桐　蔭）	水井　（曖　学）	中田・株屋　（柏　原）	本坊・喜多　（曖　学）
		3	有田　（桐　蔭）	川口　（曖　学）	北川・恵美　（桐　蔭）	水井・淵側　（曖　学）
		3	柳　（此花学）	信田　（曖　学）	川口・柳　（此花学）	山名・徳岡　（信　愛）
10	1992	1	御前　（此花学）	水井　（曖　学）	外山・上野　（此花学）	水井・川口　（曖　学）
		2	外山　（此花学）	川口　（曖　学）	村田・児玉　（柏　原）	市橋・鬼頭　（曖　学）
		3	恵美　（桐　陰）	市橋　（曖　学）	田中・藤田　（桐　蔭）	藤井・淵側　（曖　学）
11	1993	1	奥井　（桐　陰）	市橋　（曖　学）	浅田・今西　（柏　原）	市橋・鬼頭　（曖　学）
		2	土屋　（成　器）	鬼池　（四天王）	川森・武井　（柏　原）	高尾・鬼池　（四天王）
		3	矢野　（桐　蔭）	高尾　（四天王）	土屋・木谷　（成　器）	福島・鷹田　（四天王）
12	1994	1	福井　（成　器）	市橋　（曖　学）	木谷・福井　（成　器）	鷹田・芳村　（四天王）
		2	木谷　（成　器）	吉岡　（曖　学）	片桐・松重　（柏　原）	市橋・吉岡　（曖　学）
		3	福井　（此花学）	芳村　（四天王）	丸野・狩集　（此花学）	澤田・水上　（曖　学）
13	1995	1	宇治　（桐　蔭）	吉岡　（曖　学）	永谷・福川　（成　器）	吉岡・尾後　（曖　学）
		2	仲尾　（此花学）	山田　（四天王）	宇治・甲林　（桐　蔭）	谷嶋・小畑　（曖　学）
		3	松下　（成　器）	鄭　（四天王）	仲尾・木村　（此花学）	山田・福永　（四天王）
14	1996	1	松下　（学　芸）	安城　（四天王）	井原・今西　（柏　原）	山田・安城　（四天王）
		2	仲尾　（此花学）	速水　（曖　学）	瀬川・広内　（柏　原）	上田・坂口　（曖　学）
		3	永谷　（学　芸）	谷嶋　（曖　学）	松下・松尾　（学　芸）	福永・菅原　（四天王）

大阪高等学校バドミントン選手権大会（11・1・2月）

団体の部

回数	年度	男子団体				女子団体			
		1位	2位	3位	3位	1位	2位	3位	3位
1	1953	三島野(現茨木)				樟蔭東			
2	1954	三島野				樟蔭東			
3	1955	茨木				大阪女子商業(現大阪女子)			
1	1956	茨木				大阪女子商業			
5	1957	茨木				大阪女子商業			
6	1958	茨木				樟蔭東			
7	1959	茨木				樟蔭東			
8	1960	茨木				布施女子(現東大阪)			
9	1961	茨木				布施女子			
10	1962	茨木				四條畷学園			
11	1963	泉尾				布施女子			
12	1964	近大附属				布施女子			
13	1965	近大附属				布施女子			
14	1966	佐野工業				布施女子			
15	1967	茨木工業				東大阪			
16	1968	山本				東大阪			
17	1969	布施工業				東大阪			
18	1970	茨木工業	佐野工業	布施工業	泉尾	樟蔭東	成蹊女子	薫英	大谷
19	1971	茨木工業	佐野工業	西野田工		四條畷学園	大谷	薫英	精華女子
20	1972	茨木工業	西商	啓光学園	近大附属	四條畷学園	精華女子	堺商業	淀商業
21	1973	茨木工業	市岡	枚方	布施工業	四條畷学園	精華女子	梅花	西商業
22	1974	茨木工業	布施工業	枚方	西野田工	四條畷学園	枚方	池田	市岡商業
23	1975	西野日工	花園	高津	茨本工業	四條畷学園	箕面	三島	市岡商業
24	1976	西野田工	高津	藤井寺	交野	四條畷学園	市岡商業	薫英	女子商
25	1977	西野日工	茨木工業	交野	港	四條畷学園	汎愛	薫英	阪南
26	1978	柏原	藤井寺	枚方	清水谷	四條畷学園	淀之水	枚方	汎愛
27	1979	柏原	富田林	泉尾	堺西	四條畷学園	女子商	東大阪	東商業
28	1980	柏原	茨木工業	藤井寺工	今宮	四條畷学園	女子商	茨木	池田
29	1981	柏原	大和川	生野	近大附属	四條畷学園	高槻北	東大阪	池田
30	1982	柏原	茨木工業	花園	長野	四條畷学園	東大阪	港	茨本西

個人の部

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
17	1969	1	永沢（高津）	西尾（畷学）	永沢・山本（高津）	秋本・佐古（畷学）
		2	酒井（茨木工）	秋本（畷学）	塩見・瀬良（布施工）	福元・竹村（樟蔭東）
		3	瀬良（布施工）	佐古（畷学）	佐久間・浜本（生野）	水島・村瀬（樟蔭東）
		3	木島（港）	水島（樟蔭東）	辻本・山口（佐野工）	西山・渡辺（池田）
18	1970	1	瀬良（布施工）	西尾（畷学）	上田・植田（佐野工）	西尾・秋本(八)（畷学）
		2	衣川（泉尾）	秋本(八)（畷学）	衣川・稲城（泉尾）	大川・玉井（市岡商）
		3	市原（茨木工）	秋本(幸)（畷学）	朝倉	秋本(幸)・佐藤（畷学）
		3	佐久間（生野）	中村（堺商）	瀬良・西尾（布施工）	田嶋・角谷（大谷）
19	1971	1	衣川（泉尾）	秋本（畷学）	萩原・仲尾（港）	秋本・徳田（畷学）
		2	井上（市岡）	徳田（畷学）	衣川・池田（泉尾）	高田・諸橋（畷学）
		3	西尾（茨木）	高田（畷学）	出口・西（茨木工）	田嶋・角谷（大谷）
		3	仲尾（港）	諸橋（畷学）	金正・山本（堺商）	山下・平井（薫英）

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
20	1972	1	仲尾　（港）	竹村　（精華女）	井上・平井　（市岡）	竹村・岡村　（精華女）
		2	井上　（市岡）	加藤　（樟蔭東）	西谷・長沢　（茨木工）	熊谷・鈴本　（女子商）
		3	松田　（西商）	山下　（枚方）	出田・文字　（茨木工）	山下・岡本　（枚方）
		3	外海　（清水谷）	吉岡　（西商）	横山・河野　（啓光学）	中川・大島　（布施）
21	1973	1	川上　（花園）	植野　（曭学）	佐々木・松井　（布施工）	秋本・植野　（曭学）
		2	一ノ瀬　（枚方）	北村　（暁学）	片淵・平石　（西工）	北村・民日　（暁学）
		3	田中　（茨木工）	民田　（暁学）	一ノ瀬・古川　（枚方）	山下・窪地　（枚方）
		3		秋本　（暁学）	川端・田中　（茨木工）	遠・笹岡　（堺商）
22	1974	1	中村　（高津）	北村　（曭学）	中村・清水　（高津）	石川・金沢　（曭学）
		2	金　（布施工）	あべ松　（市岡商）	西口・大片　（大和川）	上島・大西　（女子商）
		3	西村　（枚方）	石川　（暁学）	新迫・城一　（市岡商）	酒井・亀井　（枚方）
		3	増山　（大和川）	藤田　（三島）	仲道・石原　（泉尾）	米田・俵　（箕面）
23	1975	1	宮本　（茨木工）	石川　（曭学）	生田・長谷川　（西工）	平・河村　（曭学）
		2	奥村　（枚方）	河村　（暁学）	柴山・平山　（花園）	石川・金沢　（暁学）
		3	中角　（交野）	平　（暁学）	宮本・中村　（茨木工）	酒井・亀井　（枚方）
		3	本多　（高津）	金沢　（暁学）	西村・福井　（枚方）	あべ松・馬場　（市岡商）
24	1976	1	奥村　（枚方）	平　（曭学）	山田・森　（藤井寺）	平・河村　（曭学）
		2	山田　（藤井寺）	河村　（暁学）	西野・上枝　（西工）	原口・末兼　（暁学）
		3	本多　（高津）	原口　（暁学）	石川・山城　（泉尾）	竹本・長尾　（薫英）
		3	大矢　（啓光学）	馬場　（市岡商）	西尾・奥村　（交野）	馬場・乾　（市岡商）
25	1977	1	山田　（藤井寺）	原口　（曭学）	山日・井脇　（藤井寺）	合川・北田　（曭学）
		2	瀧川　（大和川）	北田　（暁学）	奥野・向井　（交野）	久米・町田　（薫英）
		3	井下　（和泉）	植田　（暁学）	山本・近藤　（摂津）	井戸・久家　（大谷）
		3	森　（藤井寺）	合川　（暁学）	田中・井谷　（柏原）	井内・村上　（汎愛）
26	1978	1	井谷　（柏原）	北田　（曭学）	井谷・出野　（柏原）	北田・冨田　（曭学）
		2	営仲　（枚方）	植田　（暁学）	當仲・幸田　（枚方）	植田・松田　（暁学）
		3	川本　（港）	尾崎　（暁学）	西郷・松下　（茨木工）	石橋・冨田　（枚方）
		3	谷田　（清水谷）	冨田　（暁学）	森本・大橋　（摂津）	川満・安田　（女子商）
27	1979	1	谷田　（清水谷）	尾崎　（曭学）	仁田・河内　（柏原）	松田(全)・新本　（曭学）
		2	早水　（茨木工）	松田(全)　（暁学）	藤川・北田　（近大附）	尾崎・久世　（暁学）
		3	嘉地　（泉尾）	新木　（暁学）	尾上・斉藤　（佐野工）	川満・安田　（女子商）
		3	仁田　（柏原）	川満　（女子商）	千々松・前川　（大和川）	加藤・井原　（野崎）
28	1980	1	北田　（近犬附）	新木　（曭学）	西村・萩原　（今宮）	新木・松田(太)　（曭学）
		2	安藤　（柏原）	松田(太)　（暁学）	安藤・中西　（柏原）	久世・押切　（暁学）
		3	田部　（柏原）	久世　（暁学）	佐々木・野田　（茨木）	陳・増田　（女子種）
		3	西村　（今宮）	石井　（暁学）	野々下・谷　（交野）	石井・吹原　（暁学）
29	1981	1	上杉　（港）	鴻原　（曭学）	上杉・黒田　（港）	松田・押切　（曭学）
		2	青木　（勝山）	松田(太)　（暁学）	青木・古山　（勝山）	鴻原・荒井　（暁学）
		3	山口　（柏原）	押切　（暁学）	横井・松田　（大和川）	吹原・高井　（暁学）
		3	川本　（市岡）	荒井　（暁学）	浜辺・岩本　（八尾）	原田・末房　（交野）
30	1982	1	岩本　（八尾）	鴻原　（曭学）	山口・古久保　（柏原）	宮崎・山田　（曭学）
		2	山口　（柏原）	宮崎　（暁学）	南埜・勝川　（柏原）	鴻原・新木　（暁学）
		3	南埜　（柏原）	新木　（暁学）	川崎・柏原　（花園）	和泉・市川　（暁学）
		3	古久保　（柏原）	山田　（暁学）	竹内・谷辻　（交野）	大谷・横井　（東大阪）
31	1983	1	古久保　（柏原）	新木　（曭学）	古久保・古木　（柏原）	山田・市川　（曭学）
		2	常山　（枚方）	今村　（暁学）	見市・大石橋　（柏原）	新木・今村　（暁学）
		3	森　（高槻）	市川　（暁学）	小林・常山　（枚方）	和泉・片岡　（暁学）
		3	見市　（柏原）	山田　（暁学）	遠矢・広田　（柏原）	岩鶴・松井　（和泉）
32	1984	1	佐藤　（茨木工）	今村　（曭学）	見市・常山　（柏原）	今村・片岡　（曭学）
		2	見市　（柏原）	片岡　（暁学）	広田・藤原　（柏原）	官本・長沢　（樟蔭東）
		3	常山　（柏原）	長沢　（樟蔭東）	原・佐藤　（茨本工）	渡・森　（暁学）
33	1985	1	常山　（柏原）	利川　（曭学）	常山・松山　（柏原）	南里(高)・南里(泰)　（曭学）
		2	藤原　（柏原）	南里(高)　（暁学）	植田・藤原　（柏原）	北川・三ツ川　（暁学）
		3	荒井　（此花学）	南里(泰)　（暁学）	南・仲田　（枚方）	油谷・西内　（守口東）
		3	松本　（柏原）	北川　（暁学）	藤井・高橋　（柏原）	春木・大村　（薫英）
34	1986	1	伊藤　（柏原）	三ツ川　（曭学）	藤井・伊藤　（柏原）	新木・希有　（曭学）
		2	高橋　（和泉）	南里(泰)　（暁学）	高橋・陣内　（柏原）	丸山・豊留　（薫英）
		3	荒木　（柏原）	希有　（暁学）	仲田・小野川　（枚方）	永田・隈　（八尾）
		3	古久保　（柏原）	新木　（暁学）	高島(昭)・高島(和)　（茨木工）	田中・小金丸　（阿武野）
35	1987	1	白浜　（此花学）	坂田　（曭学）	荒木・陣内　（柏原）	利川・希有　（曭学）
		2	伊藤　（柏原）	利川　（暁学）	伊藤・見市　（柏原）	高谷・出口　（梅花）
		3	陣内　（柏原）	希有　（暁学）	白浜・緒方　（此花学）	西尾・角田　（梅花）
		3	荒木　（柏原）	西川　（茨木）	中西・青山　（柏原）	和田・添田　（薫英）

回数	年度	順位	男子・単	女子・単	男子・複	女子・複
36	1988	1	仲田　（柏　原）	利川　（曖　学）	見市・仲田　（柏　原）	利川・畑山　（曖　学）
		2	岸田　（此花学）	畑山　（曖　学）	岸田・緒方　（此花学）	隈・安留　（八尾東）
		3	瀧　（枚　方）	西川　（茨　木）	佐野・市井　（桐　蔭）	山本・添田　（薫　英）
		3	見市　（柏　原）	磯山　（曖　学）	木村・井上　（柏　原）	高谷・出口　（梅　花）
37	1989	1	市井　（桐　蔭）	安留　（八尾東）	岸田・上瀧　（此花学）	松田・杉日　（曖　学）
		2	片岡　（此花学）	磯山　（曖　学）	吉森・三村　（桐　蔭）	渡　・池端　（曖　学）
		3	佐野　（桐　蔭）	渡　（曖　学）	佐野・林田　（桐　蔭）	藤枝・葛野　（茨　木）
		3	上瀧　（此花学）	片岡　（浪花女）	西・大川原　（柏　原）	寺尾(陽)・寺尾(幸)（東大阪）
38	1990	1	岸田　（桐　蔭）	信田　（曖　学）	野村・林田　（桐　蔭）	渡　・杉田　（曖　学）
		2	酒井　（柏　原）	喜多　（曖　学）	藤井・山崎　（柏　原）	松田・信田　（曖　学）
		3	柳　（此花学）	渡　（曖　学）	川口・柳　（此花学）	池端・橋本　（曖　学）
		3	野村　（桐　蔭）	徳岡　（信　愛）	秋吉・増田　（此花学）	山名・徳岡　（信　愛）
39	1991	1	吉野　（北　野）	本坊　（曖　学）	柳　・外山　（此花学）	高田・高橋　（信　愛）
		2	外山　（此花学）	喜多　（曖　学）	北川・恵美　（桐　蔭）	山名・徳岡　（信　愛）
		3	喜田　（桐　蔭）	徳岡　（信　愛）	上野・山崎　（此花学）	野間本・日野　（梅　花）
		3	田中　（桐　蔭）	淵側　（曖　学）	小川・冨永　（桐　蔭）	和泉・岸本　（門　真）
40	1992	1	北川　（桐　蔭）	鬼池　（四天王）	藤田・奥井　（桐　蔭）	高尾・葛野　（四天王）
		2	原田　（茨木西）	平田　（信　愛）	鳴瀬・中村　（柏　原）	福島・梶原　（四天王）
		3	田中　（桐　蔭）	根村　（成　蹊）	御前・濱田　（此花学）	中嶋・足高　（曖　学）
		3	小池　（枚方西）	高尾　（四天王）	今西・昇　（柏　原）	平田・山名　（信　愛）
	（Ⅱ部）	1	多根井　（近大附）	石田　（刀根山）	井藤・岡本　（高　津）	板垣・奥田　（布　施）
		2	廣瀬　（高　槻）	仙田　（箕　面）	萩野・小西　（藤井寺）	津田・根本　（少　路）
		3	川嶋　（香里丘）	北菌　（高槻南）	宮本・川上　（守口東）	田中・米山　（成　蹊）
		3	尾形　（枚方西）	山口　（大　塚）	大坪・有川　（東豊中）	西尾・平野　（東大阪）
41	1993	1	木谷　（成　器）	市橋(美)　（曖　学）	武井・川森　（柏　原）	平田・清水　（信　愛）
		2	浅田　（柏　原）	市橋(理)　（曖　学）	福井・木谷　（成　器）	森　・吉村　（成　蹊）
		3	木村　（四条畷）	梶原　（四天王）	奥井・矢野　（桐　蔭）	芳村・半田　（四天王）
		3	武井　（柏　原）	足高　（曖　学）	今西・浅田　（柏　原）	西尾・祝　（東大阪）
	（Ⅱ部）	1	平田　（八　尾）	重信　（堺上）	平田・中島　（八　尾）	丸山・地主　（八尾東）
		2	奥村　（関　倉）	大原　（信愛）	古川・西越　（北　野）	浅草・八木　（市　岡）
		3	間下　（清水谷）	井上　（梅花）	田主・三棟　（交　野）	中村・魚田　（香里丘）
		3	梅本　（茨木西）	矢野　（山田）	信田・梶　（柏原東）	今村・時村　（門　真）
42	1994	1	木谷　（成　器）	吉岡　（曖　学）	福井・木谷　（成　器）	吉岡・尾後　（曖　学）
		2	福井　（成　器）	鄭　（四天王）	片桐・松重　（柏　原）	井上・津田　（梅　花）
		3	福井　（此花学）	井上　（梅　花）	島影・角尾　（桐　蔭）	土志田・下ノ村　（梅　花）
		3	森岡　（柏　原）	坂本　（北千里）	宇治・甲林　（桐　蔭）	佐野・坂本　（北千里）
	（Ⅱ部）	1	山中　（三　島）	辻　（関女短）	福山・堀　（枚方津）	林　・松下　（宣　真）
		2	福山　（枚方津）	松倉　（薫　英）	平田・福田　（交　野）	山口・船木　（高槻　南）
		3	工藤　（上　官）	高西　（門　真）	前田・寒川　（守口東）	川股・村上　（千　里）
		3	伊藤　（枚方西）	本澤　（門　真）	可野・橋本　（島　本）	藤井・新居　（薫　英）
43	1995	1	永谷　（成　器）	谷嶋　（曖　学）	永谷・福川　（成　器）	鄭　・福永　（四天王）
		2	恵良　（柏　原）	明石　（八　尾）	奥本・植田　（柏　原）	谷嶋・小畑　（曖　学）
		3	木村　（此花学）	尾後　（曖　学）	井原・今西　（柏　原）	坂本・田中　（北千里）
		3	宇治　（桐　蔭）	山田　（四天王）	御前・松下　（成　器）	本渾・増田　（門　真）
	（Ⅱ部）	1	中尾　（摂　津）	野本　（箕面東）	中尾・亀山　（摂　津）	角方・瀬沢　（浪花女）
		2	山田　（八　尾）	坂本　（工　芸）	大月・波多野　（交　野）	小林・玉村　（高　津）
		3	梶井　（高　津）	野崎　（薫　英）	福田・西蔭　（交　野）	星見・吉国　（　南　）
		3	福山　（交　野）	角方　（浪花女）	伊藤・蒲田　（高槻北）	佐藤・北村　（山　田）
44	1996	1	井原　（柏　原）	安城　（四天王）	永谷・松下　（学　芸）	山田・菅原　（四天王）
		2	石野　（柏　原）	坂口　（曖　学）	井原・恵良　（柏　原）	元本・梶原　（信　愛）
		3	斉藤　（相　原）	上田　（曖　学）	広内・瀬川　（柏　原）	小畑・東　（曖　学）
		3	今西　（柏　原）	山田　（四天王）	福川・松尾　（学　芸）	速水・吉川　（曖　学）
	（Ⅱ部）	1	草野　（渋　谷）	田中　（信愛）	有村・利光　（枚方津）	瀬沢・中西　（浪花女）
		2	朝田　（豊　中）	中島　（市　立）	川西・坂日　（枚方津）	村田・大西　（三　島）
		3	有村　（枚方津）	鈴木　（女子学）	中嶋・大西　（芥　川）	森本・川辺　（薫　英）
		3	利光　（枚方津）	西田　（阪　南）	今田・中野　（和　泉）	竹内・山本　（摂　津）

定時制・通信制春季大会（6月）

年度	順位	男子団体			女子団体		
1962	1	日新					
1963	1	日新					
1964	1	日新			八尾		
1965	1	八尾			日新		
1966	1	八尾			日新		
1967	1	今宮			今宮		
1968	1	今宮			今宮		
1969	1	今宮			今宮		
1970	1	今宮			今宮		
1971	1	淀川工業			今宮		
1972	1	桜塚			日新		
1973	1	日新			今宮		
1974	1	寝屋川			向陽台		
1975	1	寝屋川			向陽台		
1976	1	寝屋川			向陽台		
1977	1	桃谷(集)			向陽台		
1978	1	桃谷(集)			向陽台		
1979	1	桃谷(個)	2:佐野工A	3:今官A	今宮B	2:向陽台A	3:今宮A
1980	1	藤井寺工B	2:今宮A	3:桜塚B	今宮A	2:今宮B	3:今宮C
1981	1	日新A	2:北野A	3:今宮A、藤井寺工B	北野A	2:向陽台B	3:今宮A、藤井寺ェB
1982	1	布施工A	2:日新A	3:藤井寺A、藤井寺工B	寝屋川A	2:北野A	3:桃谷(個)B、和泉(隔)A
1983	1	布施工A	2:桜塚A	3:桃谷(個)B、桜塚B	寝屋川A	2:向陽台A	3:八尾A、和泉(隔)A
1984	1	桜塚A	2:布施工A	3:日新、寝屋川A	布施工A	2:桜塚A	3:四条畷、岸和田産A
1985	1	布施工A	2:寝屋川A	3:桃谷A、東住吉工A	寝屋川A	2:向陽台B	3:今宮B、桃谷A
1986	1	寝屋川A	2:東住吉工A	3:桃谷A、今宮工A	寝屋川A	2:四条畷A	3:桃谷A、寝屋川B
1987	1	桃谷A	2:桜塚	3:和泉、桃谷B	寝屋川	2:桜塚	3:向陽台、貝塚

		男子団体	男子・複	男子・単	女子団体	女子・複	女子・単
1988	1	桃谷B		橋爪　(東住工)	向陽台A		倉田　(向陽台)
	2	挑谷A		千葉(政)(桃　谷)	桜塚C		二宮　(桜　塚)
	3	桜塚A		宮崎　(桜　塚)	寝屋川A		今村　(桃　谷)
	4	東住吉工		田中　(桜　塚)	向陽台B		山口　(桜　塚)
1989	1	桃谷		橋爪　(東住工)	向陽台A		倉田　(向陽台)
	2	日新		千葉(義)(挑　答)	桜塚		水野　(桃　谷)
	3	桜塚		千葉(政)(挑　谷)	寝屋川A		橋本　(向陽台)
1991	1		玉守・黒木　(布施工)	吉川　(布施工)		坂田・斉藤　(向陽台)	酒田　(向陽台)
	2		閑古・吉川　(布施工)	黒木　(布施工)		倉田・田村　(向陽台)	野元　(向陽台)
	3		千葉・馬場　(桃　谷)	玉守　(布施工)		山田・吉武　(西二商)	北藤(寝屋川)
1996	1		山田・伊藤　(一工芸)	馬場　(桃　谷)		石原・早田　(桜　塚)	石原　(桜　塚)
	2		馬場・西尾　(桃　谷)	青本　(四条畷)		久保・黒田　(桃　谷)	早田　(桜　塚)
	3		西川・青木　(四条畷)	井田　(桜　塚)		石原・村重　(二工芸)	久保　(桃　谷)
	4		男子・単（中級）	伊藤　(二工芸)			黒田　(桃　谷)
(初級)	1		時任　(桜　塚)	辻井　(富田林)		大井・広倉　(桜　塚)	松岡　(佐野工)
	2		西尾　(桃　谷)	守谷　(西野田)		加藤・池上　(向陽天)	馬越　(富田林)
	3		橋野　(中　央)	笠鬼　(西野田)		溝端・波多里(向陽中)	加藤　(向陽天)
	3			岸本　(佐野工)			西尾　(三国丘)

校名省略について
工業は工、商業は商と省略
東住工:東住吉工　二工芸:第二工芸　向陽天:向陽台天王寺経理専門学校
向陽中:向陽台中央学園専門学校

大阪高等学校定時制・通信制総合体育大会（9・10月）

	男子				女子			
回数 年度 種目	1位	2位	3位		1位	2位	3位	
10 1960 団	今宮				今宮			
11 1961 団	日新				日新			
12 1962 団	日新				四条畷			
13 1963 団	今宮				四条畷			
14 1964 団	八尾				四条畷			
15 1965 団	八尾				日新			
16 1966 団	今宮				日新			
17 1967 団	淀川工	今宮	西野田工	淀川工	今宮	寝屋川	八尾	日新
18 1968 団	日新	今宮	淀川工	日新B	今宮A	寝屋川	布施	今宮B
19 1969 団	今宮	日新	八尾	淀川工	今宮	八尾	富田林	日新
20 1970 団	今宮	桜塚	寝屋川	淀川工	今宮	富田林	日新	寝屋川
21 1971 団	桜塚	日新	淀川工	寝屋川	向陽台	今宮	桜塚	寝屋川
22 1972 団	桜塚	八尾	布施	淀川工	向陽台	桜塚	日新	今宮
23 1973 団	日新A	日新B	淀川工	布施	今宮	寝屋川	八尾	富田林
24 1974 団	日新	布施工	寝屋川	桜塚	向陽台	今宮	富田林	四条畷
25 1975 団	寝屋川	桜塚	今宮	布施工	向陽台A	向陽台B	日新	寝屋川
26 1976 団	桃谷(集)	淀川工	布施工	布施	向陽台A	四条畷	日新	向陽台B
27 1977 団	茨木工	寝屋川	布施	桃谷	向陽台	市岡	今宮	寝屋川
28 1978 団	桃谷(集)A	梶谷(集)B	富田林	今宮	向陽台	市岡	今宮	寝屋川
29 1979 団	桃谷(個)A	四条畷A	今宮A	桜塚A	今宮B	今宮A	桃谷(個)A	四条畷A
30 1980 団	日新A	挑谷(個)A	北野A	藤井寺工B	今宮A	桃谷(集)A	寝屋川B	向陽台B
31 1981 団	日新A	北野A	布施工A	藤井寺工A	北野A	寝屋川A	北野B	向陽台B
32 1982 団	桜塚A	四条畷A	寝屋川A	日新A	寝屋川A	和泉(隔)B	岸和田産A	梶谷(個)A
33 1983 団	桜塚A	布施工B	四条畷A	今宮A	寝屋川A	桜塚A	和泉(隔)A	寝屋川B
34 1984 団	桜塚A	布施工A	寝屋川A	桜塚A	寝屋川A	桜塚A	四条畷A	岸和田産A
35 1985 団	布施工A	寝屋川A	東住吉工A	桜塚A	桜塚A	桃谷A	寝屋川A	八尾A
36 1986 団	寝屋川A	東住吉工A	藤井寺工	桃谷A	寝屋川A	桜塚A	向陽台A	向陽台B
37 1987 団	桜塚	挑谷A	東住吉工	茨木工	寝屋川	向陽台	桃谷	布施
38 1988 団	桃谷A	桜塚	淀川工	桃谷B	向陽台A	桜塚	四条畷	向陽台B
個	橋爪(東住工)	鬼木(淀川工)	田中(桜　塚)	千葉(政)(桃谷)	二宮(桜　塚)	妹尾(向陽台)	今村(桃　谷)	火野(桃　谷)
39 1989 団	桃谷A	桜塚	日新		向陽台	桜塚	布施A	
個	宮崎(桜　塚)	千葉(政)(桃谷)	千葉(義)(桃谷)		二宮(桜　塚)	橋本(向陽台)	原田(布　施)	
40 1990 団	桃谷A	布施工B	布施工A	今宮工B	向陽台A	寝屋川	西二商	向陽台B
個	正木(今宮工)	千葉(政)(桃谷)	馬場(桃　谷)	山本(今宮工)	坂田(向陽台)	橋本(向陽台)	阿部(向陽台)	北藤(寝屋川)
41 1991 団	桜塚	桃谷	布施工		向陽台	寝屋川	西二商	
個	黒木(布施工)	高岡(桜　塚)	千葉(桃　谷)	馬場(桃　谷)	坂田(向陽台)	斉藤(向陽台)	堀本(桃　谷)	山本(新船場)
42 1992 団	桜塚	桃谷	日新		向陽台	四条畷	中央	
個	江川(桜　塚)	長原(桜　塚)	高岡(桜　塚)	馬場(桃　谷)	坂田(向陽台)	斉藤(向陽台)	野元(向陽台)	加藤(中　央)
43 1993 団	桜塚	桃谷			向陽台	佐野		
個	高岡(桜　塚)	草野(四条畷)			金子(向陽台)	渡邊(今　宮)		
44 1994 団	桃谷	桜塚	日新	川端(日　新)	富日林	桜塚	工芸	林（寝屋川）
個	馬場(桃　谷)	村上(桜　塚)	草野(四条畷)		渡邉(今　宮)	木村(工　芸)	山口(佐　野)	
45 1995 団	桃谷	桜塚	日新	第二工芸	第二工芸	桃谷	阪神家政	中央
個	馬場(桃　谷)	草野(四条畷)	宇高(桜　塚)	泊	渡邉(今　宮)	森本(工　芸)	山口(佐　野)	
（中級）	長原(桜　塚)	井田(桜　塚)	山田(工　芸)	大工(天　経)	早日(桜　塚)	池上(天　経)	直（家　政)	石原(工　芸)
（初級）					山田(天　経)	加藤(天　経)	大井(桜　塚)	広倉(桜　塚)
46 1996 団	桃谷	桜塚	四条畷	第二工芸	向陽台	桃谷	桜塚	向陽台阪神
個	馬場(桃　谷)	青木(四条畷)			柳谷(向陽台)	石原(桜　塚)		

全国高等学校総合体育大会（3位以上）

回	年度	開催地	順位	男・団	男・単	女・団	女・単	女・複
10	1959	会津若松	3	茨木	玉井治之　（茨本）			
15	1964	京　都	2			布施女子		
16	1965	熊　本	1 3			 布施女子	近藤光枝　（布施女） 才脇妙子　（布施女）	
18	1967	金　沢	2 3			東大阪	 池田栄子　（東大阪）	 池田・平山（東大阪）
19	1968	福　山	1 3			東大阪	平山泰子　（東大阪）	 高崎・大場（東大阪）
20	1969	桐　生	1 3			東大阪	柴山きよ子（東大阪） 高崎弘子　（東大阪）	柴山・高崎（東大阪） 大場・坂本（東大阪）
21	1970	名古屋	1 2 3			 四條畷学園	秋本八代美（畷　学） 西尾真理子（畷　学）	 秋本・西尾（畷　学）
22	1971	善通寺	1 3			四條畷学園	秋本八代美（畷　学） 西尾真理子（畷　学）	秋本・西尾（畷　学）
23	1972	新　庄	1 2			四條畷学園	秋本幸子　（畷　学） 徳田敦子　（畷　学）	秋本・徳田（畷　学） 高田・諸橋（畷　学）
24	1973	四日市	1			四條畷学園	徳田敦子　（畷　学）	徳田・高田（畷　学）
25	1974	嬉　野	1 2			 四條畷学園	植野恵美子（畷　学）	
26	1975	水　戸	1 3			四條畷学園	植野恵美子（畷　学） 北村寿弥子（畷　学）	植野・石川（畷　学）
27	1976	中　野	1 2			四條畷学園	石川好子　（畷　学） 河村茂美　（畷　学）	石川・平　（畷　学）
28	1977	倉　敷	1 2 3			四條畷学園	原口恵子　（畷　学） 河村茂美　（畷　学）	平・河村（畷　学） 末兼・北田（畷　学）
29	1978	会津若松	1 3			四條畷学園	北田スミ子（畷　学） 原口恵子　（畷　学）	合川・北田（畷　学）
30	1979	大　津	1 3			四條畷学園	北田スミ子（畷　学）	北田・冨田（畷　学） 植田・松田（畷　学）
32	1981	藤　沢	3			四條畷学園		
33	1982	加世田	1 2				鴻原春美　（畷　学） 松田太嘉子（畷　学）	
34	1983	豊　橋	1 3			 四條畷学園	鴻原春美　（畷　学）	鴻原・新木（畷　学）
35	1984	大　曲	1 2 3			 四條畷学園	新木貴子　（畷　学） 今村　薫　（畷　学）	
36	1985	金　沢	2 3				 今村　薫　（畷　学）	今村・片岡（畷　学）
37	1986	下　関	3	柏原		四條畷学園		
38	1987	登　別	1 2 3			四條畷学園	 南里高子（畷　学）	 北川・三ツ川（畷 学）
39	1988	宝　塚	1			四條畷学園	水井妃佐子（畷　学）	
40	1989	高　知	1			四條畷学園	水井妃佐子（畷　学）	
41	1990	塩　釜	1		岸田明宏　（此花学）			
42	1991	富　士	1 2		 片岡詔市郎（此花学）		水井泰子　（畷　学） 太田貴子　（四天王）	
43	1992	西都高鍋	1 3			四條畷学園	水井泰子　（畷　学）	 水井・市橋（畷　学）
44	1993	宇都宮	1 2			四條畷学園	 水井泰子　（畷　学）	 水井・川口（畷　学）
45	1994	高　岡	1 3			四天王寺	 葛野智子　（四天王）	市橋・鬼頭（畷　学）

回数	年度	開催地	順位	男・団	男・単	女・団	女・単	女・複
2	1973	東　京	2					植野・秋本（曖　学）
3	1974	東　京	1			四條畷学園	北村寿弥子（曖　学）	植野・石川（曖　学）
4	1975	桐　生	1 3			四條畷学園	石川好子　（曖　学）	河村・平　（曖　学）
5	1976	郡　山	1			四條畷学園	平久美子　（曖　学）	河村・末兼（曖　学）
6	1977	奈　良	1			四條畷学園	原口恵子　（曖　学）	北田・合川（曖　学）
7	1978	東　京	1			四條畷学園	植田日出子（曖　学）	北田・冨田（曖　学）
8	1979	真　岡	3					松田・新木（曖　学）
9	1980	大　津	2			四條畷学園	新木・松田（曖　学）	
10	1981	桐　生	2			四條畷学園	松田・押切（曖　学）	
11	1982	松　江	1 3			四條畷学園		鴻原・新木（曖　学）
12	1983	足　利	1 2 3			四條畷学園	新木貴子　（曖　学）	新本・今村（曖　学）
14	1985	那　覇	2				利川貴子　（曖　学）	
15	1986	帯　広	1 2 3			四條畷学園	利川貴子　（曖　学）	利川・岩田（曖　学）
16	1987	宝　塚	2			四條畷学園	水井妃佐子（曖　学）	新木・岩田（曖　学）
17	1988	宇都宮	2			四條畷学園	水井妃佐子（曖　学）	水井・坂田（曖　学）
18	1989	東　京	2 3		岸田明宏　（此花学）		松田洋子　（曖　学）	
19	1990	高　岡	3				松田洋子　（曖　学）	
20	1991	宇都宮	3	大阪桐蔭				
21	1992	新　潟	1 2			四條畷学園	水井泰子　（曖　学）	水井・川口（曖　学）
22	1993	大　府	3			四天王寺		

近畿高等学校バドミントン選手権大会（3位以上）

回	年度	開催地	順位	男・単	女・単	男・複	女・複
1	1954	奈良	1 2 3	米倉彦次 （三島野） 武市京三 （三島野）	渡辺多津代(三島野) 渡辺京子 （梅　花）	武市・水野（三島野）	渡辺・大川（三島野）
2	1955	京都	3			本咲・松田(茨木)	
3	1956	滋賀	1		井田依子 （梅　花）		井田・内藤（梅　花）
5	1958	兵庫	1 2	玉井治之 （茨　木）		久保川・吉村(茨木) 玉井・福村(茨木)	
8	1961	滋賀	2		松本美代子(布施女)		
9	1962	京都	1 3				明田・山本（曖　学） 吉田・中田（布施女）
10	1963	兵庫	1 2		近藤光枝 （布施女） 才脇妙子 （布施女）		近藤一才脇(布施女)
11	1964	奈良	1 2			江崎・沢村(近大附)	近藤・才脇（布施女）
12	1965	和歌山	1 2 3		篠山和江 （布施女） 池田栄子 （布施女）		池田・篠山（布施女）
13	1966	滋賀	1 2 3		池田栄子 （布施女）		池田・平山（布施女） 光島・篠山（布施女）
14	1967	京都	1 2 3 3		柴山きよ子(東大阪) 平山泰子 （東大阪） 高崎弘子 （東大阪） 福永久弐子（薫　英）		篠山・高崎（東大阪） 井上・河内（薫　英） 福永・田中（薫　英） 大場・坂本　（東大
15	1968	兵庫	1 2 3 3	永沢康弘 （高　津）	高崎弘子 （東大阪） 柴山きよ子(東大阪) 福永久弐子(薫　英) 大場照美 （東大阪）		柴山・高崎（東大阪） 大場・坂本（東大阪）
16	1969	大阪	2 3	永沢康弘 （高　津）	西尾真理子(曖　学) 秋本八代美(曖　学)	永沢・山本(高津)	秋本・西尾（曖　学）
18	1971	滋賀	1 2 3 3		徳田敦子 （曖　学） 秋本幸子 （曖　学） 高田幹子 （曖　学） 諸橋典子 （曖　学）	萩原・仲尾(港)	秋本・徳田（曖　学） 高田・諸橋（曖　学）
19	1972	和歌山	1 2 3		徳田敦子 （曖　学） 高田幹子 （曖　学） 諸橋典子 （曖　学）		高田・諸橋（曖　学）
20	1973	京都	1 3	川上隆庸 （花　園）	植野恵美子(曖　学)		植野・秋本（曖　学）
21	1974	兵庫	1 2		植野恵美子(曖　学) 北村寿弥子(曖　学)		植野・石川（曖　学）
22	1975	大阪	1 2 3 3		石川好子 （曖　学） 河村茂美 （曖　学） 平久美子 （曖　学）	柴山・平山(花園)	河村・平　（曖　学） 石川・金沢（曖　学）
23	1976	奈良	1 2 3		河村茂美 （曖　学） 平久美子 （曖　学） 原口恵子 （曖　学）		河村・平　（曖　学） 原口・末兼（曖　学）
24	1977	和歌山	1 3 1	滝川和衛 （大和川）	原口恵子 （曖　学） 北田スミ子(曖　学)		合川・植田（曖　学）
25	1978	滋賀	1 3		北田スミ子(曖　学) 植田日出子(曖　学)		北田・植田（曖　学）

回	年度	開催地	順位	男・単	女・単	男・複	女・複
26	1979	京都	1 2 3		尾崎升美 （暾 学） 松田全代 （暾 学） 新木千織 （暾 学）		松田・新木（暾 学）
27	1980	兵庫	1 2 3		松田太嘉子（暾 学） 新本千織 （暾 学）		新木・松田（暾 学） 久世・押切（暾 学） 石井・吹原（暾 学）
28	1981	大阪	1 2 3		松田太嘉子（暾 学） 鴻原春美 （暾 学） 荒井圭子 （暾 学）		松日・押切（暾 学） 鴻原・荒井（暾 学）
29	1982	奈良	1 2 3		鴻原春美 （暾 学） 宮崎正美 （暾 学） 山田陽子 （暾 学）		鴻原・新木（暾 学）
30	1983	和歌山	1 2 3		新木貴子 （暾 学） 今村薫 （暾 学） 山田陽子 （暾 学）		新木・今村（暾 学） 山田・市川（暾 学）
31	1984	滋賀	1 3		今村薫 （暾 学）	見市・常山（柏 原）	今村・片岡（暾 学）
32	1985	京都	1 3	常山兼二 （柏 原）	利川貴子 （暾 学）		植田・藤原 （暾
33	1986	兵庫	1 2 3		利川貴子 （暾 学） 南里高子 （暾 学） 北川実子 （暾 学）	高橋・陣内（柏 原）	利川・岩田（暾 学） 南里・南里（暾 学） 北川・三ツ川（暾 学）
34	1987	大阪	1 2 3	白浜智海 （此花学） 荒木 徹 （柏 原）	水井妃佐子（暾 学） 岩田良子 （暾 学） 新本美志子（暾 学）	荒木・陣内（柏 原） 伊藤・見市（柏 原）	岩日・新木（暾 学） 水井・坂田（暾 学）
35	1988	奈良	1 2		水井妃佐子（暾 学） 坂田美佐 （暾 学）	見市・仲田（柏 原）	水井・坂田（暾 学）
36	1989	和歌山	1 2 3	岸田明宏 （此花学） 片岡詔市郎（此花学）	松田洋子 （暾 学） 杉田暢子 （暾 学）	三村・吉森（桐 蔭）	磯山・橋本 （暾学）
37	1990	奈良	1 2 3	片岡詔市郎（此花学）	松田洋子 （暾 学） 杉田暢子 （暾 学） 太田貴子 （四天王）	有田・斉藤（桐 薩） 藤井・山崎（柏 原）	松田・杉田（暾 学）
38	1991	和歌山	1 2 3	岸田健 作（桐蔭） 柳承寛 （此花学） 中田耕司 （柏 原）	信田富貴 （暾 学） 川口桐香 （暾 学）	岸田・田中（桐 薩）	信田・川口（暾 学）
39	1992	大阪	1 2 3 3	御前和也 （此花学） 富山 忍 （此花学）	水井泰子 （暾 学） 川口桐香 （暾 学） 葛野智子 （四天王） 市橋美紀 （暾 学）	村田・児玉（柏 原）	水井・川口（暾 学） 市橋・鬼頭（暾 学） 高尾・鬼池（四天王）
40	1993	姫路	1 2 3 3	奥井則昭 （桐 蔭）	葛野智子 （四天王） 鬼池めぐみ（四天王） 薦田朋美 （四天王） 福島由佳 （四天王）		市橋・鬼頭（暾 学） 高尾・鬼池（四天王） 薦田・福島（四天王）
41	1994	京都	1 3	福井 （成 器）	市橋理恵 （暾 学）		薦田・福島（四天王） 深田・水上（暾 学）
42	1995	滋賀	1 2 3 3	仲尾修一 （此花学）	吉岡知香 （暾 学）	宇治・甲林（桐 蔭） 永谷・福川（成 器） 木村・仲尾 （此花	吉岡・尾後（暾 学）
43	1996	奈良	1 2 3 3	松下文雅 （学 芸） 福川和也 （学 芸） 永谷和也 （学 芸）	安城美華 （四天王） 速水永子 （暾 学）	福川・永谷（学 芸）	山田・安城（四天王） 坂口・上田（暾 学） 菅原・福永（四天王）

近畿高等学校定時制・通信制課程体育大会（3位以上）

回	年度	開催地	順位	男・団	男・単	女・団	女・単
20	1984	和歌山	1 2	布施工業		寝屋川 桜　塚	
21	1985	奈良	3 3	布施工業		桜　塚 桃　谷	
22	1986	兵庫	3 3		芝田勝也　（桃　谷）	寝屋川	高橋由美子　（寝屋川）
24	1988	滋賀	1 2	桃　谷	橋爪繁宗　（東住吉工）	向陽台	二宮千夏　（桜　塚）
25	1989	京都	1 2	桃　谷		向陽台	二宮千夏　（桜　塚） 橋本千恵　（向陽台）
26	1990	奈良	1 2 3	桃　谷		向陽台	橋本千恵　（向陽台） 酒田奈央巳　（向陽台）
27	1991	和歌山	1 3	桜　塚	黒本雅幸　（布施工） 高岡一郎　（桜　塚）	向陽台 寝屋川	酒田奈央巳　（向陽台）
28	1992	大阪	1 2	桜　塚	江川　勉　（桜　塚） 長原充宏　（桜　塚）	向陽台	酒田奈央巳　（向陽台） 斉藤美香　（向陽台）
29	1993	兵庫	3 3			向陽台	金子志津子　（向陽台） 渡辺雅美　（今　宮）
30	1994	京都	2 3 3	桜　塚 桃　谷			渡辺雅美　（今　宮）
31	1995		1 3		馬場清夫　（桃　谷） 草野隆正　（四条畷）		渡辺雅美　（今　宮）

国民体育大会（4位以上）

回数	年度	開催地	順位	男子校名等	女子校名等
14	1959	東京都	4	大阪府(茨木)	
20	1965	岐阜県岐阜市	1		大阪府(布施女子(現東大阪))
22	1967	埼玉県越谷市	4		大阪府(東大阪)
23	1968	福井県勝山市	1		大阪府(東大阪)
24	1969	長崎県諫早市	1		大阪府(東大阪)
25	1970	岩手県釜石市	1		大阪府(四條畷学園)
26	1971	和歌山県湯浅町	1		大阪府(四條畷学園)
27	1972	鹿児島県鹿児島市	1		大阪府(四條畷学園)
28	1973	千葉県茂原町	1		大阪府(四條畷学園)
29	1974	茨城県石岡町	3		大阪府(四條畷学園)
30	1975	三重県松阪市	1		大阪府(四條畷学園)
31	1976	佐賀県牛津町	1		大阪府(四條畷学園)
32	1977	青森県浪岡町	1		大阪府(四條畷学園)
33	1978	長野県塩尻市	3		大阪府(四條畷学園)
34	1979	宮崎県西郡市	1		大阪府(四條畷学園)
35	1980	栃木県真岡市	2		大阪府(四條畷学園)
37	1982	島根県大東町	1		大阪府(四條畷学園)
38	1983	群馬県桐生市	1		大阪府(四條畷学園)
39	1984	奈良県田原本町	1		大阪府(四條畷学園)
42	1987	沖縄県糸満市	2		大阪府(四條畷学園)
43	1988	京都府長岡京市	1		大阪府(四條畷学園)
44	1989	北海道登別市	2		大阪府(四條畷学園)
45	1990	福岡県筑紫野市	1 2	大阪府(此花学院)	 大阪府(四條畷学園・四天王寺)
47	1992	山形県新庄市	1		大阪府(四條畷学園・四天王寺)
48	1993	香川県坂出市	1		大阪府(四條畷学園・四天王寺)
49	1994	愛知県大府市	1		大阪府(四條畷学園・四天王寺)
51	1996	広島県三原市	3		大阪府(四條畷学園・四天王寺)

大阪中学校体育連盟
バドミントン部

◆ 祝辞 ◆

スポーツを通しての すばらしい出会いを！



大阪中学校体育連盟　バドミントン部
部長　出口　健次

大阪バドミントン協会が設立され、50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。
今日の発展の姿を見るに至りましたことは、真に意義の深いことで、偏に、歴代の会長はじめ役員の皆様のご努力の賜物であり、深く敬意を表すものです。

大阪バドミントン協会が、この50年間にスポーツ活動を通して、体力向上やスポーツ技術の発展をはかるとともに、明るく豊かな人間形成に、大きく寄与きれてきたことは言うまでもありません。

さて私は、学生時代からバドミントンの選手として、バドミントンというスポーツの素晴しさを十分に理解してきました。大学卒業後、大阪市内の中学校に着任し、バドミントン部をつくり、顧問として生徒を指導し、中体連役員として、専門委員長、部長としてバドミントンの大会等にかかわってまいりました。

私は、この３５年間に、バドミントンを通して素晴らしい出会いがありました。個性豊かな数多くの生徒との出会い、また、そんな中で、大阪協会、大阪中体連の方々との出会いも私にとって大きな宝の一つです。

私は、毎日の生徒の指導に当って、次のような事を指導の重点にしてきました。まず、バドミントンの素晴しさを生徒に身をもって理解させる。次に中学校だけで終らず息長くバドミントンを続ける。そして、何事にも全力を出して頑張り、バドミントンで学んだ事を生かし、人間性豊かな社会人となり、世の役に立つ人間になり、毎日、何ごとにも努力できる人間になってほしい。

今後とも、私は「学校における部活動は、すべての生徒に対する教育活動である」という立場に立ち、生徒の競技力の向上をはかる一方で、すべての生徒がスポーツの本当の楽しさをもって積極的に参加してくれる部活動になるよう貢献していきたいと思います。

今後とも、中体連と、大阪協会の橋渡し役として協力して行きたいと考えています。大阪バドミントン協会のますますのご発展と、ご活躍をお祈りします。

沿　革

１９９６年アトランタオリンピックも数々の話題を残して終わりました。その中のバドミントン競技に参加した３０カ国１９２人の選手の中に、大阪中体連バドミントン部出身の２人の姉妹が参加しました。四條畷学園中学校出身の水井妃佐子（１９７２．３．２９生）泰子（１９７５．９．１９生）の姉妹です。オリンピック選手としては過去ソウルオリンピック３位（公開競技）の北田（芝）スミ子、バルセロナオリンピックの鴻原春美に続く快挙です。

水井妃佐子は１９８６年全中単３位をスタートにインターハイ、インカレ、全日本社会人、全日本総合の単優勝、国際大会でも優秀な成績をあげ日本のエースとして活躍中です。

水井泰子は１９９０年全中単優勝、インターハイ単３連勝後社会人（フジチュー）入りし、全日本社会人２位、全日本総合２位と姉に続く日本のナンバー２として活躍しています。オリンピックでは２人とも２勝、ベスト１６入りを果たし２０００年のシドニーをめざして今後の活躍が期待されています。

大阪中体連バドミントン部は前述４名の出身校四條畷学園中学校を核に発展してきました。同校の指導者として杉田忠邦先生が基礎を築かれ、仲尾信一先生に引き継がれています。また、過去全国大会に出場した学校としては、鶴橋中（渡辺真規子）旭陽中（小森健介）守口四中（塩山幸和）豊津西中（内部広志）豊中十五中（新海公幸）吹田二中（中原清成）堅下北中（尾川勝彦）摂津一中（宮林幸三）船場中（渡辺真規子）瓜破西中（野口照夫、神谷績、岩田信之）国分中（尾川勝彦）交野四中（中田守）の１３校があります。

注（　）は出場時の顧問名。昭和５５年１０回大会より学校別出場。

大阪中体連の設立（１９４７年、昭和２２年）の後も、バドミントン部の加盟はやや遅く、昭和３５年（専門委員長、川本尚男）より活動が開始されました。以後昭和３９年（部長、川田収太郎・専門委員長、川本尚男）～、昭和４９年（部長、井上　博）～、昭和４７年（部長、岩根　貢）、昭和５５年（部長、川本尚男・専門委員長、出口健次）、昭和５６年、部長　今津静夫）～、昭和６１年（部長　塚本逸章）～、昭和６３（部長、川本尚男）～、平成元年、専門委員長　佐貫裕彦）～、平成３年、部長　出口健次）～で現在に至っています。全国大会は１９７１年（昭和４６年）に東京都で第１回が開催され、女子は優勝を飾っています。（監督　渡辺真規子）以後、全国大会で、大阪の活躍が現在も続いているのは、周知の通りです。

今後をめざして

さて、昨年１９９６年度と１９８４年度（全中大阪大会開催）の大阪府選手権大会の参加数は下表のようになっています。

傾向としては女子の参加数は大きな変動はありませんが、男子の参加数が年々減少しています。男子の場合は、どうしても華やかな人気種目に集まりがちでバドミントン部員はなかなか集まってくれないのが状況です。

種目／年	男団	男単	男複	女団	女単	女複
1984	57	152	181	156	430	591
1996	27	66	78	150	300	444

バドミントンの部活動も、顧問の新旧交代が徐々に進みつつあります。しかし、バドミントンの経験を持つ先生はあいかわらず少ないようで特に初心者の基礎技術の指導がおろそかになっているのではないかと思います。２・３年になって公式戦にでて来る生徒で正しくラケットが振れていない者、フットワークができていない者、正しくサービスのできない者が多数みられるのは、非常に残念なことです。なるほど、最近は小学校や、社会体育の面で低学年からのバドミントン指導が盛んになってきており、中学校から始める者とのギャップがあり、どうしても早くゲームを教えようという傾向がでてきています。確かにクラブをしているかぎり良い成績をあげたいという気持ちはどの顧問も持っていますが、試合に勝つことだけが目的でもないはずです。

特に顧問はどうしても上級者の指導にかかり気味になり易く、１年の一番大切な時期の体力作り、素振りの指導を上級生にまかせきりになりやすいのです。やはり、この時期の初心者の指導で手抜きをしたのでは、上の学年になっても技術の進歩は望みにくいものです。バドミントンの指導に限ったことではありませんが、つい試合のために細かい技術やプレーを指導しがちで満足にクリアーが打てないうちからネットやカットプレーを教えてしまい、結局卒業しても上のランクでは使い物にならないといったことが多いのです。あせらず、基本に忠実な指導こそが大切なことを、もう一度、初心にかえって考えてみたいものです。

平成１２年より、全国大会で水鳥球が使用されることが、ほぼ、決定しています。そうなると、今度は経済的な理由から部活動の存続にかかわる学校が相当数でてくるのは確実です。この点も含め、中体連のバドミントン部は試練の時期を迎えようとしています。

（佐貫　裕彦）

大阪府中学校バドミントン選手権大会記録

〔男　　子〕

S　51年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中	大阪市立勝山中	交野市立第一中	守口市立大久保中
B　D	前川・長尾 （大阪市立勝山中）	有園・尾亀 （交野市立第一中）	藤井・五十嵐 （交野市立第一中）	村田・重松 （枚方市津田中）

S　52年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿１位**	大阪市立勝山中	交野市立第一中	大阪市立我孫子中
B　D	川居・三谷 （交野市立第一中）	北田・佐藤 （四條畷学園中）	川西・河野 （高槻中）	老田・出野 （大阪市立我孫子中）

S　53年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中	交野市立第一中	大阪市立勝山中	岸和田市立久米田中
B　D	蒔苗・宮里 （交野市立第一中）			

S　54年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中	交野市立第一中		
B　D				

S　55年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中	交野市立第二中	柏原市立堅下北中	交野市立第一中
B　D	森地・谷辻 （交野市立第二中）	（大阪市立大和川中）		
B　S	福田 （四條畷学園中） **近畿２位　全国３位**	見市 （四條畷学園中） **近畿１位　全国１位**		

S　56年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中	交野市立第三中	大阪市立岡東中	交野市立第一中
B　D	小手川・・小笠原 （交野市立第二中）			
B　S	古久保 （四條畷学園中）	江藤 （四條畷学園中） **全国３位**	永濱 （大阪市立市岡東）	宮崎 （大阪市立市岡東）

S　57年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿１位　全国３位**	守口市立第四中	交野市立第二中	大阪市立長吉六反中
B　D	森山・白浜 （四條畷学園中）	見市・北川 （四條畷学園中）	藤田・常山 （守口市立第四中）	北口・大井 （交野市立第二中）
B　S	早戸 （四條畷学園中） **近畿１位　全国３位**	渡辺 （交野市立第二中）	本間 （吹田市立第二中）	浅田 （柏原市立堅下北中）

〔女　　子〕

S 51年	1　位	2　位	3　位	
B 団体	四條畷学園中	交野市立第一中	大阪市立我孫子中	G阪市立勝山中
B D	北田・植田 （四條畷学園中）	松田・田中 （四條畷学園中）	大森・泉本 （大阪市立我孫子中）	大関・若林 （四條畷学園中）

S 52年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **近畿１位**	交野市立第一中	交野市立第二中	大阪市立鶴橋中
G D	松田・大関 （四條畷学園中）	金沢・西川 （交野市立第一中）	宮本・阿部 （大阪市立鶴橋中）	若林・松田 （四條畷学園中）

S 53年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中	大阪市立鶴橋中	大阪市立春日出中	交野市立第一中
G D	新木・久世 （四條畷学園中）	松田・押切 （四條畷学園中）	西・小田 （大阪市立勝山中）	阿部・中島 （大阪市立鶴橋中）

S 54年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中	大阪市立鶴橋中	交野市立第一中	交野市立第二中
G D	松田・押切 （四條畷学園中）	石井・原田 （四條畷学園中）	高井・吹原 （四條畷学園中）	鴻原・常木 （四條畷学園中）

S 55年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **（全国２位）**	吹田市立第二中	大阪市立市岡東中	交野市立第一中
G D	荒井・末房 （四條畷学園中）	宮崎・和泉 （四條畷学園中）	市川・新木 （四條畷学園中）	高橋・阿部 （大阪市立春日出中）
G S	原田 （四條畷学園中） **近畿２位　全国３位**	鴻原 （四條畷学園中） **近畿１位　全国３位**	大谷 （交野市立第一中）	徳屋 （八尾市立桂中）

S 56年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **全国１位**	守口市立梶中	大阪市立鶴橋中	吹田市立豊津西中
G D	和泉・今村 （四條畷学園中） **全国３位**	田岡・橋本 （吹田市立豊津西中）	林・前田 （大阪市立旭陽中）	片岡・馬場 （四條畷学園中）
G S	市川 （四條畷学園中）	新木 （四條畷学園中）	金井 （大阪市立鶴橋中）	上山 （大阪市立鶴橋中）

S 57年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中	大阪市立旭陽中	吹田市立豊津西中	交野市立第一中
G D	倉田・竹山 （大阪市立旭陽中）	尾崎・木内 （交野市立第一中）	刈谷・岩佐 （大阪市立美津島中）	岩切・久保 （交野市立第一中）
G S	片岡 （四條畷学園中）	今村 （四條畷学園中）	北口 （堺市立八田荘中）	飯井 （吹田市立第二中）

〔男　　子〕

S　58年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	交野市立第１中	四條畷学園中	守口市立第四中	八尾市立高安中
B　D	杉本・米今 （四條畷学園中）	富田・太田 （交野市立第一中）	久保田・尾崎 （交野市立第一中）	福本・林 （交野市立第一中）
B　S	斎藤 （四條畷学園中）	松本 （吹田市立古江台中）	常山 （守口市立第四中）	佐々木 （守口市立大久保中）

S　59年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中	守口市立第四中	枚方市立蹉跎中	交野市立第一中
B　D	植村・松浦 （四條畷学園中）	大川・伊藤 （守口市立第四中）		山崎・小林 （柏原市立堅下北中）
B　S	荒井 （守口市立第四中）	甲林 （四條畷学園中）	吉田 （吹田市立第二中）	

S　60年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	柏原市立堅下北中 **近畿１位**	守口市立第四中	四條畷学園中	守口市立梶中
B　D	山下・山田 （柏原市立堅下北中） **近畿３位**	山崎・小林 （柏原市立堅下北中） **近畿３位**	椋・近藤 （柏原市立堅下北中）	
B　S	荒木 （柏原市立堅下北中） **近畿２位**	白浜 （四條畷学園中） **近畿３位**	伊藤 （守口市立第四中）	亀田 （柏原市立堅下北中）

S　61年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **全国３位**	柏原市立堅下北中	交野市立第四中	交野市立第一中
B　D	見市・有田 （四條畷学園中） **近畿２位**	藤森・中原 （柏原市立堅下北中）	山本・小谷 （柏原市立堅下北中）	（交野市立第四中）
B　S	小河原 （四條畷学園中） **全国１位**	宮崎 （交野市立第一中）	仲田 （交野市立第四中）	岸田 （四條畷学園中）

S　62年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	柏原市立堅下北中 **近畿１位**	守口市立第四中	四條畷学園中 **近畿２位**	守口市立第一中
B　D	喜多・福地 （柏原市立堅下北中） **近畿３位　全国３位**	長谷坂・山崎 （柏原市立堅下北中）	田中・神田 （柏原市立堅下北中） **近畿３位**	西河・増田 （四條畷学園中）
B　S	井上 （柏原市立堅下北中）	上村 （四條畷学園中） **近畿２位**	中川 （交野市立第四中）	岡 （守口市立第一中）

S　63年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿２位　全国３位**	大阪市立瓜破西中	柏原市立堅下北中 **近畿３位**	交野市立第四中
B　D	山崎・秋吉 （柏原市立堅下北中）	西・妻屋 （柏原市立堅下北中） **近畿３位**	有田・斎藤 （四條畷学園中）	大河原・酒井 （枚方市立長尾中）
B　S	片岡 （大阪市立大正東中）	奥 （吹田市立第二中）	石川 （四條畷学園中）	吉岡 （柏原市立堅下北中）

〔女　　子〕

S 58年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	大阪市立旭陽中	四條畷学園中	摂津市立第一中	守口市立大久保中
G D	松田・福林 （大阪市立旭陽中）	三ツ川・長田 （四條畷学園中）	春木・山下 （大阪市立旭陽中）	森・北川 （四條畷学園中）
G S	金井 （大阪市立鶴橋中）	利川 （四條畷学園中）	渡 （四條畷学園中）	下桝 （大阪市立鶴橋中）

S 59年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **全国1位**	吹田市立豊津西中	摂津市立第一中	高槻市立第三中
G D	南里・南里 （四條畷学園中）	北川・三ツ川 （四條畷学園中） **全国2位**	山下・前田 （大阪市立旭陽中） **全国3位**	谷内・松田 （大阪市立旭陽中）
G S	利川 （四條畷学園中） **全国3位**	長沢 （吹田市立第二中）	岩田 （四條畷学園中）	坂口 （吹田市立豊津西中）

S 60年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **全国3位**	門真市立第五中	大阪市立旭陽中	堺市立八田荘中
G D	新木・坂田 （四條畷学園中）	保高・平野 （大阪市立旭陽中）	澄川・藤原 （堺市立八田荘中）	千本・岩田 （吹田市立豊津西中）
G S	荒井 （四條畷学園中）	岩田 （四條畷学園中）	古畑 （門真市立第五中）	横内 （吹田市立豊津西中）

S 61年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国3位**	摂津市立第一中 **近畿3位**	高槻市立如是中	大阪市立矢田中
G D	利川・玉村 （四條畷学園中）	土屋・長谷 （摂津市立第一中）	千本・小西 （吹田市立豊津西中）	磯山・松田 （四條畷学園中）
G S	水井 （四條畷学園中） **近畿1位　全国3位**	坂田 （四條畷学園中）	西川 （摂津市立第一中）	高谷 （摂津市立第一中）

S 62年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **近畿3位**	摂津市立第一中	大阪市立船場中 **近畿2位**	交野市立第二中
G D	橋本・磯山 （四條畷学園中）	石井・杉谷 （大阪市立船場中） **近畿3位**	池端・杉田 （四條畷学園中）	湯浅・宮崎 （大阪市立船場中）
G S	玉村 （四條畷学園中） **近畿1位　全国1位**	松田 （四條畷学園中） **近畿2位　全国2位**	安留 （柏原市立堅下北中）	渡 （四條畷学園中）

S 63年	1　位	2　位	3　位	
G 団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国3位**	堺市立八田荘中	大阪市立瓜破西中 **近畿2位**	交野市立第三中
G D	薦田・大田 （大阪市立瓜破西中） **近畿2位**	渡・杉田 （四條畷学園中） **近畿1位　全国3位**	鍋良・小林 （大阪市立瓜破西中）	池端・橋本 （四條畷学園中）
G S	松田 （四條畷学園中）	水井 （四條畷学園中） **近畿1位　全国3位**	信田 （四條畷学園中）	市川 （摂津市立第一中）

〔男　　子〕

H　1年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国3位**	大阪市立瓜破西中	枚方市立蹉跎中	柏原市立堅下北中
B　D	有田・斎藤 （四條畷学園中） **近畿1位　全国1位**	田中・北川 （四條畷学園中） **近畿2位**	城谷・柳 （大阪市立瓜破西中）	森田・谷口 （柏原市立堅下北中）
B　S	岸田 （四條畷学園中） **近畿1位**	中田 （大阪市立瓜破西中） **近畿2位**	御前 （豊中市立第十四中）	徳田 （交野市立第四中）

H　2年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿1位**	交野市立第四中 **近畿4位**	東大阪市立長瀬中	吹田市立第二中
B　D	恵美・児玉 （交野市立第四中） **近畿2位**	甲林・木村 （四條畷学園中）	井藤・高繁 （東大阪市立長瀬中）	津曲・森上 （柏原市立国分中）
B　S	北川 （四條畷学園中） **近畿1位　全国3位**	鈴木 （枚方市立蹉跎中）	御前 （豊中市立第十四中）	小池 （枚方市立蹉跎中）

H　3年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿1位**	柏原市立国分中	大阪市立此花中	枚方市立蹉跎中
B　D	平田・中島 （柏原市立国分中） **近畿3位**	勝山・菅原 （交野市立第四中）	相良・岩田 （大阪市立此花中）	島影・宇治 （四條畷学園中）
B　S	奥井 （四條畷学園中） **近畿1位**	木村 （四條畷学園中） **近畿2位**	高畑 （交野市立第四中）	南 （交野市立第四中）

H　4年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿1位**	大阪市立瓜破西中	交野市立第一中	枚方市立蹉跎中
B　D	島影・川口 （四條畷学園中） **近畿1位**	宇治・森本 （四條畷学園中） **近畿2位**	広中・藤井 （吹田市立第二中）	村田・岩切 （吹田市立第二中）
B　S	小倉 （四條畷学園中）	仲尾 （四條畷学園中）	福井 （大阪市立瓜破西中）	松重 （大阪市立喜連中）

H　5年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中 **近畿1位**	大阪市立瓜破西中	交野市立第四中	枚方市立蹉跎中
B　D	宇治・森本 （四條畷学園中） **近畿1位**	斎藤・恵良 （大阪市立瓜破西中）	塚本・宮本 （交野市立第四中）	喜多・南 （交野市立第四中）
B　S	仲尾 （四條畷学園中） **近畿3位**	川口 （四條畷学園中） **近畿2位　全国3位**	佐々木 （大阪市立瓜破西中）	井上 （守口市立第一中）

〔女　　子〕

H　1年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国2位**	大阪市立瓜破西中 **近畿2位**	摂津市立第一中	吹田市立第三中
G　D	信田・川口 （四條畷学園中） **近畿1位　全国2位**	喜多・和田 （四條畷学園中）	山名・徳岡 （大阪市立瓜破西中）	安城・山本静 （大阪市立瓜破西中）
G　S	市橋 （四條畷学園中） **近畿2位**	水井 （四條畷学園中） **近畿1位　全国2位**	大田 （大阪市立瓜破西中）	山本恵 （大阪市立瓜破西中）

H　2年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国1位**	大阪市立瓜破西中	吹田市立第三中	高槻市立如是中
G　D	川口・市橋美 （四條畷学園中） **近畿1位　全国2位**	安城・山本 （大阪市立瓜破西中） **近畿2位**	北垣・瀧川 （大阪市立瓜破西中）	中嶋・小川 （四條畷学園中）
G　S	水井 （四條畷学園中） **近畿1位　全国1位**	市橋理 （四條畷学園中） **近畿2位**	竹中 （大阪市立東中）	森 （吹田市立豊津西中）

H　3年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国1位**	大阪市立瓜破西中 **近畿3位**	摂津市立第一中	高槻市立如是中
G　D	鬼頭・水上 （四條畷学園中） **近畿2位**	平田・薦田 （大阪市立瓜破西中） **近畿3位**	山名・梶原 （大阪市立瓜破西中）	三和・沢田 （摂津市立第一中）
G　S	市橋理 （四條畷学園中） **近畿2位**	市橋美 （四條畷学園中） **近畿1位**	葛野 （吹田市立佐井寺中）	江口 （吹田市立第三中）

H　4年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国2位**	池田市立北豊島中	大阪市立瓜破西中	吹田市立西山田中
G　D	水上・吉岡 （四條畷学園中） **近畿1位**	薦田・芳村 （大阪市立瓜破西中）	山口・松本 （高槻市立如是中）	田中・山本静 （大阪市立瓜破西中）
G　S	市橋 （四條畷学園中） **近畿1位　全国3位**	澤田 （摂津市立第一中中） **近畿2位**	片山 （大阪市立長吉西中）	奥山 （吹田市立西山田中）

H　5年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿3位**	大阪市立瓜破西中	吹田市立青山台中 **近畿2位**	吹田市立西山田中
G　D	元木・山田 （大阪市立瓜破西中）	速水・坂口 （四條畷学園中）	川辺・上田 （四條畷学園中）	中田・佐藤 （吹田市立青山台中）
G　S	吉岡 （四條畷学園中） **近畿1位**	柳本 （四條畷学園中）	安城 （大阪市立瓜破西中）	雑賀 （高槻市立如是中）

〔男　　子〕

H　6年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	大阪市立瓜破西中 **近畿1位　全国2位**	柏原市立国分中	四條畷学園中	交野市立第四中
B　D	永谷・福川 （大阪市立瓜破西中） **近畿1位　全国1位**	今西・井原 （柏原市立国分中）	信田・藤川 （柏原市立国分中）	広内・湯口 （柏原市立国分中）
B　S	仲尾 （四條畷学園中） **近畿1位　全国2位**	松下 （大阪市立瓜破西中）	泉田 （吹田市立第二中）	馬場 （吹田市立第二中）

H　7年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	大阪市立瓜破西中 **近畿1位**	四條畷学園中	高槻市立五領中	柏原市立国分中
B　D	瀧川・永谷 （大阪市立瓜破西中） **近畿1位**	柴田・松尾 （大阪市立瓜破西中） **近畿2位**	木原・川口 （大阪市立瓜破西中）	川西・吉川 （四條畷学園中）
B　S	橋本 （大阪市立瓜破西中） **近畿1位**	大場 （四條畷学園中） **近畿3位**	高良 （高槻市立五領中）	白石 （高槻市立五領中）

H　8年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	大阪市立瓜破西中 **近畿3位**	柏原市立国分中	四條畷学園中	高槻市立五領中
B　D	瀧川・永谷 （大阪市立瓜破西中） **近畿3位**	中瀬・柴田 （柏原市立国分中）	三井・伊藤 （大阪市立瓜破西中）	梶・谷野 （柏原市立国分中）
B　S	橋本 （大阪市立瓜破西中） **近畿1位**	吉川 （四條畷学園中）	森 （枚方市立蹉跎中）	船本 （高槻市立五領中）

H　9年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	柏原市立国分中	交野市立第三中
B　D	伊藤・新開 （大阪市立瓜破西中）	阪下・土倉 （柏原市立国分中）	鎌田・田渕 （交野市立第三中）	有松・前田 （高槻市立五領中）
B　S	吉川 （四條畷学園中） **近畿3位**	銭谷 （四條畷学園中）	大滝 （大阪市立瓜破西中）	森岡 （大阪市立国分中）

H　10年	1　　位	2　　位	3　　位	
B　団体				
B　D				
B　S				

〔女　　子〕

H　6年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿1位　全国2位**	大阪市立瓜破西中 **近畿2位**	吹田市立青山台中	高槻市立如是中
G　D	山田・福永 （大阪市立瓜破西中） **近畿3位**	谷嶋・小畑 （四條畷学園中） **近畿1位**	元木・梶原 （大阪市立瓜破西中）	弘法堂・吉川 （四條畷学園中）
G　S	速水 （四條畷学園中） **近畿2位**	安城 （大阪市立瓜破西中） **近畿1位**	恵良 （大阪市立瓜破西中）	平松 （大阪市立淀中）

H　7年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	大阪市立瓜破西中 **近畿3位　全国2位**	四條畷学園中 **近畿1位　全国3位**	吹田市立西山田中	池田市立北豊島中
G　D	上田・坂口 （四條畷学園中） **近畿2位**	梶原・椋井 （大阪市立瓜破西中）	丸山・福富 （大阪市立東中）	中村・山村 （枚方市立蹉跎中）
G　S	安城 （大阪市立瓜破西中） **近畿1位　全国2位**	速水 （四條畷学園中） **近畿2位　全国3位**	恵良 （大阪市立瓜破西中）	吉岡 （四條畷学園中）

H　8年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿2位**	大阪市立瓜破西中 **近畿3位**	吹田市立青山台中	吹田市立西山田中
G　D	進藤・早川 （四條畷学園中）	一ノ瀬・小倉 （四條畷学園中）	森・香川 （吹田市立青山台中）	岩佐・山田 （吹田市立青山台中）
G　S	恵良 （大阪市立瓜破西中） **近畿3位**	南里 （四條畷学園中）	吉岡 （四條畷学園中） **近畿1位**	渡邉 （吹田市立青山台中）

H　9年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体	四條畷学園中 **近畿2位**	大阪市立瓜破西中	吹田市立青山台中	高槻市立第一中
G　D	小倉・赤 （四條畷学園中） **近畿3位**	松尾・原田 （大阪市立瓜破西中） **近畿2位**	川上・藤井 （高槻市立第一中）	大東・木全 （東大阪市立柏田中）
G　S	吉岡 （四條畷学園中） **近畿3位**	南里 （四條畷学園中）	亀谷 （四條畷学園中）	藤井 （吹田市立青山台中）

H　10年	1　　位	2　　位	3　　位	
G　団体				
G　D				
G　S				

大阪府中学校総合体育大会の記録

年度	回	1　　位	2　　位	3　　位	
S30年	男	大阪市立西中			
第9回	女				
S31年	男	大阪市立西中			
第10回	女				
S32年	男	大阪市立西中			
第11回	女	女箕面市立第一中			
S33年	男	大阪市立西中			
第12回	女	箕面市立第一中			
S34年	男	大阪市立西中			
第13回	女	池田市立北豊島中			
S35年	男	柏原市立柏原中			
第14回	女	箕面市立第一中			
S36年	男	大阪市立西中			
第15回	女	箕面市立第一中			
S37年	男	枚岡市立縄手中			
第16回	女	布施女子中			
S38年	男	枚岡市立縄手中			
第17回	女	枚岡市立縄手中			
S39年	男	大阪市立大正東中			
第18回	女	布施女子中			
S40年	男	枚岡市立縄手中			
第19回	女	女布施女子中			
S41年	男	大阪市立大正東中			
第20回	女	大阪市立花乃井中			
S42年	男	東大阪市立縄手中			
第21回	女	大阪市立花乃井中			
S43年	男	大阪市立東住吉中			
第22回	女	大阪市立花乃井中			
S44年	男	四條畷学園中	大阪市立花乃井中	交野町立中	東大阪市立縄手中
第23回	女	四條畷学園中	大阪市立花乃井中	大阪市立白鷺中	大阪市立東住吉中
S45年	男	四條畷学園中	大阪市立東住吉中	交野町立中	大阪市立摂陽中
第24回	女	大阪市立花乃井中	四條畷学園中	大阪市立白鷺中	大阪市立東住吉中
S46年	男	交野町立中	大阪市立勝山中	大阪市立東住吉中	大阪市立摂陽中
第25回	女	大阪市立花乃井中	四條畷学園中	大阪市立我孫子中	大阪市立東住吉中
S47年	男	交野市立第一中	大阪市立摂陽中	大阪市立勝山中	大阪市立東住吉中
第26回	女	四條畷学園中	大阪市立花乃井中	大阪市立東住吉中	大阪市立摂陽中
S48年	男	大阪市立勝山中	交野市立第一中	大阪市立我孫子中	東大阪市立縄手中
第27回	女	大阪市立鶴橋中	四條畷学園中	大阪市立我孫子中	交野市立第一中
S49年	男	交野市立第一中	大阪市立我孫子中	大阪市立東我孫子中	大阪市立摂陽中
第28回	女	大阪市立鶴橋中	四條畷学園中	大阪市立我孫子中	大阪市立港南中
S50年	男	交野市立第一中	大阪市立我孫子中	大阪市立勝山中	
第29回	女	四條畷学園中	大阪市立鶴橋中	大阪市立我孫子中	

年度	回	1　　位	2　　位	3　　位	
S51年	男	大阪市立勝山中	四條畷学園中	交野市立第一中	大阪市立我孫子中
第30回	女	四條畷学園中	交野市立第一中	大阪市立我孫子中	大阪市立勝山中
S52年	男	四條畷学園中	交野市立第一中	大阪市立我孫子中	大阪市立勝山中
第31回	女	四條畷学園中	大阪市立鶴橋中	大阪市立勝山中	交野市立第一中
S53年	男	四條畷学園中	大阪市立勝山中	高槻中	岸和田市立久米田中
第32回	女	四條畷学園中	大阪市立鶴橋中	大阪市立春日出中	大阪市立勝山中
S54年	男	四條畷学園中	大阪市立勝山中	大阪市立大和川中	柏原市立堅下北中
第33回	女	四條畷学園中	交野市立第一中	大阪市立鶴橋中	大阪市立大和川中
S55年	男	四條畷学園中	交野市立第二中	大阪市立長吉六反中	大阪市立大和川中
第34回	女	四條畷学園中	摂津市立第一中	大阪市立鶴橋中	交野市立第一中
S56年	男	四條畷学園中	大阪市立大和川中	大阪市立市岡東中	交野市立第三中
第35回	女	四條畷学園中	大阪市立鶴橋中	摂津市立第一中	守口市立梶中
S57年	男	四條畷学園中	交野市立第一中	守口市立第四中	八尾市立高安中
第36回	女	四條畷学園中	大阪市立旭陽中	大阪市立大正北中	摂津市立第一中
S58年	男	四條畷学園中	交野市立第一中	守口市立第四中	守口市立大久保中
第37回	女	大阪市立旭陽中	大阪市立鶴橋中	摂津市立第一中	守口市立大久保中
S59年	男	守口市立第四中	柏原市立堅下北中	四條畷学園中	交野市立第四中
第38回	女	大阪市立旭陽中	四條畷学園中	吹田市立第二中	高槻市立第三中
S60年	男	柏原市立堅下北中	四條畷学園中	守口市立第四中	守口市立梶中
第39回	女	四條畷学園中	門真市立第五中	大阪市立大宮中	堺市立八田荘中
S61年	男	四條畷学園中	交野市立第四中	交野市立第一中	交野市立第三中
第40回	女	四條畷学園中	摂津市立第一中	堺市立八田荘中	守口市立梶中
S62年	男	交野市立第四中	柏原市立堅下北中	交野市立第一中	大阪市立瓜破西中
第41回	女	四條畷学園中	大阪市立船場中	交野市立第二中	大阪市立瓜破西中
S63年	男	柏原市立堅下北中	四條畷学園中	交野市立第一中	大阪市立瓜破西中
第42回	女	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	堺市立八田荘中	柏原市立堅下北中
H11	男	四條畷学園中	交野市立第四中	柏原市立堅下北中	吹田市立第二中
第43回	女	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	摂津市立第一中	門真市立第五中
H2年	男	四條畷学園中	交野市立第四中	枚方市立蹉跎中	大阪市立瓜破西中
第44回	女	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	吹田市立豊津西中	吹田市立第三中
H3年	男	四條畷学園中	柏原市立国分中	交野市立第四中	大阪市立瓜破西中
第45回	女	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	高槻市立如是中	池田市立北豊島中
H4年	男	大阪市立瓜破西中	四條畷学園中	交野市立第三中	枚方市立蹉跎中
第46回	女	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	高槻市立如是中	大阪市立大淀中
H5年	男	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	交野市立第四中	柏原市立国分中
第47回	女	大阪市立瓜破西中	四條畷学園中	吹田市立青山台中	柏原市立国分中
H6年	男	大阪市立瓜破西中	柏原市立国分中	四條畷学園中	高槻中
第48回	女	大阪市立瓜破西中	四條畷学園中	吹田市立青山台中	高槻市立如是中
H7年	男	高槻市立五領中	大阪市立瓜破西中	四條畷学園中	柏原市立国分中
第49回	女	四條畷学園中	大阪市立瓜破西中	吹田市立青山台中	吹田市立高野台中
H8年	男	大阪市立瓜破西中	柏原市立国分中	四條畷学園中	交野市立第三中
第50回	女	大阪市立瓜破西中	四條畷学園中	吹田市立青山台中	守口市立第一中

全国中学校バドミントン大会記録

■ 第1回　東京都（1971）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	滋賀県	西橋義仁 井上初雄	西村金治 小野洋 平尾光彦 清水正和 丸岡俊治 広瀬克備	福井県	岡本昌孝	長谷川博幸 増田勝三 吉沢豊一 西片将 坂口輝男 後藤政治	奈良県 富山県
女子	団体	大阪府	渡辺真規子 杉田忠邦	瀬野清美 山下美恵子 広瀬順子 山本邦子 植野恵美子 秋本美津子	新潟県	遠藤武也 後藤和子	道端恵美子 藤田美智子 池田信子 落合陽子 前田恵美 落田典子	岡山県 富山県

■ 第2回　名古屋市（1972）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	奈良県	木村寛 上田耕作	春井前雄 堀切健美 吉岡伸浩 岡田和夫 小倉久和 平山公洋	石川県	森川徹 高田一郎	牧野裕 大門利昭 酒井直人 西川慎一 岡田常雄 山下教明	福井県 熊本県
女子	団体	大阪府	杉田忠邦 佐藤嬉子	植野恵美子 秋本美津子 山本邦子 河本裕子 北村寿弥子 石川好子	奈良県	木島敬博 里見多聞	岩井史子 中西利子 吉谷育子 奥谷尋子 西川由賀里 桐山綾子	滋賀県 東京都

■ 第3回　宇都宮市（1973）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	滋賀県	森田紀嗣 木村孝英	寺元昇 山田力男 北橋進 山之上徹 山岡清秀 西山博司	栃木県	塚原紀子 杉山すみ子	猪瀬博明 水野谷厚 鯨泰 佐通茂 船生芳男 山口浩一	奈良県 兵庫県
女子	団体	滋賀県	飯田照男 中川朋子	小西紀代美 川崎泉 黒岩正子 岡本久子 柴田真弓子 三上孝子	東京都	平田登志郎 池田昌道	徳永順子 水野ふみ子 流加代子 加藤幸子 寺島由紀子 長谷川桂子	新潟県 福井県

■ 第4回　東京都（1974）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	滋賀県	藤原健二 森田紀嗣	西山博司 矢部忠司 吉田繁喜 西岡宏 山田和樹 宇野恒和	福井県	岡田政幸 富田則子	上田政広 玉村琢二 前川勇一 海道昌孝 大阪哲嗣 武田幸一	埼玉県 福岡県
女子	団体	大阪府	杉田忠邦 渡辺真規子	河村茂美 阿部俊子 馬場恭子 平久美子 陳福輝 金子房子	熊本県	野々口清介 広瀬邦照	野中弘美 相良裕美 中村美世子 高松久仁子 原口恵子 河内まゆみ	福井県 富山県

■ 第5回　東京都（1975）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	熊本県	長野寛 本石幸一	本石俊徳 舞鴨庄蔵 酒井正彦 甲斐秀敏 鎌ケ泊一生 三次圭介	滋賀県	高橋茂 徳谷正	滝川正 桑野至	奈良県 埼玉県
女子	団体	熊本県	野々口清介 山本義人	高松久仁子 原口恵子 川添安代 相良裕美 高峰彰子 松末嘉代子	北海道	袴田鉄美 西森幹彦	小塚理世 児玉和実 中村悦子 柳沼瑞代 佐藤朱実 高松みどり	大阪府 福井県

■ 第6回　仙台市（1976）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	熊本県	長野寛 加藤泰憲	権藤浩二 原口好弘 村岡泰彦 三次圭介 村上英介 井上哲章	栃木県	斎藤佶 上弥充雄	馬場良浩 尾田史明 小野口正 高橋安則 赤羽利幸 坂本幸夫	宮城県 奈良県
女子	団体	滋賀県	飯田照男 久保明雄	西村美千代 青山寿美 高崎敏子 岩見洋子 倉見安世 磯野恵理子	大阪府	杉田忠邦 水井良平	北田スミ子 松田全代 大関恵美子 植田日出子 田中かをる 山口典子	熊本県 埼玉県

■ 第7回　伊勢市（1977）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	熊本県	芦原健身 長野寛	高木裕二 井上哲章 堺圭一 松川和裕 丸山隆介 本石大介	栃木県	塚原紀子 水沼宏	大島正志 大堀円 石下稔 鈴木純一 猪瀬和己 上野洋二	神奈川県 埼玉県
女子	団体	熊本県	野々口清介 中田秀夫	高峰和子 松永嘉代子 森本美佐子 志水さとみ 陣内貴美子 中村由美	北海道	袴田鉄美 西森幹彦	高橋とみ子 佐藤啓子 藤永由香 西岡孝子 松山早苗 佐々木久江	滋賀県 香川県

■ 第8回　名古屋市（1978）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	神奈川県	須田兼三郎 鹿内利保	杉山文則 豊田裕行 奈良秀孝 上床宣渉 平野泉 中村	熊本県	長野寛 今村孝利	伊東幸男 福田和幸 東俊郎 山口浩二 田中幸男 三次英昭	栃木県 埼玉県
女子	団体	熊本県	野々口清介 芦原健身	陣内貴美子 橋口潤子 一村由美 井村由美 森山弘美 高峰尚子	神奈川県	須田兼三郎 鹿内利保	金子直枝 松岡紀子 大岩弘枝 大竹真紀子 熊沢加代子 屋代利子	大阪府 埼玉県

■ 第9回　神戸市（1979）

種目		優勝			準優勝			三位
		都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県	監督名 マネージャー名	選手名	都道府県
男子	団体	大阪府	出口健次 中田守	前川正則 杉本吉男 見市昌弘 福田誠 村上勲 鶴岡真吾	茨城県	神立喜文 小島一夫	江原均 朝香学 森昭博 大輪敏弘 武藤義教 横尾宣幸	栃木県
女子	団体	熊本県	芦原健身 後藤早苗	森山弘美 高峰尚子 三田純子 上村美香 大島みどり 平井真由美	大阪府	杉田忠邦 北村寿弥子	松田太嘉子 押切美喜 石井美澄 鴻原春美	埼玉県 神奈川県

■ 第10回　熊本市（1980）

種目		優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	東京都 調布市立第四中	椙山　松良	福田　昭典 瀬木　啓之 本川　伸逸 谷　竜次 正岡　幹夫 藤沢　哲	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	猪俣　祐二 藤咲　勇一 大島　博昭 長内　裕一 杉浦　雅之 中島　次郎	静岡市 伊東市立南中 福井県 福井市立成和中	
	単	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	見市　昌弘	熊本県 八代市第三中	北村栄一郎	川本　英明	埼玉県 越谷市立栄進中	藤崎　勇一
								大阪府 四條畷学園中	福田　誠
	複	熊本県 玉名市立玉陵中	新居　健	三次　英昭 野村　伸郎	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	松川　稔巳 福田　洋介	茨城県 阿見町立朝日中	山ノ内政和 中村　雅俊 川井　健司 小野　満哲
女子	団体	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子　春美	上村　美香 東山　薫 平井真由美 青木きよみ 山田　美紀 佐藤由美子	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	鴻原　春美 末房　政美 新木　貴子 原田いずみ 荒井　桂子 市川　綾	埼玉県 川口市立芝中 香川県 香川町立香川第一中	
	単	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子　春美	上村　美香	香川県 高浜市立一宮中	笹村　恵子	中川富美子	大阪府 四條畷学園中	原田いずみ
								大阪府 四條畷学園中	鴻原　春美
	複	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子　春美	青木きよみ 平井真由美	香川県 香川町立香川第一中	新　健二	平井美代子 田中　美幸	栃木県 今市市立今市中	須藤千代子 細井　礼子
								岡山県 笹岡市立白石中	中川　史子 山川　奈緒

■ 第11回　奈良市（1981）

種目		優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	藤木　俊夫 鶴田　直行 林　謙一 山下　豊彦 阿久根哲也 藤村　春文	北海道 滝川市立江陵中	若松　重義	佐藤　広志 佐藤　智雄 中居　靖人 中川　豊明 西　学 松浦　良紀	埼玉県 越谷市立進中 神奈川県 横浜市立戸塚中	
	単	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	林　謙一	東京都 北区立神谷中	杉村　克之	黒沢　武	青森県 大鰐町立大鰐中	一戸　英樹
								大阪府 四條畷学園中	江藤　裕樹
	複	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	鶴田　直行 山下　豊彦	埼玉県 鳩ヶ谷市立里中	峰岸　早苗	松元　功一 福田　和浩	福井県 福井市立成和中	坂田　智洋 芦井　隆俊
								栃木県 今市市立今市中	柴田　直美 石川　勉
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	新木　貴子 和泉　昌子 片岡　明子 市川　綾 今村　薫 馬場　環	熊本県 熊本市立出水中	吉島　哲哉	高田　美和 林　幸枝 本田　淳子 米津ゆかり 清水　美 米岡有紀子	埼玉県 越谷市立栄進中 香川県 香川町立香川第一中	
	単	熊本県 熊本信愛女学院中	兼子　春美	平井真由美	埼玉県 越谷市栄進中	加藤　勝	今井　裕子	北海道 上砂川町立上砂川中	徳光由美子
								茨城県 明野町立明野中	須藤　早苗
	複	埼玉県 鳩ヶ谷市立里中	峰岸　早苗	今野　裕子 佐々木優美子	熊本県 熊本市立出水中	吉島　哲哉	米津ゆかり 林　幸枝	大阪府 四條畷学園中	和泉　昌子 今村　薫
								北海道 上砂川町立上砂川	高橋　可奈 藤原　利江

■ 第12回　新潟市（1982）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	福井県 福井市立光陽中	江岸　徹	佐藤　輝行 堤　清史 田中　幹男 水野　勝年 大林　宏次 高橋　和男 佐竹　武夫	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	石橋　隆 村沢　寛幸 大島　憲児 藤坂　裕之 水谷　浩幸 山内　一志	神奈川県 横浜市立戸塚中 大阪府 四條畷学園中	
	単	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	石橋　隆	熊本県 長洲町立長洲中	高木英俊郎	浜北　和彦	東京都 立川市立立川第八中 大阪府 四條畷学園中	加藤　政裕 早戸　敬雄
	複	埼玉県 戸田市立戸田中	永田　正彦	生井沢勝美 立本　敬人	福井県 福井市立光陽中	江岸　徹	堤　清忠 田中　幹男	茨城県 石岡市立石岡中 東京都 東大和市立東大和	小室　浩之 緑川　剛 平野　信治 渡辺　正司
女子	団体	茨城県 明野町立明野中	小島　一夫	関　富子 古宇田八重子 木庄野かおる 本橋　優子 坂入　律子 坂入　悦子 松本　啓子	熊本県 菊池市立菊地北中	西村　亮子	中原紀代美 田代美智代 安達　優子 毛利　千秋 田村真理子 岩男　徳子 河津美奈子	神奈川県 横浜市立戸塚中 新潟県 新潟市立関屋中	
	単	茨城県 明野町立明野中	小島　一夫	木庄野かおる	熊本県 菊池市立菊地北中	緒方美保子	田島　志乃	熊本県 熊本信愛女学院中 神奈川県 横浜市立戸塚中	佐藤由美子 牧畑　里佳
	複	香川県 香川町立香川第一中	新　建二	山本　知美 塩田美佐子	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	岡井　裕子 和田　陽子	新潟県 新潟市立関屋中 愛知県 愛知淑徳中	小池由扶子 藤井　裕絵 六郷　由香 伊藤　千恵

■ 第13回　新庄市（1983）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	紙谷　高志 久住　猛 小本　義久 小本　秀男 歌津　誠也 中村　伸也 富永　大	茨城県 明野町立明野中	小島　一夫	大吉　晴男 島田　孝二 大和田　勉 木村　猛 杉山　義治 島田　聡 直井　恒一	埼玉県 戸田市立戸田中 埼玉県 越谷市立栄進中	
	単	京都府 ヴィアルート学園 洛星中	上杉　光弥	三角　典生	栃木県 今市市立今市中	斉藤　康明	大堀　均	北海道 旭川市立嵐中 熊本県 熊本市立出水中	三船　昌晴 畑野　宏幸
	複	熊本県 熊本市立桜山中	増田　市子	紙谷　高志 久住　猛	北海道 滝川市立江陵中	若松　重義	谷口　久永 林　秀行	新潟県 蒸市立蒸中 茨城県 阿見市立阿見中	梅田　毅 田中　忠夫 詰束　雄二 堀之内　滋
女子	団体	茨城県 明野町立明野中	小島一夫	平塚　康愛 松本　啓子 赤城ひとみ 坂入　直美 大久保典江 関　裕子 穂積　千草	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	西沢紀代美 渡辺喜美子 林　美布 内田美奈子 津下　郁恵 戸泉和加子 白畑　美和	茨城県 石岡市立石岡中 北海道 上砂川町立上砂川中	
	単	熊本県 熊本市立帯山中	吉田三恵子	松尾　知美	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁	三上　明子	茨城県 明野市立明野中 岡山県 備前市立備前中	松本　啓子 西林　昭子
	複	熊本県 菊池市立菊池南中	西村　亮子	安達　優子 毛利　千秋	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	西沢紀代美 林　美布	千葉県 長柄町立昭栄中 滋賀県 草津市立草津中	村上　文江 行方　紀子 田中　美和 川村　祐子

■ 第14回　大阪市（1984）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	岡本　英基 石井　隆 大畑　昭一 田口　勝彦 関根　英勝 小屋野昭裕 須賀　隆弘	栃木県 小山市立小山第二中	大根田康子	秋津　玲治 斉藤　佳晴 平野　泰宏 佐賀　史昭 江連　忠雄 大塚　一幸 田中　匡	富山県 上市町立上市中 北海道 滝川市立江陵中	
	単	奈良県 奈良市立二名中	山口　純子	中橋　一晃	熊本県 岱明町立岱明中	高峯　彰子	高村　誠也	石川県 宇ノ気町立宇ノ気中 滋賀県 大津市立皇子山中	小池田　薫 鈴木草麻生
	複	栃木県 小山市立小山第二中	大根田康子	秋津　玲治 斉藤　佳晴	青森県 弘前市立弘前第一中	上野　四郎	小野　武 山本　秀樹	埼玉県 越谷市立栄進中 石川県 七塚町立河北台中	石井　隆 大畑　昭一 大塚　貴康 田丸　裕一
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	北川　実子 利川　貴子 三ツ川貴子 南里　泰子 南里　高子 岩田　良子 荒井　則子	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁	乳井　智秋 三浦美紀子 和泉美恵子 藤田　範子 佐々由美子 田中　千賀 倉光　愛美	埼玉県 越谷市立栄進中 熊本県 熊本市立京陵中	
	単	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝	捧　匡子	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁	乳井　智秋	大阪府 四條畷学園中 熊本県 熊本市立京陵中	利川　貴子 戸泉和加子
	複	熊本県 熊本市立楠中	長野　寛	江良　智子 工藤　雅代	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	北川　実子 三ツ川貴子	茨城県 石岡市立石岡中 大阪府 大阪市立旭陽中	塚沢　昌子 鬼沢　絹代 前田　香代 山下　春美

■ 第15回　登別市（1985）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	熊本県 岱明町立岱明中	高峯　彰子 江口　英二	高村　誠也 境　恵司 村中　陽介 西村　竜時 春野　秀信 牛丸　哲也 霜上　和宏	富山県 上市町立上市中	高島　由順 藤縄　岳志	池田　真明 高橋　清史 種　浩章 長原　昭博 沢田　淳悦 沢田　義勝 境　淳一	北海道 滝川市立江陵中 埼玉県 越谷市立栄進中	
	単	熊本県 岱明町立岱明中	高峯　彰子	高村　誠也	北海道 陸別町立陸別中	根岸　邦昌	横山　匡	奈良県 奈良市立二名中 青森県 弘前市立弘前第一	中橋　一晃 工藤　康智
	複	青森県 弘前市立弘前第一中	山内　時治	加藤　正明 今　宣仁	茨城県 明野町立明野中	神立　喜文	竹内　文規 物井　哲夫	青森県 弘前市立弘前第一中 熊本県	大谷　知昌 佐々木正文 西村　竜時 村中　陽介
女子	団体	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利 後藤　利子	金田　理恵 林　美枝 吉岡千恵子 高木　菊子 松本　理恵 小原　康代 本田　顕子	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝 海野かおり	船津　佳子 早川恵美子 若井　郁子 加賀ゆかり 西条みゆき 白井ちかげ 山口　幸恵	大阪府 四條畷学園中 栃木県 宇都宮市立鬼怒中	
	単	熊本県 熊本市立西原中	坂　為清	宮村　愛子	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利 吉岡　徳子	松本　理恵	山梨県 甲府市立甲府北中 北海道 室蘭市立東明中	日原恵美子 三上　直子
	複	熊本県 菊池市立菊池南中	荻原　一光 堀井　尚美	中原　敬子 甲斐　美和	埼玉県 越谷市立栄進中	加藤　勝 山内　賢春	船津　佳子 加賀ゆかり	北海道 陸別市立陸別中 兵庫県 加古川市立中部上	岩崎絵理子 田中　範子 吉田　悦子 三浦亜紀子

■ 第16回　真岡市（1986）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	石川県 七塚町立河北台中	森川　徹 池上　公之	花　芳秀 北井　淳 紺谷　幸一 越野　史郎 坂野　靖 綾瀬　寛隆 中村　勲	神奈川県 横浜市立金沢中	後藤　秀晴 藤井　康友	橋本　剛 鈴木　昭夫 市野　透 窪田　暁 根本　貴弘 松田　幸夫 高森　敦	大阪府 四條畷学園中 滋賀県 大津市立堅田中	
	単	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一	小河原　崇	栃木県 宇都宮市立旭中	黒川　雄才	磯部　和弘	北海道 旭川市立広陵中 沖縄県 糸満市立三和中	古川　英樹 金城　勉
	複	石川県 宇ノ気町立宇ノ気中	野川　徹	藤島　浩司 藤森　隆	茨城県 明野町立明野中	神立　喜文	中島　祐二 飯泉　哲也	北海道 滝川市立江陵中 熊本県 岱明町立岱明中	末村　利彦 佐藤　嘉伸 田上　厚志 本田　和裕
女子	団体	香川県 香川町立香川第一	新　建二 長尾　文代	六車　澄子 古田　幸代 米崎由紀子 塩田恵理子 村尾　佳美 小野　晶子 百相　美	栃木県 宇都宮市立鬼怒中	神長　信夫 塩田　恵美	高岡　千穂 小松　隆子 柳田　晃代 佐々木紀子 鈴木　洋子 斉藤　忍 大久保弘美	大阪府 四條畷学園中 熊本県 熊本市立西山中	
	単	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	宮村　愛子	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	松本　理恵	大阪府 四條畷学園中 兵庫県 園田学園中	水井妃佐子 小泉　友紀
	複	熊本県 熊本市立西山中	畠山　篤	松田　治子 阪本　雅子	栃木県 宇都宮市立鬼怒中	神長　信夫	小松　隆子 鈴木　洋子	青森県 弘前市立弘前第一中 熊本県 熊本市立楠中	溝江　圭美 尾崎　由美 松本　真子 緒方　真弓

■ 第17回　春日井市（1987）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	石川県 高松町立高松中	浅野　外志 金津　真禎	会津　勲 竹中　新弥 大多　晴久 草野　孝司 柴田外次郎 西　孝広 森　喜朗	東京都 田無市立田無第一中	田嶋　隆 三浦　猛	松野　真二 柳川　正紀 山崎　武志 野口　聡 朝田　勇 後藤　琢仁 後藤　高広	青森県 弘前市立弘前第一中 栃木県 宇都宮市立旭中	
	単	熊本県 岱明町立岱明中	中村　浩史	本田　和裕	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	阿部　英郎	北海道 旭川市立神居古潭中 埼玉県 越谷市立栄進中	馬木　貴之 関根　靖則
	複	熊本県 岱明町立岱明中	中村　浩史	前田　尚史 池端　和枝	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁	山口　英二 福士　誠	東京都 田無市立田無第一中 大阪府 柏原市立堅下北中	野口　勉 朝田　勇 喜多　真吾 福地　成司
女子	団体	香川県 香川町立香川第一中	新　建二 長尾　文代	平木　祥子 大角　美和 棚澤　ゆみ 上居亜須香 富田美津枝 村瀬　香 河北奈津美	青森県 弘前市立弘前第一中	和島　秀美 福士亜紀子	花田　薫 工藤　佳子 岡本　朋子 笹　真由美 相馬　麻美 館田　賢子 水谷美智子	福岡県 岡垣町立岡垣中 埼玉県 越谷市立栄進中	
	単	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	玉村　由紀	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦	松田　洋子	青森県 弘前市立弘前第一中 熊本県 熊本市立西山中	米谷真智子 阪本　雅子
	複	熊本県 熊本市立京陵中	今村　孝利	後藤　利子 渡辺真由美	香川県 香川町立香川第一中	新　建二	棚澤　ゆみ 大角　美和	熊本県 熊本信愛女学中 熊本県 菊池市立菊池中	川添　美奈 宇野　香織 足立　和泉 坂本佳寿子

■ 第18回　盛岡市（1988）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	東京都 田無市立田無第一中	田嶋　隆 長谷川英慶	茂野　博起 長岡　浩之 増田　直樹 合田　洋平 山浦　元樹 上橋　忠幸 福田　秀雄	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信市 杉田　忠邦	西川浩二郎 岸田　健作 増田　哲也 田中　宏和 斎藤　俊 北川　明 有田　浩史	青森県 弘前市立弘前第一中 香川県 香川町立香川第一中	
	単	福岡県 岡垣町立岡垣中	山本　義充	満石　忠博	千葉県 千葉市立山王中	福本　順	太田　慎二	青森県 弘前市立弘前第一中 熊本県 岱明町立岱明中	沢田　崇文 福田　茂
	複	東京都 田無市立田無第一中	田嶋　隆	茂野　博起 山浦　元樹	石川県 美川町立美川中	水内　浩	石本　明男 本田　暁暢	奈良県 奈良市立二名中 茨城県 阿見町立阿見中	林田　崇 小谷　範利 吉岡　秀樹 沼尻　裕昭
女子	団体	宮城県 聖ウルスラ学院中	片桐　勉 小野寺裕美	橋本　淳子 高橋　歩 窪田　香 岡　加代子 林　千加 山田　裕美 千葉あゆみ	栃木県 宇都宮市立鬼怒中	神長　信夫 古橋安紀子	大久保裕美 矢後かおり 斎藤　忍 田村　麻里 塩田　恵美 村上　恵子 長谷川菊枝	大阪府 四條畷学園中 香川県 香川町立香川第一中	
	単	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁	米谷真智子	宮城県 聖ウルスラ学院中	片桐　勉	橋本　淳子	大阪府 四條畷学園中 熊本県 熊本市立錦ヶ丘中	水井　泰子 福島　千里
	複	香川県 香川町立香川第一中	新　建二	富田美津枝 村瀬　香	富山県 富山市立芝園中	陰山　陽子	河口奈緒美 下村　絵里	栃木県 宇都宮市立鬼怒中 大阪府 四條畷学園中	大久保裕美 斎藤　忍 渡　由紀 杉田　暢子

■ 第19回　山口市（1989）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁 時苗　淳	戸祭　潤 三上　伸一 鈴木　宏章 時苗　淳 工藤公世彦 佐藤　善継 山口　将治	茨城県 伊奈町立伊奈東中	国井　徹 大久保和人	成島　瑞恵 小竹　好文 倉持　敏彦 美濃口　進 塩入　清 猪瀬　勝也 文随　正和	大阪府 四條畷学園中 香川県 香川町立香川第一中	
	単	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁 時苗　淳	戸祭　潤	長崎県 大村市立玖島中	川添　誠	片岡　直茂	茨城県 伊奈町立伊奈東中 千葉県 習志野市立第三中	成島　瑞恵 福間　豪
	複	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一 杉田　忠邦	有田　浩史 斎藤　俊	佐賀県 山内町立山内中	吉田　俊明 田崎　秀和	大宅　正樹 山下　新郎	青森県 弘前市立弘前第一中 埼玉県	時蒔　亮 鈴木　宏章 前内　将人 五十嵐豊晴
女子	団体	熊本県 熊本市立京陵中	西原　憲児 東　里英	宮村亜貴子 大串　朱美 谷岡　美保 原野　美紀 松浦　幸 川添　忍 浦田　明子	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	信田　富貴 喜多　明子 和田　一子 川口　桐香 水井　泰子 淵側　博美 市橋　美紀	宮城県 聖ウルスラ学院中 東京都 立川市立立川第八中	
	単	青森県 弘前市立弘前第一中	和島　秀美 加藤　弘幸	米谷真智子	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	水井　泰子	熊本県 熊本市立京陵中 東京都 杉並区立大宮中	宮村亜貴子 小杉　朋子
	複	北海道 旭川市立神居古潭中	中村　光生 笠井　毅明	増茂　孝枝 中山智香子	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	信田　富貴 川口　桐香	宮城県 聖ウルスラ学院中 宮城県 聖ウルスラ学院中	山田　裕美 佐竹　朋子 岡　加代子 貴田　泉

■ 第20回　坂出市（1990）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	香川県 香川町立香川第一中	新　建二 北川　幸子	河北　直樹 久保　敬文 吉川　大助 村上　和隆 林　祐介 細谷　俊博 瀧　裕明	香川県 高松市立勝賀中	石川　貴義 十河　聖司	佐藤　元 山本　久利 前田　政紀 和田　雅之 香西　睦 石田　哲也 阿部　誠	茨城県 石下町立石下中 茨城県 阿見町立阿見中	
	単	茨城県 石下町立石下中	上家　治 比毛　英幸	荒井　孝	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁 川口　竜美	山口　将治	大阪府 四條畷学園中 北海道 登別市立札内中	北川　明 井野　嘉久
	複	佐賀県 山内町立山内中	吉田　俊明	樋渡　順也 多久島　誠	佐賀県 山内町立山内中	吉田　俊明	山下　大介 山口　智一	茨城県 阿見町立阿見中 香川県 香川町立香川第一	矢部　正博 斎藤　豊 久保　敬文 村上　和隆
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	水井　泰子 川口　桐香 淵側　博美 中嶋　美樹 市橋　美紀 鬼頭　加代 市橋　理恵	東京都 立川市立立川第八中	渡辺　重己 尾方ますみ	西木場美紀 一戸　和美 松井　由香 坂下　幸恵 五十嵐亜希子 米倉加奈子 中田　陽子	宮城県 聖ウルスラ学院中 岡山県 岡山市立西大寺中	
	単	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	水井　泰子	熊本県 熊本市立東町中	田原　幹資	坂本美千穂	熊本県 熊本市立京陵中 石川県 七塚市立河北台中	原野　美紀 櫻井　宏子
	複	北海道 旭川市立神居古潭中	中村　光生 笠井　毅明	増茂　孝枝 中山智香子	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	川口　桐香 市橋　美紀	栃木県 宇都宮市立鬼怒中 宮城県 聖ウルスラ学院中	桝田　明子 鈴木　恵 貴田　泉 太田　裕子

■ 第21回　熊本市（1991）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁 工藤　真澄	山口　将治 時苗　淳 加藤　弘幸 瓜田　淳 船山　和也 竹内　大輔 中野　亮太	熊本県 岱明町立岱明中	眞田　晴美 植野　由貴	田上　尚寛 田上　修 田崎誠一郎 池端　修 田上　良治 田上　征寛 古庄　隆	富山県 上市町立上市中 香川県 香川町立香川第一中	
	単	北海道 旭川市立神居古潭中	中村　光生 斉藤　裕子	一宮　孝一	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁 工藤　真澄	山口　将治	青森県 弘前市立弘前第一中 富山県 高岡市立志貴野中	瓜田　淳 紙谷　仁士
	複	青森県 弘前市立弘前第一中	高屋　仁 工藤　真澄	時苗　淳 加藤　弘幸	熊本県 岱明町立岱明中	眞田　晴美 植野　由貴	田上　尚寛 田上　修	栃木県 小山市立小山城南中 香川県 香川町立香川第一	下鳥　洋樹 高嶋　進 瀧　裕明 栗原　大介
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	杉田　忠邦 仲尾　信一	市橋　美紀 小川　智世 橋本　幸恵 鬼頭　加代 市橋　理恵 水上　実希 柳本久美子	富山県 富山市立奥田中	金子　俊哉 佐竹　隆太	山田　潤子 大川　清美 末松　妙子 加藤真知子 山田　青子 池田　里美 米丘　幸世	熊本県 熊本市立東町中 熊本県 熊本市立京陵中	
	単	東京都 立川市立立川第八中	渡辺　重己 中川　史子	米倉加奈子	佐賀県 鳥栖市立田代中	豊田　博司	田中　美保	栃木県 宇都宮市立陽北中 宮城県 聖ウルスラ学院中	普津沢暁子 庄子　絵美
	複	香川県 香川町立香川第一中	新　建二 高木由佳理	中山真理子 徳永　郁子	熊本県 熊本市立京陵中	山本　斎子 富田久美子	洲鎌　靖子 東　登里	茨城県 石岡市立国府中 宮城県 聖ウルスラ学院中	高木　志穂 田口由里子 太田　裕子 千葉　園枝

■ 第22回　高岡市（1992）

種目		優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	茨城県 石下町立石下中	斉藤　修一 和田　英昭	稲石　光洋 小林　利弘 大崎　裕一 小吹　公彦 沼尻　政博 平塚　勝也 渡辺　洋一	栃木県 宇都宮市立旭中	橿渕　正一 武田　二郎	青木　孝徳 田嶋　英明 山田　浩史 渡辺　雅之 増山　和広 小林　隆史 塩原　智史	青森県 弘前市立第一中 埼玉県 川島町立川島中	
	単	北海道 旭川市立神居古潭中	斉藤　裕子	馬木　智一	埼玉県 浦和市立岸中	長瀬　俊一 谷口　和佳	中村　憲直	茨城県 石下町立石下中 石川県 金沢市立医王山中	小林　利弘 徳坂　渉
	複	富山県 上市町立上市中	土肥　克雄 吉田　弘治	酒井　大輔 久保　浩之	栃木県 宇都宮市立旭中	橿渕　正一 野口　直彦	青木　孝徳 山田　浩史	茨城県 石下町立石下中 熊本県 八代市立第二中	稲石　光洋 沼尻　政博 川崎　大造 村崎　孝文
女子	団体	熊本県 熊本市立京陵中	西原　憲児 渡辺　直美	東　美登里 洲鎌　靖子 本田あゆ美 平田あゆ美 嶋村吉利子 石井沙百合 田尻　美和	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一 石川　拓司	水上　実希 市橋　理恵 北田　直美 吉岡　知香 柳本久美子 川辺　仁美 谷嶋ゆき子	富山県 富山市立奥田中 富山県 高岡市立南星中	
	単	宮城県 聖ウルスラ学院中	片桐　勉 安孫子千絵	太田　裕子	福岡県 福岡市立城南中	高田　俊哉 永石　理美	大田　久美	栃木県 宇都宮市立旭中 大阪府 四條畷学園中	関本　祥子 市橋　理恵
	複	富山県 富山市立奥田中	金子　俊哉 小幡　晃子	加藤真知子 山田　青子	熊本県 熊本市立京陵中	西原　憲児 渡辺　直美	東　美登里 洲鎌　靖子	熊本県 熊本市立京陵中 熊本県 熊本市立東町中	本田　愛科 平田あゆ美 秋月　理沙 片山希美子

■ 第23回　大津市（1993）

種目		優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	準優勝 都道府県 学校名	監督名 マネージャー名	選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	香川県 香川県立香川第一中	新　建二 上原　延幸	藤澤　重樹 池田　幸生 大山　勝照 梶野　慎介 中西　洋介 久保　直輝 安徳　和哉	香川県 高松市立玉藻中	久保　賢吾 前原　亮裕	熱田　尚彦 福田　雅信 谷川　義明 山田　崇 長谷　建志 鎌田　和樹 東　雅樹	大阪府 四條畷学園中 滋賀県 大津市立真野中	
	単	長崎県 長崎市立大浦中	山口　孝子	大束　忠司	滋賀県 大津市立田上中	村上　隆三	向　裕樹	石川県 金沢市立犀生中 大阪府 四條畷学園中	舛田　圭太 川口　馨士
	複	香川県 高松市立玉藻中	久保　賢吾	熱田　尚彦 鎌田　和樹	青森県 弘前市立弘前第一中	田中　宏明	藤田　真人 川口　英春	埼玉県 川崎町立西中 茨城県 阿見町立朝日中	福室　明宏 佐藤　貫洋 佐藤　大輔 大山　賢吉
女子	団体	香川県 高松市立玉藻中	鈴木　俊彦 國井　伯重	鴨田　操佳 石本ちひろ 杉山　知子 國井　葉子 米田　佳代 薄　真理子 佐藤　行代	熊本県 熊本市立東町中	松田正二郎 池田　聡子	仲原　千春 永峰　弘子 村崎加奈子 児玉　友 田代　祥子 濱山　恵子 甲斐明日香	滋賀県 大津市立日吉中 茨城県 石岡市立国府中	
	単	熊本県 八代市立第四中	吉永　政義	一美ゆかり	茨城県 石岡市立国府中	国井　徹	井川　里美	滋賀県 大津市立日吉中 熊本県 八代市立第四中	勝嶋　梨絵 嶋田　友紀
	複	茨城県 石岡市立国府中	国井　徹	森　陽子 仲田　智美	熊本県 岱明町立岱明中	眞田　晴美	中川麻衣子 籾田　奈美	熊本県 八代市立第三中 香川県 香川町立香川第一	山室　智美 松浦　裕子 徳永　綾子 高木由佳理

■ 第24回　旭川市（1994）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	香川県 香川町立香川第一中	宮本　浩 富田　健太	久保　直輝 中西　洋介 小比賀昭仁 安徳　和哉 平見　貴志 前田　丈博 槙田　正志	大阪府 大阪市立瓜破西中	岩田　信之 柴田　善夫	佐々木秀夫 松下　文雄 恵良　哲哉 斉藤　篤 福川　和也 永谷　和也 橋本　悠吾	宮城県 多賀城市立第二中 石川県 高松町立高松中	
	単	香川県 香川町立香川第一中	宮本　浩	中西　洋介	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一	仲尾　修一	北海道 旭川市立豊里中	上田　大輔
								北海道 苫小牧市立光洋中	三上　裕司
	複	大阪府 瓜破西中	岩田　信之	永谷　和也 福川　和也	宮城県 多賀城市立第二中	遠山　勝治	我妻　克彦 松井　洋太	香川県 高松市立玉藻中	東　雅樹 前原　亮裕
								東京都 国分寺市立第四中	佐々木恭平 田端　公人
女子	団体	大阪府 四條畷学園中	仲尾　信一 増田佐知子	谷嶋ゆき子 小畑真由美 弘法堂イッ子 速水　永子 吉川志津香 上田多希子 坂口　実郁	北海道 旭川市立広陵中	中村　光生 小城　好永	石黒　弘子 馬場奈穂子 坂東　優美 菅野　祐子 宮崎あい子 大塚　奈々 上北　綾子	熊本県 菊水町立菊水中 長崎県 長崎市立東長崎中	
	単	熊本県 菊水町立菊水中	三次　圭介	正木　真澄	石川県 金沢市立西南部中	寺西　誠子	岩脇　史	福岡県 北九州市立城南中	森　かおり
								東京都 立川市立立川第八	久家あす加
	複	宮城県 聖ウルスラ学院中	酒井　正彦	西城真理子 斎藤　奈緒	香川県 高松市立玉藻中	地下　雄二	米田　佳代 佐藤　行代	北海道 旭川市立忠和中	山重　直美 塩崎　真弓
								熊本県 熊本市立西山中	福重奈津子 福重加奈子

■ 第25回　川崎市（1995）

種目		優勝 都道府県 学校名	優勝 監督名 マネージャー名	優勝 選手名	準優勝 都道府県 学校名	準優勝 監督名 マネージャー名	準優勝 選手名	三位 都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	香川県 香川町立香川第一中	林　淳生 新　建二	安徳　和哉 平見　貴志 槙田　正志 前田　丈博 富田　健太 藤井　作貴 佐竹　一希	香川県 高松市立玉藻中	久野　賢吾 白浜　義次	前原　亮裕 天野　悟志 松川　佳央 陶山　高志 二宮　和敬 多田　昌弘 母倉　雄一	石川県 田鶴浜町立田鶴浜中 長崎県 長崎市立大浦中	
	単	長崎県 長崎市立大浦中	山口　孝子	大東　真也	岡山県 倉敷市立福田中	中須賀祥雅	橋村　竜彦	石川県 田鶴浜町立田鶴浜中	酒井　忠相
								石川県 金沢市立北鴨中	茶屋　徳端
	複	石川県 田鶴浜町立田鶴浜中	観田　健治	大畠　隆史 山下　淳	香川県 高松市立玉藻中	久野　賢吾	前原　亮裕 二宮　和敬	三重県 小俣町立小俣中	山田　隆一 松本　紘二
								熊本県 岱明町立岱明中	末松　康二 音堂　真吾
女子	団体	香川県 香川町立香川第一中	松本ともみ 新　建二	戸城　千明 黒川加奈子 小比賀友香 浜口　有里 岸田　鈴代 蓮井　久美 炭井　千春	大阪府 大阪府立瓜破西中	神谷　績	松尾　由紀 安城　美華 椋井かおり 元木　千恵 羽馬世依子 恵良　恵 森　亜樹	大阪府 四條畷学園中 長崎県 長崎市立東長崎中	
	単	長崎県 長崎市立東長崎中	飯田　豊子	松尾美穂子	大阪府 大阪府立瓜破西中	神谷　績	安城　美華	大阪府 四條畷学園中	速水　永子
								滋賀県 彦根市立西中	上田　絵美
	複	埼玉県 鳩ヶ谷市立八幡木中	渡辺　隆	八木田仁美 大熊　倫子	香川県 香川町立香川第一中	松本ともみ	戸城　千明 黒川加奈子	茨城県 石岡市立国府中	森　香織 渡辺　靖子
								香川県 香川町立香川第一	浜口　有里 岸田　鈴代

■ 第26回　大府市（1996）

種目		優勝		準優勝		三位	
		都道府県 学校名	選手名	都道府県 学校名	選手名	都道府県・学校名 選手名	
男子	団体	石川県 田鶴浜中		石川県 高松中		香川県 玉藻中 北海道 広陵中	
	単	香川一中	前田	石尾台中	稲垣	広陵中 文林中	橋本 下川
	複	田鶴浜中	広瀬・長尾	小俣中	山崎・谷口	合志中 高松中	衛藤・山隈 堀田・金田
女子	団体	香川県 香川一中		長崎県 東長崎中		富山県 南星中 石川県 美川中	
	単	鶴見台中	後藤	大沢中	寺本	堀川中 南曽根中	大下 田邉
	複	香川一中	浜口・岸田	成瀬台中	吉野・町	千代中 日本橋中	田ノ上・石井 土田・依田

全国大会出場の記録

学校名	回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	合計
	年	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	
	開催地	熊本	奈良	新潟	新庄	大阪	登別	真岡	春日井	盛岡	山口	坂出	熊本	高岡	大津	旭川	川崎	大府	
四條畷学園中		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16
鶴橋中					○														1
旭陽中					○	○													2
守口四中						○													1
豊津西中						○													1
豊中十五中						○													1
吹田二中						○													1
堅下北中							○		○	○									3
摂津一中								○						○					2
船場中									○										1
瓜破西中										○	○	○	○	○		○	○	○	8
国分中													○						1
交野四中												○							1

大阪府小学生バドミントン連盟

◆ 祝辞 ◆



大阪府小学生バドミントン連盟
会長 大河内　秀夫

大阪バドミントン協会が、ここに輝かしい創立５０周年を迎えられましたことを皆様とともに心からお慶び申し上げます。この記念すべき年・平成９年度から不肖の私が連盟の会長として、その要職を継ぐことになりました。諸先輩の永年にわたる優れた功績に心より感謝申し上げますとともに、その足跡を汚さぬよう努力いたします。

私達小学生連盟は、大阪協会８番目の連盟として平成２年に設立されましたが、その兆しは、今から２０年前の大阪協会３０周年記念行事＜小学生バドミントン教室＞が大正区の千島体育館で開催された頃にあります。宝来先生が大阪協会の理事長として活躍され、その一環として、当時私が理事長をしておりました教職員連盟が主管となり、伊勢田先生の追手門学院小学校を事務局にスタートしました。

小学生バドミントン教室の名の通り、バドミントンの歴史の話に始まり、各コート毎にランニング、体操、素振り、基本的な打ち方の練習が大阪教育大の部員の指導のもとに行われ、その後、ダブルスの試合を行いました。試合終了後は終わりの会を各コート毎に行い、指導者を囲んで今日の感想を話し合うという教室名にふさわしい内容でした。

その後、名称を大会に改め、会場を千島体育館から中央体育館に変え、主体も小学校チームからクラブチームに徐々に変わり、プレーも年々上達してきました。

ようやく、全国各地に小学生連盟が誕生し始め、近畿協会主催で近畿小学生競技会（団体戦）が昭和６３年に始まり、大阪府のチームも参加するようになってきました。それに呼応するように、大阪協会でも小学生連盟の設立の機運が一気に高まってきました。

連盟設立の直接のきっかけになったのは、小学生連盟設立の前年度、平成元年第２回近畿小学生バドミントン競技会が大阪で開催されたところにあります。小学生教室の頃から事務局を追手門学院小学校に置き、長年にわたって世話をしてくれていた教職員連盟の理事長の森先生が中心となって準備を進め、１２回続けてきた小学生大会の組織をもとに設立総会を開催し、初代会長に島津八郎先生、理事長に伊勢田先生のもとに強力な体制で、念願の大阪府小学生バドミントン連盟が、２０年間の努力の結晶として、大阪府にうぶ声を上げたのです。

２１世紀を目前に、生涯スポーツとしてのバドミントンの果たす役割は、図り知れないものがあります。バドミントンを根底に広い大衆に根づいたスポーツとして普及させる第一歩は、先進国に見られるように幼い頃からラケットになじむことにあります。小学生連盟が、大阪協会の傘下で、ささやかではありますが、その役割を担わせていただくことをお誓いし、お祝いのことばといたします。

◆ 祝辞 ◆



あいさつ

大阪府小学生バドミントン連盟
理事長 乾　　修彰

大阪バドミントン協会５０周年、おめでとうございます。

私ども、大阪府小学生バドミントン連盟が大阪協会に加えていただき、微力ながら協会運営のお手伝いもさせていただくようになって約１０年が経ちました。設立した当初は、プレイヤーとして学生時代に活躍され、その後も教職員連盟や社会人連盟等で活動されていた方々が中心となって運営を行っておりましたが、その後、私のようにバドミントン未経験のもの達が諸先輩方のご指導を受けながら、運営に関わるようになって今日に至っております。

小学生のバドミントンは、中体連・高体連等と違い全国的な統一組織が今のところありません。また、子どもたちは、小学校のクラブ活動、社会体育（地域）のクラブ、社会人・家庭婦人等のクラブに附属するジュニアクラブ等、いろいろな形態の団体に所属して活動しています。そこで、このような子ども達に試合（目標）と交流（友情）の場を設けるとともに、様々なクラブを１つにまとめ指導者間の情報交流を図るために、府レベルの統一組織を作ろうと言うことで作られたのが、大阪府小学生バドミントン連盟です。

小学生連盟では現在“シングルス大会”、“ダブルス大会”、“団体戦”（兼近畿大会予選会）、“親子大会”の４つの大会を主催・主管すると共に、指導者育成のために年２回の指導者研修会（実技研修や審判研修）を実施しております。

○シングルス・ダブルス大会は、学年別（６年生の部・５年生以下の部）に優勝をめざす“選手権の部”に加えて“初心者の部”を設けたことで、たくさんの子ども達が試合の経験とゲームの楽しさや緊張感を味わうことのできる場となっています。

○団体戦は、近畿大会への出場権をかけた“１部”と、そうではない“２部”に分かれて行うことで、団体戦独特の雰囲気に触れることのできる機会となっています。

○親子大会は、親子でペアを組んでダブルスの試合が楽しめる場として、家庭婦人連盟の後援を得て今年で開催５年目を迎えたところです。３年前からは、“親子の部”に加えて“大人と子どもの部”を設け、それぞれに“チャンピオンシップの部”と“レクリエーションの部”を設けたことで、たくさんの方々（今大会は１１７ペアの参加）にバドミントンの楽しさを味わっていただくと共に、親子のふれあいを深める場として定着してきたところです。

当連盟では、今後も上記大会を中心に競技人口の拡大を図りつつ、競技力の向上と正しいルール・マナーの定着を目指して活動を続けていきたいと考えております。皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

小学生連盟誕生まで



初代理事長　伊勢田　善昭

種をまき、水をやり、芽を出させるバドミントンの普及の第一歩は小学生の大会を持つことにあった。

昭和52年12月４日、「大阪バドミントン協会創立30周年記念・小学生バドミントン教室」が千島体育館で開催された。これは、宝来先生が大阪協会の理事長として活躍され、その活動の一環として、大阪協会主催、教職員連盟が主管の元に、教職員連盟に所属し、小学生を指導している先生方への呼掛けの中でスタートした。第１回の参加チームの主だったものは、槙塚台小（島津）附属平野小（宝来）高陽小（奈良）宝栄小（山本）桑津小（大河内）四條畷学園小（杉田）追手門学院小（伊勢田・森）巽東小（中島）等11チームで、120名の参加であった。「小学生バドミントン教室」の名の通り、バドミントンの歴史に始まり、コート毎にランニング、体操、素振り、基本的な打ち方（クリアー・ドライブ・スマッシュ等）の練習が大阪教育大のバドミントン部員の指導のもとに行われた。その後、ダブルスの試合を３チーム毎のリーグ戦という形式で行った。終了後は、終わりの会で指導者を囲んで今日の感想を話し合うという内容であった。

第４回より、名称も「小学生バドミントン大会」と変え、試合をトーナメント方式にして、種目ごとに優勝者を決めるようにした。但し、コート毎の優勝で、６年女子－４組・６年男子－１組・５年女子－２組・５年男子－１組の計８ダブルスの優勝者が生まれた。

第５回の大会より、千島体育館から中央体育館に変わり、参加チーム16、参加人数338名を数えるようになった。第７回大会からそれまで行っていた敗者戦もなくし、優勝者も６年女子を２組にしぼるようにしていった。第９回大会では、参加チーム33、参加人数660名の多くを数え、中央体育館の広い床が子ども達で埋まり、それは壮観であった。１日で消化する限界に達したので、第10回大会より、１チームの参加者を20名に制限するようにした。（男子は制限なし）

優勝チームの変遷を見ると、第４～６回は四條畷、追手門、宝栄。第７回から北摂の山田第三（矢橋先生）豊津西、豊中シャトラーズ（御前氏）がそれに加わってきた。第９回から頭角を表してきたのが瓜破西（西上氏）で、第12回から全種目優勝者を１組にしてから瓜破西が独占し、瓜破西の天下がその後も続いている。

小学校主体でスタートした大会もクラブチームの参加が増え、熱心な指導者のもとで、プレーも年々上達し、すばらしい試合も見られるようになってきた。

小学生の連盟も各地に誕生し、小学生の大会も全国的な規模のわかばカップ（団体戦）が開かれ、近畿でも昭和63年に近畿協会主催で近畿小学生競技会（団体戦）が始まり、大阪府のチームが参加するようになった。それに呼応するように、大阪協会の常務理事会でも小学生連盟の設立が話し合われるようになった。

連盟設立の直接のきっかけとなったのは、平成元年度、第２回近畿小学生バドミントン競技会が大阪で開催されることになった所にある。これまで小学生の世話は長年にわたって、教職連が見てきた経過から、この競技会も理事長の森先生が中心となって準備を進めることになった。今まで12回にわたって続けてきた小学生大会の組織をもとに、参加資格になっているいる日本バド

ミントン協会への登録を募り、(約800名の登録数になる) 大阪府の予選会も実施する。この後、都合5回の連盟設立の準備会を持ち、平成2年1月の最終準備会で規約案・予算案・行事案・役員案の作成の運びとなった。

平成2年3月8日、大阪府小学生バドミントン連盟の設立総会が追手門学院小学校「飛翔の間」で開催され、規約案等の検討がなされ、議事進行がスムーズになされ、各議事が承認された。会長・島津八郎先生、副会長宝来敏夫先生、理事長・伊勢田善昭、副理事長・御前龍雄氏、森義和先生、理事15名の体制でスタートすることになった。

総会に引続き祝賀会が行われ、大阪バドミントン協会から岸会長、野村副会長、尾崎副会長、四方理事長はじめ多くの役員の方々にも参加いただき、華を添えていただいた。

沿　　革

1977（S52）年12月4日	大阪教職員バドミントン連盟の新しい活動として第1回大阪府小学生バドミントン教室　開催 ・会場：大阪市立千島体育館 ・大阪バドミントン協会創立30周年記念行事 ・後の小学生バドミントン大会（ダブルス）となる。
1989（H元）年	第2回近畿小学生バドミントン競技会を大阪で開催 ・連盟設立のきっかけとなり、後に5回の準備会を経て設立に至る。
1989（H元）年8月	第1回大阪府小学生バドミントン大会（個人戦シングルス）開催
1990（H2）年4月	大阪府小学生バドミントン連盟設立 初代会　長　　島　津　八　郎　氏　就任 初代理事長　　伊勢田　善　昭　氏　就任 ・同年3月8日、連盟設立総会が開催。 ・小学生会員約1000名でスタートする。
1993（H5）年6月	第1回大阪府小学生親子バドミントン大会開催
1993（H5）年4月	第2代会　長　　北　野　敬四郎　氏　就任 第2代理事長　　矢　橋　良　栄　氏　就任
1993（H5）年11月	第1回大阪府小学生バドミントン大会（団体戦）開催 ・近畿小学生バドミントン大会大阪府予選を団体1部とし、別に独自に2部を設立。多くの子が団体戦を経験できるようになる。
1995（H7）年4月	第3代理事長　　大　田　正　義　氏　就任
1995（H7）年6月	第3回大阪府小学生親子バドミントン大会より、大阪府小学生バドミントンフェスティバルと名称変更 ・親子以外の大人と小学生がペアを組んでの参加が可能となり、地域の方とのふれあいの場にもなる。
1997（H9）年4月	第3代会　長　大河内　秀　夫　氏　就任 第4代理事長　乾　　修　彰　氏　就任

大阪府小学生バドミントン連盟　主催行事

6月中旬	**大阪府小学生バドミントンフェスティバル（親子バドミントン大会）** ※親子、または大人と子ども（小学生）によるダブルスで勝敗を競う。 以下の4部に分けて実施している。 ① 親子－チャンピオンシップの部 ② 大人と子ども－チャンピオンシップの部 ③ 親子－レクリエーションの部 ④ 大人と子ども－レクリエーションの部 ・チャンピオンシップの部＝勝負を優先 ・レクリエーションの部＝勝敗よりも楽しむことを優先
7月上旬	**指導者実技研修会** ※大阪市小学校体育連盟との共催。
8月下旬	**大阪府小学生バドミントン大会（個人戦シングルス）** ※6年男子、5年以下男子、6年女子、5年以下女子 初心者の5部に分けて勝敗を競う。
11月初旬	**大阪府小学生バドミントン大会（団体戦）** **（兼　近畿小学生バドミントン大会　府予選）** ※1部＝近畿大会の予選会（2複3単） 2部＝2複1単での府独自の団体戦
12月下旬	**大阪府小学生バドミントン選手権大会（個人戦ダブルス）** ※20回を越える、本連盟が行う最も古い大会。 ※6年男子、5年以下男子、6年女子、5年以下女子、初心者の5部に分けて勝敗を競う。
2月上旬	**指導者実技研修会**

大阪府小学生バドミントン大会（個人戦シングルス）

※本連盟既主催は第２回より（第１回は大阪教職員連盟）

		1　位	2　位	3　位	
第１回 H元. 8. 19 大阪市立 東淀川体育館 ５２人 ※第１回大会のみ ダブルスもあり。 １３８人	６年男子	木谷（瓜破西）	福井（瓜破西）	土原（佐井寺）	河野（佐井寺）
	６年女子	薦田（瓜破西）	森本（瓜破西）	田西（コンドル）	菱（佐井寺）
	5年以下男子	黒原（コンドル）	御前（豊中）	福川（瓜破西）	米沢（コンドル）
	5年以下女子	元木（瓜破西）	小林（瓜破西）	武井（佐井寺）	瀬戸（池田）
	６年男子	向阪・山本 （瓜破西）	福井・福田 （瓜破西）	松本・喜志 （瓜破西）	和泉・菅沼 （瓜破西）
	６年女子	田中・芳村 （瓜破西）	奥山・佐野 （山田三）	山下・水本 （瓜破西）	田中・檀本 （豊津西）
	5年以下男子	福井・小林 （追手門）	片岡・藤井 （瓜破西）	土井・松田 （佐井寺）	三枝・向阪 （瓜破西）
	5年以下女子	村田・日下部 （瓜破西）	矢島・大畑 （山田三）	森田・鍛冶 （山田三）	根村・小原 （山田三）
第２回 H２. 8. 19 池田市立総合 スポーツセンター １８９人	６年男子	川口（瓜破西）	森本（四條畷）	宇治（四條畷）	黒原（コンドル）
	６年女子	小林（瓜破西）	日下部（瓜破西）	矢嶋（山田三）	元木（瓜破西）
	5年以下男子	仲尾（四條畷）	永谷（瓜破西）	斉藤（瓜破西）	石立（高野台）
	5年以下女子	水口（四條畷）	川崎（古江台）	高佐屋（古江台）	牧（高野台）
第３回 H３. 8. 18 池田市立総合 スポーツセンター １６７人	６年男子	永谷（瓜破西）	福川（瓜破西）	松下（瓜破西）	斉藤（瓜破西）
	６年女子	森（瓜破西）	山田（瓜破西）	山嶋（四條畷）	水口（四條畷）
	5年以下男子	柴田（瓜破西）	中原（瓜破西）	木原（瓜破西）	川口（瓜破西）
	5年以下女子	安城（瓜破西）	梶原（瓜破西）	田島（藤白台）	元木（瓜破西）
第４回 H４. 8. 23 池田市立総合 スポーツセンター １５５人	６年男子	柴田（瓜破西）	川口（瓜破西）	木原（瓜破西）	高尾（瓜破西）
	６年女子	安城（瓜破西）	梶原（瓜破西）	本林（瓜破西）	元木（瓜破西）
	5年以下男子	生田（瓜破西）	橋本（瓜破西）	向井（瓜破西）	永谷（瓜破西）
	5年以下女子	恵良（瓜破西）	岩佐（藤白台）	山田（千里三）	福永（瓜破西）
第５回 H５. 8. 27 池田市立総合 スポーツセンター ２１４人	６年男子	橋本（瓜破西）	生田（瓜破西）	永谷（瓜破西）	向井（瓜破西）
	６年女子	恵良（瓜破西）	森（瓜破西）	福田（千里新田）	岩瀬（千里三）
	5年以下男子	新開（瓜破西）	大滝（瓜破西）	足袋抜（瓜破西）	三井（瓜破西）
	5年以下女子	松尾（瓜破西）	安城（瓜破西）	原田（瓜破西）	渡辺（藤白台）
	初心者	※ブロック優勝者のみ 嶋田（瓜破西）　松尾（瓜破西）　近藤（佐井寺） 西谷（追手門）　松本（追手門）　保代（豊中）			

第6回 H6.8.26 池田市立総合 スポーツセンター 215人	6年男子				
	6年女子				
	5年以下男子				
	5年以下女子				
	初心者				
第7回 H7.8.18 池田市立総合 スポーツセンター 170人	6年男子	大滝（瓜破西）	嶋田（瓜破西）	松尾（瓜破西）	山口（瓜破西）
	6年女子	安帛（瓜破西）	岩元（瓜破西）	吉国（コンドル）	竹本（豊中）
	5年以下男子	新開（瓜破西）	森（瓜破西）	西尾（追手門）	筒井（瓜破西）
	5年以下女子	林（瓜破西）	生田（瓜破西）	松尾（瓜破西）	砂廣（大東J）
	初心者	※ブロック優勝者のみ 池田（瓜破西）　伊藤（瓜破西）　中嶋（枚方殿一） 藤山（枚方殿一）　谷山（豊津西）　竹上（菱屋西） 寺脇（菱屋西）			
第8回 H8.8.25 池田市立総合 スポーツセンター 220人	6年男子	新開（瓜破西）	筒井（瓜破西）	森（瓜破西）	松本（HBJS）
	6年女子	林（瓜破西）	中川（四條畷）	安田（大東J）	生田（瓜破西）
	5年以下男子	大森（瓜破西）	伊藤（瓜破西）	山下（コンドル）	守屋（高野台）
	5年以下女子	松尾（瓜破西）	土居（瓜破西）	銭谷（四條畷）	馬上（コンドル）
	初心者	※ブロック優勝者のみ 中濱（池田）　喜多（飛羽会）　弓指（豊津西） 諸永（枚方殿一）　梅原（豊中）　恵良（瓜破西） 朝田（豊中）　武田（菱屋西）　木本（瓜破西）			
第9回 H9.8.24 池田市立総合 スポーツセンター 239人	6年男子	守屋（高野台）	伊藤（瓜破西）	田中（高野台）	前田（瓜破西）
	6年女子	馬上（コンドル）	木原（瓜破西）	橋本（四條畷）	銭谷（四條畷）
	5年以下男子	喜多（飛羽会）	大仏（瓜破西）	大滝（瓜破西）	花堂（大東J）
	5年以下女子	松尾（瓜破西）	生田（大東J）	松浦（コンドル）	恵良（瓜破西）
	初心者	※ブロック優勝者のみ 鍬本（茨木郡）　合田（コンドル）　田上（豊津西）　空（茨木郡） 山崎（瓜破西）　辻（大東J）　東野（瓜破西）　吉川（瓜破西） 真本（枚方殿一）　土井（追手門）　梅原（豊中）			

大阪府小学生バドミントン大会（個人戦ダブルス）

主催　大阪バドミントン協会（本連盟主管は第１４回より　第１３回は大阪教職員連盟）

		1　位	2　位	3　位	
第１３回 H元.12.17 大阪市立 東淀川体育館 ５１２人	６年男子	木谷・福井達 （瓜破西）	向坂・福井剛 （瓜破西）	野田・門馬 （高野台）	山本・福田 （瓜破西）
	６年女子	薦田・芳村 （瓜破西）	田中・森本 （瓜破西）	竹下・土志田 （山田三）	田中・檀本 （豊津西）
	５年以下 男　子	福川・永谷 （瓜破西）	米沢・曽我部 （コンドル）	片岡・三枝 （瓜破西）	阿知原・蔵 （高野台）
	５年以下 女　子	小林・元木 （瓜破西）	尾後・水口 （四條畷）	武井・内藤 （佐井寺）	松倉・林 （藤白台）
第１４回 H２.12.９ 大阪市立 東淀川体育館 ４２６人	６年男子	福川・永谷 （瓜破西）	宇治・仲尾 （四條畷）	御前・黒原 （コンドル）	片岡・三枝 （瓜破西）
	６年女子	元木・奥村 （瓜破西）	坂本・松倉 （藤白台）	矢嶋・大畑 （山田三）	小林・日下部 （瓜破西）
	５年以下 男　子	松下・斉藤 （瓜破西）	石立・蔵 （高野台）	松尾・海野 （追手門）	平岡・小川 （四條畷）
	５年以下 女　子	川崎・高佐屋 （古江台）	若林・杉田 （古江台）	水口・秋口 （四條畷）	西原・牧 （高野台）
第１５回 H３.12.15 大阪市立 中央体育館 ４５０人	６年男子	福川・永谷 （瓜破西）	松下・斉藤 （瓜破西）	恵良・小川 （瓜破西）	平岡・小川 （四條畷）
	６年女子	山田・森 （瓜破西）	若林・杉田 （古江台）	川崎・高佐屋 （古江台）	和田・中村 （古江台）
	５年以下 男　子	柴田・中原 （瓜破西）	川口・木原 （瓜破西）	岡本・近藤 （追手門）	高尾・菅沼 （瓜破西）
	５年以下 女　子	梶原・安城 （瓜破西）	元木・本林 （瓜破西）	香田・一ノ瀬 （四條畷）	田中・松尾 （高野台）
第１６回 H４.12.20 サントリー総合 トレーニング センター ３１６人	６年男子	柴田・高尾 （瓜破西）	川口・松尾 （瓜破西）	木原・中原 （瓜破西）	勢志・　劉 （千里新田）
	６年女子	梶原・安城 （瓜破西）	元木・本林 （瓜破西）	羽馬・椋井 （瓜破西）	田中・松尾 （高野台）
	５年以下 男　子	生田・橋本 （瓜破西）	永谷・高野 （瓜破西）	喜納・嶋田 （高野台）	岩佐・久木 （千里新田）
	５年以下 女　子	恵良・福永 （瓜破西）	岩瀬・岡崎 （千里三）	藤田・福永 （古江台）	福田・得能 （千里新田）

第１７回 Ｈ５.12.17 大阪市立 東淀川体育館 ２９６人	６年男子	橋本・永谷 （瓜破西）	向井・中野 （瓜破西）	中村・岩佐 （コンドル・千里新田）	生田・瀧上 （瓜破西）
	６年女子	恵良・森 （瓜破西）	黒田・田端 （高野台）	福永・柴垣 （瓜破西）	得能・福田 （千里新田）
	５年以下 男子	新開・大滝 （瓜破西）	伊藤・足袋抜 （瓜破西）	西村・喜納 （高野台）	小林・守屋 （高野台）
	５年以下 女子	原田・安城 （瓜破西）	渡辺・吉田 （藤白台）	下野・植高 （古江台）	小倉・南里 （四條畷）
第１８回 Ｈ６.12.23 大阪市立 東淀川体育館 ３９６人	６年男子	新開・三井 （瓜破西）	伊藤・足袋抜 （瓜破西）	守屋・鈴木 （高野台）	西村・喜納 （高野台）
	６年女子	原田・松尾 （瓜破西）	渡辺・笹倉 （藤白台）	小倉・南里 （四條畷）	下野・植高 （古江台）
	５年以下 男子	松尾・新開 （瓜破西）	大滝・嶋田 （瓜破西）	西谷・松本 （追手門）	山口・長田 （瓜破西）
	５年以下 女子	安城・岩元 （瓜破西）	竹本・保代 （豊中）	片山・明山 （古江台）	瀬戸口・多井 （千里新田）
第１９回 Ｈ７.12.24 大阪市立 中央体育館 ２９２人	６年男子	中田・徳岡 （瓜破西）	西谷・松本 （追手門）	古村・千綿 （茨木郡）	志知・浅田 （瓜破西）
	６年女子	竹本・保代 （豊中）	吉国・大本 （コンドル）	田口・渕上 （瓜破西）	西本・松本 （大東Ｊ）
	５年以下 男子	伊藤・池田 （瓜破西）	岡田・安田 （追手門）	前田・村田 （追手門）	大西・松井 （追手門）
	５年以下 女子	中川・松本 （四條畷）	木原・土居 （瓜破西）	安田・砂廣 （大東Ｊ）	坂口・井関 （千里新田）
第２０回 Ｈ８.12.22 サントリー総合 トレーニング センター ３０６人	６年男子	新開・大森 （瓜破西）	三井・塩川 （瓜破西）	福本・菊地 （茨木郡）	筒井・森 （瓜破西）
	６年女子	生田・林 （瓜破西）	中川・松本 （四條畷）	吉田・三井 （コンドル）	安田・砂廣 （大東Ｊ）
	５年以下 男子	伊藤・池田 （瓜破西）	守屋・田中 （高野台）	蒲田・荒木 （枚方殿一）	大西・松井 （追手門）
	５年以下 女子	室田・松尾 （瓜破西）	木原・土居 （瓜破西）	銭谷・橋本 （四條畷）	馬上・戸泉 （コンドル）
	初心者	※ブロック優勝者のみ A　北原・及川（豊中） B　恵良・木本（瓜破西） C　若杉・山下（コンドル）		D　松浦・山下（コンドル） E　笹瀬・新井（箕面自由） F　有馬・遠藤（高野台）	

大阪府小学生バドミントン大会（団体戦）

（平成４年度までは「近畿小学生バドミントン大会大阪府予選会」）

		1　位	2　位	3　位	
第１回 （近畿大会 府予選第６回） Ｈ５.11. 3 吹田市立 山田市民体育館 ２６チーム	男子 １部	瓜破西ＳＳＣ (A)	吹田ジュニア	瓜破西ＳＳＣ (B)	
	女子 ２部	瓜破西ＳＳＣ	吹田ジュニア (A)	藤白台小学校 (A)	
	男子 ２部	追手門学院小学校 (A)	豊中シャトラーズ	千里新田小学校	
	女子 ２部	高野台小学校 (A)	豊中シャトラーズ	古江台小学校 (A)	高野台小学校 (B)
第２回 （近畿大会 府予選第７回） Ｈ６.11. 3 吹田市立 北千里市民体育館 ３５チーム	男子 １部	瓜破西ＳＳＣ (A)	瓜破西ＳＳＣ (B)	吹田ジュニア	
	女子 ２部	瓜破西ＳＳＣ	吹田ジュニア	古江台小学校	
	男子 ２部	追手門学院小学校 (A)	瓜破西ＳＳＣ (C)	佐井寺小学校 (A)	
	女子 ２部	大東ＪＢＣ （　A　）	藤白台小学校 (A)	高野台小学校 （　A　）	菱屋西ＢＣ
第３回 （近畿大会 府予選第８回） Ｈ７.11.23 吹田市立 南吹田体育館 ３７チーム	男子 １部	瓜破西ＳＳＣ (A)	瓜破西ＳＳＣ (B)	北　摂 (A)	
	女子 ２部	瓜破西ＳＳＣ	大東ＪＢＣ	コマツジュニア	
	男子 ２部	四條畷学園小学校	北　摂 (B)	千里新田小学校	
	女子 ２部	コンドル (A)	藤白台小学校 (A)	豊津西小学校	郡小学校 (A)
第４回 （近畿大会 府予選第９回） Ｈ８.11.	男子 １部	瓜破西ＳＳＣ			
	女子 ２部	瓜破西ＳＳＣ (A)	吹田ジュニア	四條畷学園小学校	KOMATSU
	男子 ２部	郡小学校 (A)	千里新田 タイガース	枚方殿一クラブ	大東ジュニア
	女子 ２部	佐井寺小学校 (A)	郡小学校 (A)	瓜破西ＳＳＣ	郡小学校 (B)

大阪府小学生バドミントンフェスティバル（ダブルス）

※ 第１回、第２回は「大阪府親子バドミントン大会」の名称で行われた。
※ 第３回からは、(1) 親子チャンピオンシップの部（親子チャ：御前杯）
(2) 大人と子どもチャンピオンシップの部
(3) 親子レクリエーションの部
(4) 大人と子どもレクリエーションの部　　の４部に分けて実施している。

		1　位	2　位	3　位	
第１回 H５．６．12 豊中市立 千里体育館 １０４人		永澤康宏・誠之 （柏原）	生田健一・絵美 （枚方）	太田一比良・吉保 （東大阪）	小田忠庸・章代 （吹田）
第２回 H６．６．26 吹田市立 山田市民体育館 ４４人	１　部	生田健一・絵美 （枚方）	香西修・　満 （豊中）	北原健二・陽介 （豊中）	竹本孝典・晴加 （豊中）
	２　部	山田健一・裕子 （吹田）	北原恵美子・和幸 （豊中）	清水美智子・弘子 （守口）	後藤茂樹・さやか （大阪）
	３　部	市橋茂・可奈子 （茨木）	松井そめ子・由圭 （吹田）	奥井直明・沙恵 （吹田）	片山健・千恵 （吹田）
第３回 H７．６．24 大阪市立 東淀川体育館 ２２６人	御前杯 （親子チャ）	香西修・　満 （豊中）	竹本孝典・晴加 （豊中）	青野博志・翔太 （吹田）	吉国潤子・亜沙美 （吹田）
	大人と子ども チャンピオン	ダビドザン・マルワン・嶋田稔 （平野）	鉾原康洋・河野悠里 （吹田）	松山勝美・松尾信幸 （平野）	川口博三・安城由紀子 （平野）
	親子レク リエーション	※ブロック優勝者のみ 井脇民雄・杏美（河内長野） 深田龍三・真梨子（堺） 松尾順子・静香（平野） 生田陽子・奈津美（枚方）		山口真由美・麻衣子（河内長野） 岡本志津雄・沙耶香（高槻） 三木志保子・雄輔（塚本） 大内ひなえ・麻衣子（茨木）	
	大人と子レク リエーション	※ブロック優勝者のみ 吉田美江・田口宏美（瓜破西）			
第４回 H８．６．８ 東大阪市立 総合体育館 （東大阪アリーナ） １８８人	御前杯 （親子チャ）	生田健一・奈津美 （枚方）	北原健二・和幸 （豊中）	世良秀彦・典之 （東淀川）	
	大人と子ども チャンピオン	ダビドザン・マルワン・筒井雄貴 （平野）	東町明弘・大森卓也 （平野）	松山勝美・三井将人 （平野）	
	親子レク リエーション	※ブロック優勝者のみ 池田透・拓也（平野） 藤井洋・広美（豊中） 大内ひなえ・麻衣子（茨木） 大佛孝良・潤典（平野） 山本久子・真有（羽曳野） 中嶋恒子・香苗（枚方） 蒲田仁司・慎也（枚方）		山陰修二・恵美（茨木） 松尾順子・静香（平野） 吉田稔・和生（吹田） 朝田克彦・久美子（豊中） 荒木啓悟・たかし（枚方） 及川幸子・直（豊中） 杉谷育代・有香（八尾）	
	大人と子レク リエーション	※ブロック優勝者のみ 中西明美・秋長喜実子（八尾）		宮崎恵美子・井上由佳子（八尾）	

第5回 H9.6.28 吹田市立 日俵市民体育館 ２３４人	御前杯 （親子チャ）	生田健一・奈津美 （枚方）	伊藤俊寿・雅俊 （平野）	大佛孝良・潤典 （平野）	蒲田仁司・慎也 （枚方）
	大人と子ども チャンピオン	安城香・大森卓也 （平野）	池田卓也・秋山孝 （平野）	祝登美子・下野絵里佳 （吹田）	井波治男・塩谷雄一郎 （茨木）
	親子レク リエーション	※ブロック優勝者のみ 朝田克彦・久美子（豊中） 真本朱美・琴美（交野） 松村一三・智美（池田） 松尾順子・静香（平野） 梶谷郁雄・優貴（池田） 原田由美子・あおい（平野） 林彰・愛子（箕面） 小合糾・亮（河内長野）		細野季代子・可恵（茨木） 若杉正樹・文音（吹田） 森崎百合子・久美（高槻） 山本あけみ・真矢（東成） 木浦領子・萌美（池田） 西村昇比良・真由美（吹田） 北　真弓・宗和（城東） 本倉雅信・浩嗣（都島）	
	大人と子レク リエーション	※ブロック優勝者のみ 田中政行・阿野祥子（羽曳野） 山田智嗣・恵良友理亜（平野）		松山勝美・木原千穂（平野） 川口博三・大滝涼太（平野）	

第 13 回
大阪府小学生バドミントン大会



日　時　平成元年12月17日(日) 9：00～16：30
場　所　大阪市立東淀川体育館
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪教職員バドミントン連盟

第 14 回
大阪府小学生バドミントン大会



日　時　平成2年12月9日(日) 9：00～16：30
場　所　大阪市立東淀川体育館
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪教職員バドミントン連盟
　　大阪府小学生バドミントン連盟

第 15 回
大阪府小学生バドミントン大会



日　時　平成3年12月15日(日)　9：00～16：30
場　所　大阪市立中央体育館
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪府小学生バドミントン連盟

第 16 回
大阪府小学生バドミントン選手権大会



日　時　平成4年12月20日(日)　9：00～16：00
場　所　サントリー箕面総合トレーニングセンター
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪府小学生バドミントン連盟

第１７回

大阪府小学生バドミントン選手権大会



日　時　平成５年12月23日（木）９：00～16：00
場　所　大阪市中央体育館
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪府小学生バドミントン連盟

第１８回

大阪府小学生バドミントン選手権大会



日　時　平成６年12月23日（金）９：00～16：00
場　所　大阪市中央体育館
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪府小学生バドミントン連盟

第１９回

大阪府小学生バドミントン選手権大会



日　時　平成７年12月24日（日）９：00～16：00
場　所　大阪市中央体育館
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪府小学生バドミントン連盟

第２０回

大阪府小学生バドミントン選手権大会



日　時　平成８年12月22日（日）９：00～16：00
場　所　大阪市立東淀川体育館
主　催　大阪バドミントン協会
主　管　大阪府小学生バドミントン連盟

［第 3 章］

座　談　会

草　創　期

青木　大阪バドミントン協会設立50周年ということで、まず協会の草創期について、皆様方に語っていただきたいと思います。草創期というと、大学生がかなり最初のころから関わっていたんですよね。

藤井　当時、大阪の大学でバドミントンをやっていたのは関大、大経大くらいでした。

私は25年に関大に入ったんですが、５月にＹＭＣＡに行ってみると川崎さんや川口さんがバドミントンをしておられた。それを見て、そばにいた蔦田が「大学でバドミントン部をつくろうや」。そして26年関大、大阪市大、大経大、関学、京大、同志社と神戸ＹＭＣＡで合同合宿をしたんです。



高谷　ですから関西学連が設立された26年には、もう試合を始めていたんですよね。金沢大学も入れて関西リーグ戦をやっている。ただし学連として協会にタッチし始めたのはしばらくあとのことで、最初は各大学が個別に協会に入っていましたね。

藤井　ただ、26年当時は高校生のほうがレベルが高かった（笑）。だから合宿には高校生の多田、植木なども大学のバドミントンを知ってもらうために呼びました。

秋岡　27年にそれらの高校生が大学に入って、大学のレベルがいっぺんに上がって、バドミントンが広まっていったんですよね。

青木　それまでは大学に入ってバドミントンを始めた人ばかりでした。テニスから転向した人とか。

藤井　大学生が技術的に高校生より劣っていたことから、草創期の一、二年くらいは、各大学で人数が三人とか五人とかでしたが、神戸のＹＭＣＡで合同合宿をしたりして全体のレベルアップをはかりました。それと各校間でかなり密接な連絡をとって、早く部としての承認がとれるよう、努力しましたね。また大阪協会には各個人で入っていました。

青木　24年にオープン戦でやった東京の国体では、高校生とか一般とかの区別がなかった。大阪も男子は高谷、渡辺（以上三島野－現茨木高）、伊藤（高津高）女子は太子、衣笠（以上三島野－現茨木高）、井口（高津高）、藤波（樟蔭東高）といった高校生が代表でした。当時のことを、30周年のときに高谷さんが「裸足でプレーした」と書いておられましたね。

秋岡　あのころは東京の慶応などが強くて、大阪の選手のラケットはオモチャみたいに太いのに、東京の選手などが使っていた細くてスマートなラケットを見て、ほんとにびっくりしました。お土産に買って帰ったのを覚えています（笑）。

青木　23年から24年頃の選手層はどうだったんですか。

高谷　当時私は高校生だったんですが、私らの年代がトップクラスで、それより年齢の上の人達では大学生の広田（東京）さん、岡（神奈川）さん、杉田（神奈川）さんぐらいでした。つまり学生がトップのレベルにあって、社会人はバドミントンをやっていてもまだレベルは低かったんです。だから当時から学生が協会などのすべてをリードしていて、今のように日本バドミントン協会の専務理事が小飼さんから村山さんにバトンタッチしたのはそのなごりと言えますね。村山さんは私より二歳くらい上で、小飼さんは私と同級です。

そして学生中心のところに入り込んできたのが

高校の先生です。その発言力が大きくなったのは福岡の西日本大会くらいからでした。

秋岡　30年前後のことではなかったですか。

高谷　それまでは選手がマネジメントもしていたのが、この大会あたりから役員と選手が分かれ始めました。各府県とも、半数くらいは高校の先生が出てきたんです。それ以前はいろんな会合をしても、各大学のキャプテンやマネージャーが出ていました。

青木　ここに例えば第五回の全日本選手権の資料がありますが、青年の部は広田、岡組などがあって、こうした四本柱以外はみな弱かったんですね。少年の部は東、西、望月、服部、高谷などがいた。

高谷　彼らがお互いに顔と名前と技術レベルが認識でき始めたのは、新潟の全日本選手権あたりだったと思います。それまでは強いと言っても各自の地域でのことで、全国にどんな強い選手がいるか、よく分からなかったと思います。

青木　藤村さんがバドミントンをやっておられた時期はこの頃ですね。



藤村　私は短かったですよ。27年に民間航空が復活したでしょ。それまでは運輸部にいたから時間的な余裕があったし、車で自由に動くこともできた。それが航空部に上がってからは、夜中の12時や1時頃まで勤務するようになったため、協会のお世話ができなくなったんです。それで役員の仕事もお断りしなければならなくなった。

秋岡　大学生が国体に出場できない時期がありましたよね。

高谷　私らが大学生の頃、全日本選手権でもインカレでも、そして国体でも、ベスト4に入るのはみな同じ大学生の選手と決まっていたため、大学生は遠慮してくれないかということになったんです。それが29年の北海道国体からで、解禁されたのは去年のことですよ。

秋岡　逆に大学生が弱くなったから出場できることになったんですね（笑）。

青木　そのことは日本協会の議事録に載っているんですよ。バドミントンの発展普及を阻害するから、大学生をシャットアウトしようとね。日本一を選ぶのが国体ではなく、広くあまねく強くするというのが国体なんです。それと、ナショナルチームは海外遠征に行ったりして、莫大な国のお金を使って強くなってるから、そんな選手達が国体に出るのは遠慮してもらおうということで、これまたしばらくシャットアウトされてた。こちらも2、3年前から出場できるようになったんです。

秋岡　私は樟蔭東高校のとき、体育の先生がバドミントンの講習をされるというので参加して、初めてバドミントンを知ったんです。その先生が川口先生でした。事前にあるていど練習してから講習を受けたところ、川口先生が「絶対に初めてではないだろう」と言われるんですよ。「初めてです」と言っても、「そんなはずはない」と、ものすごく頑固で（笑）。

それで、練習場がないと言うと、ＹＭＣＡで練習しているから来なさいとおっしゃった。じゃあお願いしますと、毎日ＹＭＣＡに通ったんです。そこで川崎さんや石渡先生によく相手になってもらったのを覚えています。川口先生はユーモアがあって、「昼ご飯にサツマイモを買って来い」と。それでジャンケンに負けた者が買いに行ったり、とにかく楽しい雰囲気での練習でした。樟蔭東高校のバドミントンの土台はＹＭＣＡにあったということです。

藤井　みんなそうだったんですよね。

高谷　まずルールが分からないでしょ。コートの大きさも分からない。ルールブックがなかったんですよ。それでも何らかの方法でルールブックを手に入れても、全部英語で書いてあるし、長さの単位がインチになっている。インチサイズくらいは私でも直せるけれど、英語が分からない（笑）。その点ＹＭＣＡは英語が専門です。川口先生に訳してもらったわけですよ。



秋岡　よく洋書をもって来られて、それを見ながら説明されてましたね。

高谷　そしたら今度はバドミントンの教科書がない。どうしようということになった。

青木　嶋さんが翻訳した「ウイニング・バドミントン」という本があって、その本は川口さんがもってました。その本を私が遺品として今預かっているんですが、版権や何やらの問題で出版できなくなったという日本協会からの断り状が付いています。これは昭和３１年の消印ですね。

高谷　技術的なことはそれで教わることができました。そしてルールブックはＹＭＣＡの関係で手に入れてもらい、それを翻訳して勉強できた。それまではコートの大きさも分からなかったんですから。

あと、お金のかかるシャトルコックなどは、替わりに毛糸のボールを作ればネットプレーだけはできると、川口先生は言われた。それで十分にできたんですよ。

秋岡　毛糸を丸めて真ん中をくくって、適当な大きさの玉にするんです。

青木　羽根が高くてもったいないから、それで練習したんですね。

高谷　そう、ほかの練習ではシャトルコックを使わないとどうしようもないけど、ネットプレーだけなら、毛糸を直径７センチくらいにして中央でくくれば、ちょうどシャトルコックを打つのと同じ感覚で練習できるんです。

秋岡　うちの学校の子は下手で肩が上がらないから、バスケットのリングのところにその毛糸を吊るして、これを叩けと教えられたんですよ。

青木　天井の低いところでよくやったものですね。三島野高校（現茨木高校）も天井が低いでしょ。だから最初、こんなところで練習していて、試合でハイサーブされたらどうしようと思いましたね。

秋岡　だからうちの高校は体育館ができたんですよ。試合から帰って来るたびに、高井のが打てないと校長に報告していましたから。校長が試合を見に来て「ほんまやな、よその体育館はこんなに天井が高いのか」。それで新しい体育館をつくってもらったんです。



藤村　体育館といえば、当時、協会の組織強化とともに、試合もしないといけないということで、春と秋の府民体育祭参加と選手権を協会として始めようということになった。ところが会場がないんです。それで今宮高校や北野高校の体育館を借りたりしました。でも戦災後でガラスが割れていて

風が強いときは羽根が散ったりしたのを覚えています。市の体育館が初めて阿倍野にできて、二、三面とれましたよね。あそこで私も高校生と試合したことがあります。

青木　ところで当時は国体の試合でも裸足でしたから、当然練習のときもずっと裸足だったでしょ。

高谷　私のところは練習は素足でしたね。ところが昭和24年の国体で、秩父宮妃殿下が見に来られる時間帯に大阪のどこかが試合をするが、大阪は素足でやっとる。靴を履かせ、となったわけですよ。それで靴を買って来たんですが、普段素足でやってるものが運動靴なんか履くと、まるで高下駄履いて体育館のなかでバドミントンしているような感じです。

青木　藤井さんも大学のころは裸足でやってたんですか。

藤井　いやいや、私らは靴を履いていました（笑）。でも毛糸玉での練習は知らなかったですね。先程言ったように私らは25年の５月にＹＭＣＡで初めてバドミントンに接したんですが、最初からシャトルコックで練習しました。25年に部として認知されましたが、関大にはコートがなかったものですから、それ以後もずっとＹＭＣＡでやっていました。

青木　天六の体育館はまだできてませんでしたか。

藤井　まだ先のことでしたね。また私の場合、家が神戸市だったので、昼は大阪のＹＭＣＡで、夜は神戸のＹＭＣＡで練習しました。

高谷　私らが裸足でやっていたのは、バドミントンは靴を履いてやらないとあかんものだということ自体、知らなかったからです。お金がなくて裸足でやったてたのとは違うんですよ。

青木　秋岡さんたちは練習試合などはどうされてたんですか。

秋岡　女の子ですので、大阪の選手同士で試合して負けると、その印象が強くて対外試合に勝てなくなってしまうんです。それで大阪では練習試合をせずに、神戸の親和高校や奈良の一条高校とよく練習試合をしました。でも指導者がいないのでよく関大の学生さんにコーチに来てもらいました。

高谷　私らは練習試合というより、できるだけ多くの人にバドミントンをやってもらいたいので、各高校、大学を渡り歩きました。近大でも甲南でもつくりましたし、また同志社に入りましたので、京都の高校、女子大などにも行きました。偉そうな言い方をすれば、相当数の学校にバドミントン部や同好会をつくり、愛好者を増やすよう、努力させてもらいました。

青木　第二回インターハイが北海道であったんですが、高谷さんに行かないかとすすめたら、「あそこは機雷が爆発するから、親が行ったらあかんと言います」と言って嫌がる。僕はついに北海道へ行かず仕舞いでした（笑）。

高谷　当時は津軽海峡を渡る船の先端に、銃をもった監視員を二人つけていたんです。それで一カ月に何発かは機雷を爆破させていた。打ってくれなかったら船に当たりますわ。そんなところにわざわざお金をかけて行くことないわと思ってね。

秋岡　そんなこと全然知らなかったけど、北海道で全日本高校があると聞いて、ええなあと言ってたんですよ。当時は北海道って、私らの感覚では外国でしたもの。二日がかりで行ったぐらいですから。そしたら大阪は参加しないという連絡が来ましてね。

青木　あれは僕が高体連の主任（現在専門委員長）をやり始めた頃でした。大阪が行かないことになって、そしたら樟蔭東も行くのをやめた。あの頃は予選なしで北海道へ行きましたよ。行かない府県もあるから、逆に行けるところは三校も四校も行ってましたね。

高谷　その後昭和３５年くらいまでは、配給制度のためお米持参で試合に行きました。お金を持って行くだけではだめだということで。

秋岡　広島の国体でもお米を持って行ったのを覚えています。それで男子連中が自分が持って来た分以上を食べるんですよ。みんなすごかったもの。

上田君なんか大きなドンブリに三杯もおかわりするんですよ（笑）。

青木　広島の国体と言えば、東雲町といって、昔の遊廓があったところでやりましたよね。

秋岡　高校生が来るからといって、宿の従業員の方があわててふすまを裏返ししたりして。

藤井　広島のとき、大阪府の選手選考会で私は二位だったのを覚えています。当時もまだ男子は一般の方が弱かったけれど、一般男子という種別があったから国体に出場してましたよね。

青木　ところが女子は一緒だから、名古屋の国体では一般の方が高校生に負けて出場できなかったこともありましたね。

藤井　私自身は名古屋のときは兵庫県から出ました。

高谷　当時、茨木高校と樟蔭東とは仲がよかったでしょ。試合でフルセットになって三分間の休憩がありますよね。すると樟蔭東の女子高校生が、タオルで体中を拭いてくれるんですよ。ズボンまでは脱ぎませんでしたけど。女性は気が付くというか、そこまでしてくれましてね。

藤村　やはり男前は得ですね（笑）。



青木　ところで実業団ですが、当時組織立ってやっていたのは朝日新聞と日産自動車くらいでしたか。

藤村　そうでしたね。あとは社内の同好会的なもので大日本製薬、吉富製薬、セントラル通商といったところがありました。他に一、二社あったようですが、実業団の組織はまだなかった。社会的に認められていたのは朝日と日産で、大日本製薬、吉富製薬、セントラル通商は、やっていた人に任意で春と秋の府民大会に出てもらっていたんです。

青木　すると草創期は大学、高校、実業団だけで、中学校はまだでしたよね。大学にしても大学連の組織はまだなかった。実業団もそう。あとＹＭＣＡの大阪クラブがありました。

藤村　だから協会発足当時は、高体連以外は大学も実業団も、全部個人登録のようなものだったんですよね。

高谷　ただね、朝日新聞のあれだけのバックアップがなければ、大阪バドミントン協会や関西学連の発展はなかったと言い切れますよ。

藤村　そうですね。企画部に石渡さん（現名誉会長）がいて、商品、賞状の印刷や、後援などしてもらった。

高谷　それ以外にも、バドミントンの試合結果や記録を載せてもらえたのは朝日新聞だけでした。

藤村　僕が最初やっていたころは、なかなか載せてもらえなかった。技量もまだまだだったし。それが、認められたのは、２９年に香港へ遠征に行ってからですよ。海岸遠征したということで認められたんです。

それと、当時石渡さんが言っておられたのは、協会として今後の基礎づくりと発展について大切なのは、高校、大学、実業団がそれぞれ組織立ってやっていくことと、小中学生まで、底辺を拡張して、ピラミッド式に盛り上げることだと。私らもそう頑張って来たわけなんです。



座　談　会（草　創　期）

青木　本日は皆様ありがとうございました。

出席者
藤村岩男（元理事・現参与）
秋岡澄子（元理事・現参与）
高谷芳明（元国体選手・現参与）
藤井孝彦（元理事）
青木昭二（副会長）

歴代理事長の思い出

青木　では各自、協会にまつわる思い出話から伺っていきましょうか。

池田　わたしが協会の理事長をしていたのは短期間のことで、昭和58年に役をおおせ付かったんですが、その前の副理事長の時期も入れて３年間でした。その間一番思い出深いことのひとつは、副理事長になった前後のこと。ちょうど手術直後で、しかも勤め先では次長に昇進する大変なときでした。役を引き受けてもできるかどうか自信なかった。でも結局理事長をさせてもらって、自分のやりたいことができたという満足感はありました。

宝来　私が理事長を引き受けた昭和52年当時は、大阪協会が大きく変わりつつある時期だったと思います。サントリーがチームをつくった時期で、また、その当時サントリーの岸さん（前会長）という方が、協会はもっとプロフェッショナルでなければならないとおっしゃったり、マスコミ対応も始めたりで、協会も考え方を変えて、今までのやり方で対応できない部分は組織を変えたりしました。



石橋　私の場合、とにかく池田さんがされていたことを踏襲しようということで、４年間は守りの姿勢というか、決まったことをやっていました。理事長を引き受けたときは学校のことで頭が一杯で、常に守りの姿勢でした。儲かるかどうかにかかわらず、とにかく仕方なく（笑）、交流大会や日本リーグをやっていましたよ。

池田　私がやっていた当時は、協会にお金がなかったね。強化部から選手強化をしたいが、協会がやらなかったら自分たちでする、といってひざ詰め談判されたこともありましたよ。協会が分裂してはいけないので、なんとか捻出した１００万円を次年度の予算に組み込んだ。会長などからはお叱りを受けましたが、あれは仕方がなかったと思っている。今みたいに協会にお金がある訳ではなかったから。ですから、協会運営には、個人的なお金だけでなく、公的な資金が必要だと、理事長時代に痛感しました。



宝来　今お話のように、いつの頃もお金の面ではやはり苦労していました。今は大阪総合をやっても、黒字にできるような参加費を取っている。ところが当時は、必要な経費を選手が負担することはあっても、大阪総合で黒字が出るようなことはなかった。役員もずっと手弁当でした。必要なお金はなんとかあったけれど、協会として残していくお金はなかったんです。

石橋　私は理事長に就く以前は強化部の会計担当をしており、当時初の選抜チームをつくったんですが、今お話にあったように８０万円という協会のほぼ全財産を、選抜チームに先行投資しようということになったんです。これは和田さんの功績だと思うんですが、それが京都国体での優勝などに

結びつきました。

青木　藤浪さんは昭和48年から昭和58年まで10年間、ずっと副理事長をやっておられた。一番長いんですよね。

藤浪　お金の話ばかりで恐縮ですが、昔から協会はお金がなかった。一番苦労したのは、昭和48年に行われた第一回の日中大会の運営費集めでしたね。それに当時はまだ国交がなかったから、警備態勢が厳しく、選手の宿泊ホテルから練習会場、中央体育館と移動コース全ての各警察署に、ご協力をお願いに回った。また、本大会では大阪府日中交流協会や大阪工業会の西田氏には大変お世話になりました。



青木　第二回の日中大会を昭和53年にやろうとしたら、ＩＢＦの加盟問題で中国が突然に来日しなくなり、切符は出回っているから、新聞に中止の広告を出したり、当日見に来る人がいるかもしれないから中央体育館に詰めたりしました。あれは幻の大会になりましたね。

池田　理事長時代の思い出と言えば、奈良の国体のときに、組合せ会をオープンでやるかやらないかでもめたことがありましたね。今では皆が理解しているんだけど、当時は難しい問題だった。というのは、組み合わせによって優勝できるかできないかが決まるようなことがあったらしい。当時ならではのエピソードです。

宝来　私が理事長のころ、その時代の組織を考えないといけないということで、総務部や競技部のほかに、指導部とか強化部に予算をつけて活動していった。強化部などは中高生の合宿を日立造船の寮を借りてしたり、クラブ活動の先生を集めて指導者研修会を開くなどしました。各連盟の所帯が大きくなって、また新しい連盟ができてたので、協会の中の各部を確立させざるを得なかったということですね。

私がやらせていただいている間に、徳田さんや植野さんが世界で優勝したり、また国体はともかく、いろんな大会で大阪の選手が活躍したり、協会の30周年の行事を皆さんと共に実施するなど、様々ないい思い出もありましたよ。

石橋　行事と言えば、私の理事長時代、昭和６２年にジャパンオープンがありました。こういった大きな大会を東京以外にもって来ることは初めてで、このときもいろんな意味で苦労がありました。

この頃から、大会をする上で最も根本的なことは、収益をあげることだという考え方が一般的になってきた。いくらかお金を残して、下部団体に還元するということで。当時、切符の売りさばきをしないといけないし、役員は労力を提供しないといけないしで、そんな協会いらんわという声が上がっていましたから。このジャパンオープンでローソンという大企業の広告が初めて取れたんです。



青木　ジャパンオープンについての思い出は、日本協会はともかく、大阪でやったら観衆の入りも悪く意味がないと言う意見もあって、その後ずっと東京でやっている。

さすが東京です、最近ではラストの２日間は切符がなかなか買えないとのことですよ。大阪だったら連盟に切符を割り当てても残るのと大違いですね。

青木　ところで、宮脇さんは昭和33年に川口さんのあとで理事長になられたんですが、宮脇さんは体育専門の出身であるので、無理に頼み込んで引き受けてもらった訳です。それから８年間されたんですね。そして昭和41年の全日本実業団のあと、茨木工業高校にいた僕が引っ張り出され、理事長をおおせ付かったということです。

その当時の思い出は、協会が個人商店から有限会社ぐらいになるまでの時期に関わったということでした。どういった事情で中断していたのか記憶にないのですが、協会の総会や総合選手権などを復活させるのが、まずもっての仕事でしたね。また協会の要覧を初めて作ったのも良かったと思っている。

また理事の方が集まるのに手弁当だったという話がありましたが、基金を作ろうと考え、お金を出してくださる顧問の方々を探して、その人たちの気持ちにお返しするためにも、個人商店からの脱皮をと私なりに頑張ったものでした。



池田　宮脇さんが理事長のとき、大阪実連の分担金が、協会の収入の50%を占めていたんです。だから僕としては、実連が協会のバックボーンになっているという自負があったわけです。あの頃は日本協会の分担金が払えないときがあったんです。私と一緒に石渡会長に借りにいったんですが、それほど協会がお金に困っていた。青木さんがおっしゃった個人商店の時期ですね。

そのあと私から石橋さんに理事長が代わったころから、会員の中から協会といっても、経営的に成り立たないものはおかしいと言い出したんです。バドミントンをやって利益をあげることに、我々は抵抗があった。でもそれを何とも思わない企業の発言力が強くなっていって、日本リーグができたわけです。株式会社になって、利益優先の流れになったと言えますね。

宝来　宮脇先生が理事長になられた頃も、まだ協会の形がきちっとできていなくて、会計面でも行事の面でも、そのときの各理事長の性格や特色で進んでいったところがあったんでしょうね。宮脇先生は大変苦労されたと思います。私も学生のころから協会へ出入りさせてもらいましたが、手弁当以前の状態だったと記憶しています。

青木　私が理事長のときは、将来理事長になっても十分やっていけるような人が、かなりいたから、その人たちのお陰でやって来られたようなものなんです。

池田　宮脇さんは何でも自分でやってしまうほうだったからね、しかし膨大な組織になった現在では、そうは行かない。理事長が先頭に走りこのため肉体的な疲労も重なりいろいろな意味で疲れるようになった。金儲けはしないといけないわ、体は動かさないといけないわでね。

青木　本当に、一番よく動かれたのは石橋さんですねよ、お陰でダウン・・・・（笑）。

石橋　スタッフに恵まれました。とくに片岡先生や和田さんそしてサントリーの山本さん、三洋の月原さん達がスクラムを組んで、選手の強化を進められました。

宝来　恵まれたと言えば、青木さんは日本協会の常務理事になられたんですが、そのことで、大阪協会と日本協会のパイプはよい方向でつながったと言えると思います。国際大会の運営や日本協会の

方向とかをいつも大阪の常務理事会で報告してもらったりして、その点恵まれていました。

青木　ところで瑠東さんという副会長（後に会長）は、いろんな面で大きな影響力をもった方でした。僕は瑠東さんには随分教えてもらいました。中でも『どろどろした人情だけでやっていては、組織はあかんのや』、ときっぱり言われました。教員である僕などは、つくづく、そうなのかなあと思いましたね。実業団の池田さんあたりはそのへん割り切っていたのでは？

池田　いや、僕の所属していた企業の組織では、そういったことはなかったですね。そういうのは純粋な実業家といえますかね。

宝来　ここにいる５人のうち４人が先生ですね。私も先生をしながら協会に入れてもらったんですが、池田さんのような実業団の方と協会で一緒に仕事をさせてもらって、考え方が我々とは違うと感じました。そしてよい勉強をさせてもらいました。

石橋　特に瑠東さんは、無駄なお金を遣わずに入って来ることを考える人でしたね。だからカーニバルをしたりＴシャツをつくったりすることは積極的でした。

青木　全く大阪協会への瑠東会長の影響は大きいですよ。ついこの前もある人に会ったんですが、瑠東さんに引き入れられて入ったと言っておられましたよ。有能な人に目をつけて取り込む手腕は、独特のものがあって、ちょっと真似ができませんね。ところで、藤浪さんが理事長だったらどうされてましたか。

藤浪　いや、皆さん苦労されているのを見てきましたから、自分がそこへ入っていくのはかなわんと逃げることばかり考えていました（笑）。

石橋　私はいつでも、なんで藤浪さんがいけへんのか聞いたことがある。そのときはうまいこと逃げはった。でも副理事長でおって頂いてずいぶん助けてもらいました。

青木　今後協会をどうしたらいいかについてはどうでしょう。

宝来　私らと年代が違うと言えば、だいたい同じ年代の方に悪いけど、今の人達は今の社会で、バドミントンがどう必要とされているかを踏まえてやってもらえればいいと思います。また私たちがやり残したことで、必要な事が出て来たときには、応援します。

池田　実連はすっかり若返って、彼らの発想は我々には分からなくなっている。古い役員なども殆ど消えて、バドミントンをいかにやるかということで結束していますよ。昔はどうだったかは関係ないと云った姿勢で居るようです。だから、何か自分たちの経験や能力で出来ることがあればやろうという範囲でしかやれない。

石橋　高体連も50周年だから記念事業をしようかといっても、感覚が全く違う。予算もないし、サラッとすまそかという。今の人とは思いがずれているんですね。

藤浪　昔のことまで考えてないというか、自分の時代のことだけでええやないかと。

石橋　50周年も、一里塚というような感じですね。



青木　協会はどうなっていくんでしょうか。

石橋　極論を言うと、いまの会員たちはなんで大阪協会が必要か、登録費を払ってどんなメリットがあるのかという計算になっていると思う。

宝来　その見返りの一つになるかどうかはわからないけど、広報という機関紙を一生懸命つくって、会員ひとり一人に配って、協会が何をしているかを知ってもらうにしていますけどね。

座　談　会（歴代理事長の思い出）

石橋　やめて行った人に、協会はこんな行事をしているという連絡を常にしていたら、つながりができて、少ないけどカンパしておこうかという機運が芽生えるかも知れない。

宝来　昔青木先生がＯＢの集まりとして土佐堀会というのをつくったように、気楽な集まりを作って協会の支援をしていってはと思います。

青木　ただね、バドミントンのプレイを楽しんだ人達はこうした組織がよくわかるけどね。

宝来　ただ、これまでそれぞれの人が協会をやってきた中でそれぞれの財産があると思いますが、今後それが受け継がれて行くのかは、わからない。これからの人は、これがこれからの協会の財産になるんだというようなもののことを、しっかり考えてつくりあげていってほしいと思います。

青木　本日は皆さんありがとうございました。

出席者

4代目理事長　青木昭二（1966・9～1977・3）
5代目理事長　宝来敏夫（1977・4～1983・3）
6代目理事長　池田芳麻（1983・4～1985・3）
7代目理事長　石橋三彦（1985・4～1989・3）
元副理事長　藤浪輝吉（1973・4～1983・3）

協会の現状と将来の展望

青木　本日のテーマは「協会の現状と将来の展望」ということで、皆さんのお話を伺いたいと思います。まず清水さんから口火を切っていただきましょう。

清水　昔と今とでは、協会の運営の仕方が違うと思います。以前は特定の人がやっているだけでよかった。それが、現在これだけ組織が大きくなると、特定の数人だけで運営するのは不可能です。そこで最近は専門部制が敷かれているわけです。ただ、現状ではまだ目標としているような専門部制ではないと思います。



青木　個人商店から株式会社へといったところですね。

片岡　大阪は以前、国体では種目で残るものの、総合優勝ができなかった。新潟や熊本、神奈川などは集団で残るからうらやましかったですね。青木先生にも、なんとか総合優勝しましょうと言いましたが、結局できなかった。

だから思い出と言えば、初めて総合優勝できた昭和59年の奈良国体ですね。それ以前に強化部があったんですが、お金がなかったので合同で合宿もできなかった。それで前年の昭和58年に「お金さえあったら総合優勝できる。なんとかしてください」と当時の池田理事長に泣きついたんですよ。そしたら、「君らが頑張るんだったらなんとかしよう」と言って、当時のお金で１００万円近い大金を出してくれた。それで昭和59年に総合優勝したんです。このとき、やっと大阪の協会のかたちができたと喜んだ覚えがあります。

四方　それは、昭和59年の２月に選手達がバドミントンカーニバルをやったんですよ。それで８８万円のお金が集まって、強化の原資になった。僕の記憶では、当時協会の特別会計で２００万円ほど残っていて、そこからもかなりの額を出したはずです。

片岡　池田さんがお金の面で責任をとられたと後で聞いて、申し訳なく思った記憶があります。

青木　池田さんは、特別会計なんか残しても仕方がない、どんどん使って強化すればいいいう考え方だったんですよね。でもあのとき奈良で優勝して、帰る途中で応援の方々のご厚意で祝賀会をしましたよね。僕も本当に嬉しかった。あれで協会がすごく変わりました。それまでは個人商店的だったのが。

四方　私はいまもまだ個人商店的なところが抜け切らないのじゃないかと感じるんです。池田さんが大変苦労された後、昭和60年度に理事長を引き受けられた石橋さんも一人で走り回って、やはり個人商店のように頑張っておられた。それを引き継いだ私も、個人商店の域を脱し切れなかったと思います。

それで現在、清水さんが言われたように専門部制を進めなければいけないわけですが、少なくともいろんな大会などで必要な、総務や競技、審判といった部門はぜひ専門部制にしなければならない。そうしたことにとりかかっているのが現状です。

村井　強化ももちろん大事なんですが、協会も現在のように所帯が大きくなってくると、情報処理を的確に進める必要があると思います。そのために、コンピュータを導入したりまた、事務の専門家もおくなどして、事務局を整備する時期になってい

るのではないでしょうか。特定の人だけに負担をかけてはいけないと思います。事務局に責任者をおいて、そこから理事長が状況を把握すればいい。

青木　専門部の情報を理事長に伝えるためにそれらをまとめる機能が、現在欠けているということですね。

福森　理事の人員構成については、各連盟の規模に応じて割り当てが決められてきましたよね。でも協会として必要な人はやはり来て欲しいわけです。今後は極端な話、うち（社会人連盟）から来て欲しい人が10人いるとなれば、10人出しますよ。従来の規約に縛られないでやれるようになると、いろんな動きがもっとスムーズになると思いますよ。



村井　それと、協会の役員は各自の仕事をしているだけでいいのかという問題。家婦連で言えば、外でさまざまな問題が出されても、一度連盟に持ち帰って役割分担しているのが現状なんです。

清水　協会の役員は、やはり協会の仕事をしてなければだめなんですよ。連盟から送られていても、連盟の利益代表ではないのです。協会の役員個人として仕事をするべきです。

村井　協会にいるときは協会の仕事だけをするべきだということですか。

清水　その手段として、出身連盟の人にお手伝いをお願いしてもいいと思いますよ。
これは仕事をする場合の手段ですから。もし仮に実連に頼んだ方がいいのなら、頼めばいいんです。

村井　でも審判などは、帳面上は3級や2級とあっても、実際のレベルは連盟の中にいる人でないと分からないわけでしょ。例えば審判については責任はないと言ってしまっていいのかしら。

清水　現実的にそれでいいと思いますよ。それと、役員も選手も義務で出してはいけないと思います。現状は、誰が適任かは選出する方で決めろという印象です。適材適所は協会側で決めるべきです。このあたりで、役員の構成と人数について考え直す時期にきていると思います。数はもっと減らしてもいいと思います。

青木　皆さん方はすべて連盟の代表を兼ねておられる。この辺は将来の課題になると思われますが、たとえば社会人連盟はこうだから協会もこうあるべきだ、というように、各連盟とも、考える基準はそこにくると思う。もちろんいいところはどんどん取り入れていかなければならない。ただやはり、人数をどうするかなどの組織の問題は、課題として残ると思います。

青木　ところで大阪協会は高校や社会人、家庭婦人の試合などに嘴をはさまない。これは大阪だけで、他の都道府県では必ず役員を出すなどしている。大阪も草創期はそうだったんですが、今は連盟の行事は君たちでやりなさいという具合になっています。その点にも若干問題があるかも知れませんね、それがひいては協会への協力に影響してくると思うんです。

片岡　いろいろな意見も出ましたが、皆さん覚えておられるように、僕は合宿でも現場の人間が監督しないと勝てない、協会の理事ではだめやと何度も言ったんです。それが認められたんですけど、随分抵抗もあって、当時は一般男子だけは協会の理事が行くということになった。ただ、スタッフなどの問題が改善されて成果が上がっているから、僕の意見どおりにやっているのが現状ですね。

福森　でも最近は役員選出などであまりがたがたしませんね。以前は監督を選ぶのにも、役員だ理事だとか言ってもめたんですけどね。

四方　ですからそういった方向で改善されてきたんですよ。その意味では競技部にせよ審判部にせよ、国体を控えて随分整備されていると思います。あと肝心なのは財務、総務といったところですね。



片岡　大阪、埼玉、東京、北海道といったところは大きすぎて会議もなかなか出来ないため、協会に口を出しようがないんですよ。それが大阪のよさと言えばよさですかね。以前はお金も口も出さなかったのが、昭和50年代からお金は出すが口は出さない、に変わってきた。それで成果が上がってきたんです。

青木　だから強化についてはよそが羨むほど進んでいます。特にスタッフが揃っている。また幸いにも、今年の強化スタッフは全員委員に入っている。いよいよ動きやすくなってきました。

清水　さっき言ったように、そうした雰囲気が出て来れば、あの人はここに必要だ、ということがその場でわかるようになります。そうすれば必然的に連盟からも選出されるようになりますしね。

片岡　福森さんが言われたように、どこの連盟から何人と決めるより、必要な人間は必要だということで選ぶべきですね。来ない理事を選ぶくらいなら、その枠をほかの連盟にまわすくらいでないといけないと思います。

青木　連盟の数は現在８つで、これ以上増えることはないのですが、連盟に入らずに個人加盟したというケースがあると思います。大阪協会に入りたい、賛助会費も払うという人がいるはずです。そういった人の受け入れは、財源確保としても、連盟以外にあっていいと思うのですが、また学識経験者などに専門職としてやっていただくとか。

片岡　ひとつには、この連盟から何名、という枠をはずすべきです。それだとすごく窮屈ですから。それと、高齢化社会になっているのに、例えば僕はあと２年で退職しますが、高体連をはずれたら組織がないんです。協会に入りたくても入れないし。だから規制緩和をすべきですよ（笑）。

村井　家婦連は50歳以上のメンバーでつくる楽翔会が１００人を超えていますし、社会人連盟も歳のいっている人が多い。でも社会人のそういった人は、顔を出しても役だけして、若い人が多いからコートに入るのは気をつかうということを聞きます。

生涯スポーツということから言えば、たとえば、賛助会員と並列のような形で選手としても、社会人としても現役を引退した人達が参加できる、協会の後援会のような組織づくりを考えてみてもいいのではないでしょうか。



四方　２期目の終わりころから少しずつ皆さんにお話ししてきたんですが、８つの連盟が集まってできている協会組織は、整理しやすくてこれはこれですごくいいと思う。でも大阪の40いくつかの市町村のほとんどに、協会ができているわけですよ。だから大阪協会はそれらを網羅するものであるべきではないかと思うんです。

青木　衛星都市の協会を入れずに、連盟だけで組織

されているのは大阪と兵庫だけですね。大阪では過去に2、3回、地域の協会をまとめようとしたんです。ところが各地域には年配の名誉職的な人がいて、いつもボツになった。連盟で組織されている現状のほうが、はるかにまとめやすいわけですよ。とはいえ、将来考えていかなければならない問題です。ただ大阪も兵庫も期せずして、しかもバドミントンだけでなく全部の種目がそういうことになっている。これは不思議ですね。



片岡　頭からだめということでなく、これについては適宜ディスカッションしているわけだし、またバドミントンだけで話し合ってすむ問題でもないと思います。それで、先程の話で言うと、どこにも入らない人の個人連盟みたいなものをつくればいいのじゃないですか。他府県ではクラブ連盟をつくる動きが目立ちます。20年後にはそれが主流になるかもしれない。

四方　ただ、財政的なことにつながっていくんですよね。他府県の事情を聞いてみると、個人会費をもらって協会運営をするんだけど、一人１５００円から１７００円の会費だから大きな財源になる。それを会員数に応じて、大会のときなどに協会が還元する。そんな運営をしているところが多いんです。大阪の分担金という会費の集め方は独特ですね。

青木　大阪協会は、日本協会の登録を奨励するために手数料を取らないんです。それで、全会員が登録することにした。例えば実連の会員は連盟に登録することで、同時に日本協会の会員になる。協会は郵送だけするんです。ところがほとんどの府県は、たとえば１００円出したらそのうち２０円は手数料として協会がもらうということをしている。これについてもいい面と悪い面があって、何回か討論はしているんですが、まだ実現しないところです。

片岡　分担金については以前から危惧をもっています。高体連などは生徒が減っているので、いつか破綻しないかと。だからもっとほかに、例えば今言われた手数料なども考える時期にきているんではないかと思いますね。

四方　8連盟の分担金が一般会計に占める比率は、15%くらいしかないんですよ。そんな状態で運営しているんです。

村井　だからしんどいんですよ。一人１００円くらいしか出していない。事業収入ばかりで賄っているんでしょ。

清水　分担金のことも含めて、役員構成の見直しなどをやるべきだと思います。また、協会の理事会を見ていると、提案内容が具体性に欠けていると感じます。

立派な基本方針が並んでいるけど、それを意識して動いている人はいないと思います。意識させる方法を考えないといけないんですよ。

例えば「協会運営の効率化と組織の充実をはかる」というテーマですが、具体的にどうするのかを皆で考えていかないといけないと思います。一つ一つ具体化していくべきですよ。一つの方法としては、年度初めに各部がテーマを持つことです。理事長がこうしたい、だから各部がこれをこう処理して欲しいと言ったやり方ですね。

福森　そういったことは、やって見ていいか悪いか判断すればいいのだと思います。今のままでいいなんて初めからそう決めれば、またずるずると続いてしまう。だから今が節目だと判断して、踏ん切りをつけて変えるべきじゃないでしょうか。だめだったら元に戻したらいいですし。

片岡　僕は地方の県協会の招きで４、５人で10ケ所くらい行ったことがあるんです。飛行機に乗って１泊２日ですから、１人１０万円とか２０万円かかるわけです。それを地方の県が費用を出して呼んでくれるというのは、不思議でしょうがないんです。どうやってそのお金を、工面しているのか聞いたことはないけど。大阪では一度もそんなことしてませんよ。幸いにも人材は一杯いますから。



今度の国体でも他府県は全て中央コーチを頼んでますけど、大阪は一切頼んでないですからね。その意味では、府協会がそういう働きをしなくてもよかったという甘さがあったと言えますね。

福森　お金集めなどは、地方では企業が県のためならこれだけ出しますというケースが多いんじゃないですか。組織だけで賄うのではなく。だから大阪でも配下に負担をかけるんじゃなくて、何か行事をするのなら、広告を集める専門の担当者をおいて、そういったところからお金を集めるとかしないといけないでしょうね。

片岡　そうですね。それに会員からもっとスマートにお金を集める方法がないですかね。

清水　じゃあ具体的にどうしていけばいいのかという話し合いを、もっとしないといけないんですよ。一つ一つアイデアを寄せ集めると、具体策につながってくるはずです。今がちょうどその変わり目のときじゃないですか。

片岡　マスコミも、書く記事がないと言って離れて行きつつある時期です。ちょっと淋しいですね。

青木　昭和52年にサントリーの岸さんが協会に問題提起しましたよね。一例が背番号をつけるということ。これは成功しました。今そういう人がいない。そのときはうるさいと思うけど、そんな人がいなかったら改革もできないんですよ。

青木　ここで、こうすれば協会がよくなるという将来展望を語っていただきましょうか。

四方　マスコミにＰＲできるという意味でも、特別に強い選手を早く輩出しないといけませんね。ジャパンカップなどが毎年行われていますが、日本の企業が主催しているオープン戦で、日本人選手が準決勝に一人も残れないのは問題です。世界に通用する選手を大阪で育てるということが先決でしょうね。

片岡　今の日本では、学校体育で選手を育てることはほぼ不可能なんです。強い選手を育てるなら、社会体育で強化して行くことに、協会が目を向けるべきですよ。野球のリトルリーグもスイミングクラブも社会体育で、そこから強い選手が育っている。僕は20年後には学校体育がなくなっていると思います。

福森　協会としてトップ選手を育てるには、クラブチームを把握して、強化する対象を決めたら援助も含め積極的にやっていくべきです。

村井　やはり育ってきた選手の受け皿を考えるより、まず選手を育てることを考えるのが先決ですよね。

清水　そういったことのためにも、旗を揚げるだけではなく、実行できる協会づくりが大切です。それに関連して、専門部が今以上に動き出したら競技は専門部でやってもらい、その結果を理事会などに報告して、短時間で結論を出す。その方向にもっていくのが本当の専門部制です。それらの足並みをそろえるのが理事会の役割ですよ。

四方　協会の登録者数が現在約6000人。他の愛好家も入れれば１万人という、大変大きな競技人口を抱えている。そういう人達を網羅することを協会は考えたい。それに、少なくとも3000人収容の体育館が満員になるくらい、有料の観客を集められ

るようにしたいですね。

片岡　隠れファンがいて、ジャパンカップのセミファイナルになると、急に満員になる。やはり強いということが観客を集めます。

福森　ファンにいい試合を見せることも協会の仕事ですよ。大会運営のやりかたも問われてくる。

村井　大会運営を楽にする方法としては、家婦連がやっている国際親善のように、スポンサー会社に後援依頼して、イベント企業会社等と契約を取り付ければ、会場設営や看板の手配に至るまで全部やってくれるから、競技運営だけ自分のところでやればいい。

青木　そうした面倒なことはどんどんプロに任せる、という時代。冒頭に出た個人商店から株式会社へというところに戻りそうですね（笑）。いずれにせよ、やはり協会も新しい考え方に変わっていかないといけない、といったところに話が落ち着きました。

今日は皆さんありがとうございました。



出席者

（司会）青木昭二（副会長）
四方光市（理事長）
清水義雄（常務理事）
片岡輝明（常務理事）
村井広美（常務理事）
福森勝治（常務理事）

［第 4 章］

バドミントンと私

（寄稿順）

「宝物の言葉」

箕面養護学校教諭
米谷啓子

「バドミントンと私」という原稿依頼をうけ、今まで、がむしゃらにプレイしてきた私にとって改めてこの競技との関わりを振り返るのにいいチャンスをいただいたのかもしれません。教職に就いてから様々な学校でバドミントン部の生徒達と関わってきました。教えた生徒達が卒業後や、何年かたってから私に送ってくれた手紙を久しぶりにふと開けてみる気になりました。

“バドミントンを続けてよかったです。” “スポーツ推薦の話がきました。”
“先生のようにバド部の顧問をもちたい” “また一緒にプレイして下さい”
“先生もずっと続けて下さいね。私もがんばります”……次々と出てくる文面は（少々自画自賛のようで恐縮ですが）宝物のような言葉ばかりです。

中・高時代、ごく普通のクラブ活動しかしていなかった私にとって、大学へ入り競技としてのバドミントンに出会ったことで今までのｐｌａｙｅｒとしての自分を否定しなければならないこともたくさんありました。

上手になりたい、強くなりたい、その気持ちを持ち続けながら、負けん気だけ強く、通用しない自分のバドミントンと厳しい練習との中で悩み苦しんだこと・・・。でも決して無駄ではなく、全日本教職員大会を初めとして色々な試合で残せた結果が苦しいことや辛いことから逃げなかった自分に返ってきた答えだと思っています。

初めてラケットを握るところからスタートする生徒達にもいつかそんな答えを出して欲しい、そしてバドミントンを通して、私という人間がいたことがいい意味で残っているようにこれからも日々精進していかなければと思っています。宝物の言葉に恥じないように…。

「バドミントンの原点は社会体育にあり」

大阪社会人バドミントン連盟
榊　原　崇　夫

私がバドミントンを始めたのは、中学のクラブ活動です。他に入りたい運動部があったのですが、母に反対されバドミントンクラブに入部しました。当時はバドミントンセットが家庭に普及しはじめた頃で、スポーツとしては超マイナーで西洋羽根突きと揶揄されていました。しかし身近にあったことや、遊びが故にそこそこ勝つこともでき、結構楽しく親しんでいたこともあり、クラブ活動にバドミントンを選びました。

私のバドミントンの経歴には、選手としての華やかなものや自慢できるものもありません。中学校でのクラブ活動も満足なものではありませんでしたし、本当に望んで始めたスポーツではなかったのですが、その後の細々と続けているうちに仲間と社会人のバドミントンサークルを結成し代表者に推され、いつしかバドミントンの虜になり現在に至っています。また今は大阪社会人バドミントン連盟の理事にさせていただき、且つ審判員や日本体育協会の指導員の資格を取得しています。不本意ながら始めたバドミントンにここまではまり込み、３０数年も続くとは思いも寄らなかったことです。

バドミントンが好きだから続けてこれたのですが、私としてはそれ以上にバドミントンを通じて様々な人達との出会いがあったなればこそ今まで続けてこられたし、これからも続けていこうと思っています。そして、このような場を提供してくれているのが、私の所属するバドミントンサークルや社会人連盟です。

私の所属するバドミントンサークルは来年で２０年目を迎えますが、生涯スポーツや社会体育を念頭におき、入会希望者はできるだけ拒まずの姿勢で受け入れ、バドミントンを楽しみ且つ交友と協調をモットーとしているので、一時は１００人程の会員を擁しましたが、最近では常時６０人前後が在籍し、練習はほぼ毎週の土・日曜日に行っています。特にこのサークルの存在が私にバドミントンを続けさせてきたものと思います。

バドミントンは私に仲間達との出会いや健康的な生活を与えてくれました。バドミントン愛好者としては今以上にバドミントンの普及を願うものですが、私のバドミントンの原点は社会体育にあり、このような場作りとしてのバドミントンの活動をこれからも続けていこうと思っています。

「バドミントンと健康作り」

枚方殿一クラブ
真　本　朱　実

思い起こせば私とバドミントンとの出会いは、かれこれ２０年前、中学１年の時でした。中学、高校時代は勉強もそこそこにバドミントン一色だったと懐かしく思い出されます。

高校卒業と同時にバドミントンを辞め、私の頭の中には、バドミントンの「バ」の字もなくなっていました。

ところが８年程前、体調を崩し入院、精神的にもどん底状態の私を見兼ねた友人が体力作りにもバドミントンをしよう！と誘ってくれました。

かれこれ７、８年ぶりに握ったラケット。かっての青春の日々が蘇って来たようでドキドキしました。

その気持ちに一層火を付けたのが、今現在、私が所属している枚方殿一クラブです。枚方市の大会で初めて見た殿一クラブの方々の一生懸命なプレー、チームワークの良さにすっかり魅了された私は、追いつけ追いこせで練習に励み、あれだけ病弱だった私が嘘のように健康になったのです。

３年前からは、枚方殿一クラブに入部させて頂き、社会人リーグ戦や選手権大会に出場出来るようになりました。

当初は元気になって良かったと喜んでバドミントンに送出してくれた家族も今ではトレーニングウエアーに身を包みラケットを抱えて急いそと出てゆく私に「またァ」と冷たい視線で見送ってくれます。全く有難いことです。

最近では殿一クラブのジュニアの運営にも参加させて頂き、小学生の指導にも自分の夢をみいだしています。

これからも生き生きとバドミントンをプレーし続けて行きたい。バドミントンを通じての『人の出会い、健康である素晴らしさ』を私は、じゅうぶんに知ってしまったから！

「家庭婦人連盟のあり方」

大阪府家庭婦人バドミントン連盟
副理事長　上田光代

大阪バドミントン協会５０周年、誠におめでとうございます。大阪府家庭婦人バドミントン連盟も、２４年目を迎え、協会の傘下として認可されて早や２０年近い年月が過ぎようとしています。その間、色々とご指導ご協力をいただき、今日の家庭婦人連盟が存在するものと深く感謝いたしております。

これからの家庭婦人連盟を維持し、さらに盛り立てていく課題は数多くあると思います。たとえば、バドミントン人口の維持、技術の向上、後続者の育成、ブロック活動の推進、地域社会への貢献等々。しかし連盟の方針であった底辺の拡大もほぼ達成し、家庭婦人大会の頂点である全日本大会の二連覇を成し遂げ、第３回を迎える国際親善大会は今後の大きな課題であるとしても、ほぼ大阪府家庭婦人連盟の名を全国に知らしめることの出来た今日、さらに多くの婦人が、バドミントンを末永く楽しみ続けられる環境と組織作りを考える時期ではないかと思われます。いまや家庭婦人という定義など作りようもなく、既婚者、未婚者の概念にとらわれることなく、窓口を大きく拡げ、家庭婦人連盟と言う名称から婦人連盟へと、近い将来改名される時が来るものと信じています。

バドミントンを愛する人達が、永く楽しみ続けられる組織作りは、古い方法や規則を踏襲するだけでなく、新しい世代にも理解出来る現在のニーズに合った組織改革を進めて行く必要があると思います。同時にこれからの連盟は、ブロック単位の活動の推進を図り、それぞれのブロックが独立した発展を遂げることにより、その結果が今後の運営に大きく影響して、おのずと方針も決まってくるはずです。今後の連盟のあるべき方向と方針も、２０余年という実績に加えて、これから生まれくる新しい力に大いに期待したいものです。

「バドミントンとの出会い」

大阪府家庭婦人バドミントン連盟
服　部　春　代（吹田ミセス）

大阪バドミントン協会の半世紀に及ぶ経緯に思いを馳せると、素晴らしいの一語に尽き、ひとしおの感慨を覚えます。心より５０周年をお祝い申し上げます。

私は、大阪府家庭婦人連盟に属して２０余年になります。当初はただ趣味と健康の為の運動という軽い気持ちで近くの教室に通いましたが、初心者としてラケットを振り、うさぎ跳び、ランニング、シャトル拾い等、そのハードな練習は自分のイメージしていたスポーツとは違ったものでした。当時の指導練習方法は、現在とは格段の相違がありてましたが、継続は力なりという気持ちで、徐々に上達して来た時の喜びは、スポーツをやられた方ならきっと理解されるでしょう。そしてのめりこんで乗りかけた船に片足をかけ、もう一方の足はしっかりと家庭という城に残しました。思えば長かったようで短いバドミントンとの出会いです。

その後クラブを創立し、新しい人との出会い、そして別れという繰り返しを経て、現在に至っていますが、しかし所詮スポーツの世界は勝ちと負け。負け続ければ沈んで行くということと、それに対する和を保ちコモンセンスを養うということをどのように調和させて行くか、これが私のクラブ創立以来の課題です。家庭婦人バドクラブ発展の軸も、この辺にあるのではないでしょうか。

バドミントンは比較的マイナーで地味なスポーツ活動と世間では見られがちながら、奥の深さは計り知れないもので、対人関係についても、色々と考えさせられるものがありました。しかし少々の対人トラブルが有っても、汗を流せば解消してしまいます。バドミントンは、歳を重ねても無理をせずプレーできる最適のスポーツです。他府県との交流、海外遠征等々、楽しみを味わいながら逞しく活躍しています。

又家庭婦人連盟の中で５０歳以上の方々のための楽翔会は、連盟理事長である村井女史の特別のご尽力で結成されましたが、もう８年を経過しようとし、私も微力ながら奉仕させていただいております。そして最近は、私にとってのバドミントンは、最初に想像した通りの趣味と健康の為のスポーツで有ったとつくづく感じています。

今後も足腰の続く限り、後継者を育て、地域との交流も活発にし、底辺を拡大し、バドミントンの楽しさとスポーツの厳しさの中から、少しでも人間性の向上に向かって精進したいと思っています。大阪バドミントン協会の指導の元に、協会の輝かしい５０周年の歩みに学び、家婦連が、今後もステディーに歩み続けられるよう、皆様の益々のご協力をお願い申し上げます。

「バドミントン人生」

大阪社会人バドミントン連盟
参与　嵯　峨　健　一（Ｙクラブ）

高校１年生の時からバドミントンクラブに入りました。その動機は友人に誘われてたのと若干不純なものが入り混じったものでした。つらいしごきや合宿に耐えて何とか３年の卒業まで続きました。先輩には感謝しています（本当です）就職してからも、バドタイムは完全に私の生活のサイクルに織り込まれて、快い汗と美味しい酒につながっています。おかげで同年代の者よりもスタミナには自信があり、スリムな体形を保ち、かつ大好きな夏山へも年に数日登っています。最近は左肩に始まり右ヒザ左ヒザと次々痛めて全力プレーも思うままになりません。痛みとつきあいながら永くバドを楽しみたいと思っております。一番の思い出は、大阪協会の諸先輩方のご協力を得て、嶋会長の下に社会人連盟創設の頃に少しはお手伝いできたことです。

「バドミントンを始めて25年」

大阪府家庭婦人バドミントン連盟
室　井　比呂美（東大阪Ｍ．Ｂ．Ｃ）

大阪バドミントン協会創立５０周年を迎えられ、お喜び申し上げます。

戦後の混乱期の中での誕生ということは、自分一人の生活でさえ難しい状態の時、組織作りをされた高体連の先生方、大変なご苦労があったこととお察し申し上げます。そして役員各位の努力と熱意で、現在の発展を遂げられましたこと心より敬意を表します。

村井さんに誘われてバドミントンを始めて２５年、いろいろ教えていただき又、迷惑もかけました、ほんとうに感謝しています。

多くの友達との出会い、苦しかったスケジュールのやりくり、日本だけでなく海外での親善試合などの楽しかった思い出、子供達もその私をみて、バドミントンに関係し共通の話題もでき、理解し合ってすっかり生活に溶け込んでいます。努力不足で上手にはなれませんでしたが、みんなに気を配りながら少しでも長く続けたいと思っております。

今後益々のご発展を祈り心よりお祝い申し上げます。

「今、バドミントンはマイナースポーツか」

大阪府家庭婦人バドミントン連盟
宮　崎　真理子（桜ケ丘クラブ）

大阪バドミントン協会発足５０年と言う記念すべき年に、サントリーバドミントンチームが解散となり、とても悲しく思っている今日この頃です。なぜ解散なのか、その過程は存じませんが、初代キャプテンを務めさせていただいた私は、創部に際してたくさんの人々のご尽力と、そのご苦労、ご努力を目の当たりにしておりますので、とても残念に思えてなりません。そして頭のなかで思い巡らすことは、今、バドミントンは本当にマイナースポーツなのかと言う事です。

今日バドミントンがオリンピックの正式種目となり、選手達は以前にも増してプロ意識の確立と実践に目覚めて努力していると思います。なのに何故マイナーという意識から抜け出せないのでしょうか。競技人口はもう立派にその域を脱しています。次は発展です。発展がどうもうまく行っていないように思います。それはマスコミ対策であったり、選手の育成、強化であったり、日本バドミントン協会の発展であったりするのだと思います。

今、日本リーグに参加しているチームの中でも、たくさんの立派な企業があります。昔なら好きな事をして給料をもらう、しかも、たかがバドミントンと言うスポーツで給料を支払う等、考えられませんでした。バドミントンばかりでなく日本全体がスポーツにかけるお金の価値を少しずつ評価できる世の中になってきているのだと思います。では、一体スポーツの何に価値があるのでしょうか。多分それは夢や希望、英雄（スター）的存在が生きる糧になる事を、たくさんの人々が理解し求めているからだと思います。ここに目を向けて考えると、バドミントンを国技としているインドネシアは、その時代時代にとても上手に英雄を育てています。日本では、サッカーや野球にそれに近い三浦知良選手や、野茂英雄選手などがいますが、インドネシアの国民一人一人や日本の国民一人一人がバドミントンが出来たり野球やサッカーが出来たりするわけではありません。しかしそれらの選手の試合を見て人々と共に感動を共有することが出来る。それがスポーツの素晴らしさを理解し、メジャーなものとして発展して行く所以だと思います。そのためには選手はただ強いだけではなく、人間として好感が持たれる、また尊敬出来ると思われるように心掛けなくてはなりません。そしてマスコミ対策としてはその舞台を出来るだけ多く用意し、たくさんの人々に見てもらい感動を伝える。そのすべてをうまくつなげているのがインドネシアのバドミントン協会ではないでしょうか。

過去の積み重ねで現在が有るだけではなく、その上に新しい工夫と知恵を重ね合わせて現在を築いて行く事が出来たら、バドミントンはきっとメジャーなスポーツに発展して行くと思います。今後の大阪バドミントン協会の益々の発展を祈念しております。

「生涯スポーツについて」

四天王寺高校教諭
藤　岡　毅　至

生きているうちに、だれでも1つぐらいは自分に合ったスポーツを見つけるものでしょう。もちろん私もいくつかのスポーツに出会いました。思い返せばソフトボールに始まり、野球、卓球、基礎スキー、競技スキーと渡り歩き、そのたびにこれが一生付き合うスポーツだと思ったものでした。でもこの頃ふと思うのです。一生付き合うスポーツにはいくつかの条件があるのではないかと。私はスキーに一番力をいれ、学生のときには、多くの時間とアルバイトで得たお金を費やして熱中しました。でも社会人になると、大阪が雪山から遠いことと、スキーは冬しかできないということが邪魔をして、年に一、二度、スキー教室に生徒を連れて行くだけになりました。行ってもほとんど滑らず、もともとスキーに対する思い入れがある私は、情けない気持ちで帰ってきたものでした。これではだめだと思い、新しいスキー板を買ってがんばってみるものの、改めてその値段が高いことに辛さを感じました。もうやめです。

ところで、一生付き合うスポーツの条件とはなんでしょうか。

① 自分の近くにあり手軽であること
② 季節にとらわれないこと
③ 費用が家計におよぼさないこと

以上、この3点であると私は思います。

私とバドミントンの出会いは、まだ新任教師のときに、仕方なく顧問を引き受けたことから始まりました。実はこのころはまだスキー部の顧問をしたいと思っていました。「卓球はやったことはあるが、バドミントンは小学生のときに公園でやったかな」というありさまでした。(きっと、必ずみんなが公園でしたはず！) とにかく値段の高いラケット(スキー板よりはかなり安いのですが―) であればうまく打てると真剣に思い生徒に買ってきてもらったことを覚えています。試合の引率も早く試合が終わればいいのにとばかり思っていました。でも、新しい人との出会いはときには人の考えを変えます。

私はふたりの人と出会いました。ひとりは現在四天王寺高等学校バドミントン部　監督西上正一さん、もうひとりは生徒で、元サントリーバドミントン部　大田貴子選手でした。その熱意ある指導ぶりと、それに答える選手の世話を顧問という立場で携わるようになってからは、ずいぶんバドミントンに対する考えも変わりました。そして自分でも思いもよらなかった、インターハイ団体戦全国優勝の輪の中にいることができたときにはうれしかったし、ほんとうにバドミントンがおもしろいと思った瞬間でした。今、四天王寺高等学校バドミントン部は新しい優勝に向かって動き始めています。また次の楽しみが始まりました。と、同時に私自身の中でも今度は自分がプレイをして楽しもうという気持ちが芽生え始めました。すごくやる気のある自分に驚いているくらいです。

そうです、一生付き合うスポーツの条件にバドミントンは私の中でぴったりあてはまったのです。生徒たちといっしょに戦いながら私自身もバドミントンを長く楽しんで行くつもりです。

「日本を代表する選手が育つ組織作り」

此花学院高校教諭
谷田尚嗣

私がバドミントンをはじめてかれこれ２０数年になります。その間、大変指導者に恵まれ、また環境にも恵まれた事もあって、これまであまり嫌な思いもせず、楽しくこの競技に関わってこれたのは大変幸せな事だと思っています。現役時代にこの競技のおかげでいろいろな経験をさせて頂いたので、これからは若い選手達の手助けをする事がバドミントンへの恩返しであると考えています。

四條畷学園小学校の６年生の時、中学校の顧問である杉田忠邦先生と知り合ったことから私のバドミントンは始まりました。１週間に１度、中学校の体育館に行って、バドミントンを杉田先生に教わることが毎日楽しみとなり、どんどんバドミントンの魅力にとりつかれていった１年でした。中学校に入学し、本格的にバドミントンを始めてみて、この競技の奥深さに驚き、杉田先生の厳しくも楽しい練習に驚きながらもついていったことが懐かしく思い出されます。はやく先輩に追いつきたい、と思いながら練習したものです。

高校時代は大阪の府立高校であまりクラブに熱心ではなく、四條畷学園・柏原高校などにお世話になりました。特に柏原高校の明石先生・近藤先生には他校の生徒ながら、柏原高校の生徒と同様に教えて頂き、大変感謝しています。大学時代は、和田監督のもと、莫大な練習量と途方もないトレーニングに驚き、高校時代に鍛えられていない私にとっては想像を越える苦しさでした。ただ、その苦しさは乗り越えることによって報われる事を、監督より教わり、努力が続けられたのではと思っています。社会人となっても大阪にある実業団チームのＮＴＴ関西・三洋電機・サントリーの皆さんにお世話になり、バドミントンを続けることができました。本当に恵まれた環境の中でバドミントンを続けてられたことは、ありがたいことであり、又、珍しい事ではないでしょうか。たまたま、私はこのように環境に恵まれましたが、そうでない人たちも今までにたくさんいたのではないかと思います。

今後は、その様な環境に恵まれなくてなかなか思うような成績が残せない人達を見逃すことなくピックアップできるような大阪独自のシステムができればいいなと思います。

私の力は大したものではありませんが少しでも役に立つことがあればやっていきたいと思っています。教員になったのも、少しでも長くバドミントンに関わっていたいから、又、バドミントンが好きな人と長く関わっていたいからなので、これからも何らかの形で大阪のバドミントンに貢献できればと思っています。

この大阪から日本を代表する選手が育つ組織作りが早くできあがればいいと思います。又、そのお手伝いをさせてもらえるようになっていきたいと思います。

大阪バドミントン協会５０周年おめでとうございます。記念誌発行によせての言葉とさせていただきます。

「私のバドミントン人生」

樟蔭東高校教諭
川　上　隆　庸

大阪バドミントン協会創立５０周年、誠におめでとうございます。

私がバドミントンを始めたのは、東大阪市立縄手中学に入学してからです。私の兄が中学時代にバドミントンをやっており、その兄に勧められたからです。その当時縄手中学は、大阪府下においては有力校で上位に名を連ねていた学校でありました。練習は先輩が厳しく指導されていましたが、休んだことはなかったと思います。そのお陰で私も、上達したと思われます。高校は花園高校に進みバドミントン部がありましたが、最初はなぜか、ラグビーをやってみたいという欲求に駆られ、ラグビー部に在籍し公式戦にも出場しました。でも夏休みに中学時代の同級生と何回か会っている内に、バドミントンが無性にやりたくなり、秋にバドミントン部に入りなおしたのです。高校時代の他校の先輩に、四條畷学園出身の仲尾さん（現四條畷学園中学教諭）がおられ、先輩にはよく練習をつけて貰いました。又、四條畷学園高校にもよく練習に行かせていただき、片岡先生、杉田先生にはよく練習を見ていただき、大変お世話になりました。高校時代は、毎日バドミントンばかりやっていた記憶があります。公立高校なので週に３回しかコートが使えず、それ以外の日にはよく走っていたと思います。走るか、シャトルを打っているかの毎日だったと思います。当然勉強は、あまりしませんでした。この頃から、バドミントンに関係のある大学に進学し、就職できたらいいなあと、漠然と考えていたようです。大学は仲尾、井上両先輩が法政大学に進学されましたので、私も進学させていただきました。大学時代は主として学生連盟（試合の運営を担当する）に派遣され、試合運営のノウハウを教えられたりしたのです。この頃は競技者より運営の方に興味があったように思います。事務所が日本バドミントン協会にありましたので、村山事務局長・女子事務員の方とは懇意にしていただき、現在もお世話になっております。就職は、高校時代の恩師である片谷直治先生の紹介で、樟蔭東高校の秋岡澄子先生のお骨折りを頂き、樟蔭東高校に奉職させていただくこととなりました。今年で、１８年目の勤務になります。その間、秋岡先生にはずっとご指導を頂いておりましたが、なかなか一人前の教師にはなれず、迷惑ばかりをかけておりました。部の競技力も低迷し本当に申し訳なく、部活動を通して物事に取り組む姿勢、態度、礼儀、言葉遣い等まだまだ指導が、不十分で頼りないなあと感じている次第です。その秋岡先生が今年退職され、私としましては、一層発憤しないといけないと考えている毎日です。

バドミントンという競技を通して、いろいろな方と知り合い、私の人格形成に多大な影響を与えてくださった方々に、感謝申し上げます。岸元会長、三宅会長をはじめ協会関係の方々、石橋先生はじめ高体連関係の方々など、本当に多くの人にお世話になりました。まだまだ未熟な私ですが、今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、大阪バドミントン協会の今後の御発展と御活躍を祈念いたします。

「バドミントン〉理科」

柏原高校教諭
近　藤　一　生

野球が大好きだった私が、自分の能力を悟って（投手だと、うまくカーブが曲がらなかったし、3塁から矢のような送球が出来なかった）バドミントンを選んだのが、私の人生を変えてしまった。しかし未練は今も少し残っている。今年の春の選抜高校野球で優勝した天理高校の監督をされていた中川先生は、最近まで同校のバドミントン部の監督でした。

好きな野球に戻られ、甲子園にまで出場されて羨ましい限りです。

教員になった当時は、クラブは強くなく、勝ちたい気持ちはあったけれど、現在の様なチームになるとは思っていなかったので、自分の時間が取れました。理科の研修会で高山植物や野鳥の観察に参加したり、旅行したり、学習プリントを作成し、印刷したり、実験準備、勉強も充分出来ました。本来描いていた先生らしい仕事：生活をしていた様な気がします。

今は違う。60%位をバドミントンに生活を合わせている。休みの時は百%である。進学の主任をしているが、4時になると体育館に行ってしまう、会議中も生徒がきっちり練習しているかどうかが気になる、滅多にはないが近畿大会等で授業が自習になる、クラブの電話も多い等、先生方や一般生徒にかなり迷惑をかけています。柏原高校ではクラブ活動に理解があるので何とかやって来れました。今の気持ちとして、強い選手を育ててみたいという願望と、私学危機を迎えているこの時期、本業の先生業をしっかりやりたい、という2つの面で心が揺れていますが、当分の間バドミントンから抜けられないのも事実です。先日ある中学生の保護者の方と話していましたら「先生は授業もされているんですか－バドミントンだけ教えているのかと思っていました」と言われました。少しショックでした。不器用な私ですので両立は出来るはずないのですが、行ける所まで行くよりしかたがない状況です。

しかしバドミントンのお蔭で、いろいろ体験させてもらいました。一番印象に残っているのは、京都国体で東京オリンピックの入場行進曲と同じ曲で競技場を行進出来た事です。あの時は感動しました。平成2年には12連覇が途切れた時は悔しかったが、肩の荷が降りてほっとした何とも言えない気持ちになった事も忘れられません。試合で全国いろいろ行かせてもらいました。人付き合いの悪い私ですが、多くの人と知り合いになれました。大きな財産だと感謝しています。バドミントンに関わった以上、日本選手がオリンピックで活躍してくれる事を期待したいと思います。

「バドミントンを通して学んだこと」

大阪府立門真高校教諭
山　本　卓　也

府立高校の教員になって１４年、幸いなことに新任で赴任した八尾南高校で、バドミントン部の顧問を持たせていただくこととなり、以後現在までバドミントンというスポーツを通して、多くのことを学ばせてもらっている。

自身を振り返ってみると、生徒を指導する立場となって、最初の頃は何も考えず、ただがむしゃらに勝つことを生徒に要求していたような気がする。そのために、幾度と無く生徒と対立し、何故私の想いが生徒達に理解してもらえないのか考え込む日々があった。今思うと、部員達を自分の型にはめ、自己満足の手段としかとらえていなかった自分が、恥ずかしく、当時の部員達に申し訳ないことをしたという反省の念にかられる。行き詰まる私に、あらゆる面でご指導・ご助言をいただいたのは、やはりバドミントンを通じて知り合えた諸先生方だった。先生方の指導される姿を見聞きする中で、己の未熟さ、考えの浅さ、指導者・教育者としての誤り等に気づかせていただいたように思う。

「何が大切なことなのか、何を目指すのか、それを部員にどのように要求するのか、いかに部員をやる気にさせるのか」私の中にはそんなことは無かったのかもしれない。そのようなことに気づき始めた頃、高体連の常任委員をさせていただく機会を得、さらに多くのことを学ばせてもらった。また、自分なりにバドミントンについて勉強する必要も感じ、研究されている先生方の教えを乞うよう努めるようになった。今思えば「学ぶ」姿勢など持っていなかったちっぽけな私が、今のような気持ちになれたのも、バドミントンというスポーツのお陰であり、諸先生方のお陰であると強く思え、それらに対する感謝の気持ちを込めてこの文章を書いている。

まだまだ未熟な私なりに、自分のすべきこと・できることを考えていくと、困難に対してあきらめない人間・高い目標を持ちそれに向かって努力する人間―そういう人間をどのようにして育てていくのかを追求することに行き着く。試合に勝つための細かいテクニックだけではなく、バドミントンを通していかに生徒を成長させられるかを、もっと大切にしていきたい。確かに「生徒を人間的に成長させる」ということが、「勝利を目指す」ということと同義ではないかもしれないが、決して相容れないものではないはずである。今はクラブ指導を通して「人間教育」ができる指導者になりたい。そのように努力することが、私が今まで教えていただいたことへの恩返しであるように思える。

生徒達には、バドミントンを通して、「勝利の喜び」だけでなく、負けることから「学ぶ姿勢」、何事にもあきらめず努力する「強い意志」、「自律の精神」―多くを経験し、身につけてもらいたい。

「一生涯のスポーツとして」

大阪府立港高校教諭
徳 永 克 也

大阪バドミントン協会創立50周年おめでとうございます。

「バドミントン」がスポーツであると知ってからもう２２年になろうとしています。

大学１年で何となく「楽なスポーツ」だろうと思って始めたバドミントンが、一生涯のスポーツとして付き合うことになるとは当時思ってもいませんでした。

大阪教育大学（大阪学芸大学）が大阪バドミントン協会の発祥の地あることなど知るはずもなく、現役時代に１勝も出来ず女子部員にすら負けていた私が、教員になった後に、クラブ顧問となり、そればかりか高体連の役員をすることになろうとは、想像だに絶することでした。

そもそも、私の最初の赴任校である東淀川高校にはバドミントン部がありませんでした。大学４年の秋に引退した時に「これでシャトルとはお別れ」と一種のサバサバした気持ちになった私が、まさかバドミントン部を作ることになろうとは、神様もイタズラが過ぎるというものです。ましてや数年後に生徒が大活躍、近畿大会出場や大阪総体での優勝など、高体連の先生方に目を止められるとは、よくよく「悪縁」があったというものです。

人生には自分ではどうすることも出来ない運命みたいなものがあるようです。

結局、毎日の生活と１年365日の中にバドミントンが組み込まれてしまった私の生活の一端を紹介することで、１クラブを指導している教員の平凡な記録をまとめてみたいと思います。

クラブは放課後が全てです。ですから、私の学校でのスケジュールのポイントは「いかに放課後に時間を作るか」です。絶対的な理論を持つわけでもなく、過去の選手としての実績もない私にとって、生徒を納得させる唯一の方法は、毎日クラブに顔を見せるということです。ですからすぐにでも体育館へ行けるように、普段からジャージ姿でいます。よく体育の先生と間違われます（私は数学が担当です）。

練習は早く生徒にバドミントンの面白味を教えたいとの考えから、ダブルスを中心にします。最初は２、３年がダブルスを組み、私が１に入って２－１のオールアタックをし攻撃力とローテーションを教えます。私のレシーブは最初は全てロビングで相手に積極的打たせるようにしていますが、慣れてくるにつれてドライブレシーブを取り混ぜます。そうこうしているうちに、私ひとりでは支えきれなくなって来たと判断したら、私と１、２年生が組んで２－２のダブルスに移行します。このようにしていくと３年生の春以降は完全なフリーゲームが出来、生徒は夏の大会まで続けようと思うようになるのです。

女子生徒が素人からバドミントンを始めた場合、「ゲームをしているな」と思えるのは３年の夏近くになってからです。それだけに、そこに行くまでいかに飽きさせないかが工夫のいる所です。「やって見せ、言って教えて、させてみて、誉めてやらねば人は動かず」正に毎日この意味を味わっています。

「私とバドミントン」

大阪学芸高校教諭
蔵口勇雄

現在、一社会人としての私の生活の中にバドミントンは大きなウエイトを占めています。もちろん多くの社会人の方と同じように私の仕事の内容も多岐にわたり、時には、バドミントンの事も頭から消えてしまう時もありますが、やはり一段落するとバドミントンの事に戻っています。クラブ活動が放課後から夜にかけて行われているせいもあり、一日のはじまりはともかく、締めくくりは、バドミントンである気がします。

このように私の生活に大きな関わりを持つようになったバドミントンですが、始めるようになったきっかけは本当に偶然でありました。中学入学後すぐ、最初は卓球部に入ろうと思っていました。というのも、友人の家の卓球台でよく遊んでおり、また姉も同じ中学校の卓球部に所属していたので、私にとって卓球の方が身近なものでありました。ところが、たまたま同じクラスの仲の良かった友人のうち3名がその中学校のバドミントン部にすでに所属しており、その者たちに誘われるままにバドミントン部に入っていました。

（正式な入部届けを提出した覚えはないのですが―）

考えてみれば、この時の入部が何十年と経た現在につながってきているのですが、当時としては知るよしもありません。それから今の仕事につくまでは競技者としてはたいした実績もなく趣味として続けていたように思います。ここまでで終わっていれば今の私はもっと違った生活をしていたでしょう。ここからが変化の始まりです。就職してからすぐ教職員連盟に所属し、幾つかの大会に参加するようになってから、少しずつ知らないうちに生活がバドミントンに傾いていったと思います。全国大会も経験させて頂きました。本当に感激しました。またこの頃高体連の常任委員の仕事もお手伝いさせて頂くことになり、さらに傾きました。他の学校の先生と話をし、今までは外から見ていた高体連を内から見ることにより、その苦労や陰の努力、いろいろな考え方や熱意など多くのものに触れることができました。

しかし、私にとって最大の転機は勤務校である大阪学芸高校（旧成器高校）がバドミントン部の強化を決定したことです。完全にバドミントンに傾きました。またそこで、いままで強豪といわれる学校の取り組みがいかにすごいものであり、敬意に値するものであるかがわかりました。強さは各指導者やまわりの者の熱意の賜物であることを痛切に感じました。私もその熱意を他の方々に負けないように持ち続けていたいです。

このようにバドミントンは私に色々な経験をさせてくれました。苦しい時もありますが、楽しい時も多いです。バドミントンに出会えたことを感謝したいと思います。

「高体連と私」

大阪府立長野高校教諭
小　関　嗣　郎

私の教員生活23年間の中で、バドミントンは赴任校が変わっても部顧問として、ずっとかかわりを持ってきたスポーツである。教員としての振り出し当時は、バドミントン競技に対しては羽根つき程度の認識しかない、全くの門外漢であった。しかし最初の赴任校で、顧問をしておられた船原静江先生が、高体連バドミントン部の役員を長年務めてこられた関係で、1977年（昭和52年）にその末席に加えていただいてから、今日まで20年間の長いバドミントン人生が始まった。

当初は、指導理論もわからず、試合会場で試合進行のお手伝いをさせてもらいながら、常任委員の先生方に練習方法を伺い、それを模倣して自分の学校の部員とともに工夫して練習したものである。やはり全国大会をめざす強豪校の選手たちのプレーには目を見張るものがあり、彼らを育ててこられた先生方を尊敬するとともに、選手達のひたむきさと技術、そしてマナーの良さは、おおいに参考になり、我が校の部員たちも彼らと試合できるところまで勝ち進みたいと願い、練習に励んだ。おかげでその中から、近畿大会に出場できる者も出た。

試合会場での進行については、最初まったく要領がわからず、秋岡澄子先生、藤浪輝吉先生、石橋三彦先生のほか、多くの先輩諸先生方のご指導をいただき、徐々に仕事内容を覚えたが、試合日程の長さと、夏の暑さ・冬の寒さには閉口した。さて一日の試合が終了して、帰宅しようとすると、私や委員同期生の山田先生・山野先生らは藤浪・石橋両先生に呼び止められ、深夜にまで及ぶ高体連名物の放課後の「部活動」に勧誘され、おおいに鍛えられたのも懐かしい思い出である。

試合会場となる体育館も時代とともに変遷し、20年前は懐かしい阿倍野の体育館や難波の府立体育館別館（寒暑厳しく、進行しづらいが、選手は間近で観戦できた）をよく使用した。府立体育会館も現在は新装になって、地下体育館である。そして、長年慣れ親しんだ大阪市中央体育館が昨年朝潮橋に移転し、非常に快適な会場となった。今も変わらないのは、東淀川・臨海・千島体育館であるが、最近は千里・守口両体育館も利用することになった。そして、柏原・四條畷学園・薫英各高等学校にも随分お世話になった。

現在の高体連バドミントン部は若い先生方が中心となって、コンピューターを駆使したスマートな組織になっており、私はまた以前のお手伝いに過ぎないが、それでもやはり、多くの選手たちの試合を見せてもらい、委員の先生方と力を合わせて高体連バドミントン部を運営していくことは今も心の支えになっている。今日まで私を育ててくださった諸先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

「スポーツの苦手な私が初めたバドミントン」

大阪府立守口高校教諭
光田尚代

私とバドミントンとの出会いは、今から十一年前、高校三年生の時でした。体育の時間に教えてもらったバドミントン。公園や空き地でしかバドミントンをしたことがなく、室内で羽根を打ったのは、この時が初めてだったと思います。高校時代までは、スポーツが苦手で、体育祭・球技大会があると前日から気持ちが沈んでいました。スポーツをしても楽しいとはとても思えない。何をしても遅く、要領が悪い。特に、行動が遅いことに対してコンプレックスを持っていました。こんな私が、なぜ、スポーツを、特に、バドミントンを始めることになったのか、理由は高校時代にさかのぼります。

高校では、多くのクラスメイトが運動系のクラブに入っていました。私は、その人たちを憧れにも似た想いを持って見ていました。クラブのユニホームを着て放課後活動している姿が、どこかしら誇らしげに、また、とても輝いてみえたのです。

私もやってみたい。けれど、私とあの人たちは違う。やっても、恥をかくだけだ。そんなふうに、うじうじと考えるだけの毎日が過ぎていきました。結局、三年間、学校と家の往復でした。学校生活そのものは、ほかの友人たちと一緒に楽しく過ごせたと思っています。卒業式を迎える日が来るまで、それ程、何も感じていませんでした。その卒業式当日に、後輩に惜しまれながら送り出されている友人たちをみるまでは。あの時感じた、さみしい気持ちは、今でも忘れません。後悔しました。

大学に入った私が一番初めに考えたのは、体育系のクラブに入ることでした。下手でもいい。恥をかいてもいい。勉強以外の何かを大学でつかみたい。その時、高校の授業でやったバドミントンを思い出しました。バドミントンなら出来るかもしれない。そんな甘い気持ちで始めたのです。ところが、今まで運動をしたことがない私が、中学・高校と練習を積んできた人たちと同じようにできるはずがありませんでした。それ以上にクラブというものをまったく知らない私は、挨拶ひとつまともに出来なかったのです。無事に、四年間、曲がりなりにもクラブを続けられたのはクラブの仲間のおかげです。バドミントンの技術面は、下手で自分でも嫌になるくらいですが、バドミントンを通して目に見えない形で得たものは、あまりにも大きいと感じています。

現在、勤務している高校でバドミントン部の顧問をしております。生徒たちにバドミントンを通して多くのことを身につけてほしいと願いつつ、指導にあたっています。そして今、バドミントンが私と生徒との間に橋を作ってくれているような気がしています。バドミントンから広がる人のつながりを大事に、これからも頑張っていければと願っています。

「バドミントンから得たもの」

大阪府立八尾高校教諭
大　住　陽　一

バドミントンは高校時代から始めたので、かれこれもう、二十年以上経過してしまった。年数だけは長いものになるが、プレーヤーとしては全くの三流である。しかし、高校、大学、教員（社会人）として、それぞれの立場でバドミントンに接し、得るものは大きかったように思う。

高校時代、右も左もわからず入部して、最初につれて行かれた試合がなんとインターハイ予選の団体決勝戦だった。大和川高校に接戦の末破れたものの、個人シングルの決勝は本校（高津高校）の先輩どうし。「えらいクラブに入ったもんだ」と思っていた。夏の合宿等でも、錚々たる先輩方に来ていただいたにもかかわらず、さしたる成績も残せず、高校時代は終わってしまった。

大学時代も、プレーヤーとしては四回生の時にレギュラーになっただけであったが、七帝戦で各地へ行ったり、合宿もいろいろなところへ行ってクラブに明け暮れていた。このころから、マネージメントに専念しだしたように覚えている。四回生の時には大阪学生連盟の委員長を務めさせてもらい、大阪協会にも、理事として末席を汚していた。会議で行った、追手門小学校の会議室（？）の重厚なドアが印象に残っている。

教員になって十四年目、高体連のお手伝いをするようになって五年目になるが、結局のところ、印象に残っているのは、負けた試合のことばかりである。（勝ったことがあまりないからかもしれないが）。高校時代で、前述したインターハイ予選の決勝、近畿大会を狙っていたのにあっさり負けた二年の夏、決勝まで行きながら勝てなかった秋の団体（対西野田工業高等学校戦）。大学時代でも、七時間かけて負けた関西リーグの一部との入れ替え戦（対天理大学戦）、あと一勝で初めて賞状がもらえるところで負けた大阪学生選手権（二部だけど）。それぞれの場面で、青春ドラマではないが、汗と涙を流したことをよく覚えている。

もう、満足なプレーもできないので、高校生を優しく指導するかたわら、たまたま高体連で審判部に所属し、樟蔭東高等学校の川上先生のご指導もあって、審判の勉強をしようと思っている。バドミントンには、いろいろなことを教えてもらった。一生の友もできた。それに、あくまでもアマチュアプレーヤーなのだから、引退はないし、しようと思っても高体連に（定年まで）引き留められるだろうから、どうせなら、有意義にバドミントンと関わり合っていきたいと思っている。現在、大阪大学体育会バドミントン部のＯＢ会事務局も引き受けさせていただいている。あと数年で創部五十周年である。大阪協会五十周年を迎え、高体連五十周年を迎え、大阪大学バドミントン部五十周年を迎え、そうやって時を過ごしていくのだろう。

「バドミントンを通して「生きる力」を」

大阪府小学生バドミントン連盟
顧問　大　田　正　義

大阪バドミントン協会の５０周年おめでとうございます。

今年度も６月２８日第４土曜日に吹田市立目俵市民体育館において、第５回親子バドミントン大会を開催いたしました。１１７ペアの参加があり、大会の随所に親子のふれあい、地域の指導者と子どものふれあい、学校の先生と子どものふれあいが見られました。

主催者としては、バドミントンというスポーツを通して健全な児童の育成を目的としていますので、趣旨通りの大会になってきたことをうれしく思います。

１親子でバドミントンができるなんてすばらしい

５年前、理事会での話し合いの中で、大人と子どもが同じルールで同じ広さや高さのコートで競技できる体育館系のスポーツは卓球とバドミントンだけであるので、このメリットを使って大会をしようと盛り上がった覚えがあります。当初２回目までの大会は、親子のみの大会であり、参加人数もあまり多くありませんでした。よって、３回目からの大会に関しては、小学生バドミントンフェスティバルということをメインテーマにし、ジュニアの指導にも非常に貢献された故御前氏のお名前をいただき、チャンピオンシップの部を御前杯とし、レクリエーションの部と種目を分けました。また、地域の指導者なども参加できるように、「大人と子どもの部」も新設いたしました。それからは、現在のように１００ペアを越える参加者のある大会に成長してまいりました。この大会の強い支援者として、大阪府家庭婦人バドミントン連盟のバックアップがあり、大阪バドミントン協会の力を感じる次第であります。

２教育の観点からのバドミントン

これからの教育は、「生きる力」を育むことが大切であり、学校の教育力、家庭の教育力、地域の教育力の連携が重要であるとされています。その意味では、親子バドミントン大会はこれらの三者が一同に会し、バドミントンという共通のスポーツを通して、笑ったり、くやしがったり、「よし来年こそは」という目標になったり、子どもたちの「生きる力」を育む場となっていると思います。今後も他の競技では見られない大会を通して、子どもたちの「自分さがしの旅」を続けてまいりたいと考えております。

「団体戦大会の経緯」

大阪府小学生バドミントン連盟
副理事長　渡　辺　浩　文

学生時代にバドミントンをしていたが、まさか自分が運営側にまわるとはそのころは思いもつかないことだった。そして今は、連盟の会計担当になってしまっている――。

会計担当になって初めて気がついたのがはずかしいのだが、何をするのにもお金がいる。

会議、郵送、慶弔（足らなくなったら、今でも会長等から寄付をしていただいている次第）中でも最大の悩みの種は、大会での赤字である。

私が会計担当になったころは、各地で小学生の大会が行われるようになって数年たち、強いチームと他のチームの差がはっきり分かりはじめたころで、それにつれて大会参加者数も減り気味だった。中でも近畿大会予選会は、団体戦ができるだけの人数を学年別でそろえる必要もあって参加数が極端に少なく、大きな赤字を出していた。会計担当としてはとりあえずこの大会だけでも赤字を減らさなければと考えたのである。

そこで団体戦という名を付けて、近畿大会予選を行う部とそうでない部を同時に行う大会を考えだした。要するに、二部制の導入で参加チーム数を増やそうと思ったのだ。幸いこの提案は理事会で受け入れられ、すぐに実施のはこびとなった。

効果はてきめんであった。それまで赤字で悩んでいた大会だったのが一気に黒字に転換したのだ。

そして思わぬ副産物もあって大会の雰囲気も変わった。それは個人戦では許されないコート近くでの応援ができて、とても楽しそうなのだ。特に団体戦に慣れていない子にとっては、勝敗が決まってから後の試合も同じように応援できるのである。そのため会場内は多く子供たちの声援が飛びかうにぎやかな大会となった。

こうして、金銭面だけでなく大会の雰囲気も良くなった団体戦大会だが、問題点も出はじめている。男子チーム、特に近畿大会予選への出場チームの減少である。もともと男子は少ないながら、小学校チームを中心に人数を集め出場していたが、第二・四土曜休業や指導者の高齢化で徐々に戦力ダウンし、とうとう昨年は近畿大会予選が不成立となってしまった。これでは、大会の意味が本末転倒したことになってしまう。

今後のこの大会のことを考えると、正直のところ、良いことが思いつかない。児童数が減少する中では当然選手数も減るだろう。今まで他の人気競技に入れずバドミントンにまわっていた感のある男子は、まっさきに影響を受け、選手数が一気に減るだろう。男子の団体戦そのものの不成立も、近い将来のことかもしれない。ではどうするのか―。今の私には、お手上げ状態である。

「バドミントンと私」

大阪府小学生バドミントン連盟
常務理事　戎　谷　光　生

大阪バドミントン協会５０周年、おめでとうございます。今年は国体開催年にあたり、多くの関係者の方々の御尽力、御苦労さまです。

バドミントンというスポーツを３０代になってから始めた私の周りに、多くのバドミントンのプレイヤーがいます。わいわい楽しくプレーするお母さん方と必死なお父さん方。張り切っている高校生達と羨ましいようなプレーをする上級者。競技にかける現役のスター選手達。そして可愛い小学生達。この子達に、私が好きになったバドミントンというスポーツの楽しさを知って貰いたくて頑張っておりますが、一番は老若男女が一緒にプレーできる、数少ないスポーツだということです。スポーツを通じて多くの人達とふれあい、色々なことを学び、健やかな心と身体のために、長く続けて欲しいと思っております。そして、その幅広いプレイヤーによって支えられ、目標とされるスタープレイヤーに育って欲しいと期待しております。今私が子供達に求めている思いやりの心をバドミントンを通じて、感じて欲しいと思っております。試合の勝ち負けにしても、勝者があれば敗者があり最後には一人の勝者、大部分は敗者になるわけですが、チームメートや先輩や後輩、そして指導者や家族。多くの人々に支えられた上での、自分自身のベストの試合。練習・競技を通じて色々な経験をして、人間として大きく成長して欲しいと思います。私自身は子供の頃から、このスポーツに興味が有ったのですが、娘が小学生になり、子供会活動の一環として自分も一緒に始めるまで縁がありませんでした。やり始めて益々、このスポーツが好きになりました。バドミントンを通じて多くの多種多様の職業の方とお付き合いさせて頂き、楽しく会話をさせて頂いておりますが、皆さんの共通することは心も体も、お若いということです。病は気からというわけではありませんが、何かに夢中になるということは、ストレスからも解放され、適度の運動量からくる身体の健康、できる限り長く続けて欲しいと思っております。近年色々なスポーツが紹介され、この国体でもデモスポーツとして各種競技に多くの方が参加されるようですが、一人でも多くの方が何らかのスポーツに接することができるように、公共スポーツ施設の益々の充実を願い、一人一人が明るく健康的な生活をおくれる社会を望んでおります。自分自身にとってのバドミントン、それは何かと振り返ってみれば、生活の一部となっている今日この頃。これからも体調を崩さない程度に、ゆっくりと付き合ってゆきたいと思っております。多くの子供達を見守っている、多くの指導者の方々、これからも夢を与え、夢を持ち、夢をかなえてください。

最後に、大阪バドミントン協会の益々の御発展をお祈り申し上げます。

「瓜破西ＳＳＣとともに」

瓜破西ＳＳＣ
クラブ顧問　川　口　博　三

私がバドミントンと出会ったのは、今から二十五年前の昭和四十七年でした。

野球でしか遊んだことのなかった私でしたが当時瓜破北小学校の中西義弘先生（現南小学校校長）につれられて阿倍野体育館でのバドミントン研修会が最初でした。

ラケットを持つのも初めて、ルールもわからず、ただうろうろするだけでした。

それから十二年がたちました。

昭和五十九年に博田宏（元瓜破東小校長）西上正一（現松之宮小）両氏により瓜破西少年スポーツクラブが発足され私も参加することになったのです。

大人と子供たちで協力してラインを引き、ポールを立て、手作りのコートを作ったのがつい最近のように思われます。

それから約５年、昭和六十四年一月六日、第一回東西交流中央大会が京都府長岡京市西山公園体育館で初めて開かれました。

東日本上位四チーム、西日本上位四チームと地元京都の一チームの計、男子九チーム、女子九チームが参加。

試合形式は六年単２、五年単１、六年、五年の複が一つずつの五試合。

瓜破西ＳＳＣの男子チームが優勝、女子は三位の成績でした。

この大会は昭和から平成にかわる節目の日でしたので、たいへん思い出深いです。

早いもので、瓜破西ＳＳＣも今年で十四年目に入りました。

その間、たくさんの子供たちが巣だっていきました。

いろいろな事を子供たちと共に学び、苦しいこと、楽しいこと、いろんな思いでがあります。

これから先、十年、十五年、子供たちとバドミントンを続けていければいいと思います。

「貴重な中学時代の体験」

サントリー㈱バドミントンアドバイザー
金井和恵（大阪市立鶴橋中学校卒）

中学時代のバドミントン、それは私のバドミントン人生の原点です。何も考えず友達に誘われるがままにバドミントン部に入部した私は初めて練習に参加した時からＯＢの方が来ていた事もあって初めからきっちりとラケットの握り方から基本ストロークまで一通り教えてもらうことができました。それからの私は一つ一つできるようになっていく事がうれしくて仕方がなくなり、しだいにバドミントンの魅力に取りつかれていきました。練習は大変厳しいもので日曜日も休日も関係なくほとんど毎日。普段は授業が終わってから、休みの日にはお昼から遅い時には夜八時とか九時位まで練習した事もありました。しかし、試合に勝った時の喜び、負けた時の悔しさを知るにつれて強くなりたいという気持ちを人一倍持つようになった私は、たとえ風邪をひいて熱があった時でも練習は一日も休んだ事がありませんでした。これは今でも私の自慢です。

顧問の渡辺先生には、よく怒られもしましたが色んな所にも連れていってもらいました。筑波大学の合宿に参加した時は宿舎から体育館までの片道７㎞の道のりをランニングで往復したり、延々とフットワークをしたりと当時の私にとってはとてもハードなものでしたが周りの大学生につられて無我夢中にやった事を思い出します。その他色んな高校や企業にも行きました。もちろんサントリーにも行きました。それがきっかけでサントリーに入社することになったのですから。とにかくこれらの事は私にとって貴重な経験になり、今の私の土台を作ったといっても過言ではありません。それに最後には五人になってしまった同学年のチームメイトも私にとって大切な財産になりました。この五人は今ではめったに会う事もなくなりましたが今でも会うと久しぶりに会ったという違和感はなくとても自然な感じです。

私の中学時代は本当にバドミントンを通じて色んな事を学び、沢山の人と出会い、全ての事が大切な思い出になっています。

「池田での小学生シングルス大会」

大阪府小学生バドミントン連盟
常務理事　河　原　　宏

夏のシングルス大会が池田で開かれるようになって、今年で８年目になる。伝統のダブルス大会が、冬場の１２月であるのに対して、シングルス大会は夏。この暑い時期に、しかも大阪では、北の端に近い池田市でどうして開かれるようになったのだろうか。これには、いろいろ理由がある。小学生連盟が出来る当時、その設立に関し、池田からも理事のような人を出すことになったのであろう。池田ジュニアの代表者であり、大阪協会の理事長をされているあの四方光市氏の下、中心になって活動を進めてきた松村一三氏より、ある日、「今度、小学生の指導者の会（このときは、北摂の連盟であったと思う）があるけど、メンバーには、小学校の先生が多いので、代わりに行ってくれないか。」と頼まれ、訳がわからぬまま、あまり気のりもしない状態で、淡路の飲み屋に行った。そこで、私は初めて今の小学生連盟を中心になって引っぱっている人達と出会ったのである。故御前氏とも初めて知り合え、当時、私の勤務校である神田小に、東京から来た井上久美子というバドミントンを頑張ってきた子がいたので、その友達の佐原菜実枝の２人を連れ、豊中シャトラーズの練習会にも勉強しに行った。２人は、やがて北豊島中学校に進み、近藤先生の下．北豊島中の黄金時代を作るのだが、東淀川体育館で行われた第１回のシングルス大会（１９８９年８月）では、十分力を発揮できなかった。その翌年、小学生連盟が設立され、私も力不足ながら、池田からの常務理事となった訳だが、その年の７月に、当時の伊勢田理事長が、第２回シングルス大会の会場がとれず困っておられた所、たまたま池田での開催を思いついて、「一度あたってみます。」と話を出したのが、池田での連続開催の始まりであった。盆明けの時期でもあり、当時は比較的体育館もとりやすかった。やがてシングルス大会は、矢橋理事長、大田理事長、乾現理事長の下、発展をしていったのだが、参加児童の実力差がだんだんと顕著になり、初心者の部を作る声が高くなってきた。半面での試合なのか、ポイントを下げるのか、いろいろと論議され、２年ごしでようやく第５回大会より、その春から始めた者という条件で採用された。それもここ３年は、経験年数にかかわらず、初心者と思われる者が、選手権とは別に、初心者の部に参加できるようになり、バドミントンを始めて間もない子ども達に、「勝つ」という夢と喜びを与えてくれる場となったのである。初心者の部が出来て、大会に参加する児童も増え、今年の第９回大会には、２３９名の参加をみるに至った。伝統のダブルス大会にはも、昨年の第２０回記念大会から、初心者の部が出来た次第である。池田での今年の開催も８面しかない体育館で、規定の時間内で試合を終わらすため、連盟の役員の皆が智恵を出しあって、通し番号制のタイムテーブルを取り入れ、困難を乗りきってきた。

来年、いよいよめでたく第１０回の記念大会に至ろうとしていることは、本当に喜ばしいことである。ただ、残念なことは、池田においても市民のスポーツ振興は益々盛んで、さすがに来年度は、池田での開催が望めないことである。池田で８回にわたるシングルス大会開催の歴史は、協会５０年の一部として、関係の方々、出場した子ども達の胸にこれからもずっと残るであろう。

終わりになったが、８年にわたり、無理をきいていただいた池田市立総合スポーツセンターの市民体育課の皆さんには、心から感謝申し上げて、今回、協会５０周年記念誌の記録としたい。

「ダブルス大会と私」

大阪府小学生バドミントン連盟
常務理事　岡　森　　裕

大阪府小学生バドミントン大会（ダブルス）と出会ったのは、今から１６年前。当時、私は学生で、審判の手伝いでした。将来、教師になることが夢でしたので、試合の１日は、とても私にとって有意義でした。たとえば、子どもへの接し方、審判、線審、体操の仕方など、４年間、ダブルス大会を通して、貴重な経験をしました。

その甲斐あって、現在、小学校に勤務することができました。その後、クラブ顧問としてもバドミントンを教えるようになりました。また、ダブルス大会を運営するに当たって、同じ職場の伊勢田先生（初代大阪府小学生連盟理事長）や森先生にいろいろと教えていただきました。トーナメントの作り方（シード選手の扱い）、タイムテーブルの流し方、プログラムの作成、当日の試合進行の仕方などきめ細く伝授してくれました。その結果、１９９６年２０回大会を行うまでになりました。その大会では、○×クイズ大会や抽選会などを行い、記念大会として盛り上げました。大学の後輩である大西先生にも手伝ってもらい、子どもたちは、大よろこびで１日をすごしました。子どもたちの笑顔こそ、本当に運営をしてよかったなあと思う瞬間でもあります。

今後の課題としては、まだ、いろいろあると思いますが、小学生連盟が結束し、『子どもたちによる子どもたちのためのバドミントン』をめざし、がんばりたいと思います。

「親子大会に参加して」

大阪府小学生バドミントン連盟
理事　生　田　健　一

私たちの連盟には、素晴らしく、珍しい大会があります。
それは『大阪府親子バドミントン大会』です。
子供と組むダブルスの個人戦で、親子の部と大人と子供の部の２種目があります。
今年度で第５回と歴史の浅い大会ですが、回を重ねるたびに参加人数も増えて盛大になってきています。

私自身も参加者のひとりで、今回は５年生の娘と参加し親子の部で優勝する事が出来ました。もちろん参加するのが一番ですが、観戦しても楽しい大会で、特に親子の部の試合を見ていると思わず吹き出してしまう光景が多く見られます。

たとえば、子供のまわりを所狭しと走り回ってシャトルを追いかけているお母さんや、バドミントン経験の無いお父さんが余りにもミスが多いので本気になって恐っている　こちら目下熱心に練習中の子供などなど。そう思えば、さすが親子やねと言いたくなるぐらい息がピッタリと合っていて、お互いに弱点をカバーしながらローテーションをしているペアーもいます。その他にもさまざまな親子ペアーがいますが、ひとつの共通点がある様に思えます。それは試合後の２人の表情で、どのペアーも試合の勝敗はどうであれ、本当に楽しそうな表情をしているのです。

日常生活の中で、親子２人が力合せてなんて少なくなって来た現在、少しおおげさかもしれませんがこの大会は、格好の場ではないでしょうか。

勝てなくてもいい、勝てばもっといいかもしれませんが、親子２人が同じ目標に向って汗を流しているって本当にすばらしいことだと思うのです。

今、数多くの種類のスポーツがありますが、親子２人が力を合せて対戦する事が出来るスポーツって、きっと珍しいでしょう。バドミントン競技ならではかもしれませんね。当連盟の理事として、この大会をより多勢の方々に知っていただき、今まで以上に盛大なそして良き大会になる様、努力したいと思っています。
また、ひとりの参加者としては来年度の第６回大会も娘とペアーを組んで優勝を目指します。小学生の子供さんがいる皆さん、私達といっしょに『大阪府親子バドミントン大会』で、すばらしい思い出を作りましょう。

「ラブオール・プレイ」

大阪府実業団バドミントン連盟
副会長　品　川　則　之

大阪バドミントン協会が創立５０周年を迎えました。傘下の実業団連盟としてもご同慶の至りです。実に１８２５０日の道程に関係者各位の苦労がギッシリと積み重なっているようで、単に日々を連ねたものでないことに改めて敬意を表したいと存じます。

私がバドミントンに魅せられたのは、中学生の頃の恩師に起因します。経済的に豊でなかった時に、練習マッチで勝つと勝利者賞として“ドーナツ”をプレゼントされました。食べ盛りの子に身銭を切って育んで頂いた恩師が大好きでした。ドーナツを独占する快感と敗者にも分ける優越感は忘れません。「負けてたまるか」の精神力と技術？は高校時代も続き、団体出場で香川県善通寺に歩を運び（初めて瀬戸内海を連絡船で渡り感激）ました・

幸いな事に十條製紙伏木工場に入社し、闘将清水監督の下で『全日本実業団選手権大会七連覇』を体験させて頂きました。当時のメンバーは夫々個性があり、それが一つになって勝ち進む強烈なサムライ軍団でした。（練習は熾烈を極め、絶えずチーム内のナンバーワンを競い合い、監督のノックでスマッシュだけを、４時間休みなくやらされた鮮烈な思い出があります）

当時の実業団プレーヤーは、ほとんど現場作業に従事する「部活動」の集大成であったと思います。時は進み、東京オリンピックで花開く女子バレーの大松監督さん辺りから、各種競技スポーツのノンプロ化が整備され、マスコミの後押しも相俟って、用具や施設ならびに近代的トレーニングの研究開発は、目覚ましい勢いで発展してきました。

選手達の待遇も良くなり、羨ましい位の時代の到来です。給料の６ケ月分を費やしたスラゼンジャーのラケットを抱いて寝た頃が無性に懐かしく思います。故郷の高岡を離れ、３４年間も大阪に居たお陰で、日本リーグ、ジャパンオープン、全日本総合選手権、全日本シニア選手権等の大試合を観たり審判をさせて頂く恩恵に浴しました。気力のこもった素晴らしいプレーと潔いマナーを持つ選手への憧憬は、今後も感受したいと思います。

飽食の時代、何でも選択しうる時代、科学的分析を利用出来る時代、そんな世に今だにスポーツは『根性』だと多くの人が云います。ナンセンスとは云えません。そろそろドーナツを提供してくれる真の指導者育成を望みたいところです。選手素材の欠如を嘆く前に魅力ある「第二の大松」さんが出現し、大阪オリンピックで感涙したいと思います。

「バドミントンと私」

三洋電機
月　原　　朗

バドミントンとの関わりは、昭和３１年、兵庫県星陵高校で、友人に誘われてバドミントン部に入部したのが、きっかけです。

高校２年の時に、第１１回国民体育大会が神戸市を中心にして開催された時には、大会役員の線審として参加し、全国のすばらしい選手のプレーに接し感激したものです。

その後、三洋電機に入社し、バドミントン経験者の同僚とバドミントン部を作り、プレーを楽しみながら、初心者の勧誘と指導を重ねながら、何とか試合ができるようになって、昭和４０年には、大東市民大会や大阪府実業団バドミントン連盟に加入し、大会に出場することになりました。

その後、大東市民大会を通じて、知り合った四條畷学園の片岡先生の力添えで、インカレチャンピオンの河村茂美、平久美子、高校選抜優勝者の植田日出子の３名が三洋電機に入社が決定した事がきっかけとなり、１９８０年に女子バドミントン部が三洋電機の強化チームに格上げされました。

１９８２年には、当時全日本総合優勝者の北田スミ子（後に通算Ｖ８達成）、冨田美千代、福田麻寿美の３選手の入社を見て、創部６年目の１９８５年に全日本実業団バドミントン選手権大会の初優勝を果たすことができました。

この初優勝を機に、監督を宇治収氏に引継ぎました。

宇治監督は１９８６年～８９年の４年間の監督期間中、全日本実業団３連覇、日本リーグ初優勝に尽力され、三洋電機の第１期時代を築きあげられました。

そして、１９９０年に現体制のスタートをきり、銭谷欽治監督は、宮崎克巳ヘッドコーチ喜多　努コーチのもと、全日本実業団大会２度、日本リーグ３度の優勝（共に２年連続Ｖ継続中）に尽力をつくすとともに、井田貴子、山田裕美、中山智香子、増茂孝枝、田中美保選手をナショナルメンバーに育てあげ、自らも日本バドミントン協会の強化部員となり、オリンピックをめざし海外で活躍し、三洋電機の第２期時代を築きあげています。

私は監督を退いた後、チームが常日頃お世話になっていた大阪府実業団バドミントン連盟、大阪バドミントン協会の運営のお手伝いをさせていただいています。

バドミントンに関わって今年で４１年になりますが、今年は「なみはや国体」と大阪バドミントン協会５０周年記念の年であり、その事業のお手伝いができることは大変光栄であり、全力投球をし、是非成功させたいと思います。

「バドミントン人生」

サントリーチーム元監督
山　本　次　生

私が大阪に引越してきたのはサントリーチームのスタートを半年後にひかえた１９７５年１０月。青年海外協力職員としてネパールで３年間バドミントンを指導してきたとは言え選手としての実績はなく、バドミントンが好きで新しいことに挑戦することに意欲十分というだけの自分が日本のトップを、そして世界を目指そうとするサントリーの監督になったのは一人の全英チャンピオンとの出会いからに他ならない。ネパールから帰国したばかりの１９７４年1月１５日。大学のバドミントン部の新年会に顔を出すため、ＪＲ藤沢駅で電車を待っていた私のほんの２、３メートル横に立っていらしたのが中山（高木）紀子さん。迷った末、雲の上の存在の彼女に声をおかけした。「私、慶応を出て、ネパールに行っていた山本といいます。」「あぁ、バドミントン界に記事の出ていた人ネ。」それからわずか１０分たらずの会話だったが、その出会いての後、中山さんの推薦（人畜無害という）で、小飼さん（現日バ専務理事）が監督をしていた、女子ナショナルチームのマネージャーとなり、その後、１９７５年６月に監督として選手より一足先にサントリーに入社することになった。１９７０年の協力隊の試験官は村山さん（前日バ専務理事）。人との出会いは不思議なものだと思う。私自身、小学校時代は小児喘息で、３分の１程しか学校に行っていない。その私がスポーツチームの監督を２０数年もすることは夢にも思わなかった。残念ながら今年の６月をもって解散となってしまったが、それを聞いた母は、「あんなに身体の弱かった次生が、２０年間も監督をやれるとは、いろいろな人に助けられて来たんだろうにね。ありがたいこと。ご苦労様。」と言った。まさにその通りで、大阪に来てから、当時サントリーの役員であった岸前会長はもちろん、選手をあずけてくれた片岡先生、練習を助けてくれた近大の和田君や、ＮＴＴ関西の松井君、仕事もさしてできないのに役員として扱ってくださった実連の池田さんや清水さん。何かとアドバイスして下さった青木さん、本当に多くの人の助けをおかりしてここまでやってこれました。幸いチームは、１９７６年６月の全日本実業団大会の初出場、初優勝を皮切りに、数年のスランプはあったにせよ２１年間、実業団チームのトップクラスを走ってきました。これは高校や大学の先生が後押しをしてくれ、有望な選手が入社してくれ、宮崎君や丁さんなど優秀なコーチにも恵まれ本当によい監督生活を送れました。ただ、選手達はサントリーの選手であったこと喜んでくれているだろうか？それが一番の気がかりです。北摂家庭婦人大会を通じ家婦連の方、箕面協会の方とも縁ができました。（家婦連のパワーのすばらしさを実感しています）協会のお手伝いをして一番の思い出は、大阪でのジャパンオープンで石橋前理事長と岡上さんと走りまわったことです。５０周年の記念誌に始まりと終わりを書けてしまう程の歴史の短いチームでしたが、一気に燃えつきたチームであったと思います。今後はどんな恩返しができるのかわかりませんが、地元に根づいた活動ができればと考えています。

「審判員として」

北野公男

バドミントンを始めたきっかけは人それぞれ違うものだが、私はそれまでやっていた柔道が体格的にハンディがあるためと、夏場の柔道着のあの猛烈な汗臭さから避けたかったからでした。

バドミントンを始めた頃は所属したクラブ員が６０名以上も在籍し、常時３０名以上は練習に参加していたと思います。同時に始めた仲間が７人居り、新入部員の私たちは毎回の練習日は新人仲間同士で体育館の外で素振りか、只単に陸上競技のトラックを走るだけでした。おかげで足の遅かった私は長距離が自然と強くなり、社内大会にはバドミントンよりも陸上競技で出場するようになったほどです。素振りとランニングの単純な繰り返し練習に僻々して１年半経ったとき、同時入部の仲間は全てやめてしまっていた。スポーツの継続には環境の影響が大きいと思います。ここまで出来たのも、初めて配属された工場の職場にバドミントンをしている人が居たこと。工場内のスポーツ中でバドミントンがかなり幅を利かせていたこと。そのため職場の人の理解も得やすかったこと。さらに当時工場の総務に現副会長がおられ競技継続にいろいろと配慮していただける環境であったからだと感謝しています。

あれから３０年近く経つけれどバドミントンは奥深く、競技の域に到達できないままに遙か昔に小さなピークが過ぎてしまっている。しかし、未だに時間が許せばプレーはしたいという思いは持ち続けている。

現在はプレーよりも競技運営・審判に携わることが多くなっていますが、いつだったか審判の試験があるということでチームの総監督から勧められ、昔の別館で３級の講習と実技を受けました。その後、競技を知るにはやはり競技規則をもっと知らなければという気になったことと、いろんな選手のプレーを身近に見たい、さらにお世話になっている限りは何らかの形で競技運営の手助けをしたいという想いから上級の２級１級の受験を思い立ったのですが、１級の問題は並みではなかった。苦節３度目にしてやっと合格させていただいたというところでしょうか。だから未だ免許皆伝とは言い難いと思います。大阪協会の役員方々のご配慮で日本協会の審判団の一員として派遣していただきました。また、府外の大会の審判をもさせていただく機会に恵まれましたが、その度に審判技術の低さを痛感しました。

審判で最も印象に残っているのが、アジア大会に派遣していただいたことです。大会期間は大会会場でもまた、宿舎に帰っても審判漬けであったと思います。それまで審判のみならず、競技運営においても知らなかったことが多数みられいい勉強をさせていただいたと思っています。

競技・審判を通じて多くの人と知り合いになれました。反面、家庭内は休日というと外出しているため完全に母子家庭。もう家族皆から見放され居るのが現状ですがよくぞ自由勝手にやらせてくれたなあと思っています。これから先もやり始めたこと可能な限りは続けたいと思っているところです。

今年の国体、２００１年に東アジア大会と大きな大会が目白押し。さらに２００８年の大阪開催に向けてオリンピックの誘致が進められているが、そのころには私のバドミントンはあらゆる面で定年を迎えていることと思う。それまでは可能な限り大阪のバドミントン競技発展のために微力を捧げたい。

「大阪協会設立５０周年に寄せて」

元ＫＤＤバドミントン部
溝　渕　宏　二

大阪バドミントン協会設立５０周年、誠におめでとうございます。

５０年もの永きにわたり、多くの役員の方々が、手弁当で貴重な時間と労力を費やし営々とバドミントンの普及と協会の発展に努めてきた歴史の重みを考えるとき、一時期、協会の仕事に関わった一人として感慨無量のものがあり、心からお祝い申し上げるとともに、その頃の思い出を綴ることとしたい。

顧みれば、私とバドミントンとの出会いは昭和３０年に始まった。この時１９才。高校時代に大阪代表として国体に出場した武村氏が入社したのを機に、社内大会のためにバドミントン部を作ろうと誘われて参加したのがきっかけである。

当初は、屋外にネットを張ってプレーを楽しんでいた。時々、土佐堀のＹＭＣＡ体育館を利用したことで、協会の川口理事長（故人）の指導を受けるようになり、翌３１年に協会に加盟して対外試合に顔を出すようになった。３２年には、協会に勧められて、３月に近畿実業団大会（神戸）、８月には全日本実業団大会（岐阜）に、大阪唯一のチームとして初出場。他府県のチーム層の厚さと実力の差を、いやというほど思い知らされて帰ってきた。この悔しさが、ますますバドミントンにのめり込むことになる。

この頃（３０年代前半）の協会主催の大会（一般の部）は、府民体育祭を中心に、大阪総合選手権、国体予選、五大都市大会予選があった。府民体育祭では、団体戦も行われていたと思うが、個人戦は２部制で、レベルに合わせて参加し易く運営されており、これがバドミントン人口の拡大と普及に大きな役割を果していた。そして、大学や高校で活躍した選手達がトップ集団を形成して技術面をリードし、これを追って事業所チームが選手の拡大と強化育成に頑張っていた。こんな背景の中で、協会加盟団体として実業団を組織しようとの機運が盛り上がり、３３年に大阪府実業団連盟が結成された。

その後、３４年から４７年まで、実連選出の役員として協会に在籍し、全国規模の大会運営や国体及び５大都市大会の監督も経験させて貰った。同時に、実連の運営にも携わっていたが、選手としての魅力を断ち切れず、バドミントンに熱中した時期もあった。

この間、青木氏（現副会長）、宮脇氏（３代理事長）、池田氏（現実連副会長）には、大変お世話になった。また、バドミントンを通じて、協会、各連盟の役員と選手の方々との出会いは多く、懐かしく思い出している。

今、協会は８っつの加盟団体を擁し、当時では考えられないほどの大きな組織と活動実績を持つと聞く。記念すべき５０周年にあたり、より一層の飛躍を期待してやまない。

「バドミントンから考える」

大阪教職員バドミントン連盟
顧問　島　津　八　郎

１９才の後半からラケットを振り初めて、６４才になっても細々とながら、そして、今はラケットを握れることに嬉しさを感じながらコートに出ています。

太子町（大阪府）の立派な体育館で小学生の夏期バドミントン教室の講師をしたり、年に一回の町民スポーツ大会バドミントンの部にでたり、中級の講習会に参加して溌剌とした若い後輩の指導を受けたりしています。

現職の折り、読書感想画コンクール近畿地区表彰式（幼、小、中、高合同）で挨拶する機会があり、こども達の努力を讃え、中央（全国）大会へ送られなかった子に励ましの言葉をしゃべっているうち、いつのまにやら自分のバドミントン競技での経験を話していることになり、場違いのような、こどもや保護者はどう感じただろうと、恥ずかしい思いをしたことがありました。

こどもに話をするとき、授業の際にもバドミントンで得たものを話していたように思います。トップになることなく、三番手、四番手くらいが最高の成績だったプレーヤーだっただけに執着心が大きいのかも知れません。ラケットや羽がなくてもお風呂の中でもバドミントンの練習はできる。と言った時には伝え聞いた保護者が「教えてほしい、狭い風呂場で体操はできない。」と言ってきた。何事にも当てはまることですが、部分、部分を組み立てて一つのものが出来上がるように、手首を鍛えればバドミントンにつながる、目的をもって行動するかどうかが必要なので、漢字や九九の勉強も、それだけを見ていると、つまらない、たいくつな勉強になる木の上に立って見る親といえば少しは楽しいでしょう。というような返事をして納得してもらった。

趣味としてバドミントンが本職の中に滲みこんだようにも思えます。仕事で悩み、コートの中での自分を思い出したり、単純な繰り返しばかりの練習で身体に覚えさせたことがあった、おなじことや、いい結果ばかりを願わずにやろう、と考えなおすことができたのも趣味のお陰かもしれません。そして今は畑仕事に熱中していて、鍬を振って土起こしをしたり、畦を作るとき、疲れたなと思い時計を見ると、ほぼ、４５分から５０分、これはバドミントンのワンゲームに費やす時間であったように思い身体が覚えることの不思議さを改めて感じています。

「大阪バドミントン協会と私」

大阪教職員バドミントン連盟
副会長　奈　良　慶治良

1．大阪協会との出会い

バドミントンを始めたのは、大阪学芸大学（現大阪教育大学）に入った昭和３３年（１９５８年）からである。４０年も前のことである。同期に四條畷学園の片岡輝明氏がいる。上級生には宝来敏夫氏、北野敬四郎氏等がいた。ラケットはフレーム、シャフト、グリップが全て木製で、まだフレームショットがフォルトであった。極度の近眼で、チャンスボールをフレームショットして、よくパートナーの片岡氏をくさらせた。

当時の大阪バドミントン協会の理事長は、大学の先輩の宮脇正晴氏であった。先輩・後輩の関係もあって、よく協会関係の大会や練習会の手伝いをさせられた。そんな中で実業団連盟の池田芳麻氏や高体連の青木昭二氏を知るようになる。これが大阪協会との出会いである。

2．大阪協会理事として

大阪協会の理事会はよく土佐堀の電々会館で開かれた。加盟団体は実業団連盟と高体連、大学連、中体連だけであった。主催・主管の大会は府民大会、五大都市大会予選、国体予選、大阪総合選手権大会といったものである。その他は国体や五大都市大会の練習会や審判の講習会等を行っていた。府民大会や大阪総合選手権大会は大抵、阿倍野体育館でおこなわれた。理事長をはじめ大抵の理事がプレーをしながら大会を運営していくのである。大会のプログラムやジャッジペーパーはガリ版刷りで、理事長の宮脇氏が作っておられた。氏の勤務先である大正東中学校にも夜よくお手伝いに行った。鉄筆とやすりでろう原紙に書き、謄写板で１枚ずつ刷り上げる手作りのものである。

国体や五大都市大会の練習会での手伝いもよくした。国体に教員の部が出来たこともあって、彦根市で開かれた近畿予選にマネージャーとしてついて行ったこともあった。教員の部には佐藤氏、北野氏、宝来氏が出場されて本大会で２位という輝かしい成績をおさめられた。

3．教職員連盟の誕生

昭和３７年（１９６２年）に教職員連盟が誕生した。大学を卒業し教職に就いた年である。乾英三郎氏を会長として、理事長に宝来敏夫氏が就任され、三木昭氏や小生がお手伝いした。第７回の全国教職員連盟の大会を大阪で開催した。

大阪協会の理事長に青木昭二氏が就任され、副理事長には実業団連盟の池田芳麻氏、高体連の藤浪輝吉氏、教職員連盟の宝来敏夫氏の時代が随分長く続く。昭和４９年頃であろうか、三木昭氏の跡を受け持って大阪協会の常務理事となった。競技部長を担当した。昭和４９年～５１年位迄の大阪バドミントン協会主催の全ての大会の記録用紙が今でも小生の手元にある。適当に保管して頂くところがあればお渡ししたいと思っている。

この頃になって国際試合もよく大阪で開催した。アルバムを繰ってみると、昭和４７年（１９７２年）に第１回国際女子バドミントン競技大会（デンマーク対日本）を始め、昭和４８年（１９７３年）には第１回日中バドミントン競技大阪大会、昭和５２年位

（１９７７年）全日本対ヨーロッパ選抜、昭和５４年（１９７９年位）大阪対上海（大阪・上海友好都市提携５周年記念）などがみられる。中でも昭和４８年の中国を迎えた時は、中国との国交が回復しようとした時のことでマスコミの注目もあり、警備の方も大変だった。

4．広報の担当

昭和５２年（１９７７年）宝来敏夫氏が理事長に就任されたので、それまで氏が担当していた大阪協会の『広報』を小生が引き受けることになった。２か月に１回の発行で、森義和氏にバドンを渡すまでの５年間、３０号－６０号ぐらいを編集した。１面２面が挨拶や大きな大会のニュースで３面に協会だより、大阪バドミントン協会史（川口清氏が初期の様子を克明に綴って下さった)、VOICE OF SHUTTLE というコラム欄があり、４面は各連盟の様子を伝えたものだ。しかし、企画して、理事会等で原稿を依頼し、回収、編集、そして発行を一人でするのだから、迅速性に欠き、１０月の国体のニュースが読者のもとへ届くのは１２月や１月になってしまう。

5．日本リーグ開幕

昭和５４年度（１９７９年）より副理事長を引き受けることになった。池田芳麻氏が理事長の５９年度まで６年間務めさせていただいた。昭和５４年は、ちょうど日本リーグが開幕した年で、最終戦と全体の閉会式を東淀川体育館で行った。総合司会を担当することになった。出来るだけ華やかに、明るくせよとの命題を与えられ、これまでと違って選手を前面に出すことを工夫した。以来、第５回大会ぐらいまで、平石克子氏とのコンビで司会をやってきた。

昭和６０年に大阪協会を退くまで２５年間も協会と関わりを持たせていただいたことは、私の人生にとって意義深いものであった。

「バドミントンは人生そのもの」

大阪教職員バドミントン連盟
副理事長　当　山　哲　司（堺市立浜寺南中学校）

バドミントンを始めて、早２５年になります。これまでの人生の半分以上をバドミントンに費やし、毎日のクラブ指導、隔週に一度の練習、隔月の試合出場と妻も半ばあきらめ顔。最近の妻は、子育ての方にも少しはエネルギーをかけてほしいという私への想いから、物心ついた小学校４年生の一人息子にしきりにバドミントンを勧めています。その息子は、小学校４年生から始まる必修クラブの選択の時、「バドミントンは、女子ばっかしやから」という理由で、結局他のクラブへ入部しました。私の住む地域では、まだまだバドミントン＝女子のスポーツという図式が成り立つようです。勤務する中学校でも、毎年男子を募集しているのにも関わらず、男子の入部者は０。しかしながら、教科体育での学習指導要領において、バドミントンは選択種目として授業で取り上げても良いことになっており、勤務する堺市立中学校でも地域住民への学校施設開放事業とあわせて、バドミントンのコートがある体育館が次第に増えています。オリンピックの正式種目にもなったバドミントンが、マイナーからメジャーなスポーツへと歩んでいるのは周知のところですが、競技を楽しむ一人としては、そのことにあまり興味が湧かない反面、指導者としてはメジャーなスポーツにするための努力の必要性を痛感しています。日頃の指導の中でも、プロ野球やＪリーグの有名選手は知っていても、バドミントンのチャンピオンが誰なのか知らなかったり、関心がなかったりする生徒がほとんどで、前述したように未だに女子のスポーツという認識が強く、また、生徒たちの選択肢も、女子ではバスケットボールやバレーボール、テニスといった運動部に人気が集中する傾向がみられ、比較的運動能力の高い生徒が入部することは少ないのが現状です。そういった状況の中で、体育館の施設開放でバドミントンに親しんだ生徒や姉妹揃って入部という生徒がでてきたのは心強く思います。余談ですが、私の勤務する堺市に限らず、大阪府では、子ども減少のため教員の新採用がこの数年で激減し、そのため、クラブ顧問の高齢化が問題になっており、学校の完全週休二日制の実施を前に、学校体育から社会体育への移行の過渡期としての対策について、府の協会レベルでもジュニア層の拡大と育成を協議していただければと願わずにはいられません。さて、バドミントンと私の関わりは、大袈裟にいえば人生そのものといえる程、生活の中に深く根付いていますが、この１０数年―恒例行事として参加している試合に、全日本教職員大会があります。全国津々浦々を旅行し、仲間と汗をかいた後、杯を酌み交わす喜びは、何ともいえません。これまでバドミントンを通して、私自身３回入院、手術する程の怪我をし、大会が行われる夏は、リハビリ中ということが何度かありました。特に３年前の３６才の冬、試合中に左膝の前十字じん帯を断裂する大怪我をして時は、落ち込みましたが、のんびり屋の私にしては、珍しく本気でリハビリをし、翌々年の大会から参加することができました。教職員連盟や協会では、年をとられても増々元気でバドミントンを続けておられる諸先輩方がたくさんおられます。私も同様に、大好きなバドミントンにあと２０数年、一層楽しく関わっていけたら、そして、年をとった時、今はバドミントンを目の敵にする妻といっしょに楽しめたらと、これは秘かに考えている今日この頃です。

「夢の大きな心の豊かな選手を育てたい」

西　上　正　一

バドミントンとの出会いは２１才の時、職場近くの市民レクリエーションセンターでした。私は頸椎神経の関係で左手が少し痺れます。現在はＭＲＩと言う機械があり、その原因が分かりましたが、１５年前は精密検査をしても原因がわからず、左手で軽く運動をしながら経過を見てみる事になりました。バドミントンのラケットが軽くて丁度いいと思い、これがきっかけとなりバドミントンを始めました。最初の３カ月は左手で練習していたのですが、だんだんと本気になっていき、治療のつもりが、とうとうラケットを右手に持ち替え、本格的な練習へと変わっていきました。教職員連盟の方に誘われて練習会に始めて参加したのもその頃です。その当時私は、教職員の人達に交じってゲームに入れるレベルではありませんでした。しかし、強くなりたい一心で、いっしょに打ってもらい、いい人ばかりに囲まれた教職員連盟の練習日がとても楽しみでした。私自身、多くの人達にうまくやる気を引き出してもらい、育てて頂いたことを、今、とても感謝しています。

一つの転機は、私が瓜破西小学校でバドミントンの指導を始めた２３才の頃です。私自身、２３才から２７才の間が一番バドミントンを楽しみ、頑張った時期です。今から思えば、子どもたちもよく頑張っていたと思います。練習のメニューはとても単純ですが、子どもたちの意識の高さと頑張りは、高校生以上だったと思います。私には指導技術などありませんでしたが、トレーニングから全て子どもたちと一緒にやり、一番汗をだし、身体を動かしました。ただその時は自分が強くなりたかっただけでしたが、結局それが、子どもたちとの一体感を作り、良い結果を出すことができたのだと思います。

私は現在、四天王寺高校の生徒にバドミントンを教えています。年齢も３５才になり、少しは指導の知識も増えました。しかし、２７才の私には、生徒に対する愛情、バドミントンへの興味、困難に向かっての挑戦的な気持ちなど、大切な部分で全て劣っています。確かに、指導者として先を読み、多くの準備をすることはとても大切だと思います。しかし、もっと大切なことは、自分がエネルギーを出すこと、そして決してあきらめないことだと思います。

大阪バドミントン協会５０周年を機に、初心に戻り、新鮮な気持ちで指導を考えています。バドミントンを通してたくさんの人に出会い、学んだことが、一番の財産であり、夢の大きな心の豊かな選手を育てていくことが、私の目標です。そして、その子どもたちが巣立っていき、２１世紀のバドミントン界を担ってくれると信じています。

「バドミントンの話題に時間を忘れる」

大阪教職員バドミントン連盟
藤田　泉

大阪バドミントン協会５０周年おめでとうございます。

今思い返せばバドミントンとは常に２人３脚でした。何も分からず、ラケットを振り回していた時からもう２０年も経ちました。地域のスポーツ団体に加入したのがきっかけで最初はお遊び程度でしたが偶然にも同級生が数人いたので、週末は遊びに行くよりもラケットを振っていた方が楽しかったように思います。

白いシャトルに魅せられ、中学、高校、大学と大会に向けて、時には汗をかき、時には涙を流し一生懸命でした。良き級友に恵まれ肩をたたきながら励まし合った中学時代、いつかはインターハイと目標は高くライバルに追いつけ追い越せだった高校時代、クラブ運営に苦労した大学時代。勉学などそっちのけで、朝から夜遅くまで練習に明け暮れていました。学校へ通うのに、片道２時間はかかりました。少しでも早く帰るのに立って寝ることを覚えました。いつも、出入り口に立ち、ゴツンと頭をぶつけはその痛さに目を醒ましたことを覚えています。クラブ活動が終わると、いけないとは知りつつもおいしそうな匂いに誘われ友人とお店に立ち寄っていたので、そのころのおこずかいはほとんど右から左でした。話題は、学校のこと、主にクラブのことばかりでした。

当然そんな日々の繰り返しだったのでバドミントンを続けていくものだと思っていましたが、落ち込んで出口が見えず、やけになって二度とラケットは握るまいと固く決心した時期もありました。ですからバドミントンに一切かかわらないようにしていました。しかし、張り合いのない毎日でこのままでいいのだろうか、そう思っている頃にタイミング良く先輩からの「チームに入らないか」という誘いで、もう一度シャトルを追いかけてみよう、初心に返って一からやり直そうと思うようになりました。このなにげない一言が現在の私を支えています。

社会人になってからはパートナーにも恵まれ、戦績を残すようになり、おかげで週末のほとんどは練習やオープン戦のためにデートもままならない始末です。

不思議なもので負けてもともとと思いながら出場していると、また試合に出たいなぁという気持ちがふつふつと湧いてくるようになりました。目標を突破すると学生時代を思い出して喜んでいます。

現在は、体育教員として高校に勤めています。学校にはクラブ活動としてバドミントン部がありません。なかなか力が発揮できず少し寂しい気もしますが・・・。

なにげないきっかけで始めたバドミントン。仲間が集まれば自然にバドミントンの話題で時間を忘れるぐらいです。本当に話が尽きません。長年の疲れが脚にきて、ちょっと休憩中ではありますが、片時もバドミントンのことは忘れたことがありません。幾つになっても白いシャトルを追いかけていたいと思っています。

「バドミントンと私」

近畿大学バドミントン部
大　橋　純　一

私はバドミントンというスポーツを大学１年生現在で１０年間続けてきました。最初は小学３年生のとき、太りすぎが原因でダイエットの為にスポーツをしなければならない、そういうことで市のバドミントンクラブに入ったのがこのスポーツを始めたきっかけです。おかげさまで、中学にあがるころには身長ものび、スマートになることができました。小、中、高とバドミントンを続け、現在、大学でもプレーを続けていますが、このバドミントンというスポーツは、実に地味で目立たないしそのくせすごく、練習がきついのです。

私は、男ですから、少しは女の子にもてたいという気持ちがあります。サッカーや野球、バスケットは、みてもかっこいいし、服装もかっこいいです。けれどもバドミントンは白の上下に短パン半そで、すごくダサイです。それに、よく人に、「スポーツは何をやっているの？」と聞かれて「バドミントン」と答えるのはちょっとはずかしい気がします。なぜなら、バドミントンは男より女のスポーツが主という感じがするからです。

この文では今までバドミントンというスポーツを批判していますが、僕がバドミントンが嫌いというわけではありません。でなければ１０年間も続けるわけがないからです。スポーツには、いくらダサイスポーツでもそのスポーツなりによさがあると思うのです。どんなスポーツをやっている人でもプライドをもってやればすばらしいものになると思います。前の文でのべましたがバドミントンは女の子のイメージがありますが、男のバドミントンというのもすてたもんではありません。ぜひ一度見に会場へ足を運んでみて下さい。

「淀川の流れ」

岸　　久雄

私とバドミントンとの係りは二十有余年になる。大阪協会との縁を述べる前に先ず出会いから顧みる。内容は決して自画自賛では無く、知られざる歴史の一端を書く積りで筆を起す。孟子に在る『人、性は猶お湍水の如きなり』と解して頂き度い。

勤めていた会社サントリーの企業スポーツチームとして男子バレーボールが創部されたのが昭和四十九年（一九七四）三月で私が担当となり、翌年には女子の企業チームを選定するように指示を受けていた。

或る日のこと、大阪市の御堂筋では当時は歩行者天国を実施しており、折から昼休み中で多くの人達が一斉に球技を楽しみラケットを振り廻してバドミントンに興じる男女の姿を見受け注視したのが起因であり、当時では日本代表女子チームはユーバ杯大会に優勝を続けていることが分かり、また結果は十年間の年月を要したのだが将来はオリンピックの種目に追加されるとの期待を漏聞したので会社に上申を決意したのが始りである。実は、バレーボールに引続いての仕掛人が影に居ったのも事実で、その人が全日本ダブルスチャンピオンの宮永武司君を紹介してくれた。

この年、昭和五十年（一九七五）に当時の斉藤良美厚生課長と降雨の中を急遽日帰りで高岡市を訪れ、秘に第二十五回全日本実業団選手権大会を観戦したのである。

羽根突きの印象しかなかった私はそのプレーの激しさとスピードに一驚し、一方で当時のバレーボールの人氣とは裏腹に応援旗も垂れ幕も無く、応援団も勿論居ない。唯、選手達がプレーに打込んでいるに過ぎない。観客席には少数の人を除いて出場選手達が屯している静粛な体育館の雰囲氣には二驚するのと同時に『これが全国の企業チームが競う大会なのか』と信じ難い実感であった。また心に『よし、企業チームとはどう在るべきか、更に企業を代表する選手達の氣持が意識からも引き締る試合をしてくれるように改めて表示してみよう』と将に知らぬが佛で強いの諺通り痴がましくも秘に期したのを思い出す。

当時の東京ガス社長で日本協会の本田弘敏会長に面談し会社の意向を申し上げ、続いて後日に佐治敬三現サントリー会長と会見して頂いたのである。この頃から、大阪協会との接觸が生じることになる。現青木昭二副会長（当時理事長）には大変なご厚誼を得た。亦多くの日本代表を育てられた片岡輝明先生には一方ならぬご好情とご協力を頂いた。翌年五十一年五月に、慶應大時代のキャプテンの経験を生かして青年海外協力隊の隊員としてネパール国のバドミントン指導者となって三年間の派遣から帰国したばかりの山本次生君を監督に迎えてチームを創設し、同年六月に神奈川縣藤沢市在秩父宮記念体育館でのこの年の全日本実業団選手権大会で史上に残る創部、初出場、初優勝を果たした。大会中では急ぎ大応援団を編成して、体育館内で太鼓を叩き喚声を挙げての応援に当日の大会運営の役員委員の方達は予想もしなかった状況に狼狽され、何度も場内アナウンスで『静かにして下さい』と繰返し注意されたが『社員が自分の会社の選手を応援することが何故駄目か。応援に自然に声が出るのは当然であろう。太鼓は止めて声援はかまわない続けよ』と、騎虎の勢で通してしまう指示をしたのを覚えている。現在の日本リーグの応援風景の始りである。後で知ったが、インドネシア等の外国では観客が声援を送るのは普通の状況で、

イギリスや欧州諸国ではテニスと同様に拍手に依るナイスプレーの賞賛に近い応援のみと聞いた。また、体育館内の応援旗、垂れ幕も同様で今は広告看板が当り前になっている。

更には館内の複数のコートで同時に白一色のユニフォームで試合中の選手達の中から、自社選手が何処でプレーしているのか優勝戦にでもなれば別として一、二回戦では明確に判別出来ないのは理解し難い。せめて背中に企業名と背番号を入れてプログラムに依って分かる方法が必要であろうと具申したのも現状のユニフォームの最初の変遷である。日本協会の規則では『原則として白一色とする』であった。然も白以外の色は襟廻り三種以内と日本協会からの申し渡しであった。更に進んで現在のカラフルなユニフォームとなる。

反撥もあったが女子はワンピース着用にしようとの主張も合せて提案した。これ等については当時の森友徳兵衛日本協会副会長と論争に及んだこともあった。

また、全日本或は全国対象の大会も関東地区の開催が多く交通費も片寄り、例えば毎年の実業団大会にしても団体戦に引続いて個人戦を数日に亙って実施するのは団体戦の一回戦で敗退した選手が個人戦の出場迄開催地に滞在することになり、社業を離れ、且つ経費支出をすることは企業の立場からも疑問もあり、全日本総合、全日本社会人大会に個人戦は譲り実業団大会は団体戦のみにすることを連盟の並木萬次郎氏に意見具申した。以降は廃止となり、また出来る限り多くの人に、特に年少者も含めて観戦して頂きバドミントンを知ってもらい興味を持ってラケットを手にして振る愛好者増を計るためにも全国を巡廻して開催する日本リーグの新設を主張し、京都の野村嘉明氏等のご協力を得て実現されたのである。全国規模の大会であり、然もチーム数に応じた大会開催数に依り日本代表選手の選考にも色々な角度から綜合判断が可能であり、選手達にとっても選ばれるチャンスの幅が広くなり意欲を高めることになるであろうと慮ったのが遠因でもある。これ等は前記斉藤良美君の努力に依ること多大であった。第一回日本リーグ戦はチーム数が揃わず女子は関根義雄先生のご高配もあり日体大の混成チームの参加によってやっと開幕が出来たのである。

日本のスポーツ界は学校から企業に受け継がれて、そのバックアップが有って保持されていることはバドミントンも言を持たない。この範疇から言って日本協会は企業の思想を更に理解してほしいと思う。小飼栄一現日本協会専務理事とは札幌まで訪ねて行って論争したのも懐しい。

今、ふと頭に甦る印象の光景は大阪総合選手権大会が阿倍野の昔の市バス車庫跡の市立体育館（現在は休館）で行なわれ、シングルスで東海林綾子選手が優勝した時に私は当日バレーボールの試合と重複していて掛け持ちで確か橿原市から応援に駆けつけ辛うじて間に合ったのだが、その時余りにも体育館の差が大きいので大阪協会に助力が出来ればと思い画いたことが浮ぶ。

サントリーがチームを創設した頃から大阪協会の方々とは次第に深い広い接点が生れて来た。同時に日本協会、実業団、社会人の両連盟をはじめ学校関係の前記関根義雄先生、遠井稔男先生、工藤勇参先生など多数の全国に跨る指導者の方々と交流が強まり広まって行き深い交情を伴ったお付き合いとなった。今にして思えばバドミントンについては完全な無知であった者が大先輩達と親交を深めると共に誠に禮を失した言動が多かったと反省をせざるを得ない。闘雀、人を恐れずの最たるものであったと思う。

大阪に複数の強力チームの誕生が望ましいとの考えに答えて頂いたのが、片岡輝明先生

のご尽力もあって現在の三洋電機女子チームの創部である。お蔭で日本リーグの大阪開催は一回が決ったと言えることになった。

お母さん達が汗を流してプレーする姿を見ればお子さん達もラケットを手にしてくれるだろうとの予想を夢に今年で十八回になる北攝レディス・オープン（旧称家庭婦人親善）大会を箕面市協会の企画で開催の運びとなったのも愛好プレーヤーの底辺拡大の狙いであった。楽しく、苦しい日頃の練習の成果を競う一日が待ち遠しいと思われる日であってほしい。三洋電機にお願いをして河内地区大会を開設して頂くことを秘に考えていたが遂に未達に終ってしまった。

また同時に、報道マスコミの運動部担当記者の諸兄とも親交を深めて行った。バドミントンに好意を持って頂いた記者達と言えば当時は東京の読売新聞の小林範夫氏、共同通信の武市行男氏であり、大阪ではサンケイ新聞り結城肇氏、読売の巽淳一氏、更に近畿放送の乾一氏であり、毎日新聞の現運動部長玉置通夫氏、ＮＨＫの松浦徹氏へと続いて行く。

これ等の人達との交流は、企業内ではバドミントン部が厚生活動として単に楽しむための集りの様相を呈しており、学生時代に鍛えられたという人達がプレーを続けているだけに止るべきではなく、新聞紙上のスポーツ欄に活字となりブラウン管に放映されるなどのマスコミ界の支援助力を得てこそ日本国内のスポーツ界のマイナーからの脱皮を計る施策と考えたのである。

昭和六十年（一九八五）に二代目の瑠東治会長、青木昭二副会長から協会運営に協力を要請され、野村明雄氏と共に副会長にとのお勧めを得て、十有余年の剣道しか知らない。バドミントンのプレーヤーの体験のない私が始めて大阪協会の中に七年間に亙る入魂をすることになる。

『吾が浩然の氣を養う』という心積りで就任させて頂いた。

瑠東会長からは無事無難の運営は安易ではあるが前向きな創造性がなければ改善はなく協会の発展に繋らないと申し渡された。然しこれも人材と資金がなければ出来ないと思うと併言されたのである。今に思うに瑠東氏は意欲充分、積極的な思考の持主であった。

間もなく会長は病床につかれてしまう。兵庫医大附属病院の白亜の建物を度々見舞いに訪れ、兼ねてその都度協会運営の報告と諸事項の決裁を仰いだ。意見具申に対して古武士の風格で『如何にも』が口癖であったことが懐しい。もっとご一緒に運営をやらせて頂きたかった。瑠東氏の思わぬ逝去によって会長職に任命されて、これを受けることになる。

瑠東会長に言われた最初の任務は現状分析を始めることであった。先ず第一に協会規約である。規約委員会の編成から始り度々会議を持って改正に努めた。細則まで進める積りであったが道は半にして止ってしまった。いまだ現状に則して改訂すべき事項が多々あるように思える。

次に第二は協会会員の増大にも有効と信じ、また近畿地区のバドミントン愛好者の人達にＴＶではなくて直々に日本は勿論のこと、世界のトッププレーヤーの試合を観て欲しいと考えて大阪でのヨネックス、ジャパンオープンの開催をお願いし、全日本総合選手権、日本リーグ大阪大会の開催が実現した。石橋三彦理事長達のご努力ご苦労に助けられた所が大きい。感謝に絶えない。

第三には、日本代表選手を大阪から輩出するためには国際他流試合を実施して選手達が世界のレベルを知り、自らの実力を悟りその認識から更に奮起してくれるチャンスを与え

ることを考慮し、大阪での国際試合は昭和四十七年（一九七二）のデンマーク、翌年には日中親善と続き、五年後の昭和五十二年（一九七七）欧州選手団を迎えての交流会が開催された以降は実施されておらず、大阪市と姉妹都市である上海市のチームとの交流を企画し、私と昵懇になっていた現在上海市体育運動委員会総会主任（日本では会長）の金永昌先生が当時は上海市羽毛球協会主席（バドミントン協会会長）であったので訪中した時に提案したところ賛同を得て始り、相互各年の訪問に依る競技会は度を重ねて既に十一回に及んでいる。世界のトップクラスの中国のレベルを解読し、その練習方法等を学び意識を高めて心技体の充実を計るための開設であった。これは大阪のためと言うより秘に日本を考えての潜在思考が決断させたと言える。逆に言えば大阪から日本代表を出すことになると信じた。私も金先生に懇請されて一度だけ現在ＮＴＴ関西で活躍している岸田明宏君や水井泰子君等が参加した少年チームとともに上海に遠征したのは記憶に鮮明に残る。上海市奥林匹克（オリンピック）飯店には今も大阪協会のバナーが展示されている筈である。大阪からの遠征の際に大阪市から補助金の受給承認を得ることが出来たのも高井眞行大阪市教育委員会スポーツ課長（現大阪市オリンピック招致推進部長）のご高配に依る有難い支援があった。経費の上からこの交流は止めた方が良いとの意見もある様にも聞いているが、賛助会員のご好情による寄金はこのためのものでもある。有難いことだ。

上海チームと言えばサントリーが第一回目の訪上海の時に現在大阪在住で日本の青少年の指導に努力してくれている胡山喬君とか陳綺君が上海チームに居たのも不思議な縁のようだ。

国際交流と言えば、国際人でもある嶋久雄会長が統卆されて、充実した運営をしておられる大阪家庭婦人連盟が実践されているのは誠にご同慶である。更なる充実を望む。

第四は、年少からの基礎体力の強化とテクニックの育成には毎年一回の大阪小学生大会の開催のみではなく『小学生連盟』の新設が必要と判断して実現の運びとなった。これには永年教育関係に携わって来られ、大阪教職員連盟の会長でもある宝来敏夫協会副会長、島津八郎先生のご尽力が大きい。切に隆盛をお祈りする。これに依って協会傘下の連盟は七つから八つになった。他の都道府縣とも肩を並べることになる。

第五は、会員の増大に繋がるプレーヤーの拡大促進の一助として、夫婦、親子、兄妹等のペアーによるソフトバドミントンの大会を府下都市協会の援助を得て、予戦から始めて大阪府大会に集結するような新しい企画により各連盟の会員増に、更には協会会員の増大にも波及するとの判断の基に実施を考えたが遂に立案も出来ずのまま放置してしまった。会員増強策は各連盟に委任したままで協会としての動きが乏しいのは申し訳ないと言訳しか出来ないが、しかし何か新しい発想の創造がなければと思う。

次に、これ等の諸事を実行するためには当然協会の資力財政が伴う。副会長に就任した時には協会の資金残高は僅かに十数万円に過ぎなかった。然も増収源はこれと言った方策はない。これでは何も出来ないと思った。当時から今も協会の収入源は会員各位の支出というより、各連盟の援助に依る収集になっている。原則としては疑問に思える方式のように思う。全国でも特異な形態であろう。

協会会員による諸活動の進展、国際交流の充実、日本代表選手育成に至るまでの広範囲に亙る業務に理解を得て援助をして頂ける企業並に個人にお願いする賛助会員制度を制定した。この制定には野村明雄副会長のお知恵とご尽力に依るところが多大であった。大阪

体育協会の副会長を兼務するようになった私はこの輪を広げる考えを持ちながら大体協を辞任と共にこれも思うのみに止ってしまい、将に七年蜚ばず、又鳴かずであった。

協会執行部の役員の方々は自らがバドミントン愛好者であるばかりではなく、ご自分の本業本職を持ちながら協会や連盟の任を担当遂行して頂いている。誠意と奉仕の精神を基にした積極性と責任感に加えてご家族の協力ご助援の大きい犠牲の上に協会が成り立っていることは今更言うまでもない。企業経営が人、物、金が基本である如く、協会の運営は人材、組織、資力とを基礎にして可能であると信じる。

次に私事に亙る私の体験を申し上げ、会員の皆様の健康留意の参考に供したい。

平成四年（一九九二）に私は四十有五年の会社勤務を致仕し、氣持の一端で永年の社務遂行の達成感にほっとしていた。その氣の緩みは無意識であった。忙しき時に病なし百病は氣から起ると言われている名言の通りに、平成三年秋頃から家庭にも敢て告げるまでもないと考えて過していたが毎日の食後に少し胃の重さを感じて、消化薬の世話になることが多くなった。過去十年人間ドックでは異状がなかったので安心していたが、翌年六月に初期胃癌と胆石の手術で入院。六十日に及ぶ病室で熟考したのは、既に退院前に発生していた自立神経性膀胱排尿機能障害症と言う長い病名の手術後遺症で宿泊を伴う旅が不自由どころか殆んど不可能に近い状態であると氣付くと同時に競技大会の各地会場歴訪は無理になることであった。氣持が動いても体状が最早伴わないようになっていた。結論として大体協と協会の自分の責務を全う出来ないと自覚した。また、年が寄れば愚に返るものと言われていることも慮り、会長職を三洋電機の三宅祐司氏に引き受けて頂くよう懇請切望してご承諾を得たのである。内心、申し訳なく慙愧の境であった。人は常に目標を定めて日々を新に過し、心に張りを持っていることが肝要である。何事をするにも健勝が第一と判ずる。会員の皆様の健やかな日々を祈願する次第である。

今でも毎日の新聞のスポーツ欄ではバドミントンの片仮名の文字を探し試合結果を読んでいる。このところの国際試合の記事は小さく、優勝の二字は無い。過去の栄光はどうしたのであろうか。日本協会ではどう対処する予定なのであろうかと淋しい思いがする。バドミントンは日本では現状のマイナーで良いのだ、娯楽の域で良いのだとの意向もあるかも知れないが私は勝負の世界では負け犬の甘さは持つべきではないと思う。

先日送附して下さった『協会広報第一二一号』を読ませて頂いた。三宅会長の示された平成九年度協会基本方針には私がお願いした諸事項が推進対象として列挙されているのを見て心より喜びを感じると共に尚一層の充実を願望して止まない。三宅会長を中心にして執行部の皆様が益々責務の遂行には責任を持って努力され、傘下の各連盟の躍進展開と共に夫々個々の会員の活躍充実を生み、協会が益々隆盛して行くことを影ながら願う。

また、大阪開催の今年の『なみはや国体』では三年振りに天皇、皇后両杯の揃い踏みを是非達成してほしい。引いては二〇〇八年の可能性の有る大阪オリンピックに向けて怠りない体制を整備してほしいと思う。

蛇足ながら、広報記事の中で大阪学生連盟の選手権大会の試案としてブロック分割で、リーグ戦方式の団体戦を考案とあったが積りに止まらず必ず遂行すると言う。失敗を恐れない積極性と創造性を持って実践してほしいと思う。やって見て良し、時に改むに憚ること勿かれである。点滴石を穿つ。しかし点滴が無ければその力は空なりと言える。

思えば、穴端に腰を掛ける年令になっている。『書は言を尽さず、言は意を尽さず』と

謂う。『時異れば、事異なり』とも言われて来た。然し大阪の淀川の流水は変ること無くまた止ること無く尽きない。大阪協会も同様にバドミントンが在る限り続く。次の五十年に向って更に躍動してほしいと思う。

我田引水の愚言を提する拙文を止めて筆を置く。(平成九年九月)

「思い出　エピソードなど」

茨木高校卒業生
本　間　和　美（旧姓太子和美）



大阪バドミントン協会設立50周年、おねでとうございます。

私のバドミントンとの出会いは半世紀前に遡ります。当時私は茨木高校併設中学３年生でした。校庭で、大阪協会の方からバドミントンが紹介され、“羽根つき”程度の軽い気持ちで、部創設と同時に入部した。

先ず、ルールを憶えることから始まりました。練習の前には、その都度、体育館の床にチョークでコートのラインを描きましたラインの幅はどうしていたのでしょうか？今は思い出せません。学制改革による男女共学指向直後でしたが、高谷芳明部長のユニークな指導のお陰で、男女部員が実に和気藹々と練習に励みむことができました。当時のラケットは重い　木製、ガットは鯨腸が使用されていました。バドミントン用具を扱っているスポーツ店が近くになく、その調達には、大阪市北区空心町（現東天満）のスポーツ店まで足を運びました。時々、土佐堀のＹＭＣＡに出向き、技術指導を受けたりしました。

昭和24年、第４回東京国体のとき、バドミントンがエキシビジョン種目となり、大阪代表として、茨木高校（当時三島野高校と称した）から４名（男子２名、女子２名）が参加しました。宿泊場所は、田園調布駅に程近い、閑静な高級住宅地にあるお寺（付添先生のお知り合い）の本堂でした。まだ食料事情が良くないときで、お米を持参しなければなりませんでした。会場への途中、都電に乗ったとき、高谷芳明さんと渡部浩さんの大阪弁の会話が車中の人達の注目の的となり、同行していた梁瀬（旧姓衣笠）度子さんと私は大変恥ずかしかったことなど、懐かしく思い出します。

翌25年の愛知国体では、正式種目になり、私は団体戦の中のシングルスに出場しました。対戦相手は東北（秋田か青森？）の色白の美人で、私はストレートで負けましたが、試合後その人からとても美味しいリンゴを頂き、嬉しかった思い出もあります。その頃は、東日本勢の技術力は抜群でした。

翌年私はバドミントン部を退部しましたが、その後、大阪バドミントン協会は頓に隆盛を極められ、数多くの世界的選手を輩出されましたこと、大変喜ばしく存じております。今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



（筆者右端）

「追想」

北　野　敬四郎

大阪バドミントン協会創立５０周年おめでとうございます。

私は大学１年の時（昭和３０年）からバドミントンを始め、今年で４２年になります。長いようで短い気もします。バドミントンを始めた動機は、高校時代にハンドボール（当時は１１人制）をしていたので大学では違ったスポーツをやりたいなあと思い、バドミントン部に入部しました。経験者が少ないので初心者でも何とかなるのではと、甘い考えで入部した。しかし、大学では経験者はいなかったが、他の大学では経験者が多く、私の予想とは大違いでした。

入部当時、部員は少なく、春のリーグ戦から出場しました。ルールを何とか覚えた程度だったので連戦連敗。１回生の１年間は、公式戦１勝もできませんでした。２回生の春のリーグ戦での公式戦初の１勝をあげることができたのが思い出の初勝利です。今から振り返ってみると１年間１勝もできなかったことは、却ってプラスになったように思います。その後、バドミントンは私の生活の一部になってしまいました。

大学卒業後もバドミントンを続ける契機となったのは大学を卒業した年（昭和３４年）現天皇陛下と美智子妃殿下のご成婚記念として、国民体育大会（東京）に「教員男子の部」が新設され、佐藤茂雄先生、宝来敏夫先生と共に出場し、準優勝したことです。その後も、大世古先生、片岡輝明先生、杉田忠邦先生、伊勢田善昭先生等のよき仲間に恵まれ、連続１０回出場できたのも思い出の１つです。その他、社会人大会、実業団大会、五都市大会、教職員大会等も楽しい体験として心に残っています。その間、多くの人との出会いや素晴らしい経験を通して、私の人生を豊かにしてくれたバドミントンを今まで続けてこられたのは、大阪協会はじめ、各協会・連盟の方々のご尽力のお陰だと感謝しています。

今年の３月末で定年退職しましたが人生８０年の時代であり、「人生に定年なし」とも言われています。これからもバドミントンを続け、何才までプレーできるか楽しみにしています。たかがバドミントン、されどバドミントンという心境です。

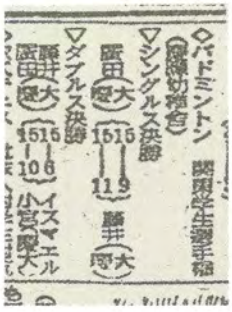
最後に、大阪協会はじめ、各協会・連盟のますますのご発展をお祈りいたします。

［第５章］

新聞の切り抜き集

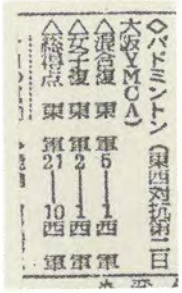
資料提供　朝日新聞社

関東学生選手権
昭和17年(1942). 3. 28

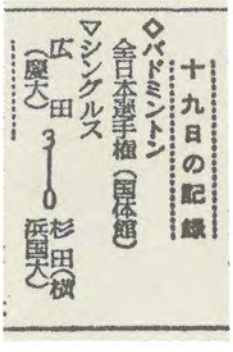

◇バドミントン　関東学生選手権
（慶應幼稚舎）
▽シングルス決勝
○田（慶大）15—15 15—11 9藤井（慶大）
▽ダブルス決勝
藤井（慶大）○田（慶大）15—15 15—10 6イスマエル 小宮（慶大）

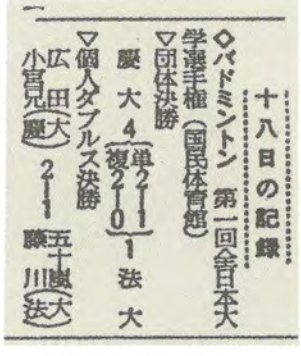
第1回東西対抗
昭和25年(1950). 1. 22
1. 23


二十一日の記録
◇バドミントン　第一回東西対抗
（第一日（大阪YM、朝日新聞後援）
△男子単　東 7—4 西
△女子単　東 2—2 西


◇バドミントン（東西対抗第一日）
大阪YMCA
△混合複　東軍 5—1 西軍
△女子複　東軍 2—1 西軍
△総得点　東軍 21—10 西軍

第1回全日本大学選手権
昭和26年(1951). 12. 19
12. 20

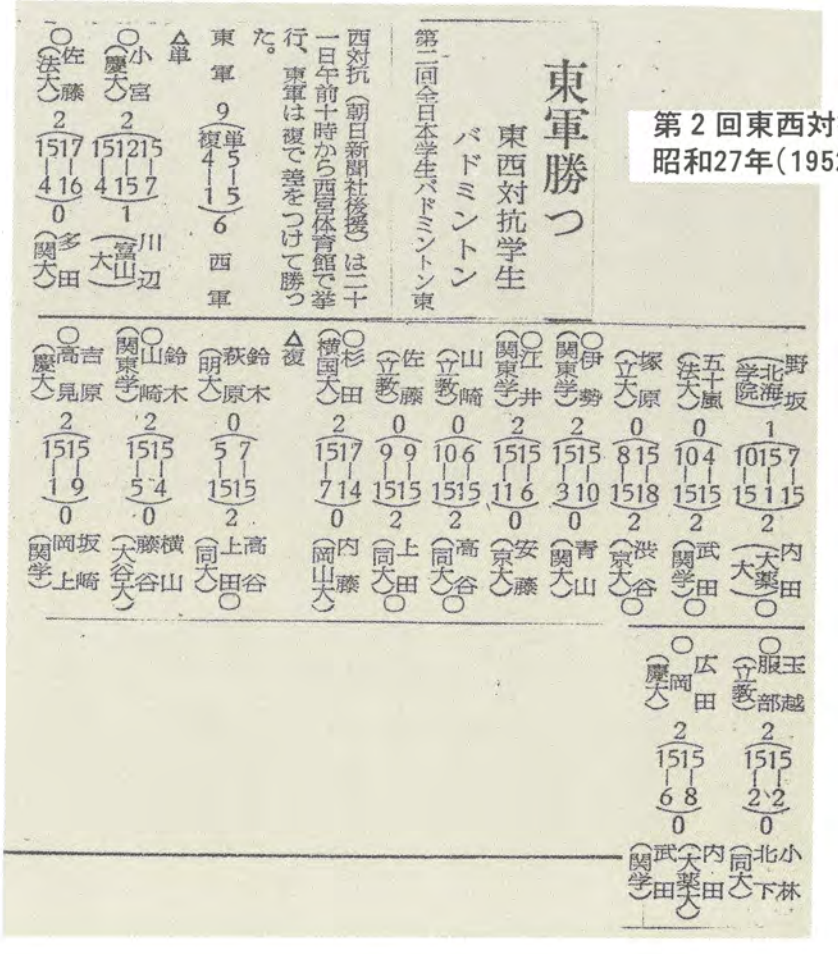

十九日の記録
◇バドミントン
全日本選手権（国体館）
▽シングルス
広田（慶大）3—0 杉田（横浜国大）


十八日の記録
◇バドミントン　第一回全日本大学選手権（国民体育館）
▽団体決勝
慶大 4（単2—1 複2—0）1 法大
▽個人ダブルス決勝
広田（慶大）小宮（慶大）2—1 五十嵐（法大）藤川（法大）

第1回全日本実業団選手権
昭和27年(1952). 2. 18


◆バドミントン第一回全日本実業団選手権最終日（17日・国民体育館）男子決勝十条製紙伏木工場（富山）3—1トヨタ自動車（愛知）
▽女子決勝トヨタ自動車（愛知）3—0ニュー京都（京都）

第2回東西対抗
昭和27年(1952). 11. 22


東軍勝つ
東西対抗学生バドミントン
第二回全日本学生バドミントン東西対抗（朝日新聞社後援）は二十一日午前十時から西宮体育館で挙行、東軍は復で差をつけて勝った。

東軍 9（単5—5 複4—1）6 西軍

△単
○佐藤（法大）2 15 17—4 16 0多田（関大）
○小宮（慶大）2 15 12 15—4 15 1川辺 富山（大）
○伊勢（関東学）2 15 15—3 10 0青山（関大）
○塚原（立大）0 8 15—15 18 2渋谷（京大）○
五十嵐（法大）0 10 4—15 15 2武田（関学）○
野坂（北海学院）1 10 15 7—15 15 2内田（大薬大）○

△復
○杉田（横国大）2 15 17—7 14 0内藤（岡山大）
鈴木 萩原（明大）0 5 7—15 15 2高谷 上田○（同大）
○山崎 鈴木（関東学）2 15 15—5 4 0横山 藤谷（大谷大）
○高見 吉原（慶大）2 15 15—1 9 0岡坂 上崎（関学）
○江井（関東学）2 15 15—11 6 0安藤（京大）
山崎（立教）0 10 6—15 15 2高谷（同大）○
佐藤（立教）0 9 9—15 15 2上田（同大）○
○服部（立教）2 15 15—2 2 0小林 北下（同大）
○玉越 広田○岡（慶大）2 15 15—6 8 0内田 武田（大薬大 関学）

昭和26年(1951). 2.10



緊急停電始まる
雨は降ったが需要増す
豪遊寸前に検挙
局てヒカリ物盗む
年金、倍額へ
園員には訓練機関も
「浮浪者寮」でもめる
半年ぶり母の手に
容子ちゃん帰る
さらに七千除名
バドミントン講習会

第3回関西学生選手権

昭和28年(1953).12.12

28 上田の優勝は確実

開幕きょう 関西学生個人選手権

バドミントン予想

朝日新聞社後援、バドミントン関西学生個人選手権は十二、三の両日京都同大体育館で行われる。競技としてのバドミントンはほとんど学内に限られているので、学内体育館が多い関東、東北、北海道など各国のチームが実力的に優れている。関西も最近学生選手の進出でどうやら関東勢と対等に戦えるようになったが、まだそれは一部の限られた選手である。

◇男子単　今日本八位にランクされた上田（同大）が断然抜出している。しかも先きに行われた全日本学生選手権で活躍、ベスト・8に入った高谷（同大）武田（関学）が欠場するので優勝は確実である。興味はむしろ他の選手が上田のカットによるドロップ・ショット（ネット際へストンと落す）強いスマッシュをいかに受けて戦うかにある。二位を争うのは多田（関大）と最近好調の米田（同大）で実力が接近しているから面白い競合いをするだろう。

◇同複　やはり上田と複だけに出る高谷の組（同大）が強い。ただダブルスはシングルスと性質が異なり個々の力よりはチーム・ワークの良し悪し、つまりはその日の気分が試合を左右する。これがダブルスの妙味でもあるのだが、多田、寺口組（関大）米田、中村組（同大）の肉薄に期待しよう。

◇女子　一般的にレベルが低い。松山、松本姉妹（京女大）香川（大薬大）らが活躍するだろう。（吉田）

昭和28年(1953).12.18

上田（同大）優勝す

関西学生バドミントン

朝日新聞社後援、バドミントン関西学生個人選手権第一日は十二日午前十時から同大体育館で行われた。男子シングルスは予想通り上田（同大）が圧倒的な強味をみせて優勝した。

△単準決勝
上田 2(15-9 15-1) 0 三宅（関学）
多田（関大） 2(15-11 15-9) 0 米田（関学）

△三位決定
三宅 2(15-9 15-10) 0 米田

△決勝
上田 2(15-6 15-7) 0 多田

昭和28年(1953).12.11

男子複は高谷・上田組

女子単複とも京女大

関西学生バドミントン

第三回関西学生バドミントン個人選手権最終日は十三日午前十時から洛南中学体育館で男子の複、女子の単複決勝を挙行。男子の決勝戦は寺口、多田組が高谷、上田組に食い下って第一セットを取り、第二セット以後も苦しめて熱戦になったが、第三セットであせりからミスを続出して惜敗した。

△男子複準決勝＝上田、高谷（同大）2-0三毛、井田（関学）▽寺口、多田（同大）2-0米田、中村（同大）△三位決定＝米田、中村2-0三毛、井田

△決勝
高谷 上田 2(15-7 15-8 15-9) 1 寺口 多田

△女子単準決勝＝松山（京女大）2-0松本姉（京女大）▽松本妹（京女大）2-1香川（大薬大）

△三位決定＝香川2-0松本姉

△決勝
松山 2(11-3 11-6) 0 松本妹

△同複準決勝＝松本姉妹（京女大）2-0松尾（同大）柳谷（京女大）▽松山、北村（京女大）2-0村瀬、百田（京女大）△三位決定＝松尾、柳谷2-0村瀬、百田

△決勝
北村 山 2(15-8 15-9) 0 松 姉妹

昭和29年(1954).12.31

観覧席

鶏の羽も苦杯の因

初の国際戦に敗れたバドミントン

日本流〝安上り〟はダメ

バドミントンはいま全国に素晴しい勢で普及している。ちょっとした広場があれば簡単にやれるという手近さ、余り費用がかからぬ気安さが普及の度を強めているのだろう。それだけに競技としてよりも、だれもがなじめるレクリエーションとして盛んに行われている。そのバドミントンが今年初めて世界選手権に参加した。ところが対香港戦（アジア・ゾーン予選）に3―6で惨敗してしまった。

その敗因は？　マネージャー役で一行とともに香港へ行った大阪YMCAの川口氏に聴いたところ「自己の力を過信していた。今まで国際試合を一度も体験していないものだから、どうしても自己本位になり、相手チームの力を自本選手なみの公式にあてはめていた。これが大きな誤り。またバドミントンは力で行くものと若い選手を連れていったが、香港の選手はいずれも三十歳代、実に巧妙なテクニックを備えており、この技術にかき回された」とのことだった。つまり戦後日本のスポーツ界が初めて海外チームと対戦した時になめた苦汁をバドミントンでも同じように味わったわけである。

しかし敗因はこれだけではなかったようだ。戦後全国的にバドミントンが盛んになるのにまかせ、なるべく費用をかけずにプレーを行おうと自本式の用具をあみ出した。レクリエーションとしてはともかくヒノキ舞台ではその用具の違いにすっかりまごついてしまったのだ。日本ではシャトル・コック（羽球）をにわとりの羽根で作っているが国際ルールでは水鳥の羽根と規定されている。この水鳥の羽根はにわとりと違い非常に反発力があってよく飛ぶ。ためにわとりの羽球のつもりで打つとそれがミスとなり、日本選手はすっかりあぶついてしまった。それにラケットのガットも日本式のナイロンでは弾みが弱く、香港選手のスナップをうまく使ったラケットさばきに日本選手はついて走れなかったとのことだ。日本でも〝これでいい〟と自己満足していたものが、根本的に覆えされたのである。つまりいままで日本でやっていたバドミントンは日本だけの競技で、国際的にはなんの価値もなかったわけである。これなどなんでも自己流に解釈したがる日本人の一番悪い面を暴露したものといってよく、根本的なものを追究せずに始めた報いだともいえる。

しかしこの失敗は何もバドミントンだけとは限らない。安易な物の考え方のため、いざという時に自力を出し切れないことが他のスポーツでも再三見受けられた。しっかりした土台石、物を始めるのに一番必要なことを置き忘れてはならない。いまバドミントンが頭打ちした失敗は、日本の総てのスポーツ界に基礎を固めねばならないと警告を発しているものといってよいだろう。

（吉田）

昭和31年(1956)4.25

両選手の見事な技巧

バドミントン　あすマレー対全関西

マレーから来日中の王宝林（オン・ポー・リム）黄徳福（オイ・テイク・ホック）両選手を迎え二十六日午後六時から大阪体育会館でマレー対全関西選抜軍の親善バドミントン試合が行われる。バドミントンは日本でも戦後急速に拡まり相当多くの競技人口を持つようになったが、マレーではこれは国技に近く、一九四九年に始って、五二年、五五年と三年ごとに開かれているトーマス杯世界選手権を連続三回とも獲得、バドミントンの世界の王者である。

両選手とも中国系マレー人で、昨年の世界選手権にはこの二人が組んでダブルスに活躍した。今度も英国を皮切りに、フランス、アメリカで試合をして帰国の途中来日したもの。王選手は三十四歳、黄選手は三十五歳。余り大きく動かないが、手首の力とラケットの面の使い分けとそれに加えるに経験で相手をたちきち自分のペースに誘いこむ。二人を比べると黄選手の方が試合運びに長じ、とくに目を引くのは黄選手のネット・フライ（ネットすれすれにシャトルを落す）のうまさと、王選手の鋭いスマッシュが足もとへ来てスッと沈むように落ちる変化だ。サーブをショート・サービス・ラインの真際へ落す二人の技術もまたうまい。

昭和30年(1955) 8．23

30. 8. 23

スポーツ

バドミントン その歴史と現状

初めはインドから——日本にも完全に根おろす

日経

戦後のわが国に大変な勢いで普及しているものに新興スポーツバドミントンがある。全国各地方に支部もでき、三十年度には国際大会のトーマス杯争奪世界選手権にも参加するなど、組織的にも一応出来上がり、すっかり日本にも根をおろした形である。そこでバドミントンとはどんな競技か、その歴史と現状をのぞいてみよう。

◇…アメリカから帰ってきた人の話を聞くと、バドミントンはテニスと同じように、ほとんど中流以上の家庭で楽しまれているという。また一番盛んなマレーやインドネシアなどでは兵隊を中心に、かなり昔から一般大衆にも親しまれ普及しているという。日本では最近は全国の商社、大学はもちろん、職場でも協会などの関係者でさえ「よくもまあ、こんなに…」と舌を巻くほどの発展ぶり。では、なぜバドミントンはこんなに日本で普及したのか。その前にバドミントンの国籍と生い立ちをちょっとみよう。

◇…バドミントンがインドから始まった遊びだといったら、人々はあるいは驚くだろうか。これは初めインドのボンベイ州で生れ、その土地の名からとったといわれている。初めは〝プーナ〟と呼ばれたこの競技は、一八四四年（約百十年前）に当時の陸軍の軍人が英本国に持ち帰るに及んで、一八七三年には英国に初のクラブが創立された。その後、クロセスターシャイヤー県下のバドミントン村で盛んになり、以来、このゲームは「バドミントン」と呼ばれるようになった。今日のルールは一八九五年に結成されたナショナル・バドミントン・アソシエーション（NBA）の決定したものによっている。

ところで、このバドミントンは実はわが国にも大正時代すでに入っていた。といっても、おもに横浜や神戸在住の外人や領事館、YMCAの外人たちの間で、単なるレクリエーションとして羽根を打ち合う程度にすぎなかったのだが、その後、たまたま横浜のある貿易業者が昭和五、六年ごろ、同じ遊びをシンガポールからもってきてから日本人の中にもぼつぼつやるものが出てきた。

そして昭和十二年秋、横浜YMCAの体育主事広田兼徳氏がデンマークから技術とルールを伝えたことによってバドミントンは日本で初めてスポーツとして行われるようになったのである。

◇…さて、このようにしてわが国に入って来たバドミントンだが、戦前、戦争中はほとんど一般に知られず、YMCA関係や横浜を中心とした、ごく限られた人々以外には楽しまれなかった。それに戦時中は、羽根が手に入らず、政府も外来スポーツを歓迎しなかったので、ほぼ立消えの形となっていた。こうしてバドミントンのスポーツとしての普及は戦後に持ち越されたが、二十一年の秋に上海からの引揚者数名によって東京バドミントンクラブが作られたのをきっかけに、その年の十二月には戦前からの愛好者も参加して日本バドミントン協会の結成となった。全関東オープン選手権、東京都内リーグと各種大会が次々ともたれ、学生連盟などもできるに及んで、バドミントンは次第に広がっていった。高等学校の体育の正課の中に採入れられたことも、今日のバドミントン熱に大いにあずかって力がある。戦後の感情には、バドミントンが外来のスポーツだというだけで、魅力をもったことも争えない事実だろう。だから多くの人々の目に、これが戦後の新興スポーツだと映っていたとしても、決して不思議ではない。

現在、団体参加をはじめおもな行事としては、全日本選手権、全日本学生選手権、東西対抗、全日本商業選手権、全日本大学チーム選手権、全日本実業団選手権などの各大会があり、大学では、日本学生バドミントン連盟のもとに、関東、関西、中部、東北、北海道の五つのブロックに分れ、立教、慶応が首位を争っている。実業団は男子が十条製紙の三年連勝に続いて今年は日本鋼管鶴見造船所が優勝、女子では仙台郵政局が勝った。

マニラ・関西国際親善試合

昭和31年(1956). 4.27

マレー・チーム 問題なく勝つ

バドミントン

マレー対全関西親善バドミントン大会（朝日新聞社後援）は二十六日午後六時から大阪府立体育会館で二千の観衆を集めて行われた。黄、王両選手は世界選手権大会といえるトーマスカップ（三年に一度）で三回連続優勝したマレー・チームの有力メンバーだけあって攻守両面に巧妙なプレーを示して全関西を問題にせず快勝した。

マレー 4（単2－0 複2－0）0 全関西

▲単
○黄 2（15－4 2－0）0 武田（関学出）
○王 2（15－10 15－5）0 河内（同大）

▲複
○黄 王 2（15－5 15－12）0 岡見 福（立命）
○王 黄 2（15－6 15－10）0 松王 佐々木（関大）

昭和31年(1956). 4.27

大阪版

名選手と中井市長

▽…バドミントンの世界選手権保持者マレーの王宝林、黄徳福両選手は、朝日新聞社後援のマレー対全関西親善バドミントン大会に出場のため二十五日夜来阪、二十六日午後一時市庁を訪問、中井市長、中馬助役、田端市会副議長らと懇談した。

▽…まだバドミントンをみたことがないという中井さんに競技の方法や練習の模様などを説明、なごやかなひとときを過した。両選手は同夜、府立体育館で試合を行い、同八時伊丹発で東京に向った。



中井市長と握手する王宝林市（中央）黄徳福（左）両選手＝市役所で

話のカゴ

昭和32年(1957). 2.23

32. 2

大毎

『美津濃』英商社に敗訴

『国産品圧迫』と本訴へ

バドミントンの羽根の特許

競後廃止になった新興『美津濃』＝大阪道修区修綿町＝を相手取って「販売禁止」の仮処分をめぐって英国カールトン・クイヤ・セイヴィング会社が提訴した特許侵害訴訟は、二十二日同地方地裁民事九部三宅裁判長は、カールトン会社側の申請を全部却下、『美津濃』側の勝訴となった。とこの判決に先だち特許庁が去月二十五日同種の羽根に正式な特許権を認めているので『美津濃』側は「この判決は国産品への不当な圧迫である」と述べ本訴の不服申立をとりやめる。

二十五年三月英国で特許権をとった同社製品のプラスチック製バドミントンの羽根と同一になるの全部回収廃棄処分を命じた仮処分申請が認められ、これを『美津濃』が販売したため。

マニラ・大阪国際親善試合

昭和31年(1956). 5.11

◆国際親善バドミントン大会（10日・大阪YMCA）

マニラ 2（単1－1 複1－0）1 全大阪選抜

トレス 0（5－14 15－17）2 上田○

○ピオ 2（15－5 12－15）0 渡辺

トレス ピオ 2（15－15 11－12）0 渡上 辺田

昭和32年(1957). 6 . 5

トーマス杯 出場の選手も

七月下旬セイロンで行われるバドミントンのトーマス杯（テニスのデ杯に当る世界選手権大会）のアジア予選に出場する日本チームが四日日本バドミントン協会から発表された。同チームは六日午後十一時五十九分発の日航機で出発、二十二、三日の選手権にのぞみ二十七日帰国の予定、途中で香港、タイでも親善試合をする。

◇役員　川端昇市（協会理事、立教大出）伊藤基記（協会理事、東高師出）◇選手　佐藤芳郎（立教大出、本年度全日本単一位、複二位）片石兼敏（立教大、本年度全日本単二位、複一位）永井栄一（立教大、本年度全日本複一位）上田益弘（同大出、本年度全日本単三位）越川啓（慶大、本年度全日本単四位、複四位）

昭和32年(1957). 8 . 2

趣味

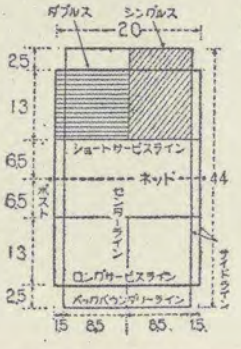
【問】バドミントンの起源、競技方法、コート、ネットの高さについて教えて下さい。（佐賀・坂井晋）

【答】バドミントンはテニスに似た一種のスポーツで、一八四七年ごろインドのボンベイ付近のプナ地方ではじめられ、原名をプーナといいます。一八七四年ごろインドの一陸軍将校が英国のグロスター州バドミントンに住むビフォード卿に伝え、一八七七年ごろビ卿のいた村名をとってバドミントンと名づけました。一八九八年には英国バドミントン協会が組織されました。バドミントンが日本に渡来したのは一九三〇年で、横浜のYMCA（基督教青年会）が行ったのが最初です。一九四八年に第一回バドミントン選手権大会が東京で行われ一九四六年十二月日本バドミントン協会ができて今日にいたっています。

試合にはシングルスとダブルスがあります。試合開始にあたって両サイドがトスを行いトスを得た側がサービスとエンド（コート）の一方を選択できます。一試合の勝負は一方が早く十五点を得たときにきまります。しかし十三点になった場合は先に五点を得た者、また双方が十四点を得たときはどちらかが三点を勝ち得たときに勝負がきまります。女子シングルス・ゲームは十一点として十対十になったときは三点先得の者を勝ちとすることは男子の場合と同じです。プレヤー（競技者）は三ゲームの勝負をやります。ダブルスの場合サービス側がサービスをします。奇数の左側でサービスをします。偶数の左側でサービスをします。

一般規定としてサーバーは相手がレシーブの用意をするまではサービスができないことになっています。サトバーとレシーバーはそれぞれのサービス・コート内に立ちます。ダブルスの場合パートナーはどんな位置をとってもいいことになっています。しかし相手を見えなくしたり、邪魔したりしてはいけません。コートは図のように規定されていますが、広さはダブルスとシングルスの場合で違います。ネットは両ポストにしっかりと張り、高さはセンター（中央）で床から五フィート、ポストのところで五フィート一インチにします。

（大阪YMCA体育部）



▽斜線はシングルス・サービスコート
▽横線はダブルス・サービスコート
▽数字はフィート

大阪 読賣

バドミントンについて

インドで始まったスポーツ

あなたの身辺、日常に起る問題、疑問、おたずねになりたいことなんでも質問に応じます。質問は具体的に、簡潔に書いて大阪市北区野崎町77読賣新聞社文化部"相談室"へ。

アジアバドミントン連盟設立

昭和34年(1959). 1.27

アジア・バドミントン連盟に日本も参加

アジアのバドミントン界を統一するアジア・バドミントン連盟が近くマラヤのクアラルンプールで結成されることになり、日本バドミントン協会は二十五日夜、お茶の水体協会議室で行われた総会で新連盟に加盟の方針を承認し、創立総会に代表一名を派遣することに決定、同総会で次のような提案を行うことになった。

一、バドミントンが昨年からアジア競技大会の正式種目として実施されたので、新連盟は今後のアジア大会でのバドミントン競技の推進に積極的に協力する。

一、こんどの総合開催に当るマラヤはアジア・バドミントン選手権大会を一年おきに開催することを提案しているが、これがアジア競技大会と重なる年は同大会とアジア選手権を兼ねるようにする。

一、フレーム・ショットを反則とするルールを廃止するよう国際バドミントン連盟に提案する。

昭和34年(1959). 8. 2

アジア・バドミントン連盟を結成

【クアラルンプール三十日発ロイター】アジアの十四カ国をメンバーとするアジア・バドミントン連盟が三十日当地で結成された。加盟国は日本、ビルマ、セイロン、香港、インド、インドネシア、ネパール、英領ボルネオ、パキスタン、フィリピン、シンガポール、タイ、マラヤ。

昭和36年(1961). 3.11

羽根は14―16枚

ラケット 規格はまだない

日経夕

商品パトロール

○……ソン品
○……ミ用
○……ドン
○……バト

公式試合では、日本バドミントン協会競技規則で定めた規格によるシャトルコック（羽根）を用いる。これによれば重さ四・七三㌘から五・五㌘、直径二・五㌢から二・八㌢のコルクに十四枚から十六枚の羽根をつけたもの。羽根の長さは先端からコルクの台まで六・四㌢から七㌢、先端で五・四㌢から六・四㌢ほど広がり、糸か他の適当なものでしっかり縛りつけたものとなっている。同協会用具検定委員会はラケットで打ったとき、飛ぶ距離、方向を細かく検査、合格製品に「検定済」シート（または検印）を添付する。

国際バドミントン連盟では国際試合には水鳥の羽製品の使用を規定しているが、わが国では一般に鶏の羽を使用する。ラケットは現在、規格設定の機運があるが、一定規定はまだない。したがってどんなラケットを使用してもいいが、使いやすさもあって、一般には長さ六十五、六㌢（グリップの部分が二十㌢）、打面は硬式テニスラケットとやや似て、長円形の長径二十四㌢、短径十九―二十㌢が標準だ。

フレームにあいているガットを通す目の数はメーカーによってまちまちだが、三十二―三十八穴が中心。ラケットは主としてトネリコ、さらにブナなどを用い、初めは削って作ったが、現在ではこれらの薄板を四、五枚ほり合わせて作る。フレームに張るガットは、外国ではシープガット（羊腸）が多いが、わが国では原料、技術的な制約もありナイロンなどの合繊物がほとんど。また選手用には腰部に弾力性に富むパイプスチールを使用したスチールシャフトが圧倒的にふえ、パイプの切り口も円形から長円形に変わっている。すばやくふったら打面が打った方向に直角に近くなるという長所があるからだ。

メーカーは福島市およびその在横浜、遠州森町、愛知の豊川、富山の城端町、新潟の六日町に多い大手どころは栄木管、福島ラケット、ニッポー工業、ケイオースポーツ、若葉工業、グロリア、七洋工芸など。生産量の九割がらみに当たる七十万本を毎月輸出する。いちばんの得意先は米国で現在の輸出価格は平均一本七十円がらみと最高時の四割方の安値に落ち込んだ。

第6回世界バドミントン選手権（トマス杯）

昭和39年(1964). 4.22

第六回世界男子バドミントン選手権（トマス杯）大会兼世界招待男子個人選手権大会を次のように開きます。

インドに発生した競技「プーナ」は一八四四年ごろ英国に紹介され、その後「バドミントン」として世界各国に普及、わが国でも戦後急速に広がり現在競技人口約五十万人といわれ、登録選手だけでも一万人に達しています。

◇団体選手権

▽各地区代表　アジア地区（タイ）アメリカ地区（日本）豪亜地区（マレーシア）

▽インドネシア対インターゾーン勝者（同二十一日、二十二日午後四時）

▽試合方法　対戦国各試合とも第一日はシングルス二試合、ダブルス二試合、第二日はシングルス三試合、ダブルス二試合を行い、合計九試合（単五試合、複四試合）のうち多数の勝を得た方を勝者とする。

▽閉会式　二十二日午後七時半

◇個人選手権　五月二十五日（月）から二十八日（木）まで

▽会場　台東体育館（地下鉄浅草駅下車）

第八回 世界男子バドミントン

ヨーロッパ地区（デンマーク）前回優勝国（インドネシア）

▽会場　東京体育館（国電千駄ケ谷駅下車）

▽開会式　五月十四日（木）午前十一時三十分

▽試合日程（団体戦一チーム七人）

【インターゾーン】

▽マレーシア対デンマーク（五月十四日午後零時四十分、同十五日正午）

▽日本対タイ（同十四日、十五日午後六時）

▽三位決定戦（同十七日、十八日正午）

▽挑戦者決定戦（同十七日、十八日午後六時）

【チャレンジ・ラウンド】

▽試合方法　単複トーナメントとし、毎日正午から午後三時、同六時から九時までの二回行う。

▽組合せは追って発表します。

◇入場料（世界選手権）一、〇〇〇円、五〇〇円、三〇〇円（以上指定席）一五〇円（自由席）一〇〇円（学生券）中、高校生三十人以上の団体八〇円。（個人選手権）二〇〇円、一〇〇円。前記両大会とも同一券で午後の部、夜間の部に入場できます。

主催　国際バドミントン連盟
主管　日本バドミントン協会
後援　文部省、東京都、日本体育協会、朝日新聞社

昭和39年(1964). 5. 9

バドミントン〈上〉

第六回世界男子バドミントン選手権（トマス杯）大会は十四日から二十二日まで朝日新聞社が後援し東京・体育館で日本、インドネシア、デンマーク、タイ、マラヤの五チームが参加して開かれる。戦後日本でもバドミントン愛好者が急激にふえ、日本バドミントン協会の調査によると愛好者は約五十万人にのぼるといわれる。この機会に競技の背景となる歴史や競技のやり方、トマス杯のいわれなどについて紹介してみよう。

優勝団体にトマス杯

日本では愛好者50万

14日から世界男子選手権

東朝

インドで誕生

バドミントンはいまから百四十年前インドのプーナという町に発生した。羽根つきのようなもので土地の名前をとってはじめ「プーナ」と呼ばれていた。インドでこれを見物したイギリスの将校が一八四四年本国に帰ってパーティーの席上プーナを紹介した。

シャンペンのコルクに鳥の羽根をつけ、テニスのラケットで打合ったという。これがイギリスでの普及の始りで、その後グロセスタ卿が昭和十八年寄贈したもの。だからテニスのデビス・カップと同じようなもの。

カップはロンドンで作られ、高さ七十㌢の八角形の銀製でフタの上に競技者をあしらった飾りがついている。トマス卿は現役時代、多くの国際試合に出場して三十にのぼる優勝記録を作り不世出の人と謳われたものだ。

この大会は❶アメリカ❷アジア❸豪・亜❹ヨーロッパの四つのゾーンにかれ、二十四カ国が参加してきそう予選を行い、各ゾーンで優勝した四カ国と前回優勝のインドネシアの五チームが出場する。インドネシアを除く四カ国が予選を行い、そこで優勝したチームがインドネシアに挑戦する。つまり五杯のチャレンジ・ラウンドと同じ形をとっている。

わが国は第三回大会に初参加。今回はアメリカ・ゾーンに参加（予選の参加はどのゾーンでも認められる）してメキシコ、アメリカ、カナダに勝ってアメリカ・ゾーンの代表になり、インターゾーンの出場が決った。

日本での歴史

日本のバドミントンの歴史は大正三、四年ごろから始っている。

アメリカのYMCAから横浜のYMCA体育主事広田兼敬氏がデンマークの体育学校でバドミントンを学んで帰国してから一部で正統なバドミントン競技が行われるようになった。

トマス杯とは

選手権大会は三年目ごとに開かれている。優勝チームにトマス杯が贈られることから別名トマス杯争奪選手権大会ともいわれる。トマス杯は現在IBF（国際バドミントン協会）の会長であるイギリスのジョージ・エー・トマス卿が昭和十八年寄贈したもの。



トマス杯

朝日新聞大阪本社調査部

昭和39年(1964). 5 . 10

バドミントン〈下〉

アジア勢が断然強い

東朝 意気ごむインドネシア

バドミントンはわが国に江戸時代から伝わる羽根つきに似た競技で、別名〝西洋羽根つき〟といって子どもたちにも親しまれている。テニスと卓球が変形したもので中央に高さ一・五二四㍍のネットを張る。このネットを境に上からたたくスマッシュ、下からすくうように高く打返すハイクリヤー、急に落ちるドロップ・ショット、スピーディに激しく打合うドライブ、体勢で相手をまどわすフェイント・プレーなどいろいろな技術がある。要するに自分がいかにより打ち、相手に下から打上げさせるかというのが競技に勝つ原則だ。

得点の争い方

競技は単、複の二種類で選手権は単五、複四。男子は三セット・マッチで一セット十五点（女子は十一点）二セット取った方が勝ち。サーブした方が相手にミスさせたときだけ得点になる。レシーブした方がサーブした相手にミスさせてもサーブの権利を得るだけで得点にはならない。

複の場合もレシーブ側がサーブ権を取るにはサーブ側の二人からミスを取らなければならない。

この競技は一セット終了近く同点になってもテニスや卓球のようにジュースというカウントはとらない。そのかわりセッティング方式が採用される。セッティングとはカウントを0対0に戻し、攻めて5点（13オールの場合）3点（14オールの場合）を争う。先に5または3得点した方が勝ちというわけ。

試合中13対13、または14対14になったとき、先に13または14得点した方にセッティングする権利が与えられる。セッティングしないでそのまま15点になるまで試合を続けてもよい。

主な反則は……

主な反則は❶サーブの際シャトル（羽根のついた球）を腰より上で打ったとき。また打ったあとラケットが肩より上にあがったとき❷サーブまたはレシーブの際、ラインを踏んだり、またいだとき❸シャトルが選手の身体にふれたり、一人の選手がシャトルを二回続けて打ったとき❹ラケットが相手のコート内にはいったり、ネットにふれたとき、などである。

優勝の行方は……

この競技はアジアが強い。バドミントン発祥の地がアジアだから古い伝統を守ろうという熱意もあるのだろうが、やはり日ごろの研究が実を結んでいるようだ。毎年各国の選手が参加する全英選手権にはインドネシア、マラヤ、タイなどアジア勢がこぞって出場、ヨーロッパ勢の技術を研究している。世界男子選手権に第一回大会から三連勝したマラヤと第四、五大会に連勝しているインドネシアが中心となってアジアだけの親善試合をおこない技術の向上をはかってきたからだ。今回インドネシアが勝てば三連勝。

だがマラヤと、最近特に力をつけてきたデンマーク、日本など〝打倒インドネシア〟を目標に闘志を燃やしているので、インドネシアもそう簡単には優勝できないだろう。

インドネシアの意気込みはすごい。すでに会場に千余席を確保したほか、さらに日本の某造船会社に貸切り船の手配をしたという。本国から応援団がかけつけるわけだ。マラヤもかなりの席を確保しているので、応援合戦も見ものだろう。日本選手団川端監督以下六人も強化合宿で腕をみがいて大会に備えている。

昭和39年(1964). 11. 3

日本業者敗れる

バドミントン羽根訴訟

東京地裁

バドミントンに使われるプラスチック製の羽根の製造の特許権をめぐってイギリスと日本の業者の間で争われていた訴訟に対し、東京地裁民事二十九部三宅裁判長は十四日、イギリス業者の特許権を認め、日本の四業者にプラスチック製の羽根の製造、販売を禁止する判決を言渡した。

この訴訟は、イギリスのバドミントン製造会社であるザ・カールトン・タイヤ会社が、日本の四業者を相手取って起したもので「さる二十六年八月、特許庁で〝頭の部分とスカートの部分が一体となったプラスチック製の羽根〟の特許登録をしているのに、日本業者が勝手に製造、販売している。特許権侵害の禁止と八百余万円の損害賠償」を求めていた。

被告の静岡県浜名郡湖西町、羽立工業会社（代表取締役、中村豊氏）横浜市南区大橋町、横浜合成樹脂会社（代表取締役、有馬徳太郎氏）大阪市東区大川町、美津濃会社（代表取締役、水野健次郎氏）東京都台東区西町、ユチダ商事会社（代表取締役、岩元広光氏）は「羽根の頭部とスカート部は別々につくって合わせているもので〝一体〟のものではない」と主張していた。

三宅裁判長は被告側の言い分をしりぞけ、プラスチック製の羽根の製造と販売を禁止するとともに、羽立工業、横浜合成樹脂両社で計五百九十七万八千余円、両社と美津濃会社で三十七万八千余円、両社とユチダ商事で十七万九千余円を、それぞれ連帯して損害賠償をするよう言渡した。

これについて日本バドミントン協会では「プラスチック製はレクリエーション用に使われているが、普及率は三一〇%程度であまり影響はない」といっている。

昭和41年(1966). 5. 22

30年から世界進出

日本のバドミントン

遠征へ少額ずつ積立て

日本へバドミントンがはいってきたのは昭和の初期といわれる。神戸と横浜のYMCAではじめられ、兵庫、神奈川の両県が中心となって全国に普及していった。

競技の本質的な面からはテニス、卓球に類似しているが、日本で比較的に親しまれたのは古来からある〝羽子板〟遊びに通じるせいでもあろう。

世界に進出しだしたのは戦後の三十年ごろから。三十年のトマス杯（男子）世界選手権のアジア地区予選にセイロンへ遠征したのがはじめて。この時は一回戦に勝ちながら二回戦は遠征費がなく棄権した。

協会に登録した競技人口は全国で約二万人。未登録者を含めると約三十万人と推測される。

急激に伸びてきた競技人口に支えられ選手の実力も向上、最初のトマス杯予選以来海外交流で腕をみがいた。

もちろん、こうなったのは海外との対戦が役立っている。遠征費をひねり出すため、協会では各大会の出場者に一人三十円の「海外交流費」を負担させ、積立てできた結果、弱体な協会でありながら技術の吸収が果せたわけで、その意味ではこれまで大会に出場し三十円を支払った選手全員がユーバー杯を獲得したのだといえる。

また一方ではとくに男子がアジア地区に世界の強豪が集中していたのも強化にさいわいしていた。トマス杯を三回保持したインドネシアとマラヤ、それにタイ、インドなどにたやすく胸を借りることが出来て着々世界上位へと進出することができた。

昭和41年(1966). 5. 22

ユーバー杯　イギリスのユーバー夫人が寄贈したもので、女子世界選手権の優勝チームに与えられるカップ。

男子の世界選手権も女子と同じ方式で行われ、優勝杯はトマスカップといわれる。国際バドミントン連盟の初代会長のジョージ・トマス卿が寄贈したもの。

……

が、これは〝ホトケの小宮〟といわれる小宮照喜（協会指導委員長＝慶大出）の功績である。優勝の原動力はなんといっても主将高木（東海女短大教員）がベアストック（英）ハーシュマン（米）の世界一流選手を破ったこと。インタゾーンの準決勝でインドネシアに勝てば英国に負けても今回の出場の目的は十分達したと考えていたが、初出場で優勝するとはこんなうれしいことはない。

昭和41年(1966). 5. 22

日本、初出場で優勝

世界女子バドミントン アメリカを破る

【ウェリントン（ニュージーランド）二十一日発＝AP】第四回ユーバー杯世界女子バドミントン選手権大会（三年ごとに開催）のチャレンジラウンド、選手権保持国アメリカー挑戦国日本の試合は二十一日当地で行われ、日本が5－2で勝ち、新選手権保持国となった。

試合は単3、複4の団体戦で争われ、まず第一シングルスで高木（東海女子短大教員）が無敗を誇る世界のNO・1ハーシュマンを破る殊勲を立てたのをはじめ、第二シングルスで横山（帝石秋田鉱業）がバリナガを、第三シングルスで横井（[illegible]）がジェンセンを破り、単で3－0。複でもアメリカの反撃を抑えて二勝をあげ、優勝した。日本は世界選手権初出場での優勝である。なお、アメリカは一九五七年の第一回大会以来王座を守っていた。

日本 5（単3－0、複2－2）2 アメリカ

▽シングルス

○高木 2（11－7、12－9）0 ハーシュマン

○横山 2（11－7、11－3）0 バリナガ

○横井 2（11－3、12－11）0 ジェンセン

▽ダブルス

高木（東海女子短大教員）・後藤（新潟電電） 0（9－15、14－18）2 ハーシュマン・ジョンズ○

○天野（東海女子短大教員）・高橋（日女体大） 2（15－7、15－9、9－15）1 バリナガ・ジェンセン

天野・高橋 0（4－15、8－15）2 ハーシュマン・ジョンズ○

○高木・後藤 2（17－16、15－2）0 バリナガ・ジェンセン

【経過】主将の高木が第一シングルスで全英選手権のチャンピオンであり、全米選手権保持者のジュディ・ハーシュマンを破った。これが以後の試合に大きく響く結果となった。この第一試合シングルスの勝利に気をよくした日本チームは横山、横井が続けて勝ち、この善戦が日本を有利に導くことになった。

勝負のポイントとなった第二ダブルスのバリナガ、ジェンセン組－天野、高橋組はバリナガ組が必死の反撃を見せ、第一セットを15－9と取り、第一ダブルスを取っているアメリカがにわかに活気づいた。しかし天野、高橋組は第二セットで調子を取戻し、15－9とセットスコアをタイに、第三セットも勢いにのって、15－7で押切り、勝利を決めた。（ロイター）

一二〇%の実力発揮

日本バドミントン協会森友理事長の話　やってくれた。選手が一二〇%の実力を発揮したからこそ優勝できたのだ

昭和42年(1967). 1. 5

朝日体育賞に輝く人々 ㊤

世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）に優勝した日本チーム

自炊合宿で〝アマ魂〟

日本の女子バドミントンが世界の王座に——。このニュースが伝わった時「本当だろうか」と疑う向きが多かった。それもそのはず、九年間王座を守ったアメリカを初出場の日本が破ったのだから。

日本チームは小宮監督はじめ選手は高木紀子（東海女短大教）主将ら六人で優勝までの足跡はこうだった。アジア地区予選（四月二十七日）でまずタイに5－0と完勝した。インタゾーン準決勝（五月十四日）インドネシアに5－2で快勝、イギリスとの決勝（同十七日）は得意のシングルスで3－0と優位に立ち、ダブルスで追込まれたが、4－3でくだして世界選手権保持国アメリカへの挑戦権を獲得した。アメリカとの王座決定戦（五月二十一日）は、個人の世界選手権といわれる全英選手権で七回も勝続けているハーシュマンを高木が破って勢いにのった。シングルスで3－0。ダブルスでも2勝して結局5－2で王座についた。小柄な日本選手が機敏に動いて大柄な外国選手をゆさぶった活躍は海の向うでも大いに話題となった。

女子チームが初めて海外に遠征したのは三十八年。わずか四年目でつかんだ快挙だった。でも一朝一夕にして〝世界一〟になったのではない。この選手権目ざして協会は早くから選手を集めたものの、予算が十分なかった。そこで会社の寮や安宿を借りて自炊による合宿が続いた。世界選手権が行われたウェリントン（ニュージーランド）でも、よその選手が一流ホテルに泊っているのに、日本は安いモテルに泊って自炊しながら大会にそなえたという涙ぐましいエピソードがある。体協内ではオリンピックにかこつけてぼう大な金を使いながら、さっぱり強くならない競技団体がある中で、バドミントンの優勝こそ、アマチュア本来の姿であると激賞した役員がいたほどだった。

昭和52年(1977). 2. 4

バドミントン 花開いた一貫教育

四条畷学園の片岡監督

ユーバー杯奪還を目ざす日本の女子バドミントン界で、四条畷学園の〝英才教育〟が注目を集めている。小学校から短大までの一貫した選手づくりに取り組み、高校、大学の競技会ではタイトルをほとんど手にしている。先の実業団、大学選抜大会でも社会人ナンバーワンのサントリーと河崎ラケットの強豪チームを破って初優勝した。「いい選手を一人でも多く育てて、日本の女子バドミントンを再建したい」というのが、指導にあたる同短大片岡望明監督(34)の大きな夢だ。

三十七年、大教大でバドミントンをやっていた片岡監督が同学園に就職。手軽にできるスポーツとしてバドミントンを取り入れ、独自の選手養成を計画した。小学校は五年生以上の特別教育活動で、シャトルになじむ楽しさを覚えさせ、この中から運動神経の発達した子どもを選んで、中学校、高校のクラブで鍛えるという方針をとった。

とくに重点を置いたのは、中学時代の基礎体力づくりだ。バドミントンに限らず、ジュニアの指導は、得てして技術中心に走りがちになるものだが、片岡監督は「プレーを教えるより、下半身を徹底的に鍛える」ことを自標にした。

中学まで体力作り

細かに接触し心つかむ

だから中学校の選手は、競技会に出ても優勝することは少ない、という。ランニングやウエートトレーニングで鍛え抜かれた選手が、高校に進学し、初めて本格的な技術を教え込まれる。下半身がしっかりしているので、急速に力をつける選手が多い。それでも、高校のタイトルをとるのに十年はかかったそうだ。

三年前、短大にも部をつくり、一貫教育の門口を広げた。「うちは経験も少ないから、安心して二連勝した短大の植野らをはじめ、女子バドミントン界のホープたちがずらりと顔をそろえている。十二月、大阪市中央体育館で行われるヨーロッパ選抜との国際大会には、石川、植野が出場する。「国際試合をどんどん経験させ、うちの選手でナショナルチームをつくって世界一の座につきたい」と片岡監督は張り切っている。

自らラケットを持って特訓する片岡監督(大阪・四条畷学園)

「女の子の指導は、まず監督を信頼させること。家庭訪問をしたり、電話でアドバイスをするなど、監督がいつも選手に関心を持っていることをわからせなければならない。そうすれば、どんなきびしい練習にもついてくるようになる」というのが片岡監督の〝選手づくりに秘訣〟だ。

細かに接触し心つかむ



昭和59年(1984). 5 . 31



夕刊

"打倒関東"に燃え

「百連勝といっても、一つの区切りに過ぎない。目標はあくまで全日本学生選手権です」と、四条畷女短大バドミントン部の片岡輝明監督(四五)=写真=は快記録達成にも厳しい顔付き。五十年春の関西学生リーグに参加して以来、負けなしの連勝なのに笑えないのは「レベルの低い関西で勝っても……」ということらしい。

十年余の監督生活で、徳田(大阪協会)北田(三洋電機)ら世界に通用する選手を育ててきたが、全日本学生を制覇したのは、五十五年の一度だけ。「わたしにも意地があります」と、連日午後八時すぎまで猛練習する同監督の目には"打倒関東"の意気込みがありあり。

昭和52年(1977). 10. 10

家庭

バドミントン楽しむ奥さん

全国大会で力と技を

連盟が参加呼びかけ

バドミントンを楽しんでいる主婦のみなさん、全国の仲間を相手に腕だめしをしてみませんか――全日本家庭婦人バドミントン連盟(竹内ヒロ子委員長)は、十一月十七、十八日に、大阪で開く第四回全国大会(朝日新聞社など後援)への参加を呼びかけている。

主婦のスポーツで全国大会を開くのは、バレーに次いで二番目。東京以外の舞台はこんどがはじめてだ。

第一回は九都道府県から十五チームだったが、ことしは約二十都道府県から八十チームほど集まりそう。ただしこの予想は、家庭婦人バドミントン連盟が組織された地域から、予選を勝ち抜くなどして集まるチームに限られる。連盟のない地域からの直接の申し込みも受け付けたい、と大会事務局はいっているので、ふえる可能性もある。

文部省体育局が昨年、主婦のスポーツクラブについて調べたところ、バドミントンは全国で約九百チームあるという推計が出た。しかし、ラケットの大手メーカーでは、正式のクラブになっていないサークルやPTAなどの同好会、単に家庭で楽しんでいるだけの人々も数えたら、バドミントンをしている主婦たちを全国で十万人以上と推定している。

参加申し込みは二十八日まで。問い合わせは〒577東大阪市長堂2―35、黒田勝之気付、全日本家庭婦人バドミントン大会実行委員会事務局へ。

昭和56年(1981).11.3

プロ化の波 バドミントンにも

来年 神戸で賞金大会

日本バドミントン協会は二日、来年一月に国内初の賞金付き大会を神戸で行うと発表した。この大会は「ヨネックス・ジャパンオープン'82」。一月十四日から四日間、同市立中央体育館で行われるIBF（国際バドミントン連盟）公認の国際大会で、賞金総額は一千万円、英国、インドネシア、中国などから世界のトッププレーヤーの参加が予定されている。

現在、日本ではテニス、卓球などで〝アマチュア〟のまま賞金が受けとれる制度が認められ、マラソンの賞金導入化の動きと合わせてアマ・スポーツ界のプロ化はますます進みそうである。

発表によると、優勝賞金は男子シングルス、ダブルスが百万円、女子シングルス九十万円、女子ダブルス八十万円、混合ダブルス六十万円。IBFの規程に沿った「ライセンスド・プレーヤー」（認定選手）の場合、参加選手はアマチュアのまま賞金を受けとることができ、今回、来日する顔ぶれの中では、英国の全選手、デンマークのコペン、ハンセン、スウェーデン、アメリカの男子選手がこれに当たる。

日本協会では、これまで選手が海外の大会で賞金を獲得した場合、賞金はいったん日本協会に入り、各事業所に分配されて個人に入らないため、アマチュア規定に触れないとしてきた。また、現在、日本選手では「認定選手」の申請はないが、「各国の情勢からみて、申請があれば認める方向で検討することになろう」と今北基夫協会国際委員長は話しており、日本にも「認定選手」の出現する可能性もある。

昭和60年(1985).7.6

この人に聞く

三洋電機バドミントン

銭谷欽治コーチ

五輪めざし後進育成が急務

名選手が名指導者になれるとは限らない。最近ではバドミントン界の第一人者、全日本選手権七回制覇の銭谷欽治さん（三三）がいい例だ。三洋電機たった一人の男子選手兼女子チームコーチ。就任二年目の今年、六月の全日本実業団選手権で女子を初優勝させた。折も折、この競技が九二年からの五輪に採用され、後進の育成にも夢はずませる。

――ついに初の日本一？

「これまでは打倒サントリー（過去八回優勝）を意識し過ぎた。それが今回は、月原監督以下、主将の北田、河村、富田に加え、若手までがのびのびとまとまった。冬場に三㌔の砂袋を身につけて走り込むなど、調整ぎ、英国と並んで銅を狙える位置にある。が、メダルがかかってくるとなると、女子ではすぐ日本のあとにつけているインドネシアあたりも黙ってはいない。全国の中、高校生からピックアップした候補を、今から英才訓練するなどの〝七年計画〟が必要だ」

――それほど競り合いは激しい？

「今年の世界選手権参加が約三十カ国。が、五輪採用で、この中に入っていない米国やソ連などの東欧諸国が動き出す可能性は十分。これらの国は選手のスカウトといい、組織固めといい、乗り出したら実に早い。すでに協会でも『よほど腰をすえてかからないと』という声が出ている」

――かなり手ごわくなりそうだが……

「陸上競技と同じで、世界の潮流はスピードとパワー。スマッシュ時のシャトル（羽）の初速がテニスをはるかにしのぐ。女子は二八〇㌔、男子は三一〇㌔。中国女子のスマッシュなどは二階から落ちてくる感じ。小柄な日本がこれに勝つには、巨体ではとりづらいボディー周辺にシャトルを集中して返すといった小技も必要となってくる」

海外でも豪州オープンなど三タイトルを獲得したキャリアの持ち主。コーチという立場と同時に選手としての腕も鳴る。

「しかし、五輪の時は現役は無理だろうなあ。それよりも後進を育て、三洋電機からナショナルチームに三、四人は出したい」

――今後のバドミントン界は？

「五輪採用は、この競技がこれまでのマイナーから抜け出す絶好のチャンス。だから、超大国の参加はむしろ望むところ。彼らが触手を伸ばさない限り、メジャーには舞い上がれないのがスポーツの世界ですから……」

昭和61年(1986). 5 . 18

◇バドミントン　関西学生リーグ最終日
（大阪市中央体育館）
▽男子　同大4―1近大、大経大4―3京産大、天理大4―2竜大▽順位　①同大5勝②近大4勝1敗③大経大3勝2敗④京産大2勝3敗⑤天理大1勝4敗⑥竜大5敗（同大は3季ぶり10度目の優勝）
▽女子　四条畷女短大3―0竜大、武庫川女大3―0大体大、天理大3―0大教大▽順位　①四条畷女短大5勝②武庫川女大4勝1敗③大体大3勝2敗④竜大2勝3敗⑤天理大1勝4敗⑥大教大5敗（四条畷女短大は24季連続24度目の優勝、リーグ戦150連勝）

ハーフタイム　7

十七日に行われたバドミントンの関西学生リーグで優勝、150連勝を達成した四条畷女短大。学生リーグでは天理大ホッケー部が266連勝中だが、こちらは短大記録かも。スタートは昭和五十年五月八日の対竜大戦。強さの秘密は試合の日もふだん通りという豊富な練習量。「よそが年に二十日休むなら、うちは七日でがんばってきた」と片岡輝明監督。猛練習から徳田敦子、北田スミ子ら日本を代表する選手たちが育ち、脈々と受け継いできた。

しかし、短大ゆえの悩みもある。とくに部員不足は深刻で、過去に学校対抗のメンバーぎりぎりの四人という年もあった。来年も、上級生の二年生六人が抜けると、残るのは二人。他校に敵はないが、怖いのは入部してくれるかどうか、新入生のこころ？

昭和62年(1987). 9 . 12

関西学生バドミントン

近大の連勝188で止まる

関西学生バドミントン秋季リーグ戦第四日は十一日、大阪・東淀川体育館で行われた。男子で38シーズン連続優勝を目指す近大は、ダブルス3試合をたて続けに落としたのがひびいて、京産大に3―4で敗れる波乱。これで四十四年からの連勝記録が188でストップした。
▽男子　同大（4勝）7―0大経大（4敗）、竜大（2勝2敗）6―1天理大（4敗）、京産大（3勝1敗）4―3近大（3勝1敗）▽女子　四条畷女短大（4勝）3―2天理大（2勝2敗）、竜大（4勝）5―0関外大（4敗）、武庫川女大（2勝2敗）4―1大体大（4敗）

第11回全国小学生大会

平成７年(1995). 8 . 22

瓜破西SSC3連覇

第十一回若葉カップ全国小学生バドミントン大会（大会実行委員会主催、京都府、朝日新聞社など後援）の決勝が二十一日、京都府長岡京市の西山公園体育館であった。
男子の部は大阪市平野区の瓜破西SSCが三年連続で三度目の、女子の部は香川県香川町の香川スクールが四年連続四度目の優勝をそれぞれ決めた。

平成４年(1992)．６．６

バドミントン五輪代表

水井ら10人 金井漏れる

日本バドミントン協会は五日、バルセロナ五輪の日本代表選手男子四、女子六人の計十人と役員を発表した。

国際バドミントン連盟（IBF）の発表した最終世界ランキング（五月一日付）で、日本勢は男子ダブルス二組と女子シングルス二人、同ダブルス二組の出場資格を得ていたが、女子シングルスは最終ランキング三十一位の金井和恵（サントリー）に代わって、同三十二位の鴻原春美（尚美学園職）が選ばれた。

日本協会は、あくまで世界ランキングの上位者を出場させることとしていたが、レベルの低い大会に数多く出場した選手の方がアジア選手権などの大きな大会で優勝した選手よりもランキングが上になったりする現状の世界ランキングには欠陥があるとして、IBFに選手変更を求めていた。

日本女子の場合、鴻原より金井の方がランキングでは一つ上だが、最近の八大会の勝率は鴻原の方が上。しかも金井は昨年十月から三カ月のブランクがあり、試合数も少ないなどの理由で日本協会は鴻原を代表に選んだ。

これに対し、IBFは三日までに変更を承認、正式決定となった。

五月にマレーシアで行われたIBF総会でも世界ランキングについては「現在の実力を十分に反映していない」と各国から疑問が殺到。IBFは特別委員会を設置して、ランキングを見直すことを決めている。

【役員】監督　池田信孝（四三）＝選手強化本部ナショナルチーム担当部長▽コーチ　長谷川博幸（三三）＝選手強化本部部員

【選手】

▽男子ダブルス　松野修二（二六）NTT東京、法大出、山梨県出身。171㌢、68㌔。

松浦進二（二六）フジチュー、法大出、滋賀県出身。183㌢、81㌔。

宮康二（二七）NTT東京、法大出、山梨県出身。181㌢、75㌔。

町田文彦（二三）NTT東京、法大出、埼玉県出身。172㌢、66㌔。

▽女子シングルス　水井妃佐子（二〇）四条畷女短大職員、四条畷女短大出、奈良県出身。166㌢、55㌔。

鴻原春美（二六）尚美学園職員、四条畷女短大出、大阪府出身。167㌢、60㌔。

▽同ダブルス　陣内貴美子（二八）ヨネックス、熊本中央女高出、熊本県出身。165㌢、53㌔。

森久子（二七）ヨネックス、青学大出、神奈川県出身。161・5㌢、47㌔。

松尾知美（二三）NTT東京、熊本信愛女学院高出、熊本県出身。169㌢、67㌔。

捧（ささげ）匡子（二三）ヨネックス、新潟青陵高出、埼玉県出身。160㌢、55㌔。

平成７年(1995)．６．７

サントリーが選考で質問状

五輪バドミントン

バドミントンのバルセロナ五輪日本代表決定で、世界ランキングが上位にもかかわらず代表から漏れた女子シングルスの金井和恵の所属するサントリー（富岡道雄部長）が六日、選考理由を明示するよう求める質問状を日本協会（桜内義雄会長）あてに郵送した。

内容は①国際バドミントン連盟（IBF）発表（五月一日付）の世界ランキングの変更はしないと聞いているが、その後各国内の協会がランキングにこだわらず、五輪出場選手の選考をしてもよいという決定をし、発表しているかどうか②ランキング三十一位の金井ではなく、三十二位の鴻原春美が選ばれた理由を明確に③IBFから鴻原選手の承認を得られたのであれば、その見解がわかる文書を開示してほしい、など。

山本次生監督は「不明朗な点があるので、ハッキリしてほしいということ。納得いく回答が得られれば、仕方ないでしょう」と話している。

昭和52年(1977). 5 . 16

この人に聞く

植野恵美子

世界バドミントン女子ダブルス優勝

きめ細かい技も研究

ユーバー杯獲得は日本の女子バドミントン界の大きな目標だ。今秋からアジアゾーンの予選が始まるが、いま一番期待をかけられているのが植野恵美子選手（四条畷女短大）。先の全英選手権、第一回世界選手権でベテラン梅野尾悦子（ヨネックス）と組み、二つのダブルスタイトルを手にした。パワーあふれる攻撃型の選手で四条畷学園高時代から早くも〝大器〟の片りんを見せ、シングルスの二年連続チャンピオン、三年生のときは植野尾と組み全日本選手権ダブルスで、高校生としては十五年ぶりの優勝を成し遂げた。日本一から全国の世界一へ。十九歳の若さ。彼女には、まだまだ伸びる素質がある。



「2冠」で自信が…
（四条畷女短大で）

――梅野尾さんとコンビを組んで一年半、もうすっかり息が合っているようですね。

一昨年秋の日中対抗で初めてコンビを組んだ。アネちゃん（梅野尾）は相沢さん（プロ転向）をなくしていたし、私もいいパートナーがいなかった。うちの片岡監督が二人を結びつけてくれたのですが、いつもアネちゃんに引っ張られている。今度の全英、世界選手権でも私が弱気になりかけたら強く励ましてくれた。世界選手権決勝でオランダ組に立ち上がり攻め込まれ、1―8とリードされたときに、アネちゃんが『相手はヘボよ、しっかり自を開けて』と声をかけてくれた。それから落ち着きが出て逆転できた。ダブルスって本当に心のつながりが大切だ、とつくづく思います。

――梅野尾さんは東京、植野さんは大阪、お互い離れていて練習不足の心配はありませんか。

練習計画を連絡し合うだけ。試合で顔を合わせたとき、相手の長所、短所を話し合って作戦を立てる。アネちゃんは前衛、私が後衛。二人とも攻撃タイプなので、できるだけつないで積極的に攻めるようにしているんです。今度の二つの大会で、自分でもびっくりするぐらい結りがついたみたい。

――中国、インドネシアが強豪といわれていますが、ヨーロッパ勢の力は。

日本も含めてアジア勢は、フットワークを生かしたパワーのバドミントンが主力です。ヨーロッパ勢はネットプレーなど細かい技が優れている。とくにヨーロッパでは、ミックスダブルスが盛んで、力強い男子のスマッシュに慣れている女子選手が多く、私らのスマッシュなんかポン、ポン止めてしまう。いい勉強になった。私も細かいプレーをこれから身につけなくちゃ。

今秋からいよいよユーバー杯の予選が始まりますが、今度の快挙でユ杯獲得の見通しも明るくなりますね。

二つもタイトルを取ってうんと自信がわいたみたい。ユ杯での強敵は若手のそろっているイギリス。みんな力が安定している。私もパワー一本のプレーから、いろんな細かいテクニックを研究して騙のある選手になりたい。もちろんダブルスだけでなくシングルスも。アネちゃんのようないい先輩に恵まれているんですから、力を合わせてユ杯もがんばります。

昭和52年(1977). 5 . 31

バドミントン

梅野尾、植野さんおめでとう――

三十日夜、大阪市内のホテルで先の全英と第一回世界バドミントン選手権大会の女子ダブルス両タイトルを獲得した梅野尾悦子さん（二七＝ヨネックス）と植野恵美子さん（一九＝四条畷短大）の祝賀会が、四条畷学園の主催で開かれた。

学園や大阪バドミントン協会などの関係者約百人が集まり、彼女たちの健闘をたたえたが、金ビョウブの前に立たされた二人は、試合とは違ったふん囲気にやや上がり気味。

実力は世界のトップクラスにありながら、日本ではマイナースポーツといわれるバドミントン。しかも大阪からこの競技の世界チャンピオンが誕生したのは初めてのことだけに、PRと〝第二の植野〟を育てようと、関係者の方が盛んに気勢をあげていた。

昭和52年(1977). 6 . 23



女子複も優勝の徳田(右)とペアの高田

徳田、湯木を下す

「女王の座」ついに交代

実業団バドミントン

第二十七回全日本実業団バドミントン選手権最終日は二十二日、京都府立体育館で男女のシングルス、ダブルスの決勝などが行われ、女子シングルス決勝で若手の徳田(サントリー)が、七連覇をめざしていたベテラン湯木(河崎ラケット)を破り初優勝。

昭和55年(1980). 12. 9

▽女子シングルス決勝

徳田(サントリー) 2(11-3, 6-11, 11-5)1 湯木(河崎ラケット)

若さで押した徳田

バドミントンの「女王」の座を守り続けた湯木が、ついに敗れた。この五年間、国内のシングル戦は無敗を誇り、先の全英選手権で四連勝した彼女だったが、徳田の若い力に一方的に押しまくられた。

第一セットから湯木の動きは重く、徳田はダブルスで優勝した勢いもあって、湯木のゆさぶりにピッタリ食い下がり、逆にゆさぶった。この徳田の前後のゆさぶりに湯木はミスを重ね、3-7から一気に引き離されて第一セットを落とした。

第二セットはやっと湯木の持ち味であるネットプレーが出て取ったが、第三セットのスタートで再びつまずいた。スマッシュ、カットプレーをネットにひっかけ、0-3とリードされた。若い徳田はこのチャンスに一気に勝負をかけ、持ち前の馬力でフォアー、バックへスマッシュを決め、6-0と大きく引き離した。あせる湯木のミスを誘って徳田は10-5のマッチポイントをつかんだあと、ラリーから湯木のバックにシャトルをたたきつけて優勝を決めた。

徳田は「最終セットに勝負をかけた。いつも湯木さんに比べてレシーブが甘くて、上がったら積極的に打つように心がけたんです。でも、この一回だけで自信がついたなんて思わない。かけ引きもまだまだうまいし、今後も油断の出来ない相手ですから」と気持ちを引き締める。

湯木は二十八歳。ラケットを握って十六年になる。徳田は二十二歳。キャリアは今年で十年目。湯木一人におんぶしていた日本の女子バドミントン界に、やっと後継者が誕生したようだ。

昭和63年(1988).12.19

期待の18歳 バドミントン女王

来春の世界選手権 日本代表の北田選手

バドミントンは日本スポーツ界で世界に通用する数少ない種目だ。特に女子は、三年ごとに開かれる世界選手権(ユーバー杯)のタイトル保持国で、来年五月に日本で開催される第九回大会は注目を集めている。なかでも初の日本代表に選ばれた北田スミ子(十八歳、四条畷女短大一年)に注がれる期待は大きい。

北田は先日の全日本総合に初出場、三回戦でベテラン湯木(河崎)を破ると一気に調子に乗り、東海林、徳田(サントリー)米倉(電電東京)のトップクラスを連破して〝女王〟の座についた。「ただ無心に戦っただけ。それにツキもあった」と、北田はまだ実感がわいて来ないようす。片岡監督も「来年はねらえると思っていたが……」と、思わぬ優勝が信じられない口ぶりだ。



「勝つからおもしろいわ」と語る北田スミ子選手＝大東市学園町の四条畷女短大で

無類の勝負根性 課題はスタミナ配分

だが、今年の戦績をみると、この優勝は決してまぐれではない。四条畷学園高時代は五十三、四年の高校三冠王(団体、単、複)。短大へ進んだ今年は四月の大阪学生選手権を皮切りに関西学生、西日本学生、それに関新人大会、関西学生リーグ、さらに全日本学生で史上三度目の三冠を制した。これに全日本総合を加えると、公式戦はざっと六十試合で、負け知らず。まさに破竹の勢いだ。北田も「勝つからおもしろいわ」とあっけらかんとしている。だから、どんな相手に対しても手をゆるめることをしない。性格丸出しの試合ぶりは、常に完ぺきをめざしており、片岡監督も「あくなき執念を持っている」と感心するほどだ。

北田の強みは、この性格に加え一六四㌢、六〇㌔の恵まれた体格だ。おもしろ半分に小学六年ごろからラケットを握ったが、それまで軟式テニスをしていたせいで手首が強かったのも武器となった。また、中学時代は練習でも負けると泣いたそうで、こんなところから無類の勝負根性がはぐくまれたようだ。

片岡監督は現在の北田を「攻守とも90点」という。湯気に育てた選手の中では、一番資質に恵まれており、全英選手権がねらえる大器とみている。同選手権は毎年三月に開かれるが、八十年の歴史があり、バドミントンを志すものにとっては最高峰といわれている。同選手権で湯木が唯一、梅野尾(旧姓＝竹中)が初で優勝したのは十九歳のとき。以来、トップクラスの力を保っている。十八歳の北田にも期待がかかるのは当然。

だが、課題もある。まず精神面だ。片岡監督は「負けがないのがこわい」という。余りにも勝ちすぎて、負けたときのショックが大きいというわけ。このために同年代の大型選手ラーセン(デンマーク)を自陣に「世界にはもっと強いのがいる」と吹き込んでいる。技術的には「ヘアピン」の確実さが必要だ。それにスタミナの配分、急から緩への動きなどもある。

湯木に取って代わったユーバー杯日本代表の座。北田は半年後に向けて、まず来年一月のジャパンオープンに照準を合わせている。そして三月の全英など欧州遠征がある。この武者修行で北田がどう成長するか、たのしみだ。

昭和63年(1988).12.19

63.12.19

「タテ花」バトンタッチ

北田、花道の5連覇

最多の通算8度目

バドミントン 全日本選手権

第四十二回全日本総合バドミントン選手権最終日は十八日、大阪・守口市民体育館で行われ、女子シングルスでは今大会で現役を退く北田スミ子（三洋電機）が五年連続八度目の優勝を飾った。優勝八度は男子の小島一平（元ヨネックス）と並ぶ史上最多。女子では単独トップで、引退に花を添えた。

二年ぶり三度目の決勝対決となった陣内貴美子（ヨネックス）戦。北田は軽いフットワークと緩急をつけたラケットさばきで常にリードし、ストレート勝ちした。

男子ダブルスは松野修二、松浦進一（NTT東京、フジチュス）戦。北田は軽いフットワークと緩急をつけたラケットさばきで常にリードし、ストレート勝ちした。

男子ダブルスは松野修二、松浦進一（NTT東京、フジチュス）戦。北田は軽いフットワークと緩急をつけたラケットさばきで常にリードし、ストレート勝ちした。

連勝「75」最後まで女王

八度目の優勝が決まった瞬間、観客席から色とりどりの紙テープが投げ込まれた。大きな拍手。ラケットを持った右手を上げて歓声にこたえる北田。初めの笑顔がやがて、涙で顔はくしゃくしゃ。

最後まで"女王"と呼ぶにふさわしい試合ぶりだった。第1ゲームは、相手コート深くへリターンを続けたあとの抜いた球が有効に決まって11―7。第2ゲームでは、巧みなヘアピンと、時折みせるジャンピングスマッシュで陣内のミスを誘い、11―6のストレート勝ち。そのラケットテクニックや軽快な足の運び、そして何よりも力強い動きを見ていると、国内での公式戦「75連勝」中の引退はやはり惜しい。

表彰式が終わり、応援に駆けつけた人たちから花束をもらうと、また涙顔に。すると突然、館内の照明がすべて消え、北田だけがスポットライトに浮かび上がった。協会のいきなはからいによる引退セレモニー。「恩をいもようなかったことでびっくりした。こんなにしていただいて、私って本当に幸せ者ですね」。

最後の試合には「勝負は別。自分の力のすべてをみんなに見てほしい」と臨んだ。試合中、「今日の陣内さんはクロスのスマッシュがいい。ロブが浅くなったらやられる」と、冷静に判断したのがいかにもベテランらしい。試合後、北田は「やっと終わりましたね」と、ほっとした表情をみせ、「次は若い選手たちに、どんどん世界へ出ていってほしい」と、後輩たちに夢を託した。

昭和63年(1988).12.19

ひと

全日本総合バドミントンで8度目の優勝を飾り、引退する

きた だ
北田 スミ子さん



昨年の全日本総合で、湯木博江（カワサキ）の優勝回数「6」を破り、今回「8」にした。ソウル五輪（エキシビション）でも銅メダルに輝き、バドミントンでの目標は「ぜーんぶ終わった」。

大阪府大東市生まれ。小学校六年でバドミントンを始め、四条畷女短大一年のとき、全日本総合初制覇。国内での公式戦106勝1敗。三洋電機原価管理課勤務。26歳。

「もっとやれや、といってくださる人もいますが、私としては『これ以上、何をどうやったらいいの』と、聞き返したいくらいです」。引退の記者会見では、終始、さわやかな笑顔が絶えなかった。

「いつも必ず目標があって、それに向かって生きて来た」と振り返る。中学二年のとき、全国中学校大会準決勝で自分のミスから勝ちを逃して「来年こそは」と思った。高校三年のときには右足首のじん帯を切り、予定していた全日本総合を欠場。「次こそ日本中の強豪を相手に自分の力をぶつけるんだ」と誓った。そして、どちらも翌年「日本一」に輝いた。

実家は菓子問屋。小さいころ、よく父親と一緒に配達に行った小売店で"おだちん"のジュースをもらった。得意先の迷惑を考える母親に「つていくのはやめなさい」といわれたが、「迷惑なんかかけてない」と、いうことをきかなかった。また、翌日の時間割りはしっかり合わせてから寝た。それも、何度も何度も見直して。こんながんこ、綿密な性格が、"女王の座"を支えてきたのだろう。

（山本 秀明記者）

平成４年(1992).12.13

'92.12.13

宮村、3年ぶり女王

ライバル水井妃破る

全日本バドミントン

バドミントンの第四十六回全日本総合選手権第四日は十二日、大阪・守口市民体育館で女子シングルス、男子ダブルスの各決勝などが行われた。

▽女子シングルス準決勝
宮村（サントリー）2（11-8 11-7）1 林（ヤマハ）
水井（フジチュー）2（11-6 11-5）0 水井（四条畷学園高）

▽同決勝
宮村 2（11-1 11-4）0 水井

▽男子ダブルス準決勝
松浦（NTT東京、フジチュー）2（15-5 15-1）0 浜木（トナミ運輸）
船北

注目の女子シングルス決勝は、全国中学大会以来のライバル、宮村愛子（サントリー）と水井妃佐子（フジチュー）が対戦。宮村が、水井をストレートで下し、三年ぶり二度目の女王の座についた。

男子ダブルスは松野修二、松浦進二組（NTT東京、フジチュー）が、初戦から1ゲームも落とさない危なげないプレーで史上最多の8連覇。九度目の優勝を飾った。

「一年一年しんどい」

予想通り、松野、松浦組が圧倒的な強さを見せ、男子ダブルス8連覇を果たした。法大一年の時にペアを組んでから十一年目。今年はダブルスに専念のため、ともにシングルスは出場しなかった。それでも松野は「プレッシャーがかかり、一年一年しんどい」と、ほっとした様子。だが、「いつまでも僕らの時代ではだめ」と、若手の成長に期待を寄せていた。

▽混合ダブルス準決勝
松浦（NTT東京）2（15-5 15-7）0 今井（NTT関西）辻田
松野 2（15-10 0-6 15-0）町宮田
笠原（ジャト2）1（15-9 9-15 18-16）0 植田（NTT関西、三洋電機）角谷
古賀（トヨタ自動車）2（15-3 15-14）0 田中（NTT北海道）佐村

「決勝戦は水井さんだったので、不安と恐怖でいっぱいだった。怖さから試合直前まで泣いていた」。準決勝の後、宮村はヘッドホンステレオで音楽を聞きながら、気をまぎらわしたという。ここまで順当に勝ち上がってきた水井に対し、宮村は初戦から精彩を欠き、苦戦続きだった。

第1ゲーム。宮村が1点を先取した後、二人の相譲らぬ攻防が展開される。サーブ権の交代が、実に十二回。宮村がスマッシュで2点目を手中にした。

この1点が勝負の明暗を分けようとは……。リズムをつかんだ宮村は、その後、クリアや緩急つけたスマッシュなどで得点を重ねた。サービスミスも出る水井に、反撃する間も与えず、あっさりと第1ゲームを取った。

第2ゲームでも、宮村は冷静なプレーで付けいるスキを見せない。と、いうより、いつもは粘って拾いまくる水井が、すっかり動揺してしまい、自分の動きを忘れてしまっていた。

宮村は十八歳で史上最年少の女王になったものの、その後はけがに悩まされ、中学以来のライバル、水井の陰に隠れてきた。バルセロナ五輪代表争いでも後れをとった。しかし、けがも治り、今年の社会人選手権で単複制覇し、見事に復活した。

試合後、「ゲームセットになるまで緊張を持続させていた」と宮村。「自分の精神力に負けた」と水井は泣いた。全日本八度制覇の北田スミ子さんも「最後は精神力の差」と分析する。

「不調の時、何度もやめようと思った」という宮村は、「続けてきてよかった。いまは楽しい」と声をはずませた。明るくなった、その愛くるしい表情には、すっかり自信がよみがえっていた。

（若林幹生）

平成４年(1992).12.13

緊張感持続しリズム

妹健闘光り 姉タジタジ

「お互いに、やりにくかった」と水井姉妹。準決勝で公式戦初の顔合わせが実現し、姉の妃佐子が貫録勝ちしたが、高校総体2連覇中の妹、泰子（四条畷学園高二年）の健闘も光った。積極的にスマッシュを打ち、バルセロナ五輪ベスト16の姉をたじたじとさせる場面も。ストレート負けしたものの、11点を奪った。姉妹を育ててきた四条畷学園の片岡監督は「まだまだ筋力の差が歴然」といいながらも、妹の成長ぶりに目を細めていた。

平成５年(1993)．１．９

夕刊

それぞれに人

今年にかける

関西のスポーツホープたち



ドイツでの世界選手権上位入賞を目指す斉藤さと美さん、「プロの壁」に挑む天理の南竜次さん……。久しぶりに関西にスポーツ界のホープたちが登場した。彼らはそれぞれの目標をもって、早くもトレーニングを始めている。

五輪の有力候補

水井 夕刊

昨年、バドミントンの全日本学生選手権、全日本総合選手権でともに初優勝した四条畷女短大一年の水井妃佐子選手(一八)＝写真＝は、台湾で開かれる国際大会に出場するため六日、日本を出発した。

「強い選手になりたい」と、中学二年の時に奈良県の中学から四条畷学園へ編入した。当初は毎日四、五時間の練習に音を上げた。だが、今では日本のトップ選手に成長、練習では男子選手を相手にしている。

バドミントンはバルセロナ五輪から正式種目となり、水井は日本代表の有力候補。それでも出場権を得るには、国際大会でポイントを稼がなければならない。台湾のほかにも多くの海外遠征を予定している。「外国選手はパワー、スピードがある。それに対抗できる技術を高める」のが今年の目標だ。

平成５年(1993)．12．20

姉妹対決、姉に栄冠

水井妃佐子、3年ぶりV

バドミントン選手権

バドミントンの全日本総合選手権最終日は十九日、東京・代々木第二体育館で女子シングルス、男子ダブルスの各決勝などが行われた。女子シングルス決勝は、大会史上初の姉妹対決となり、姉の水井妃佐子(フジチュー)が、妹の泰子(大阪・四条畷学園高)をストレートで下し、短大一年の時の初優勝以来、三年ぶりに日本一の座についた。

男子ダブルスは、松野修二、松浦進二組(NTT東京、フジチュー)が圧勝、九年連続十度目の優勝を果たした。

▽男子ダブルス準決勝
松野(NTT東京)・松浦(フジチュー) 2(15-12-15-10-5)0 竹田(法大)・太鼻
今辻(NTT関西)・井田(NTT東京) 2(15-10-12-15-10)0 町宮

▽同決勝
松野・松浦 2(15-1-3)0 今辻・井田

▽混合ダブルス準決勝
水井妃(フジチュー)・水井泰(大阪・四条畷学園高) 2(11-2-11-5-1)0 原田(三洋電機)・井戸
今井(NTT関西)・早川(NTT関西、三洋電機) 2(15-7-15-4)0 西田(NTT九州)・甲斐

▽女子シングルス準決勝
水井妃 2(11-1-11-7-5)0 水井泰
水井妃(フジチュー) 2(11-1-2-0-0)0 日原(チサチ)

平成４年(1992). ５.20

この人に聞く

国際ウィンブルドン・ジュニアバドミントン競技会で優勝した

水井　泰子さん

鋭さ身につけ　姉を超えたい



オランダ、デンマークなど十カ国が参加して十三日まで英国で行われた国際ウィンブルドン・ジュニアバドミントン競技会で女子シングルスを制した。現在、大阪・四条畷学園中三年。国内ではトップクラスの選手、水井妃佐子（四条畷女短大一年）を姉に持つ。今回の優勝で、姉をも知る指導者から「精神的に安定している。同じところの姉より力は上」と高い評価を受けた。将来の日本の女子バドミントン界を担う選手だろう。

――三度目の海外遠征だったそうですね

「これまでオランダ・西独、中国へ遠征しましたが、今回は不思議と緊張せず思い切ってプレーすることができました。日本と違う食事にも困らなかったし、通じない言葉も辞書を引きながら苦労するのが楽しかった。監督から『度胸のいいやつ』といわれました」

――成果は

「たくさん考えさせられることがあったけど、『積極的に自分から攻めていかないと勝てない』ということが分かったのが、一番の収穫でした。外国の選手は背が高くリーチも長い。165㌢の私は、深く返したつもりでも、逆にすぐ攻め込まれてしまう。だから、自分が試合のペースをつくらないといけない。たとえミスをしてもいい。とにかく前へ出なければ、と思いました」

――一緒に暮らすお姉さんは、刺激になりますか

「バドミントンを始めたのも、練習を終えた姉を迎えにいってラケットを握ったのがきっかけでした。選手としては、いまは手の届かない人。すごいな！、と感心してしまいます。二人で練習することもありません。でも、いつも私の頭の中のどこかにいます。そして、いつか私もあんなふうになるんだ、と思う。ときどき姉はこれまでの経験を話してくれます。それがいい勉強になるし、励みにもなるんです」

――一九九六年の五輪までには日本のエースに、の期待の声もあります。今後の目標を

「四月初めの中国遠征で上海の選手に競り負けて、まだまだ上があるんだなあ、と痛感しました。だけど、今回優勝できたことで自信が持てた。これからはまず、国内の同世代の選手に絶対負けないようになりたい。そして、フットワークの鋭さとスピードを身につけて、次の機会には世界で最も強いといわれる中国やマレーシアの選手と対等以上に戦えるようになりたい。そうすれば、姉を抜くことにもなりますから…」

[第 6 章]

規　　約

大阪バドミントン協会　規約

昭和２２年協会設立　昭和４１年９月改訂
昭和２５年　　制定　昭和４６年４月　〃
昭和２９年４月改訂　昭和５２年４月　〃
昭和３２年９月　〃　昭和６０年９月　〃
昭和３４年２月　〃　平成　４年４月　〃

第１章　名　　称

第１条　本会は大阪バドミントン協会と称する。

第２章　目　　的

第２条　本会は大阪府下のバドミントンの中枢機関となり、これを統括してバドミントンの健全なる普及振興並びに技術の向上を図り、併せて府民の健康増進および体位向上とスポーツ精神の高揚を図るとともに相互の親睦に寄与することを目的とする。

第３条　本会は㈶日本バドミントン協会の加盟団体としてこれに協力する。

第３章　組織および会員

第４条　本会は、本会の趣旨に賛同する役員および次のアマチュアバドミントン連盟をもって組織する。

１．大阪府実業団バドミントン連盟
２．大阪教職員バドミントン連盟
３．大阪社会人バドミントン連盟
４．大阪府家庭婦人バドミントン連盟
５．大阪学生バドミントン連盟
６．大阪高等学校体育連盟バドミントン部
７．大阪中学校体育連盟バドミントン部
８．大阪府小学生バドミントン連盟

第５条　会員は本会役員および前条のいずれかの加盟団体に登録した者をいう。登録に関しての規定は別に定める。

第６条　本会の事務局の所在地並びにその構成員については理事会の審議を経て会長が選定する。

第４章　事　　業

第７条　本会は第２章の目的を達成するため次の事業を行う。

１．競技会の開催
２．技術向上のための指導及び研修並びに講習の実施
３．公認指導員並びに公認審判員の養成と派遣
４．各層の優秀な選手の養成とそのために必要な訓練
５．バドミントンに関する情報研究資料の調査収集
６．必要な印刷物および機関紙の発行
７．その他本会の目的達成に必要な事業

第８条　本会の事業年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日終わる。

第 5 章　役　　員

第 9 条　本会に次の役員をおく。

1．会長　1名
2．副会長　若干名
3．理事長　1名
4．副理事長　若干名
5．常務理事　若干名
6．理事　若干名
7．監事　2名

第 10 条　本会は前条の他に理事会の審議を経て総会の承認を受け、名誉役員・顧問・参与をおくことができる。

第 11 条　第8条に定める役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。なお大阪学生バドミントン連盟所属の役員はその任期を1年とする。

第 12 条　役員の任期が満了となったときでも後任者が就任するまでは前任者がその職務を行う。

第 13 条　役員の欠員が生じ、その補充を必要とするときは所定の手続きを経て会長がこれを委嘱する。

この場合後任役員の任期は前任者の残任期間とする。

第 14 条　会長・副会長は総会において推薦する。

第 15 条　会長は本会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し会長が事故あるときはその会務を代行する。

第 16 条　理事長・副理事長および常務理事は、理事の互選を経て会長がこれを委嘱する。

第 17 条　理事長は理事会を司り、会長の命を受けて会務を処理執行する。副理事長は理事長を補佐し、理事長が事故あるときはその業務を代行する。

第 18 条　理事は第4条に定める各加盟団体の推薦する者を総会で承認し、会長がこれを委嘱する。

第 19 条　監事は総会の推薦により会長がこれを委嘱する。

第 20 条　監事は本会の会務を監査する。

第 21 条　名誉役員・顧問・参与は第１０条の手続きを経て、会長がこれを委嘱し、必要により会長の諮問に応じる。

第 6 章　代　議　員

第 22 条　代議員は第4条に定める各加盟団体の推薦する者を会長が委嘱する。

第 23 条　代議員の任期は2年とする。なお大阪学生バドミントン連盟所属の代議員は、その任期を1年とする。

第 24 条　代議員は第9条の役員を兼ねることはできない。第9条の役員に就任したときは、その資格を失う。

またこれによって生じた欠員については第２２条に準じて補充を行う。

第 7 章　会　　議

第 25 条　本会に次の会議をおく。

1．総　会
2．理事会
3．常務理事会

第 26 条　会議の成立は構成員総数の 2 分の 1 以上の出席を必要とする。

第 27 条　議事の決定はその出席構成員の 2 分の 1 以上の決議による。賛否同数の場合には議長がこれを決める。

第 28 条　総ての会議で当該構成員のうち止むを得ない事由で欠席をする場合は本人より委任状の提出を以て出席者と見做し、議事票決にも参加したものとする。

第 29 条　総会は第 9 条の役員および代議員で組織し、毎年 1 回会長がこれを召集し、開催する。但し、会長が必要と認めたときは臨時にこれを召集し、開催する。

第 30 条　総会は次の重要事項について審議し、これを議決する。

1．本会の運営に関する基本方針事項
2．本会の事業報告並びに収支決算報告
3．本会の事業計画並びに予算編成
4．規約・規定の新設および改訂
5．役員の推薦改選に関する事項
6．その他の重要事項

第 31 条　総会の議事は会長がこれを統裁する。

第 32 条　理事会は第 9 条の役員を以て構成し、原則として 3 ケ月に 1 回会長がこれを召集し、会長が議長となり開催する。

第 33 条　理事会は本会の運営業務に関する事項並びに総会により委任された事項の審議を行い、議決し執行する。

第 34 条　常務理事会は理事長、副理事長および常務理事を以て構成し、必要に応じ理事長がこれを召集し、理事長が議長となり開催する。

第 35 条　常務理事会は本会の常務事項並びに理事会より委嘱された事項の審議を行い処理執行する。

第 8 章　専門部および特別委員会

第 36 条　本会の事業執行を円滑にするため次の専門部をおくことができる。

1．総務部
2．財務部
3．競技部
4．指導部
5．審判部
6．強化部
7．広報誌部
8．国際部
9．マスコミ部

第 37 条　各専門部には部長・副部長をおく。部長は副理事長または常務理事より、副部長は常務理事または理事より、さらに各専門部員は理事または会員の中より選出する。その任期は第11条・第12条・第13条の役員に準じる。

第 38 条　専門部は総会・理事会・常務理事会または専門部相互間で委嘱された事項につき審議を行い、処理執行する。各専門部運営の細則は別に定める。

第 39 条　第36条の専門部以外に本会運営のため会長が必要と認めたときは特別委員会をおくことができる。

第 40 条　専門部および特別委員会の構成員は理事会の審議を経て会長が委嘱する。

第 9 章　賛 助 会 員

第 41 条　本会に賛助会員をおくことができる。

第 42 条　賛助会員規定は別に定める。

第 10 章　経理および会計

第 43 条　本会の経費は加盟団体の拠出する分担金・賛助会費・寄付金並びに補助金および事業その他の収入を以てこれに充当する。

第 44 条　加盟団体の拠出する分担金の額は毎年総会において決定する。

第 45 条　本会の会計年度は毎年4月1日より始まり、翌年3月31日に終わる。

第 46 条　財務担当役員は緊急必要ある場合には、予算の範囲内において会長の許可を得て支出することができる。但し、理事会の事後承認を得なければならない。

第 47 条　予算科目の変更・振替支出に付いても前項に準じる。

第 48 条　経理および会計に関する前各条以外の細則は別に定める。

第 11 章　規 約 の 改 廃

第 49 条　本規約の運用に疑義が生じた場合の運用および本規約の改廃に関しては、理事会の審議を経て総会において決定する。

第 12 章　附　　則

第 50 条　この規約は平成4年4月1日より実施する。

第 51 条　第6条の事務局の所在地を次の通りとする。

〒596－11　高槻市塚原6－21－2
岡 上 充 仁 気付
TEL　0726（93）9721
FAX　0726（92）1072

専門部業務分担表

H 8.10.18〔1／3〕

総務部	
登録	(1) 団体及び個人登録に関すること (2) 登録会員証の配布に関すること (3) 登録状況表の作成に関すること
書記	(1) 各種会議開催に伴う会場確保並びに周知に関すること (2) 各種会議の議事録作成及び周知に関すること (3) 各種会議の記録書等（資料、議事録等）の維持管理に関すること
総会	(1) 総会会場の確保並びに総会案内に関すること (2) 議案書作成の為の原稿依頼及び議案書作成全般に関すること (3) 総会全般に関すること (4) 総会報告書の作成並びに配付に関すること
要覧	(1) 要覧作成資料の取りまとめ及び要覧発行全般に関すること (2) 要覧会計の予算案及び決算案の作成に関すること (3) 要覧広告全般に関すること
上部大会	(1) 上部大会の開催案内に関すること (2) 上部大会への推薦選手の決定及び関係者への周知に関すること (3) 参加者の申込み受付及び大会本部への申込み手続きに関すること
窓口業務	(1) 日本バドミントン協会との窓口業務に関すること (2) その他の各種団体との窓口業務に関すること
その他	(1) その他理事長特命事項に関すること

財務部	
一般会計	(1) 一般会計の予算案及び決算案の作成に関すること (2) 一般会計帳票の作成並びに維持管理に関すること (3) その他一般会計業務全般に関すること
特別会計	(1) 特別会計の予算案及び決算案の作成に関すること (2) 特別会計帳票の作成並びに維持管理に関すること (3) その他特別会計業務全般に関すること
大会会計	＝日本リーグ、全日本総合大会等＝の有料大会に限る (1) 各種有料大会の予算案及び決算案の作成に関すること (2) 各大会会計帳票の作成並びに維持管理に関すること (3) その他会計業務全般に関すること
経過報告	(1) 一般会計及び特別会計の経過状況の4半期毎の報告に関すること (2) 予実対比表の作成に関すること
賛助会費	(1) 賛助会費の徴収に関すること（国際部との共同業務） (2) 賛助会費の帳票の作成並びに維持管理に関すること
その他	(1) その他理事長特命事項に関すること

競技部		指導部	
大会関係	＝大阪総合大会、府民体育祭及び＝ 国体予選会に限る (1) 年間大会計画案の作成及び会場確保全般に関すること (2) 大会要項の作成及び周知に関すること (3) 参加申し込みの受付、組合わせ、プログラム等の作成並びに関係者への周知及び大会運営全般に関すること (4) 大会役員の動員に関すること (5) 大会の決算報告の作成に関すること	講習会等	(1) 指導者講習会の計画案の作成に関すること (2) 実施事項の周知及び申し込み受付に関すること (3) カリキュラムの作成及び講師動員に関すること (4) 所属各連盟による講習会の援助
シャトル	(1) シャトルの調達及び維持管理に関すること		＝カリキュラムの一例＝ (1) 健全な指導者の育成をはかる (2) 基礎技術の習得 (3) 科学的トレーニングの導入 (4) 医学的知識を増やす (5) 将来を見越した選手の育成
記録	(1) 各大会の選手名簿の作成及び保管に関すること (2) 各大会記録の作成及び関係者への周知並びに保管に関すること (3) ランキング案の作成及び周知に関すること		
表彰	(1) 大会の勝者に対する表彰（カップ、表彰状の調達）に関すること (2) 持回りカップの管理に関すること (3) 前年度大会優勝者への杯返還の連絡に関すること		
運営規則等	(1) 大会運営規則等の作成及び維持管理に関すること		
用具管理	(1) 審判記録用紙、オーダー用紙並びに各種筆記用具等大会に要する備品、消耗品等の調達に関すること (2) コートマットの管理に関すること		
その他	(1) その他理事長特命事項に関すること	その他	(1) その他理事長特命事項に関すること

審　判　部	
審判活動	(1) 大阪協会主催及び主管大会の審判員の動員に関すること (2) 大阪協会主催及び主管大会の審判活動に関すること (3) その他審判活動全般に関すること
講習会等	(1) 審判員講習会・研修会の実施計画、予算案、決算書の作成に関すること (2) 実施事項の周知及び申し込み受付に関すること (3) カリキュラムの作成及び講師動員に関すること
専門部員	(1) 審判部専門部員の選出要請を各連盟への依頼に関すること (2) 審判部専門部員の名簿作成並びに維持管理に関すること
資格管理	(1) 公認審判員等関係資格の取得行為に関すること (2) 公認審判員等関係有資格者の維持管理に関すること (3) 公認審判員等関係有資格者リストの作成に関すること (4) 公認審判員等関係有資格者の増進対策推進に関すること
審査会等	(1) 公認審判員審査会の開催及び運営に関すること (2) 所属団体との窓口業務に関すること
その他	(1) 審判部会の開催全般に関すること (2) その他理事長特命事項に関すること

強　化　部	
選手選考会	(1) 大阪選抜チームの選手選考会計画案作成てに関すること (2) 組合わせ原案の作成に関すること
選抜チーム	(1) 選抜チームの選手名簿の作成及び保管に関すること (2) 選抜チームの練習計画の作成及び実施に関すること (3) 対外試合（国内外）の計画及び実施に関すること
国体予選	(1) 国民体育大会の府代表選手選考会の計画案作成に関すること (2) 組合わせ原案の作成に関すること
強化目標	＝平成９年大阪国体の総合優勝をめざして＝ (1) 選手選考に関すること (2) 選手強化の方法に関すること (3) 強化費用の使途計画書の作成及び決算報　告書の作成に関すること
専門部員	(1) 強化部専門部員の選手要請を各連盟への依頼に関すること (2) 強化部専門部員の名簿作成並びに維持管理に関すること
その他	(1) その他理事長特命事項に関すること

広報誌部		マスコミ部	
機関紙	(1) 機関紙「広報」の発行計画案作成及び周知に関すること (2) 機関紙「広報」の維持管理に関すること (3) 機関紙「広報」の会計処理全般及び予算、決算行為に関すること	広報活動	(1) 協会主催又は主管大会の開催日時等のマスコミ各社への伝達に関すること (2) 協会主催又は主管大会の記録等のマスコミ各社への伝達に関すること
		交流会	(1) 交流会の実施計画案の作成及び会場確保全般に関すること (2) 交流会要項の作成及び周知に関すること (3) 交流会の予算案及び決算案の作成に関すること
その他	(1) その他理事長特命事項に関すること	その他	(1) その他理事長特命事項に関すること

国　　際　　部			
賛助会員	(1) 賛助会員の勧誘活動並びに広報活動に関すること（理事長が主担当で国際部は補助担当） (2) 賛助会員の名簿作成及び周知に関すること（理事長が主担当で国際部は補助担当） (3) 賛助会費の徴収に関すること（財務部との共同業務） (4) 賛助会員への窓口業務に関すること（理事長が主担当で国際部は補助担当）		
選手選考	遠征する場合 (1) 常務理事会及び理事会に諮る為の要項の作成に関すること（強化部との協議事項）	要項の作成	招請する場合 (1) 上海市体育運動委員会との日程打ち合わせ
総務的担務	(1) 上海市体育運動委員会との日程並びにクラス別に依る折衝 (2) 大阪市教育委員会との折衝 （後援依頼と補助金の申請） (3) 旅行社との折衝 （航空券の手配等） (4) 招請保証書の請求 （上海市体育運動委員会） (5) 査証申請 （中国大阪在領事館） ——— 遠征 ——— (6) 事業報告書の作成 (7) 決算報告書の作成 (8) 大阪市ほか後援団体への報告 (9) 常務理事会及び理事会に報告	総務的担務	(1) 選手団の名簿、写真の請求 (2) 大阪市教育委員会と折衝 （後援依頼と補助金の申請） (3) 日中友好協会、大阪体育協会、新聞社に対し後援依頼 (4) 招請保証書の送付 （外務省→上海） (5) 通訳の選定 ——— 試合 ——— (6) 事業報告書の作成 (7) 決算報告書の作成
		大会の開催	(1) 実行委員会の編成、プログラム作成役員動員等
		選手団移動	(1) 上海選手団の移動時に連絡係として同行する
その他	(1) その他理事長特命事項に関すること		

大会運営要領

1．一般的事項

1－1　大阪バドミントン協会（以下大阪協会と称する）が主催または主管する大会は、（財）日本バドミントン協会（以下日本協会と称する）の競技規則ならびに大会運営規定および本要領に準拠して運営する。

1－2　大阪協会が主催または主管する大会を実施する場合は、必要に応じてその都度実行委員会を設置し、大会の準備から終了まで一切の業務を統括し、必要あるときは大会運営に関する具体的項目に決定する。

1－3　大会に参加する競技者は、大阪協会の会員であって、日本協会に会員登録を完了したも者あり、同時に当該大会の参加資格に適合する者でなければならない。
（但し、大阪府民体育祭バドミントン大会団体戦は、この限りではない。）

2．大　会

2－1　大阪協会の主催または主管する年次大会は次の通りとし、通常毎年下記の時期に行う。

(1) 大阪府民体育祭バドミントン大会　団体戦（４月上旬）
(2) 大阪総合バドミントン選手権大会　個人戦（５月）
(3) 大阪府民体育大会兼国民体育大会大阪府代表選手選考大会バドミントン競技の部個人戦（６月～７月）
(4) 大阪府小学生バドミントン大会（１２月上旬）
(5) 大阪府中学生バドミントン大会（３月下旬）

2－2　大阪協会の随時、主催または主管する大会は次の通りとする。

(1) 国民体育大会近畿地区大会バドミントン競技（ミニ団体）
(2) 近畿総合バドミントン選手権大会
(3) 近畿小学生バドミントン大会
(4) その他、大阪協会の必要と認めた大会

3．大会要項

3－1　大阪協会が主催または主管する年次大会の大会要領は原則として次の事項による。

(1) 大阪府民体育祭バドミントン大会（団体戦）
- 主　　催 － 大阪バドミントン協会
- 期　　日 － ６月～７月
- 種　　別 － 一般男子の部、一般女子の部
- 競技規則 － 日本協会現行競技規則による。
- 試合方法 － トーナメントまたはリーグ戦による団体戦
- 参加資格 － 大阪府に在住、勤務、在学するものに限る
- 参 加 料 － 大阪協会にて決定する。
- 表　　彰 － ３位まで賞状授与、優勝チームに持ち回り杯を授与する

(2) 大阪総合バドミントン選手権大会（個人戦）
- 主　　催 － 大阪バドミントン協会
- 期　　日 － ５月
- 種　　別 － 一般男子　単・複（年令制限なし）

一般女子　単・複（年令制限なし）
混　　合　　複（　　〃　　）
成年男子　単・複（年齢起算日は、当年４月２日とする）
成年女子　　複（　　〃　　）
壮年男子　単・複（年齢起算日は、当年４月２日とする）
壮年女子　　複（　　〃　　）
実年男子　単・複（年齢起算日は、当年４月２日とする）
実年女子　　複（　　〃　　）
熟年男子　　複（年齢起算日は、当年４月２日とする）

・競技規則 － 日本協会現行競技規則ならびに日本協会大会運営規定による。
・試合方法 － 各種目ともトーナメント方式
・参加資格 － 大阪協会を通じて日本協会の登録を完了しているもの。
・出場制限 － (1) １人２種目以内とする（上記種目を１４種目とする）
(2) 一般男子のみ下記の割り当てを行う。
（実業団）単３２　　複２０
（社会人）単３２　　複２０
（教職員）単１６　　複１０
（大　学）単３２　　複２０
（高　校）単　８　　複　４
(3) 二世代にまたがっての出場は出来ない
・参 加 料 － 大阪協会にて決定する。
・表　　彰 － (1) 各種目とも３位まで賞状を授与する
(2) 優勝者に持ち回り杯を授与する

(3) 府民体育大会兼国民体育大会大阪府代表選手選考大会バドミントン競技の部個人戦
・主　　管 － 大阪バドミントン協会
・期　　日 － ６月～７月
・種　　別 － 成人男子、成人女子、少年男子、少年女子
・競技規則 － 日本協会現行競技規則ならびに日本協会大会運営規定による。
・試合方法 － 各種目ともトーナメント又はリーグ戦
・参加資格 － (1) 日本国籍を有し、４月３０日以前から引き続き大阪府に在住、勤務または通学しているもの。（少年男子・女子は日本国籍不要）
(2) 前年度において、他の都道府県から国体（地区予選を含む）に参加しなかった者に限る。但し、新卒者および結婚による場合は除く。
(3) 成年の部は、４月２日現在満１９才以上のもの。
(4) 少年の部は、４月２日現在満１８才以下のもの。
(5) 本大会当日までに日本協会へ会員登録を完了したもの。
(6) 日本協会登録の大学生及び全日本学生連盟加盟の学生は除く。
・参 加 料 － 大阪協会にて決定する。
・そ の 他 － 第１次及び第２次予選成績の結果、３名を大阪府の代表選手とする。

(4) 大阪府小学生バドミントン大会
・主　　催 － 大阪バドミントン協会
・期　　日 － １２月上旬

・試合方法 － 男女学年別によるダブルスのトーナメント戦
・参加資格 － 大阪府下の小学生で日本協会へ会員登録を完了したもの
・参 加 料 － 大阪協会にて決定する
・表　　彰 － 優秀者に賞状を授与する

(5) 大阪府中学生バドミントン大会
・主　　催 － 大阪バドミントン協会
・期　　日 － 3月下旬
・試合方法 － 男女別によるトーナメント方式で団体戦
・参加資格 － 大阪府下の中学生で日本協会へ会員登録を完了したもの
・参 加 料 － 大阪協会にて決定する
・表　　彰 － 3位まで賞状を授与する

[第7章]

資　　料

大阪府バドミントン協會規約（昭和２５年制定）

第１章　名稱及事務所

第１條　本會は大阪府バドミントン協會と稱す。

第２條　本會は大阪市西區土佐堀通２丁目１２番地大阪基督教青年會に事務所を置く。

第２章　目的及事業

第３條　本會は大阪府のバドミントン中樞機關となりバドミントンの健全なる普及發達を圖り併せて府民体位の向上に寄與するを目的とす。

第４條　本會は前條の目的を達成するために左の事業を行う。

１、大阪府選手權競技大會竝に其の他の競技會の開催

２、競技の指導竝に講習會の開催

３、バドミントンに関する調査、研究資料の蒐集、要すれば印刷物及び機關誌の發行

４、其の他本會の目的を達成するに必要なる事項

第３項　會員及び會費

第５條　本會は本會に贊同するアマチュアバドミントン團体及個人を以て會員とする。

第６條　入會及び會費に関する事項は理事會の議を經て別に之を定める。

第４章　經費及會計

第７條　本會の經費は會費、補助金其の他の収入を以て之に充つ。

第８條　本會の會計年度は毎年四月一日に始り翌年三月末日を以て終る。

第５章　役　　員

第９條　本會の左の役員を置く。

會　長　　一　名

理　事　　若干名（理事長一名　理事若干名　會計理事二名）

第10條　會長は理事会に於て推薦する。

第11條　會長は本會を代表し會務を總理する。

第12條　理事長は理事の互選による。

理事長は本會を代表し且つ會長の命を受け會務を執行する。

第13條　役員の任期は二年とする。但し重任を妨げない。

第14條　本會は必要により理事會の議を經て名誉會長、顧問、蓼與を置くことが出来る。

第15條　本會は必要により専門委員を置く事が出来る。

専門委員に関する規定は理事會の決議により別に定める。

第６章　會　　議

第16條　總會は會長、理事（第１４條該當者も加はる事が出来る）で組織する。

總會は左の重要事項を審議する。

事業竝に収支決算報告

豫算編成並に事業計画

規約の變更其の他

總會の議事は會長之を統裁する。

總會は毎年一同會長之を招集する。

第17條　理事會は會長、理事で組織する。理事會は總会から委任されたる事項を執行する。

理事會は必要により會長之を招集する。

理事會の議事は會長之を統裁する。

大阪バドミントン協会　昭和３５年度　会計報告

自　昭和３５年４月１日
至　昭和３６年３月31日

収入の部

科　目	摘　　要	金　額
連盟分担金	実業団連盟	19,000
	大　学　連	19,000
	高　体　連	19,000
	中　体　連	2,000
雑　収　入	個人加盟費（６×２００）	1,200
	府民体育祭残金	6,200
	収　入　合　計	66,400
	３５年度赤字分	2,146
		68,546

（註）
実業団連盟より34年度分担金未納分3,000円が入る予定ですので、実質的には赤字は解消され854円黒字となります。

支出の部

科　目	摘　　要	金　額
分　担　金	日本協会支部分担金	6,000
会　議　費	総会・理事会等	12,720
通信連絡費	郵便・電話料金	5,565
大　会　費	五大都市大会	1,000
役員行動費	国　体　予　選	3,000
雑　　費	国体選手派遣費	20,430
	近畿代表者会議	3,366
	実業団大会会合	400
	各種打ち合せ交通費	2,595
	体連会長餞別金	3,000
	古式相撲入場券（４枚）	7,200
	協会役員登録料	2,000
	審　判　関　係	720
	競技規則書（25冊）	550
支出合計		58,546

全日本総合バドミントン選手権大会

歴代優勝者

・昭和３４年までは全日本選手権大会、昭和３５年度以降現大会名で今日に至る。

種目 / 年度	男子		女子		混合ダブルス
	シングルス	ダブルス	シングルス	ダブルス	
昭和22年	岡　淳一	広田　敏秀・藤井　光男	中村　たき	川俣千枝子・中村　たき	森　勇・岡　広子
23	〃	〃・〃	吉田とよ子	〃・〃	E・エマール・川俣千枝子
24	〃	岡　淳一・相馬　万吉	〃	吉田とよ子・田村知江子	山田　康久・田村知江子
25	〃	岡　淳一・岡　道明	遠藤　文子	遠藤　文子・小林　歌子	〃・〃
26	広田　敏秀	広田　敏秀・岡　道明	登　悦子	堀江　綾子・保田　久子	渋谷　弘敏・小島　信
27	〃	吉原　秀雄・藤井　昴一	吉田　光子	遠藤　文子・荒川とみ子	〃・〃
28	望月　文雄	佐藤　芳朗・山崎　茂	荒川とみ子	小林　歌子・荒川とみ子	〃・〃
29	上田　益弘	片石　兼敏・加藤　正則	大川　良子	大川　良子・藤田　光子	上谷　茂己・小沢　良美
30	片石　兼敏	片石　兼敏・加藤　正則	権田　節子	戸田　寿子・小林　桂子	小飼　栄一・本庄　純子
31	佐藤　芳朗	片石　兼敏・永井　栄一	横井キヌエ	大川　良子・小林　歌子	石原　利道・戸田　寿子
32	永井　栄一	永井　栄一・並木　伸裕	田島外茂子	田島外茂子・宮川ツヤエ	〃
33	佐藤　芳朗	〃・〃	〃	田島　玲子・高橋　洋子	貝戸　肇・諸田みや子
34	板垣　隆房	山田　善康・中村　智	〃	田島外茂子・山崎紀久子	北島　克英・有木とみ子
35	小宮　好雄	沢田　力・森　晃一	橘　美智子	高橋　泰子・長野　文子	毛利　清志・根岸　純
36	〃	〃・〃	秋山　文子	木村　政子・横山　満子	杉田　博・杉田　良子
37	宮永　武司	〃・〃	高木　紀子	高木　紀子・諸田みや子	星野　忠男・有木とみ子
38	渡部　鉱一	鈴木　幸春・東条　義昭	横山　文子	有木とみ子・三原　弘美	〃・〃
39	宮永　武司	堺　栄一・宮永　武司	高木　紀子	高木　紀子・天野　博江	〃・〃
40	秋山　真男	堺　栄一・宮永　武司	横山　満子	高木　紀子・天野　博江	東条　義昭・横井　文子
41	小島　一平	〃・〃	高木　紀子	〃・〃	小宮　好雄・上野　明美
42	〃	秋山　真男・小島　一平	〃	〃・〃	板垣　善憲・大田　節子
43	〃	〃・〃	高橋とも子	相沢マチ子・竹中　悦子	鈴木　健二・有木とみ子
44	〃	〃・〃	湯木　博恵	〃・〃	〃・〃
45	〃	堺　栄一・梅野尾昌一	竹中　悦子	〃・〃	堺　栄一・天野　博江
46	梅野尾昌一	鈴木　建二・池田　信孝	中山　紀子	中山　紀子・湯木　博恵	〃・〃
47	小島　一平	秋山　真男・小島　一平	湯木　博恵	相沢マチ子・竹中　悦子	〃・〃
48	〃	池田　信孝・梅野尾昌一	〃	〃・〃	梅野尾昌一・竹中　悦子
49	銭谷　欽治	〃・〃	〃	湯木　博恵・池田　美加	〃・〃
50	小島　一平	飯野　佳孝・土田　証雄	湯木　博恵	竹中　悦子・植野恵美子	今井　茂満・池田　美加
51	銭谷　欽治	池田　信孝・梅野尾昌一	〃	梅野尾悦子・植野恵美子	梅野尾昌一・梅野尾悦子
52	〃	飯野　佳孝・土田　証雄	近藤　小織	徳田　敦子・高田　幹子	日下　昇・牛田真由美
53	〃	〃・〃	徳田　敦子	〃・〃	中井　基夫・千葉　陽子
54	〃	池田　信孝・尾崎　幹雄	米倉よし子	米倉よし子・徳田　敦子	梅野尾昌一・梅野尾悦子
55	長谷川博幸	飯野　佳孝・土田　証雄	北田スミ子	〃・〃	中井　基夫・端　洋護
56	銭谷　欽治	銭谷　欽治・西山　博司	〃	〃・〃	梅野尾昌一・梅野尾悦子
57	長谷川博幸	長谷川博幸・宮本　幸弘	〃	〃・〃	辻　敏弘・徳永　順子
58	〃	松野　修二・松浦　進二	東海林文子	〃・〃	鈴木　裕・関根　和子
59	銭谷　欽治	宮森　庄吉・井上　哲章	北田スミ子	〃・〃	工士　恭司・陣内貴美子
60	西山　博司	松野　修二・松浦　進二	北田スミ子	高峯　和子・星　和枝	冨田　章夫・冨田美千子
61	松浦　進二	〃・〃	〃	米倉よし子・徳田　敦子	谷田　尚嗣・高峯　和子
62	西山　博司	〃・〃	〃	田児よし子・徳田　敦子	長谷川博幸・森山　弘美
63	松浦　進二	〃・〃	〃	陣内貴美子・森　久子	谷田　尚嗣・廣田　時子
平成元年	松野　修二	〃・〃	宮村　愛子	〃・〃	〃・〃
平成２年	松浦　進二	〃・〃	水井妃佐子	〃・〃	早戸　敬雄・田代美智世
平成３年	松野　修二	〃・〃	松尾　知美	松尾　知美・捧　匡子	辻田　泰昌・松田　治子
平成４年	霜上　和宏	〃・〃	宮村　愛子	廣田　時子・小池由扶子	古賀　勝志・藤本　暢子
平成５年	町田　文彦	〃・〃	水井妃佐子	〃・〃	今井　彰弘・甲斐　美和
平成６年	〃	江藤　裕樹・柳谷　辰哉	〃	松尾　知美・阪本　雅子	〃・〃
平成７年	町田　文彦	町田　文彦・渡辺　清一	水井妃佐子	松尾　知美・阪本　雅子	気谷　篤人・佐々木　忍
平成８年	須賀　隆弘	片山　卓哉・久保田雄三	井田　貴子	岩田　良子・松田　治子	今井　紀夫・松田　治子

全日本社会人バドミントン選手権大会

過去の優勝者

開催年	回数	開催地	一般男子単 優勝		一般男子複 優勝		一般男女子単 優勝		一般女子複 優勝		混合複 優勝	
1958	1	札幌市	佐藤 芳郎	神奈川	山田 養三 生田仁紀雄	仙台郵政	横井キヌエ	普通寺 森岡経理	横井キヌエ 山下 久子	普通寺 森岡経理	石原 利通 戸田 寿子	岡山
1959	2	普通寺市	佐藤 芳郎	神奈川	佐藤 芳郎 杉田 博	小田急観光 港南中教員	横井キヌエ	普通寺 森岡経理	横井キヌエ 山下 久子	普通寺 森岡経理	貝戸 肇 諸田みや子	東京都
1960	3	名古屋市	杉田 博	港南中教員	荒木亥久男 大野 幸雄	十条製紙	高島 陽子	高岡市役所	高島 陽子 中島 玲子	高岡市役所	北島 克英 有木トミ子	東京都
1961	4	倉敷市	永井 栄一	三越	片石 兼敏 永井 栄一	岩倉ホモゲン 三越	橘 美智子	般岩鉄工	福本 和子 福井 文子	百十四銀行 香川	杉田 博 杉田 良子	神奈川
1962	5	熊本市	小宮 好雄	トヨタ 自動車	星野 忠男 宮田 登	電電東京	横井 文子	琴平電鉄	橘 美智子 洒井美智子	金森成平商店	小宮 好雄 蔵本 文子	トヨタ 自動車
1963	6	市岡市	小宮 好雄	トヨタ 自動車	小宮 好雄 板垣 善憲	トヨタ 自動車	横山 満子	帝国石油	横井 文子 森 久子	琴平電鉄	星野 忠男 有木トミ子	電電東京
1964	7	大宮市	宮永 武司	明治生命	宮永 武司 堺 栄一	明治生命 河崎ラケット	高木 紀子	岐阜	高木 紀子 天野 博江	岐阜	星野 忠男 有木トミ子	電電東京
1965	8	武生市	宮永 武司	明治生命	宮永 武司 堺 栄一	明治生命 河崎ラケット	高木 紀子	岐阜	高木 紀子 天野 博江	岐阜	板垣 善憲 粂田 順子	トヨタ 自動車
1966	9	長崎市	秋山 真男	ヨネヤマ ラケット	岡崎 恵三 秋山 真男	甲府市役所 ヨネヤマラケット	近藤 光枝	大阪	近藤 光枝 才脇 妙子	大阪	板垣 善憲 粂田 順子	トヨタ 自動車
1967	10	釜石市	板垣 善憲	トヨタ 自動車	小宮 好雄 板垣 善憲	トヨタ 自動車	高木 紀子	岐阜	高木 紀子 天野 博江	岐阜	板垣 善憲 太田 節子	トヨタ 自動車
1968	11	和歌山市	小島 一平	ヨネヤマ ラケット	堺 栄一 西野 一征	河崎 ラケット	高橋とも子	北辰電機	高木 紀子 天野 博江	岐阜	鈴木 幸男 有木トミ子	電電東京
1969	12	鹿児島市	小島 一平	ヨネヤマ ラケット	堺 栄一 関 一誠	河崎 ラケット	谷 恵美子	富山市役所	上野 明美 太田 節子	トヨタ 自動車	安沢 武司 金子美和子	トヨタ 自動車
1970	13	千葉市	小島 一平	ヨネヤマ ラケット	堺 栄一 関 一誠	河崎 ラケット	竹中 悦子	ヨネヤマラケット	竹中 悦子 相沢マチ子	ヨネヤマ ラケット	堺 栄一 天野 博江	河崎ラケット 岐阜
1971	14	甲府市	秋山 真男	山梨	本間 順次 松島 保	トヨタ自工	高木 紀子	弘文堂	高木 紀子 湯木 博恵	弘文堂 河崎ラケット	堺 栄一 天野 博江	河崎ラケット 岐阜
1972	15	四日市市	秋山 真男	山梨	宮川 秀樹 関 一誠	東京都	中山 紀子	弘文堂	中山 紀子 湯木 博恵	弘文堂 河崎ラケット	堺 栄一 天野 博江	河崎ラケット 岐阜
1973	16	佐賀市	小島 一平	ヨネヤマ ラケット	今泉 勉 牧野 光男	高岡市役所	湯木 博恵	河崎 ラケット	湯木 博恵 柴山きよ子	河崎 ラケット	堺 栄一 天野 博江	河崎ラケット 岐阜
1974	17	浪岡市	今泉 勉	高岡市役所	池田 信孝 尾崎 幹雄	電電東京	湯木 博恵	河崎 ラケット	湯木 博恵 池田 美加	河崎 ラケット	今井 茂満 池田 美加	河崎ラケット
1975	18	中野市	小島 一平	神奈川	栂野尾昌一 飯野 佳孝	ヨネックス	湯木 博恵	河崎 ラケット	湯木 博恵 池田 美加	河崎 ラケット	今井 茂満 池田 美加	河崎ラケット
1976	19	宮崎市	銭谷 欽治	河崎 ラケット	今泉 勉 牧野 光男	高岡市役所	湯木 博恵	河崎 ラケット	栂野尾悦子 古谷 成代	ヨネックス	栂野尾昌一 栂野尾悦子	ヨネックス
1977	20	真岡市	土田 証雄	電電東京	栂野尾昌一 飯野 佳孝	ヨネックス	湯木 博恵	河崎 ラケット	徳田 敦子 高田 幹子	サントリー	池田 信孝 池田 茂子	電電東京
1978	21	大津市	長谷川 進	石川	今泉 勉 牧野 光男	高岡市役所	湯木 博恵	河崎 ラケット	米倉よし子 植野恵美子	電電東京 ヨネックス	日下 昇 牛田真由美	百十四銀行
1979	22	松江市	銭谷 欽治	河崎 ラケット	池田 信孝 尾崎 幹雄	電電東京	湯木 博恵	河崎 ラケット	土田 美加 原田美智子	東京	土田 証雄 土田 美加	電電東京 東京
1980	23	桐生市	銭谷 欽治	河崎 ラケット	栂野尾昌一 飯野 佳孝	ヨネックス	近藤 小織	河崎 ラケット	米倉よし子 徳田 敦子	電電東京 サントリー	森下 一夫 谷 美津代	サントリー
1981	24	登別市	土田 証雄	電電東京	土田 証雄 宮森 庄吉	電電東京	湯木 博恵	河崎 ラケット	米倉よし子 三田知佳子	電電東京	宮森 庄吉 三田知佳子	電電東京
1982	25	桐生市	長谷川博幸	ヨネックス	土田 証雄 宮森 庄吉	電電東京	北田スミ子	三洋電機	米倉よし子 徳田 敦子	東京 電電東京	鈴木 裕 関根 和子	新潟
1983	26	田原本町	銭谷 欽治	カワサキ ラケット	土田 証雄 宮森 庄吉	電電東京	北田スミ子	三洋電機	米倉よし子 徳田 敦子	東京 電電東京	栂野尾昌一 栂野尾悦子	ヨネックス
1984	27	大栄市	西山 博司	電電東京	長谷川博幸 宮本 幸弘	ヨネックス	北田スミ子	三洋電機	米倉よし子 徳田 敦子	東京 NTT東京	工士 恭司 陣内貴美子	熊本
1985	28	甲府市	西山 博司	NTT東京	長谷川博幸 宮本 幸弘	ヨネックス	米倉よし子	電電東京	米倉よし子 徳田 敦子	東京 NTT東京	谷田 尚嗣 高峯 和子	大阪 サントリー
1986	29	糸満市	井上 哲章	東京	西山 博司 松浦 進二	NTT東京 ヨネックス	北田スミ子	三洋電機	米倉よし子 徳田 敦子	東京 NTT東京	谷田 尚嗣 高峯 和子	大阪 サントリー
1987	30	長岡京市	松野 修二	NTT東京	松浦 進二 松野 修二	フジチュー NTT東京	北田スミ子	三洋電機	北田スミ子 小泉 陽子	三洋電機	鈴木 裕 月岡 広美	新潟
1988	31	登別市	西山 博司	NTT東京	西山 博司 井上 哲章	NTT東京 ヨネックス	鴻原 春美	三洋電機	陣内貴美子 森 久子	ヨネックス	宮 康二 高峯 尚子	東京
1989	32	筑紫野市	西山 博司	NTT東京	松浦 進二 松野 修二	フジチュー NTT東京	小池由扶子	サントリー	陣内貴美子 森 久子	ヨネックス	谷田 尚嗣 廣田 時子	大阪 サントリー
1990	33	美川町	江藤 裕司	NTT東京	松浦 進二 松野 修二	フジチュー NTT東京	金井 和恵	サントリー	陣内貴美子 森 久子	ヨネックス	村山 友二 今村 薫	NTT関西 三洋電機
1991	34	新庄市	江藤 裕樹	NTT東京	松浦 進二 松野 修二	フジチュー NTT東京	谷地 春子	サントリー	田児よし子 鴻原 春美	NTT東京 尚美学園		
1992	35	坂出市	町田 文彦	NTT東京	松浦 進二 松野 修二	フジチュー NTT東京	宮村 愛子	サントリー	宮村 愛子 松田 治子	サントリー		
1993	36	大府市	町田 文彦	NTT東京	町田 文彦 宮 康二	NTT東京	金井 和恵	サントリー	田村富士美 岩田 良子	ヨネックス		
1994	37	白河市	須賀 隆弘	NTT東京	久保田雄三 片山 卓哉	東京	井田 貴子	三洋電機	宮村 愛子 宮村亜貴子	サントリー		
1995	38	三原市	須賀 隆弘	NTT東京	宮 康二 高橋 英治	NTT東京	水井妃佐子	フジチュー	宮村 愛子 宮村亜貴子	サントリー	吉武 裕史 田村富士美	吉松歯科医院
1996	39	人東市	霜上 和宏	YKK九州	太田 憲二 竹鼻 拓也	NTT東京	井田 貴子	三洋電機	宮村 愛子 宮村亜貴子	リンリ	松野 修二 田児よし子	NTT東京
1997	40	大和市	霜上 和宏	YKK九州	今井 紀夫 大山 宏司	トナミ運輸	水井 泰子	フジチュー	中山智香子 増茂 孝枝	三洋電機	清水 文武 田村富士美	ベスト電器

バドミントン日本リーグ大会成績

男子の部

	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
第1回大会(昭和54年)	ヨネックス	電電東京	全日本学生	カワサキ	高岡市役所			
第2回大会(昭和55年)	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	全日本学生	カワサキ	電電北海道		
第3回大会(昭和56年)	電電東京	全日本大	高岡市役所	カワサキ	電電北海道	ヨネックス		
第4回大会(昭和57年)	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	全日本大	カワサキ	電電北海道		
第5回大会(昭和58年)	ヨネックス	電電東京	高岡市役所	電電北海道	カワサキ	電電近畿		
第6回大会(昭和59年)	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	トヨタ自動車	電電近畿	電電北海道		
第7回大会(昭和60年)	NTT東京	ヨネックス	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT関西	高岡市役所		
第8回大会(昭和61年)	ヨネックス	NTT東京	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT関西	高岡市役所		
第9回大会(昭和62年)	NTT東京	ヨネックス	トヨタ自動車	NTT関西	NTT北海道	高岡市役所		
第10回大会(昭和63年)	NTT東京	トヨタ自動車	NTT関西	NTT北海道	日本電装	高岡市役所		
第11回大会(平成元年)	NTT東京	NTT関西	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT東北	日本電装		
第12回大会(平成2年)	NTT東京	NTT北海道	NTT関西	トナミ運輸	日本電装	北國銀行	トヨタ自動車	ジャトコ
第13回大会(平成3年)	NTT東京	トナミ運輸	NTT関西	北國銀行	トナミ運輸	日本電装	NTT北海道	NTT東北
第14回大会(平成4年)	NTT東京	NTT関西	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	トヨタ自動車	日本電装	北國銀行
第15回大会(平成5年)	NTT東京	トナミ運輸	NTT関西	日本ユニシス	NTT東北	NTT北海道	日本電装	トヨタ自動車
バドミントン日本リーグ'94	NTT東京	NTT関西	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	NTT東北	ベスト電器	日本電装
バドミントン日本リーグ'95	NTT東京	日本ユニシス	YKK九州	ベスト電器	NTT東北	トナミ運輸	NTT北海道	NTT関西
バドミントン日本リーグ'96	NTT東京	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	YKK九州	NTT関西	ベスト電器	NTT東北

女子の部

	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
第1回大会(昭和54年)	サントリー	ヨネックス	カワサキ	全日本学生	日本電装			
第2回大会(昭和55年)	カワサキ	サントリー	ヨネックス	三洋電機	全日本学生	日本電装		
第3回大会(昭和56年)	サントリー	ヨネックス	三洋電機	カワサキ	日本電装	全日体大		
第4回大会(昭和57年)	サントリー	三洋電機	ヨネックス	全日体大	カワサキ	日本電装		
第5回大会(昭和58年)	サントリー	ヨネックス	三洋電機	日本電装	日本楽器	カワサキ		
第6回大会(昭和59年)	サントリー	三洋電機	ヨネックス	日本電装	日本楽器	トヨタ自動		
第7回大会(昭和60年)	サントリー	三洋電機	ヨネックス	日本電装	三協アルミ	日本楽器		
第8回大会(昭和61年)	三洋電機	三協アルミ	NTT東京	サントリー	ヨネックス	日本電装		
第9回大会(昭和62年)	ヨネックス	三洋電機	NTT東京	サントリー	三協アルミ	日本電装		
第10回大会(昭和63年)	ヨネックス	三洋電機	サントリー	ヤマハ	三協アルミ	日本電装		
第11回大会(平成元年)	サントリー	三洋電機	ヨネックス	三協アルミ	ヤマハ	NTT東京		
第12回大会(平成2年)	三洋電機	サントリー	ヨネックス	ヤマハ	九州日本電	三協アルミ	NTT東京	ベスト電器
第13回大会(平成3年)	サントリー	ヨネックス	NTT東京	ヤマハ	三洋電機	三協アルミ	九州日本電	ベスト電器
第14回大会(平成4年)	サントリー	三協アルミ	NEC九州	ヤマハ	NTT東京	三洋電機	ヨネックス	NEC相模
第15回大会(平成5年)	サントリー	三洋電機	NTT東京	ヤマハ	NEC九州	ヨネックス	三協アルミ	NEC
バドミントン日本リーグ'94	サントリー	三協アルミ	三洋電機	ヤマハ	NTT東京	NEC九州	ヨネックス	ベスト電器
バドミントン日本リーグ'95	三洋電機	三協アルミ	サントリー	NEC九州	ベスト電器	NTT東京	三菱電機	東北電力新潟
バドミントン日本リーグ'96	三洋電機	三協アルミ	NTT東京	サントリー	ベスト電器	東北電力	NEC九州	三菱電機

全日本実業団バドミントン選手権大会

過去の栄冠

男子団体

	年	開催地	回数	優勝			準優勝		
				チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
男子団体	1952	東京都	第1回	十條製紙伏木工場（富山）	石上　実	清水　正　筆谷　浩仁 工　粂夫　宮下　芳一 釣谷　友一　佐野善治郎 正村慎一郎	トヨタ自動車（愛知）	酒巻　和男	上羽　家秀　岩月　真平 小池　鉱市　蟹　和夫 貝本　暁　中井　義行 酒巻　和男
	1953	横浜市	第2回	十條製紙伏木工場（富山）	正村慎一郎	正村慎一郎　清水　正 筆谷　浩仁　工　粂夫 宮下　芳一　釣谷　友一 佐野善治郎	ナルトスポーツ（神奈川）	秋元　幾男	岡　淳一　秋元　幾男 相馬　万吉　井上　正春 脇　養次郎
	1954	長崎市	第3回	十條製紙伏木工場（富山）	石上　実	石上　実　清水　正 工　粂夫　宮下　芳一 筆谷　浩仁　釣谷　友一 佐野善治郎　荒木亥久男	日産自動車（神奈川）	加藤　国雄	鈴木　秀雄　菊地　貫雄 新井　孝彦　三好　清一 酒井　隆夫　宮岡　源二
	1955	名古屋市	第4回	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	菅原　伸夫　崎尾　元 佐藤　昌久　砥石　勤 佐治　豊　小野　光美 遠藤　啓治　鈴木　富春	トヨタ自動車（愛知）	小池　鉱市	小池　鉱市　深津　豊 上羽　家秀　山城　智徳 岩月　真平　多賀　純一 市川　利治　荒川　司郎
	1956	高岡市	第5回	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	清水　正　佐野善治郎 釣谷　友一　荒木亥久男 品川　則之　筆谷　浩仁 宮下　芳一　工　粂夫	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	国枝　良資　崎尾　元 佐藤　昌久　砥石　勤 佐治　豊　小野　光美 遠藤　啓治　鈴木　富春
	1957	高松市	第6回	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	清水　正　佐野善治郎 釣谷　友一　荒木亥久男 品川　則之　筆谷　浩仁 宮下　芳一　扇沢　三徳	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	菊間　昭治　佐治　豊 国枝　良資　小野　光美 遠藤　啓治　砥石　勤 佐藤　昌久　鈴木　富春
	1957	岐阜市	第7回	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	釣谷　友一　荒木亥久男 扇沢　三徳　佐野善治郎 品川　則之　清水　正	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	菊間　昭治　遠藤　啓治 鈴木　富春　国枝　良資 小野　光美　佐治　豊 佐藤　昌久　土佐　余哉
	1958	札幌市	第8回	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	釣谷　友一　荒木亥久男 扇沢　三徳　佐野善治郎 品川　則之　大野　幸男 清水　正	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	佐治　豊　遠藤　啓治 小野　光美　佐藤　昌久 鈴木　富春　菅原　伸夫 石川　三郎　真壁　孝
	1959	善通寺市	第9回	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	荒木亥久男　品川　則之 扇沢　三徳　大野　幸男 江守　清　加須栄英雄 佐野善治郎　清水　正	札幌鉄道管理局（北海道）	西本秀一郎	井川　誠　長山　森久 熊倉　昭二　島　辰雄 平沢　啓裕　有路　信彦 渋井　明
	1960	名古屋市	第10回	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	荒木亥久男　品川　則之 扇沢　三徳　大野　幸男 江守　清　山田　昭夫	電電東京（東京）	並木萬次郎	高橋　章　貝戸　肇 沢村　浩　岩本　竜一 喜多川　広　北島　克英
	1961	倉敷市	第11回	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	荒木亥久男　品川　則之 扇沢　三徳　大野　幸男 江守　清　山田　昭夫	電電東京（東京）	並木萬次郎	高橋　章　星野　忠男 貝戸　肇　沢村　浩 喜多川　広　小林　克之
	1962	熊本市	第12回	電電東京（東京）	並木萬次郎	星野　忠男　井門　鎮雄 富田　豊　貝戸　肇 沢村　浩　喜多川　広 森谷喜久男	トヨタ自動車（愛知）	多賀　純一	佐藤　忠史　小宮　好雄 岩后　隆昭　勝田　照夫 赤羽　茂治　多賀　純一
	1963	三条市	第13回	トヨタ自動車（愛知）	多賀　純一	小宮　好雄　北田　寛一 板垣　善憲　岩后　隆昭 勝田　照夫　鈴木　紀元 多賀　靖之　谷沢　経次	電電東京（東京）	高橋　章	星野　忠男　森谷喜久男 井門　鎮雄　貝戸　肇 沢田　力　沢村　浩 富田　豊　横倉　良樹
	1964	松山市	第14回	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	鈴木　紀元　小宮　好雄 杉政　和男　板垣　善憲 岩后　隆昭　勝田　照夫 多賀　靖之　小林　一宏	電電東京（東京）	星野　忠男	沢田　力　星野　忠男 鈴木　幸春　井門　鎮雄 富田　豊　田上　十六 森谷喜久男　横倉　良樹
	1965	北九州市	第15回	トヨタ自動車（愛知）	山越　智徳	小宮　好雄　板垣　善憲 長谷川敏彦　鈴木　紀元 杉政　和男　小林　一宏 多賀　靖之　坂本　正二	電電東京（東京）	星野　忠男	星野　忠男　井門　鎮雄 沢田　力　鈴木　幸春 田上　十六　森谷喜久男 横倉　良樹

過去の栄冠

	年	開催地	回数	優勝			準優勝		
				チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
男子団体	1966	大阪市	第16回	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	小宮　好雄　板垣　善憲 長谷川敏彦　安沢　武司 杉政　和男　小林　一宏 多賀　靖之　鈴木　紀元	電電東京（東京）	星野　忠男	星野　忠男　井門　鎮雄 鈴木　幸春　田上　十六 森谷喜久男　日野　泰三 横倉　良樹　本橋　平八
	1967	勝山市	第17回	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	小宮　好雄　板垣　善憲 長谷川敏彦　安沢　武司 小林　一宏　牛島　秀雄 伊藤　一夫　多賀　靖之	ヨネヤマラケット（東京）	秋山　真男	秋山　真男　小島　一平 藤川　俊雄　西川　嘉作 篠山　賢吾　米山　広作
	1968	諫早市	第18回	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	小宮　好雄　板垣　善憲 長谷川敏彦　安沢　武司 小林　一宏　牛島　秀雄 伊藤　一夫	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　幸春　田上　十六 森谷喜久男　日野　泰三 横倉　良樹　星野　義昭 鈴木　健二
	1969	釜石市	第19回	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	安沢　武司　松島　保 小宮　好雄　板垣　善憲 長谷川敏彦　牛島　秀雄 伊藤　一夫　杉政　和男	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　幸春　森谷喜久男 日野　泰三　横倉　良樹 星野　義昭　鈴木　健二 山田　亨
	1970	高松市	第20回	ヨネヤマラケット（東京）	小島　一平	小島　一平　桐野尾昌一 鈴木　正造　米山　勇	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	板垣　善憲　安沢　武司 小林　一宏　牛島　秀雄 松島　保　堀　幸矩 東浦　修二
	1971	鹿児島市	第21回	トヨタ自動車（愛知）	小宮　好雄	小林　一宏　牛島　秀雄 板垣　善憲　安沢　武司 本間　順次　松島　保 松島　伸之　東浦　秀二	電電東京（東京）	鈴木　幸春	森谷喜久男　星野　義昭 鈴木　健二　池田　信孝 町田　秀和　小林　一行 野本　網夫
	1972	茂原市	第22回	高岡市役所（富山市）	中山　邦夫	河村　博之　今泉　勉 関村　順治　牧野　光男 宮林　照男　京田　和男 中山　邦夫	川崎ラケット（東京）	福井　正康	堺　栄一　落合　孝之 平井　克英　宮川　英樹 川津　晃　今井　茂満 佐々木寿男
	1973	石岡市	第23回	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　健二　池田　信孝 小林　一行　町田　秀和 田所　光男　浜谷　安裕 田児　淳一	ヨネヤマラケット（東京）	小島　一平	小島　一平　桐野尾昌一 木戸　純一　鈴木　正造 米山　勇　菅原　薫 千葉　忠夫
	1974	松阪市	第24回	電電東京（東京）	鈴木　健二	鈴木　健二　池田　信孝 小林　一行　小林　敏行 田所　光男　浜谷　安裕 尾崎　幹雄	高岡市役所（富山市）	中山　邦夫	河村　博之　今泉　勉 関村　順治　牧野　光男 米原　照男　米沢　和男 中山　邦夫
	1975	高岡市	第25回	高岡市役所（富山市）	中山　邦夫	河村　博之　米原　照男 今泉　勉　米沢　和男 中山　邦夫　牧野　光男 関村　順治	電電東京（東京）	鈴木　健二	鈴木　健二　田所　光男 池田　信孝　浜谷　安裕 小林　一行　尾崎　幹雄 小林　敏行
	1976	藤沢市	第26回	電電東京（東京）	鈴木　健二	鈴木　健二　町田　秀和 星野　義昭　森谷喜久男 野本　網夫　池田　信孝 田所　光男　尾崎　幹雄	高岡市役所（富山市）	中山　邦夫	河村　博之　今泉　勉 関村　順治　牧野　光男 米原　照男　米沢　和男 中山　邦夫
	1977	大阪市 京都市	第27回	河崎ラケット（東京）	堺　栄一	平井　克英　斎藤　敏行 銭谷　欽治　中井　基夫 堺　栄一　角田　重男 藤波　哲治　紺野　義光	電電東京（東京）	鈴木　健二	池田　信孝　田所　光男 尾崎　幹雄　土田　証雄 町田　秀和　野本　網夫 田児　淳一　鈴木　健二
	1978	東京都	第28回	電電東京（東京）	鈴木　健二	野本　網夫　田児　淳一 森谷喜久男　星野　義昭 池田　信孝　田所　光男 尾崎　幹雄　土田　証雄	ヨネックス（東京）	土田　隆	桐野尾昌一　飯野　佳孝 中山　謙吾　西村　一征 大場　和博　西村　龍夫 後藤　武信　梅田　勝彦
	1979	岡山市 倉敷市	第29回	ヨネックス（東京）	桐野尾昌一	桐野尾昌一　飯野　佳孝 大場　和博　辻　敏弘 後藤　武信　長谷川博幸 梅田　勝彦	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　田所　光男 町田　秀和　尾崎　幹雄 田児　淳一　野本　網夫 土田　証雄　森谷喜久男
	1980	新居浜市	第30回	ヨネックス（東京）	桐野尾昌一	桐野尾昌一　飯野　佳孝 辻　敏弘　長谷川博幸 後藤　武信　林田　章樹	高岡市役所（富山市）	中山　邦夫	今泉　勉　関村　順治 牧野　光男　米沢　和男 宮林　照男　米　正隆 河村　博之
	1981	名古屋市	第31回	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　尾崎　幹雄 久保　勇次　田所　光男 千野　晃　土田　証雄 町田　秀和　宮森　庄吉	高岡市役所（富山市）	中山　邦夫	今泉　勉　米　正隆 関村　順治　末坂　進 牧野　光男　宮林　照男 米沢　和男

過去の栄冠

	年	開催地	回数	優勝			準優勝		
				チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
男子団体	1982	立川市	第32回	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　宮森　庄吉 尾崎　幹雄　土田　証雄 久保　勇次　田所　光男	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　工藤　重信 長谷川博幸　千徳　勝利 宮本　幸弘　辻　敏弘
	1983	札幌市	第33回	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　宮森　庄吉 尾崎　幹雄　西山　博司 土田　証雄　長内　征美 久保　勇次	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　工藤　重信 長谷川博幸　千徳　勝利 宮本　幸弘　西村　修 丹藤　勇一
	1984	大阪市	第34回	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　西山　博司 尾崎　幹雄　長内　征美 土田　証雄　藤咲　勇一 宮森　庄吉	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　石場　隆雄 長谷川博幸　望月　資 宮本　幸弘　丹藤　勇一
	1985	藤沢市	第35回	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	尾崎　幹雄　本田　浩二 土田　証雄　長内　征美 宮森　庄吉　藤咲　勇一 西山　博司	トヨタ自動車（愛知）	谷口　寛	山本　秀樹　坂井外善男 坂本　宏志　古賀　勝志 宝達　昌嗣　川本　英明 須賀　英徳
	1986	京都市	第36回	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	尾崎　幹雄　西山　博司 土田　証雄　本田　浩二 宮森　庄吉　長内　征美	トヨタ自動車（愛知）	山本　秀樹	須賀　英徳　芦井　隆俊 坂井外善男　山本　秀樹 川本　英明　宝達　昌嗣 古賀　勝志
	1987	名古屋市	第37回	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	宮森　庄吉　長内　征美 尾崎　幹雄　松野　修二 西山　博司　柳谷　辰哉 本田　浩二	ヨネックス（東京）	長谷川博幸	宮本　幸弘　井上　哲章 石場　隆雄　長谷川博幸 望月　資　栂野尾昌一
	1988	金沢市	第38回	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	西山　博司　松野　修二 尾崎　幹雄　柳谷　辰哉 本田　浩二　佐賀　史昭 長内　征美	日本電装（三重）	藤江　至	片岡　泰　中山　智史 西川　勉　須藤　憲一 福田　実　内富　進 常山　兼二　磯部　昌弘
	1989	岡山市	第39回	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	西山　博司　柳谷　辰哉 本田　浩二　佐賀　史昭 長内　征美　宮　康二 松野　修二　江藤　裕樹	日本電装（三重）	藤江　至	片岡　泰　須藤　憲一 西川　勉　常山　兼二 福田　実　磯部　昌弘 中川　健　喜岡　泰弘
	1990	神戸市	第40回	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	西山　博司　本田　浩二 長内　征美　松野　修二 柳谷　辰哉　佐賀　史昭 宮　康二　江藤　裕樹	ＮＴＴ関西（大阪）	富田　章夫	松井　峰生　富田　章夫 武野　忠　奥野　勉 辻田　泰昌　村山　友二 今東　健　早戸　敬雄
	1991	仙台市	第41回	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　西山　博司 本田　浩二　長内　征美 柳谷　辰哉　宮　康二 江藤　裕樹　町田　文彦	ＮＴＴ北海道（北海道）	米山　孝二	山尾　克則　伊藤　雅弘 角谷　淳一　田中　弘幸 工藤　忠和　古川　英樹 加藤　学　米山　孝二
	1992	広島市	第42回	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　江藤　裕樹 長内　征美　町田　文彦 柳谷　辰哉　高橋　英治 宮　康二	ＮＴＴ関西（大阪）	松井　峰生	辻田　泰昌　奥野　勉 村山　友二　今東　健 早戸　敬雄　大谷　誠二 植村　昭彦　今井　彰宏
	1993	高岡市 新湊市 小杉市	第43回	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　町田　文彦 柳谷　辰哉　高橋　英治 宮　康二　須賀　隆弘 江藤　裕樹	トナミ運輸（富山）	堺　三徳	濱北　和彦　大堀　均 木船　栄士　吉田　直樹 気谷　篤人　本山　秀昭 岩淵　公一　三浦　修
	1994	福岡市	第44回	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　宮　康二 町田　文彦　須賀　隆弘 柳谷　辰哉　江藤　裕樹 高橋　英治　渡辺　清一	日本ユニシス（東京）	阿部　秀夫	峯岸　康史　中川　敏治 大屋　貴司　大谷　智昌 中條　起希　石井　隆 山田　秀樹　徐　彪
	1995	札幌市	第45回	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　宮　康二 町田　文彦　高橋　英治 須賀　隆弘　渡辺　清一 片山　卓哉　久保田雄三	日本ユニシス（東京）	阿部　秀夫	石井　隆　中條　起希 菊地　修　徐　彪 大屋　貴司　山田　秀樹 大谷　智昌
	1996	東京都	第46回	トナミ運輸（富山）	堺　三徳	気谷　篤人　本田　和裕 本山　秀昭　今井　紀夫 今井　彰宏　大山　宏司 鈴木草麻生　万　政文	ＮＴＴ東京（東京）	松野　修二	宮　康二　久保田雄三 町田　文彦　竹鼻　拓也 渡辺　清一　大田　慎二 須賀　隆弘　松野　修二

過去の栄冠

女子団体

	年	開催地	回数	優勝			準優勝		
				チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
女子団体	1952	東京都	第1回	トヨタ自動車 (愛知)	酒巻　和男	保田　久子　伊与田照子 山本　満子　吉永千代子	日本 コロンビア (神奈川)	荒川とみ子	奥谷　喬代　荒川とみ子
	1953	東京都	第2回	トヨタ自動車 (愛知)	酒巻　和男	保田　久子　伊与田照子 山内登美子　藤井　宣子	日本 コロンビア (神奈川)	中野　一夫	奥谷　喬代　荒川とみ子
	1954	東京都	第3回	トヨタ自動車 (愛知)	小池　鉱市	保田　久子　伊与田照子 山田　雪子　水野きよ子	日本 コロンビア (神奈川)	伊東　隆文	小林　歌子　荒川とみ子
	1955	名古屋市	第4回	仙台郵政局 (宮城)	高橋辛六郎	谷津　京子　西堀冨美子 佐藤　範子　栗山　栄子	日本 コロンビア (神奈川)	伊東　隆文	荒川とみ子　大川　良子 小林　歌子
	1956	高岡市	第5回	日本 コロンビア (神奈川)	伊藤　隆文	小林　歌子　荒川とみ子 大川　良子	仙台郵政局 (宮城)	高橋辛六郎	谷津　京子　西堀冨美子 佐藤　範子
	1957	高松市	第6回	岡山市役所 (岡山)	崎本幸三郎	権田　節子　光本　政子	トヨタ自動車 (愛知)	深津　豊	大沢　節子　花井　洋子
	1957	岐阜市	第7回	秋山経理 事務所 (香川)	川崎　智	井上　桂子　横井キヌエ 森岡貴美子　川崎　智	岡山市役所 (岡山)	梶原　肇	権田　節子　小林　桂子 光本　政子
	1958	札幌市	第8回	森岡経理 事務所 (香川)	川崎　智	横井キヌエ　山下　久子	岡山市役所 (岡山)	山上　周之	権田　節子　光本　政子
	1959	善通寺市	第9回	高岡市役所 (富山)	中山　邦夫	高島　洋子　中島　玲子	森岡経理 事務所 (香川)	川崎　智	横井キヌエ　山下　久子
	1960	名古屋市	第10回	高岡市役所 (富山)	中山　邦夫	高島　洋子　中島　玲子	帝国石油 (秋田)	相場　清一	木村　政子　横山　満子
	1961	倉敷市	第11回	帝国石油 (秋田)	相場　清一	木村　政子　高橋　泰子 横山　満子　長崎　文子	高岡市役所 (富山)	中山　邦夫	高島　洋子　中島　玲子
	1962	熊本市	第12回	金森藤平商店 (富山)	島井　政作	橘　美智子　酒井美智子	琴平電鉄 (香川)	竹内　恭平	横井　文子　森　久子 宮武　範子　山下　由子
	1963	三条市	第13回	帝国石油 (秋田)	相場　清一	横山　満子　長崎　文子 高橋　泰子　伊藤美津子	琴平電鉄 (香川)	有馬　正作	田島外茂子　横井　文子 森　久子　宮武　範子 山下　由子　渡辺百合子
	1964	松山市	第14回	琴平電鉄 (香川)	有馬　正作	横井　文子　宮武　範子 森　久子　山下　由子 田島外茂子　渡辺百合子	トヨタ自動車 (愛知)	深津　豊	林　信子　粂田　順子 土井三枝子　和田　昌代 橘　妙子
	1965	北九州市	第15回	琴平電鉄 (香川)	有馬　正作	横井　文子　森　久子 渡辺百合子　清水　照美	トヨタ自動車 (愛知)	深津　豊	土井三枝子　橘　妙子 粂田　順子　和田　昌代 大塚　弘子　武田　初代 林　信子

過去の栄冠

	年	開催地	回数	優勝			準優勝		
				チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
女子団体	1966	大阪市	第16回	琴平電鉄（香川）	有馬　正作	横井　文子　渡辺百合子 宮武　範子　清水　照美 山本　真江　細川　泰子	電電東京（東京）	星野　忠男	真部　文子　有木とみ子 鈴木　柳子　金藤　貞子 鈴木　　恵　叶内瑠美子
	1967	勝山市	第17回	琴平電鉄（香川）	有馬　正作	横井　文子　渡辺百合子 宮武　範子　山本　真江 細川　泰子	電電東京（東京）	星野　忠男	有木とみ子　叶内瑠美子 日下　悦子　岡部ふさ子 土井　治子　鈴木　柳子
	1968	諫早市	第18回	電電東京（東京）	富田　　豊	有木とみ子　日下　悦子 土井　治子　岡部ふさ子 田仲美津子　櫛毛　ミキ 奈良岡洋子	北辰電機（東京）	植田　耕司	高橋とも子　水野小夜子 山上　博子　新田児フミ
	1969	釜石市	第19回	トヨタ自動車（愛知）	北田　寛一	上野　明美　太田　節子 深沢むつ子　金子美和子 吉倉　恵子　竹中　令子 橋本　香代　小沢八重子	豊田自動織機（愛知）	上原　信彦	辻田　京子　大橋美知子 工藤美佐枝　鈴木　葉子
	1970	高松市	第20回	琴平電鉄（香川）	香西　　章	山本　真江　細川　泰子 井上るり子　薗浦　孝子	三菱自工京都（京都）	岡本　宏也	永井かおり　山下三枝子 岡崎　繁子　永井むつみ 小林フサ子
	1971	鹿児島市	第21回	百十四銀行（香川）	柴田　隆男	山本みどり　赤沢ひろ子 福本　幸子　小西　幸代 大坪恵美子　森　　清美 大西　順子	電電東京（東京）	鈴木　幸春	土井　治子　奈良岡洋子 阿久津まさ子　横山　光子 藤井　幸子
	1972	茂原市	第22回	三菱電機伊丹（兵庫）	荻野　一夫	福永久弐子　柴山さよ子 高橋　弘子　大場　照美 尼崎　初子　牧野　睦美	電電東京（東京）	鈴木　幸春	松浦　洋子　阿久津まさ子 横山　光子　藤井　幸子 石崎　茂子　小笠原泰子 竹内　恵子
	1973	石岡市	第23回	ヨネヤマラケット（東京）	木戸　純一	竹中　悦子　相沢マチ子 我妻たき子　佐久間雅子 大江　京子　岩淵　順子	百十四銀行（香川）	柴田　隆男	川東　秀美　森　　清美 安藤　清子　石井マリ子 山内　房子　長尾　弥生 山口　豊子
	1974	松阪市	第24回	カワサキラケット（東京）	堺　　栄一	湯木　博恵　柴山きよ子 池田　美加　宇都　裕子 松谷　京子　高坂　和枝 長谷川幸枝	電電東京（東京）	鈴木　健二	石崎　茂子　小笠原泰子 今田真知子　坂口千恵子 清水　礼子　福原　友子 伊藤ひさ子
	1975	高岡市	第25回	河崎ラケット（東京）	堺　　栄一	湯木　博恵　松谷　京子 柴山きよ子　高坂　和枝 池田　美加　長谷川幸枝 宇都　裕子	電電東京（東京）	鈴木　健二	石崎　茂子　清水　礼子 今田真知子　福原　友子 坂口千恵子　中鉢　悦子 菅原より子
	1976	藤沢市	第26回	サントリー（大阪）	山本　次生	西尾真理子　秋本八代美 谷　美津代　秋本　幸子 徳田　敦子	ヨネックス（東京）	土田　　隆	我妻たき子　栂野尾悦子 陣内　裕子　古谷　成代 今田トシ子　伊能　悦子 及川　悦子　高谷　陽子
	1977	大阪市 京都市	第27回	サントリー（大阪）	山本　次生	西尾真理子　秋本八代美 谷　美津代　秋本　幸子 徳田　敦子　高田　幹子 東海林文子	河崎ラケット（東京）	堺　　栄一	湯木　博恵　池田　美加 千葉　陽子　若海　輝代 渡辺みゆき　星　八重子 渡来たか子
	1978	東京都	第28回	サントリー（大阪）	山本　次生	西尾真理子　谷　美津代 高田　幹子　東海林文子 秋本　幸子　徳田　敦子 葛西　明子　野中　弘美	河崎ラケット（東京）	堺　　栄一	湯木　博恵　千葉　陽子 近藤　小織　渡辺多喜子 若海　輝代　渡辺みゆき
	1979	岡山市 倉敷市	第29回	サントリー（大阪）	山本　次生	秋本　幸子　谷　美津代 徳田　敦子　高田　幹子 東海林文子　葛西　明子 原口　恵子　横山ナルミ	河崎ラケット（東京）	堺　　栄一	湯木　博恵　千葉　陽子 近藤　小織　渡辺多喜子 沢内真由美　若海　輝代
	1980	新居浜市	第30回	サントリー（大阪）	山本　次生	徳田　敦子　東海林文子 谷　美津代　高田　幹子 横山ナルミ　原口　恵子 西村美千代	河崎ラケット（東京）	湯木　博恵	湯木　博恵　端　　陽子 近藤　小織　渡辺多喜子 沢内真由美　高岸　陽子 渡来たか子
	1981	名古屋市	第31回	ヨネックス（東京）	栂野尾悦子	栂野尾悦子　関根　和子 枝　美代子　大塚ソノエ 月岡　広美　高野　和代 仲田　浩子　徳永　順子	三洋電機（大阪）	月原　　朗	川崎　知子　綱家　玲子 河村　茂美　合川　裕子 平　久美子　植田日出子 沼田　晴代

過去の栄冠

	年	開催地	回数	優勝			準優勝		
				チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
女子団体	1982	立川市	第32回	サントリー（大阪）	山本　次生	東海林文子　高峯　和子 葛西　明子　陣内貴美子 西村美千代　国奥美智代 岩見　洋子	ヨネックス（東京）	栂野尾悦子	栂野尾悦子　月岡　広美 枝　美代子　徳永　順子 高野　和代　宮森ソノエ
	1983	札幌市	第33回	サントリー（大阪）	山本　次生	東海林文子　高峯　和子 葛西　明子　陣内貴美子 西村美千代　瀬戸　優子 岩見　洋子	松本組岡山（岡山）	河本　小織	河本　小織　原田美智子 高田　幹子　合田なおみ
	1984	大阪市	第34回	サントリー（大阪）	山本　次生	葛西　明子　星　和枝 西村美千代　東海林文子 原田真理恵　菊池　洋子 高峯　和子	ヨネックス（東京）	栂野尾悦子	栂野尾悦子　森山　弘美 枝　美代子　高峯　直子 高野　和代　宮森ソノエ 月岡　広美
	1985	藤沢市	第35回	三洋電機（大阪）	月原　　朗	北田スミ子　岡田　由美 冨田美千代　星野由美子 河村　茂美　清水　尚美 平山美恵子　磯野佐智子	サントリー（大阪）	宮崎　克己	西村美千代　渡辺　律子 菊池　洋子　北本久美子 高峯　和子　廣田　時子 星　　和枝　山本　智恵
	1986	京都市	第36回	三洋電機（大阪）	宇治　　収	北田スミ子　鴻原　春美 平山美恵子　小泉　陽子 岡田　由美　田代美智世 星野由美子　清水　尚美	サントリー（大阪）	宮崎　克己	西村美千代　原田真理恵 高峯　和子　渡辺　律子 田島　志乃　廣田　時子 北本久美子　谷地　春子
	1987	名古屋市	第37回	三洋電機（大阪）	宇治　　収	北田スミ子　田代美智世 星野由美子　新木　貴子 清水　尚美　秋元美佐緒 鴻原　春美　小泉　陽子	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	田児よし子　上村　美香 久保知佳子　星野実智代 平井真由美　松尾　知美 小飼　真弓　毛利　千秋
	1988	金沢市	第38回	三洋電機（大阪）	宇治　　収	北田スミ子　小泉　陽子 田代美智世　奥山　保子 新木　貴子　秋元美佐緒 北浦　道代　今村　　薫	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	陣内貴美子　青木きよみ 高峯　尚子　捧　　匡子 森　　久子　藤井　直子
	1989	岡山市	第39回	サントリー（大阪）	山本　次生	北本久美子　小池由扶子 廣田　時子　金井　和恵 谷地　春子　磯崎　京美 磯崎　照枝	三洋電機（大阪）	宇治　　収	鴻原　春美　新木　貴子 小泉　陽子　秋元美佐緒 田代美智世　北浦　道代 奥山　保子　今村　　薫
	1990	神戸市	第40回	サントリー（大阪）	山本　次生	北本久美子　廣田　時子 谷地　春子　磯崎　照枝 小池由扶子　金井　和恵 磯崎　京美	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	陣内貴美子　森　　久子 捧　　匡子　西田美和子 松本　理恵　由町　美樹 赤尾　　香
	1991	仙台市	第41回	サントリー（大阪）	山本　次生	廣田　時子　谷地　春子 小池由扶子　磯崎　照枝 金井　和恵　磯崎　京美 松田　治子　本多　千香	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	陣内貴美子　森　　久子 捧　　匡子　西田美和子 田村富士美　松本　理恵 赤尾　　香　岩田　良子
	1992	広島市	第42回	ＮＴＴ東京（東京）	宮森　庄吉	上村　美香　岡山登紀子 松尾　知美　道上　彰子 都木　弘美　阪本　雅子 立花　久枝　田児よし子	サントリー（大阪）	山本　次生	廣田　時子　磯崎　京美 谷地　春子　松田　治子 小池由扶子　宮村　愛子 金井　和恵　橋本　淳子
	1993	高岡市 新湊市 小杉市	第43回	サントリー（大阪）	山本　次生	小池由扶子　松田　治子 廣田　時子　宮村　愛子 金井　和恵　橋本　淳子 磯崎　京美　佐藤千賀子	ＮＴＴ東京（東京）	田児よし子	松尾　知美　岡山登紀子 田児よし子　道上　彰子 立花　久枝　阪本　雅子
	1994	福岡市	第44回	サントリー（大阪）	山本　次生	小池由扶子　金井　和恵 宮村　愛子　大田　貴子 廣田　時子　磯崎　京美 本田　　望　宮村亜貴子	ＮＴＴ東京（東京）	田児よし子	松尾　知美　立花　久枝 道上　彰子　田児よし子 立花　久枝　阪本　雅子
	1995	札幌市	第45回	サントリー（大阪）	山本　次生	金井　和恵　小池由扶子 磯崎　京美　宮村　愛子 宮村亜貴子　大田　貴子 本田　　望　橋本　淳子	ＮＴＴ東京（東京）	田児よし子	松尾　知美　立花　久枝 岡山登紀子　道上　彰子 阪本　雅子　岸　ひろ子
	1996	東京都	第46回	三洋電機（大阪）	銭谷　欽治	井田　貴子　増茂　孝枝 山田　裕美　貴田　　泉 村上　直美　田中　美保 中山智香子　川口　桐香	三協アルミ（富山）	河合　昭博	松田　治子　高野　八重 佐々木　忍　明石　由美 小泉　友紀　河口奈緒美 渡辺真由美　市橋　美紀

競技規則書解説

大阪バドミントン協会

（競技規則）

1）コート　ラインの幅は40㎜

正しいペースで落下する範囲を示すためにマークをシングルスの各右サービスコートのバックバウンダリーラインから530㎜と990㎜のの位置に４箇所設ける。

2）ポスト　ポストの高さは1550㎜

3）ネット　ネットの高さは中央で1524㎜、ダブルスサイドライン上で1550㎜

ネットの両側とポストの間に隙間があってはならない。

4）シャトル　シャトルの羽の枚数は16枚

重さは４.74ｇから５.50ｇ（grain：重さの単位０.065ｇ：77.78gr）

合成球は10%迄の差を認める

試打はバックバウンダリーライン上に打点が来るようにして、アンダーハンドで全力のストロークで打つ。シャトルは上向きの角度で、サイドラインと平行になる方向で打ち上げられるものとする。

向かい側バックバウンダリーラインの手前530㎜から990㎜迄の範囲に落ちたものを正しいペースのシャトルという。

（湿度、温度、気圧によりベースは変わります。）

5）検定　ラケット、シャトル、ネット、ポスト、コートマットは規定通りかの検定を受けるものとする。

6）プレーヤー

ダブルスは１つのサイドに２人のプレーヤー、シングルスの場合は１つのサイドに１人のプレーヤーで試合を行う

サーブ権を持っているサイドをサービングサイド、相手サイドをレシービングサイドという

7）トス　プレーを始める前にトスを行いトスに勝ったサイドが１）か２）かのいずれかを選ぶ（日本では通常、ジャンケンで決めますが、国際大会ではコイン、ラケット、シャトルの向きで決定します）

１）最初にサーブするか、レシーブするか

２）試合開始の時、そのコートのどちらのエンドを選ぶか

トスに負けたサイドは、残りを選ぶ。

8）スコア　セテイングになればラブオールとコールする。

セテイングの選択は最初にそのスコアになったときのみ許される。

その選択は次のサービスがなされる前にされなければならない。

9）エンド　規定通りにエンドを替えなかった場合は気が付き次第、速やかにエンドを交替する。得点はそのままとする。

10）サービス　正しいサービスとは

１．両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない

：何秒かの規定はない

：どちらも有利にならない事

2．サービスコートの境界線に触れずに立つ

3．サーバー、レシーバーの両足の一部分はサービスがなされるまでその位置でコート面に接している事

：主審はレシーバーの足を良くみる（フットフォルト）

（サービスジャッジのいる場合）

：ロングサービスの時サーバーの足を良くみる（フットフォルト）

4．最初にラケットでシャトルの台（コルク部分）を打つ

：羽根の部分を打つとフォルト

：音を良く聞いて判断する

5．その時シャトル全体がサーバーのウエストより下でなければならない

：シャトル全体の位置が下かを確認する

：構えた位置から少しづつ上がってくるので注意する

：日本ではウエストの位置は、ベルト辺りです。

6．サーバーのラケットのシャフトはシャトルを打つ瞬間下向き

：横なぐりのサーブに注意する

：ロングサービスの時も注意する

7．その際、ラケットの頭部全体がサーバーの手全体より下である事がはっきり認められなければならない

：打点ではなくラケットの頭部全体

：疑わしいときはフォルト（アバヴザハンド）

8．サーバーのラケットはサービスを始めたら打たれるまで前方への動きを継続しなければならない。

：途中で止めたり、戻したり、スピードを変化させない

：欺瞞（あざむく、ごまかす、自分が有利になる）的行為はフォルト。

9．シャトルがサーバーのラケットから上向きに飛行し、ネットの上を越えてから何ものにも妨げられなければレシーバーのサービスコートに落ちる

：ネットの上を越える事

：ネットを越えて止まればフォルト

：落下途中に息など吹きかければフォルト

10．それぞれのプレーヤーの態勢が整った後、サーバーのラケットヘッドの前方への初めての動きがサービスの始まりである

：初めての動きを注意する

：動き出したら継続する事

11．サーバーがサービスをしてレシーバーが打ち返そうと試みたときは態勢が整っていたものとする

：レシーバーが少しでも反応すれば整っていたものとする

：いつ態勢が整ったか確認する事

12．ダブルスでパートナーは相手方の視界を遮らない限りどの位置にいても良い

：自分の競技区域内であること

：相手の注意をそらす事はフォルト

11）ダブルス　サービスは1回毎にサービスコートを替えてする

：２回連続同じサービスコートからしない

プレーヤーは同じゲームで順番を間違えてサーブしたり、レシーブしたり２回続けてレシーブしてはならない（ただし、第１４条、第１６条の場合を除く）

：間違ったときは正しく処理する（サービスコートの間違いの項目）

12）サービスコートの間違い

次のサービスがなされる前に、間違いが発見されたときはレットとする。

一方のサイドだけが間違いをして、そのサイドが打ち合いに負けたとき、フォルトをしたときは、レットにしない。

：ただしシングルでは両方とも間違っているのでレットとする

：ダブルスでは片方だけが間違っている場合があるので結果で判断する

間違った方がラリーに打勝った時：レットにする

間違った方がラリーに打負けた時：レットにしないでそのまま

次のサービスがなされるまで間違いが発見されなかったときは訂正しない

：間違ったまま続ける（そのゲーム終了まで）

：間違いが気付いた時点で確認する（今間違ったのか、そうでないのか）

：何ラリーか前に間違っていたのなら、そのまま（間違ったまま）ゲーム終了まで続ける。そこでは訂正しない。

13）フォルト　サーブしようとしてシャトルを打損なったとき：空振りしたとき

サービスでシャトルがネットに乗ったとき、ネットを越えた後ネットにひっかかったとき

インプレーのシャトルが

１）コートの境界線の外に落ちたとき

２）ネットを通り抜けたとき、下を通ったとき

３）ネットを越え損なったとき

４）屋根、天井、壁に触れたとき

５）プレーヤーの身体、着衣に触れたとき

６）コート外の物、人に触れたとき

ただし、建物の構造上必要があるときは日本バドミントン協会の承認を得て会場ルールを設けることができる

インプレーでシャトルの最初に接触する点がネットより打者側でなかった時

：シャトルの最初の接触する点が打者側であってもラケットがネットを越えてはいけない

：ネットの上からも下からも相手のコートを侵してはならない

：自分の手から離れたラケット等についても相手コートを侵してはならない

：プラッシングストロークで微妙にラケットが出てしまうのはやむを得ない：越えていないのに打つのはフォルト

：何センチ越えたのでフォルト、セーフではない（微妙に！：主審判断）

ネットを越えたシャトルを追う正当なストロークを妨げたとき

：邪魔したとき、ラケットを上方に出したとき

：顔を防ぐのは可

：場所の問題ではなく、邪魔したかどうかで判断する

インプレーでプレーヤーが大声や身振り等の動作をして故意に相手の注意を外らした

とき（サービスが始まったときからインプレー）

：インなのにアウトアウトといったり、邪魔したとき

：相手の動作に対してフォルトと言ったりしたとき

：警告ではなくフォルト

インプレーでシャトルが

1）1回のストロークで、ラケット上に捕らえられ保持されて、振り投げられた時

2）同じプレーヤーの2回のストロークで2回連続して打たれたとき

3）プレーヤーとそのパートナーによって連続して打たれたとき

14）レット　不測の事態、突発的な事故：停電、地震等

シャトルがネットを越えた後にネットにひつかかるか、乗ったとき（サービス以外）

サービスの時サーバーとレシーバーが同時にフォルトをしたとき

インプレー中のシャトルの分解

線審が見えなかったり、主審も判定できないとき

レットの場合、その前のサービス以後のプレーは無効とし、そのサーバーが再びサーブする。

：インプレー中の同時フォルトは、レットとする

15）インプレーでないとき

シャトルがネットに当たってひっかかるか、上に乗ったとき

シャトルがネットやポストに当たり、打者側のコートに向かって落ち始めたとき

：シャトルのコルクの部分が上を向いているときはインプレー中

：シャトルのコルクの部分が下を向いて落始めた瞬間インプレーでない

：シャトルがコート面に着いたときではない

：インプレーでないときに相手がネットなどに触れてもフォルトでない

シャトルがコート面に触れたとき。

フォルト又はレットとなったとき。

16）プレーの継続、不品行な振舞い、罰則

1．プレーは最初のサービスから試合が終わるまで継続されなければならない

2．第2ゲームと第3ゲームとの間に5分を越えないインターバルを認める

：必ず5分以内（インターバルを取らなくても良い：両者合意ならば）5分を越えると棄権扱いにできる

：5分後には第3ゲームのプレーのコールがかからねばならない。

3．プレーヤーの責任でない状況によって必要とされるならば、主審は必要と思われる間、プレーを中断する事ができる。（故意ではない場合）

：ラケット、ウェア、シューズ等の破損のとき。

：怪我をした、鼻血を出した、コンタクトレンズが外れたとき。

：医師（看護婦）等の診断を受けるとき。

：主審はこの間に審判用紙に記録する事（〜の為中断）を忘れない。

：プレーの中断中は決して監督、チームメイトを競技区域に入れない。

競技区域に入れるのは、通常必要と思われる競技役員（医師、看護婦）だけ

4．プレーヤーはどんな事があっても、体力や息切れを回復できるよう、指示や助言を受けられるようプレーを中断してはならない。

：汗拭きでも休憩していると思われるような場合は止めさす。

：警告→フォルトの処置を執る。

5．プレーヤーはインターバルの時を除き、試合中に助言を受けてはならない。

：監督のこの行為が甚だしい場合は、監督の退場も有り得る。

この時、審判長に報告し、競技委員長の指示を受ける。

：観客からの指示、助言は観客にしないよう協力を求める。

：助言を受けたとみなされる場合（頷くなどした場合）は、プレーヤーに警告→フォルト処置を執る。

6．プレーヤーは試合が終わるまで主審の許可無しにコートを離れてはならない

：汗拭き、靴の紐の結び替え、ラケットの交換等。

：インプレー以外で許可無しにコートを離れた場合は警告→フォルトの処置を執る。

7．主審はいかなるプレーの中断についても、唯一の決定者である。

：決して他の判断を仰がない。

8．プレーヤーは次の行為をしてはならない。

1）プレーを故意に中断する事（汗拭き、ドリンク、靴の紐の結び変え等）

2）シャトルのスピードを故意に変える事（羽根を折る、広げる、広げるなどの仕草、潰す等）

3）不快な振舞い（乱れた服装、ラケット等でネットを叩く、ポストを蹴る、シャトルを蹴る、耳障りな掛け声、叫び声等）

4）不品行な振舞い（審判員に横柄な態度を執る、相手を威圧する事）

上記4～8の項目の違反に対しては、主審は次の処置を執る

1）違反したサイドに警告する

2）1度警告を受けた後、再び違反した場合はフォルトにする

3）それを続けた場合はフォルトにし、審判長に報告する、審判長は競技委員長と協議してそのサイドを失格にすることができる

：審判長、競技委員長が任命されていない場合は大会の責任者が失格させる事ができる。

：1回目は警告、2回目はフォルトの処置を執る。

：1回目と2回目の異なる種類の違反に対しても同様である。

違反したサイドのプレーヤーを呼び、何の違反による警告であるかフォルトであるかを告げ警告はイエローカード、フォルトはレッドカードで示す

17）審判員　主審：その試合、コート並びにその周辺の直接関わるものを管理する。

この為主審は、むやみにそのコートから離れない

1．審判長への報告の義務がある。

2．競技規則に従い、執行する

3．次のサービスがなされるまでに出された疑問点に関する訴えについて決定する

4．審判長と協議してＳＪ、線審を任命、解任する事ができる

5．事実に基づく判定に関しては、ＳＪ・線審の判定を覆す事はできない

：原則としてオーバーコールはできない

：見たという事実に関してはオーバーコールできない

：見ていないのにＳＪ・線審が判定したと認めた場合はオーバーコールできる

：線審のミスジャッジが甚だしいと思われる場合もオーバーコールできない。

この場合、落下点等を線審に確認して信頼関係を維持する。

6．競技規則の解釈に関係する訴えに限り主審が判定できないものは審判長に確認する

：次のサービスがなされる前、ゲームの終わりであればコートを離れる前にしなければならない

ＳＪ：サーバーによってサービスフォルトがなされたとき、コールし何のフォルトであるかジェスチャーで示す。

線審：シャトルがインかアウトかを示す。アウトの時は「アウト」とコールする。

（大会運営規定）

18）競技規則を基にその規定にもとづいて、大会を運営する事により、全国的に統一化するために制定したものである。

大会運営規定による事ができない場合は、大会要項に明示しなければならない。

：背面ネーム、服装、宿泊要項

：日本リーグは別規定

：家庭婦人大会は乙種（色付き可）、他は甲種

19）必要に応じ大会ルールを制定する。

：細部の決定：トーナメント、リーグ戦のポイント等について

20）年次大会（１４種類）の用器具は第１種検定合格品を使用する。

：使用しないで開催された場合は無効：本戦、予選共

21）国際大会はＩＢＦの規則を優先させる。

22）１．天井の高さは１２Ｍ以上。

２．競技区域はコート外周２Ｍ以上の余裕必要。

３．会場照度は１２００ルックス以上。：コート上は遮光され、発光体はあってはならない

４．得点表示装置を置く。

23）１．競技者とは大会に参加するチーム役員（監督、コーチ、マネージャー等）、プレーヤー

２．大会参加者は定められた期日までに会員登録を完了する事。

３．個人戦に於いて試合を棄権したものは、それより後の同一種目には出場できない

：準決勝を棄権して３決には出場できない。

４．色付き着衣を使用する場合は審査合格品とする。（ワンポイントを含む）

：少しでも色が付いていたら審査合格品を着用。（白単一色は審査合格品以外可）

：１、２種大会は甲種審査合格品（通常ウェア）

：家庭婦人大会は乙種審査合格品（色付きウェア）

：スパッツ、長い短パン（現在の所未許可有り）も含む

５．プレーヤーに規定の時間（インターバル）を除き、１試合終了まで、コーチ、監督、応援者は助言してはならない。

６．プレーヤーは主審の許可を得たとき以外、コートを離れてはならない。

７．プレーヤー以外の競技者は主審の許可を受けたとき以外は、競技区域に入ってはならない。

８．プレーヤーが出場すべき試合に出場しない場合は、競技委員長に報告して棄権とする。

９．試合中、病気、事故等のため競技を続行できない場合は、審判長に報告し、その判定により、相手方の勝ちを宣する。記録は棄権直前のスコアを記し、棄権の旨を事故者側に書き添える。

10．試合中断時、ゲームの得点はそのままで再開する。

：その日の内に競技の続行が不可能な場合：後日最初から試合を行う。
：団体戦の場合は中断された試合の前の試合まで有効。
：オーダー変更不可。

24）1．ダブルスのパートナーが同一大会のシングルにそれぞれ出場する場合は等分に分ける。
2．事情によっては1／8に組み入れる事も可。

25）1．異議の申し立ては競技者の権利、抗議であってはならない。
：異議申し立ては、大会の代表者会議等で行う。
2．審判員の判定に疑問がある場合は、当該プレーヤーと団体戦の場合は、当該プレーヤーと監督に限り質問できる。
：抗議或いは異議であってはならない。
：線審等に向けられた場合でも、主審がこの訴えについて決定する。

26）大会競技記録は、試合番号順に勝者を左側に記録し、組み合わせ表に得点を（2－1、2－0）記入し敗者を明瞭にする。
：棄権の場合は棄権直前のポイント迄を記入し、棄権と記す。

27）競技委員長は、競技運営に関する事項で審判以外の一切の責を負い、選手、会場の変更中止、延期、中断等一切の問題に付いて最終決定する。また必要があれば大会ルールを制定し、参加者全員に適切な方法により、明瞭に告知する。競技終了と同時に成績を確認して入賞者を発表する。

28）審判長は審判に関する一切の責を負い、競技規則に関する解釈上の疑義に対し、判定を下す。また必要があれば会場ルールを制定し、参加者全員に適切な方法により明瞭に告知する。

（公認審判員規定）

29）1．全国に於けるバドミントン競技の管理を諸規則の遵守のもとに標準化する為のもの。
2．審判員とは審判長、副審判長、主審、サービスジャッジ（ＳＪ）、線審の総称を言う。
3．主審が試合を公平、かつ厳然と統括し、競技規則を遵守する方法を助言する事を目的とする。さらにＳＪ、線審の役割を指導する。
4．審判員はその大会の出場競技者以外の第3者であるものとする。
5．ゲームはプレーヤーの為のものである事を旨とする。

30）1．ＳＪ、線審は通常審判長が任命するが、主審と審判長が協議して変更し、若しくは空席にする事ができる。
：解任は信頼関係の点からみて好ましくないと思われる。
2．審判員の判定は、その審判員の責任とする全ての事実に対して最終のものである。
3．ＳＪ、線審が判定できないときは主審が判定する。主審も判定できないときはレットとする。

31）主審への助言
1．審判長から得点用紙を受け取る。
2．得点表示装置の機能が正常か確認する。
3．ネットの高さを確認する、ネットの両側とポストの間に隙間がないか確認する。
4．会場ルールが設けられているか確認する。
5．ＳＪの任務、線審の任務、位置（シングルとダブルス）が正しいか確認する。
6．シャトルが十分用意されているか確認する。（シャトルを筒から出さない）また時計も用意する。
7．宣伝用、色付き着衣に関する大会運営規定の違反に付いて確認する。
8．審査合格品かどうか確認する、背面ネームの有無を確認する。

：違反については、競技委員長に報告し、指示を仰ぐ。着用させないようにする。

9．「オンマイライトＸさん、Ａチーム　オンマイレフトＹさん、Ｂチーム　サーバー、Ｘさん、ラヴオール、プレー」

10.「オンマイライトＸさん、Ｗさん、Ａチーム　オンマイレフトＹさん、ＺさんＢチーム、サーバーＸさん、レシーバーＹさん、ラヴオール、プレー」

11. サービングサイドの得点（「ポイント」のコールは省略）を先にコールする

12. ゲーム当初は得点のみコールする、第１サーバーがサーブ権を失ったときはセカンドサーバーに続き得点をコールする。

13. 第２サーバーがサーブしている間は得点に続き「セカンドサーバー」をコールし続ける。

14. 最初の機会にだけ「ゲームポイント」、「マッチポイント」とコールする。

15. セティング後、ゲームポイント、マッチポイントになったらその最初の機会に再びコールする。

16. セティングするポイントになったとき「アーユーセティング」尋ね、
する時は：「セティング・・・ポイント、ラヴ、オール」とコールする
しない時は：「ゲームナットセット、続いてポイント」とコールする

17. ゲーム終了時は「ゲーム」「ゲームウァンバイプレーヤー名チーム名得点（１５－５）」
試合終了時は「マッチ」「マッチウァンバイプレーヤー名チーム名ゲームの得点（２－１）」をコールする。

18. 第２ゲーム開始時は「セカンドゲームラヴオール、プレー」とコールする

19. 第２ゲーム終了時「ゲーム」「セカンドゲームウァンバイプレーヤー名得点（１５－５）」、「ワンゲームオール」とコールする。「インターバル５分（必要な場合）」とコールし、３分経過後「残り２分」、４分経過後「残り１分」とコールしプレーヤーに、試合開始を促す。
：残り１分でコートに入れさせる。
：競技区域では着替えをさせないよう注意を払う。
：背面ネームの有無を確認する。
：５分後には第３ゲームが開始している（遅れないようにする）事。

20. 第３ゲーム開始時は「ファイナルゲームラヴオール、プレー」とコールする。

21. 第３ゲームでは先行しているサイドの得点が６、又は８になったとき「チェンジエンド」とコールしチェンジエンド後「得点、プレー」をコールする。

22. 試合終了後、直ちに得点用紙に必要事項（得点（ゲーム、マッチ）、勝者署名、主審署名、試合終了時間等）を記入し、審判長に提出する。

23. ＳＪが任命されているときは主審はレシーバーの足を特に注目する。
：フットフォルトに気をつける。
：主審はサーバーとレシーバー両方のプレーヤーを視界に入れて置く。
耳でシャトルを打つ瞬間を聞き、目でフットフォルトを見る。

24. 主審はライン近くにシャトルが落ちたときは、常に線審に注目し、また境界線からどんなに遠くに落ちたときでも同様である。線審には判定の全責任がある。

25. 主審は試合中、得点表示装置の状態に注意を払う。
：チェンジエンドをした場合の氏名の掲示等について
：得点状況について

26. 線審が任命されていないときや、線審が見えなかったときに、シャトルがコート外に落ちたときは「アウト」とコールし、次に得点をコールする。

：線審の任務を代用する。

28. その他正しい審判用語を使用する。
29. 相手のコートに対してネットの下から滑り込むか、ラケットを投げ込む事はフォルト。
30. シャトルを打つ瞬間、相手に対して「フォルト」というのは相手の注意をそらすものと考えられるのでフォルト。
31. 試合中コートの外からコーチする事は絶対許されない。主審の制止に従わなかったときは直ちに審判長に報告する。
    ：監督、コーチであれば退場も可能
    ：観客であれば、観客に協力を促す。
    ：選手がコーチを受けたと見なされる場合は選手に警告、フォルトの処置を行う。
32. 試合中のシャトル交換は、不公平があってはならない。片方だけがシャトルの交換を望むときは、場合によって主審が試打させ、決定する。
33. 同じプレーヤーが１回のストロークで（ＤＯＵＢＬＥ　ＨＩＴ）してもフォルトではない。
34. 試合中の怪我や病気には、慎重且つ適切に処置する。主審はできるだけ早くこの問題について決断しなければならない。コートに入ることを許されるのは、通常医師などの他必要と認められる競技役員だけである。
    ：怪我の場合処置時間を認める。この間の中断はやむを得ない。
    ：試合再開後、再度中断するような場合は棄権を促す。
    ：棄権は本人の意思による。
35. 不品行な振る舞いは全てその処理を記録し、審判長に報告する。

32）主審への一般的助言

：バドミントン競技規則と公認審判規定に精通する。
：コールは迅速に、威厳を持ってするが、間違ったときはそれを認め、訂正する。
：アナウンスとコールはプレーヤーにも観衆にもはっきり聞こえるように明瞭にする。
：競技規則に違反していたかどうか解らないときはフォルトをコールすべきでない。
：決して観衆やプレーヤーに聞いたり、その他の言動に影響を受けてはならない。
：他の審判員の立場を尊重する。線審の判定を認め、審判員との信頼関係を確立する。

33）サービスジャッジへの助言

：サーバーが正しくサーブするかどうかの判定に責任を持つ。
　正しくなければフォルトとコールし指定の合図で何のフォルトかを示す。
：主審はＳＪと協議して他の任務を取り決める事ができる。
　但し、プレーヤーに通知して有る事。（オーバーザネット、ラインの判定等）

34）線審への助言

：線審は担当ラインについて責任を持つ。
：シャトルがコート外に落ちたときは、どんなに遠くても、直ちにプレーヤーと観衆に聞こえるようはっきりと「アウト」とコールし、同時に主審が良く解るよう両腕を水平に開いて合図する。シャトルがコート内に落ちたときは無言で右手を前に指し示す。
：体をしっかり動かして、ライン上に目線がくるようにして判定する。
：ジェスチャーは肘、指先に力を入れて指し示す。
：見えなかった場合は、両手で目を覆う合図をする。
：プレーヤーにシャトルが当たったときなどに於いて、主審の事前行為になるようなコール、ジェスチャーをしてはならない。

：シャトルがコート内や外に落ちるまで、コールや合図をしてはならない。

35）その他

平成９年３月現在

［第 8 章］

記　念　式　典

大阪バドミントン協会５０周年記念事業

(1)　５０周年記念祝賀会

日　　時　　平成９年12月５日（金）　午後６時～８時30分

場　　所　　ホテル　アウィーナ大阪　金剛の間　☎06－772－1441

式　　次　　第

①	開会の辞	大阪バドミントン協会理事長　四方光市
②	挨　　拶	会　長　三宅祐司
③	大阪バドミントン協会50年のあゆみ	副会長　青木昭二
④	来賓紹介	理事長　四方光市
⑤	祝　　辞	(財)日本バドミントン協会副会長　綿貫民輔
		(財)大阪体育協会事務局長　平村公作
		近畿バドミントン協会会長　藤田庸右
⑥	特別功労者表彰	
⑦	功労者表彰	
⑧	感謝状贈呈	
	受彰者代表挨拶	岸　久雄
⑨	第52回国民体育大会（なみはや国体）総合優勝披露	
		強化部長　片岡輝明
⑩	乾　　杯	(財)日本バドミントン協会専務理事　小飼栄一
⑪	会　　食	
⑫	余　　興	
⑬	閉会の挨拶	副会長　野村明雄
⑭	閉会の辞	副理事長　森　義和

(2)　五十年誌・広報（総集編）発刊

50周年記念表彰者一覧

（敬称略・順不同）

① 特別功労表彰者

岸　　久雄

芝　　スミ子（旧姓　北田）

学校法人四條畷学園

② 功労表彰者

藤村岩男　　植田義明

宮脇正晴　　池田芳麻

石橋三彦　　清水照彦（実）

北野敬四郎（教）　　西谷一郎（社）

嶋　　久雄（家）　　藤波輝吉（高）

出口健次（中）　　島津八郎（小）

③ 感謝状贈呈者

大阪ガス株式会社　　関西電力株式会社

三洋電機株式会社　　サントリー株式会社

日本電信電話株式会社　　三和銀行株式会社

住友金属工業株式会社　　株式会社クボタ

ヨネックス株式会社　　株式会社ゴーセン

ミズノ株式会社　　ヒロウン株式会社

大一スポーツ株式会社　　有限会社西口印刷

ウツミ工芸株式会社

大阪バドミントン協会
50周年記念事業実行委員会

（敬称略）

組　織　図

実行委員会

会　長	三　宅				
副会長	青木・野村 宝来・尾﨑				
実行委員長	四　方				
実行副委員長	総　括　森 岡　上・月　原				
委員会	祝賀会	表　彰	記念品	記念誌	会　計 資金計画
委員長	月　原	四　方	岡　上	森	森
	村　井	田　中	清　水	竹　内	福　森
	福　森			東　條	
	藤　倉			田　村	
	上　田			岡　森	
	河　合			山　添	
	養　父			宮　田	
				森　井	

組織委員会

1．会長経験者
　石渡　俊一
　岸　　久雄
　◎三宅　祐司
2．理事長経験者
　宮脇　正晴
　※青木　昭二
　宝来　敏夫
　池田　芳麻
　石橋　三彦
　○四方　光市
3．その他
　（副会長関係）
　植田　義明
　野村　明雄
　尾崎　　弘
　（顧問関係）
　嶋　　久雄
　乾　英三郎
　清水　照彦
　西谷　一郎
　中原　住雄
　寺田　英夫
　出口　健次
　北野敬四郎
　（参与関係）
　藤村　岩男
　高谷　芳明
　松王　清志
　島津　八郎
　秋岡　澄子
　（担当理事）
　※森　　義和

◎組織委員会委員長
○実行委員会委員長
※世話係



あ と が き

大阪バドミントン協会が50周年を迎えるにあたり、その永い歴史を五十年誌としてまとめ発刊する運びとなりました。今まで各周年事業ごとに編纂が話題にのぼっていましたが、記念誌を出さないままついに50年の年月を経てしまいました。半世紀たったこの機会を逃すともう機会がないと、一念発起して発刊しました。

編集に当たっては、協会のあゆみだけでなく協会の母体である８連盟のあゆみや座談会や写真や新聞の切り抜きを入れることにより膨らみをもたせるようにしました。さらに、バドミントンに関係した人々の思いを少しでも留めるため、「バドミントンと私」の章を作り寄稿文を募りました。数多くの記事を寄せていただきました。皆さんが如何にバドミントンが好きで、それぞれの場所で努力されているかがよくわかりました。

小生も中学校で初めてラケットを握ってから、高校・大学・教職員と数多くの試合に出場して良い思い出がたくさんできました。協会でお世話させていただく立場になって、如何に試合のことだけしか考えていない選手時代だったかがわかります。お世話をいただく方に感謝の念を持ったのも協会の仕事をするようになってからです。このようなことで、この五十年誌に関わることによってご恩返しができたらこれほどの幸せはありません。

また、５年の準備期間をかけて開催された第52回国民体育大会（なみはや国体）で総合優勝して天皇杯・皇后杯を獲得し、大阪バドミントン協会五十周年に華を添えてくれました。その成果に報いる意味で、急いでこの記念誌に写真と成績を入れました。

尚、製本にあたり、読みやすい大きな文字でＡ４版にしました。参考資料として協会機関紙の「広報」123号分を総集編（470頁）にまとめ、付録としました。

この五十年誌を発刊するにあたり、ご多忙のなか祝辞を寄せていただきました皆様方、また、８連盟の代表者と広報担当者に厚くお礼申し上げます。その他数多くの方々にご協力いただきました。特に沿革をまとめていただいたり、多くの資料や写真を提供していただきました青木昭二氏、編纂にあたり宿泊までしてご協力いただきました藤本氏と竹内氏、出版に際しては祝日作業までしていただいた㈲西口印刷の並々ならないご協力に対して厚くお礼を申し上げます。

本誌編纂を通じ、協会が50年脈々と発展、拡大してきていること、バドミントンを愛好する人達の情熱が溢れていることを改めて感じることができました。この記念誌が大阪バドミントン協会の益々の発展に寄与することができましたら、これに勝る喜びはありません。



記念誌委員会
委員長　森　　義和

五十年誌

発行日	平成9年12月5日
発行者	大阪バドミントン協会 会長　三宅祐司
編集	創立50周年記念誌委員会
発行所	大阪バドミントン協会事務局 〒569-1046 高槻市塚原6-21-2 TEL 0726－93－9721
印刷所	㈲　西口印刷 TEL 06－942－3067